

HP Application Lifecycle Management

ソフトウェア・バージョン : 11.00

ユーザーズ・ガイド

ドキュメント・リリース : 2010 年 10 月 (英語版)

ソフトウェア・リリース : 2010 年 10 月 (英語版)



ご注意

保証

HP 製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HP はいかなる責任も負いません。

ここに記載する情報は、予告なしに変更されることがあります。

権利の制限

機密性のあるコンピュータ・ソフトウェアです。これらを所有、使用、または複製するには、HP からの有効な使用許諾が必要です。商用コンピュータ・ソフトウェア、コンピュータ・ソフトウェアに関する文書類、および商用アイテムの技術データは、FAR12.211 および 12.212 の規定に従い、ベンダーの標準商用ライセンスに基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

著作権について

© Copyright 1992 - 2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

商標について

Adobe® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java™ は、Sun Microsystems, Inc. の米国商標です。

Microsoft®, Windows® は、Microsoft Corporation の米国登録商標です。

文書の更新

このガイドの表紙には、以下の識別情報が記載されています。

- ソフトウェアのバージョン番号は、ソフトウェアのバージョンを示します。
- ドキュメント・リリース日は、ドキュメントが更新されるたびに変更されます。
- ソフトウェア・リリース日は、このバージョンのソフトウェアのリリース期日を表します。

最新の更新のチェック、またはご使用のドキュメントが最新版かどうかのご確認には、次のサイトをご利用ください。

<http://support.openview.hp.com/selfsolve/manuals>

このサイトを利用するには、HP Passport への登録とサインインが必要です。HP Passport ID の取得登録は、次の Web サイトから行なうことができます。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

または、HP Passport のログイン・ページの **[New users - please register]** リンクをクリックします。

適切な製品サポート・サービスをお申し込みいただいたお客様は、最新版をご入手いただけます。詳細は、HP の営業担当にお問い合わせください

サポート

次の HP ソフトウェア・サポート Web サイトを参照してください。

<http://support.openview.hp.com>

HP ソフトウェアが提供する製品、サービス、サポートに関する詳細情報をご覧ください。

HP ソフトウェア・サポート・オンラインでは、セルフ・ソルブ機能を提供しています。お客様の業務の管理に必要な対話型の技術支援ツールに素早く効率的にアクセスいただけます。HP ソフトウェア・サポート Web サイトのサポート範囲は次のとおりです。

関心のある技術情報の検索

サポート・ケースとエンハンスメント要求の登録とトラッキング

ソフトウェア・パッチのダウンロード

サポート契約の管理

HP サポート窓口の検索

利用可能なサービスに関する情報の閲覧

他のソフトウェア・カスタマとの意見交換

ソフトウェア・トレーニングの検索と登録

一部を除き、サポートのご利用には、HP Passport ユーザーとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。HP Passport ID を登録するには、以下の Web サイトにアクセスしてください。

<http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html> (英語サイト)

アクセス・レベルに関する詳細は、以下の Web サイトを参照してください。

http://support.openview.hp.com/access_level.jsp

目次

本ガイドによるこそ	11
本書の構成	12
文書ライブラリ.....	13
文書ライブラリ・ガイド.....	14
トピックの種類.....	17
その他のオンライン・リソース.....	19

第 I 部 : ALM の基礎

第 1 章 : HP ALM 概要	23
HP ALM 概要	23
アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ.....	26
第 2 章 : ALM 概略	29
ALM ウィンドウ	30
ALM プロジェクト.....	31
ユーザ権限.....	31
プロジェクト履歴管理.....	31
Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート.....	32
ALM の起動方法.....	33
パスワードのリセット方法.....	37
管理者メッセージの表示方法.....	38
ALM 共通ユーザ・インタフェース.....	39
第 3 章 : ALM 共通機能	53
ALM 共通機能の概要.....	54
ALM のデータの表示方法.....	55
添付ファイルの変更方法.....	57
ALM データの検索および置換.....	58
ALM 共通機能のユーザ・インタフェース.....	59

第 4 章：警告およびフラグ	95
警告の概要	96
フォローアップ・フラグの概要	98
警告の使用方法	99
警告およびフラグのユーザ・インタフェース	104
第 5 章：お気に入りビュー	109
お気に入りビューの概要	110
お気に入りビューの使用方法	111
お気に入りビューのユーザ・インタフェース	113
第 6 章：バージョン管理	117
バージョン管理の概要	118
バージョン管理の使用方法	120
バージョン管理フィールドによるフィルタリングの方法	124
バージョン管理されないフィールド	125
バージョン管理のユーザ・インタフェース	126
第 7 章：ALM エディション	139
エディションごとの ALM 機能	140

第 II 部：管理

第 8 章：リリースおよびサイクル	151
リリースおよびサイクルの概要	152
ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法	154
リリースおよびサイクルのユーザ・インタフェース	163
第 9 章：プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース	191
PPT リリースの概要	192
PPT の使用方法	193
KPI タイプ	200
PPT のユーザ・インタフェース	202
第 10 章：ライブラリおよびベースライン	241
ライブラリの概要	242
ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法	246
ライブラリおよびベースラインのユーザ・インタフェース	252
第 11 章：インポートされたライブラリ	283
インポートされたライブラリの概要	284
ライブラリの共有方法	289
インポートされたライブラリのユーザ・インタフェース	294

第 III 部：要件

第 12 章：要件の紹介	313
要件の概要紹介.....	314
ALM の要件の使用方法.....	315
第 13 章：要件の定義	319
要件定義の概要.....	320
要件の作成方法.....	321
要件ユーザ・インターフェイス.....	325
第 14 章：要件トレーサビリティ	367
要件トレーサビリティの概要.....	368
要件のトレース方法.....	369
要件トレーサビリティのユーザ・インターフェイス.....	375
第 15 章：トレーサビリティ・マトリクス	383
トレーサビリティ・マトリクスの概要.....	384
トレーサビリティ・マトリクスの使用方法.....	385
トレーサビリティ・マトリクス・ユーザ・インターフェイス.....	389
第 16 章：リスク・ベース品質管理	403
リスク・ベース品質管理の概要.....	404
リスクの評価方法.....	406
リスク・ベース品質管理ユーザ・インタフェース.....	413
第 17 章：ビジネス・プロセス・モデル	429
ビジネス・プロセス・モデルの概要.....	430
ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法.....	433
ビジネス・モデル・モジュールのユーザ・インタフェース.....	438

第 IV 部：テスト計画

第 18 章：テスト計画の紹介	479
テスト計画の概要.....	480
ALMでテストを計画する方法.....	481
第 19 章：テスト計画の仕様	487
テスト計画の仕様の概要.....	488
テストを作成する方法.....	489
テストのタイプ.....	493
テスト計画のユーザ・インタフェース.....	494
第 20 章：要件とテスト・カバレッジ	525
要件とテスト・カバレッジの概要.....	526
カバレッジを作成する方法.....	528
要件とテスト・カバレッジのユーザ・インタフェース.....	534

第 21 章 : テスト・パラメータ	559
テスト・パラメータの概要	560
テスト・パラメータの使用方法	561
テスト・パラメータのユーザ・インタフェース	564
第 22 章 : テストの設計	573
テストの設計の概要	574
テストの自動化	575
テスト・ステップの設計方法	577
デザイン・ステップのユーザ・インタフェース	581
第 23 章 : テスト設定	595
テスト設定の概要	596
テスト設定の使用方法	597
テスト設定のユーザ・インタフェース	603
第 24 章 : システム・テスト	619
システム・テストの概要	620
システム・テストの作成方法	621
システム・テストのユーザ・インタフェース	623
第 25 章 : テスト・リソース	625
テスト・リソースの概要	626
テスト・リソースの使用方法	628
テスト・リソースのユーザ・インタフェース	631
第 26 章 : VAPI-XP テスト	651
VAPI-XP テストの概要	652
VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法	653
VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法	663
VAPI-XP API の使用方法	667
デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法	672
テスト・モードでの VAPI-XP テストの実行方法	673
テスト・モードでの VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ方法	674
VAPI-XP ユーザ・インタフェース	677
第 V 部 : テスト・ラボ	
第 27 章 : テスト実行の紹介	681
テスト実行の概要	682
ALMでテストを実行する方法	684
ドラフト実行による作業	687
テスト・ラボ・モジュールのユーザ・インタフェース	688

第 28 章：テスト・セットの仕様	715
テスト・セットの仕様の概要.....	716
テスト・セットを作成する方法.....	718
テスト・セットのユーザ・インタフェース.....	722
第 29 章：テスト実行のスケジュール	745
テスト実行のスケジュールの概要.....	746
テスト実行をスケジュールする方法.....	747
テスト実行スケジュールのユーザ・インタフェース.....	750
第 30 章：手動テストの実行	759
手動テストの実行の概要.....	760
Sprinter の概要.....	760
テストを手作業で実行する方法.....	763
手動テスト実行のユーザ・インタフェース.....	767
第 31 章：自動テスト実行	777
自動テスト実行の概要.....	778
テストを自動で実行する方法.....	780
自動テスト実行のユーザ・インタフェース.....	784
第 32 章：テスト結果	795
テスト結果の概要.....	796
テストの結果を表示する方法.....	797
テスト結果のユーザ・インタフェース.....	800

第 VI 部：不具合

第 33 章：不具合の追跡	827
不具合追跡の概要.....	828
ALM での不具合の追跡方法.....	831
不具合の検索方法.....	840
不具合を ALM エンティティまたは他の不具合にリンクする方法.....	841
不具合のユーザ・インタフェース.....	845

第 VII 部：分析

第 34 章：アナリシスの紹介	873
アナリシスの概要.....	874
ALM でデータを分析する方法.....	876
ダッシュボードのユーザ・インタフェース.....	878

第 35 章 : グラフおよびダッシュボード・ページ	897
グラフおよびダッシュボード・ページの概要	898
グラフを生成する方法	900
ダッシュボード・ページを作成する方法	904
グラフの種類	906
グラフおよびダッシュボード・ページのユーザ・インタフェース	911
第 36 章 : プロジェクトの計画と追跡 (PPT) グラフ	947
PPT グラフの概要	948
PPT グラフを生成する方法	949
PPT グラフのユーザ・インタフェース	951
第 37 章 : プロジェクト・レポート	959
プロジェクト・レポートの概要	960
プロジェクト・レポートを作成する方法	961
カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法	965
プロジェクト・レポートのユーザ・インタフェース	966
第 38 章 : Excel レポート	975
Excel レポートの概要	976
Excel レポートを生成する方法	980
Excel レポートのユーザ・インタフェース	983
第 39 章 : 標準レポート	1001
標準レポートの概要	1002
標準レポートを生成する方法	1003
標準レポートの種類	1005
標準レポートのユーザ・インタフェース	1012
第 40 章 : ライブ・アナリシス・グラフ	1021
ライブ・アナリシス・グラフの概要	1022
ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法	1023
ライブ・アナリシス・グラフのユーザ・インタフェース	1025
第 41 章 : プロジェクト・ドキュメント	1033
プロジェクト・ドキュメントの概要	1034
プロジェクト・ドキュメントを作成する方法	1035
ドキュメント・ジェネレータのユーザ・インタフェース	1038
用語集	1069

本ガイドによろこそ

HP Application Lifecycle Management (ALM) によろこそ。ALM は、要件定義から展開まで、コア・アプリケーションのライフサイクル全体を管理する強化なツールです。アプリケーション・チームは ALM を活用することによろつて、最新のアプリケーシヨンを予測可能、繰り返し可能、柔軟な適応が可能な方法で提供するために不可欠な可視性とコラボレーション環境を実現できます。

本ガイドでは、ALM アプリケーシヨンの使用方法を説明します。また、概念的な内容、アプリケーションの詳しい操作手順、参考資料も紹介します。

本書の構成

『ALM ユーザーズ・ガイド』は、次の章で構成されています。

章	説明
第 1 部：ALM の基礎	ALM の機能と手法の概要を説明します。よく使用される ALM 機能も紹介します。さらに、ALM の各種エディションについても解説します。
第 2 部：管理	アプリケーション・ライフサイクル管理で使用するリリースとサイクルを定義する方法について説明します。また、プロジェクトの変更内容の追跡、エンティティの再利用、複数プロジェクトによるエンティティの共有で使用するライブラリを定義する方法についても説明します。 関連タスク： <ul style="list-style-type: none">▶ 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)▶ 「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)
第 3 部：要件	アプリケーション・ライフサイクル全体にわたって、要件を定義および管理する方法について説明します。 関連タスク： 「ALM の要件の使用方法」(315 ページ)
第 4 部：テスト計画	テスト・プロセスを計画する方法について、テスト計画ツリーの作成からテストの作成までの過程を説明します。また、VAPI-XP テスト・ツールの使用方法についても説明します。 関連タスク： 「ALM でテストを計画する方法」(481 ページ)
第 5 部：テスト・ラボ	テスト・セットの作成方法、手動テストと自動テストの実行方法、テスト結果を確認する方法について説明します。 関連タスク： 「ALM でテストを実行する方法」(684 ページ)
第 6 部：不具合	プロジェクトに不具合を報告し、不具合が解決されるまでの間、修正プロセスを追跡する方法について説明します。 関連タスク： 「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)

章	説明
第7部：分析	グラフ、標準レポート、Excel レポート、ダッシュボード・ページ、プロジェクト・ドキュメントを作成することによって、アプリケーション・ライフサイクル管理プロセスを分析する方法について説明します。 関連タスク ：「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
用語集	ALM で使用する用語を解説します。

文書ライブラリ

文書ライブラリは、ALM の使用方法を説明するオンライン・ヘルプ・システムです。文書ライブラリには、次のいずれかの方法でアクセスできます。

- ▶ ALM の [ヘルプ] メニューで **[文書ライブラリ]** をクリックし、文書ライブラリのホーム・ページを開きます。このホーム・ページでは、主なヘルプ・トピックへのクイック・リンクが含まれます。
- ▶ ALM の [ヘルプ] メニューで **[このページのヘルプ]** をクリックして、現在のページを説明するトピックに対する文書ライブラリを開きます。

はじめに

文書ライブラリ・ガイド

文書ライブラリは、次のガイドとリファレンスで構成されており、オンライン、PDF 形式、またはその両方で提供されています。PDF の表示や印刷には、Adobe Reader を使用します。Adobe Reader は Adobe 社の Web サイト (<http://www.adobe.com/jp/>) からダウンロードできます。

リファンレンス	説明
文書ライブラリの使用方法	文書ライブラリの使用方法および編成方法について説明します。
新機能	最新バージョンの ALM における新しい機能について説明します。 アクセスするには、[ヘルプ] > [新機能] を選択します。
製品の機能紹介ムービー	製品の主な機能を紹介する短いムービー。 アクセスするには、[ヘルプ] > [製品の機能紹介ムービー] を選択します。
最初にお読みください	ALM に関する最新のお知らせと情報が記載されています。

Application Lifecycle Management ガイド

ガイド	説明
HP ALM ユーザーズ・ガイド	ALM を使用してアプリケーションのライフ・サイクル管理プロセスのあらゆる段階を整理し、実行する方法を説明します。また、リリースの指定、要件定義、テスト計画、テスト実行、不具合追跡を行う方法についても説明します。
HP ALM 管理者ガイド	「サイト管理」機能を使用してプロジェクトを作成し保守する方法、および「プロジェクトのカスタマイズ」機能を使用してプロジェクトのカスタマイズを行う方法について説明します。
HP ALM チュートリアル	ALM を使ってアプリケーション・ライフ・サイクル管理プロセスを管理する方法について、自分のペースで学べるガイドです。
HP ALM インストール・ガイド	ALM プラットフォームを設定するためのインストールと構成プロセスについて説明します。
HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド	Business Process Testing を使用してビジネス・プロセス・テストを作成する方法を説明します。

ALM Performance Center ガイド

ガイド	説明
HP ALM Performance Center Quick Start	パフォーマンス・テストの作成と実行の上位レベルの概要を自分のペースで学べる Performance Center ユーザ用のガイドです。
HP ALM Performance Center Guide	Performance Center ユーザにパフォーマンス・テストの作成, スケジュール設定, 実行, 監視方法について説明します。Performance Center 管理者に総合的なラボ・リソース管理, ラボ設定管理, システム設定のための Lab Management の使用方法について説明します。
HP ALM Performance Center Installation Guide	Performance Center サーバ, Performance Center ホスト, その他の Performance Center コンポーネントを設定するためのインストール・プロセスについて説明します。
HP Performance Monitoring Best Practices	パフォーマンス監視のためのベスト・プラクティスを紹介します。

ALM ベスト・プラクティス



ガイド	説明
HP ALM Database Best Practices Guide	HP ALM のデータベース・サーバへのデプロイのベスト・プラクティスを紹介します。
HP ALM アップグレードのベスト・プラクティス	ALM のアップグレードの準備と計画のための方法を紹介します。
HP ALM Business Models Module Best Practices Guide	ビジネス・モデル・モジュールを使って作業するためのベスト・プラクティスを紹介します。



ALM API リファレンス

ガイド	説明
HP ALM Project Database Reference	プロジェクト・データベースのすべてのテーブルとフィールドのオンライン・リファレンスです。
HP ALM Open Test Architecture API Reference	ALM の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスです。ALM のオープン・テスト・アーキテクチャを使用して、ユーザ独自の設定管理ツール、不具合追跡ツール、および自社開発のテスト・ツールを ALM プロジェクトに統合できます。
HP ALM Site Administration API Reference	サイト管理の COM ベース API 全体のオンライン・リファレンスです。サイト管理 API を使用して、アプリケーションを整理し、管理し、ALM のユーザ、プロジェクト、ドメイン、接続、サイトの設定パラメータを保守できます。
HP ALM REST API Reference	ALM の REST ベース API 全体のオンライン・リファレンスです。REST API を使用すると、ALM データにアクセスして作業できます。
HP ALM Custom Test Type Guide	独自のテスト・ツールの作成方法および ALM 環境への統合方法の全体のオンライン・ガイドです。

トピックの種類

本書は、トピックごとに編成されています。主なトピックは、**概念**、**タスク**、**リファレンス**の3つです。トピックは、次のようなアイコンで表示されます。

トピックの種類	説明	使い方
概念 	背景や説明，概念的な内容です。	機能に関して一般的な内容を理解できます。
タスク 	<p>指示としてタスクを説明します。アプリケーションを操作して目的の機能を実行するための詳しい手順を示します。</p> <p>タスクには、番号付きと番号なしの手順が含まれています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 番号付きの手順：連続した順番に従ってタスクを実行します。 ▶ 番号なしの手順：自己完結型の操作のリストであり、任意の順序で実行できます。 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ タスクのワークフロー全体を理解できます。 ▶ 番号付きの場合，手順に従ってタスクを完了します。 ▶ 番号なしの場合，操作を個別に実行します。
	<p>ユース・ケース・シナリオ・タスク：特定の状況下でタスクを実行する方法を事例で紹介します。</p>	現実的なシナリオにおいて，タスクを実行する方法を学習できます。

トピックの種類	説明	使い方
リファレンス 	<p>一般的なリファレンス: 参考資料の一覧と詳しい説明が記載されています。</p> <p>ユーザ・インタフェース・リファレンス: 特定のユーザ・インタフェースについて説明したリファレンス・トピックが記載されています。通常の場合、製品の [ヘルプ] メニューから [このページのヘルプ] を選択すると、ユーザ・インタフェースのトピックが開きます。</p>	<p>特定の内容に関するリファレンス情報を調べることができます。</p> <p>1つまたは複数のユーザ・インタフェース要素（ウィンドウ、ダイアログ・ボックス、ウィザードなど）に入力する内容や使用方法に関する情報を調べることができます。</p>
トラブルシューティングと制限事項 	<p>トラブルシューティングと制限事項: よく発生する問題とその解決方法、機能や製品領域の制限事項を説明したリファレンス・トピックが記載されています。</p>	<p>機能を初めて使用する場合やソフトウェアの操作で問題が発生した場合に、重要度の高い問題に関して理解を深めることができます。</p>

その他のオンライン・リソース

次のオンライン・リソースは ALM の **[ヘルプ]** メニューから利用できます。:

項目	説明
トラブルシューティング & ナレッジ・ベース	<p>セルフ・ソルブ技術情報を検索できる HP ソフトウェア・サポート Web サイトのトラブルシューティング・ページを開きます。[ヘルプ] > [トラブルシューティング & ナレッジ ベース] を選択します。この Web サイトの URL は、 http://support.openview.hp.com/troubleshooting.jsp です。</p>
HP ソフトウェア・サポート	<p>HP ソフトウェア・サポート Web サイトを開きます。このサイトで、セルフ・ソルブ技術情報を参照できます。また、英語版のサイトでは、ナレッジ・ベースの参照、独自の項目の追加、ユーザ・ディスカッション・フォーラムへの書き込みや検索、パッチや更新されたドキュメントのダウンロードなどを行うこともできます。[ヘルプ] > [HP Software サポート] を選択します。この Web サイトの URL は、http://support.openview.hp.com/ です。</p> <p>一部を除き、サポートのご利用には HP Passport ユーザとしてご登録の上、ログインしていただく必要があります。また、多くのサポートのご利用には、サポート契約が必要です。</p> <p>アクセス・レベルに関する詳細は、以下の Web サイトにアクセスしてください。 http://support.openview.hp.com/access_level.jsp</p> <p>HP Passport ユーザ ID の登録は、次の場所で行います。 http://h20229.www2.hp.com/passport-registration.html (英語サイト)</p>
HP ソフトウェア Web サイト	<p>HP ソフトウェア Web サイトを開きます。このサイトでは、HP ソフトウェア製品に関する最新情報を提供します。新しいソフトウェアのリリース、セミナー、展示会、カスタマー・サポートなどの情報も含まれています。[ヘルプ] > [HP ホームページ] を選択します。この Web サイトの URL は、 welcome.hp.com/country/us/en/prodserv/software.html (英語サイト) です。</p>
アドイン・ページ	<p>HP Application Lifecycle Management アドイン・ページからは、HP およびサードパーティー・ツールとの統合と同期に関するソリューションを入手できます。</p>

はじめに

第 I 部

ALM の基礎

第 1 章

HP ALM 概要

本章の内容

概念

「HP ALM 概要」(23 ページ)

「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ)

概念

HP ALM 概要

HP Application Lifecycle Management (ALM) は、要件からデプロイメントまで、主要アプリケーションのライフサイクルを管理するために IT を強化し、最新アプリケーションの予測可能かつ反復可能で適合性の高い展開のために重要不可欠となる可視性と協調性をアプリケーション・チームに供与します。

アプリケーションのライフサイクル管理は複雑なプロセスです。組織の大部分がアジャイルであるか、または反復的で順次的な手法を使用しているかにかかわらず、効果的なライフサイクル管理の目的は、優れた予測可能性、高い再現性、品質の向上、変化への順応性の確保などです。プロジェクトのマイルストーン、成果物、リソース、予算要件について理解し、プロジェクトの稼働状況、標準、品質指標の追跡を行うことにより、展開マネージャが目的を達成することができます。

ALM では、プロセス全体を体系的に管理することによって、アプリケーション管理の簡素化と組織化を可能にします。セントラル・レポジトリにおけるアプリケーションのライフサイクル管理ワークフローの枠組みと基盤の形成に役立てることができます。

ALM にはアプリケーションのリリースを整理して追跡するためのシステムが組み込まれているため、ビジネス優先度および品質の期待値をプロジェクトの要件、テスト、および不具合に連携させることができます。ALM は、リアルタイムの主要業績評価指標 (KPI) により、情報に基づいたリリースの決定を手助けします。

ALM を使用すると、要件およびテストのリポジトリを定義および維持できます。要件は、ビジネスおよびテストのニーズをカバーするのに役立ちます。次に、アプリケーションの正しい側面がテストされることを保証するために、これらの要件からテストを自動的に生成できます。また、プロジェクトのさまざまな目標を達成するために、プロジェクトで行うテストを個別のグループにまとめることができます。ALM は、テストのスケジュール設定と実行、テスト結果の収集、およびデータの分析を行う手段を備えています。

不具合および不具合の傾向を分析することにより、決行か中止かの決定を効率的に行うことができます。ALM には、不具合を追跡するシステムが組み込まれており、不具合の最初の検出から解決までを詳細に監視できます。また、プロジェクト間で不具合を共有して、開発者が不具合を発見し、優先順位を付け、可能な限り迅速に解決するのを支援することにより、リスクを軽減します。集中型の不具合レポジトリにより、不具合のステータスやプロジェクト間の傾向を集計したレポート作成も行えます。

アプリケーションのライフサイクル・プロセス全体の進行状況を追跡する機能は、予測可能性を保つために非常に重要です。ALM には、アジャイル・プロジェクト（たとえば、バーンアップ・チャートやバーンダウン・チャート）用の固有の計測ツールなどの、プロセスの各段階を分析するツールが含まれています。ビジネス・パフォーマンスをさまざまな観点から示すインタラクティブなグラフを生成したり、データの断面を示すレポートを定義したりできます。また、単一のビューに複数のグラフを並べて配置することにより、複数のビジネス・メトリックスを監視できます。

ALM では、プロジェクト間でのアセット・ライブラリの共有および再利用がサポートされています。共有可能なライブラリにより、複数のアプリケーションを使用した活動を管理し、あるアプリケーションの変更がほかのアプリケーションに悪影響を及ぼさないよう確認することができます。また、アセットの再利用を強化することにより、一貫性と再現性の向上に役立ちます。特定の変更は各プロジェクトの共有アセットに適用でき、これによってライブラリの完全性を維持できます。

ALM は、HP のテスト・ツール（QuickTest Professional や LoadRunner など）をはじめとして、サードパーティ製のテスト・ツールや自社のカスタム・テスト・ツール、要件管理ツール、構成管理ツールと統合できます。ALM では、選択したテスト・ツールと通信を行い、アプリケーション・テストを完全に自動化するソリューションを実現できます。

ALM には Performance Center の機能が含まれており、Web 経由でアクセスできる一元集中管理された場所から、リソースの割り当てやスケジュール設定を含む大規模なパフォーマンス・テスト・プロジェクトに関するすべての側面を管理できます。Performance Center は、テスト・プロセスの合理化、リソース・コストの削減、操作効率の向上を支援します。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。

ALM ソリューションには、アプリケーション・ガバナンスの機能も含まれています。このコンポーネントは、IT 組織がアプリケーション開発プロセスを管理し、IT の構造および技術に関するポリシーへの適合性を確実にするための一連の機能を備えています。アプリケーション・ガバナンスは、アプリケーションのライフサイクル、その段階およびイベント、満たすべきポリシー、各段階の所有者を、IT によって定義する手段となります。ハンドオフ、ポリシー遵守チェック、情報フローなどの主要なライフサイクル・アクティビティを自動化し、アプリケーション・ライフサイクルの重要管理点をサポートします。詳細については、『HP ALM Application Governance Edition documentation』を参照してください。

注：ALM には、ALM 機能のサブセットを利用できる複数のエディションがあります。ALM のエディションは次のとおりです。

Quality Center Starter Edition

Quality Center Enterprise Edition

Performance Center Edition

詳細については、「ALM エディション」(139 ページ)を参照してください。

ALM では、アプリケーションのライフサイクル管理に関するすべての段階をサポートしています。アプリケーション管理に関するあらゆる作業を統合することにより、IT をビジネスのニーズに合わせて活用し、効率性を最適化することができます。アプリケーションのライフサイクル管理の段階に関する詳細については、「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ)を参照してください。

🔗 アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ

ALM でのアプリケーションのライフサイクル管理ロードマップには、次の段階があります。



段階	説明
リリースの仕様	<p>リリース・サイクルの管理計画を作成し、アプリケーションのリリースおよびサイクルをより効率的に管理します。アプリケーション・リリースの計画に対する進行状況を追跡し、リリースが順調に進んでいるかどうかを判断できます。</p> <p>作業の詳細については、「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)を参照してください。</p>
要件の定義	<p>ビジネスおよびテストのニーズに合わせて要件を定義します。要件を管理し、複数のリリースおよびサイクルにまたがる要求、テスト、不具合の間の多元的なトレーサビリティを実現できます。ALM では、要件カバレッジおよび関連付けられた不具合をリアルタイムで表示し、品質やビジネス・リスクを評価することができます。</p> <p>作業の詳細については、「ALM の要件の使用方法」(315 ページ)を参照してください。</p>
テスト計画	<p>プロジェクトの要件に基づいて、テスト計画の作成およびテストの設計ができます。ALM では、手動テストおよび自動テストの両方のリポジトリを備えています。</p> <p>テスト計画の作業の詳細については、「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ)を参照してください。</p> <p>Performance Center: 作業の詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>

段階	説明
テスト実行	<p>プロジェクト内で、特定のテスト目標を達成するように設計されたテストのサブセットを作成します。ALM では、動作確認テスト、機能テスト、回帰テスト、詳細テストがサポートされています。スケジュール設定されたテストを実行し、問題を診断して解決します。</p> <p>作業の詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ)を参照してください。</p> <p>Performance Center: 作業の詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>
不具合追跡	<p>不具合を報告し、修正の進行状況を追跡します。不具合および不具合の傾向を分析することにより、決行か中止かの決定を効率的に行うことができます。ALM では、初期の問題検出から不具合の修正、修正の確認まで、不具合のライフサイクル全体をサポートしています。</p> <p>作業の詳細については、「ALMでの不具合の追跡方法」(831 ページ)を参照してください。</p>

アプリケーションのライフサイクル全体を通して、レポートやグラフを生成し、戦略上のポイントを監視および管理できます。作業の詳細については、「ALMでデータを分析する方法」(876 ページ)を参照してください。

ALM の概要については、「HP ALM 概要」(23 ページ)を参照してください。

第 2 章

ALM 概略

本章の内容

概念

「ALM ウィンドウ」(30 ページ)

「ALM プロジェクト」(31 ページ)

「ユーザ権限」(31 ページ)

「プロジェクト履歴管理」(31 ページ)

「Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート」(32 ページ)

タスク

「ALM の起動方法」(33 ページ)

「パスワードのリセット方法」(37 ページ)

「管理者メッセージの表示方法」(38 ページ)

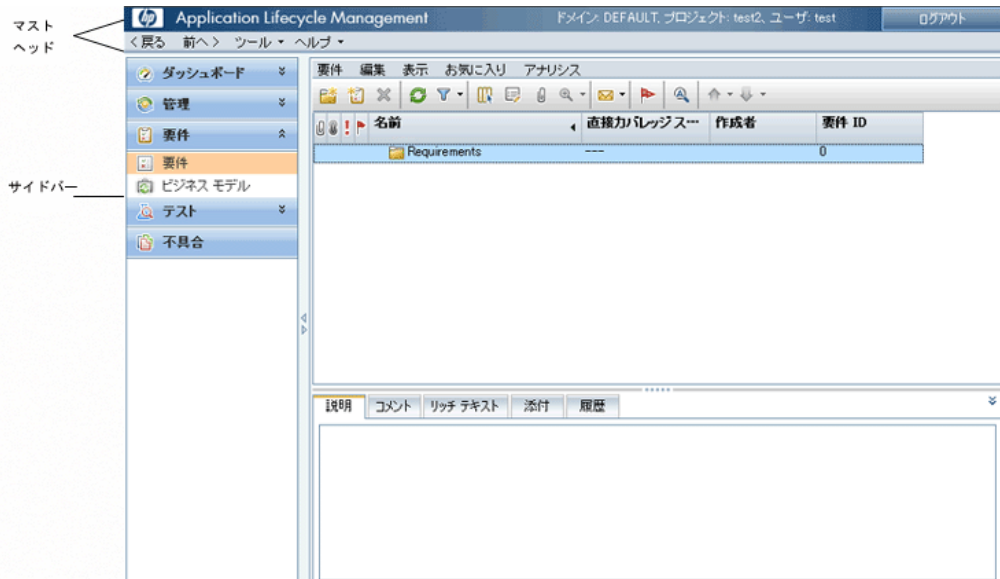
リファレンス

「ALM 共通ユーザ・インタフェース」(39 ページ)

概念

ALM ウィンドウ

プロジェクトに接続すると、HP Application Lifecycle Management (ALM) メイン・ウィンドウが開き、最後に使用していたモジュールが表示されます。ウィンドウの右上に、ドメイン名、プロジェクト名、ユーザ名が表示されます。



ALM メイン・ウィンドウには次の主要な要素があり、すべての ALM ビューで使用可能です。

ALM マストヘッド：ナビゲーション・ボタン、共通ツールへのアクセス、ドキュメント、その他のリソースが含まれます。

ALM サイドバー：ALM のモジュールを切り替えるボタンが含まれます。

詳細については、「ALM 共通領域」(40 ページ) を参照してください。

関連タスクについては、「ALM の起動方法」(33 ページ) を参照してください。

ALM プロジェクト

ALM プロジェクトを作成する場合、ALM によって作成および収集されたデータを格納および管理する必要があります。各プロジェクトは、プロジェクト情報を格納したデータベースによってサポートされています。

ALM プロジェクトの作成および管理の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ユーザ権限

ALM では、プロジェクトへのユーザ・アクセスを管理できます。アクセスを許可されたユーザのリストを作成し、各ユーザにパスワードとユーザ・グループを割り当てることで、各ユーザがプロジェクトに対して行う追加や変更を制御できます。プロジェクトにおける各ユーザの権限はユーザが属するユーザ・グループによって決まります。ALM には、プロジェクトのフィールドごとにルールを作成するために必要な権限や許可の仕組みがあります。

ALM で使用できるユーザ・グループ、パスワードや権限の割り当ての詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクト履歴管理

プロジェクトをカスタマイズする場合、システムおよびプロジェクトのユーザ・フィールドの値をログに保存するように ALM を設定できます。フィールドの履歴を有効にする方法については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

履歴データが不要になったら、このデータを ALM プロジェクトから削除できます。たとえば、作成したテスト・セットを正常に実行できた場合、テストの履歴をプロジェクトからクリアできます。

すべての履歴データをクリアすることも、特定のエンティティまたはフィールドを選択してその履歴をクリアすることもできます。さらに、特定の日付までの（当該日付のデータを含む）履歴データを削除することもできます。ALM により、対応するモジュールの [履歴] タブに表示されるデータがクリアされます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[履歴のクリア] ダイアログ・ボックス」(49 ページ) を参照してください。

Microsoft Word および Microsoft Excel からのデータのインポート

Word ドキュメントまたは Excel ワークシートから ALM プロジェクトにデータをインポートできます。

Word からのデータのインポート

要件やテスト計画のデータを Word ドキュメントから ALM プロジェクトへインポートできます。Word からインポートするには、クライアント・マシンに HP ALM Microsoft Word Add-in および HP Quality Center Connectivity Add-in がインストールされている必要があります。アドインをインストールするには、[ヘルプ] > [アドイン ページ] を選択して [HP Application Lifecycle Management Add-ins] ページを開き、該当するアドインのリンクをクリックします。

詳細については、HP ALM Microsoft Word Add-in のページで入手できる『HP ALM Microsoft Word Add-in Guide』を参照してください。

Excel からのデータのインポート

要件、テスト計画、不具合などのデータを Excel ワークシートから ALM プロジェクトへインポートできます。Excel からインポートするには、クライアント・マシンに HP ALM Microsoft Excel Add-in および HP Quality Center Connectivity Add-in がインストールされている必要があります。アドインをインストールするには、[ヘルプ] > [アドイン ページ] を選択して [HP Application Lifecycle Management Add-ins] ページを開き、該当するアドインのリンクをクリックします。

詳細については、HP ALM Microsoft Excel Add-in のページで入手できる『HP ALM Microsoft Excel Add-in Guide』を参照してください。

タスク

ALM の起動方法

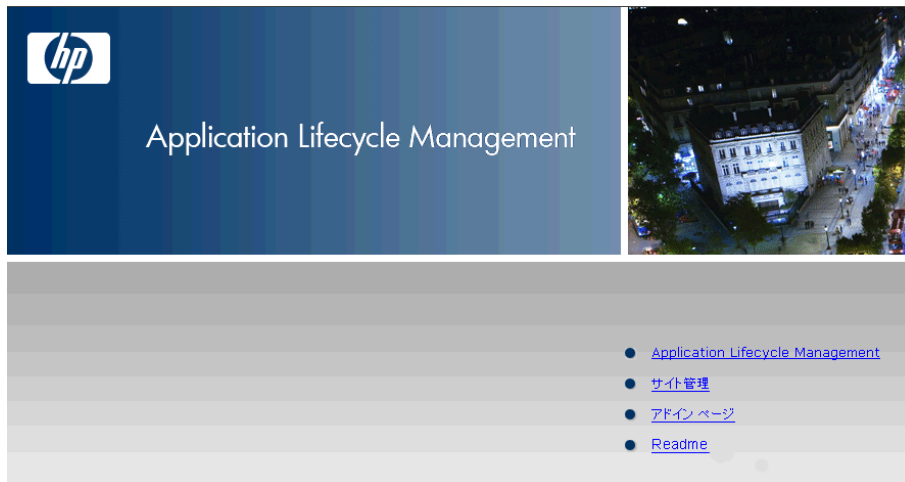
このタスクでは、自分のマシン上で Web ブラウザを使用して ALM を起動する方法について説明します。ALM の複数のバージョンをワークステーション上で並べて作業できます。これには、異なる ALM Platform に接続している複数の ALM 11.0 クライアント、および単一の Quality Center 10.0 または 9.2 クライアントが含まれます。

注：ALM を HP テスティング・ツールおよびサードパーティ製のテスト・ツールや自社のカスタム・テスト・ツールとともに使用できるようにするには、クライアント・マシンに管理者権限でログインし、ALM を登録する必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

ALM を起動するには、次の手順で行います。

- 1 お使いの Web ブラウザを起動し、ALM の URL として、
`http://<ALM サーバ名>[:<ポート番号>]/qcbn` を入力します。正しい URL が不明な場合は、システム管理者に問い合わせてください。

HP Application Lifecycle Management オプションウィンドウが開きます。



- 2 **[Application Lifecycle Management]** リンクをクリックします。ALM が実行されるたびに、バージョン確認が行われます。新しいバージョンが検出されると、必要なファイルの最新バージョンがマシンにダウンロードされます。

注：

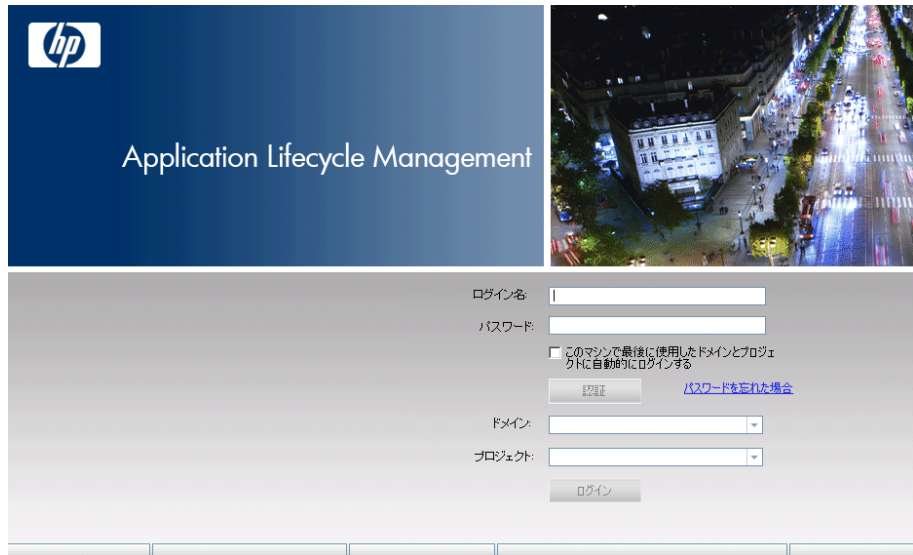
Windows Vista および **7** の場合：お使いのマシンの管理者権限がない場合は、セキュリティ警告が表示されたら、**[インストールしない]** をクリックします。インストール画面にリダイレクトされます。

ブラウザを使ってファイルをダウンロードすることが禁止されている場合は、**[その他の HP ALM アドイン]** ページの **HP ALM Client MSI Generator Add-in** を使用して、これらのファイルをインストールできます。アドインの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

- 3** 画面に表示される指示に従います。

注： ファイルがダウンロードされてもログイン・ウィンドウが表示されない場合は、お使いのマシンに Microsoft 修正プログラムをインストールする必要があります。詳細については、HP ソフトウェアのセルフ・ソルブ技術情報の記事 KM905289 (<http://h20230.www2.hp.com/selfsolve/document/KM905289>) を参照してください。

ALM のバージョンが確認され、必要に応じてファイルが更新されると、ALM のログイン・ウィンドウが表示されます。



The screenshot displays the HP Application Lifecycle Management (ALM) login page. At the top left, the HP logo is visible next to the text 'Application Lifecycle Management'. To the right is a photograph of a city street at night. The central part of the page is a login form with the following elements:

- ログイン名:** A text input field.
- パスワード:** A password input field.
- このマシンで最後に使用したドメインとプロジェクトに自動的にログインする**
- 認証** button and a [パスワードを忘れた場合](#) link.
- ドメイン:** A dropdown menu.
- プロジェクト:** A dropdown menu.
- ログイン** button.

- 4 **[ログイン名]** ボックスに、ユーザ名を入力します。
- 5 **[パスワード]** ボックスに、サイト管理者から割り当てられたパスワードを入力します。パスワードを思い出せない場合は、**[パスワードを忘れた場合]** リンクをクリックします。詳細については、「パスワードのリセット方法」(37 ページ) を参照してください。
- 6 前回作業していたプロジェクトに ALM が自動的にログインするようにするには、**[このマシンで最後に使用したドメインとプロジェクトに自動的にログインする]** チェック・ボックスを選択します。
- 7 **[認証]** ボタンをクリックします。ALM によりユーザ名およびパスワードが確認され、ユーザがアクセス可能なドメインおよびプロジェクトが決定されます。自動ログインを指定している場合は、ALM が開きます。
- 8 認証に失敗した場合は、ユーザ名とパスワードが正しいことを確認し、再度実行します。
- 9 **[ドメイン]** リストからドメインを選択します。標準設定では、前回作業していたドメインが表示されます。

- 10 [プロジェクト] リストからプロジェクトを選択します。標準設定では、前回作業していたプロジェクトが表示されます。

デモ・プロジェクトが ALM Platform サーバにインストールされている場合、**ApplicationLifecycleManagement_Demo** プロジェクトを選択できます([ドメイン] リストで **DEFAULT** を選択している必要があります)。プロジェクトにはサンプル・データが含まれており、ALM について学ぶことができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management チュートリアル』を参照してください。

- 11 [ログイン] ボタンをクリックします。ALM が起動し、前回のセッションで作業していたモジュールが表示されます。

ALM を初めて実行すると、[Welcome] ページが開きます。[Welcome] ページから、ALM ドキュメントに直接アクセスできます。ALM にログインするたびに [Welcome] ページを表示したくない場合は、[次回から表示しない] を選択します。[Welcome] ページを開くには、[ヘルプ] > [ようこそページ] を選択します。

- 12 終了して ALM のログイン・ウィンドウに戻るには、ウィンドウの右上にある [ログアウト] ボタンをクリックします。

あるいは、[ツール] > [プロジェクトを変更] を選択して、別のプロジェクトにログインします。

パスワードのリセット方法

ALM にログインするときにパスワードを思い出せない場合は、パスワードをリセットして新しく作成できます。

注： 次の状況では、パスワードをリセットできません。

PASSWORD_RESET_DISABLE サイト設定パラメータによって無効化されている場合。

LDAP 認証が有効化されている場合。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

パスワードをリセットするには、次の手順で行います。

- 1 ALM のログイン・ウィンドウで、[パスワードを忘れた場合] リンクをクリックします。[パスワードを忘れた場合] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 [ログイン名] ボックスに、ユーザ名を入力します。標準設定では、ALM のログイン・ウィンドウに入力した名前が表示されます。
- 3 [OK] をクリックします。ALM によって、ユーザ名に割り当てられている電子メール・アドレスにメッセージが送信されます。リンクをクリックして新しいパスワードを設定します。

新しいパスワードを設定すると、ALM のログイン・ウィンドウが開き、新しいパスワードを使用してログインできるようになります。

管理者メッセージの表示方法

サイト管理者は、ALM プロジェクトに接続されているユーザに、重要なメンテナンスやその他の問題を通知するメッセージを送信できます。たとえば、ユーザが接続しているプロジェクトへの接続が解除されるという警告メッセージを送信します。

サイト管理者からのメッセージ送信の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

管理者メッセージを表示するには、次の手順で行います。

- 1 サイト管理者がユーザにメッセージを送信すると、ユーザのコンピュータでポップアップ・ウィンドウが自動的に開き、メッセージ・テキストが表示されます。
- 2 複数のメッセージがある場合は、[前のメッセージ] ボタンおよび [次のメッセージ] ボタンを使用して、それぞれのメッセージを表示します。

リファレンス

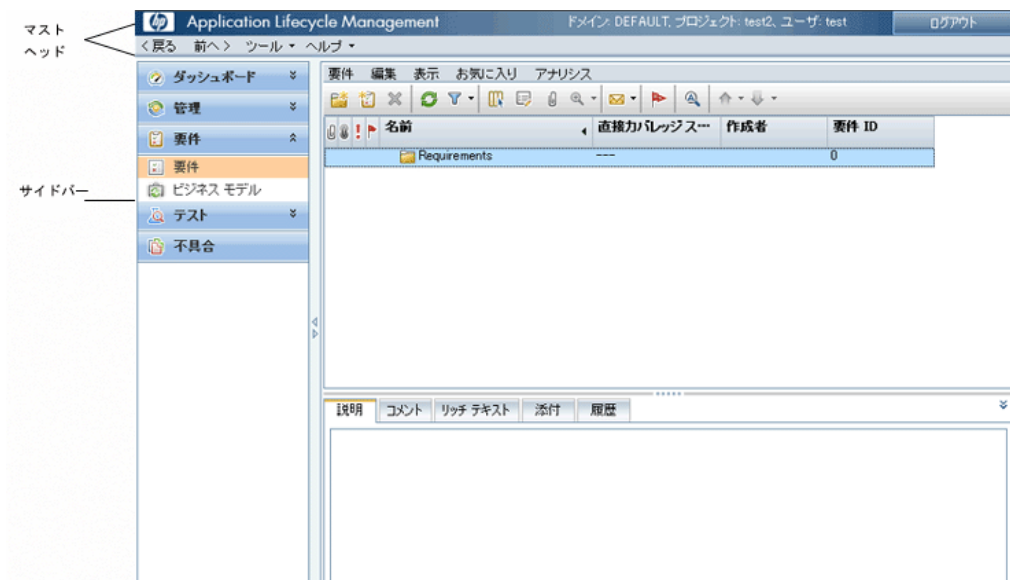
ALM 共通ユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 「ALM 共通領域」 (40 ページ)
- ▶ 「ALM フィールド」 (46 ページ)
- ▶ 「ALM アイコン」 (46 ページ)
- ▶ 「[ユーザのプロパティ] ページ」 (47 ページ)
- ▶ 「[履歴のクリア] ダイアログ・ボックス」 (49 ページ)
- ▶ 「[タスク・マネージャ] ダイアログ・ボックス」 (50 ページ)

🔑 ALM 共通領域



共通領域には、ナビゲーション・ボタン、共通ツールへのアクセス、ドキュメント、その他のリソースが含まれます。



アクセス方法	共通領域は、すべての ALM ビューからアクセスできます。
関連タスク	「ALM の起動方法」(33 ページ)
参照項目	「ALM ウィンドウ」(30 ページ)

マストヘッド

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[ログアウト]: 現在のプロジェクトをログアウトして [ALM ログイン] ウィンドウを表示します。</p> <p>ヒント: [ツール] > [プロジェクトを変更] を選択して、作業中のプロジェクトを変更できます。</p>
	<p>[戻る] / [前へ]: ALM で、前または次のビューに移動できます。</p> <p>ヒント: 前のページに移動した後は、[前へ] ボタンを使用します。</p>
<p><ドメイン, プロジェクト, ユーザ></p>	<p>現在のドメイン, プロジェクト, ユーザの詳細。</p>
<p>[ヘルプ]</p>	<p>HP Application Lifecycle Management 文書ライブラリやその他のオンライン・リソースを表示します。その他のオンライン・リソースの詳細については、「その他のオンライン・リソース」(19 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM の各クライアント・コンポーネントのバージョン情報を表示するには、[ヘルプ] > [HP Application Lifecycle Management ソフトウェアのバージョン情報] を選択します。</p> <p>ALM のパッチ情報を表示するには、[ヘルプ] > [HP Application Lifecycle Management ソフトウェアのバージョン情報] を選択し、[追加情報] をクリックします。</p> <p>ヒント: [ヘルプ] メニューのカスタマイズ方法については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。</p>
<p>[ツール]</p>	<p>各 ALM モジュールから実行できるコマンドが含まれます。詳細については、「[ツール] メニュー」(42 ページ) を参照してください。</p> <p>ヒント: [ヘルプ] メニューのカスタマイズ方法については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。</p>

[ツール] メニュー

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[プロジェクトを変更]	現在のプロジェクトをログアウトし、同じマシンで以前に開いたプロジェクトから1つを選択するか、[ログイン] ウィンドウで別のプロジェクトを選択します。
[履歴のクリア]	[履歴のクリア] ダイアログ・ボックスが開きます。プロジェクトから履歴データを削除できます。履歴をクリアするには、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、「[履歴のクリア] ダイアログ・ボックス」(49 ページ) を参照してください。
[カスタマイズ]	[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウを開き、プロジェクトをカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ヒント: [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウでは、ALM パスワードおよびユーザの詳細を変更できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ユーザのプロパティ] ページ」(47 ページ) を参照してください。
[ドキュメント・ジェネレータ]	ドキュメント・ジェネレータを起動します。詳細については、第41章、「プロジェクト・ドキュメント」を参照してください。
[Download Standalone Applications]	Performance Center: [Application Download] ウィンドウが開き、Performance Center に必要なスタンドアロン・アプリケーションをダウンロードできます。
[Event Log]	Performance Center: パフォーマンス・テストの実行中に発生したすべてのイベントに関する情報を表示します。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。
[新規不具合]	[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開き、新しい不具合を追加できるようになります。詳細については、「[不具合詳細] ダイアログ・ボックス」(860 ページ) を参照してください。
[Performance Center Settings]	Performance Center: Performance Center プロジェクトの設定を行うことができます。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。

UI 要素	説明
[スペルと文法]	<p>[スペル チェック] : 選択したテキストまたはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。誤りがなければ、確認メッセージ・ボックスが開きます。誤りが見つかった場合は、[スペル] ダイアログ・ボックスに該当する単語と修正候補が表示されます。</p> <p>[スペル オプション] : [スペル オプション] ダイアログ・ボックスが開き、ALM によるスペル・チェックの方法を設定できます。</p> <p>[類語辞典] : [類語辞典 : 英語] ダイアログ・ボックスが開き、選択した語の類義語、反意語、関連する語が表示されます。選択した単語を置換したり、新しい単語を調べたりすることができます。</p>
[タスク・マネージャ]	<p>[タスク・マネージャ] ダイアログ・ボックスが開き、プロジェクトで実行されている非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。詳細については、「[タスク・マネージャ] ダイアログ・ボックス」(50 ページ) を参照してください。</p>

サイドバー・ボタン

この領域では、ALM のモジュール間を移動できます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ALM Editions : ALM には、ALM の機能のサブセットを備えた Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition の 3 つのエディションもあります。詳細については、第 7 章、「ALM エディション」を参照してください。 ▶ サイドバーが表示されていない場合は、ウィンドウの左隅中央にある展開ボタンをクリックします。
---------------------	--

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[ダッシュボード]	<p>次のモジュールがあります。</p> <p>アナリシス・ビュー: グラフ, レポート, Excel レポートを作成できます。</p> <p>ダッシュボード・ビュー: ダッシュボード・ページを作成し, 1つの画面に複数のグラフを表示できます。</p>
[不具合]	<p>不具合の追加, 修正の優先度の指定, 未解決の不具合の修正, およびデータの分析を行えます。</p>
[Lab Resources]	<p>Performance Center : 次のモジュールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ Timeslots : パフォーマンス・テストを実行する目的で, またはテスト・リソースのメンテナンス作業を実行するために, テスト・リソースを確保します。 ▶ Hosts : Performance Center ホスト・マシンの割り当ておよび可用性を管理できます。 ▶ AUT Hosts : AUT (Application Under Test) を構成するホスト・マシンを管理できます。 ▶ Topologies : テスト対象アプリケーション (AUT) を構成する論理コンポーネント, およびコンポーネント間の関係を視覚的に表示するトポロジーを作成します。 <p>詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>
[管理]	<p>次のモジュールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リリース: アプリケーション管理プロセスのリリースおよびサイクルを定義できます。 ▶ ライブラリ: ライブラリの定義によるプロジェクトでの変更の追跡, プロジェクトでのエンティティの再利用, 複数のプロジェクト間でのエンティティの共有ができます。

UI 要素	説明
[要件]	<p>次のモジュールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 要件：要件を階層ツリー構造で管理できます。要件は、ほかの要件、テスト、または不具合にリンクできます。 ▶ ビジネス・モデル：ビジネス・プロセス・モデルをインポートし、モデルおよびそのコンポーネントの品質をテストできます。このモジュールへのアクセスは、ALM のライセンスに依存します。
[テスト]	<p>次のモジュールがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ テスト・リソース：テスト・リソースを階層ツリー構造で管理できます。テスト・リソースはテストに関連付けることができます。 ▶ ビジネス・コンポーネント：お使いの ALM ライセンスに応じて、[ビジネス コンポーネント] モジュールにもアクセスできます。このモジュールを使用すると、各分野のエキスパートは HP のテスト自動化ソリューションである Business Process Testing を使用して、品質の最適化プロセスを行うことができます。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。 ▶ テスト計画：テストを階層ツリー構造で開発および管理できます。テストは、要件および不具合にリンクできます。 ▶ テスト・ラボ：テストを管理および実行できます。テストの実行後、結果を分析できます。

ALM フィールド

本項では、ALM で使用できるフィールドの一覧を示します。

モジュール名	説明
ビジネス・モデル	「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(457 ページ)
不具合	「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ)
管理	「リリース・モジュールのフィールド」(172 ページ) 「ライブラリ・モジュールのフィールド」(259 ページ)
要件	「要件モジュール・フィールド」(347 ページ)
テスト・ラボ	「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ)
テスト計画	「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)
テスト・リソース	「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(639 ページ)

ALM アイコン

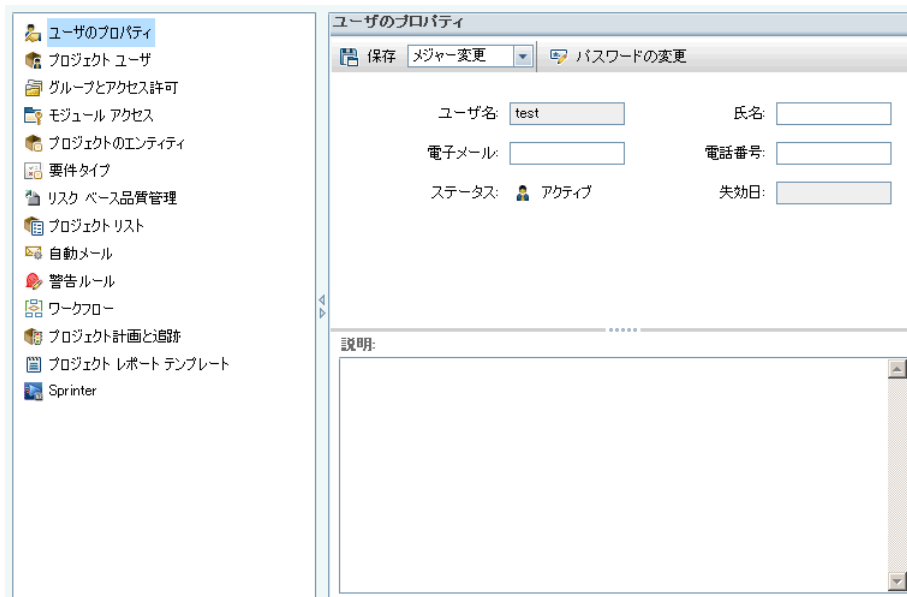
本項では、ALM で使用できるアイコンの一覧を示します。

モジュール名	説明
ダッシュボード	「ダッシュボード・アイコン」(891 ページ)
不具合	「不具合モジュールのアイコン」(854 ページ)
管理	「リリース・モジュールのアイコン」(171 ページ) 「ライブラリ・モジュールのアイコン」(258 ページ)
要件	「要件モジュール・アイコン」(344 ページ)
テスト・ラボ	「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(708 ページ)
テスト計画	「テスト計画モジュールのアイコン」(510 ページ)
テスト・リソース	「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(637 ページ)

[ユーザのプロパティ] ページ

このページでは、氏名、パスワード、電子メール・アドレス、電話番号、その他の詳細を含むユーザ・プロパティを変更できます。

注：[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。




ユーザのプロパティ

保存 メジャー変更 パスワードの変更

ユーザ名: test 氏名:




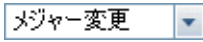
電子メール: 電話番号:

ステータス:  アクティブ 失効日:

説明:

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 共通ツールバーで、[ツール] > [カスタマイズ] を選択します。 2 [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウで、[ユーザのプロパティ] リンクをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 電子メールによる通知および警告をメール・ボックスに直接受信できるようになるため、電子メール情報は重要です。 ▶ サイト管理者はユーザのプロパティまたはパスワードの変更および上書きができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[戻る]: [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウを終了し、ALM ウィンドウに戻ります。</p>
	<p>[パスワードの変更]: [<ユーザ名>のパスワードを変更] ダイアログ・ボックスが開き、ログイン・パスワードを変更できます。</p>
	<p>[保存]: ユーザ・プロパティの変更内容を保存します。</p>
	<p>保存ドロップダウン・リスト: カスタマイズ内容を、メジャー変更またはマイナー変更として保存できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
<p>[失効日]</p>	<p>ユーザが非アクティブ化される予定の日付。非アクティブ化されたユーザは ALM プロジェクトにログインできません。</p> <p>注: このフィールドはサイト管理者によって設定され、読み取り専用です。</p>
<p>[電子メール]</p>	<p>通知および警告の送信先となる電子メール・アドレスを指定します。</p>

UI 要素	説明
[氏名] / [説明] / [電話番号]	ユーザの詳細。
[ステータス]	ユーザのステータスは [アクティブ] と表示されます。アクティブなユーザのみが ALM プロジェクトにログインできます。
[ユーザ名]	ALM ログイン名。 注: このフィールドは読み取り専用です。

[履歴のクリア] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、履歴データを削除できます。

アクセス方法	マストヘッドで、[ツール] > [履歴のクリア] を選択します。
重要な情報	履歴のクリアを行うには、適切なユーザ権限が必要です。
参照項目	「プロジェクト履歴管理」(31 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[エンティティ]	履歴を削除するエンティティを選択します。 注: すべてのエンティティから履歴データを削除するには、 [全て] を選択します。
[フィールド]	履歴を削除するフィールドを選択します。 注: 選択したエンティティのすべてのフィールドから履歴データを削除するには、 [全て] を選択します。
[次の日付まで]	選択した日付までの (選択した日付を含む) データが削除されます。








[タスク・マネージャ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、プロジェクトで実行されている非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。たとえばベースラインを作成する場合は、ALMによりバックグラウンド・プロセスでタスクが実行されます。タスク・マネージャでこのタスクの進行状況を確認できます。



アクセス方法	マストヘッドで、[ツール] > [タスク マネージャ] を選択します。
重要な情報	ALM では、完了したタスクは2日後にタスク・マネージャからクリアされます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[削除]：現在選択されているタスクをグリッドからクリアします。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 完了したタスクのみ削除できます。 ▶ タスクをクリアできるのは、そのタスクを実行したユーザ、またはプロジェクト管理者のみです。
	<p>[全て更新]：最新のタスク情報が表示されるように、グリッドを更新します。</p> <p>自動更新が有効になっている場合、このボタンは無効化されます。</p>
	<p>[自動更新をオンに設定] / [自動更新をオフに設定]：有効にした場合、最新のタスク情報が表示されるように、グリッドを5秒ごとに自動更新します。</p>
	<p>[フィルタ/ソート]：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示されたタスクのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[カラムを選択]：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
[作成者]	タスクを実行したユーザの名前。
[説明]	タスクの説明。
[終了時間]	タスクが完了した時刻。
[フィルタ]	グリッドに現在適用されているフィルタを表示します。グリッドのすぐ上に表示されます。
[開始時間]	タスクが開始された時刻。
[タスクの詳細]	<p>選択したタスクの詳細を表示します。</p> <p>この表示枠の表示/非表示を切り替えるには、表示/非表示の矢印   をクリックします。</p>

UI 要素	説明
[タスク ID]	ALM によってタスクに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[タスク進行状況]	タスクの完了した割合。タスクが完了すると、[成功] または [失敗] の結果が表示されます。
[タスクの状態]	<p>次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [実行中] : タスクは進行中です。 ▶ [一時停止] : タスクはユーザによって一時停止されました。 ▶ [完了] : タスクは完了しました。 <p>注 : タスクがユーザによって中断された場合、[タスクの状態] は [完了] となり、[タスク進行状況] の値は [失敗] となります。</p>
[タイプ]	タスクのタイプ。たとえば、[ImportBaseline] などです。

第 3 章

ALM 共通機能

本章の内容

概念

- ▶ 「ALM 共通機能の概要」 (54 ページ)

タスク

- ▶ 「ALM のデータの表示方法」 (55 ページ)
- ▶ 「添付ファイルの変更方法」 (57 ページ)
- ▶ 「ALM データの検索および置換」 (58 ページ)

リファレンス

- ▶ 「ALM 共通機能のユーザ・インタフェース」 (59 ページ)

概念

ALM 共通機能の概要

HP Application Lifecycle Management (ALM) では、グリッドおよびツリーでデータの整理や表示を行います。カラムの再配置、フィルタ処理、並べ替え、グループ化など、さまざまな方法でデータを操作できます。また、レコードへのファイルの添付、レコード内の特定のテキストの検索、さまざまなエンティティの履歴の表示もできます。

注：ALM のグリッドやツリーはそれぞれに表示内容が異なるため、本章で説明するタスクやリファレンスがすべてのグリッドとツリーに適用できるとは限りません。

作業の詳細については、「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)、「添付ファイルの変更方法」(57 ページ)、「ALM データの検索および置換」(58 ページ)を参照してください。


タスク

ALM のデータの表示方法

このタスクでは、ALM データの操作方法を説明します。

- ▶ 「レコードのフィルタ」(55 ページ)
- ▶ 「レコードの並べ替え」(56 ページ)
- ▶ 「レコードのグループ分け」(56 ページ)
- ▶ 「カラムの並べ替えとサイズ変更」(56 ページ)
- ▶ 「ALM 履歴の表示」(57 ページ)

レコードのフィルタ

- ▶ ALM のデータをフィルタ処理して、定義した条件に一致するレコードだけを表示させるには、[**フィルタ/ソートを設定**] ボタン  をクリックします。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。[フィルタ] タブで、単一または複数の条件を割り当てます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。

例：

テスト・ラボ・モジュールで、[ステータス] フィルタを「Failed」と定義し、[テスト担当者] フィルタを「David Or Mark」と定義することができます。この場合、David または Mark が実施して失敗したテスト実行のみが表示されます。

- ▶ データをさらにドリル・ダウンするには、クロス・フィルタを定義します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスで、[**クロス・フィルタ**] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。

例：

テスト計画ツリーで、関連付けられたテスト・セットのクロス・フィルタを「Open」として定義できます。これにより、ステータスが「Open」であるテスト・セットに属するテストのみが表示されます。あるいは、関連付けられたテスト・セット・フィルタを定義して、テスト・セットに属していないテストを検索できます。

レコードの並べ替え

ALM のツリーおよびグリッドに表示されるレコードのプロパティの並べ替えを設定できます。デフォルトでは、レコードは追加された順に ALM に表示されます。[フィルタ] ダイアログ・ボックスで、[表示順序] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。

例：

テスト・グリッドで、[設計者] カラムの並べ替え優先順位を最高にすると、レコードは [設計者] カラムに表示される名前の ASCII コード順に並べられます。[テスト名] の並べ替えの優先順位を次に高い優先順位にすると、[設計者] カラムに表示される名前が同じテスト・レコードは、テスト名の ASCII コード順に並べられます。

レコードのグループ分け

指定した条件に基づいてグリッド・データを分類し、グループ分けできます。[フィルタ] ダイアログ・ボックスで、[グループ] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。

例：

不具合グリッドの [責任者] カラムのグループ分けの優先順位を最高にすると、レコードは [責任者] カラムに表示される名前に従ってグループ分けされます。[ステータス] および [重要度] の優先順位をそれぞれ次に高い優先順位にすると、[責任者] カラムと同じ名前が割り当てられた不具合は、それぞれのステータス、次いで重要度に従ってグループ分けされます。

カラムの並べ替えとサイズ変更

ALM に表示するカラムとその順序を指定します。[表示] > [カラムを選択] を選択します。[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)を参照してください。

マウスを使用してカラムのサイズを変更します。カラムの見出しの右端をクリックし、ドラッグして幅を調節します。

ALM 履歴の表示

ALM エンティティに加えた変更のリストを表示します。また、特定のベースラインに格納されている以前のバージョンのエンティティを表示することもできます。

[履歴] タブまたはボタンをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。

添付ファイルの変更方法

このタスクでは、ALM 添付ファイルの変更方法を説明します。

添付ファイルを開くと、添付ファイルがクライアント・マシンのローカル・ディレクトリにダウンロードし、関連付けられたアプリケーションで開きます。添付ファイルに変更を加えた場合は、2 回保存する必要があります。最初に、アプリケーションで添付ファイルのローカル・コピーを保存します。次に、添付ファイルを ALM プロジェクトにアップロードします。

添付ファイルに変更を加えるには、次の手順で行います。

- 1 選択した ALM レコードの [添付ファイル] ページに移動します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
- 2 選択した添付ファイルをダブルクリックします。関連付けられたアプリケーションでローカル・コピーが開かれます。
- 3 添付ファイルに変更を加えます。
- 4 アプリケーションで変更内容を保存します。これにより、添付ファイルのローカル・コピーが保存されます。
- 5 添付ファイルを閉じます。
- 6 ALM で、[**選択項目のアップロード**] ボタンをクリックして、ローカル・コピーを ALM プロジェクトにアップロードします。

ALM データの検索および置換

次のステップでは、ALM データの検索および置換の方法を説明します。

- ▶ 「レコードの検索」(58 ページ)
- ▶ 「レコードの置換」(58 ページ)

レコードの検索

[検索] ダイアログ・ボックスを使用して、ツリーまたはグリッドの特定のフィールド値に基づいて、レコードを検索できます。特定のサブフォルダまたはレコードのフォルダも検索できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ)を参照してください。

使用できる場合、キーワードやキーワードの変化形を、テキスト検索を使用して検索できます。[編集] > [テキスト検索] を選択します。ウィンドウの下部に、テキスト検索の表示枠が開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ)を参照してください。

レコードの置換

[置換] ダイアログ・ボックスを使用して、選択したレコード、またはツリーやグリッドのすべてのレコードのフィールド値を置換できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ)を参照してください。

[選択項目の更新] ダイアログ・ボックスを使用して、グリッドやツリーの複数レコードのフィールド値を更新できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[選択項目の更新] ダイアログ・ボックス」(92 ページ)を参照してください。

リファレンス

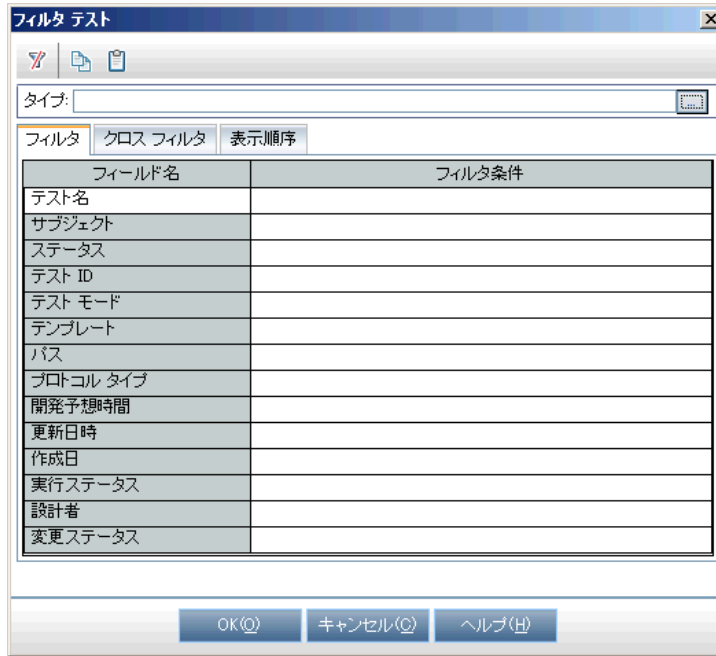
ALM 共通機能のユーザ・インタフェース


本項の内容

- ▶ 「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)
- ▶ 「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)
- ▶ 「[ユーザ リスト] ダイアログ・ボックス」(72 ページ)
- ▶ 「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ)
- ▶ 「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ)
- ▶ 「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ)
- ▶ 「[履歴] タブ」(81 ページ)
- ▶ 「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ)
- ▶ 「[添付] ページ」(86 ページ)
- ▶ 「[スナップショット] ダイアログ・ボックス」(89 ページ)
- ▶ 「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)
- ▶ 「[選択項目の更新] ダイアログ・ボックス」(92 ページ)

[フィルタ] ダイアログ・ボックス




このダイアログ・ボックスでは、ALM データのフィルタ処理、並べ替え、グループ分けを行い、定義した条件に一致するレコードだけを表示させることができます。



アクセス方法	[フィルタ/ソートを設定] ボタン  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ヒント：フィルタおよび並べ替えの設定をお気に入りビューとして保存し、後で必要に応じて読み込むことができます。お気に入りビューとして保存するには、[お気に入り] > [お気に入りに追加] を選択します。[追加お気に入り] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[追加お気に入り] ダイアログ・ボックス」(113 ページ) を参照してください。 ▶ Quality Center Starter Edition では、一部のフィールドおよび機能が使用できません。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)
参照項目	「ALM 共通機能の概要」(54 ページ)


【フィルタ】ダイアログ・ボックスの共通要素

次に、共通ユーザインタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>【フィルタをクリア】: [フィルタ] ダイアログ・ボックスで定義したフィルタ、並べ替え、グループ分けの設定をクリアします。</p>
	<p>【フィルタ設定をコピー】: フィルタ、並べ替え、グループ分けの設定をクリップボードにコピーします。</p>
	<p>【フィルタ設定を貼り付ける】: フィルタ、並べ替え、グループ分けの設定をクリップボードから別のプロジェクトに貼り付けます。また、電子メールまたはテキスト・ファイルに設定を貼り付けることによつて、ほかのユーザと設定を共有できます。</p> <p>ヒント:</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 別のプロジェクトに貼り付けるには、設定を貼り付けるプロジェクトにログインして適切なモジュールを表示し、[フィルタ] ダイアログ・ボックスを開きます。【フィルタ設定を貼り付ける】 ボタンをクリックします。 ▶ 電子メールまたはテキスト・ファイルに貼り付けるには、ターゲット・アプリケーションの貼り付けボタンをクリックします。
<p>【リスク ベース品質管理のフィールドを隠す】</p>	<p>リスク・ベース品質管理に関する要件フィールドを非表示にします。フィルタ条件が設定されていないフィールドだけが非表示になります。</p> <p>注: 要件モジュールのみで使用できます。</p>
<p>【要件タイプ】</p>	<p>選択した要件タイプによるフィルタを定義します。</p> <p>【要件タイプ】 ボックスで、参照ボタンをクリックします。[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。要件タイプを選択して 【OK】 をクリックします。[フィルタ条件] タブに関連するフィールド名が表示されます。</p> <p>注: 要件モジュールのみで使用できます。</p>

【フィルタ】 タブ

このタブでは、ALM のデータをフィルタ処理して、定義した条件に一致するレコードだけを表示させることができます。

<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 要件ツリーでフィルタリングを行う場合、フィルタされたエンティティの親でフィルタに一致しないものには、 アイコンが表示されます。 ▶ テスト計画ツリーまたはテスト・セット・ツリーでフィルタリングする場合、フィルタに一致しないツリーのフォルダはツリーに表示されません。 ▶ バージョン管理:バージョン管理フィールドに基づくデータのフィルタリングの詳細については、「バージョン管理フィールドによるフィルタリングの方法」(124 ページ) を参照してください。
<p>関連タスク</p>	<p>「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「ALM 共通機能の概要」(54 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[フィルタ条件]	<p>フィールドのフィルタ条件を定義します。</p> <p>対応する [フィルタの条件] ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックします。[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>
[フィールド名]	<p>フィルタリングに使用できるフィールドのリストです。</p> <p>ヒント: [フィールド名] カラムのフィールドを検索するには、[フィールド名] カラムでボックスをクリックして、フィールド名の最初の文字を入力します。最初に見つかったフィールド名が強調表示されます。</p> <p>フィールドの詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) ▶ 「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) ▶ 「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(639 ページ) ▶ 「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) ▶ 「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ) ▶ Business Process Testing : <ul style="list-style-type: none"> ▶ ビジネス・コンポーネント・モジュールの詳細フィールドについては、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』の「[詳細] タブについて」を参照してください。 ▶ ビジネス・コンポーネント・モジュールのパラメータ フィールドについては、「[パラメータ] タブについて」を参照してください。

[クロス・フィルタ] タブ

このダイアログ・ボックスでは、要件、テスト、テスト・セット、不具合などの関連付けられた項目に対して、2 次的なフィルタを定義できます。

重要な情報	[クロス・フィルタ] で使用できるユーザ・インタフェース要素は、ALM モジュールによって異なります。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)
参照項目	「ALM 共通機能の概要」(54 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>[警告]</p>	<p>警告は、次のいずれかになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [警告を持つ不具合を表示]：呼び出された警告を使って、不具合をフィルタ処理します。このオプションは、不具合モジュールのみで使用できます。 ▶ [警告を持つモデルを表示]：呼び出された警告を使って、ビジネス・プロセス・モデルをフィルタ処理します。このオプションは、ビジネス・モデル・モジュールのみで使用できます。 ▶ [警告を持つ要件]：呼び出された警告を使って、要件をフィルタ処理します。このオプションは、要件モジュールのみで使用できます。 ▶ [警告を持つテスト・インスタンスを表示]：呼び出された警告を使って、テスト・インスタンスをフィルタ処理します。このオプションは、テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドのみで使用できます。 ▶ [警告を持ったテストを表示]：呼び出された警告によってテストをフィルタ処理します。このオプションは、テスト計画モジュールのみで使用できます。
<p>[不具合]</p>	<p>次のいずれかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 要件に直接または間接的にリンクされている不具合を使って、要件をフィルタ処理します。要件モジュールで使用できます。 ▶ リンクされている不具合を使って、ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをフィルタ処理します。ビジネス・モデル・モジュールで使用できます。 ▶ テストに直接または間接的にリンクされている不具合を使って、テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで使用できます。 ▶ テストに直接または間接的にリンクされている不具合を使って、テスト・セットをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・ツリーで使用できます。 <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
【モデル・アクティビティ】	<p>モデルに含まれるアクティビティによって、モデルをフィルタ処理します。</p> <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p>
【モデル・パス】	<p>モデルに含まれるパスによって、モデルをフィルタ処理します。</p> <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p>
【要件】	<p>次のいずれかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リンクされている要件を使って、ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをフィルタ処理します。ビジネス・モデル・モジュールで使用できます。 ▶ 対象となる要件を使って、テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで使用できます。 ▶ 選択した要件を対象とするテストを使って、テスト・インスタンスをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドで使用できます。 ▶ リンクされている要件を使って、不具合をフィルタ処理します。不具合モジュールで使用できます。 <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p> <p>いずれの要件もカバーしないテストをフィルタ処理するには、[要件カバレッジなしのテスト]を選択します。たとえば、重複しているテスト、または要件カバレッジ・リンクが存在しないテストを識別するのに役立ちます。このオプションは、テスト計画モジュールのみで使用できます。</p>
【要件：トレース元】	<p>トレース元要件を使って、要件をフィルタ処理します。要件モジュールで使用できます。</p> <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p>

UI 要素	説明
<p>[要件 : トレース先]</p>	<p>トレース先要件を使って、要件をフィルタ処理します。要件モジュールで使用できます。</p> <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p>
<p>[実行]</p>	<p>次のいずれかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ テストの実行によって、テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで使用できます。 ▶ テストの実行によって、テスト・インスタンスをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドで使用できます。 <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p>
<p>[テスト設定]</p>	<p>次のいずれかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ テスト設定を使って、要件をフィルタ処理します。要件モジュールで使用できます。 ▶ テスト設定を使って、テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで使用できます。 ▶ テスト設定を使って、テスト・セットをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールで使用できます。 <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p>
<p>[テスト条件]</p>	<p>テスト条件を使って、要件をフィルタ処理します。要件モジュールで使用できます。</p> <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ)を参照してください。</p> <p>Business Process Testing : テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストのみに使用できます。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>





UI 要素	説明
【テストセット】	<p>次のいずれかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ そのテストが含まれているテスト・セットを使って、テストをフィルタ処理します。テスト計画モジュールで使用できます。 ▶ そのテスト・インスタンスが含まれているテスト・セットを使って、テスト・インスタンスをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールの実行グリッドで使用できます。 <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ) を参照してください。</p> <p>どのテスト・セットにも属さないテストのフィルタ処理を行うには、[どのテスト・セットにも入らないテスト]を選択します。たとえば、実行されていないテストを識別するのに役立ちます。このオプションは、テスト計画モジュールのみで使用できます。</p>
【テスト】	<p>次のいずれかを示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 対象となるテストを使って、要件をフィルタ処理します。要件モジュールで使用できます。 ▶ リンクされているテストを使って、ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをフィルタ処理します。ビジネス・モデル・モジュールで使用できます。 ▶ 含まれているテストを使って、テスト・セットをフィルタ処理します。テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・ツリーで使用できます。 ▶ リンクされているテストを使って、不具合をフィルタ処理します。不具合モジュールで使用できます。 <p>フィルタを定義するには、<フィルタ定義なし>を選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[フィルタ] タブ」(62 ページ) を参照してください。</p>

【表示順序】 タブ

このダイアログ・ボックスでは、ASCII コードの順に従ってレコードを並べ替えることができます。

重要な情報	[表示順序] タブでは、数値で始まるレコードより、空白または文字で始まるレコードが優先されます。また、小文字より大文字が優先されます。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)
参照項目	「ALM 共通機能の概要」(54 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[ソート済みフィールド] 表示枠での並べ替え優先順位を設定します。 ヒント: また、フィールド名をドラッグして上または下に移動することもできます。
	選択したフィールドを、[使用可能なフィールド] と [ソート済みフィールド] の間で移動します。 ヒント: 表示枠の間でフィールド名をドラッグしたり、フィールド名をダブルクリックしてほかの表示枠にフィールドを移動したりすることもできます。
	すべてのフィールドを、[使用可能なフィールド] と [ソート済みフィールド] の間で移動します。
	[ソート済みフィールド] 表示枠で、選択したフィールドを昇順または降順で並べ替えます。
【使用可能なフィールド】	表示可能なすべてのフィールドの名前が表示されます。
【ソート済みフィールド】	ソート優先順位が現在割り当てられているフィールドの名前が表示されます。

[グループ] タブ

このダイアログ・ボックスでは、指定した条件に基づいてグリッド・データを分類し、グループ分けできます。レコードのグループ分けの基準とする情報を指定できるほか、各基準の表示の優先順位を設定できます（最大3レベルまで）。これにより、大きなデータ・セット内を容易に移動できるようになります。

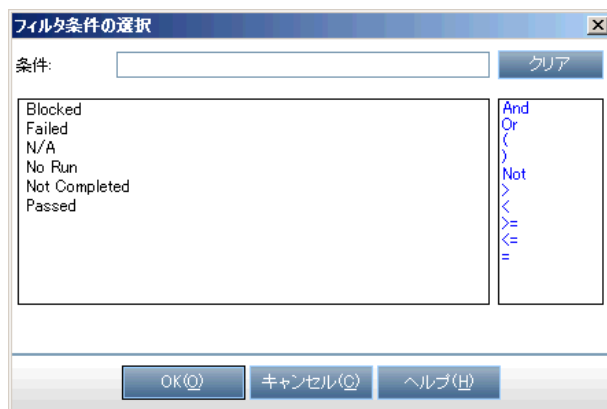
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [グループ] タブは、グリッド・ビューのみで使用できます。 ▶ グループ・ヘッダを選択してグループ全体を対象に ALM アクションを実行することはできません。複数のレコードを対象にアクションを実行するには、CTRL キーまたは SHIFT キーを押しながらレコードを選択します。 ▶ 複数の値を含むフィールドを基準にレコードをグループ分けすると、フィールド内の値の情報がまとめられて、全体で1つの値として扱われます。この値がグループ分けのカテゴリとなります。たとえば、「English」と「French」を含む値は、「English」と「French」という個別のカテゴリの一部としてではなく、「English;French」として一度だけグループ分けされます。複数の値の許可の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ グループ分けリストには、ユーザ・リストまたはルックアップ・リスト・タイプのフィールドに関連付けられているシステム・フィールドおよびユーザ定義フィールドのみが表示されます。フィールド・タイプの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)
参照項目	「ALM 共通機能の概要」(54 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【項目のグループ化対象】	選択したフィールドに基づいて、レコードをグループ分けします。 注： 親グループ・レベルを [(none)] に変更すると、その子グループ・レベルも自動的に [(none)] に変更されます。
【さらに次でグループ化】	追加フィールドでレコードをグループ分けします。 注： レコードを複数のフィールドでグループ分けする場合は、表示する階層構造でフィールドを選択します。すでに選択されているフィールドは選択できません。


【フィルタ条件の選択】 ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、フィールドのフィルタ条件を設定できます。



アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [フィルタ] ダイアログ・ボックスを開きます。[フィルタ] タブで、[フィルタ条件] ボックスをクリックします。ドロップダウン矢印をクリックします。 ▶ グリッド・ビューで、カラム名の下グリッド・フィルタ・ボックスをクリックします。参照ボタンをクリックします。
重要な情報	<p>要件モジュールで [親要件] フィールドを選択すると、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスに要件名ごとに並べ替えられて要件ツリーが表示されます。要件ツリーで要件を選択すると、完全パスが [条件] ボックスに表示されます。フィルタを適用すると、この要件の子孫である要件だけが表示されます。</p>
参照項目	<p>「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)</p> <p>「[ユーザリスト] ダイアログ・ボックス」(72 ページ)</p>

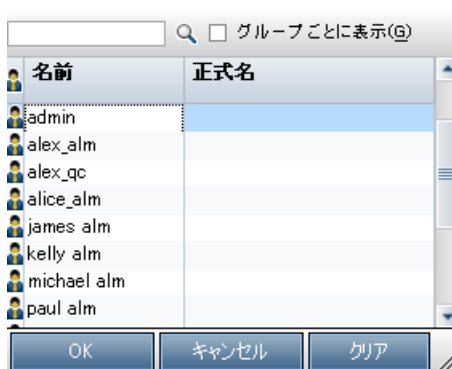
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>フィルタの条件をクリアします。</p>
<p>< [フィールド値] 表示枠 ></p>	<p>現在のフィールドのフィルタ条件の定義に使用できる値が表示されます。[条件] ボックスに追加する値を選択します。</p> <p>ユーザ名の値を含むフィールドを選択すると、< [条件] 表示枠 > に、ユーザの並べ替え、ユーザの検索、ユーザのユーザ・グループごとのグループ分け、リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができるユーザ・リストが表示されます。詳細については、「[ユーザリスト] ダイアログ・ボックス」(72 ページ) を参照してください。</p> <p>注：階層リストに表示される項目の中には、サブリストが含まれるものもあります。こうした項目の先頭には、フォルダ・アイコンが表示されます。サブリストから項目を選択するには、フォルダをダブルクリックしてから、項目をクリックします。</p>

UI 要素	説明
< [論理式] 表示枠 >	論理式の定義に使用できる演算子が表示されます。
[条件]	<p>フィールドの条件を示します。</p> <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数の語から成る項目を入力する場合は、引用符で囲む必要があります。たとえば、テスト Login Boundary を検索するには、[条件] ボックスに "login boundary" と入力します。 ▶ 項目名の一部のみを入力する場合は、アスタリスク (*) を使用します。たとえば、Login という語が入ったすべてのテストを検索するには、[条件] ボックスに *login* と入力します。「Insert New」という語で始まるすべてのテストを検索するには、[条件] ボックスで "insert new" と入力します。 ▶ 空の列を指定するには、"" と入力します。 ▶ 空ではないフィールドを指定するには、"not "" と入力します。


[ユーザ リスト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ユーザ・リストからユーザ名を選択できます。ユーザ・リストの並べ替え、ユーザの検索、ユーザ・グループによるユーザのグループ分け、およびリストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。



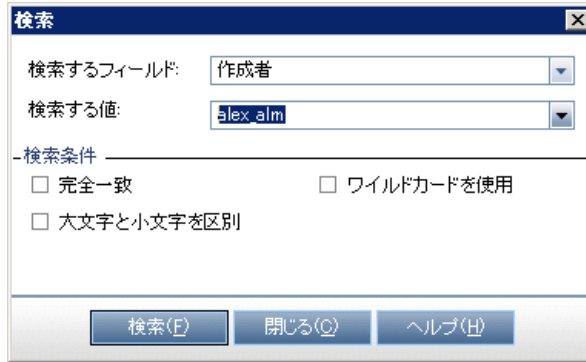
アクセス方法	ALMのグリッドまたはツリーで、ユーザ名の値を含むカラムを選択して、ドロップダウン矢印をクリックします。[ユーザリスト] ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザ・リストをユーザ名または氏名の昇順または降順で並べ替えるには、[名前] または [正式名] カラムの見出しをクリックします。表示の並び順を逆にするには、同じカラムの見出しをもう一度クリックします。 ▶ ユーザの条件を定義する場合、現在のユーザ（ [CurrentUser] を選択）か、ユーザ・グループ全体（例：[開発者]）を指定できます。
参照項目	「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[検索]：ユーザ名または氏名でユーザを検索します。[検索] ボックスにユーザの名前（または名前の一部）を入力して、[検索] ボタンをクリックします。ALMで、検索文字列を含む最初のレコードが強調表示されます。後続の検索文字列の一致を検索するには、[F3]を押します。</p> <p>ヒント：[名前] カラムの下にユーザ名の先頭の文字を入力して、インクリメンタル検索を行うこともできます。検索条件を絞り込むには文字を追加します。検索文字列の最初の文字が入力されるとすぐに検索が始まり、検索文字列のすべての文字が最初に見つかったレコードが強調表示されます。</p>
[正式名]	ユーザの氏名。
[名前]	ALM ログイン名。
[グループごとに表示]	ユーザをグループごとに表示します。

[検索] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ツリーまたはグリッドの特定のレコードを検索します。特定のフィールド値に基づいて、レコードを検索できます。特定のサブフォルダまたはレコードのフォルダも検索できます。この機能は、モジュールや作業しているビューによっては使用できない場合があります。



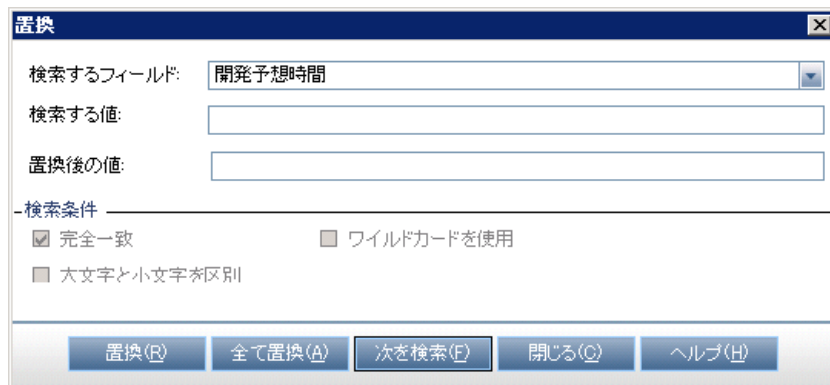
<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [編集] > [検索] を選択します。 ▶ 実行グリッドで、[テスト] > [検索] を選択します。 ▶ テスト・セット・ツリーで、[編集] > [フォルダ/テスト・セットの検索] を選択します。 <p>要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソース、テスト・ラボ、不具合の各モジュールから使用可能です。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ツリーまたはグリッドにフィルタが適用されている場合、検索は現在表示されているレコードに制限されます。 ▶ ヒント：使用できる場合、[テキスト検索]  は、キーワードやキーワードの変換形が検索できる、より強力なツールです。詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ)を参照してください。
<p>関連タスク</p>	<p>「ALM データの検索および置換」(58 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
検索(F)	ツリーで指定した値が検索されます。検索に成功すると、[検索結果] ダイアログ・ボックスが表示され、一致するリソースのリストが表示されます。リストで結果を選択し、[移動] をクリックすると、ツリー内でレコードが強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。
次を検索(F)	グリッドで指定した値に一致する次のレコードを検索します。検索が成功すると、一致したレコードがグリッドの中で強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。
[大文字と小文字を区別]	大文字と小文字を区別するようにします。
[完全一致]	指定した検索文字列に完全に一致する値を含むレコードを検索します。
[検索するフィールド]	検索するフィールドを示します。 要求モジュール、およびすべてのモジュールのグリッド・ビューで使用できます。
[検索するフォルダ]	ツリーで選択したフォルダの名前が表示されます。 コンポーネント・ツリー、テスト計画ツリー、テスト・リソース・ツリー、テスト・セット・ツリーで使用できます。
[検索する名前]	検索する [名前] フィールドの値。検索では大文字と小文字は区別されません。検索結果には、[名前] フィールドの値または値の一部が検索文字列と一致したレコードが含まれます。
[検索対象]	検索対象を、フォルダのみ、個別レコードのみ、またはフォルダと個別レコードの両方に設定します。 コンポーネント・ツリー、テスト計画ツリー、テスト・リソース・ツリー、テスト・セット・ツリーで使用できます。
[ワイルドカードを使用]	項目の一部のみを入力するために、検索文字列にアスタリスク (*) 文字を使用できます。
[検索する値]	検索するフィールド値。検索では大文字と小文字は区別されません。

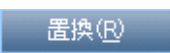


[置換] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ツリーまたはグリッドのフィールド値を検索および置換します。選択したレコード、またはツリーやグリッドのすべてのレコードのフィールド値を置換できます。



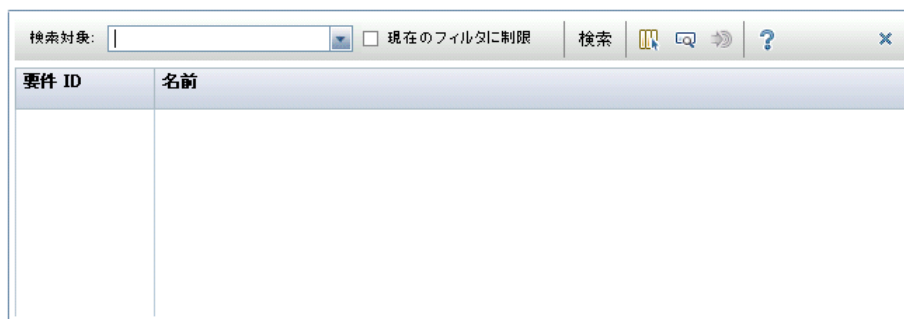
アクセス方法	次のいずれかを使用します。 ▶ グリッド・ビューで、[編集] > [置換] を選択します。 ▶ 実行グリッドで、[テスト] > [置換] を選択します。
重要な情報	ツリーまたはグリッドにフィルタが適用されている場合、検索および置換は現在表示されているレコードに制限されます。
関連タスク	「ALM データの検索および置換」(58 ページ)
参照項目	「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ) 「[選択項目の更新] ダイアログ・ボックス」(92 ページ)





次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	選択したレコードの指定したフィールド値を置換します。
	グリッドに表示されているすべてのレコードの指定したフィールド値を検索して置換します。
	グリッドで指定した値に一致する次のレコードを検索します。検索が成功すると、一致したレコードがグリッドの中で強調表示されます。検索が失敗すると、メッセージ・ボックスが開きます。
[大文字と小文字を区別]	大文字と小文字を区別するようにします。
[完全一致]	指定した検索文字列に完全に一致する値を含むレコードを検索します。
[検索するフィールド]	検索するフィールドを示します。
[置換後の値]	置換するフィールド値を示します。
[ワイルドカードを使用]	項目の一部のみを入力するために、検索文字列にアスタリスク (*) 文字を使用できます。
[検索する値]	検索するフィールド値。

[テキスト検索] 表示枠

この表示枠では、定義済みフィールドのレコードを検索できます。






検索対象: 現在のフィルタに制限 検索    

要件 ID	名前

アクセス方法	<p>[編集] > [テキスト検索] を選択します。ウィンドウの下部に、[テキスト検索] 表示枠が開きます。</p> <p>要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、不具合の各モジュールから使用可能です。</p>
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テキスト検索は、プロジェクトで有効になっている場合にのみ使用できます。検索オプションが使用できない場合は、ALM サイト管理者に問い合わせてください。 ▶ 検索可能なテキスト・フィールドは、[プロジェクトのカスタマイズ] であらかじめ定義されています。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ バージョン管理：ALM では、チェックインされたバージョンのみが検索されます。 ▶ Quality Center Starter Edition：テキスト検索は利用できません。
関連タスク	「ALM データの検索および置換」(58 ページ)
参照項目	「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[カラムの選択] : [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、カラムの表示形式と順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)を参照してください。</p>
	<p>[検索可能フィールド] : [プロジェクトのカスタマイズ] で設定されている定義済み検索フィールドのリストを表示します。</p>
	<p>[移動] : レコードを選択してボタンをクリックすると、レコードの詳細が表示されます。</p> <p>ヒント : または、レコードを選択して、<レコード ID>または<レコード名>のリンクをクリックします。</p>
<p><モジュール・フィールド></p>	<p>要件 : 要件モジュールで使用できるフィールドの詳細については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ)を参照してください。</p> <p>テスト計画 : テスト計画モジュールで使用できるフィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)を参照してください。</p> <p>不具合 : 不具合モジュールで使用できるフィールドの詳細については、「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ)を参照してください。</p> <p>Business Process Testing : ビジネス・コンポーネント・モジュールで使用できるフィールドの詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』の「[詳細] タブについて」のビジネス・コンポーネント・モジュールの詳細フィールドを参照してください。</p>
<p>[内]</p>	<p>[テスト] または [デザイン ステップ] のテキストの検索が使用できます。</p> <p>テスト計画モジュールで使用できます。</p>
<p>[項目]</p>	<p>検索結果で選択した項目の番号と、見つかった項目の合計数。</p>
<p>[現在のフィルタに制限]</p>	<p>モジュール内のすべてのレコードを検索するか、フィルタされたレコードに検索対象を限定するかを示します。</p>

UI 要素	説明
【検索】	定義済みフィールドに対してテキスト検索が実行され、検索結果が適合率順で表示されます。
【検索対象】	<p>検索するキーワードを示します。</p> <p>構文の例外：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ テキスト検索では、冠詞 (a, an, the)、等位接続詞 (and, but, for, nor, or)、ブール演算子 (and, or, not, if, then) は無視されます。 ▶ 検索では大文字と小文字は区別されません。 <p>注：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ キーワードを入力すると、定義済みフィールドを対象に、キーワードと、キーワードの変化形（活用形）が検索されます。たとえば、「log」と入力して検索すると、「log」、「logs」、「logging」、および「logged」を含むフィールドが検索されます。「login」や「logical」は、「log」の変化形（活用形）ではないので検索されません。 ▶ 複数のキーワードを入力すると、検索結果には、キーワードのうち少なくとも 1 つを含むレコードがすべて含まれます。

[履歴] タブ

このタブでは、現在選択したエンティティに加えられた変更のリストが表示できます。また、このタブにはエンティティが含まれているベースラインの履歴が表示されます。

バージョンおよびベースライン
監査ログ

表示バージョン:

バージョン	日付	更新者	ベースライン
1	2010/09/09 14:05:17	alm_admin	

選択したバージョンのコメント:

自動生成された最初のバージョン

アクセス方法	[履歴] タブまたはボタンをクリックします。
重要な情報	フィールドに加えられた変更の履歴の保存方法の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)

【ベースライン】 タブ

このタブでは、特定のベースラインに格納されている以前のバージョンのエンティティが表示されます。詳細については、「【ベースライン】 タブ」(278 ページ)を参照してください。

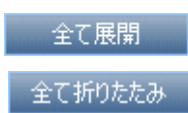
【バージョンおよびベースライン】 タブ

バージョン管理：このタブは、プロジェクトのバージョン管理が有効になっている場合に表示されます。詳細については、「【バージョンおよびベースライン】 タブ - バージョン・ビュー」(135 ページ)および「【ベースライン】タブ」(278 ページ)を参照してください。

【監査ログ】 タブ

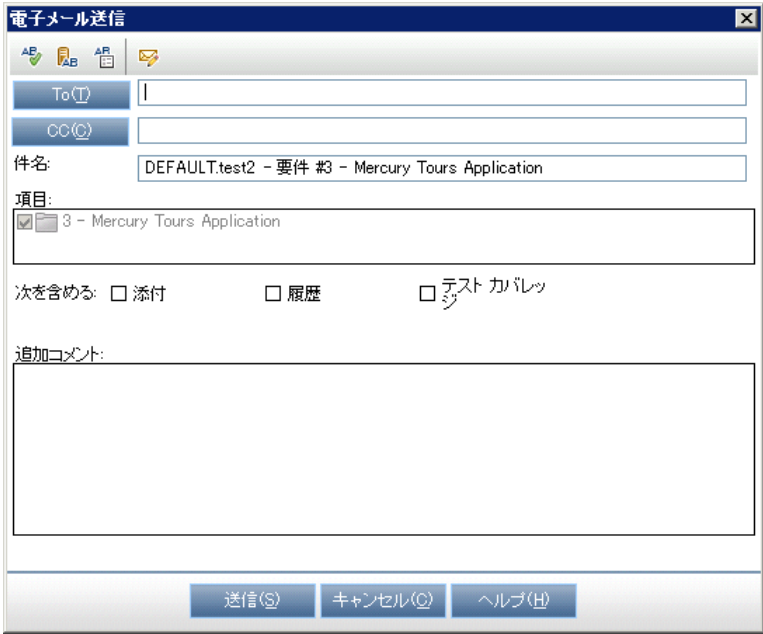
このタブでは、エンティティの更新日時および更新者の名前が表示されます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	グリッドに表示されているすべての変更を展開または折りたたみます。
【フィールド】	グリッドに表示するフィールドを指定します。すべてのフィールドに加えられた更新を表示するには、【<すべて>】を選択します。
【フィールド名】	変更時に変更が加えられたフィールド。
【新規値】	現在のフィールドの値。
【古い値】	以前のフィールドの値。

[電子メール送信] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、エンティティに関する電子メールをほかのユーザに送信できます。電子メールのメッセージにはリンクが含まれており、電子メールの受信者はそのリンクによってエンティティに直接アクセスできます。



電子メール送信

To (T) |

CC (C) |

件名: DEFAULT.test2 - 要件 #3 - Mercury Tours Application


項目:

3 - Mercury Tours Application



次を含める: 添付 履歴 テスト カバレッジ



追加コメント:

送信 (S) キャンセル (C) ヘルプ (H)

<p>アクセス方法</p>	<p>1 つ以上のエンティティを選択します。[電子メールを送信] の矢印  をクリックし、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [電子メールで送信]: リストから選択した宛先に電子メールを送信します。 ▶ [<特定の宛先>に電子メールで送信] : 特定の宛先に電子メールを送信します。たとえば、要件モジュールで [作成者に電子メールで送信] を選択すると、その要件を作成したユーザ宛に電子メールが送信されます。
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ デフォルトでは、電子メールは HTML 形式で送信されます。電子メールを普通のテキストで送信するには、サイト管理の [サイト設定] タブで MAIL_FORMAT パラメータを編集します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ デフォルトでは、電子メール・メッセージに含まれるエンティティへのリンクには、デフォルト・メール・サーバのホスト名とポート番号を使用したパスが含まれます。リンクのパスを異なるメール・サーバに変更するには、サイト管理の [サイト設定] タブで、ENTITY_LINK_HOST および ENTITY_LINK_PORT パラメータを編集します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ ヒント : 電子メールが特定のユーザ・タイプに自動的に送信されるように設定できます。ユーザ・タイプの条件には、ユーザ定義のフィールドを含め、ユーザ名の値を含む任意のカラムを指定できます。[電子メールで送信] ボタンの矢印をクリックし、オプションを選択します。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

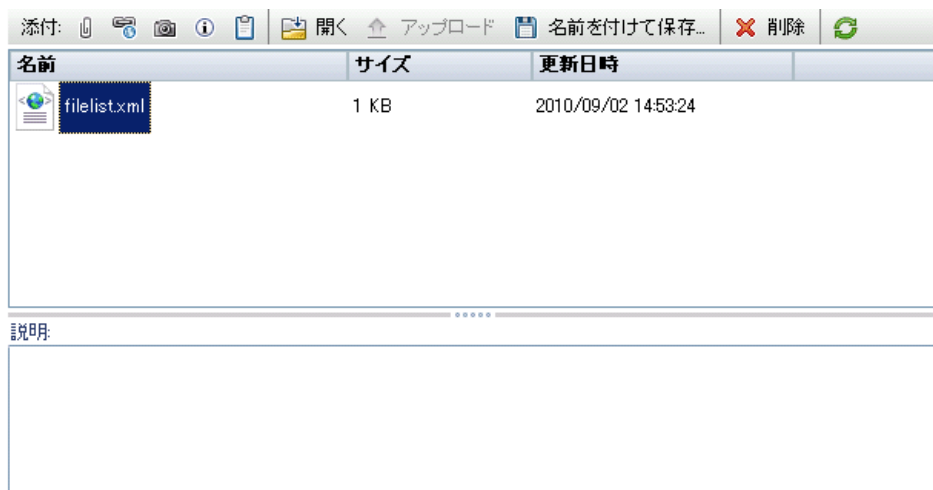
UI 要素	説明
	<p>[スペル チェック] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[スペル オプション] : スペル・チェックの方法を設定できます。</p>


UI 要素	説明
	<p>[類語辞典]：選択した単語の類義語，反義語，または関連する単語が表示されます。</p>
	<p>[カスタム]：[フィールドの選択] ダイアログ・ボックスが開き，電子メールに表示するフィールドを指定できます。詳細については，「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
<p>[追加コメント]</p>	<p>電子メールに関するコメントを追加できます。</p> <p>テキスト・ボックス内でクリックすると，テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>
<p>[次を含める]</p>	<p>次を含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [アクティビティ]：(ビジネス・モデル・モジュールからのみ使用可能) ▶ [添付] ▶ [デザイン ステップ]：(テスト計画モジュールからのみ使用可能) ▶ [履歴] ▶ [リンク関係]：(ビジネス・モデル・モジュールからのみ使用可能) ▶ [パス]：(ビジネス・モデル・モジュールからのみ使用可能) ▶ [スナップショット]：(ビジネス・コンポーネント・モジュールからのみ使用可能) ▶ [テスト カバレッジ]：(要件モジュールからのみ使用可能) ▶ [追跡済み要件]：(要件モジュールからのみ使用可能) <p>注：[次を含める] オプションは，テスト・リソース・モジュールからは使用できません。</p>
<p>[項目]</p>	<p>エンティティ名。</p>
<p>[送信]</p>	<p>指定した配布リストに電子メールを送信します。</p>

UI 要素	説明
[件名]	電子メールのサブジェクト。 [標準設定値] ：ドメイン、プロジェクト、エンティティ ID (あれば)、エンティティ名が表示されます。
[To] / [CC]	有効な電子メール・アドレスまたはユーザ名を示します。あるいは、 [To] ボタンまたは [CC] ボタンをクリックし、送信先のユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択します。



[添付] ページ

このページでは、添付ファイルを ALM レコードに追加して管理できます。ファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、クリップボードのアイテム、またはシステム情報を添付できます。








名前	サイズ	更新日時
 filelist.xml	1 KB	2010/09/02 14:53:24

説明:

アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ツールバーの [添付ファイル] ボタン  をクリックします。 ▶ ダイアログ・ボックスのサイドバーの [添付ファイル] ボタンをクリックします。 ▶ [添付ファイル] タブをクリックします。
重要な情報	<p>添付ファイルを追加すると、添付ファイル・アイコン  がレコードに追加されます。</p>
関連タスク	<p>「添付ファイルの変更方法」(57 ページ)</p>

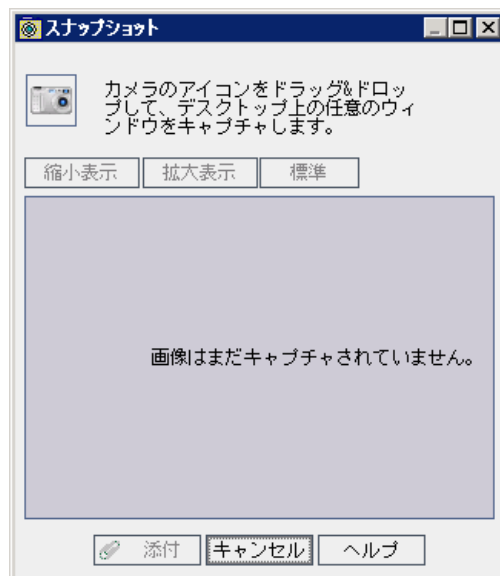
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。



UI 要素	説明
	<p>[ファイル] : [開く] ダイアログ・ボックスが開き、ファイルを ALM レコードに添付できます。</p>
	<p>[URL] : [URL の添付] ダイアログ・ボックスが開き、URL を ALM レコードに添付できます。HTTP, FTP, Gopher, News, Mailto, または File など、有効な任意の URL スキームを添付 URL に使用できます。</p>
	<p>[スナップショット] : [スナップショット] ダイアログ・ボックスが開き、アプリケーションの画像を ALM レコードに添付できます。詳細については、「[スナップショット] ダイアログ・ボックス」(89 ページ) を参照してください。</p> <p>スナップショットの添付ファイルには、拡張子 .jpg が割り当てられます。</p>
	<p>[システム情報] : [システム情報] ダイアログ・ボックスが開き、自分のマシンのシステム情報を ALM レコードに添付できます。</p> <p>システム情報の添付ファイルには、拡張子 .tsi が割り当てられます。</p>
	<p>[クリップボード] : クリップボードの内容を ALM レコードに添付します。</p> <p>クリップボードにテキスト文字列または画像をコピーして、[クリップボード] ボタンをクリックします。テキスト文字列には、拡張子 .txt が割り当てられます。画像には、拡張子 .jpg が割り当てられます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[ダウンロードして開く]: 選択した添付ファイルをクライアント・マシンのローカル・ディレクトリにダウンロードし、関連付けられたアプリケーションで開きます。開いた添付ファイルは表示または変更ができません。</p>
	<p>[選択項目のアップロード]: 添付ファイルを ALM プロジェクトにアップロードします。詳細については、「添付ファイルの変更方法」(57 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[添付の保存]: 選択した添付ファイルのコピーをクライアント・マシンに保存します。</p>
	<p>[選択項目の削除]: 選択した添付ファイルを削除します。複数の添付ファイルを選択するには、CTRL キーを使用します。</p>
	<p>[全て更新]: ページ上の添付ファイルのリストを更新します。</p>
<p>[説明]</p>	<p>添付ファイルの説明。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>
<p>[更新日時]</p>	<p>添付ファイルが最後に変更された日時。</p>
<p>[名前]</p>	<p>添付ファイルの名前。添付ファイルに関連付けられているアプリケーションのアイコンが、名前の横に表示されます。添付ファイルの名前を変更するには、右クリックして [名前の変更] を選択します。</p>
<p>[サイズ]</p>	<p>添付ファイルのサイズ。</p>


[スナップショット] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、アプリケーションの画像をキャプチャして、ALM レコードに添付できます。



アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [添付ファイル] ページで、[スナップショット] ボタン  をクリックします。 ▶ ビジネス・コンポーネント・モジュールで、[スナップショット] タブをクリックし、[スナップショット] ボタン  をクリックします。
---------------	--

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

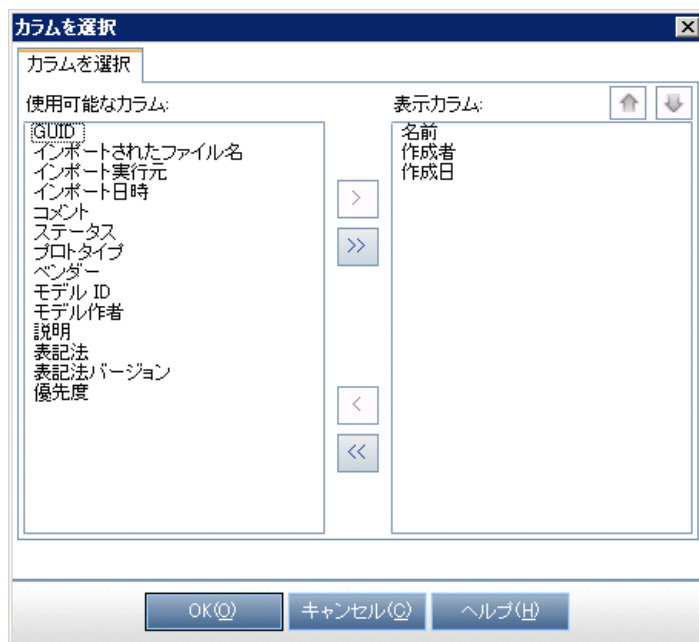
UI 要素	説明
	キャプチャ対象オブジェクトに、カメラ・アイコンをドラッグします。
<画像領域>	キャプチャした画像が表示されます。

UI 要素	説明
[添付]	スナップショットを ALM レコードに追加します。
[標準]	キャプチャされた画像のオリジナルの表示倍率レベルに復元します。
[ズーム イン]	キャプチャした画像を拡大表示します。
[ズーム アウト]	キャプチャされた画像の表示倍率レベルを縮小します。

[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス




[カラムを選択] ダイアログ・ボックスでは、ALM に表示するカラムとその順序を指定できます。


[フィールドの選択] ダイアログ・ボックスでは、ほかのユーザにエンティティに関する電子メールを送信する際に表示するフィールドを指定できます。



アクセス方法	<p>〔カラムを選択〕 ダイアログ・ボックス：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 〔表示〕 > 〔カラムを選択〕 を選択します。 ▶ 実行グリッドで, 〔テスト〕 > 〔カラムの選択〕 を選択します。 <p>〔フィールドの選択〕 ダイアログ・ボックス：</p> <p>〔電子メール送信〕 ダイアログ・ボックスで, 〔カスタム〕 ボタンをクリックします。</p>
重要な情報	Quality Center Starter Edition では, 一部のフィールドおよび機能が使用できません。
関連タスク	「ALM のデータの表示方法」(55 ページ)

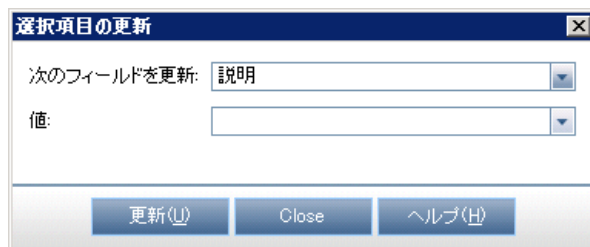
次に, ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>〔表示カラム〕 に表示されるカラム名の順序を設定します。</p> <p>ヒント：カラム名をドラッグして上または下に移動することもできます。</p>
	<p>選択したフィールドを, 〔使用可能なカラム〕 と 〔表示カラム〕 の間で移動します。</p> <p>ヒント：表示枠の間でフィールド名をドラッグしたり, フィールド名をダブルクリックしてほかの表示枠にフィールドを移動したりすることもできます。</p>
	すべてのフィールドを, 〔使用可能なカラム〕 と 〔表示カラム〕 の間で移動します。
〔使用可能なカラム〕	現在表示されていないカラムのリストが表示されます。
〔リスク ベース品質管理のフィールドを隠す〕	<p>〔使用可能なカラム〕 リストで, リスク・ベース品質管理に関する要件フィールドを非表示にします。</p> <p>注：要件モジュールでのみ使用できます。</p>
〔要件タイプ〕	<p>〔使用可能なカラム〕 リストで, 選択した要件タイプに関する要件フィールドを表示します。</p> <p>注：要件モジュールでのみ使用できます。</p>

UI 要素	説明
[タイプ]	[使用可能なカラム] リストで、選択したテスト・タイプに関するテスト・フィールドを表示します。 注: テスト計画モジュールおよびテスト・ラボ・モジュールでのみ使用できます。
[表示カラム]	現在表示されているカラムのリストが表示されます。 注: アイコン  が表示されているカラムは、[表示カラム] リストから削除できません。

[選択項目の更新] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、グリッドまたはツリーで複数のレコードのフィールド値を更新できます。



アクセス方法	選択した複数のレコードを右クリックして、[選択項目の更新]を選択します。 要件、テスト計画 (テスト・グリッドのみ)、不具合の各モジュールから使用可能です。
関連タスク	「レコードの置換」(58 ページ)
参照項目	「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[更新]	更新された値の数と、値が更新されなかったインスタンスの数を示します。
[次のフィールドを更新]	更新するフィールドを示します。
[値]	選択したフィールドの置換後の値。

第4章

警告およびフラグ

本章の内容

概念

- ▶ 「警告の概要」(96 ページ)
- ▶ 「フォローアップ・フラグの概要」(98 ページ)

タスク

- ▶ 「警告の使用方法」(99 ページ)

リファレンス

- ▶ 「警告およびフラグのユーザ・インタフェース」(104 ページ)

概念

警告の概要

要件、テスト、または不具合に変更があった場合に、HP Application Lifecycle Management (ALM) では関連するエンティティを警告し、関連するエンティティの担当者に通知できます。ALM プロジェクト管理者は、要件、テスト、不具合の間で作成した関連に基づいて、警告ルールをアクティブ化できます。ALM における警告ルールは、ユーザが作成する次の関連付けに基づいて設定されます。

- ▶ テスト計画ツリー内のテストと要件を関連付けることができます。この関連付けは、テスト計画モジュールで**要件カバレッジ**を作成するか、または要件モジュールで**テスト・カバレッジ**を作成することによって行います。詳細については、「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ) を参照してください。
- ▶ テスト・インスタンスと不具合を関連付けることができます。この関連付けは、テスト計画モジュールで**リンクされている不具合**を作成するか、または手動テスト実行時に不具合を追加することによって行います。詳細については、「不具合のリンク」(829 ページ) を参照してください。
- ▶ 要件モジュールで、要件間の**トレーサビリティ・リンク**を作成できます。詳細については、「要件トレーサビリティの概要」(368 ページ) を参照してください。

プロジェクト内に関連付けを作成すると、関連付けを使用して変更を追跡できます。プロジェクト内のエンティティに変更が加えられると、その変更の影響を受ける可能性のある、関連付けられているエンティティが警告されます。警告は、すべてのユーザが見ることができます。その変更の影響を受ける可能性のある関連するエンティティについて、変更発生時にエンティティの担当者に通知が送られます。

ツリー・ビューまたはグリッド・ビューの [警告] カラムで、警告フラグが示す内容は次のとおりです。

- ▶ 赤の警告フラグ **!** は、新規の警告であることを表します。
- ▶ グレーの警告フラグは、既読の警告であることを表します。

バージョン管理：新しいバージョンがチェックインされたときのみ、ALMによって関連するエンティティが警告されます。警告は、バージョン・ステータスが **[チェックイン]** に変更されたことを示します。どのフィールドが変更されたかは示しません。次に、新しいバージョンを以前のバージョンと比較できます。バージョンの比較の詳細については、「[バージョンおよびベースライン] タブ - バージョン・ビュー」(135 ページ) を参照してください。

注：エンティティがチェックアウトされている間、バージョン管理されていないフィールドへの変更により引き続き通常の警告が生成され、変更されたフィールドを示します。バージョン管理されていないフィールドの詳細については、「バージョン管理されないフィールド」(125 ページ) を参照してください。

ALM プロジェクト管理者は、次に示す 4 種類の警告ルールを有効にできます。

ルール	説明	フラグの立てられたエンティティ	電子メールで通知されるユーザ
1	要件が変更されると、関連するテストが警告されます。 注 ：要件に対する変更は、 [直接カバレッジステータス] フィールドおよびリスク・ベース品質管理フィールドに対する変更を除く、すべての変更が対象となります。	要件をカバーするテスト。	テスト設計者。
2	不具合ステータスが「修正済み」に変更された場合に、関連するテスト・インスタンスが警告されます。	不具合に関連するテスト・インスタンス。	テスト・インスタンスのテスト責任者。


第4章・警告およびフラグ

ルール	説明	フラグの立てられたエンティティ	電子メールで通知されるユーザ
3	テストの実行が成功した場合（ステータスが「成功」に変更）、リンクされている不具合が警告されます。	テスト実行にリンクされている不具合。	不具合に割り当てられているユーザ。
4	要件が変更または削除される場合、トレース終了要件および子要件が警告されます。	要件の子要件およびトレース終了要件。	要件の作成者。

[プロジェクトのカスタマイズ] における警告ルールの有効化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

警告の使用の詳細については、「警告の使用方法」（99 ページ）を参照してください。

フォローアップ・フラグの概要

フォローアップ・フラグ  を特定の要件、テスト、テスト・インスタンス、または不具合に追加して、問題をフォローアップすることができます。たとえば、1 週間以内にステータスを確認する必要がある不具合があれば、そのことを忘れないようフォローアップ・フラグを設定できます。

フォローアップ・フラグを追加すると、灰色のフラグのアイコンがレコードに追加されます。フォローアップ処理の設定日が到来すると、ALM によって電子メールによる通知が送信され、フラグのアイコンは赤色に変わります。

フォローアップ・フラグは、ユーザのログイン名に固有のものです。ほかのユーザがレコードを表示しても、フォローアップ・フラグは見えません。フォローアップ・フラグは、いつでも開いて詳細を確認または変更できます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」（106 ページ）を参照してください。

タスク

警告の使用方法

このタスクでは、自動通知警告を使用して、要件、テスト、不具合に対する変更を追跡する方法を説明します。

警告の詳細については、「警告の概要」(96 ページ) を参照してください。

ヒント: このタスクに関連するユースケース・シナリオについては、「警告の使用方法 - ユースケース・シナリオ」(100 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。


- ▶ 「前提条件」(99 ページ)
- ▶ 「警告の表示」(99 ページ)
- ▶ 「警告のクリア」(100 ページ)

1 前提条件

プロジェクトの警告ルールがアクティブ化されていることを確認します。プロジェクト管理者によってアクティブ化された警告ルールにより、プロジェクトへの変更が発生した際に、ALM から担当者に通知の電子メールが送信されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2 警告の表示

単一レコード、またはモジュール内の全レコードの警告を表示します。


レコードの警告の表示: ツリー・ビューまたはグリッド・ビューで、[警告] カラムの警告フラグ  をクリックします。このカラムが表示されていない場合は、[表示] > [インジケータ カラム] を選択します。[警告] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。

モジュールの警告の表示：選択したモジュールのすべての警告のリストを表示するには、[フィルタ] ダイアログ・ボックス > [クロス・フィルタ] タブで、[<エンティティ>を警告とともに表示] オプションを選択します。[フィルタ] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。

3 警告のクリア

単一レコード、またはモジュール内の全レコードの警告をクリアします。

レコードの警告のクリア：[警告] ダイアログ・ボックスでは、選択したレコードに対して、個々の警告またはすべての警告をクリアできます。

- ▶ 単一の警告をクリアするには、その警告の [警告をクリア]  をクリックします。
- ▶ レコードのすべての警告をクリアするには、[全てクリア] ボタンをクリックします。

[警告] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。

モジュールの警告のクリア：ALM モジュールのすべてのレコードに関連付けられているすべての警告をクリアできます。

- ▶ 要件、テスト計画、または不具合モジュールで、[編集] > [警告をクリア] を選択します。
- ▶ テスト・ラボ・モジュールで、[テスト] > [警告をクリア] を選択します。

現在のフィルタに一致するレコードに関連付けられている警告だけがクリアされません。また、クリアできるのは、自身に割り当てられている警告と、ユーザに割り当てられていない警告だけです。警告が割り当てられているユーザとは、警告の発生時に電子メール通知が送信されるユーザのことです。このユーザは警告に対する [警告] ダイアログ・ボックスに表示されます。警告ルールおよび電子メール通知を送信されるユーザの詳細については、「警告の概要」(96 ページ) を参照してください。

警告の使用方法 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、ALMで警告を操作する例を示します。

注：このシナリオに関連するタスクについては、「警告の使用方法」(99 ページ) を参照してください。

ここでは、Mercury Tours アプリケーションに基づいた **ALM_Demo** プロジェクトを使用していると仮定します。[プロジェクトのカスタマイズ] で、プロジェクト管理者が最初のルール「要件に変更があった場合、関連付けのあるテストに警告します。」を有効にします。さらに、プロジェクト管理者は通知が電子メールで送信されるように設定します。

要件モジュールで、QA マネージャが「**Page Download Time**」([アプリケーションのパフォーマンス] の下) という要件を設定します。

次に、テスト計画モジュールで、QA マネージャがこの要件に対応する、「**Connect_Site_Stress**」という新規のテストを「**Mercury Tours Site**」 > 「**Welcome Page**」の下に作成します。[詳細] タブで、プロジェクト管理者は、この新規のテストを Cecil という設計者に割り当てます。

The screenshot displays the ALM_Demo application interface. The left pane shows a tree view of the project structure, with 'Connect_Site_Stress' selected under 'Mercury Tours Site' > 'Welcome Page'. The right pane shows the configuration for this test.

Test Configuration:

- *タイプ: MANUAL
- *テスト名: Welcome Page
- ステータス: Design
- テスト ID: 62
- バージョン: 1
- 作成日: 2010/08/01
- 設計者: cecil_alm

Summary:

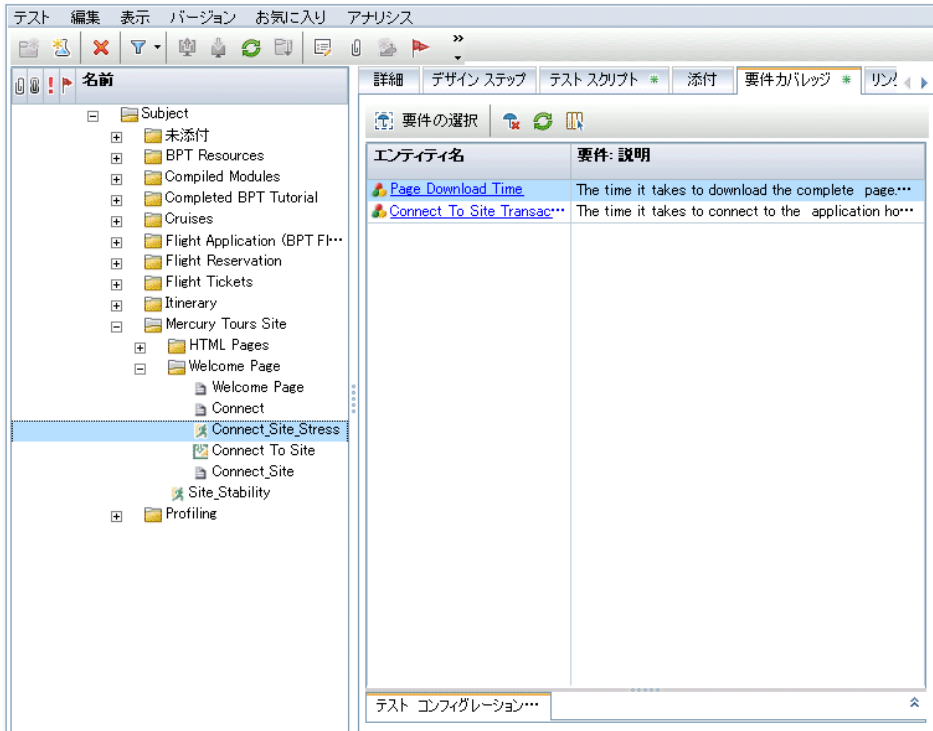
The test verifies the user interface of the Welcome page.

Description:

The test is composed of the following stages:

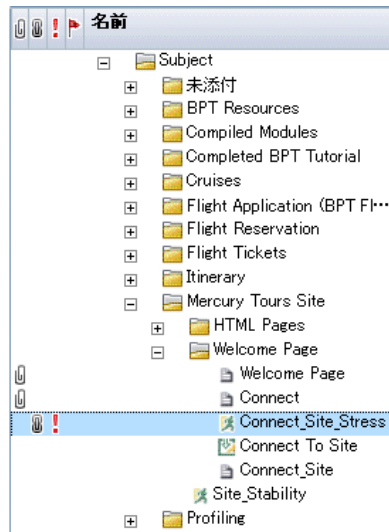
1. Connection to Mercury Tours application.
2. Execution of the standard web page verifications.
 - To understand standard web page verifications, please refer to the called test description.

[要件カバレッジ] タブで、QA マネージャは **Connect_Site_Stress** テストを **Page Download Time** という要件にリンクします。



QA テスト担当者の Mike は、**Page Download Time** 要件を確認し、10 秒というページのダウンロード時間は長すぎると判断します。Mike は要件の詳細を 7 秒に変更します。その結果、Cecil は **Connect_Site_Stress** というテストが変更後の要件に合致するようテストを調整する必要が生じます。

ルールが有効になっている場合、Mike が要件に変更を加えたことで、この要件に関連付けられているテストにフラグが設定されます。この警告は、テストの担当設計者である Cecil およびほかのすべてのプロジェクト・ユーザが見ることができます。



警告フラグをクリックすると、[警告] ダイアログ・ボックスに変更内容の詳細が表示されます。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。

さらに Cecil (テストの設計者) は、**Page Download Time** 要件に加えられた Mike による変更の説明と、Cecil が関連付けられている **Connect_Site_Stress** テストを確認することを勧める、ALM による自動通知電子メールを受け取ります。Cecil はリンクをクリックして ALM を開き、指定された要件またはテストを表示できます。

リファレンス

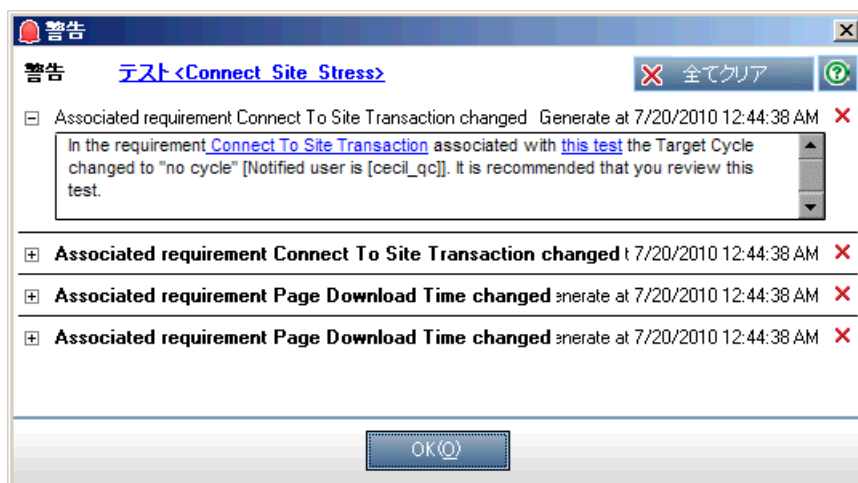
警告およびフラグのユーザ・インタフェース


本項の内容

- ▶ 「[警告] ダイアログ・ボックス」 (104 ページ)
- ▶ 「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」 (106 ページ)



[警告] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択したレコードの警告のリストを表示できます。



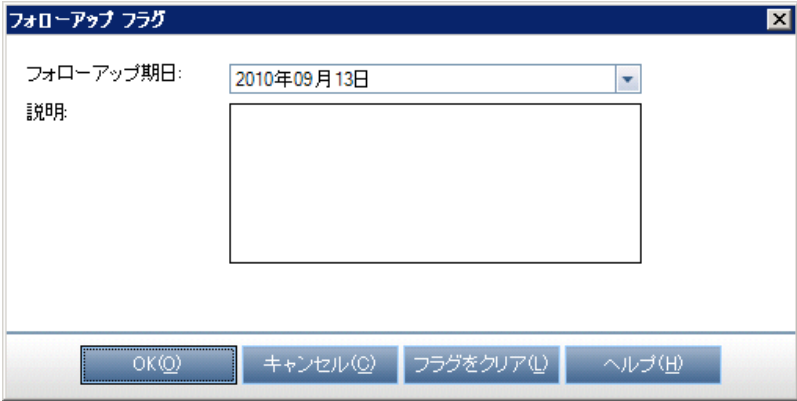
アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ツリー・ビューまたはグリッド・ビューで、[警告] カラムの警告フラグ  をクリックします。このカラムが表示されていない場合は、[表示] > [インジケータ カラム] を選択します。 ▶ エンティティを右クリックし、[警告] を選択します。 <p>次のエンティティに対して使用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 要件 ▶ テスト計画モジュールのテスト ▶ 実行グリッドのテスト・インスタンス ▶ 不具合
重要な情報	<p>クリアできるのは、自身に割り当てられている警告と、いずれのユーザにも割り当てられていない警告だけです。警告が割り当てられているユーザとは、警告の発生時に電子メール通知が送信されるユーザのことです。詳細については、「警告の概要」(96 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	「警告の使用方法」(99 ページ)
参照項目	「警告の概要」(96 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	レコードのすべての警告を削除します。
	[警告のクリア] ：特定の警告を削除します。
< [警告詳細] 表示枠 >	<p>選択したレコードの警告のリストを表示します。</p> <p>警告を展開して、警告のトリガとなった変更の詳細を表示します。</p> <p>リンクをクリックすると、ツリーまたはグリッドでその項目が強調表示されます。</p>
< 選択したレコード >	<p>選択したレコードのタイプと名前を表示します。たとえば、「要件 <Travel Guides> の警告」などです。</p>

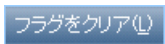
[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、問題をフォローアップするフォローアップ・フラグの作成、表示、変更ができます。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ レコードを右クリックし、フォローアップ・フラグを選択します。 ▶ 既存のフラグを表示または変更するには、ツリー・ビューまたはグリッド・ビューで、[フォローアップ・フラグ] カラムのフラグ・アイコン  をクリックします。このカラムが表示されていない場合は、[表示] > [インジケータ カラム] を選択します。 <p>次のエンティティに対して使用可能です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 要件 ▶ テスト計画モジュールのテスト ▶ 実行グリッドのテスト・インスタンス ▶ 不具合
<p>参照項目</p>	<p>「フォローアップ・フラグの概要」(98 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	フォローアップ・フラグを削除します。
【説明】	ALM から送信されるフォローアップ電子メールの通知テキスト。
【フォローアップ期日】	ALM からフォローアップ電子メールが送信される日付。

第 5 章

お気に入りビュー

本章の内容

概念

- ▶ 「お気に入りビューの概要」(110 ページ)

タスク

- ▶ 「お気に入りビューの使用方法」(111 ページ)

リファレンス

- ▶ 「お気に入りビューのユーザ・インタフェース」(113 ページ)

概念

お気に入りビューの概要

特定の設定を選択することにより、HP Application Lifecycle Management (ALM) ウィンドウの表示方法を指定できます。たとえば、グリッドのカラムへのフィルタの適用、グリッドのフィールドの並べ替えなどの設定があります。このビューを [お気に入りビュー] として保存し、後で再ロードおよび再使用ができます。

ほかのユーザがお気に入りビューにアクセスできるかどうかを、公開フォルダまたは非公開フォルダのいずれかに保存することによって決定します。公開フォルダ内のビューには、すべてのユーザがアクセスできます。非公開フォルダ内のビューには、その作成者だけがアクセスできます。

サブフォルダを作成して、お気に入りビューを整理できます。たとえば、異なる製品、リリース、チームごとのフォルダを作成できます。

お気に入りビューを使って作業する場合は、次の点を考慮します。

- ▶ お気に入りビューは、ビューが作成されるモジュールに対して一意です。たとえば、不具合モジュール内の [お気に入り] メニューには、不具合モジュールに対して作成されたお気に入りビューのみが含まれます。
- ▶ お気に入りビューには、グリッド・ビューやツリー・ビューなど、お気に入りビューを作成した際のモジュール・ビュー設定が含まれます。たとえば、お気に入りビューをテスト計画ツリー・ビューで作成し、そのお気に入りをテスト・グリッド・ビューからロードした場合、ALM はテスト計画ツリー・ビューに切り替えられます。

これに対し、要件グリッド・ビューを除く要件モジュール・ビューでは、お気に入りビューが共有されます。たとえば、お気に入りビューを要件の詳細ビューで作成し、そのお気に入りをカバレッジ・アナリシス・ビューでロードした場合は、要件の詳細ビューには切り替えられません。

一部のお気に入りビュー・コマンドには、特定のユーザ・グループのみがアクセスできます。ユーザ・グループの権限の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』のを参照してください。

お気に入りビューの使用の詳細については、「お気に入りビューの使用方法」(111 ページ)を参照してください。

タスク

お気に入りビューの使用方法

このタスクでは、ALM プロジェクトでお気に入りビューを使用して作業する方法を説明します。

お気に入りビューの詳細については、「お気に入りビューの概要」(110 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- ▶ 「お気に入りビューの追加」(111 ページ)
- ▶ 「お気に入りビューのロード」(112 ページ)
- ▶ 「お気に入りビューの更新」(112 ページ)
- ▶ 「お気に入りビューの整理」(112 ページ)

お気に入りビューの追加

ニーズに合わせて ALM ウィンドウの配列を変更し、お気に入りビューとして保存します。

- 1 特定の設定を選択することにより、ALM ウィンドウの表示方法を指定できます。たとえば、グリッドのカラムへのフィルタの適用、グリッドのフィールドの並べ替えなどが行えます。ALM データを表示するタスクの詳細については、「ALM のデータの表示方法」(55 ページ) を参照してください。
- 2 **[お気に入り]** > **[お気に入りに追加]** を選択します。**[追加お気に入り]** ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「**[追加お気に入り]** ダイアログ・ボックス」(113 ページ) を参照してください。

お気に入りビューのロード

最近使用したお気に入りビューを選択するか、公開フォルダまたは非公開フォルダからビューを選択することによって、ALM で既存のビューをロードします。

- ▶ **最近使用したお気に入りビューのロード** : [お気に入り] メニューを開いてビューを選択します。

注 : デフォルトでは、最近使用したビューが 4 つ [お気に入り] メニューに表示されます。「サイト管理」の [サイト設定] タブで **FAVORITES_DEPTH** パラメータを設定することによって、メニューに表示するビューの数を定義できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

- ▶ **お気に入りビューのロード** : [お気に入り] > [非公開] または [お気に入り] > [公開] を選択し、ビューを選択します。

お気に入りビューの更新

既存のお気に入りビューの設定を更新できます。

- 1 [お気に入り] メニューからお気に入りビューを読み込みます。
- 2 ビューに変更を加えます。
- 3 [お気に入り] > [お気に入りに追加] を選択します。[追加お気に入り] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 4 [お気に入り] リストで、ビュー名を選択して [OK] をクリックします。
- 5 以前の設定を上書きするには、[OK] をクリックします。

お気に入りビューの整理

非公開または公開フォルダのお気に入りビューの整理や、使用されていないビューの削除ができます。メニュー・バーで、[お気に入り] > [お気に入りの整理] を選択します。[整理お気に入り] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[整理お気に入り] ダイアログ・ボックス」(115 ページ) を参照してください。

リファレンス

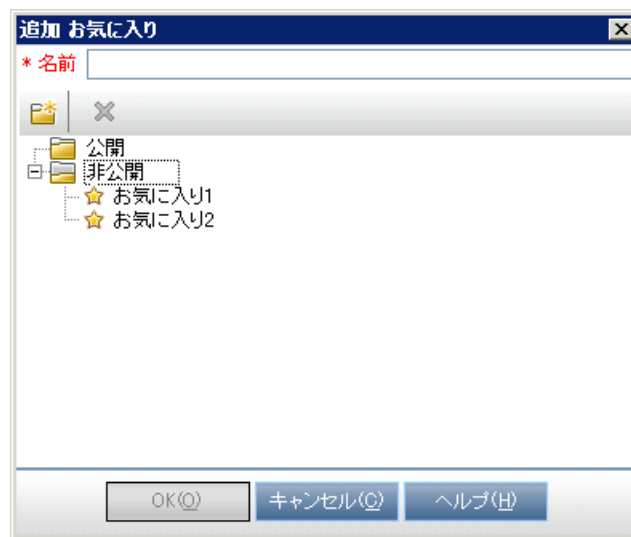
お気に入りビューのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 「[追加お気に入り] ダイアログ・ボックス」(113 ページ)
- ▶ 「[整理お気に入り] ダイアログ・ボックス」(115 ページ)

[追加お気に入り] ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスでは、お気に入りビューを非公開フォルダまたは公開フォルダに追加できます。



第 5 章・お気に入りビュー

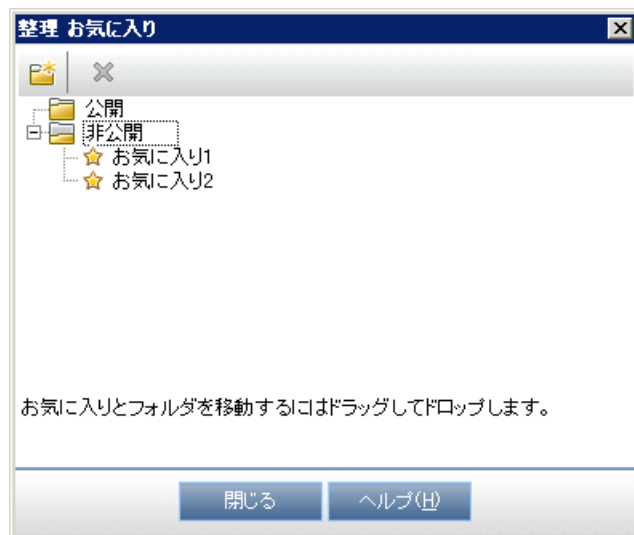
アクセス方法	メニュー・バーで、 「お気に入り」 > 「お気に入りに追加」 を選択します。 要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合の各モジュールから使用可能です。
関連タスク	「お気に入りビューの使用方法」(111 ページ)
参照項目	「お気に入りビューの概要」(110 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	【新規フォルダ】 : [新規お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、選択したフォルダの下に新しいフォルダを追加できます。
	【削除】 : 選択したお気に入りまたはフォルダを削除します。お気に入りフォルダを削除すると、そのサブフォルダやお気に入りビューも削除されます。
【名前】	お気に入りビューの名前。
【非公開】	このフォルダのお気に入りビューには、作成者のみがアクセスできます。 【非公開】 フォルダは削除できません。
【公開】	このフォルダのお気に入りビューには、プロジェクトのすべてのユーザがアクセスできます。 【公開】 フォルダは削除できません。

[整理お気に入り] ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスでは、非公開フォルダおよび公開フォルダのお気に入りビューのリストを整理できます。



アクセス方法	メニュー・バーで、[お気に入り] > [お気に入りの整理] を選択します。 要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合の各モジュールから使用可能です。
重要な情報	お気に入りビューをドラッグ・アンド・ドロップして、フォルダ間で移動できます。
関連タスク	「お気に入りビューの使用方法」(111 ページ)
参照項目	「お気に入りビューの概要」(110 ページ)

第 5 章・お気に入りビュー

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[新規フォルダ] : [新規お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、選択したフォルダの下に新しいフォルダを追加できます。
	[削除] : 選択したお気に入りまたはフォルダを削除します。お気に入りフォルダを削除すると、そのサブフォルダやお気に入りビューも削除されます。
[非公開]	このフォルダのお気に入りビューには、作成者のみがアクセスできます。 [非公開] フォルダは削除できません。
[公開]	このフォルダのお気に入りビューには、プロジェクトのすべてのユーザがアクセスできます。 [公開] フォルダは削除できません。
[名前の変更]	お気に入りビューまたはフォルダを右クリックし、 [名前の変更] を選択します。 [非公開] フォルダや [公開] フォルダの名前は変更できません。

第 6 章

バージョン管理

本章の内容

概念

- ▶ 「バージョン管理の概要」 (118 ページ)

タスク

- ▶ 「バージョン管理の使用方法」 (120 ページ)
- ▶ 「バージョン管理フィールドによるフィルタリングの方法」 (124 ページ)

リファレンス

- ▶ 「バージョン管理されないフィールド」 (125 ページ)
- ▶ 「バージョン管理のユーザ・インタフェース」 (126 ページ)

概念

バージョン管理の概要



バージョン管理を有効にしたプロジェクトでは、HP Application Lifecycle Management (ALM) エンティティを作成および管理しながら、これらのエンティティの以前のバージョンを維持できます。これには、要件、テスト、テスト・リソース、ビジネス・プロセス・モデル、ビジネス・コンポーネントが含まれます。

バージョン管理を有効にしたプロジェクトでエンティティに変更を加えるには、最初にエンティティをチェックアウトする必要があります。エンティティをチェックアウトすると、ALMによりエンティティがロックされ、加えた変更をほかのユーザが上書きするのを防ぐことができます。エンティティのチェックアウトしたバージョンは、ほかのユーザには表示されません。

変更を加え終わったら、エンティティをチェックインします。これで、エンティティの新しいバージョンを、ほかのユーザが利用できるようになります。

エンティティの以前のバージョンをすべて表示したり、または以前のバージョンをチェックアウトしたりできます。また、エンティティの2つのバージョンを比較してバージョン間の変更内容を表示できます。

注： ユーザビリティおよびデータの完全性を維持するために、ALM では、ほとんどのデータがエンティティ間の関係に関係なく、エンティティの以前のバージョンが保存されます。要件およびテスト・カバレッジ、要件トレーサビリティ、および不具合のリンクのデータは、以前のバージョンについては保存されません。また、リスク・データもエンティティの以前のバージョンについては保存されません。

バージョン管理を有効にしたプロジェクトでのエンティティの作成および管理は、ツリー・ビューとグリッド・ビューの両方で行えます。ツリー・ビューでは、現在のユーザによってチェックアウトされたエンティティは、開いた緑色の鍵のアイコン  で表示されます。ほかのユーザによってチェックアウトされたエンティティは、赤色の鍵のアイコン  で表示されます。グリッド・ビューには、[バージョンのステータス] など追加のバージョン管理フィールドが表示され、エンティティがチェックインされているか、チェックアウトされているかを示します。

バージョン管理で保存されない ALM フィールドの詳細については、「バージョン管理されないフィールド」(125 ページ) を参照してください。

バージョン管理の使用方法の詳細については、「バージョン管理の使用方法」(120 ページ) を参照してください。

例

次の例は、バージョン管理を使用できるタイミングを示します。

▶ 変更内容の監視とバージョンの比較

製品マネージャの Kelly は、予期していない方法で製品開発が行われていることに気づきます。彼女は、製品の要件を確認して一部が変更されていることを見つけます。彼女は、現在の要件をリリースの最初に合意した要件のバージョンと比較します。

▶ 前バージョンの復元

QA テスト担当者の Michael は、現在開発中の銀行アプリケーションの新しいビルドを受け取ります。彼は、新しいリリースのニーズを満たすために関連するテストの更新を開始します。次に、開発チームがビルドに関する重要な問題について通知します。開発は以前のビルドにロールバックされます。Michael は、チェックアウトして以前のビルドに使用したテストのバージョンに戻し、そこからテストを続けることに決定します。

▶ 編集のためのエンティティのロック

ビジネス・アナリストの Robert は、アプリケーションの特定の機能を更新したいと考えています。このためには、一連の要件を更新する必要があります。要件を更新するには数日が必要で、編集中は、ほかのユーザに要件を変更してほしくないと考えています。Robert は関連する要件をチェックアウトして編集を開始します。

タスク

バージョン管理の使用方法

このタスクでは、ALM プロジェクトでバージョン管理を使用して作業する方法を説明します。バージョン管理により、ALM エンティティを作成および管理しながら、これらのエンティティの以前のバージョンを維持できます。

バージョン管理の詳細については、「バージョン管理の概要」(118 ページ) を参照してください。

注：バージョン管理機能は、要件、ビジネス・モデル、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールで使用できます。

このタスクは次の手順で構成されています。

- ▶ 「前提条件」(121 ページ)
- ▶ 「エンティティのチェックアウト」(121 ページ)
- ▶ 「チェックアウトの取り消し - 任意」(121 ページ)
- ▶ 「エンティティのチェックイン」(122 ページ)
- ▶ 「すべてのチェックアウト済みエンティティの表示 - 任意」(122 ページ)
- ▶ 「バージョン履歴へのアクセス」(123 ページ)


1 前提条件

バージョン管理が有効になっていることを確認します。プロジェクトのバージョン管理の有効化に関する詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

2 エンティティのチェックアウト

バージョン管理を有効にしたプロジェクトでエンティティに変更を加えるには、エンティティをチェックアウトする必要があります。

次のいずれかを使用します。

- ▶ **自動チェックアウト**：エンティティの編集を開始すると、ALM の [チェックアウト] ダイアログ・ボックスが表示され、エンティティをチェックアウトできます。
[チェックアウト]ダイアログ・ボックスを表示せずに編集を開始したエンティティを自動的にチェックアウトするように ALM を設定するには、[チェックアウト]ダイアログ・ボックスで [次回から表示しない] を選択します。
- ▶ **手動チェックアウト**：1 つ以上のエンティティを選択します。モジュール・ツールバーで、[チェックアウト]  をクリックします。

[チェックアウト] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[チェックアウト] ダイアログ・ボックス」(131 ページ) を参照してください。


3 チェックアウトの取り消し - 任意

エンティティをチェックアウトした後で、変更をキャンセルするためにチェックアウトを取り消すことができます。エンティティを右クリックして[バージョン]>[チェックアウトの取り消し]を選択します。チェックアウト作業を元に戻すコマンドの詳細については、「[バージョン]メニューおよびボタン」(126 ページ) を参照してください。

4 エンティティのチェックイン


変更が終了したら、エンティティをチェックインして、ほかのユーザが利用できる新しい更新済みバージョンを作成します。

次のいずれかを使用します。

- ▶ **単一エンティティのチェックイン**：エンティティを右クリックして [バージョン] > [チェックイン] を選択します。
- ▶ **複数エンティティのチェックイン**：複数のエンティティを選択します。モジュール・ツールバーで、[チェックイン]  をクリックします。

[チェックイン] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[チェックイン] ダイアログ・ボックス」(130 ページ) を参照してください。

5 すべてのチェックアウト済みエンティティの表示 - 任意

現在のモジュールでチェックアウトしたすべてのエンティティを表示して、選択したエンティティのチェックイン、またはチェックアウトの取り消しができます。ALM ウィンドウの右上角にある [チェックイン] ボタン  をクリックします。[未チェックイン] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[未チェックイン] ダイアログ・ボックス」(132 ページ) を参照してください。

例：

ID	名前	バージョン	親	チェックアウト日	チェックアウト時間
179	Credit Card	1	Payment Methods	2010/09/13	21:55:56
264	Fail-Rate	1	Application Relia..	2010/09/13	21:56:00
151	Available Flights...	1	Flight Search	2010/09/13	21:57:31
175	Cancel Reservati...	1	Reservation Man...	2010/09/13	21:55:49
247	Application Perfo...	3	Mercury Tours A...	2010/09/13	21:57:07

6 バージョン履歴へのアクセス

エンティティの以前のバージョンを表示，比較，チェックアウトするには，エンティティを選択して [履歴] タブ > [バージョンおよびベースライン] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については，「[バージョンおよびベースライン] タブ - バージョン・ビュー」（135 ページ）を参照してください。

例：

名前

- Subject
 - 未添付
 - Compiled Modules
 - Completed BPT Tutorial
 - Cruises
 - Flight Application (BPT F...
 - Flight Reservation
 - Book Flight
 - Flight Confirmation
 - Flight Cost
 - Flight Finder
 - Select Flight
 - Flight Reservation (selected)
 - Flight_Reservation_...
 - Flight_Reservation
 - Itinerary
 - Mercury Tours Site
 - Profiling
 - Temp

要件カバレッジ リンクされている不具合 依存関係 ビジネス モデルリンク 履歴

バージョンおよびベースライン 監査ログ

表示バージョン: バージョン

バージョン	日付	更新者	ベ...
3	2010/09/13 21:07:03	alm_admin	
2	2010/09/09 16:30:03	test	
1	2010/09/09 15:55:50	test	ペ...

表示
比較
チェックアウト

選択したバージョンのコメント

バージョン管理フィールドによるフィルタリングの方法

このタスクでは、ALM データをフィルタリングして、要件、ビジネス・モデル、テスト計画、テスト・リソース、テスト・ラボの各モジュールでチェックアウトされたエンティティのみを表示する方法を説明します。次の表は、フィルタ条件の設定方法を示します。

フィルタの説明	テスト計画モジュール用の フィルタ条件	それ以外のモジュール用の フィルタ条件
ユーザ自身がチェックアウトしたエンティティすべての表示	[バージョンのステータス] = [チェックアウト], [バージョンの所有者] =<ユーザ名>	[バージョンのチェックアウト実行者] =<ユーザ名>
ほかのユーザがチェックアウトしたエンティティすべての表示	[バージョンのステータス] = [チェックアウト], [バージョンの所有者] =<ユーザ名>	[バージョンのチェックアウト実行者] =<ユーザ名>

フィルタの定義の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。

リファレンス

バージョン管理されないフィールド

バージョン管理を使用する場合、ALM エンティティの一部のフィールドに加えられた変更は、エンティティの以前のバージョンに保存されません。

次のフィールドへの変更は、バージョン管理では保存されません。

エンティティ	フィールド
要件	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [確認ステータス] ▶ [直接カバレッジステータス] ▶ [ターゲットリリース] ▶ [ターゲットサイクル] ▶ すべての [RBQM] フィールド
テスト	[実行ステータス]

バージョン管理を有効にしたプロジェクトでバージョン管理されていないフィールドを使って作業する場合は、次の点を考慮します。

操作	結果
チェックアウトの取り消し	エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに、新しい値が残ります。
以前のバージョンのチェックアウト	バージョン管理されていないフィールドの値は、現在チェックインされているバージョンの値になります。
以前のバージョンの表示および比較	バージョン管理されていないフィールドは、[バージョン管理されないフィールド] の値とともに表示されます。

バージョン管理のユーザ・インタフェース

本項の内容



- ▶ 「[バージョン] メニューおよびボタン」 (126 ページ)
- ▶ 「バージョン管理フィールド」 (127 ページ)
- ▶ 「[チェックイン] ダイアログ・ボックス」 (130 ページ)
- ▶ 「[チェックアウト] ダイアログ・ボックス」 (131 ページ)
- ▶ 「[未チェックイン] ダイアログ・ボックス」 (132 ページ)
- ▶ 「[バージョンおよびベースライン] タブ - バージョン・ビュー」 (135 ページ)

[バージョン] メニューおよびボタン

[バージョン] メニューおよびバージョン管理ツールバーは、バージョン管理が有効なプロジェクトで使用可能です。

アクセス方法	要件、ビジネス・モデル、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールのメニュー・バーまたはツールバーから使用できます。
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」 (120 ページ)
参照項目	「バージョン管理の概要」 (118 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 [チェックイン]	[チェックイン] ダイアログ・ボックスが開き、選択したエンティティをチェックインできます。詳細については、「[チェックイン] ダイアログ・ボックス」 (130 ページ) を参照してください。
 [チェックアウト]	[チェックアウト] ダイアログ・ボックスが開き、選択したエンティティをチェックアウトできます。詳細については、「[チェックアウト] ダイアログ・ボックス」 (131 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
【未チェックイン】	[未チェックイン] が開き、現在のモジュールでチェックアウトされたすべてのエンティティのリストを表示できます。詳細については、「[未チェックイン] ダイアログ・ボックス」(132 ページ) を参照してください。
【チェックアウトの取り消し】	<p>選択したエントリのチェックアウトを取り消し、変更を元に戻します。</p> <p>ほかのユーザがチェックアウトしたエンティティのチェックアウトを取り消すには、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>チェックアウトを取り消す場合、エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに、新しい値が残ります。詳細については、「バージョン管理されないフィールド」(125 ページ) を参照してください。</p>
【チェックアウト前に警告する】	エンティティを自動的にチェックアウトする前に確認メッセージが表示されるように ALM を設定します。詳細については、「[チェックアウト] ダイアログ・ボックス」(131 ページ) を参照してください。

バージョン管理フィールド

本項では、ALM モジュールで使用できるバージョン管理フィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで、要件、ビジネス・モデル、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースのいずれかを選択します。
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(120 ページ)
参照項目	「バージョン管理の概要」(118 ページ)

要件モジュール

要件モジュールでは、バージョン管理が有効な場合、次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
[バージョンのチェックアウトの日付]	バージョンがチェックアウトされた日付。
[バージョンのチェックアウト時間]	バージョンがチェックアウトされた時刻。
[バージョンのチェックアウト実行者]	バージョンをチェックアウトしたユーザの名前。
[バージョン番号]	バージョン番号です。
[バージョンのステータス]	バージョン (チェックアウトまたはチェックイン) のステータス。

ビジネス・モデル・モジュール

ビジネス・モデル・モジュールでは、バージョン管理が有効な場合、次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
[バージョンのチェックアウトの日付]	バージョンがチェックアウトされた日付。
[バージョンのチェックアウト時間]	バージョンがチェックアウトされた時刻。
[バージョンのチェックアウト実行者]	バージョンをチェックアウトしたユーザの名前。
[バージョン番号]	バージョン番号です。
[バージョンのステータス]	バージョン (チェックアウトまたはチェックイン) のステータス。

テスト計画モジュール

テスト計画モジュールでは、バージョン管理が有効な場合、次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
[バージョンの日付]	バージョンに対して最後のアクション（チェックインまたはチェックアウト）が実行された日付。
[バージョン番号]	バージョン番号です。
[バージョンの所有者]	最後のアクション（チェックインまたはチェックアウト）を実行したユーザの名前。
[バージョンのステータス]	バージョン（ チェックアウト または チェックイン ）のステータス。
[バージョン時間]	バージョンに対して最後のアクション（チェックインまたはチェックアウト）が実行された時間。

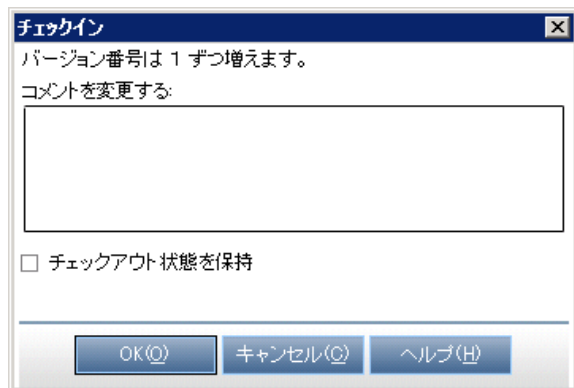
テスト・リソース・モジュール

テスト・リソース・モジュールでは、バージョン管理が有効な場合、次の追加フィールドが表示されます。

UI 要素	説明
[バージョン番号]	リソースのバージョン番号。

[チェックイン] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、バージョン管理が有効なプロジェクトの1つ以上のチェックアウト済みエンティティをチェックインできます。これで、新しいバージョンをほかのユーザが利用できるようになります。



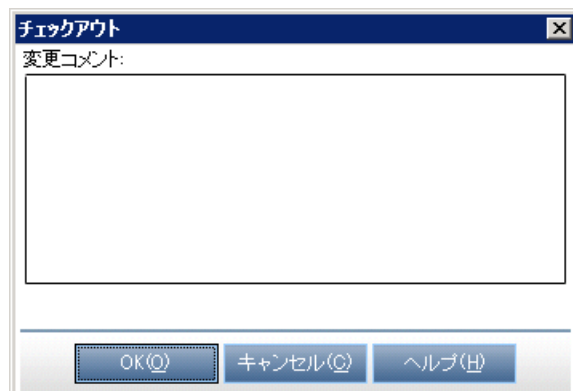
アクセス方法	エンティティを右クリックして [バージョン] > [チェックイン] を選択します。 要件、ビジネス・モデル、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールから使用可能です。
重要な情報	新しいエンティティに割り当てられるバージョン番号は1です。エンティティがチェックインされると、バージョン番号は1ずつ増加します。
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(120 ページ)
参照項目	「バージョン管理の概要」(118 ページ)



次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[コメントを変更する]	このバージョンに加えられた変更を説明します。
[チェックアウト状態を保持]	エンティティをチェックアウトしたまま新しいバージョン番号を使って変更内容を保存します。

[チェックアウト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、バージョン管理が有効なプロジェクトの1つ以上のエンティティをチェックアウトして、エンティティに変更を加えます。



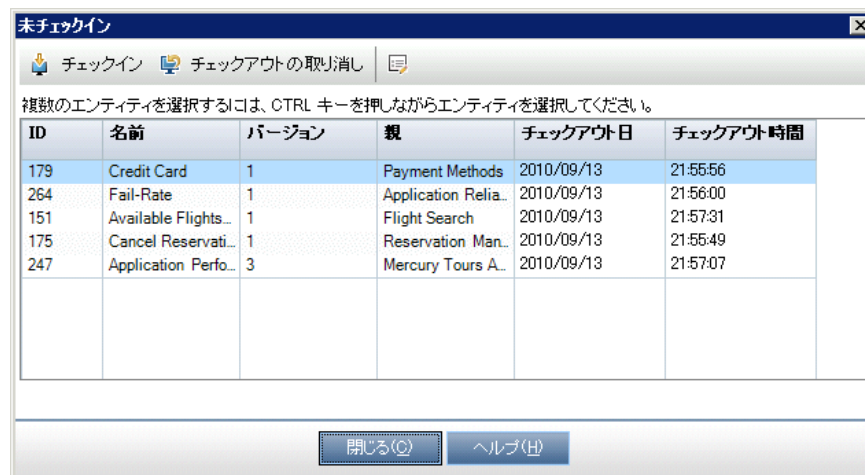
アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ エンティティを選択して編集を開始します。[チェックアウト] ダイアログ・ボックスが自動的に開きます。 ▶ エンティティを右クリックして [バージョン] > [チェックアウト] を選択します。 ▶ エンティティを選択して [履歴] タブ > [バージョンおよびベースライン] タブをクリックします。バージョンを選択して、[チェックアウト] をクリックします。 <p>要件、ビジネス・モデル、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールから使用可能です。</p>
重要な情報	<p>ツリー・ビューでは、チェックアウトされたエンティティを次のアイコンで示します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 現在のユーザによってチェックアウトされたエンティティは、開いた緑色の鍵のアイコン  で表示されます。 ▶ ほかのユーザによってチェックアウトされたエンティティは、赤色の鍵のアイコン  で表示されます。
関連タスク	<p>「バージョン管理の使用方法」(120 ページ)</p>
参照項目	<p>「バージョン管理の概要」(118 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[変更コメント]	チェックアウトの理由を説明します。
[次回から表示しない]	編集を開始したエンティティを確認せずに自動的にチェックアウトするように ALM を設定します。 このオプションは、エンティティを自動的にチェックアウトする場合に使用できます。




[未チェックイン] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、現在のモジュールでチェックアウトしたすべてのエンティティを表示して、選択したエンティティのチェックイン、またはチェックアウトの取り消しができます。



アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ALM ウィンドウの右上角にある[チェックイン]ボタンをクリックします。 ▶ モジュール・メニュー・バーで、[バージョン] > [未チェックイン] を選択します。 <p>要件、ビジネス・モデル、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールから使用可能です。</p>
関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(120 ページ)
参照項目	「バージョン管理の概要」(118 ページ)

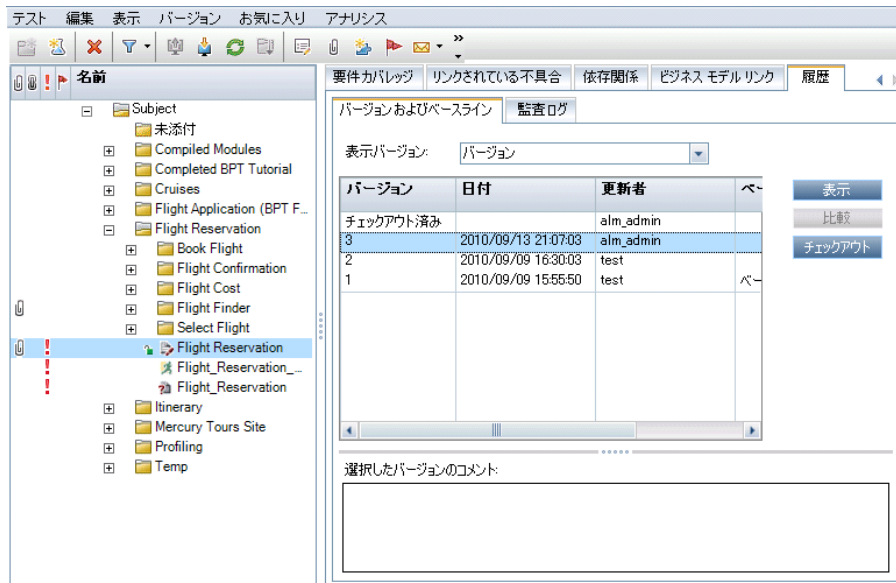
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
 チェックイン	<p>[チェックイン] ダイアログ・ボックスが開き、選択したエンティティをチェックインできます。詳細については、「[チェックイン] ダイアログ・ボックス」(130 ページ)を参照してください。</p>
 チェックアウトの取消し	<p>選択したエントリのチェックアウトを取り消し、変更を元に戻します。</p> <p>チェックアウトを取り消す場合、エンティティがチェックアウトされている間にバージョン管理されていないフィールドに加えられた変更内容は取り消されずに、新しい値が残ります。詳細については、「バージョン管理されないフィールド」(125 ページ)を参照してください。</p>
	<p>[詳細] : [詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したエントリの詳細が表示されます。さらに詳細を表示するには、[デザインステップ]、[テストスクリプト]、[添付] など、サイドバー上のボタンをクリックします。利用できるボタンは、特定のエンティティ・タイプに使用可能なデータによって異なります。</p>

UI 要素	説明
<グリッド>	<p>現在のモジュールでチェックアウトしたエンティティのリストを表示します。</p> <p>グリッドに対して次の操作ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 複数のエンティティを選択するには、CTRL キーを押しながらエンティティを選択します。 ▶ すべてのエンティティを選択するには、右クリックして [すべて選択] を選択します。 ▶ カラムを並べ替えるには、カラム・ヘッダをドラッグします。
[チェックアウト日]	バージョンがチェックアウトされた日付。
[チェックアウト時間]	バージョンがチェックアウトされた時刻。
[ID]	ALM によってエンティティに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[名前]	チェックアウトしたエンティティの名前。
[親]	ツリー構造で、選択したエンティティの 1 レベル上の階層のエンティティの名前。
[バージョン]	<p>チェックアウトしたエンティティのバージョン番号。</p> <p>新しいエンティティに割り当てられるバージョン番号は 1 です。エンティティがチェックインされると、バージョン番号は 1 ずつ増加します。</p>

[バージョンおよびベースライン] タブ・バージョン・ビュー

このビューでは、バージョン管理が有効なプロジェクトの選択したエンティティのバージョン履歴を表示します。



要件カバレッジ リンクされている不具合 依存関係 ビジネスモデルリンク 履歴

バージョンおよびベースライン 監査ログ

表示バージョン: [バージョン]

バージョン	日付	更新者	ペー
3	2010/09/13 21:07:03	alm_admin	
2	2010/09/09 16:30:03	test	
1	2010/09/09 15:55:50	test	ペー

表示
比較
チェックアウト

選択したバージョンのコメント:

<p>アクセス方法</p>	<p>[履歴] タブ > [バージョンおよびベースライン] タブをクリックします。 [表示バージョン] ボックスで、[バージョン] を選択します。</p> <p>要件、ビジネス・モデル、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールから使用可能です。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ユーザビリティおよびデータの完全性を維持するために、ALM では、ほとんどのデータがエンティティ間の関係に関係なく、エンティティの以前のバージョンが保存されます。要件およびテスト・カバレッジ、要件トレーサビリティ、および不具合のリンクのデータは、以前のバージョンについては保存されません。また、リスク・データもエンティティの以前のバージョンについては保存されません。 ▶ 一部のフィールドへの変更は、バージョン管理には保存されません。詳細については、「バージョン管理されないフィールド」(125 ページ)を参照してください。

関連タスク	「バージョン管理の使用方法」(120 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「バージョン管理の概要」(118 ページ) ▶ 「[ベースライン] タブ」(278 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
表示	[詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したバージョンの読み取り専用の詳細が表示されます。バージョンに関する追加の詳細を表示するには、[デザイン ステップ]、[テスト スクリプト]、および [添付] など、サイドバー上のボタンをクリックします。利用できるボタンは、特定のエンティティ・タイプに対するバージョン管理に保存されているデータによって異なります。
比較	[エンティティの比較] ダイアログ・ボックスが開き、選択した 2 つのバージョンを比較できます。詳細については、「[エンティティの比較] ダイアログ・ボックス」(272 ページ) を参照してください。 2 つのバージョンを比較するには、CTRL キーを押しながら比較するバージョンを選択します。次に、[比較] ボタンをクリックします。
チェックアウト	[チェックアウト] ダイアログ・ボックスが開き、選択したバージョンをチェックアウトできます。詳細については、「[チェックアウト] ダイアログ・ボックス」(131 ページ) を参照してください。
[ベースライン]	該当するバージョンが表示されるベースラインです。
[選択したバージョンのコメント]	バージョンのチェックイン時にユーザが入力したコメント。
[日付]	該当するバージョンが作成された日付です。
[更新者]	該当するバージョンを作成したユーザです。

UI 要素	説明
[バージョン]	<p>バージョン番号です。エンティティが現在チェックアウトされている場合、チェックアウトされているバージョンの [バージョン] カラムに [チェックアウト済み] と表示されます。</p> <p>新しいエンティティのデフォルトのバージョン番号は1です。</p>
[表示バージョン]	<p>履歴の表示に次のいずれかのオプションを選択できます。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ [バージョン] : 選択したエンティティのバージョン履歴を表示します。▶ [ベースライン] : ベースラインに格納されている、選択したエンティティのすべてのバージョンを表示します。詳細については、「[ベースライン] タブ」(278 ページ) を参照してください。

第7章

ALM エディション

本章の内容

リファレンス

▶ 「エディションごとの ALM 機能」 (140 ページ)

リファレンス

 **エディションごとの ALM 機能**

HP Application Lifecycle Management (ALM) には、ALM の機能のサブセットを備えた HP Quality Center Starter Edition、HP Quality Center Enterprise Edition、HP ALM Performance Center Edition の3つのエディションもあります。

HP ALM エディション	説明
HP ALM	エンタープライズ・リリースの管理に関わる成熟した組織および CoE (Center of Excellence) 向けの、アプリケーション・ライフサイクルの管理および拡張可能な品質管理のための主要機能を備えた、HP ALM 機能の完全版。
HP Quality Center Starter Edition	小規模なリリースを管理する品質管理チーム向け。
HP Quality Center Enterprise Edition	中規模から大規模なリリースを管理する品質管理チーム向け。
HP ALM Performance Center Edition	大規模なパフォーマンス・テスト・プロジェクトに関するすべての側面の管理向け。

次の表に、エディションに応じた ALM 機能の可用性を示します。各機能の詳細については、後で説明します。

機能	HP ALM	HP Quality Center Starter Edition	HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM Performance Center Edition
ライセンス	✓	✓ 一部	✓	✓
モジュール	✓	✓ 一部除外	✓	✓ 一部除外
ポイント・アンド・クリック方式のインストール	✗	✓	✗	✗
リリース管理	✓	✗	✓	✓
プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース	✓	✗	✗	✗
複数の要件タイプ	✓	✗	✓	✓
要件対要件のトレーサビリティ	✓	✗	✓	✓
リスク・ベース品質管理	✓	✗	✓	✓
ビジネス・モデル・モジュール	✓	✗	✓	✗
テスト・リソース	✓	✓	✓	✓ 一部
HP Sprinter	✓	✗	✓	✗

機能	HP ALM	HP Quality Center Starter Edition	HP Quality Center Enterprise Edition	HP ALM Performance Center Edition
バージョン管理	✓	✓ 単一 エンティティ	✓	✓
要件とテストの共有	✓	✗	✗	✓
不具合の共有	✓	✗	✗	✓
クロス・プロジェクト・カスタマイズ	✓	✗	✗	✓
クロス・プロジェクト・レポート	✓	✗	✗	✓ 一部
Excel レポート	✓	✓	✓	✓ 一部
Business Process Testing	✓	✓ 最大 5	✓	✗
追加オプション	✓	✗	✓	✗
エディションのアップグレード		✓	✓	✓

ライセンス

ALM ライセンスは、購入時の契約に応じて決定されます。Quality Center Starter Edition では、ALM モジュール（Performance Center 固有のモジュールを除く）に対して最大 5 つ、不具合モジュールに対して追加で 5 つのコンカレント・ライセンス、および最大 5 つのビジネス・プロセス・テスト・ライセンスが有効です。

ALM Performance Center Edition では、要件モジュールおよび不具合モジュールに対してそれぞれ最大 5 つのコンカレント・ライセンスが有効です。

サイト管理者は、「サイト管理」からライセンス使用状況を監視できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

モジュール

- ▶ ALM では、すべてのモジュールおよび機能にアクセスできます。
- ▶ Quality Center Enterprise Edition では、Performance Center モジュールを除くすべての ALM モジュールにアクセスできます。
- ▶ Quality Center Starter Edition では、要件、テスト計画、テスト・リソース、テスト・ラボ、不具合、ダッシュボード、Business Process Testing (BPT) の各モジュールにアクセスできます。
- ▶ Performance Center Edition では、リリース、ライブラリ、要件、テスト計画、テスト・リソース、テスト・ラボ、不具合、ダッシュボードの各モジュールにアクセスできます。

ポイント・アンド・クリック方式のインストール

ALM, Quality Center Enterprise Edition, ALM Performance Center Edition は、サポートされているデータベース上で完全インストールを行う必要があります。

Quality Center Starter Edition は、Windows XP または Windows 2009 上に、簡単なポイント・アンド・クリック・ウィザードを使用してインストールされます。これには、JBoss アプリケーション・サーバ、JBoss Web サーバ、および SQL 2005 Express の自動インストールが含まれます。

インストールおよびサポートされている環境の詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

リリース管理

リリース・モジュールでは、次のリリースを整理および追跡できます。Quality Center Starter Edition では、リリース管理はサポートされていません。このエディションを使用している場合、サイクルとリリースに関連するフィールドやコマンドは使用できません。たとえば、[ターゲット サイクル] および [ターゲット リリース] は使用できません。

リリース・モジュールの詳細については、「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ) を参照してください。

プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース

ALM プロジェクトの計画と追跡 (PPT) 機能により、品質保証マネージャは、アプリケーション・リリースの作業の目標を定義して、アプリケーションの準備状況を追跡できます。PPT は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, ALM Performance Center Edition では使用できません。

PPT リリースの詳細については、第9章、「プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース」を参照してください。

複数の要件タイプ

ALM では、複数の要件タイプがサポートされています。Quality Center Starter Edition では、複数の要件タイプはサポートされていません。

要件タイプの詳細については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。

要件対要件のトレーサビリティ

ALM では、要件間のリンクの定義がサポートされています。Quality Center Starter Edition では、要件のトレーサビリティはサポートされていません。

要件のトレーサビリティの詳細については、第14章、「要件トレーサビリティ」を参照してください。

リスク・ベース品質管理

ALM では、リスク・ベース品質テストの実装が可能です。Quality Center Starter Edition では、要件モジュールの [リスク] タブは使用できません。また、リスクに関するフィールドは使用できません。

リスク・ベース品質管理の詳細については、第16章、「リスク・ベース品質管理」を参照してください。

ビジネス・モデル・モジュール

ALM および Quality Center Enterprise Edition にはビジネス・モデル・モジュールが含まれており、標準的なモデリング・ツールからビジネス・プロセス・モデルをインポートし、その品質を ALM でテストできます。ビジネス・モデル・モジュールは、Quality Center Starter Edition や ALM Performance Center Edition では使用できません。

ビジネス・モデル・モジュールの詳細については、第17章、「ビジネス・プロセス・モデル」を参照してください。

テスト・リソース

すべてのエディションに、テストで使用するリソースを管理するテスト・リソース・モジュールが含まれています。ALM Performance Center Edition では、テスト・リソース・タイプのサブセットがサポートされています。

詳細については、第25章、「テスト・リソース」を参照してください。

HP Sprinter

ALM および Quality Center Enterprise Edition では、HP Sprinter を使用した手動テストができます。Sprinter は、手動テスト・プロセスを支援する拡張機能と種々のツールを備えています。Sprinter は、Quality Center Starter Edition または ALM Performance Center Edition では使用できません。

Sprinter の詳細については、「Sprinter の概要」(760 ページ) を参照してください。

バージョン管理

すべてのエディションで、ALM プロジェクトの単一エンティティのバージョン管理ができます。詳細については、第6章、「バージョン管理」を参照してください。

ALM, Quality Center Enterprise Edition, ALM Performance Center Edition には、ライブラリ内の複数エンティティのベースライニングも含まれています。詳細については、第10章、「ライブラリおよびベースライン」を参照してください。

要件とテストの共有

ALM ライブラリ・モジュールでは、要件、テスト、テスト・リソース、ビジネス・コンポーネントの作成および比較ができます。また、複数のプロジェクト間でライブラリをインポート、同期化、比較することにより、既存のエンティティのセットを再利用できます。

- ▶ Quality Center Starter Edition では、ライブラリ・モジュールは使用できません。
- ▶ Quality Center Enterprise Edition では、ライブラリ・モジュールを使用してベースラインを作成、比較できます。Quality Center Enterprise Edition には、複数プロジェクト間のライブラリのインポート、同期化、比較は含まれません。

ライブラリ・モジュールの詳細については、「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(253 ページ) を参照してください。

不具合の共有

HP ALM Synchronizer を使用して、複数の ALM プロジェクト間で不具合の共有および同期を行うことができます。不具合の共有は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

詳細については、HP Application Lifecycle Management Addin ページから利用できる『HP ALM Synchronizer User Guide』を参照してください。

クロス・プロジェクト・カスタマイズ

ALM には、クロス・プロジェクト・カスタマイズが含まれており、テンプレート・プロジェクトで作業できます。クロス・プロジェクト・カスタマイズは、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

クロス・プロジェクト・レポート

ALM でグラフを作成する場合、複数のプロジェクトのデータを組み合わせたり比較したりできます。クロス・プロジェクト・レポートは、Performance Center のみに固有のエンティティ（ホストやタイムスロットなど）には使用できません。クロス・プロジェクト・レポートは、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

ALM のレポートとグラフの詳細については、「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」（879 ページ）を参照してください。

Excel レポート

すべてのエディションで、レポートिंगのために ALM データを Excel にエクスポートできます。Excel レポートは、Performance Center のみに固有のエンティティ（ホストやタイムスロットなど）には使用できません。

詳細については、第 38 章、「Excel レポート」を参照してください。

Business Process Testing

Quality Center Starter Edition では、最大 5 つの Business Process Testing ライセンスが使用できます。Business Process Testing は、ALM Performance Center Edition では使用できません。

Business Process Testing の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

追加オプション

ALM および Quality Center Enterprise Edition では、Service Test Management (STM)、および Change Impact Testing (CIT) の追加オプションが使用できます。

エディションのアップグレード

お使いの HP ALM 11.00 エディションを別のエディションにアップグレードできます。アップグレードの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

第 II 部

管理

ALM Editions :

- ▶ Quality Center Starter Edition では、リリース・モジュールは使用できません。
 - ▶ Quality Center Starter Edition および Quality Center Enterprise Edition では、PTT 関連機能は使用できません。
 - ▶ Quality Center Starter Edition では、ライブラリ・モジュールは使用できません。
Quality Center Enterprise Edition には、ライブラリ・モジュールの一部機能が含まれます。
-

第 8 章

リリースおよびサイクル

本章の内容

概念

- ▶ 「リリースおよびサイクルの概要」 (152 ページ)

タスク

- ▶ 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」 (154 ページ)

リファレンス

- ▶ 「リリースおよびサイクルのユーザ・インターフェース」 (163 ページ)

概念

リリースおよびサイクルの概要

Quality Center Starter Edition では、リリース・モジュールは使用できません。

アプリケーション・リリースの発行は困難な場合があります。これには、ビジネス優先度および品質の期待値をプロジェクトの要件、テスト、および不具合と調整する必要があります。ほとんどのアプリケーションでは、複数のハードウェア・プラットフォーム、複数のシステム構成（コンピュータ、オペレーティング・システム、およびブラウザ）、およびアプリケーションの複数のバージョンを対象にテストを行う必要があります。アプリケーション・リリースのあらゆる面を管理することは、時間のかかる困難な作業です。リリースを定義して、アプリケーション管理プロセスを開始します。

HP Application Lifecycle Management (ALM) では、リリース・およびサイクルを定義することによって、次のリリースを整理および追跡できます。「**リリース**」は、一度の配布で提供される、1 つ以上のアプリケーションの変更のグループを意味します。各リリースには多数のサイクルを含めることができます。「**サイクル**」は、リリースのスケジュールに基づいて、共通の目標を達成するために行われる一連の開発および品質保証作業です。リリースとサイクルの両方において開始日と終了日を定義します。

リリースとサイクルを定義したら、要件を定義および確認して、リリースおよびサイクルに割り当てます。「**要件**」は、アプリケーションのニーズの詳細を記載し、テスト計画を作成するための基礎として使用されます。テスト計画段階で作成するテストでは、これらの要件をカバーするようにします。

要件をリリースとサイクルに割り当てた後は、テスト・セット・フォルダを作成してサイクルに割り当てます。「**テスト・セット**」とは、ALM プロジェクト内のテスト・インスタンスのグループのことで、特定のテスト目標を達成するように設計されています。テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てた後に、そのテスト・セット・フォルダのテスト・セットを実行します。

テスト・セットの実行中にアプリケーションの不具合を検出した場合は、不具合を送信できます。ALM により、テスト実行、関連するリリースとサイクル、および新しい不具合の間に自動的にリンクが設定されます。

不具合は、アプリケーション管理プロセスの任意の段階のどのモジュールからでも ALM プロジェクトに送信できます。修正する新しい不具合を確認および決定する際に、それらの不具合を適切なターゲット・リリースおよびサイクルに割り当てることができます。

テスト実行の後に、リリース目標がどの程度満たされているかを判断するためにテストの進行状況を確認できます。また、解決された不具合の数、および未対応の不具合の数を判断することもできます。結果は、リリース・レベルまたはサイクル・レベルで分析できます。

リリース・ツリーを分析し、リリース目標と一致することを確認することによって、リアルタイムにアプリケーション管理プロセスの進行状況を追跡できます。

関連タスクの詳細については、「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ) を参照してください。

タスク

ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法

このタスクでは、リリースおよびサイクルを作成および追跡する方法を説明します。リリースおよびサイクルの詳細については、「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)を参照してください。

プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリースを利用して、アプリケーション・リリースを追跡することもできます。PPT は、リアルタイムの主要業績評価指標 (KPI) を使用した、情報に基づくリリースの決定に役立ちます。PPT を使用した作業の詳細については、「PPT の使用方法」(193 ページ)を参照してください。

注：

- ▶ **Quality Center Starter Edition** では、リリース・モジュールは使用できません。
- ▶ **ユースケース**：このタスクに関連するユースケース・シナリオについては、「リリースおよびサイクルの使用 - ユースケース・シナリオ」(157 ページ)を参照してください。
- ▶ **上位タスク**：このタスクは、上位タスクの一部です。詳細については、「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ)を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- ▶ 「リリースとサイクルの定義」(155 ページ)
- ▶ 「要件の割り当て」(155 ページ)
- ▶ 「テスト・セットの割り当てと実行」(155 ページ)
- ▶ 「不具合の割り当て」(156 ページ)
- ▶ 「リリースとサイクルの分析」(156 ページ)

1 リリースとサイクルの定義

階層型リリース・ツリーで、リリースおよびサイクルを定義します。

- a **リリース・モジュールを開く**：ALM サイドバーで、**[管理]** の下の **[リリース]** を選択します。
- b **フォルダを作成**：**[リリース]** ルート・フォルダを右クリックして、**[新規リリース・フォルダ]** を選択します。サブフォルダを作成するには、フォルダをクリックして、**[新規リリース フォルダ]** を選択します。
- c **フォルダにリリースを追加**：フォルダまたはサブフォルダを右クリックして、**[新規リリース]** を選択します。**[新規リリース]** ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[新規リリース]** / **[リリース詳細]** ダイアログ・ボックス」(174 ページ) を参照してください。
- d **リリースにサイクルを追加します**。リリースを右クリックして、**[新規サイクル]** を選択します。**[新規サイクル]** ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[新規サイクル]** / **[サイクル詳細]** ダイアログ・ボックス」(177 ページ) を参照してください。

2 要件の割り当て

要件モジュールで、要件をリリースおよびサイクルに割り当てます。

- ▶ **リリースへの割り当て**：要件を右クリックして、**[リリースに割り当て]** を選択します。**[リリースを選択]** ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「**[リリースを選択]** ダイアログ・ボックス」(187 ページ) を参照してください。
- ▶ **サイクルへの割り当て**：要件を右クリックして、**[サイクルに割り当て]** を選択します。**[サイクルを選択]** ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「**[サイクルを選択]** ダイアログ・ボックス」(185 ページ) を参照してください。

3 テスト・セットの割り当てと実行

テスト・ラボ・モジュールでは、テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当て、テスト・セットを実行します。

- a **サイクルへの割り当て**：テスト・セット・フォルダを右クリックして、**[サイクルに割り当て]** を選択します。**[サイクルを選択]** ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「**[サイクルを選択]** ダイアログ・ボックス」(185 ページ) を参照してください。
- b **テストの実行**：テストの実行に関する詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ) を参照してください。

4 不具合の割り当て

不具合をターゲット・リリースおよびターゲット・サイクルに割り当てます。タスクの詳細については、「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)を参照してください。

5 リリースとサイクルの分析

統計データやグラフを表示して、リリースとサイクルの進行状況を追跡します。

a 割り当て済みの要件とテスト・セット・フォルダの表示

リリースおよびサイクルに割り当てられている要件およびテスト・セット・フォルダの統計を表示するには、リリースまたはサイクルを選択して、**[詳細]** タブをクリックします。**[統計]** 領域で、割り当てられた要件およびテスト・セット・フォルダの統計データを表示します。要件モジュール・ウィンドウのユーザ・インターフェースの詳細については、「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)を参照してください。

b カバレッジの進行状況の表示

リリースまたはサイクルの現在の進行状況を視覚的に示す統計とグラフを表示します。

- ▶ **リリース**：リリース・ツリーでリリースを選択し、**[ステータス]** タブをクリックして、**[進行状況]** タブをクリックします。
- ▶ **サイクル**：リリース・ツリーでリリースを展開し、サイクルを選択して、**[進行状況]** タブをクリックします。

ユーザ・インターフェースの詳細については、「**[進行状況]** タブ」(180 ページ)を参照してください。

c 不具合の表示

リリース・モジュールで、リリースまたはサイクルの間に送信された不具合の数を示すグラフを表示します。

- ▶ **リリース**：リリース・ツリーでリリースを選択し、**[ステータス]** タブをクリックして、**[品質]** タブをクリックします。
- ▶ **サイクル**：リリース・ツリーでリリースを展開し、サイクルを選択して、**[品質]** タブをクリックします。

ユーザ・インターフェースの詳細については、「**[品質]** タブ」(183 ページ)を参照してください。

リリースおよびサイクルの使用 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、リリース管理のワークフローについて説明します。

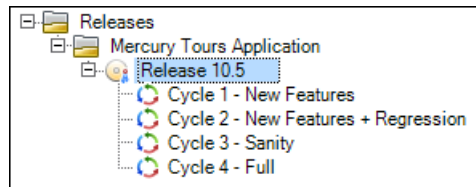
注：このシナリオに関連する作業については、「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)を参照してください。

このシナリオは次のステップで構成されています。

- ▶ 「リリースとサイクルの定義」(155 ページ)
- ▶ 「要件の割り当て」(158 ページ)
- ▶ 「テスト・セットの割り当てと実行」(158 ページ)
- ▶ 「不具合の割り当て」(159 ページ)
- ▶ 「リリースとサイクルの分析」(160 ページ)

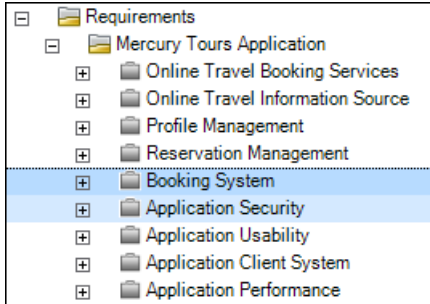
1 リリースとサイクルの定義

航空券予約アプリケーションを開発しているとします。4 か月以内にバージョン 10.5 をリリースすることを計画しています。このリリースには 4 つのサイクルが含まれています。最初のサイクルは、新しい機能をテストするためのものです。2 つ目のサイクルは、回帰テストを行うためのものです。3 つ目のサイクルは、動作確認テストを行うためのものです。4 つ目のサイクルでは、アプリケーションが完全に機能することを確認します。このリリース・ツリーは、次のように定義されます。



2 要件の割り当て

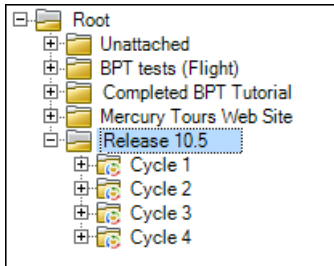
要件モジュールでは、各サイクルでカバーする必要のある要件を判断し、それに応じて関連するサイクルに割り当てます。たとえば、[Mercury Tours Application] フォルダの要件ツリーで、[Booking System] および [Application Security] を [Release 10.5] リリースの [Cycle 1 - New Features] サイクルに割り当てることができます。



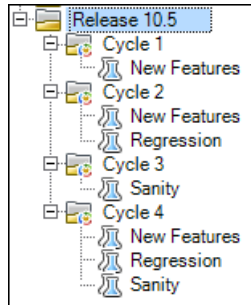
要件はテスト計画モジュールでテスト計画の基礎として使用されます。テストを作成し、割り当てた要件に関連付けて、カバレッジを作成します。

3 テスト・セットの割り当てと実行

テスト・ラボ・モジュールでは、テスト・セット・フォルダを作成して特定のサイクルに割り当てます。たとえば、[Cycle 1], [Cycle 2], [Cycle 3], [Cycle 4] テスト・セット・フォルダを定義します。



割り当てたテスト・セット・フォルダごとに、次に示すようにテスト・セットを作成してテストを追加します。



4 不具合の割り当て

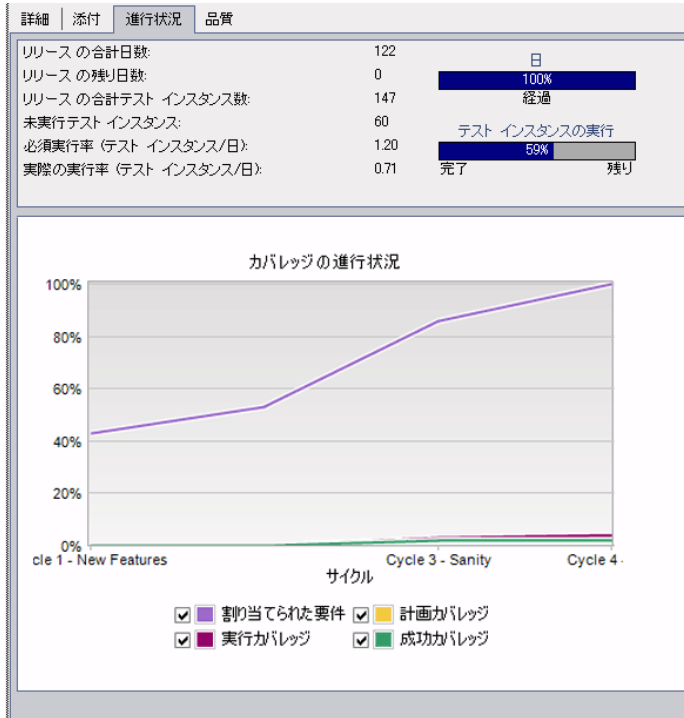
Cycle 1 テスト・セット・フォルダのテスト・セットからテスト・インスタンスを実行しているときに不具合が検出されます。不具合が最初にプロジェクトに送信されたとき、[**検出リリース**] フィールドは [**Release 10.5**] リリースに割り当てられ、[**検出サイクル**] フィールドは [**Cycle 1 - New Features**] サイクルに割り当てられます。

この例の続きとして、この不具合が次のサイクルに修正される予定とします。[**ターゲット リリース**] フィールドは [**Release 10.5**] に割り当てられ、[**ターゲット サイクル**] フィールドは [**Cycle 2 - New Features + Regression**] に割り当てられます。

5 リリースとサイクルの分析

割り当てたテスト・セット・フォルダからテスト・セットを実行した後に、リリース・モジュールの [進行状況] タブで進行状況を確認し、どの程度リリース目標を満たしているかを判断できます。これにより、リリースの進行状況に関して上位レベルの概要を得ることができます。

次の図は、Release 10.5 の例における進行状況を示しています。



上部表示枠には、リリースの合計日数および残り日数、リリースのテスト・インスタンスの合計、実行する実際のテスト・インスタンスおよび残りテスト・インスタンスなどが表示されます。

下部表示枠には [カバレッジの進行状況] グラフが表示されます。このグラフに表示される曲線は累積的なものです。つまり、各カーブは、リリースの開始からすべてのリリース情報を累積して計算されます。

[**割り当てられた要件**] 曲線は、リリースのサイクル内の割り当て済み要件の分布を示します。この例では、この曲線は、「**Cycle 4 - Full**」サイクルで 100% の値を示しています。

[割り当てられた要件] 曲線の下に [**計画カバレッジ**] 曲線は、リリース全体にわたってカバーされる要件の割合を示しています。この例では、要件の 60% のみが「**Cycle 4 - Full**」サイクルでカバーされています。

[計画カバレッジ] 曲線の下に [**実行カバレッジ**] 曲線は、リリースの進捗とともに実行されたテストの割合を示しています。この例では、この曲線は、「**Cycle 4 - Full**」では割り当てられたテストの 40% のみが実行されたことを示しています。

[**成功カバレッジ**] 曲線は [実行カバレッジ] 曲線の下にあります。この曲線は、最新のステータスが成功であるテスト実行を示しています。この例では、この曲線は、「**Cycle 4 - Full**」サイクルで 20% の値を示しています。

第 8 章・リリースおよびサイクル

サイクルごとに、[品質] タブに送信された不具合の数およびその重要度を表示できます。Release 10.5 テスト・セット・フォルダの **Cycle 1** テスト・セットの実行中に、4つのアプリケーションの不具合が検出されたとします。リリース・ツリーで **Cycle 1 - New Features** サイクルを選択し、[品質] タブをクリックしてサイクル中に追加された不具合の数を表示します。不具合は、[1-低い] から [5-緊急] までの重要度レベルで分類されます。



この [不具合報告率] グラフでは、最初のサイクルをテストする間に検出された4つの不具合のうち、2つの不具合が重要度値 [3- 高い] を割り当てられ、1つの不具合が [5- 緊急] を割り当てられ、1つの不具合が [2- 普通] を割り当てられていることを確認できます。

[未解決の不具合] グラフでは、4つの不具合のうち2つの不具合が未解決であることがわかります。一方の不具合は [2- 普通] を割り当てられ、他方の不具合は [3- 高い] を割り当てられています。

リファレンス

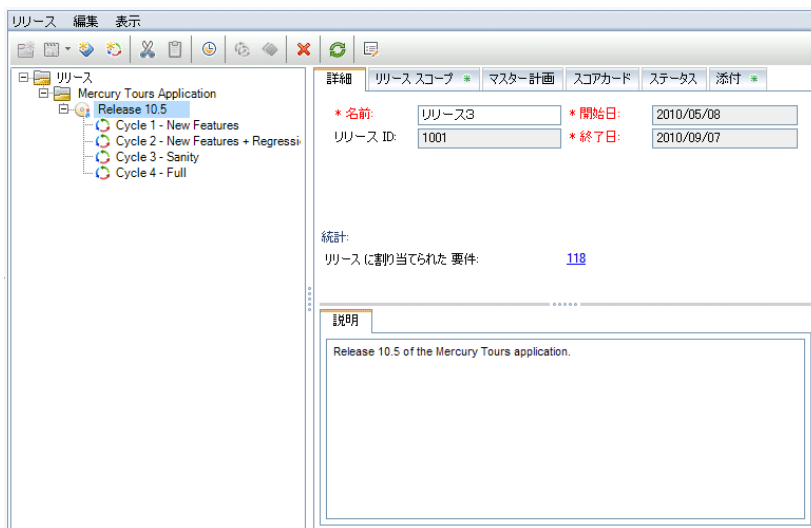
リリースおよびサイクルのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」 (164 ページ)
- ▶ 「リリース・モジュールのメニューおよびボタン」 (166 ページ)
- ▶ 「リリース・モジュールのアイコン」 (171 ページ)
- ▶ 「リリース・モジュールのフィールド」 (172 ページ)
- ▶ 「[新規リリース] / [リリース詳細] ダイアログ・ボックス」 (174 ページ)
- ▶ 「[新規サイクル] / [サイクル詳細] ダイアログ・ボックス」 (177 ページ)
- ▶ 「[進行状況] タブ」 (180 ページ)
- ▶ 「[品質] タブ」 (183 ページ)
- ▶ 「[サイクルを選択] ダイアログ・ボックス」 (185 ページ)
- ▶ 「[リリースを選択] ダイアログ・ボックス」 (187 ページ)
- ▶ 「[リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール] ダイアログ ボックス」 (188 ページ)

🔑 リリース・モジュール・ウィンドウ

このウィンドウでは、リリースおよびサイクルを定義および追跡できます。



アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の [リリース] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition では、リリース・モジュールは使用できません。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)
参照項目	「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<リリース・モジュール 共通 UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ リリース・フィールド：フィールドの定義については、「リリース・モジュールのフィールド」(172 ページ) を参照してください。 ▶ リリースのメニューおよびボタン：コマンドおよびボタンの説明については、「リリース・モジュールのメニューおよびボタン」(166 ページ) を参照してください。 ▶ リリース・アイコン：アイコンの説明については、「リリース・モジュールのアイコン」(171 ページ) を参照してください。 ▶ ALM の主要なメニューとサイドバー：[ツール] メニュー、[ヘルプ] メニュー、サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」(40 ページ) を参照してください。
<リリース・ツリー>	リリースを視覚的に表したものです。
[添付] タブ	現在選択されているフォルダ、リリース、サイクルに関する追加情報を提供する添付ファイルのリストが表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
[説明] タブ	現在選択されているフォルダ、リリース、サイクルの説明です。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
[詳細] タブ	現在選択されているフォルダ、リリース、サイクルの詳細が表示されます。[統計] 領域には、リリースまたはサイクルに関連する要件およびテスト・セット・フォルダが表示されます。詳細については、「リリース・モジュールのフィールド」(172 ページ) を参照してください。
[マスター計画] タブ	リリースの進行状況がガント・チャートで表示されます。詳細については、「[マスター計画] タブ」(224 ページ) を参照してください。 ALM Editions ：このタブは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。




UI 要素	説明
[リリース スコープ] タブ	<p>現在選択されているリリースのリリース・スコープ・アイテムが表示されます。詳細については、「[リリース・スコープ] タブ」(205 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM Editions : このタブは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
[スコアカード] タブ	<p>現在選択されているリリースのステータスの KPI スコアカードが表示されます。詳細については、「[スコアカード] タブ」(228 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM Editions : このタブは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
[ステータス] タブ	<p>次のタブがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [進行状況] タブ : 現在選択されているリリースまたはサイクルの進行状況に関する上位レベルの概要が表示されます。詳細については、「[進行状況] タブ」(180 ページ) を参照してください。 ▶ [品質] タブ : 現在選択されているリリースまたはサイクルの間に追加された不具合の数が表示されます。また、未解決の不具合の数も表示されます。詳細については、「[品質] タブ」(183 ページ) を参照してください。




リリース・モジュールのメニューおよびボタン

本項では、リリース・モジュールで使用できるメニューおよびボタンについて説明します。




アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の [リリース] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition では、リリース・モジュールは使用できません。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「リリース・モジュールのアイコン」(171 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ) ▶ 「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	メニュー	説明
[折りたたみ]	[表示]	リリース・ツリーですべての分岐を折りたたみます。
  [切り取り] / [貼り付け]	[編集]	選択したリリース・フォルダまたはリリースを、リリース・ツリー内の別の場所に移動します。 注: リリース・フォルダを移動すると、対応するリリースとサイクルも移動されます。リリースを移動すると対応するサイクルも移動します。ルート・フォルダは移動できません。 ヒント: リリース・フォルダまたはリリースは、ドラッグすることでもリリース・ツリー内の新しい場所に移動できます。
 [削除]	[編集]	選択したリリース・フォルダ、リリース、またはサイクルを削除します。フォルダを削除すると、対応するリリースとサイクルも削除されます。リリースを削除しても対応するサイクルが削除されます。 注: リリース・フォルダ、リリース、またはサイクルを削除すると、関連付けられている要件、テスト・セット・フォルダ、および不具合の割り当ても解除されます。

UI 要素	メニュー	説明
 【詳細】	[リリース]	<p>対応する [詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件、サイクル、またはマイルストーンの詳細を表示および更新できます。</p> <p>詳細については、次を参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[新規リリース] / [リリース詳細] ダイアログ・ボックス」 (174 ページ) ▶ 「[新規サイクル] / [サイクル詳細] ダイアログ・ボックス」 (177 ページ) ▶ 「[マイルストーン詳細] ダイアログ・ボックス」 (226 ページ) <p>ALM Editions: マイルストーンは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
 【サイクルの複製】	[編集]	<p>同じリリース内で、選択したサイクルのコピーを作成します。</p> <p>複数のサイクルを複製するには、Ctrl キーを押しながら複製するサイクルを選択します。同じリリースに属しているサイクルのみ選択できます。</p>
 【マイルストーンの複製】	[編集]	<p>同じリリース内で、選択したマイルストーンのコピーを作成します。</p> <p>複数のマイルストーンを複製するには、Ctrl キーを押しながら複製するマイルストーンを選択します。同じリリースに属しているマイルストーンのみ選択できます。</p> <p>ALM Editions: この機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>

UI 要素	メニュー	説明
[全て展開]	[表示]	リリース・ツリーですべての分岐を展開します。
 [新規サイクル]	[リリース]	<p>[新規サイクル] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリリースにサイクルを追加できます。詳細については、「[新規サイクル] / [サイクル詳細] ダイアログ・ボックス」(177 ページ) を参照してください。</p>
 [新規 マイルストーン]	[リリース]	<p>[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリリースにマイルストーンを追加できます。詳細については、「[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックス」(210 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM Editions : この機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
 [新規リリース] / [新規の空の リリース]	[リリース]	<p>[新規リリース] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリリース・フォルダにリリースを追加できます。詳細については、「[新規リリース] / [リリース詳細] ダイアログ・ボックス」(174 ページ) を参照してください。</p> <p>注 : テンプレート・プロジェクトにリンクされているプロジェクトで作業している場合は、[新規リリース] の代わりに [新規の空のリリース] オプションが使用できます。</p> <p>ALM Editions : [新規の空のリリース] は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
 [新規リリース フォルダ]	[リリース]	<p>[新規リリース・フォルダ] ダイアログ・ボックスが開き、選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。</p>





UI 要素	メニュー	説明
 【テンプレートから新規リリース】	[リリース]	<p>[テンプレートからの新規リリースの作成] ダイアログ・ボックスが開き、テンプレート・プロジェクトのリリースを基にしてリリースを作成できます。詳細については、「[テンプレートからの新規リリースの作成] ダイアログ・ボックス」(238 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM Editions: このオプションは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p> <p>注: このオプションは、テンプレート・プロジェクトとリンクおよび同期化されたプロジェクトで使用できます。</p>
【名前の変更】	[編集]	<p>選択したリリース・フォルダ、リリース、またはサイクルの名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。</p>
 【全て更新】	[表示]	<p>最新の情報が表示されるように、リリース・ツリーを更新します。</p>
 【再スケジュール】	[リリース]	<p>[再スケジュール] ダイアログ・ボックスが開き、要件、サイクル、またはマイルストーンの開始日および終了日を再スケジュールできます。詳細については、「[リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール] ダイアログ・ボックス」(188 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM Editions: このマイルストーンの再スケジュール機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
【要件の表示】	<右クリック・メニュー>	<p>要件モジュールに移動して、選択したリリースまたはサイクルに割り当てられている要件を表示します。</p>
【テストセットフォルダの表示】	<右クリック・メニュー>	<p>テスト・ラボ・モジュールに移動して、選択したサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダを表示します。</p>

リリース・モジュールのアイコン

本項では、リリース・モジュールで使用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の [リリース] を選択します。
重要な情報	ALM Editions : Quality Center Starter Edition では、要件モジュールは使用できません。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「リリース・モジュールのメニューおよびボタン」(166 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ) ▶ 「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	<緑色のアスタリスク> : タブが追加されていることを示します。
	<マイルストーン> : リリース・ツリー内のリリースのマイルストーン。 ALM Editions : このアイコンは, Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
	<リリース フォルダ> : リリースを整理するためのフォルダ。
	<リリース> : リリース・ツリー内のリリース。
	<サイクル> : リリース・ツリー内のリリースのサイクル。

リリース・モジュールのフィールド

リリース・モジュールの「**詳細**」タブには、次のようなリリースまたはサイクルのフィールドが表示されます。

アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の [リリース] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ サイクルの日付は、リリースの日付内に含まれている必要があります。 ▶ リリース・モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ スクリプト・エディタを使用して、リリース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ プロジェクトの計画と追跡 (PPT) フィールドについては、「PPT フィールド」(203 ページ) を参照してください。 ▶ Quality Center Starter Edition では、リリース・モジュールは使用できません。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ) ▶ 「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)

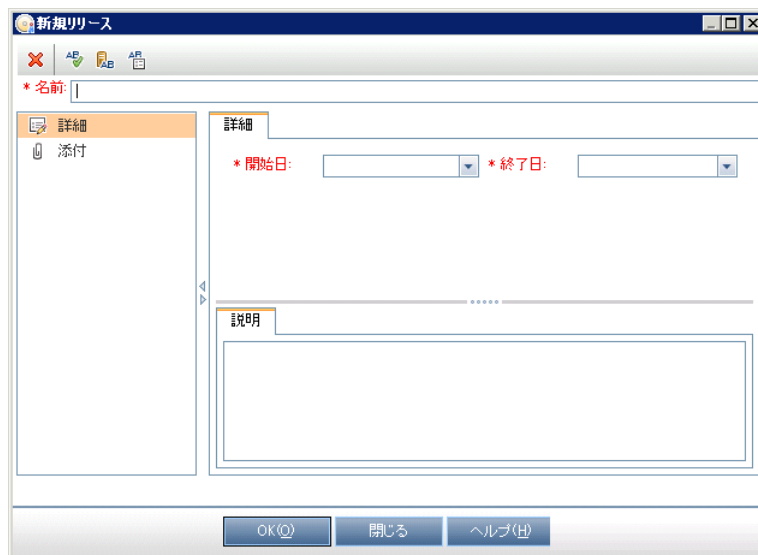
フィールドは次のとおりです。

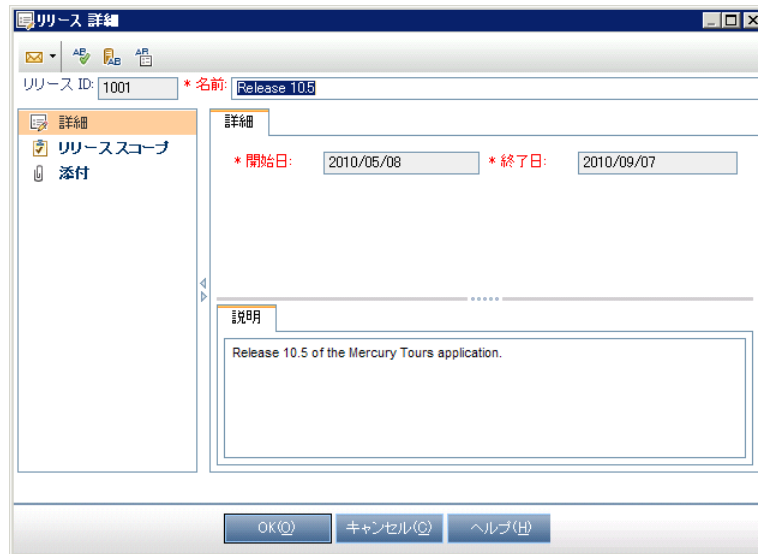
UI 要素	説明
[サイクル ID]	ALM によってサイクルに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。サイクル ID は読み取り専用です。
[終了日]	リリースまたはサイクルが終了する日付です。
[名前]	フォルダ、リリース、またはサイクルの名前です。
[リリース ID]	ALM によってリリースに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。リリース ID は読み取り専用です。
[サイクルに割り当てられた要件]	選択したサイクルに関連付けられている要件の数です。 要件モジュールでサイクルに割り当てられている要件を表示するには、要件の数を示すリンクをクリックします。
[リリースに割り当てられた要件]	選択したリリースに関連付けられている要件の数です。 要件モジュールでリリースに割り当てられている要件を表示するには、要件の数を示すリンクをクリックします。
[開始日]	リリースまたはサイクルが開始される日付です。
[サイクルに割り当てられたテストセットフォルダ]	選択したサイクルに関連付けられているテスト・セット・フォルダの数です。 テスト・ラボ・モジュールでサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダを表示するには、テスト・セット・フォルダの数を示すリンクをクリックします。

[新規リリース] / [リリース詳細] ダイアログ・ボックス

[新規リリース] ダイアログ・ボックスでは、新規リリースを定義できます。

[リリース詳細] ダイアログ・ボックスでは、選択したリリースの詳細を表示および更新できます。









アクセス方法	<p>▶ [新規リリース] ダイアログ・ボックス : リリース・モジュールで、リリース・フォルダを右クリックして、[新規リリース] を選択します。</p> <p>テンプレート・ベースのプロジェクトから : リリース・モジュールで、リリース・フォルダを右クリックして、[新規の空のリリース] を選択します。</p> <p>▶ [リリース詳細] ダイアログ・ボックス : リリース・モジュールで、リリースを右クリックして、[詳細] を選択します。</p>
重要な情報	<p>ALM Editions : [新規リリース] ダイアログ・ボックスは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p> <p>注 : [新規の空のリリース] オプションは、テンプレート・プロジェクトとリンクおよび同期化されたプロジェクトで使用できます。テンプレート・プロジェクトのリンクおよび同期化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)
参照項目	「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)

第 8 章・リリースおよびサイクル

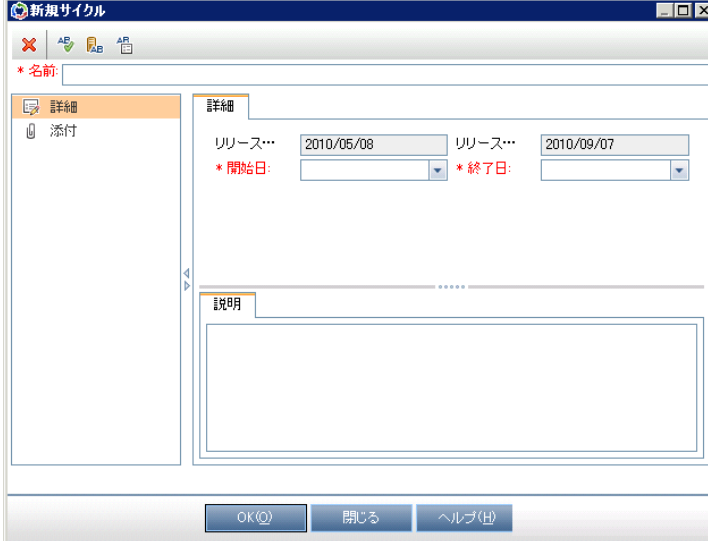
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[全てのフィールドをクリア] : データをクリアします。 [新規リリース] ダイアログ・ボックスから使用できます。
	[スペル・チェック] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[類語辞典] : 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
	[スペル オプション] : スペル・チェックの方法を設定できます。
[添付]	新規リリースに関する追加情報が含まれている添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
[詳細]	リリース・フィールドのリストが表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。使用できるリリース・フィールドの詳細については、「リリース・モジュールのフィールド」(172 ページ) を参照してください。 ヒント : このページの [説明] フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
[名前]	新規リリースに付ける名前を入力します。
[リリース スコープ]	現在選択されているリリースのリリース・スコープ・アイテムが表示されます。詳細については、「[リリース・スコープ] タブ」(205 ページ) を参照してください。 ALM Editions : このタブは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。 [リリースの詳細] ダイアログ・ボックスから使用できます。

[新規サイクル] / [サイクル詳細] ダイアログ・ボックス

[新規サイクル] ダイアログ・ボックスでは、新規リリースを定義できます。

[サイクル詳細] ダイアログ・ボックスでは、選択したリリースの詳細を表示および更新できます。



新規サイクル

* 名前:

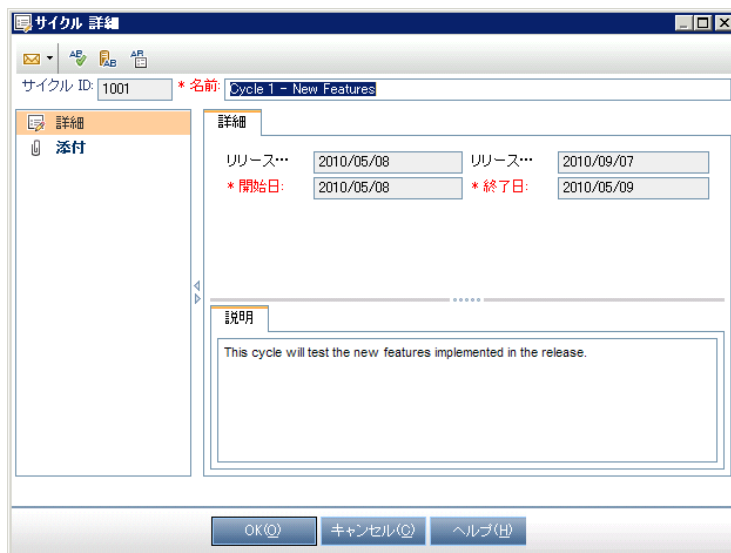
リリース... 2010/05/08 リリース... 2010/09/07

* 開始日: * 終了日:

説明





OK(O) 閉じる ヘルプ(H)

第 8 章・リリースおよびサイクル



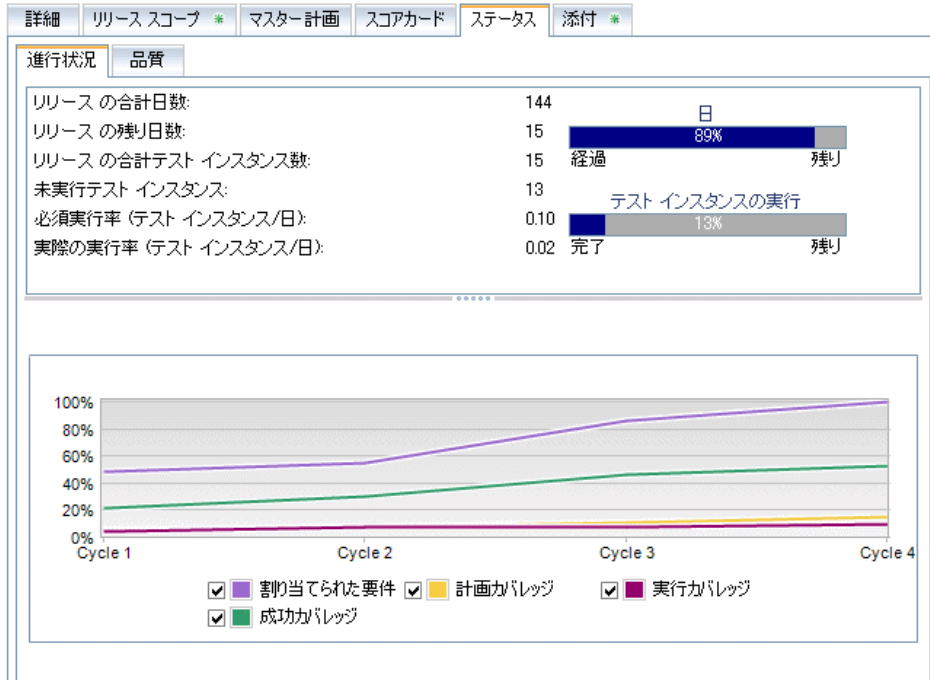
アクセス方法	<p>[新規サイクル] ダイアログ・ボックス : リリース・モジュールで、リリースを右クリックして、[新規サイクル] を選択します。</p> <p>[サイクルの詳細] ダイアログ・ボックス : リリース・モジュールで、リリースを展開し、サイクルを右クリックして、[詳細] を選択します。</p>
重要な情報	<p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」 (154 ページ) ▶ 「PPT の使用方法」 (193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「リリースおよびサイクルの概要」 (152 ページ) ▶ 「PPT リリースの概要」 (192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」 (164 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[全てのフィールドをクリア]: データをクリアします。</p> <p>[新規サイクル] ダイアログ・ボックスから使用できます。</p>
	<p>[スペル チェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[類語辞典]: 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。</p>
	<p>[スペル オプション]: スペル・チェックの方法を設定できます。</p>
[添付]	<p>サイクルに関する追加情報が含まれている添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。</p>
[詳細]	<p>サイクル・フィールドのリストが表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。使用できるサイクル・フィールドの詳細については、「リリース・モジュールのフィールド」(172 ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント: このページの [説明] フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>
[名前]	<p>サイクルの名前です。</p>

[進行状況] タブ

このタブには、リリースまたはサイクルの現在の進行状況を視覚的に示す統計とグラフが表示されます。経過日数および残り日数、完了したテスト・インスタンスおよび実行する残りテスト・インスタンス、ならびに実際の実行率および必要な実行率などの情報が表示されます。



<p>アクセス方法</p>	<p>リリース・モジュールで、次を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リリース：リリース・ツリーでリリースを選択し、[ステータス] タブをクリックして、[進行状況] タブをクリックします。 ▶ サイクル：リリースを展開し、サイクルを選択して、[進行状況] タブをクリックします。
<p>重要な情報</p>	<p>最新のデータを表示するには、リリース・モジュール・ツールバーで [全て更新] ボタン  をクリックします。</p> <p>Quality Center Starter Edition では、リリース・モジュールは使用できません。</p>

関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

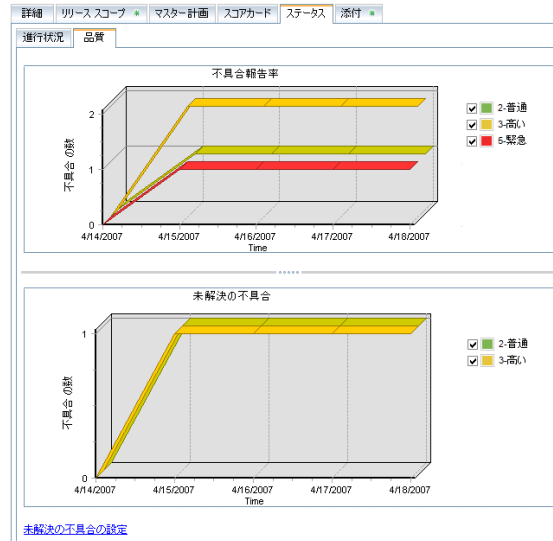
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	説明
[リリースの合計日数] / [サイクルの合計日数]	選択したリリースまたはサイクルの合計日数です(終了日 - 開始日)。
[リリースの残り日数] / [サイクルの残り日数]	選択したリリースまたはサイクルの残り合計日数です。
[リリースの合計テストインスタンス数] / [サイクルの合計テストインスタンス数]	選択したリリースまたはサイクルに割り当てられているテスト・セット・フォルダに含まれているテスト・インスタンスの合計数です。
[未実行テストインスタンス]	選択したリリースまたはサイクルの割り当て済みテスト・セット・フォルダに含まれている未実行のテスト・インスタンスの合計数です。
[必須実行率 (テストインスタンス / 日)]	選択したリリースまたはサイクルの残り日において 1 日に必要なテスト・インスタンスの実行の平均数です。
[日] (進行状況バー)	選択したリリースまたはサイクルの経過日数の割合です。

UI 要素	説明
[テスト インスタンスの 実行] (進行状況バー)	選択したリリースまたはサイクルで完了したテスト・インスタンスの実行の割合です。
[カバレッジの進行状況] グラフ	選択したリリースまたはサイクルのカバレッジの進行状況が表示されます。 次のような表示オプションがあります。 <ul style="list-style-type: none"> ▶ [割り当てられた要件] : 選択したリリース内のすべてのサイクルに割り当てられた要件の累積割合です。このオプションは、リリースに対してのみ使用できます。 ▶ [計画カバレッジ] : 選択したサイクル、または選択したリリース内のすべてのサイクルに計画されているテストの累積割合です。 ▶ [実行カバレッジ] : 選択したサイクル、または選択したリリース内のすべてのサイクルに計画されているテストの累積割合です。 ▶ [成功カバレッジ] : 選択したサイクル、または選択したリリース内のすべてのサイクルで正常に実行されたテストの累積割合です。

[品質] タブ

このタブには、リリースまたはサイクルの間に送信された不具合の数が、視覚的な形式で表示されます。アプリケーション管理プロセスのどの段階でもグラフを表示して、リリースの進行状況を確認できます。



アクセス方法	<p>リリース・モジュールで、次を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ リリース：リリース・ツリーでリリースを選択し、[ステータス] タブをクリックして、[品質] タブをクリックします。 ▶ サイクル：リリースを展開し、サイクルを選択して、[品質] タブをクリックします。
重要な情報	<p>最新のデータを表示するには、リリース・モジュール・ツールバーで [全て更新] ボタン  をクリックします。</p> <p>Quality Center Starter Edition では、リリース・モジュールは使用できません。</p>
関連タスク	<p>「ALM でのリリースおよびサイクルの使用法」 (154 ページ)</p>
参照項目	<p>「リリースおよびサイクルの概要」 (152 ページ)</p> <p>「リリース・モジュール・ウィンドウ」 (164 ページ)</p>

第 8 章・リリースおよびサイクル

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<不具合の重要度レベルの表示オプション>	不具合の重要度レベルに基づいて、グラフに表示される不具合を決定します。重要度レベルの範囲は、「低い-1」から「緊急-5」まであります。
[未解決の不具合の設定]	[未解決の不具合の設定] ダイアログ・ボックスが開き、ステータスによりフィルタ処理をしてグラフに表示する不具合を決定できます。 不具合の表示と非表示を切り替えるには、[利用可能な不具合ステータス] ボックスと [可視不具合ステータス] ボックスの間でステータスを移動させます。
[不具合報告率] グラフ	選択したリリースまたはサイクルの間に追加された不具合の数が表示されます。 グラフには、[検出リリース] または [検出サイクル] の値が選択したリリースに一致する不具合が表示されます。不具合は [重要度] のレベルによってグループ化されます。x 軸には、各サイクルの最終日の重要度に基づいて不具合の数が表示されます。
[未解決の不具合] グラフ	選択したリリースまたはサイクルの未解決の不具合の数が表示されます。 グラフには、[ターゲット リリース] または [ターゲット サイクル] の値が選択したリリースまたはサイクルに一致する不具合、もしくは空の不具合が表示されます。不具合は [重要度] のレベルによってグループ化されます。x 軸には、各サイクルの最終日の重要度に基づいて未解決の不具合の数が表示されます。標準設定では、「新規」、「修正中」、および「要再修正」の不具合が未解決とみなされます。

[サイクルを選択] ダイアログ・ボックス






このダイアログ・ボックスでは、リリース・ツリーで定義したサイクルに要件およびテスト・セット・フォルダを割り当てることができます。



アクセス方法	要件モジュールで要件を右クリックするか、テスト・ラボ・モジュールでテスト・セット・フォルダを右クリックして、 [サイクルに割り当て] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Quality Center Starter Edition では、PPT に関連する機能は使用できません。 ▶ 要件をサイクルに割り当てると、要件の [ターゲット・サイクル] フィールドに値が入力されます。また、サイクルのリリースが [ターゲット・サイクル] フィールドに入力されます。 ▶ テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てると、そのテスト・セットのサブフォルダが同じサイクルに自動的に割り当てられます。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ALM の要件の使用方法」 (315 ページ) ▶ 「テスト・セットを作成する方法」 (718 ページ) ▶ 「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」 (154 ページ)
参照項目	「リリースおよびサイクルの概要」 (152 ページ)

第 8 章・リリースおよびサイクル

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[更新]：最新の情報が表示されるように、リリース・ツリーを更新します。
	[フィルタ/ソート]：選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」（60 ページ）を参照してください。
	[検索]：リリース・ツリーで [検索] ボックスで指定した値を検索します。
	[ID でサイクルに移動]：[サイクルへ移動] ダイアログ・ボックスが開き、サイクル ID に従ってツリー内にサイクルを配置できます。
	割り当てられたサイクルを要件からクリアします。 要件モジュールで使用できます。
<検索ボックス>	検索するサイクルの名前を入力し、[検索] ボタンをクリックします。
<リリース・ツリー>	リリース・モジュールにリリース・ツリーが表示されます。 ツリーを展開し、サイクルを選択します。複数のサイクルに要件を割り当てることができます。




[リリースを選択] ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスでは、リリース・ツリーで定義したリリースに要件を割り当てることができます。



アクセス方法	要件モジュールで、要件を右クリックして、[リリースに割り当て] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ Quality Center Starter Edition では、PPT に関連する機能は使用できません。 ▶ 要件をリリースに割り当てると、要件の [ターゲット・リリース] フィールドに値が入力されます。
関連タスク	「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)
参照項目	「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)

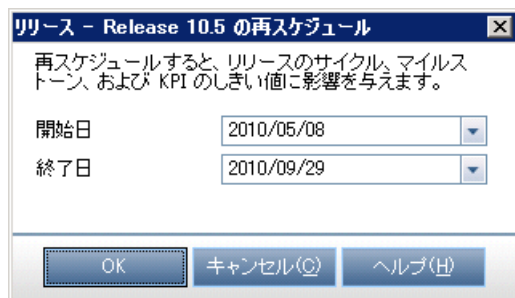
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[更新]: 最新の情報が表示されるように、リリース・ツリーを更新します。
	[フィルタ/ソート]: 選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
	[検索]: リリース・ツリーで [検索] ボックスで指定した値を検索します。

UI 要素	説明
	[ID でサイクルに移動] : [リリースへ移動] ダイアログ・ボックスが開き、リリース ID に従ってツリー内にリリースを配置できます。
	割り当てられたリリースを要件からクリアします。
<検索ボックス>	検索するリリースの名前を入力し、[検索] ボタンをクリックします。
<リリース・ツリー>	リリース・モジュールにリリース・ツリーが表示されます。 ツリーを展開し、1 つまたは複数のリリースを選択します。

[リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール] ダイアログ ボックス

このダイアログ・ボックスでは、要件、サイクル、またはマイルストーンの開始日および終了日を再スケジュールできます。



アクセス方法	リリース・モジュールで、リリース、サイクル、またはマイルストーンを右クリックします。[再スケジュール] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。 ▶ リリースを再スケジュールすると、それに従って関連するサイクル、マイルストーン、KPI しきい値も再スケジュールされます。 ▶ マイルストーンを再スケジュールすると、それに従って関連する KPI しきい値も再スケジュールされます。
関連タスク	<p>「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)</p> <p>「PPT の使用方法」(193 ページ)</p>
参照項目	<p>「リリースおよびサイクルの概要」(152 ページ)</p> <p>「PPT リリースの概要」(192 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[期限日]	マイルストーンが終了する日付です。 [マイルストーンの再スケジュール]ダイアログ・ボックスから使用できます。
[終了日]	リリースまたはサイクルが終了する日付です。 [リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] ダイアログ・ボックスから使用できます。
[開始日]	リリース、サイクル、またはマイルストーンが開始される日付です。

第 9 章

プロジェクトの計画と追跡（PPT）リリース

本章の内容

概念

- ▶ 「PPT リリースの概要」（192 ページ）

タスク

- ▶ 「PPT の使用方法」（193 ページ）

リファレンス

- ▶ 「KPI タイプ」（200 ページ）
- ▶ 「PPT のユーザ・インタフェース」（202 ページ）

概念

PPT リリースの概要

プロジェクトの計画と追跡（PPT）により、品質保証マネージャは、アプリケーション・リリースの作業の目標を定義し、アプリケーションの準備状況を追跡できます。

リリースごとに、リリース・スコープ・アイテムを定義します。**リリース・スコープ・アイテム**は、新しい機能、既存の機能に対する変更、新しいテーマなど、細分化されたリリースの一部を指します。それぞれのスコープ・アイテムに対して、関連する要件、テスト、テスト・セット、不具合を定義します。リリース・スコープ・アイテムの進行状況を計測するには、そのアイテムをマイルストーンに関連付けます。**マイルストーン**は、成果物の完成を表すリリースのスケジュール上の時点を指します。マイルストーンにより、リリースの進行状況を追跡および検証できます。マイルストーンは、1つ以上のリリース・スコープ・アイテムに関連付けできます。

PPT は、リアルタイムの主要業績評価指標（KPI）を使用して、定義済みマイルストーンのデータを収集および分析します。**KPI**とは、経時的な重要業績変数を追跡し、品質保証活動の重要な結果を測定する、定量化可能な指標です。各 KPI に対して、しきい値を定義して警告の制限を設定します。

PPT では、KPI を使用してマイルストーンの準備状況データを分析し、スコアカードの形式でリリースの全体的な稼働状況やデプロイメントの準備状況を示します。スコアカードは、各マイルストーンの日々の達成状況を監視および追跡します。出力結果をさらに分析するために、ダッシュボード・レポートおよびグラフを作成できます。

ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。

作業の詳細については、「PPT の使用方法」（193 ページ）を参照してください。

タスク

PPT の使用方法

このタスクでは、リリース、リリース・スコープ、マイルストーンの定義方法、および要件定義モジュールで、リリース・スコープ・アイテムのステータスを追跡する方法を説明します。PPT の詳細については、「PPT リリースの概要」（192 ページ）を参照してください。

ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。

ヒント : このタスクに関連するユースケース・シナリオについては、「PPT の使用方法 - ユースケース・シナリオ」（195 ページ）を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- ▶ 「リリースの定義」（193 ページ）
- ▶ 「リリース・スコープ・アイテムの定義」（194 ページ）
- ▶ 「マイルストーンの定義」（194 ページ）
- ▶ 「進行状況の分析」（195 ページ）

1 リリースの定義

- a **リリース・モジュールを開く :** ALM サイドバーで、[管理] の下の [リリース] を選択します。要件モジュールのユーザ・インタフェースの詳細については、「リリース・モジュール・ウィンドウ」（164 ページ）を参照してください。
- b **フォルダの作成 :** [リリース] ルート・フォルダを右クリックして、[新規リリース・フォルダ] を選択します。サブフォルダを作成するには、フォルダをクリックして、[新規リリース・フォルダ] を選択します。

- c **リリースの追加**：リリース・フォルダを右クリックして、**[新規リリース]** を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[新規リリース] / [リリース詳細] ダイアログ・ボックス**」（174 ページ）を参照してください。

もしくは、テンプレート・プロジェクトにリンクされているプロジェクトで作業している場合は、リリースをテンプレート・プロジェクトからコピーして作成できます。リリース・フォルダを右クリックして、**[テンプレートからの新規リリースの作成]** を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[テンプレートからの新規リリースの作成] ダイアログ・ボックス**」（238 ページ）を参照してください。

2 リリース・スコープ・アイテムの定義

リリース・ツリーでリリースを選択します。**[リリース スコープ]** タブをクリックします。リリース・スコープ・アイテムを追加して、関連する要件、テスト、テスト・セット、不具合を定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[リリース・スコープ] タブ**」（205 ページ）を参照してください。

3 マイルストーンの定義

- a **マイルストーンの追加**：リリース・ツリーで、リリースを右クリックして、**[新規マイルストーン]** を選択します。**[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックス** が開きます。マイルストーンのスケジュールを定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックス**」（210 ページ）を参照してください。
- b **リリース・スコープ・アイテムの割り当て**：リリース・ツリーでマイルストーンを選択します。**[マイルストーン スコープ]** タブをクリックします。マイルストーンをリリース・スコープ・アイテムに割り当てます。ユーザ・インターフェースの詳細については、「**[マイルストーン スコープ] タブ**」（212 ページ）を参照してください。
- c **KPI の関連付け**：**[KPI]** タブをクリックします。関連する PKI を設定し、それらの KPI に対するパフォーマンスの境界を設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[KPI] タブ**」（215 ページ）を参照してください。

4 進行状況の分析

- ▶ **スコアカードの表示**：リリース・ツリーでリリースを選択します。[スコアカード] タブをクリックします。定義済みマイルストーンのステータスと進行状況が表示されます。[スコアカード] タブのユーザ・インタフェースの詳細については、「[スコアカード] タブ」（228 ページ）を参照してください。
- ▶ **ガント・チャートの表示**：リリース・ツリーでリリースを選択します。[マスター計画] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[マスター計画] タブ」（224 ページ）を参照してください。
- ▶ **PPT グラフの作成**：グラフの生成方法の詳細については、「PPT グラフを生成する方法」（949 ページ）を参照してください。

PPT の使用方法 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、PPT を使用した作業方法を紹介します。たとえば、組織で注文書アプリケーションの新しいバージョンを 6 か月以内にリリースするとします。新しいバージョンには、新しいモバイル・インタフェース、追加の販売レポート、注文書フォームの拡張などの機能強化が含まれています。品質保証マネージャとしては、リリース・スコープ・アイテムおよびマイルストーンを定義し、定義済みのスコープ・アイテムに対するリリースの進行状況や品質を追跡する必要があります。

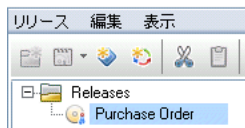
注：このシナリオに関連する作業については、「PPT の使用方法」（193 ページ）を参照してください。

このシナリオは次のステップで構成されています。

- ▶ 「リリースの定義」（196 ページ）
- ▶ 「リリース・スコープ・アイテムの定義」（196 ページ）
- ▶ 「リリースの定義」（197 ページ）
- ▶ 「進行状況の分析」（199 ページ）

1 リリースの定義

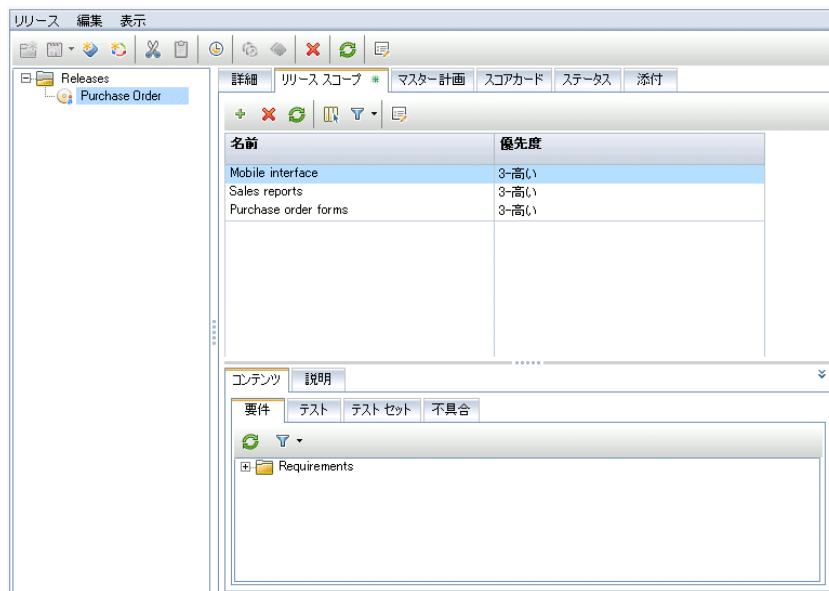
リリース・モジュールで、[Purchase Order] リリースを定義し、リリースの期間を6か月に設定します。



2 リリース・スコープ・アイテムの定義

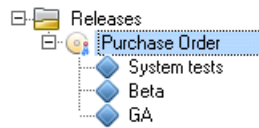
[Purchase Order] リリースを選択して、リリース・スコープ・アイテム [Mobile interface], [Sales reports], [Purchase order forms] を定義します。

[コンテンツ] タブで、各リリース・スコープ・アイテムに対して関連する要件、テスト、テスト・セット、不具合を割り当てることによって、スコープを決定します。



3 リリースの定義

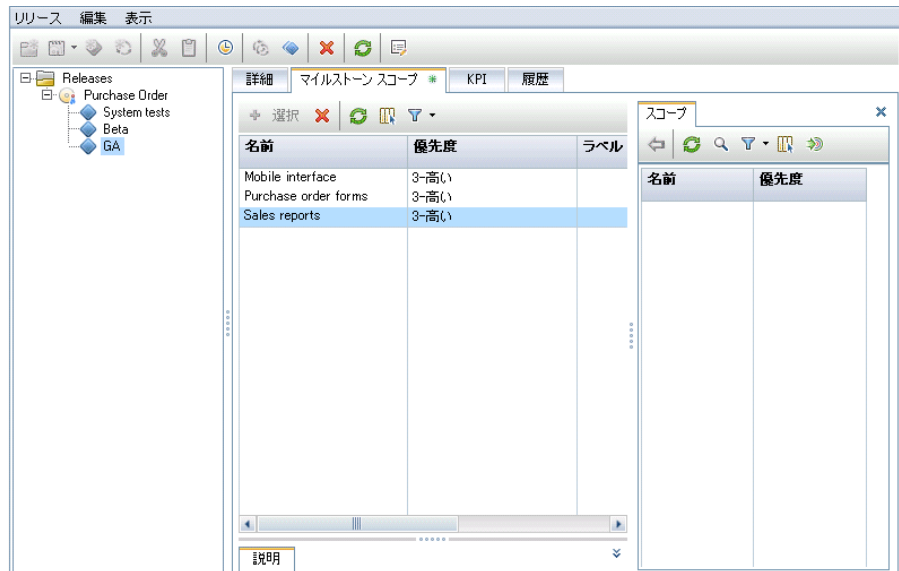
マイルストーン [System tests], [Beta], [GA] をリリースに追加します。



[System tests] マイルストーンの準備状況を計測するには、マイルストーンをリリース・スコープ・アイテム [Mobile interface], [Sales reports], [Purchase order forms] に関連付けます。

[Beta] マイルストーンの準備状況を計測するには、マイルストーンをリリース・スコープ・アイテム [Sales reports] および [Purchase order forms] に関連付けます。

[GA] (General Availability) マイルストーンの準備状況を計測するには、マイルストーンをリリース・スコープ・アイテム [Mobile interface], [Sales reports], [Purchase order forms] に関連付けます。



第9章・プロジェクトの計画と追跡（PPT）リリース

各マイルストーンに対して、[KPI] タブを使用して関連する KPI を定義します。各マイルストーンに対して [重大な不具合] KPI を選択します。[しきい値] 表示枠の [日付] カラムに、選択したマイルストーンの開始日および終了日が表示されます。[良好（より低い）] カラムでは、両方の値が 10 に設定されます。修正が必要な不具合のうち、重要度レベルが [5-緊急] または [4-非常に高い] の不具合の数が 10 未満の場合に、KPI の状態が許容範囲であると見なされます。[警告範囲（%）] では、警告の制限が 10 に設定されます。10 より大きい値は致命的と見なされます。しきい値レビュー・グラフは、Y 軸にしきい値を示しています。

The screenshot displays the KPI configuration window with the following components:

- Navigation:** 詳細, マイルストーンスコープ, KPI, 履歴
- Actions:** KPI の追加, KPI の選択, 有効化, 無効化, KPI として作成
- Instruction:** 各スコープ アイテムで計算する KPI を判定します。KPI のしきい値を表示するには、KPI のセルを選択します。
- KPI Selection Table:**

スコープ	KPIs
スコープ	重大な不具合
スコープアイテム1	
- しきい値 (Thresholds):**

KPI 重大な不具合
スコープ アイテム: 全て (しきい値設定は、各スコープ アイテムに別々に適用されます)

しきい値の追加 | しきい値の削除 | デフォルトしきい値の復元

日付	良好（より…）	警告範囲 (%)
開始: 2010/05/08	10	10
期限: 2010/05/09	10	10
- Threshold Preview Graph:**

Threshold Preview

Y-axis: 重大な不具合 (9, 10, 11, 12)

X-axis: 2010/05/08 to 2010/05/09

Legend: OK (Green), 警告 (Yellow), 致命的 (Red)
- KPIs List:**

KPI タイプ名

 - 1 日あたりの修正不具合
 - カバーされる要件
 - レビュー済み要件
 - 拒否された不具合
 - 作成されたテスト
 - 自動化テスト
 - 実行済みテスト
 - 実行済みテスト インスタンス
 - 重大な不具合
 - 成功テスト
 - 成功要件

4 進行状況の分析

このプロジェクトの計算を実行した後、リリース・ツリーから [Purchase Order] リリースを選択します。[スコアカード] タブをクリックします。スコアカードでは、スコープ・アイテム、マイルストーン、KPI 結果を確認できます。たとえば [System tests] マイルストーンで、[Purchase order forms] リリース・スコープ・アイテムは、計画済みの重大な不具合の数が 10 で、実際の数が 24 であることを示しています。

Purchase Order スコアカード						
	Systemtests		Beta		GA	
	重大な不具合		重大な不具合		重大な不具合	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績
Mobile Interface	10	7			10	7
Purchase order forms	10	24	10	24	10	
Sales Reports	10	14	10	14	10	

* 次の日付までのデータ更新。KPI は、日次ベースで事前に定義された時間ごとに計算されます。マイルストーンが期日になると KPI 計算が終了します。

さらにドリル・ダウンしてスコアカードをグラフとして表示するには、KPI 値をクリックします。

リファレンス

KPI タイプ

この項では、システム定義 KPI のタイプについて説明します。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none">▶ システム定義 KPI を変更して、プロジェクトに追加のユーザ定義 KPI を追加できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。▶ ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
--------------	---

KPI タイプは次のとおりです。

KPI タイプ	説明
作成されたテスト	計画ステータスが [準備完了] に設定されているテストの数を算出します。
自動化テスト	自動化テストの割合を算出します。
カバー済み要件	1つ以上のテストでカバーされている要件の割合を算出します。
1日あたりの修正不具合	1日あたりの修正不具合の数を算出します。
成功要件	カバーするすべてのテストの実行ステータスが [成功] になっている要件の割合を算出します。
成功テスト	最後の実行の実行ステータスが [成功] になっているテストの割合を算出します。
却下された不具合	却下された不具合の割合を算出します。
レビュー済み要件	レビュー済みのビジネスまたは機能の要件の割合を算出します。
重大な不具合	ステータスが [新規], [修正中], または [要再修正] の不具合のうち、重要度レベルが [5-緊急] または [4-非常に高い] と割り当てられている不具合の数を算出します。
実行済みテストインスタンス	実行済みテスト インスタンスの割合を算出します。
実行済みテスト	実行済みテストの割合を算出します。

PPT のユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 「PPT フィールド」 (203 ページ)
- ▶ 「[リリース・スコープ] タブ」 (205 ページ)
- ▶ 「[新規スコープ アイテム] / [スコープ アイテム詳細] ダイアログ・ボックス」 (208 ページ)
- ▶ 「[新規マイルストーン] ダイアログ・ボックス」 (210 ページ)
- ▶ 「[マイルストーン スコープ] タブ」 (212 ページ)
- ▶ 「[KPI] タブ」 (215 ページ)
- ▶ 「[新規 KPI] / [KPI 詳細] ダイアログ・ボックス」 (218 ページ)
- ▶ 「[しきい値] ページ」 (220 ページ)
- ▶ 「[新規しきい値] ダイアログ・ボックス」 (223 ページ)
- ▶ 「[マスター計画] タブ」 (224 ページ)
- ▶ 「[マイルストーン詳細] ダイアログ・ボックス」 (226 ページ)
- ▶ 「[スコアカード] タブ」 (228 ページ)
- ▶ 「KPI グラフ」 (230 ページ)
- ▶ 「経過時間ごとのブレイクダウン・グラフ」 (232 ページ)
- ▶ 「[スコアカード レイアウト] ダイアログ・ボックス」 (236 ページ)
- ▶ 「[テンプレートからの新規リリースの作成] ダイアログ・ボックス」 (238 ページ)

PPT フィールド

本項では、リリース・モジュールの PPT フィールドについて説明します。

重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ リリース・モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ スクリプト・エディタを使用して、リリース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[リリース・スコープ] タブ」(205 ページ) ▶ 「[マスター計画] タブ」(224 ページ) ▶ 「[スコアカード] タブ」(228 ページ) ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ)

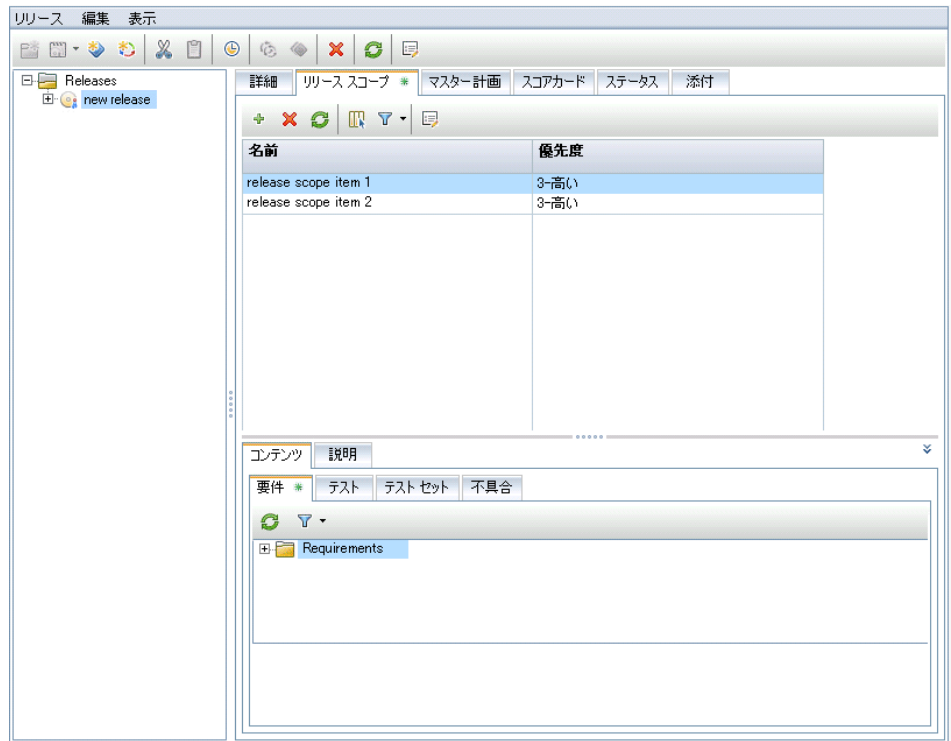
第9章・プロジェクトの計画と追跡（PPT）リリース

フィールドは次のとおりです。

UI 要素	説明
[期限日]	マイルストーンが終了する日付です。
[KPI タイプ]	KPI のタイプ。
[ラベル]	[マスター計画] タブのグラフに表示されるリリース・スコープ・アイテムの名前です。
[マイルストーン ID]	ALM によってマイルストーンに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。マイルストーン ID は読み取り専用です。
[更新日時]	リリース・スコープ・アイテムまたはマイルストーンが最後に更新された日時です。 標準設定値 ：データベース・サーバの日付と時刻
[名前]	リリース・スコープ・アイテムまたはマイルストーンの名前です。
[所有者]	リリース・スコープ・アイテムの所有者のユーザ名です。
[優先度]	低い優先度（レベル 1）～高い優先度（レベル 3）の範囲で表す、リリース・スコープ・アイテムの優先度です。
[リリース終了日]	リリースが終了する日付です。
[リリース ID]	ALM によってリリースに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。リリース ID は読み取り専用です。
[リリース開始日]	リリースが開始される日付です。
[スコープ アイテム ID]	リリース・スコープ・アイテムに自動的に割り当てられる一意の英数字の ID です。このフィールドは変更できません。
[追跡開始日]	マイルストーンが開始される日付です。

[リリース・スコープ] タブ







このタブでは、リリース・スコープ・アイテムを定義および更新できます。



アクセス方法	リリース・モジュールで、リリースを選択して [リリース スコープ] タブをクリックします。
重要な情報	ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

第9章・プロジェクトの計画と追跡（PPT）リリース

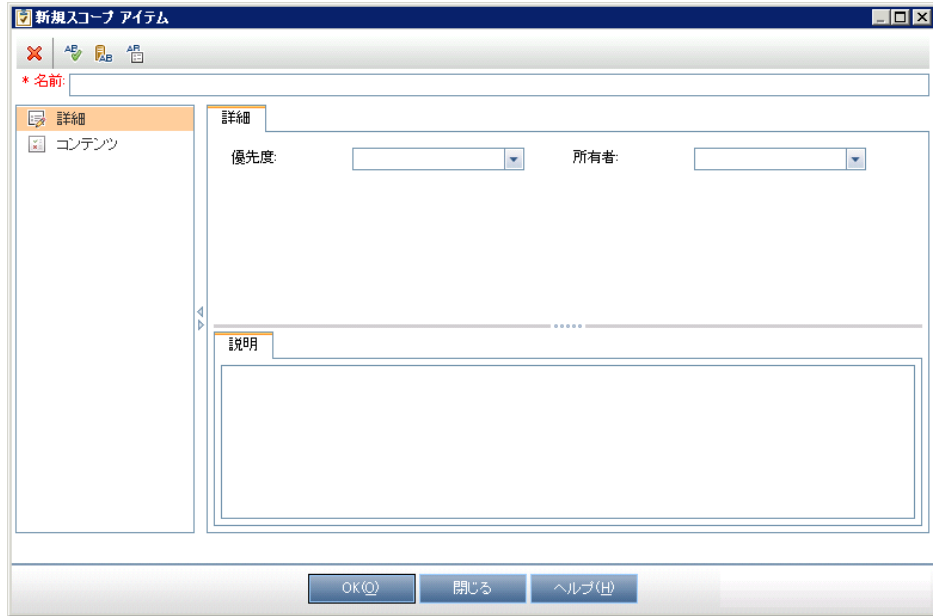
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[新規スコープ アイテム] : [新規スコープ アイテム] ダイアログ・ボックスが開き、リリース・スコープ・アイテムを定義できます。詳細については、「[新規スコープ アイテム] / [スコープ アイテム詳細] ダイアログ・ボックス」(208 ページ) を参照してください。
	[削除] : 選択したリリース・スコープ・アイテムを削除します。
	[更新] : 最新の情報が表示されるように、リリース・スコープ・グリッドを更新します。
	[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、リリース・スコープ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
	[フィルタ/ソート] : 選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
	[スコープ アイテムの詳細] : [スコープ アイテムの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したリリース・スコープ・アイテムの詳細を表示できます。詳細については、「[新規スコープ アイテム] / [スコープ アイテム詳細] ダイアログ・ボックス」(208 ページ) を参照してください。
	表示/非表示 : [説明] タブおよび [コンテンツ] タブの表示と非表示を切り替えます。

UI 要素	説明
<p>【コンテンツ】タブ</p>	<p>リリース・スコープ・アイテムに含めるコンテンツを選択できます。次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【要件】：要件ツリーを表示します。 ツリーを展開して、リリース・スコープ・アイテムに含める要件を選択します。 ▶ 【テスト】：テスト計画ツリーを表示します。 ツリーを展開して、リリース・スコープ・アイテムに含めるテストを選択します。 [要件] タブで選択した要件がカバーするテストのみを含めるには、【選択した要件をカバーするテスト】を選択します。 ▶ 【テスト セット】：テスト・セット・ツリーを表示します。 ツリーを展開して、リリース・スコープ・アイテムに含めるテスト・セットを選択します。 [テスト] タブで選択したテストを含むテスト・セットのみを含めるには、【選択したテストを含むテスト セット】を選択します。 ▶ 【不具合】：不具合グリッドを表示します。 リリース・スコープ・アイテムに含める不具合を決定するフィルタを定義します。
<p>【説明】 タブ</p>	<p>リリース・スコープ・アイテムの説明です。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>






🔑 [新規スコープ アイテム] / [スコープ アイテム詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、リリース・スコープ・アイテムを定義および更新できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [リリース スコープ] タブで、リリース・スコープ・グリッドを右クリックして、[新規スコープ アイテム] を選択します。[新規スコープ アイテム] ダイアログ・ボックスが開きます。 ▶ [リリース スコープ] タブで、リリース・スコープ・アイテムを右クリックして、[スコープアイテムの詳細] を選択します。[スコープアイテム詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。
<p>重要な情報</p>	<p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「PPT の使用方法」(193 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[最初のエンティティ] / [前のエンティティ] / [次のエンティティ] / [最後のエンティティ]: リリース・スコープ・アイテムを参照できます。</p> <p>[スコープアイテム詳細] ダイアログ・ボックスから使用できます。</p>
	<p>[全てのフィールドをクリア]: ダイアログ・ボックスのすべてのフィールドをクリアします。</p> <p>[新規スコープアイテム] ダイアログ・ボックスから使用できます。</p>
	<p>[スペル チェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[類語辞典]: 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。</p>
	<p>[スペル オプション]: スペル・チェックの方法を設定できます。</p>
<p>[コンテンツ]</p>	<p>リリース・スコープ・アイテムに含めるコンテンツが表示されます。次のタブが含まれます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [要件]: 要件ツリーを表示します。 ツリーを展開して、リリース・スコープ・アイテムに含める要件を選択します。 ▶ [テスト]: テスト計画ツリーを表示します。 ツリーを展開して、リリース・スコープ・アイテムに含めるテストを選択します。 [要件] タブで選択した要件がカバーするテストのみを含めるには、[選択した要件をカバーするテスト]を選択します。 ▶ [テストセット]: テスト・セット・ツリーを表示します。 ツリーを展開して、リリース・スコープ・アイテムに含めるテスト・セットを選択します。 [テスト] タブで選択したテストを含むテスト・セットのみを含めるには、[選択したテストを含むテストセット]を選択します。 ▶ [不具合]: 不具合グリッドを表示します。 リリース・スコープ・アイテムに含める不具合を決定するフィルタを定義します。

UI 要素	説明
【詳細】	リリース・スコープ・アイテムの詳細が表示されます。使用できるフィールドの詳細については、「PPT フィールド」（203 ページ）を参照してください。
【説明】	リリース・スコープ・アイテムの説明です。 テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
【名前】	リリース・スコープ・アイテムの名前です。

【新規マイルストーン】 ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、マイルストーンを定義および更新できます。



新規マイルストーン

* 名前:

詳細

リリース 開始日: 2010/09/14 リリース 終了日: 2010/09/15





* 追跡開始日: * 期限日:

説明

OK(O) 閉じる ヘルプ(H)

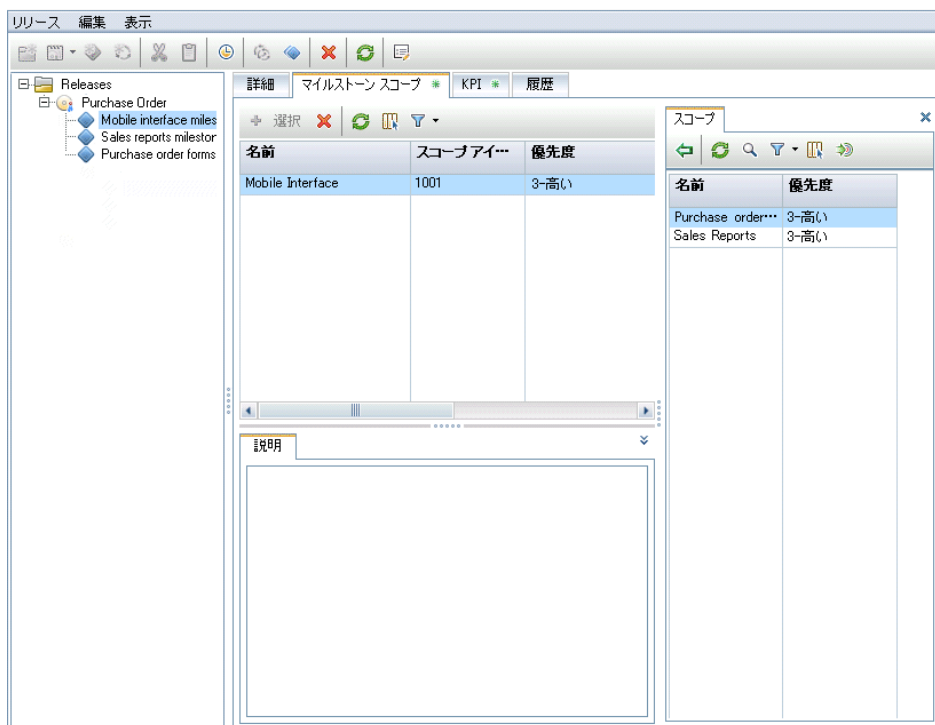
アクセス方法	リリース・モジュールで、リリースを右クリックして、 [新規マイルストーン] を選択します。 [新規マイルストーン] ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	ALM Editions: PPTに関連する機能は、HP ALM Quality Center Starter Edition, HP ALM Quality Center Enterprise Edition, HP ALM Performance Center Editionでは使用できません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[全てのフィールドをクリア] : ダイアログ・ボックスのすべてのフィールドをクリアします。 [新規マイルストーン] ダイアログ・ボックスから使用できます。
	[スペル チェック] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[類語辞典] : 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
	[スペル オプション] : スペル・チェックの方法を設定できます。
[説明]	マイルストーンの説明です。
[詳細]	マイルストーンの詳細が表示されます。使用できるフィールドの詳細については、「PPT フィールド」(203 ページ)を参照してください。
[名前]	マイルストーンの名前です。

[マイルストーン スコープ] タブ






このタブでは、マイルストーンをリリース・スコープ・アイテムに関連付けることができます。



アクセス方法	マイルストーンを選択します。[マイルストーン スコープ] タブをクリックします。
重要な情報	ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)



マイルストーン・スコープ・グリッド





次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[スコープ アイテムを選択] ：[スコープ] 表示枠が開き、リリース・スコープ・アイテムを選択できます。
	[スコープ アイテムを削除] ：選択したスコープ・アイテムをグリッドから削除します。
	[更新] ：最新の情報が表示されるように、マイルストーン・スコープ・グリッドを更新します。
	[カラムを選択] ：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、マイルストーン・スコープ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」（90 ページ）を参照してください。
	[フィルタ/ソート] ：選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」（60 ページ）を参照してください。

[スコープ] 表示枠

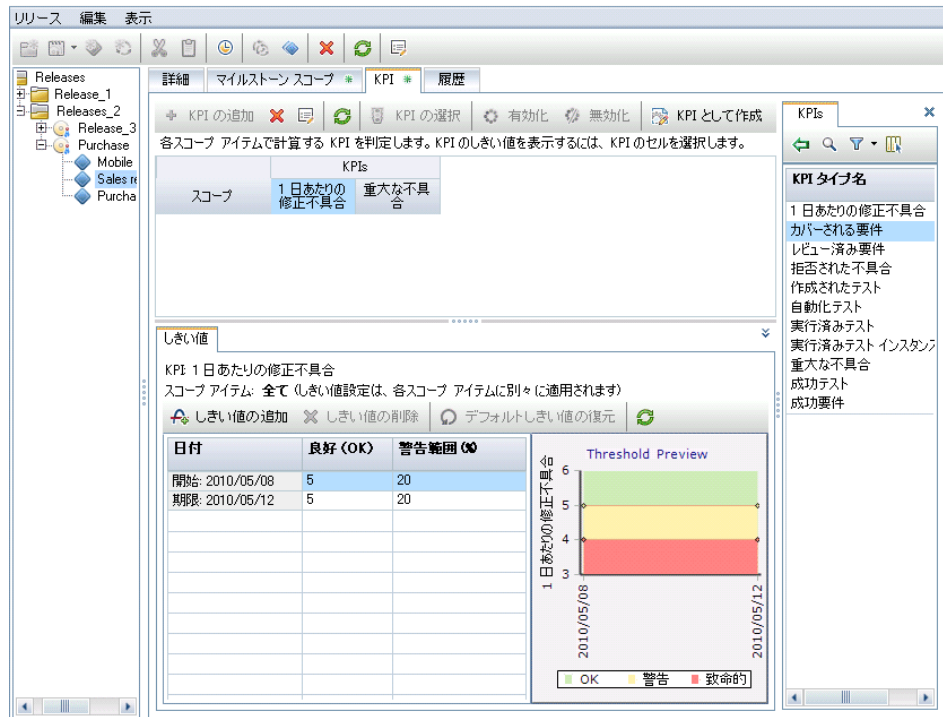
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[スコープ アイテムの追加] ：選択したリリース・スコープ・アイテムをマイルストーン・スコープ・グリッドに追加します。 ヒント ：リリース・スコープ・アイテムを、スコープ・アイテム・グリッドからマイルストーン・スコープ・グリッドにドラッグして追加することもできます。
	[更新] ：スコープ・アイテム・グリッドを更新します。

UI 要素	説明
	<p>[検索] : スコープ・アイテム・グリッドで、特定のリリース・スコープ・アイテムを検索します。</p> <p>[検索] ボックスにリリース・スコープ・アイテムの名前（または名前の一部）を入力して、[検索] をクリックします。検索が成功すると、スコープ・アイテム・グリッドでリリース・スコープ・アイテムが強調表示されます。</p>
	<p>[フィルタ/ソート] : スコープ・アイテム・グリッドで、リリース・スコープ・アイテムをフィルタ処理および並べ替えします。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」（60 ページ）を参照してください。</p>
	<p>[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、カラムの表示形式と順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」（90 ページ）を参照してください。</p>
	<p>[ID でスコープ アイテムに移動] : [スコープ アイテムへ移動] ダイアログ・ボックスが開き、[スコープ アイテム ID] で特定のテストを検索できます。</p> <p>注 : 現在のフィルタに存在するリリース・スコープ・アイテムにのみ移動できます。</p>

[KPI] タブ

このタブでは、KPI の定義およびしきい値の設定ができます。



アクセス方法	マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。
重要な情報	ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)





メイン領域

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 KPI の追加	[KPIs] 表示枠が開き、KPI を選択できます。
	[KPI を削除] : 選択した KPI を新規マイルストーン・グリッドから削除します。
	[KPI 詳細の表示] : [KPI 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、KPI およびしきい値を更新できます。詳細については、「[新規 KPI] / [KPI 詳細] ダイアログ・ボックス」(218 ページ) を参照してください。
	[更新] : 最新の情報が表示されるように、グリッドを更新します。
 KPI の選択	選択した KPI のしきい値を表示します。
 有効化	選択した KPI を定義済みマイルストーン・スコープに含めます。
 無効化	選択した KPI を定義済みマイルストーン・スコープから除外します。
 KPI として作成	[新規 KPI] ダイアログ・ボックスが開き、選択した KPI に基づいて新しい KPI を作成できます。詳細については、「[新規 KPI] / [KPI 詳細] ダイアログ・ボックス」(218 ページ) を参照してください。
	表示/非表示 : [しきい値] 表示枠の表示と非表示を切り替えます。
[しきい値] 表示枠	選択した KPI のしきい値を管理できます。詳細については、「[しきい値] ページ」(220 ページ) を参照してください。

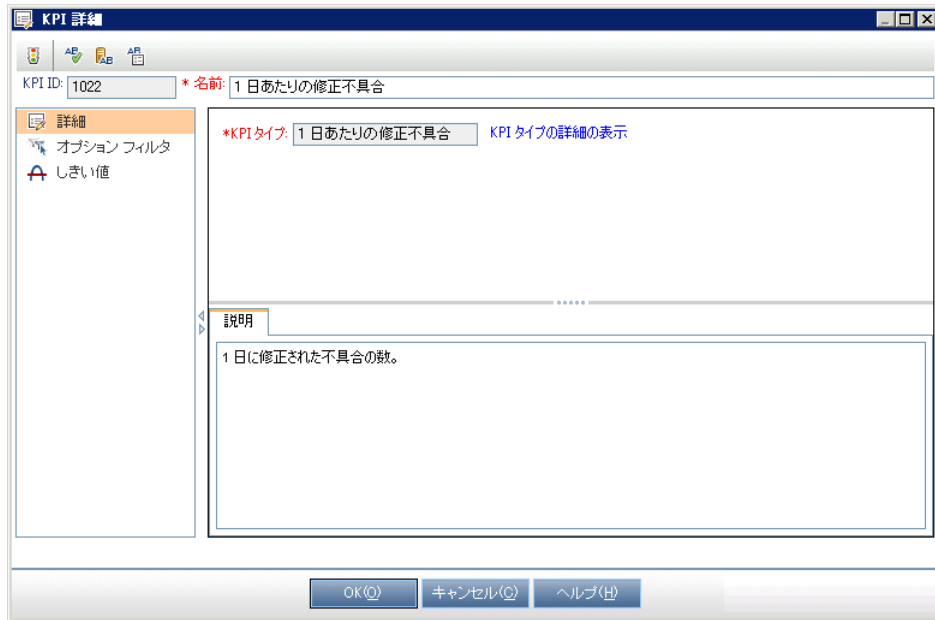
[KPIs] 表示枠

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	[説明]
	<p>[KPI の追加] : 選択した KPI を、メイン領域の [KPI] タブに追加します。</p>
	<p>[検索] : KPI グリッドで特定の KPI を検索します。</p> <p>[検索] ボックスに KPI の名前（または名前の一部）を入力して、[検索] をクリックします。検索が成功すると、KPI グリッドで KPI が強調表示されます。</p>
	<p>[フィルタ/ソート] : KPI グリッドで KPI をフィルタ処理および並べ替えします。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」（60 ページ）を参照してください。</p>
	<p>[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、カラムの表示形式と順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」（90 ページ）を参照してください。</p>

[新規 KPI] / [KPI 詳細] ダイアログ・ボックス






このダイアログ・ボックスでは、KPI を定義および更新できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。[KPI として作成] をクリックします。[新規 KPI] ダイアログ・ボックスが開きます。 ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。[KPI 詳細の表示]  をクリックします。[KPI の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。
<p>重要な情報</p>	<p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「PPT の使用方法」(193 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「KPI タイプ」(200 ページ) ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

共通要素

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[全てのフィールドをクリア]：ダイアログ・ボックスのすべてのフィールドをクリアします。</p> <p>[新規 KPI] ダイアログ・ボックスから使用できます。</p>
	<p>[KPI タイプ定義の表示]：[KPI タイプ定義] ダイアログ・ボックスが開き、選択した KPI に関する追加情報を表示できます。</p>
	<p>[スペル チェック]：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[類語辞典]：選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。</p>
	<p>[スペル オプション]：スペル・チェックの方法を設定できます。</p>
[名前]	KPI の名前。



[詳細] ビュー

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[説明]	選択した KPI の説明。
[KPI タイプ]	KPI のタイプ。使用できる KPI の詳細については、「KPI タイプ」(200 ページ) を参照してください。
[KPI タイプの詳細の表示]	選択した KPI の詳細を表示します。

[オプション フィルタ] ビュー

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[フィルタ/ソートを設定]: 選択した条件に従って KPI データを限定できます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
	[フィルタをクリア]: 定義済みフィルタをクリアします。
[KPI タイプの詳細の表示]	選択した KPI の詳細を表示します。

[しきい値] ビュー





このビューでは、選択した KPI のしきい値を管理できます。詳細については、「[しきい値] ページ」(220 ページ) を参照してください。

[しきい値] ページ

この表示枠では、選択した KPI のしきい値を管理できます。

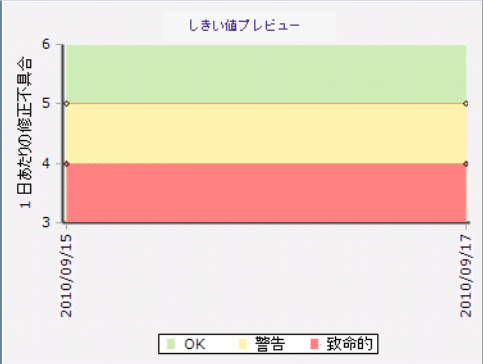
しきい値

KPI 1 日あたりの修正不具合
スコープ アイテム: 全て (しきい値設定は、各スコープ アイテムに別々に適用されます)

 しきい値の追加  しきい値の削除  デフォルトしきい値の復元 

日付	良好 (OK)	警告範囲 (⚠)
開始: 2010/09/15	5	20
期限: 2010/09/17	5	20


しきい値プレビュー







1日あたりの修正不具合

2010/09/15 2010/09/17

OK 警告 致命的

<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。[KPI として作成] をクリックします。[新規 KPI] ダイアログ・ボックスが開きます。[しきい値] をクリックします。 ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。[KPI 詳細の表示]  をクリックします。[KPI の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[しきい値] をクリックします。 ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。下部に [しきい値] 表示枠が表示されます。
<p>重要な情報</p>	<p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「PPT の使用方法」(193 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 しきい値の追加	<p>[新規しきい値] ダイアログ・ボックスが開き、選択した KPI のしきい値を定義できます。詳細については、「[新規しきい値] ダイアログ・ボックス」(223 ページ) を参照してください。</p>
 しきい値の削除	<p>選択したしきい値をしきい値グリッドから削除します。</p>
 デフォルトしきい値の復元	<p>デフォルトの KPI しきい値を復元します。</p>
	<p>[更新] : 最新の情報が表示されるように、新規しきい値グリッドを更新します。</p>

第 9 章・プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリース

UI 要素	説明
【警告範囲 (%)】	警告のしきい値。値がこの制限値以上で、 【良好 (OK)】 しきい値より小さい場合は、警告 KPI 状態であることを示します。値がこの制限値以下で、 【良好 (より低い)】 しきい値より大きい場合は、警告 KPI 状態であることを示します。
【日付】	しきい値の日付。
【良好 (OK)】	この制限値より大きい値は、良好な KPI 状態を示します。この制限値より小さい値は、正常ではない KPI 状態を示します。
【良好 (より低い)】	この制限値より小さい値は、良好な KPI 状態を示します。この制限値より大きい値は、正常ではない KPI 状態を示します。
【しきい値プレビュー】	次のように色分けされたしきい値を使用して、選択した KPI のステータスの視覚的なインジケータが表示されます。 <ul style="list-style-type: none">▶ 緑：良好な KPI 状態を示します。▶ 黄：許容範囲または警告 KPI 状態であることを示します。▶ 赤：正常でない KPI 状態を示します。

[新規しきい値] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、選択した KPI のしきい値を管理できます。

アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。[KPI として作成] をクリックします。[新規 KPI] ダイアログ・ボックスが開きます。[しきい値] をクリックします。[しきい値の追加]  をクリックします。 ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。[KPI 詳細の表示]  をクリックします。[KPI の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[しきい値] をクリックします。[しきい値の追加]  をクリックします。 ▶ マイルストーンを選択します。[KPI] タブをクリックします。下部に [しきい値] 表示枠が表示されます。[しきい値の追加]  をクリックします。
重要な情報	<p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
関連タスク	<p>「PPT の使用方法」(193 ページ)</p>
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

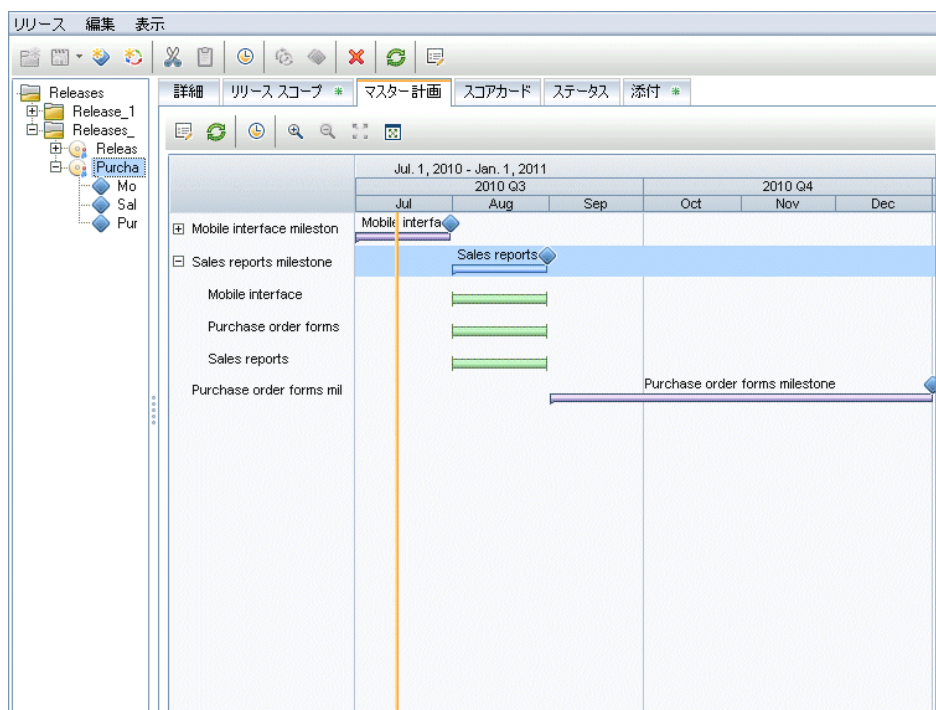
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[警告範囲 (%)]	<p>警告のしきい値。値がこの制限値以上で、[良好 (OK)] しきい値より小さい場合は、警告 KPI 状態であることを示します。値がこの制限値以下で、[良好 (より低い)] しきい値より大きい場合は、警告 KPI 状態であることを示します。</p>
[日付]	<p>しきい値の日付。</p>

UI 要素	説明
[良好 (OK)]	この制限値より大きい値は、良好な KPI 状態を示します。この制限値より小さい値は、正常ではない KPI 状態を示します。
[良好 (より低い)]	この制限値より小さい値は、良好な KPI 状態を示します。この制限値より大きい値は、正常ではない KPI 状態を示します。





[マスター計画] タブ



このタブでは、リリースの進行状況がガント・チャートで表示されます。



アクセス方法	リリース・モジュールで、リリースを選択して [マスター計画] タブをクリックします。
重要な情報	ALM Editions : PPTに関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[詳細を表示] : 選択したエンティティに応じて、該当する [詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。サイクル、マイルストーン、リリース・スコープ・アイテムを選択できます。</p> <p>サイクルの詳細については、「[新規サイクル] / [サイクル詳細] ダイアログ・ボックス」(177 ページ) を参照してください。</p> <p>マイルストーンの詳細については、「[マイルストーン詳細] ダイアログ・ボックス」(226 ページ) を参照してください。</p> <p>リリース・スコープ・アイテムの詳細については、「[新規スコープアイテム] / [スコープアイテム詳細] ダイアログ・ボックス」(208 ページ) を参照してください。</p> <p>ヒント : グラフ上のエンティティをダブルクリックすることもできます。該当する [詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
	[更新] : 最新の情報が表示されるように、グラフを更新します。
	[再スケジュール] : 要件、サイクル、またはマイルストーンの開始日および終了日を再スケジュールできます。詳細については、「 [リリースの再スケジュール] / [サイクルの再スケジュール] / [マイルストーンの再スケジュール] ダイアログボックス」(188 ページ) を参照してください。
	[ズームイン] / [ズームアウト] : グラフの表示倍率を変更します。

UI 要素	説明
	[リリース全体の表示]: グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは、[ズームイン] ボタンまたは [ズームアウト] ボタンを使用している場合に有効になります。
	[全画面表示ビュー]: 新しいウィンドウでグラフを開き、表示を最大化します。

[マイルストーン詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、マイルストーンを表示および更新できます。



マイルストーン 詳細

マイルストーン ID: 1003 * 名前: Sales reports milestone

詳細

リリース 開始日: 2010/05/08 リリース 終了日: 2010/09/29




* 追跡開始日: 2010/05/08 * 期限日: 2010/05/12

説明

OK(O) キャンセル(Q) ヘルプ(H)

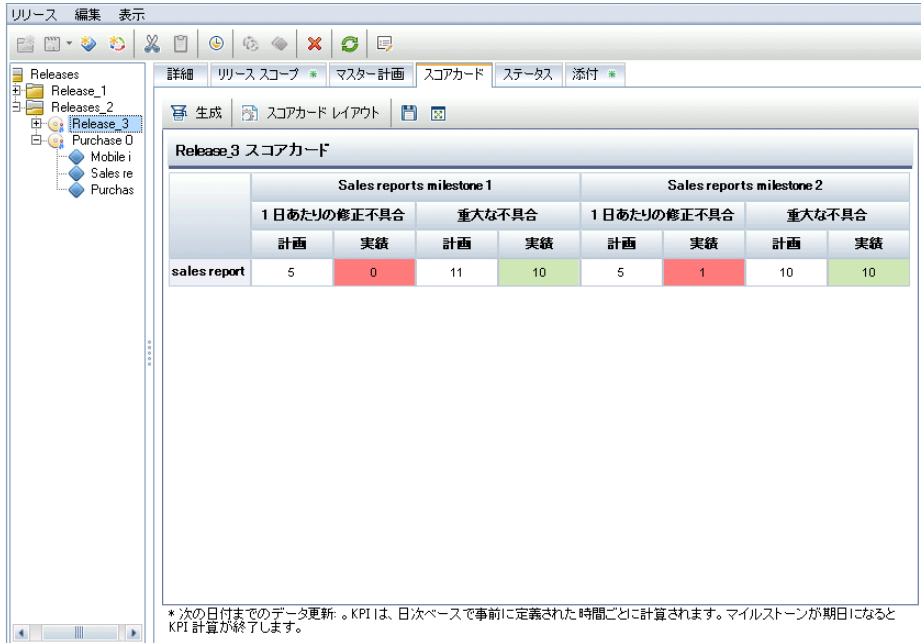
アクセス方法	リリース・モジュールで、リリースを選択して [マスター計画] タブをクリックします。グラフ上のマイルストーンをダブルクリックします。
重要な情報	ALM Editions : PPTに関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition ではありません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[スペルチェック] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[類語辞典] : 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
	[スペルオプション] : スペル・チェックの方法を設定できます。
[説明]	マイルストーンの説明です。
[詳細]	マイルストーンの詳細が表示されます。使用できるフィールドの詳細については、「PPT フィールド」(203 ページ) を参照してください。
[履歴]	変更時に変更が加えられたフィールドを表示できます。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。
[KPI]	KPI の定義およびしきい値の設定ができます。詳細については、「[KPI] タブ」(215 ページ) を参照してください。
[マイルストーン ID]	ALM によってマイルストーンに自動的に割り当てられる一意の ID 番号です。マイルストーン ID は読み取り専用です。
[マイルストーン スcope]	リリース・スコープ・アイテムを表示および更新できます。詳細については、「[マイルストーン スcope] タブ」(212 ページ) を参照してください。
[名前]	マイルストーンの名前です。

🔑 [スコアカード] タブ

このタブでは、KPI 計算結果が表示され、リリース・マイルストーンのステータスを判断できます。KPI のセルをクリックすると、計算結果をドリル・ダウンしてグラフとして表示できます。







	Sales reports milestone 1				Sales reports milestone 2			
	1日あたりの修正不具合		重大な不具合		1日あたりの修正不具合		重大な不具合	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績
sales report	5	0	11	10	5	1	10	10

* 次の日付までのデータ更新。KPIは、日次ベースで事前に定義された時間ごとに計算されます。マイルストーンが期日になると KPI 計算が終了します。

アクセス方法	リリース・モジュールで、リリースを選択して [スコアカード] タブをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [スコアカード] タブに進行状況を表示させるには、プロジェクトに対して計算を実行する必要があります。計算を自動または手動で実行するよう、スケジュール設定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。

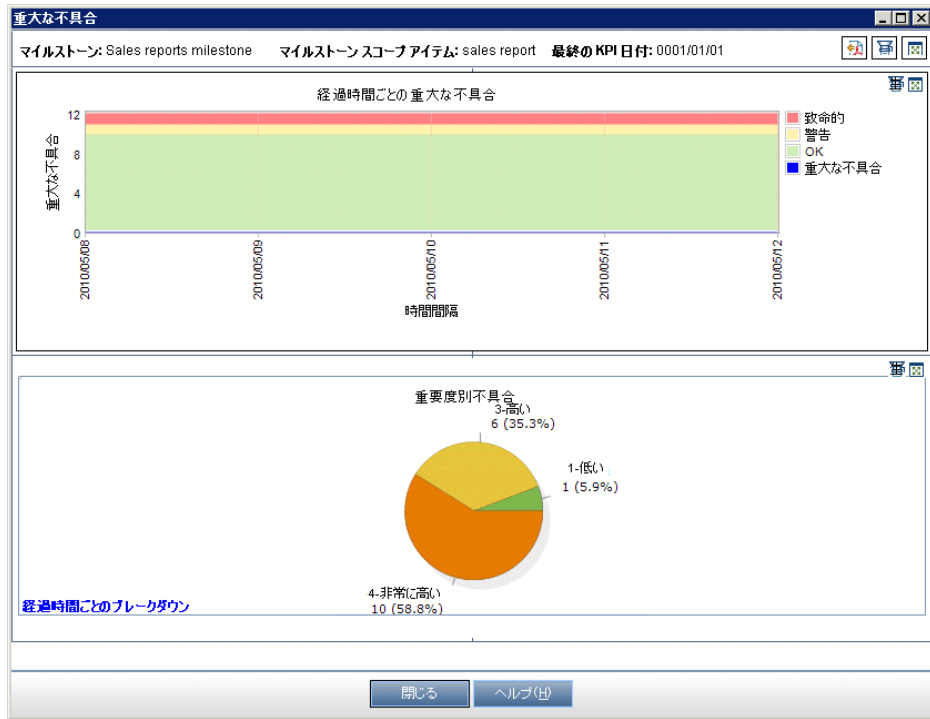
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ) ▶ 「[表示] タブ PPT グラフ」(955 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 生成	<p>最新の情報が表示されるように、スコアカード・テーブルを更新します。</p> <p>スコアカード・テーブルの詳細については、「[表示] タブ PPT グラフ」(955 ページ)を参照してください。</p> <p>注: KPI は、毎日定義された時間に計算されます。マイルストーンは、期限日に達したときに計算されます。</p>
 スコアカード レイアウト	<p>[スコアカード レイアウト]: [スコアカード レイアウト] ダイアログ・ボックスが開き、スコアカード・テーブルを設定できます。詳細については、「[スコアカード レイアウト] ダイアログ・ボックス」(236 ページ)を参照してください。</p>
	<p>[グラフ画像の保存]: スコアカード・テーブルを画像として保存します。</p>
	<p>[全画面表示]: スコアカード・テーブルを全画面モードで表示します。</p>
< KPI セル >	<p>KPI セルで次の操作ができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ KPI セルをクリックして、このセルを表現したグラフを表示できます。詳細については、「KPI グラフ」(230 ページ)を参照してください。 ▶ KPI セル上にマウス・カーソルを合わせると、KPI のしきい値を含むヒントが表示されます。

KPI グラフ




このグラフでは、KPI セルのスコアカード計算が表示されます。



<p>アクセス方法</p>	<p>リリース・モジュールで、リリースを選択して [スコアカード] タブをクリックします。KPIセルをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ グラフ・ページには、2 つまでの追加のグラフを含めることができます。このページをカスタマイズして、これらの追加のグラフを表示するかどうかを決定できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。

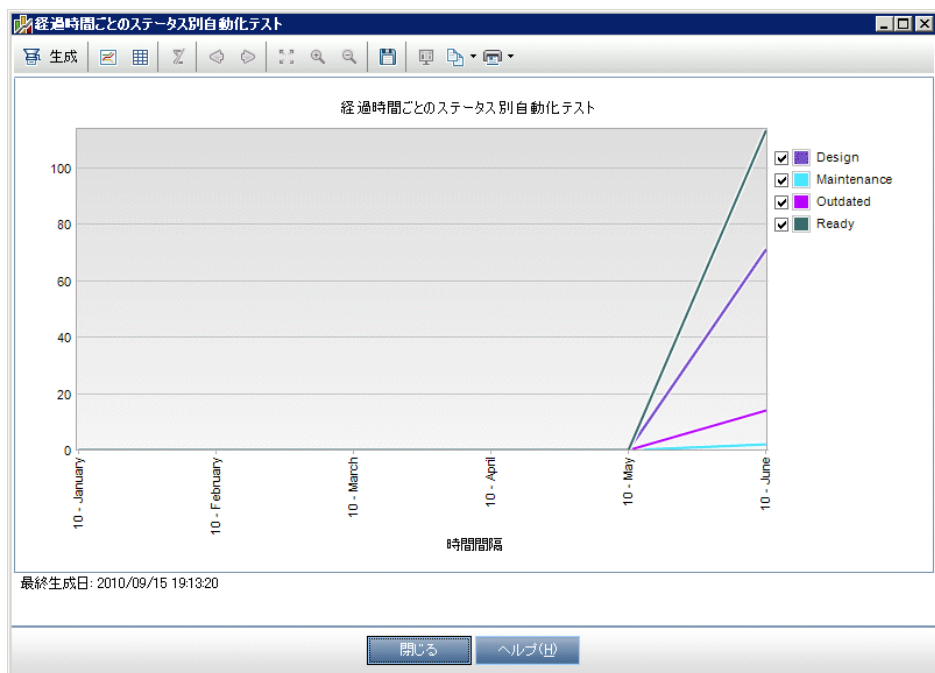
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[PDF にエクスポート] : [名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスが開き、グラフを PDF として保存できます。
	[すべてのグラフをページに生成] / [グラフを生成] : 最新の情報が表示されるように、ページ内のすべてのグラフを更新します。
	[全画面でページを表示] : ダッシュボード・ページを全画面モードで表示します。 [全画面でグラフを表示] : グラフを全画面モードで表示します。
<グラフ領域>	グラフのセグメント上にマウス・カーソルを合わせると、追加情報を含むヒントが表示されます。
[経過時間ごとのブレイクダウン] リンク	クリックしてグラフのデータをドリル・ダウンし、一定時間内の特定の時点を表示します。経過時間ごとのブレイクダウン・グラフが表示されます。詳細については、「経過時間ごとのブレイクダウン・グラフ」(232 ページ) を参照してください。 ページ下部のグラフ領域から使用できます。
[最終の KPI 日付]	KPI が最後に計算された日付を示します。
[マイルストーン]	選択したマイルストーンの名前です。
[マイルストーン スコープ アイテム]	選択したマイルストーン・スコープ・アイテムの名前です。



🔗 経過時間ごとのブレークダウン・グラフ








このグラフでは、一定時間内の特定の時点が表示されます。





<p>アクセス方法</p>	<p>リリース・モジュールで、次を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 リリースを選択して、[スコアカード] タブをクリックします。 2 KPI セルをクリックします。KPI グラフ・ページの下部で、[経過時間ごとのブレイクダウン] リンクをクリックします。 <p>ダッシュボード・モジュールで、次を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [アナリシス・ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し、[KPI 内訳] または [リリース・コアカード] のいずれかのグラフを選択します。 3 [表示] タブをクリックします。 4 KPI 内訳グラフで、[経過時間ごとのブレイクダウン] リンクをクリックします。 <p>リリース・コアカードの場合は、KPI セルをクリックします。KPI グラフ・ページの下部で、[経過時間ごとのブレイクダウン] リンクをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「PPT の使用方法」(193 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ) ▶ 「KPI グラフ」(230 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[生成] : 最新の情報が表示されるように、グラフを更新します。</p>
	<p>[線グラフ] : グラフ形式を線グラフに切り替えます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[データ グリッド]: グラフの X 軸カテゴリおよび [グループ分け] カテゴリのマトリックスが作成されます。各グループ分けカテゴリの合計が表示される 合計行が追加されています。</p>
	<p>[合計値を表示/非表示]: ほかの [グループ分け] カテゴリすべての合計を表す <total> カテゴリのグラフへの表示/非表示を切り替えます。</p> <p>ヒント: <total> カテゴリを表示した後、凡例のラベルをクリックすると、カテゴリが非表示になります。</p>
	<p>[左へスクロール] / [右へスクロール]: グラフを左または右にスクロールします。これらのボタンは、[ズーム イン] ボタンまたは [ズーム アウト] ボタンを使用している場合に有効になります。</p>
	<p>[すべて表示]: グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは、[ズーム イン] ボタンまたは [ズームアウト] ボタンを使用している場合に有効になります。</p>
	<p>[ズームイン] / [ズームアウト]: グラフの表示倍率を変更します。</p>
	<p>[グラフ画像の保存]: グラフを棒グラフ、円グラフ、または線グラフとして表示している場合に、グラフの画像を保存します。さまざまなグラフィック・ファイル形式から選択できます。</p> <p>[グラフ データの保存]: データ・グリッドを表示している場合に、グラフ・データを保存します。データは、Excel スプレッドシート、Word ファイル、HTML ドキュメント、またはテキスト・ファイルとして保存できます。</p>
	<p>[グラフ表示形式の設定]: [グラフ表示形式の設定] ダイアログ・ボックスが開き、グラフのタイトル、色、表示をカスタマイズできます。詳細については、「[グラフの外観] ダイアログ・ボックス」(942 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	<p>[グラフをクリップボードへコピー]：次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [グラフのコピー（カラー）]：グラフをカラーでクリップボードにコピーします。 ▶ [グラフのコピー（モノクロ）]：グラフをモノクロでクリップボードにコピーします。 ▶ [全画面グラフをコピー（カラー）]：グラフを全画面に合うように拡大して、カラーでクリップボードにコピーします。 ▶ [全画面グラフをコピー（モノクロ）]：グラフを全画面に合うように拡大して、モノクロでクリップボードにコピーします。
	<p>[グラフの印刷]：次のオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [グラフの印刷（カラー）]：グラフをカラーで印刷します。標準設定では、このボタンが選択されています。 ▶ [グラフの印刷（モノクロ）]：グラフをモノクロで印刷します。 ▶ [グラフと詳細の印刷（カラー）]：グラフとその説明をカラーで印刷します。 ▶ [グラフと詳細の印刷（モノクロ）]：グラフとその説明をモノクロで印刷します。
<p><グラフ領域></p>	<p>グラフのセグメント上にマウス・カーソルを合わせると、追加情報を含むヒントが表示されます。</p>
<p><凡例></p>	<p>グラフのカテゴリ、および対応する色を表示します。カテゴリをクリックして、グラフ上のカテゴリの表示と非表示を切り替えます。</p>

[スコアカード レイアウト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、スコアカード・テーブルを設定できます。

スコアカード レイアウト
? X

行

カラム

スコアカード アイテム名

マイルストーン名
KPI 名

フィールド別にスコアカード アイテムをグループ化: 所有者

計画 KPI 目標値を表示

フィルタ

マイルストーン

並べ替え基準: 期限日[Ascending]

スコアカード アイテム

並べ替え基準: 名前[Ascending]

KPI






並べ替え基準: 名前[Ascending]

* スコアカード レイアウト内の変更は、ステータスを表示している全てのユーザに影響します。

アクセス方法	リリース・モジュールで、リリースを選択して [スコアカード] タブをクリックします。[スコアカード レイアウト] ボタンをクリックします。
重要な情報	ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。

関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	スコアカード・レイアウトに表示される行またはカラムの名前の順序を設定します。
	選択した名前を、[行] と [カラム] の間で移動します。
	選択した条件に従って、[マイルストーン]、[スコープ・アイテム]、または [KPI] のデータを絞り込んだり、並べ替えたりできます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
	定義済みフィルタをクリアします。
	デフォルトのフィルタ定義を復元します。
[カラム]	スコアカード・テーブルに現在表示されているカラムのリストが表示されます。
[計画 KPI 目標値を表示]	スコアカード・テーブルの [計画] カラム内の各 KPI について、許容範囲のしきい値を表示します。 注: [計画] カラムは、このオプションが有効になっている場合のみ表示されます。
[フィールド別にスコープアイテムをグループ化]	指定したスコープ・アイテム・フィールドに従ってグループ分けを行います。
[行]	スコアカード・テーブルに現在表示されているカラムの行が表示されます。

[テンプレートからの新規リリースの作成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テンプレート・プロジェクトの既存のリリースをコピーして、新規リリースを作成できます。

アクセス方法	リリース・モジュールで、リリース・フォルダを右クリックして、[テンプレートからの新規リリースの作成] > [テンプレートからの新規リリースの作成] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ テンプレート・プロジェクトからコピーされるリリース・プロパティ：説明、開始日/終了日、サイクル、マイルストーン、KPI、KPI しきい値、添付ファイル、ユーザ定義フィールド。 ▶ テンプレート・プロジェクトからコピーされないリリース・プロパティ：リリース・スコープ、マイルストーン・スコープ、ほかのモジュールの ALM エンティティへのリンク。 ▶ 新規リリースを作成した後、コピーされた日付を更新する必要があります。 ▶ [テンプレートからの新規リリースの作成] オプションは、テンプレート・プロジェクトとリンクおよび同期化されたプロジェクトで使用できます。テンプレート・プロジェクトのリンクおよび同期化の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ ALM Editions：PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。
関連タスク	「PPT の使用方法」(193 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「PPT リリースの概要」(192 ページ) ▶ 「リリース・モジュール・ウィンドウ」(164 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【テンプレート リリース】	テンプレート・プロジェクトから使用できるリリースが表示されます。 ツリーを展開し、リリースを選択します。
【リリース名】	新規リリースの名前です。 注： リリース名がすでにリリース・モジュールに存在する場合は、リリース名に「_Copy」という接尾語が付加されます。

第 10 章

ライブラリおよびベースライン

本章の内容

概念

- ▶ 「ライブラリの概要」 (242 ページ)

タスク

- ▶ 「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」 (246 ページ)

リファレンス

- ▶ 「ライブラリおよびベースラインのユーザ・インタフェース」 (252 ページ)

概念

ライブラリの概要

Quality Center Starter Edition では、本章で説明するライブラリ・モジュールの機能は使用できません。

ライブラリ・モジュールでは、階層形式のライブラリ・ツリーを定義し、ライブラリの作成や管理を行います。「**ライブラリ**」とは、プロジェクト内の複数エンティティのセット、およびそれらのエンティティ間の関係を表します。ライブラリのエンティティには、要件、テスト、テスト・リソース、およびビジネス・コンポーネントを含めることができます。

ライブラリを作成したら、ベースラインを作成し、一定時間内にプロジェクトに加えられた変更を追跡できます。「**ベースライン**」とは、ある特定の時間のライブラリのスナップショットです。ベースラインは、アプリケーション開発ライフサイクルのあらゆる段階で比較できます。

ベースラインの履歴を表示することにより、一定時間内にライブラリの個別のエンティティに加えられた変更を追跡できます。開発が継続する間、ベースラインに格納されているエンティティのすべてのバージョンを表示および比較できます。

ライブラリをインポートすることもできます。ライブラリをインポートすることにより、既存のエンティティのセットの再利用や共有ができます。開発が進むに従い、ライブラリを比較および同期化できます。詳細については、「インポートされたライブラリの概要」(284 ページ)を参照してください。**ALM Editions** : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

ライブラリとベースラインの作成および管理には、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

本項の内容

- ▶ 「ベースラインの概要」(243 ページ)
- ▶ 「固定されたテスト・セット」(244 ページ)

作業の詳細については、「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)を参照してください。

ベースラインの概要

ライブラリを作成したら、ベースラインを作成できます。ベースラインは、特定の時点のライブラリのスナップショットです。ベースラインを使用して、アプリケーション開発ライフサイクルにおける任意の重要なマイルストーンをマークできます。ベースラインには、要件、テスト、テスト・リソースなど、ライブラリ内で定義されたすべてのエンティティが含まれます。また、ベースラインには次も含まれます。

- ▶ トレーサビリティやカバレッジなど、ライブラリ内のエンティティ間の関係
- ▶ 呼び出し先のテストやテスト・リソースなど、ライブラリ内のテストを実行するために必要となるライブラリ外の関連エンティティ

ベースラインを使って、一定時間内にプロジェクトに加えられた変更を追跡できます。ベースラインは、次のいずれかの方法で使用できます。

- ▶ アプリケーション開発ライフサイクルのあらゆる段階でベースラインを比較します。たとえば、ライブラリ内の 2 つのベースラインを比較して、一定時間内に要件に加えられた変更の影響を評価できます。その後、評価に応じて、プロジェクト内の関連するテストを更新できます。また、ベースラインをライブラリの現在のエンティティと比較することもできます。
- ▶ テスト・セットをベースラインに設定これにより、テスト・セットを実行すると、指定したベースラインに格納されたテストのバージョンが実行されるようになります。詳細については、「固定されたテスト・セット」(244 ページ)を参照してください。
- ▶ ベースラインを使用してライブラリ内のエンティティを共有します。これにより、ライブラリのエンティティをプロジェクト内または別のプロジェクトで再利用できます。ライブラリをインポートするには、ライブラリにベースラインが含まれている必要があります。ライブラリのインポートの詳細については、「インポートされたライブラリの概要」(284 ページ)を参照してください。**ALM Editions** : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

ベースラインの例

次の例は、ベースラインの使用方法を示します。

▶ リリース内容の設定と関係者の承認

組織でアプリケーションの新しいバージョンの開発を開始します。ビジネス・アナリストの Robert は、確認のために関係者に一連の要件を紹介し、要件が確認され、承認されたら、ベースラインを作成します。その後、関係者は合意したリリース内容を承認できます。

▶ 変更の監視

製品マネージャの Kelly は、予期していない方法で製品開発が行われていることに気づきます。彼女は、製品の要件を確認して一部が変更されていることを見つけます。現在の要件と、リリースの開始時に作成、承認されたベースラインの要件とを比較します。

▶ 変更の影響を評価

QA テスト担当者の Michael は、最新のアプリケーションのリリースの一部である大規模なテストを受け持ちます。彼は、リリースの要件に従ってテストの一部を更新します。最新の要件確認の打ち合わせに従って、一部の要件の変更が通知されます。Michael は、現在の要件と、リリースの開始時に作成されたベースラインの要件とを比較します。自分の担当分のテストに影響がある変更を特定し、テストを更新して変更を反映させます。

固定されたテスト・セット

テスト・セットをベースラインに固定できます。テスト・セットをベースラインに固定すると、そのテスト・セットのテストは、選択したベースラインに保管されたテストのバージョンに関連付けられます。固定されたテスト・セットのテストを実行すると、指定したベースラインに格納されたテストのバージョンが実行されます。

固定されたテスト・セットには、ベースラインに含まれたテストのみを含めることができます。テスト・セットをベースラインに固定すると、ベースラインに含まれていないテストはテスト・セットから削除されます。また、テスト・セットからすべてのテスト実行が削除されます。固定されたテスト・セットにテストを追加する際は、ベースラインに含まれたテストのみを選択できます。

固定されたテスト・セットをクリアすることもできます。テスト計画モジュールに存在しないテストがテスト・セットに含まれている場合、テスト・セットからテストが削除されます。また、テスト・セットのすべてのテスト実行が削除されます。そして、テスト・セットのテストがテスト計画モジュールの現在のテストに関連付けられます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ベースラインを選択] ダイアログ・ボックス」(281 ページ) を参照してください。

タスク

ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法

このタスクでは、ライブラリとベースラインを使用して作業する方法を説明します。

ライブラリおよびベースラインの詳細については、「ライブラリの概要」(242 ページ)を参照してください。

ALM Editions : Quality Center Enterprise Edition には、ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは、Quality Center Starter Edition では使用できません。

このタスクは次の手順で構成されています。

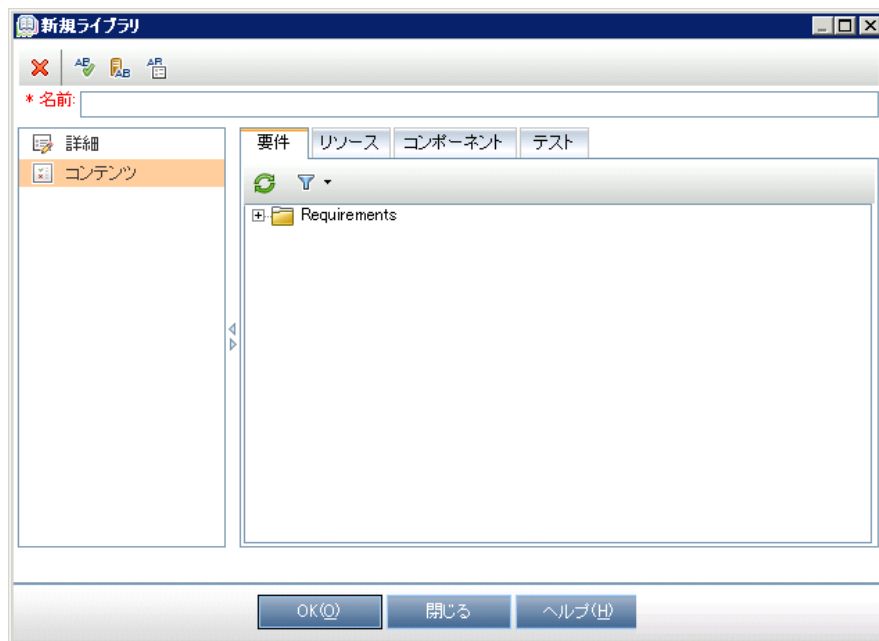
- ▶ 「ライブラリの作成」(247 ページ)
- ▶ 「ベースラインの作成」(248 ページ)
- ▶ 「ライブラリ・タスクの監視 (オプション)」(249 ページ)
- ▶ 「ベースラインの比較」(249 ページ)
- ▶ 「テスト・セットをベースラインに設定」(250 ページ)
- ▶ 「ベースラインの履歴の表示」(251 ページ)
- ▶ 「ライブラリの共有」(251 ページ)

1 ライブラリの作成

フォルダおよびサブフォルダで構成されるライブラリ・ツリーを作成することによって、ライブラリの階層形式の枠組みを定義します。

- a **ライブラリ・モジュールを開く** : ALM サイドバーで、[管理] の下の [ライブラリ] を選択します。
- b **フォルダの作成** : [ライブラリ] ルート・フォルダを右クリックして、[新規フォルダ] を選択します。サブフォルダを作成するには、フォルダをクリックして、[新規フォルダ] を選択します。
- c **フォルダにライブラリを追加** : フォルダを右クリックして、[ライブラリの作成] を選択します。[新規ライブラリ] ダイアログ・ボックスで、[詳細] ページのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規ライブラリ]/[ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックス」(261 ページ) を参照してください。

[コンテンツ] ページで、ライブラリに含めるエンティティを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[コンテンツ] タブ」(263 ページ) を参照してください。



フィルタを定義して、ライブラリに含めるエンティティの選択に役立てることができます。これは、プロジェクトの階層構造のみに基づいていないライブラリを作成する場合などに有用です。

例：

プロジェクト・マネージャの Jim は、セキュリティの影響が大きい新規のプロジェクトを持っています。彼のプロジェクトのテスト計画ツリーは、製品およびバージョンに基づいて階層的に整理されています。Jim は、関連するテスト・フォルダを含むライブラリを作成し、それらのフォルダにセキュリティ関連のテストのみを含むように、ライブラリのフィルタを定義します。

2 ベースラインの作成

ライブラリのベースラインを作成して、一定時間内にプロジェクトのエンティティに加えられた変更を追跡できます。

- a ライブラリ・モジュールで、ライブラリを右クリックして **[ベースラインの作成]** を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「ベースラインの作成ウィザード」(265 ページ) を参照してください。
- b [詳細] タブの **[ログの表示]** ボタンをクリックします。[ログ：Create Baseline] ダイアログ・ボックスが開き、進行状況が表示されます。

注：プロセスが完了したら、ログを確認してから表示を更新します。ベースラインの作成後に表示を更新すると、**[ログの表示]** ボタンは表示されず、ログを表示できません。

ライブラリ・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースの詳細については、「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(253 ページ) を参照してください。

- c モジュール・ツールバーの **[更新]** ボタンをクリックして、表示を更新します。[詳細] タブにベースラインの詳細が表示されます。[詳細] タブで利用できるフィールドの詳細については、「ライブラリ・モジュールのフィールド」(259 ページ) を参照してください。

3 ライブラリ・タスクの監視（オプション）

ベースラインを作成すると、ALM によりバックグラウンドでタスクが実行されるため、処理の実行中も引き続き ALM を使用して作業できます。タスク・マネージャを使用して、プロジェクトで実行されているすべての非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。

ALM マストヘッドで、[ツール] > [タスク マネージャ] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[タスク・マネージャ] ダイアログ・ボックス」（50 ページ）を参照してください。

4 ベースラインの比較

ライブラリ内の 2 つのベースラインとの比較、またはベースラインとライブラリ内の現在のエンティティとの比較を行います。

- a ライブラリ・モジュールで、ベースラインを右クリックして [次と比較] をクリックし、次のいずれかを選択します。

[**ベースラインの選択**]：選択したベースラインを、ライブラリ内の別のベースラインと比較します。[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし、リストからベースラインを選択します。

- ▶ [**現在のエンティティ**]：選択したベースラインを、ライブラリ内の現在のエンティティと比較します。

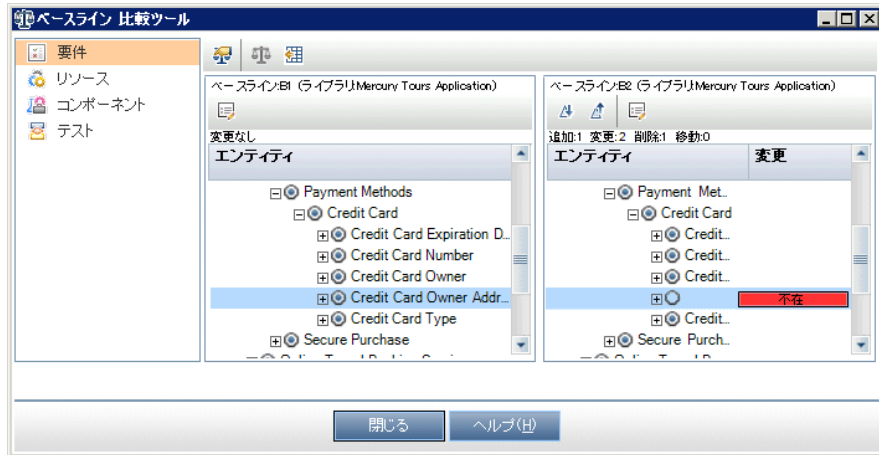
ベースライン比較ツールのユーザ・インタフェースの詳細については、「[ベースライン比較ツール] ダイアログ・ボックス」（268 ページ）を参照してください。



- b ベースラインの比較結果を .csv ファイル形式で保存するには、[**比較結果のエクスポート**] ボタンをクリックします。保存後に、コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義されたデフォルトのアプリケーション (Microsoft Excel など) でファイルが開きます。

例：

異なる開発段階で「Mercury Tours Application」ライブラリ用に作成された 2 つのベースラインの比較により、次の結果が示されます。



5 テスト・セットをベースラインに設定

テスト・セットをベースラインに設定し、テスト・セットを選択したベースラインに保存されたテストのバージョンと関連付けることができます。

- ▶ テスト・ラボ・モジュールで、テスト・セットを右クリックして、[**ベースラインに設定**] を選択します。[ベースラインを選択] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[ベースラインを選択] ダイアログ・ボックス」(281 ページ) を参照してください。
- ▶ 設定されたベースラインをクリアするには、テスト・セットを右クリックして [**設定されたベースラインのクリア**] を選択します。

設定されたテスト・セットの概念の詳細については、「固定されたテスト・セット」(244 ページ) を参照してください。

6 ベースラインの履歴の表示

ベースラインに格納されているエンティティのすべてのバージョンを表示および比較します。

注：要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールから使用可能です。

- ▶ ツリーまたはグリッドでエンティティを選択して、**[履歴]** タブ > **[ベースライン]** タブをクリックします。
- ▶ **バージョン管理：**エンティティを選択して **[履歴]** タブ > **[バージョンおよびベースライン]** タブをクリックします。**[表示バージョン]** ボックスで、**[ベースライン]** を選択します。

[ベースライン] タブのユーザ・インタフェースの詳細については、「[ベースライン] タブ」(278 ページ) を参照してください。

7 ライブラリの共有

ライブラリをインポートして、1つのプロジェクト内または複数のプロジェクトにまたがるエンティティの既存のセットを再利用します。開発が進むに従い、ライブラリを比較および同期化します。作業の詳細については、「ライブラリの共有方法」(289 ページ) を参照してください。**ALM Editions：**インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

リファレンス

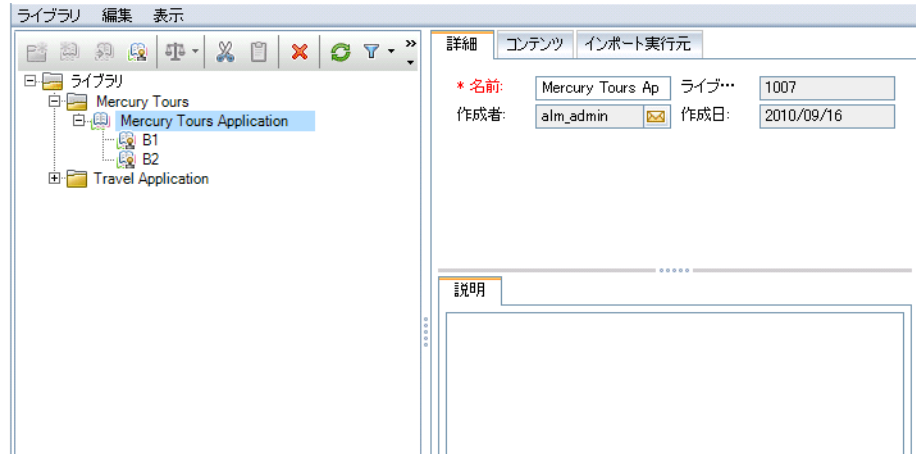
ライブラリおよびベースラインのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」 (253 ページ)
- ▶ 「ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン」 (255 ページ)
- ▶ 「ライブラリ・モジュールのアイコン」 (258 ページ)
- ▶ 「ライブラリ・モジュールのフィールド」 (259 ページ)
- ▶ 「[新規ライブラリ] / [ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックス」 (261 ページ)
- ▶ 「[コンテンツ] タブ」 (263 ページ)
- ▶ 「ベースラインの作成ウィザード」 (265 ページ)
- ▶ 「[ベースライン比較ツール] ダイアログ・ボックス」 (268 ページ)
- ▶ 「[エンティティの比較] ダイアログ・ボックス」 (272 ページ)
- ▶ 「[比較の設定] ダイアログ・ボックス」 (276 ページ)
- ▶ 「[ベースライン] タブ」 (278 ページ)
- ▶ 「[ベースラインを選択] ダイアログ・ボックス」 (281 ページ)

🔑 ライブラリ・モジュール・ウィンドウ

ライブラリ・モジュール・ウィンドウでは、ライブラリおよびベースラインを作成および管理できます。



アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の [ライブラリ] を選択します。
重要な情報	ALM Editions: Quality Center Enterprise Edition には、ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは、Quality Center Starter Edition では使用できません。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」 (246 ページ) ▶ 「ライブラリの共有方法」 (289 ページ)
参照項目	「ライブラリの概要」 (242 ページ)

第 10 章・ライブラリおよびベースライン

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<ライブラリ・モジュール共通 UI 要素>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ライブラリ・フィールド：フィールドの定義については、「ライブラリ・モジュールのフィールド」（259 ページ）を参照してください。 ▶ ライブラリ・メニューおよびボタン：コマンドおよびボタンの説明については、「ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン」（255 ページ）を参照してください。 ▶ ライブラリ・アイコン：アイコンの説明については、「ライブラリ・モジュールのアイコン」（258 ページ）を参照してください。 ▶ ALM メイン・メニューおよびサイドバー：[ツール] メニュー、[ヘルプ] メニュー、サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」（40 ページ）を参照してください。
<ライブラリ・ツリー>	ライブラリを視覚的に表したものです。
【コンテンツ】 タブ	選択したライブラリに含まれるエンティティが表示されます。詳細については、「【コンテンツ】 タブ」（263 ページ）を参照してください。
【説明】 タブ	<p>現在選択されているライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインの説明です。</p> <p>テキスト・ボックス内でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>
【詳細】 タブ	ライブラリ・ツリーで選択されているライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインの詳細です。
【フィルタ】	ツリーに現在適用されているフィルタの説明です。ライブラリ・ツリーのすぐ上に表示されます。

UI 要素	説明
[インポート実行元] タブ	選択したライブラリをインポートしたプロジェクトのリストが表示されます。このタブは、現在のプロジェクトまたはほかのプロジェクトが、選択したライブラリをインポートしている場合のみ表示されます。詳細については、「[インポート実行元] タブ」(301 ページ)を参照してください。 ALM Editions : Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。
[インポート元] タブ	現在選択されているライブラリのインポート元のライブラリに関する詳細が表示されます。このタブは、選択されたライブラリがインポートされている場合のみ表示されます。詳細については、「[インポート元] タブ」(303 ページ)を参照してください。 ALM Editions : Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。



ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン






本項では、ライブラリ・モジュールで使用できるメニューおよびボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の [ライブラリ] を選択します。
重要な情報	ALM Editions : Quality Center Enterprise Edition には、ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは、Quality Center Starter Edition では使用できません。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用法」(246 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ライブラリ・モジュールのアイコン」(258 ページ) ▶ 「ライブラリの概要」(242 ページ)

第 10 章・ライブラリおよびベースライン

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	メニュー	説明
 【次と比較】	[ライブラリ]	<p>現在選択されているライブラリまたはベースラインを、ほかのライブラリまたはベースラインと比較します。次のオプションがあります。</p> <p>選択したライブラリの場合：ALM Editions : Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【最後に作成したベースライン】: 選択したライブラリをほかのライブラリで作成された最新のベースラインと比較します。 ▶ 【ベースラインの選択】: [ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開き、比較するほかのライブラリのベースラインを選択できます。 <p>選択したベースラインの場合：</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 【現在のエンティティ】: 選択したベースラインを、ライブラリ内の現在のエンティティと比較します。 ▶ 【ベースラインの選択】: [ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開き、比較するライブラリのベースラインを選択できます。
 【切り取り】/ 【貼り付け】	[編集]	<p>選択したライブラリ・フォルダまたはライブラリを、ライブラリ・ツリー内の別の場所に移動します。</p> <p>注: ライブラリ・フォルダを移動すると、そのライブラリおよびベースラインも移動します。ライブラリを移動すると、そのベースラインも移動します。ベースラインやルート・フォルダは移動できません。</p> <p>ヒント: ドラッグ操作により、ライブラリ・フォルダまたはライブラリをライブラリ・ツリー内の別の場所に移動することもできます。</p>

UI 要素	メニュー	説明
 【ベースラインの作成】	[ライブラリ]	選択したライブラリに対してベースラインを作成できます。詳細については、「ベースラインの作成ウィザード」(265 ページ)を参照してください。
 【ライブラリの作成】	[ライブラリ]	[新規ライブラリ] ダイアログ・ボックスが開き、選択したライブラリ・フォルダにライブラリを追加できます。詳細については、「[新規ライブラリ] / [ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックス」(261 ページ)を参照してください。
 【削除】	[編集]	選択したライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインを削除します。 注： <ul style="list-style-type: none"> ▶ ライブラリを含むライブラリ・フォルダ、またはベースラインを含むライブラリは削除できません。 ▶ ライブラリまたはベースラインを削除しても、ライブラリのエンティティはプロジェクトから削除されません。 ▶ ベースラインを削除すると、そのベースラインのライブラリを、ベースラインからインポートされたか同期化された別のライブラリと比較できなくなります。 ▶ ベースラインを削除すると、固定されたテスト・セットからベースラインがクリアされます。詳細については、「固定されたテスト・セット」(244 ページ)を参照してください。
 【フィルタ】	[表示]	ライブラリ・ツリーでライブラリをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。
 【ライブラリのインポート】	[ライブラリ]	ライブラリのインポート・ウィザードが開き、選択したライブラリ・フォルダにライブラリをインポートできます。詳細については、「ライブラリのインポート・ウィザード」(295 ページ)を参照してください。 ALM Editions : Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。



UI 要素	メニュー	説明
 【ライブラリの詳細】	[ライブラリ]	[ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したライブラリの詳細を表示および編集できます。詳細については、「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(253 ページ)を参照してください。
 【新規フォルダ】	[ライブラリ]	[新規ライブラリ フォルダ] ダイアログ・ボックスが開き、選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。
 【更新】	[表示]	ライブラリ・ツリーとタブを更新し、最新の情報を表示します。
【名前の変更】	[編集]	選択したライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインの名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。




ライブラリ・モジュールのアイコン

本項では、ライブラリ・モジュールで使用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の 【ライブラリ】 を選択します。
重要な情報	ALM Editions : Quality Center Enterprise Edition には、ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは、Quality Center Starter Edition では使用できません。
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ライブラリ・モジュールのメニューおよびボタン」 (255 ページ) ▶ 「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」 (253 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<緑色のアスタリスク> : タブが追加されていることを示します。
	<ベースライン> : ライブラリ・ツリーのライブラリのベースライン。

UI 要素	説明
	<インポートされたライブラリ> : 同じプロジェクトまたは別のプロジェクトからインポートされたライブラリ。
	<ライブラリ・フォルダ> : ライブラリを整理するためのフォルダ。
	<ライブラリ> : ライブラリ・ツリーのライブラリ。

ライブラリ・モジュールのフィールド

本項では、ライブラリ・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーで、[管理] の下の [ライブラリ] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [詳細] タブでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ スクリプト・エディタを使用して、ライブラリ・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。 ▶ ALM Editions: Quality Center Enterprise Edition には、ライブラリ・モジュールの機能の一部が含まれていません。このモジュールは、Quality Center Starter Edition では使用できません。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)
参照項目	「ライブラリの概要」(242 ページ)

第 10 章・ライブラリおよびベースライン

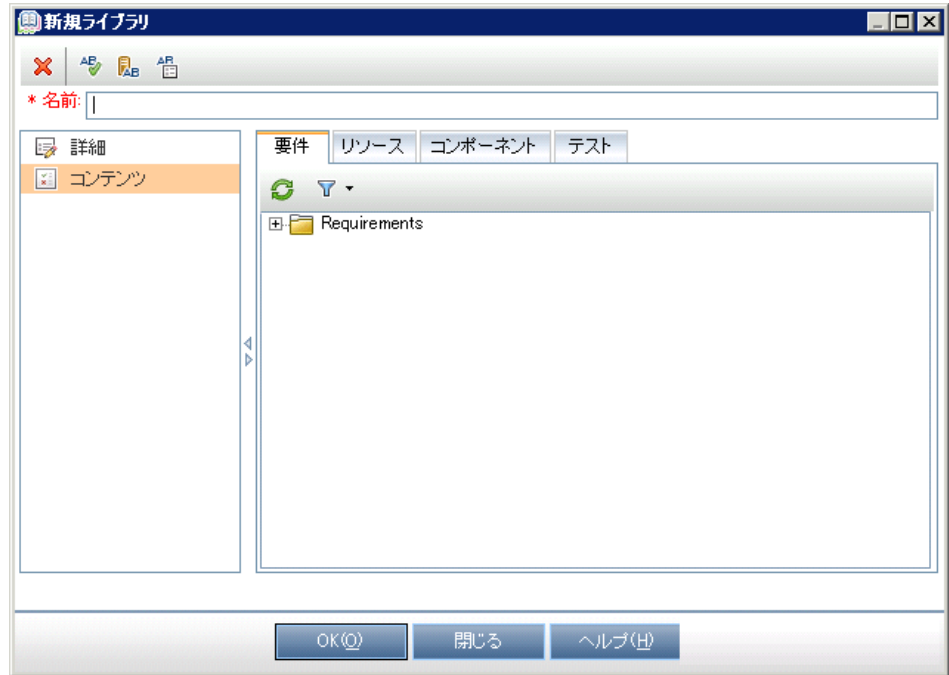
フィールドは次のとおりです。

UI 要素	説明
[ベースライン ID]	ALM によってベースラインに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[作成者]	ライブラリまたはベースラインを作成したユーザの名前。
[作成日]	ライブラリまたはベースラインが作成された日付。
[説明]	ライブラリ・フォルダ、ライブラリ、またはベースラインの説明。
[ライブラリ ID]	ALM によってライブラリに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[更新日時]	ベースラインの名前が最後に変更された日時、または説明が変更された日時。
[名前]	フォルダ、ライブラリ、またはベースラインの名前。

[新規ライブラリ] / [ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックス

[新規ライブラリ] ダイアログ・ボックスでは、ライブラリ・フォルダにライブラリを追加できます。





[ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックスでは、ライブラリの詳細と内容を表示および更新できます。



アクセス方法	<p>[新規ライブラリ] ダイアログ・ボックス：ライブラリ・モジュールで、ライブラリを右クリックして [ライブラリの作成] を選択します。</p> <p>[ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックス：ライブラリ・モジュールで、ライブラリを右クリックして [ライブラリの詳細] を選択します。</p>
重要な情報	Quality Center Starter Edition では、このダイアログ・ボックスは使用できません。
関連タスク	ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法
参照項目	「ライブラリの概要」(242 ページ)

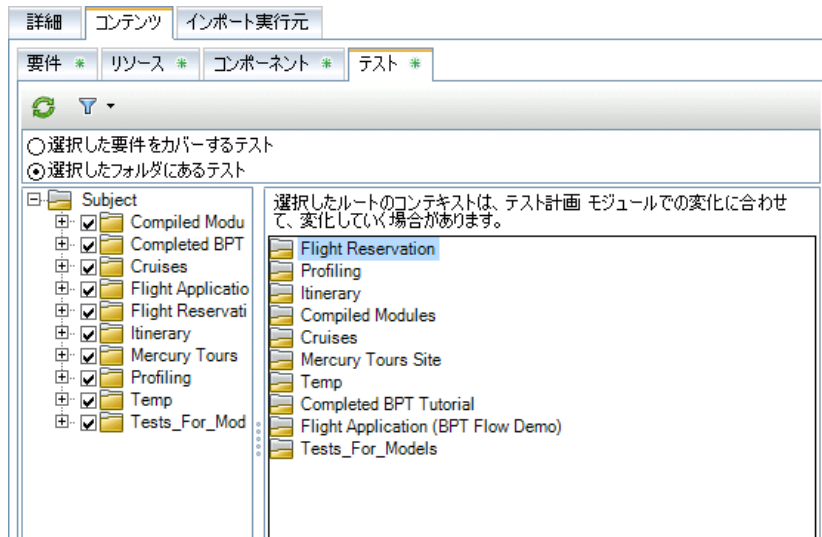
第 10 章・ライブラリおよびベースライン

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[全てのフィールドをクリア] : データをクリアします。 [New Library (新規ライブラリ)] ダイアログ・ボックスから使用できます。
	[スペル チェック] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[類語辞典] : 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
	[スペル オプション] : スペル・チェックの方法を設定できます。
[コンテンツ]	ライブラリに含めるプロジェクト内のエンティティを選択します。詳細については、「[コンテンツ] タブ」(263 ページ) を参照してください。
[説明]	ライブラリの説明。[説明] フィールドの内側でクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
[詳細]	ライブラリ・フィールドのリストが表示されます。必須フィールドは赤で表示されます。使用できるライブラリ・フィールドの詳細については、「ライブラリ・モジュールのフィールド」(259 ページ) を参照してください。
[ライブラリ ID]	ALM によってライブラリに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。 [ライブラリの詳細] ダイアログ・ボックスから使用できます。
[名前]	ライブラリに割り当てる名前。 構文の例外 : ライブラリの名前には、「¥」、「/」、「:」、「*」、「?」、「"」、「<」、「>」、「 」は使用できません。

[コンテンツ] タブ



このタブでは、ライブラリに含まれるエンティティを選択または表示できます。



アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ ライブラリ・モジュールで、ライブラリを選択して [コンテンツ] タブをクリックします。 ▶ [新規ライブラリ] ダイアログ・ボックスまたは [ライブラリ詳細] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの [コンテンツ] をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ライブラリに含めるテストを選択する際に、呼び出し先のテストやテスト・リソースなど、テストを実行する必要がある関連エンティティを選択する必要はありません。ライブラリのベースラインを作成すると、それらの関連エンティティが ALM により自動的にベースラインに含められます。 ▶ Quality Center Starter Edition では、この機能は使用できません。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)
参照項目	「ライブラリの概要」(242 ページ)

第 10 章・ライブラリおよびベースライン

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[更新]: 最新の情報が表示されるように、タブを更新します。
	[フィルタ/ソート]: ツリーでエンティティをフィルタ処理できます。 フィルタにより次の内容が決定されます。 ▶ [コンテンツ] タブで表示され選択可能なフォルダおよびレコード ▶ ベースラインの作成時またはライブラリのインポート時に含まれるエンティティ
<左の表示枠>	選択したモジュールのエンティティ・ツリー。選択可能なフォルダが表示されます。 フォルダを選択してライブラリに含めます。選択したフォルダの内容が右の表示枠に表示されます。 注: [要件] タブで、個別の要件を選択することもできます。
<右の表示枠>	選択したフォルダの子エンティティが表示されます。表示される内容は、モジュールで行われた変更によって、時間とともに変化することがあります。 この表示枠は、[要件] タブには表示されません。すべての要件が左の表示枠のツリーに表示されます。
[コンポーネント]	ライブラリのビジネス・コンポーネント・モジュールの内容。
[フィルタ]	ツリーに現在適用されているフィルタの説明です。ライブラリ・ツリーのすぐ上に表示されます。
[要件]	ライブラリの要件モジュールの内容。

UI 要素	説明
[リソース]	ライブラリのテスト・リソース・モジュールの内容。
[テスト]	<p>ライブラリのテスト計画モジュールの内容。</p> <p>ライブラリにテストを含めるには、次のオプションを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [選択したフォルダにあるテスト]:ライブラリに含めるツリーのフォルダを選択できます。 ▶ [選択した要件をカバーするテスト]:ライブラリに対して選択されている要件をカバーするテストのみを含めます。 <p>注: このオプションを選択すると、以前の選択内容やこのタブで定義されたフィルタはすべてクリアされます。</p>

ベースラインの作成ウィザード

このウィザードでは、ライブラリのベースラインを作成できます。


アクセス方法	ライブラリ・モジュールで、ライブラリを右クリックして [ベースラインの作成] を選択します。
ウィザード・マップ	このウィザードには次が含まれます。 [ベースラインの検証] ページ > [新規ベースライン] ページ
重要な情報	Quality Center Starter Edition では、この機能は使用できません。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用法」(246 ページ)
参照項目	「ベースラインの概要」(243 ページ)


[ベースラインの検証] ページ

このウィザード・ページでは、ベースラインの検証処理の結果を表示および保存できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般的な情報については、「ベースラインの作成ウィザード」(265 ページ)を参照してください。
ウィザード・マップ	ベースラインの作成ウィザードには次が含まれます。 [ベースラインの検証] ページ > [新規ベースライン] ページ
参照項目	「ベースラインの概要」(243 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 ログの保存...	ベースラインの検証ログをテキスト・ファイルに保存します。 ログを確認し、必要に応じてベースラインを作成する前に問題を解決します。
[検証結果]	ライブラリのサイズ検証の結果を表示します。この処理では、ライブラリのサイズがサイト管理で定義された制限を超えないことがチェックされます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』の「LIBRARY_FUSE」を参照してください。


【新規ベースライン】 ページ

このウィザード・ページでは、ベースラインに名前を割り当てできます。

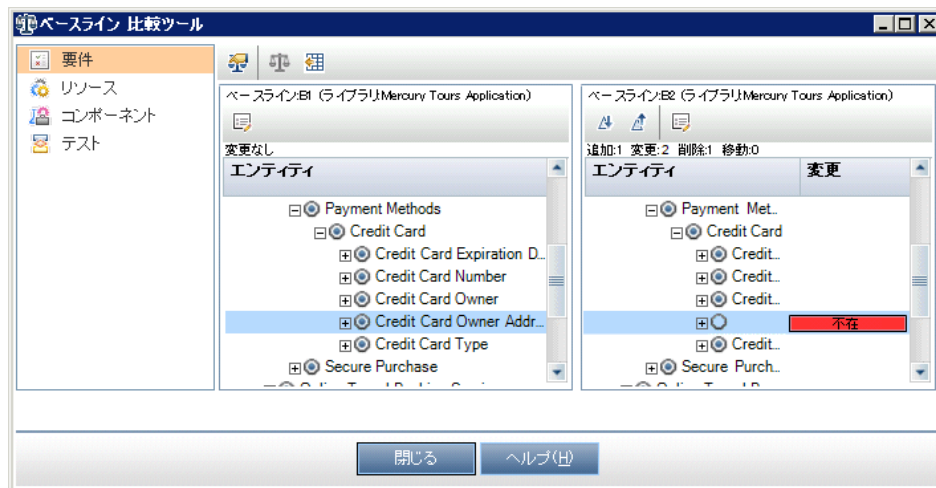
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般的な情報については、「ベースラインの作成ウィザード」(265 ページ) を参照してください。 ▶ テストを含むライブラリのベースラインを作成すると、呼び出し先のテストやテスト・リソースなど、テストを実行する必要がある関連エンティティもベースラインに含まれます。これらの関連エンティティは、ライブラリで定義する必要はありません。 ▶ ベースラインの作成はバックグラウンド・プロセスとして実行され、時間がかかる可能性があります。ベースラインの作成中も引き続き ALM を使用できます。
ウィザード・マップ	<p>ベースラインの作成ウィザードには次が含まれます。</p> <p>[ベースラインの検証] ページ > 【新規ベースライン】 ページ</p>
参照項目	<p>「ベースラインの概要」(243 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【ベースラインの名前】	ベースラインに割り当てる名前。




[ベースライン比較ツール] ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスでは、ライブラリ内の 2 つのベースラインの比較、またはベースラインとライブラリ内の現在のエンティティとの比較ができます。たとえば、開発の異なる段階のベースラインを比較して、プロジェクトの要件に加えられた変更の影響を確認および評価できます。



アクセス方法	<p>ライブラリ・モジュールで、ベースラインを右クリックして [次と比較] をクリックし、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ベースラインの選択] : 選択したベースラインを、ライブラリ内の別のベースラインと比較します。[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし、リストからベースラインを選択します。 ▶ [現在のエンティティ] : 選択したベースラインを、ライブラリ内の現在のエンティティと比較します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ALM は、エンティティが変更されたかどうかを判断するときに、[ターゲットリリース] フィールドおよび [ターゲットサイクル] フィールドに加えられた変更は検討対象にしません。 ▶ 2 つのエンティティ間のカバレッジまたはトレーサビリティが削除され、再度追加された場合、それらのエンティティは変更済みと見なされます。 ▶ Quality Center Starter Edition では、この機能は使用できません。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)
参照項目	「ベースラインの概要」(243 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

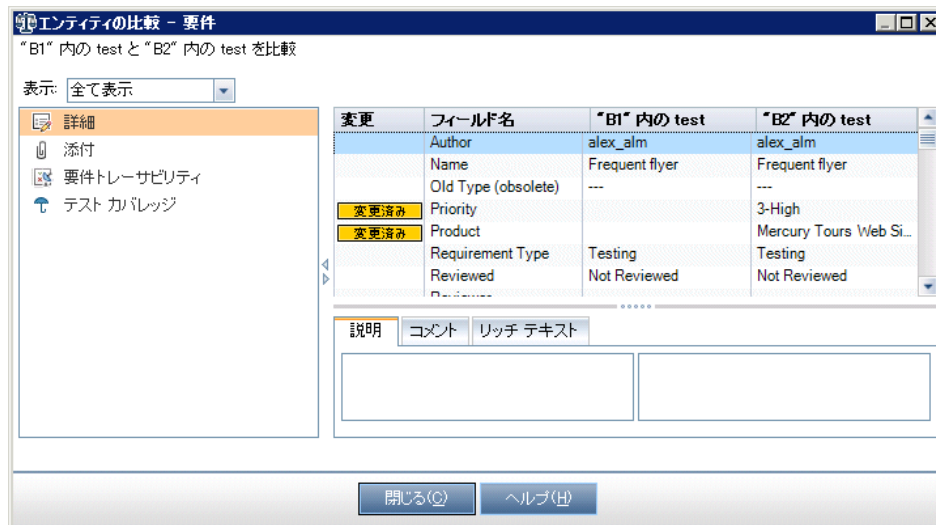
UI 要素	説明
	<p>[比較の設定] : [比較の設定] ダイアログ・ボックスが開き、ベースラインの比較の設定を定義できます。詳細については、「[比較の設定] ダイアログ・ボックス」(276 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[エンティティの比較] : [エンティティの比較] ダイアログ・ボックスが開き、各ベースライン内のエンティティの詳細を表示できます。詳細については、「[エンティティの比較] ダイアログ・ボックス」(272 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[比較結果のエクスポート] : ベースラインの比較結果を .csv ファイル形式で保存できます。保存後に、コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義されたデフォルトのアプリケーション (Microsoft Excel など) でファイルが開きます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[詳細] : [詳細] ダイアログ・ボックスが開き、ベースラインに格納されている選択したエンティティの詳細を表示できます。</p> <p>エンティティを選択して [詳細] タブをクリックします。</p> <p>たとえば、いずれかの表示枠で要件を選択します。[要件詳細] ダイアログ・ボックスが開き、ベースラインの要件の詳細が表示されます。</p>
	<p>[次の変更に移動] / [1 つ前の変更に移動] : 選択したモジュールの次または 1 つ前の変更に移動します。</p>
<p><ベースライン識別バー></p>	<p>各ベースライン表示枠の最上部にあり、下の表示枠に表示されているベースラインの名前を示します。</p>
<p><カウンタ・バー></p>	<p>各ベースライン表示枠の最上部にあり、変更ステータスに従って、追加, 変更, 削除, または移動されたエンティティの数が表示されます。</p>
<p><左の表示枠></p>	<p>古いベースラインに格納されているエンティティが表示されます。</p>
<p><右の表示枠></p>	<p>最近作成されたベースラインに格納されたエンティティ, または現在のエンティティが表示されます。</p>
<p><サイドバー></p>	<p>エンティティの比較結果をモジュールごとに表示できます。たとえば, [テスト] を選択すると, テスト計画モジュールの比較結果が表示されます。</p> <p>サイドバーには, ライブラリに含まれるモジュールのみが表示されます。</p>

UI 要素	説明
[変更]	<p>2つのベースラインの相違点を示します。次のような値があります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ [追加済み]：エンティティが古いベースラインに存在しません。▶ [変更済み]：2つのベースラインの間でエンティティに相違点があります。▶ [不在]：エンティティが新しいベースラインに存在しません。▶ [移動済み]：エンティティは新しいベースラインのツリー構造の別の場所にあります。▶ [移動済みと変更済み]：エンティティが変更され、ツリーの別の場所に移動されています。 <p>削除または移動されたエンティティは、ツリー内での元の場所がブレースホルダで表示されます。これにより階層構造が維持され、ベースライン間の変更を比較できます。</p>
[エンティティ]	ライブラリのエンティティが、選択したモジュールで定義された同じ階層構造で表示されます。

[エンティティの比較] ダイアログ・ボックス

このページでは、ライブラリ内の 2 つのベースライン、または 2 つのライブラリの間で、エンティティを比較できます。



アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [ベースライン比較ツール] または [ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックスで、変更したエンティティを選択して、[エンティティの比較] ボタンをクリックします。 ▶ [履歴] タブ > [ベースライン] タブで、2 つのバージョンを選択して、[比較] ボタンをクリックします。 ▶ バージョン管理: [履歴] タブ > [バージョンおよびベースライン] タブで、2 つのバージョンを選択して、[比較] ボタンをクリックします。 <p>要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールから使用可能です。</p>
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ [ターゲットリリース] フィールドや [ターゲットサイクル] フィールドに変更が加えられても、これらのフィールドは変更済みとしてマークされません。 ▶ バージョン管理: <ul style="list-style-type: none"> ▶ バージョン管理が有効なプロジェクトで、エンティティの 2 つのバージョンを比較します。 ▶ サイドバー・ボタンの一部は表示されません。バージョン管理に格納されている情報によって使用できるボタンが異なります。詳細については、「バージョン管理の概要」(118 ページ)を参照してください。
関連タスク	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ) ▶ 「バージョン管理の使用方法」(120 ページ)
参照項目	「ベースラインの概要」(243 ページ)

第 10 章・ライブラリおよびベースライン

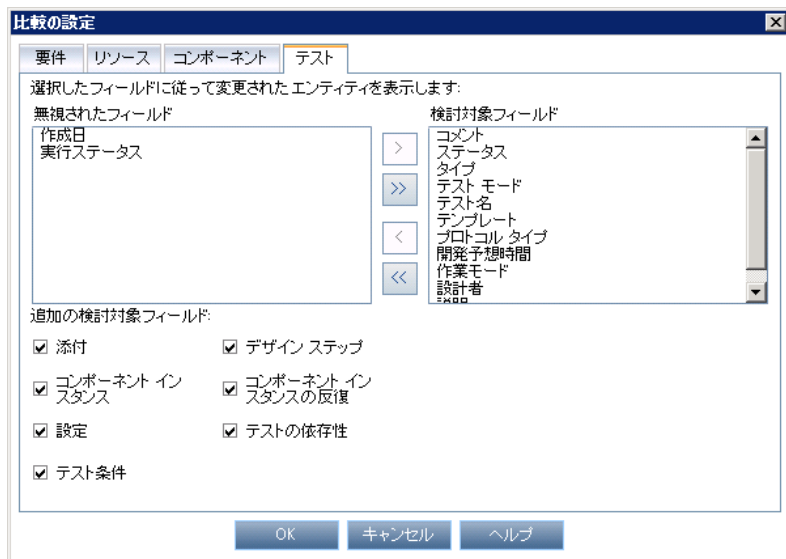
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。


UI 要素	説明
<結果グリッド>	エンティティの各バージョンに格納されているフィールドおよびフィールド値が表示されます。値が変更されている各フィールドを示します。
<サイドバー>	追加の比較結果を表示できます。 比較しているエンティティのタイプに応じて表示されるボタンが異なります。 注： QuickTest を比較する場合、[QTP 比較] ボタンが表示され、QuickTest アセット比較ツールを表示できます。QuickTest の使用の詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[変更]	変更されたフィールドを示します。 注： <ul style="list-style-type: none">▶ バージョン管理：一部のフィールドへの変更は、バージョン管理では保存されません。詳細については、「バージョン管理されないフィールド」（125 ページ）を参照してください。▶ トレーサビリティとカバレッジについては、リンクされたエンティティが [削除済み] と [追加済み] の両方のマークが付けられている場合、または両側が [不明] として表示されている場合、エンティティ間のリンクが削除されてから追加されたことを示しています。
[添付] タブ	各バージョンに格納されている添付ファイルを比較できます。[変更] カラムには、添付ファイルが追加、削除、変更されているかどうかが表示されます。添付ファイルを開くか保存して、変更の表示や比較ができます。
[コメント] タブ	各バージョンに格納されている [コメント] フィールドの内容を比較できます。
[説明] タブ	各バージョンに格納されている [説明] フィールドの内容を比較できます。
[フィールド名]	フィールドの名前です。

UI 要素	説明
[リッチ・テキスト] タブ	リッチ・テキストを比較できます。[リッチ テキスト] タブの各表示枠には、該当のエンティティのバージョンのリッチ・テキストが追加、削除、変更されているかどうかを示されます。リッチ・テキストを開くかファイルとして保存して、変更の表示や比較ができます。
[ビュー]	結果の表示オプションを選択できます。



[比較の設定] ダイアログ・ボックス

このページでは、ライブラリまたはベースラインの比較の設定を定義できます。エンティティが変更されたかどうかを判断するときに、ALM が検討対象にするフィールドを選択できます。



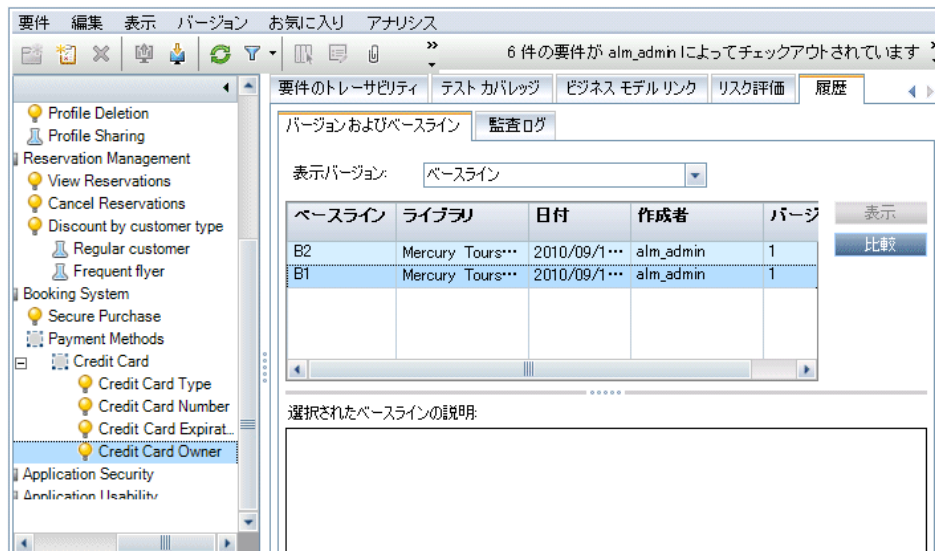
アクセス方法	[ベースライン比較ツール] または [ライブラリ比較ツール] で、[比較の設定] ボタン  をクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ ALM は、エンティティが変更されたかどうかを判断するときに、[ターゲットリリース] フィールドおよび [ターゲット サイクル] フィールドに加えられた変更は検討対象にしません。 ▶ Quality Center Starter Edition では、この機能は使用できません。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「[ベースライン比較ツール] ダイアログ・ボックス」(268 ページ) ▶ 「[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックス」(304 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>選択したフィールドを、[無視されたフィールド] と [検討対象フィールド] の間で移動します。</p> <p>ヒント: 表示枠の間でフィールド名をドラッグしたり、フィールド名をダブルクリックしてほかの表示枠にフィールドを移動したりすることもできます。</p>
	<p>すべてのフィールドを、[無視されたフィールド] と [検討対象フィールド] の間で移動します。</p>
<p><モジュール・タブ></p>	<p>比較設定をモジュールごとに設定できます。</p> <p>[比較の設定] ダイアログ・ボックスには、ライブラリに含まれているモジュールのタブが表示されます。</p>
<p>[追加の検討対象フィールド]</p>	<p>選択したフィールドに変更が加えられたら、エンティティを変更済みと見なします。</p> <p>注: カバレッジを無視するよう ALM を設定するには、[要件] タブと [テスト] タブの両方で [カバレッジ] チェック・ボックスをクリアする必要があります。</p>
<p>[検討対象フィールド]</p>	<p>このボックス内のフィールドに変更が加えられたら、エンティティを変更済みとして表示します。</p>
<p>[無視されたフィールド]</p>	<p>このボックス内のフィールドに変更が加えられても、エンティティを変更済みとして表示しません。</p>

🔗 [ベースライン] タブ

このビューでは、選択したエンティティのベースラインの履歴が表示されます。ベースラインに格納されているエンティティのすべてのバージョンを表示および比較できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>ツリーまたはグリッドでエンティティを選択して、[履歴] タブ > [ベースライン] タブをクリックします。</p> <p>バージョン管理: エンティティを選択して [履歴] タブ > [バージョンおよびベースライン] タブをクリックします。[表示バージョン] ボックスで、[ベースライン] を選択します。</p> <p>要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・リソースの各モジュールから使用可能です。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>Quality Center Starter Edition では、このタブは使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「ベースラインの概要」(243 ページ)</p>

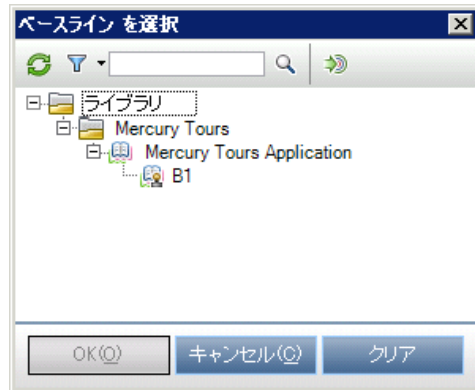
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	説明
<p style="text-align: center;">表示</p>	<p>[詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したベースラインに格納されているエンティティのバージョンの詳細が読み取り専用で表示されます。追加情報を表示するには、[テスト・カバレッジ]、[添付ファイル] など、サイドバー上のオプションを選択します。ツリーまたはグリッドで選択したエンティティのタイプに応じて、表示されるボタンが異なります。</p> <p>注： QuickTest のテストの情報を表示している場合、[テスト・スクリプト] ボタンをクリックすると QuickTest ビューアが表示され、QuickTest でテストを表示するかテストを開くことができます。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<p style="text-align: center;">比較</p>	<p>[エンティティの比較] ダイアログ・ボックスが開き、選択した 2 つのベースラインのバージョンを比較できます。詳細については、「[エンティティの比較] ダイアログ・ボックス」(272 ページ) を参照してください。</p> <p>2 つのベースラインのバージョンを比較するには、CTRL キーを押しながら比較するバージョンを選択します。次に、[比較] ボタンをクリックします。</p>
<p>[ベースライン]</p>	<p>対象となるエンティティが格納されているベースラインの名前。</p>
<p>[作成者]</p>	<p>ベースラインを作成したユーザの名前。</p>
<p>[日付]</p>	<p>ベースラインが作成された日付。</p>
<p>[選択されたベースラインの説明]</p>	<p>ベースラインの作成時にユーザが入力した説明。</p>
<p>[ライブラリ]</p>	<p>ベースラインが作成されたライブラリ。</p>

UI 要素	説明
[バージョン]	選択したベースラインに格納されているエンティティのバージョンバージョン管理が有効なプロジェクトで使用できます。
[表示バージョン]	履歴の表示に次のいずれかのオプションを選択できます。 <ul style="list-style-type: none">▶ [ベースライン] : ベースラインに格納されている, 選択したエンティティのすべてのバージョンを表示します。▶ [バージョン] : 選択したエンティティのバージョン履歴を表示します。詳細については, 「[バージョンおよびベースライン] タブ - バージョン・ビュー」 (135 ページ) を参照してください。 バージョン管理が有効なプロジェクトで使用できます。

[ベースラインを選択] ダイアログ・ボックス




このダイアログ・ボックスでは、テスト・セットをベースラインに固定できます。これにより、テスト・セットのテストを、指定したベースラインに格納されているテストに関連付けます。ベースラインに固定されたテスト・セットを実行すると、ALM は指定したベースラインに保存されているバージョンのテストを実行します。



アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールで、テスト・セットを右クリックして、[ベースラインに設定] を選択します。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 固定されたテスト・セットには、ベースラインに含まれたテストのみを含めることができます。テスト・セットを固定すると、ベースラインに含まれていないテストがテスト・セットから削除されます。 ▶ テスト・セット・ツリーで、固定されたテスト・セットには固定されたテスト・セット・アイコン  が表示されます。 ▶ テスト・セットを固定すると、すべてのテスト実行がテスト・セットから削除されます。 ▶ Quality Center Starter Edition では、この機能は使用できません。
関連タスク	「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ)
参照項目	「固定されたテスト・セット」(244 ページ)

第 10 章・ライブラリおよびベースライン

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[更新]：最新の情報が表示されるように、ライブラリ・ツリーを更新します。
	[フィルタ/ソート]：選択した条件に従ってデータをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」（60 ページ）を参照してください。
	[検索]：ライブラリ・ツリーで、[検索] ボックスで指定した値を検索します。
	[ID でベースラインに移動]：[ベースラインへ移動] ダイアログ・ボックスが開き、ベースライン ID に従ってツリー内にベースラインを配置できます。
<検索ボックス>	検索するライブラリの名前を入力し、[検索] ボタンをクリックします。
<ライブラリ・ツリー>	ライブラリ・ツリーからベースラインを選択できます。

第 11 章

インポートされたライブラリ

本章の内容

概念

- ▶ 「インポートされたライブラリの概要」 (284 ページ)

タスク

- ▶ 「ライブラリの共有方法」 (289 ページ)

リファレンス

- ▶ 「インポートされたライブラリのユーザ・インタフェース」 (294 ページ)
- ▶ 「トラブルシューティングおよび制限事項」 (309 ページ)

概念

インポートされたライブラリの概要

ALM Editions : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition および Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

ライブラリをインポートすることにより、社内全体にまたがるプロジェクトにおいて既存のエンティティのセットを共有または再利用できます。ライブラリをインポートするには、インポートする別のライブラリからベースラインを選択します。同じプロジェクトから、または別のプロジェクトから、ライブラリをインポートできます。

ライブラリをインポートすると、ライブラリはライブラリ・ツリーに追加され、ライブラリのエンティティはプロジェクトの対応するモジュールにコピーされます。テスト・カバレッジを持つ要件など、関連付けられているエンティティがライブラリに含まれている場合、この関係もコピーされます。また、呼び出し先のテストやテスト・リソースなど、ライブラリ内のテストを実行するために必要となるライブラリの外の関連エンティティもインポートされます。

関連付けられたライブラリは、アプリケーション開発ライフサイクルのあらゆる段階で比較できます。たとえば、インポートしたライブラリをインポート元のソース・ライブラリと比較できます。ライブラリ内のエンティティに変更が加えられた場合、ライブラリを同期化して関連付けられているライブラリのエンティティを更新できます。

ライブラリのインポートと同期化には、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

注: 複数の ALM プロジェクトの間で不具合を共有することもできます。不具合の共有や同期化には *HP Quality Center Synchronizer* を使用します。詳細については、[HP Application Lifecycle Management Addin] ページから利用できる『HP Quality Center Synchronizer ユーザ・ガイド』を参照してください。

本項の内容

- ▶ 「ライブラリ同期化の概要」(286 ページ)
- ▶ 「ライブラリ検証」(288 ページ)

関連タスクの詳細については、「ライブラリの共有方法」(289 ページ)を参照してください。

インポートされたライブラリの例

次の例は、ライブラリの使用方法を示します。

▶ 要件とテストを新しいリリースで再利用

新しいアプリケーションの開発中に、アプリケーションに関係するすべてのエンティティを含むライブラリをプロジェクトに作成します。作業が完了したら、新しいアプリケーションをリリースします。次のバージョンの作業の開始時に、ライブラリをインポートして、要件とテストを新しいバージョンのニーズに合わせて調整し始めることができます。

▶ 複数のアプリケーションが使用する要件、テスト、およびリソースのセットの作成

プロジェクトの要件モジュールには、開発中のアプリケーションに関係する要件が含まれています。またプロジェクトのテスト計画モジュールには、要件をテストするために開発したテストが含まれています。さらに、トレーサビリティやカバレッジなど、要件とテストの間には関係を作成しました。アプリケーションを表すライブラリを作成できます。その後、ほかのアプリケーションの自己完結型のコンポーネントとしてこのライブラリをインポートします。

▶ ソース・ライブラリに加えられた変更を使用したインポート・ライブラリの更新

プロジェクト内のライブラリには、計算アプリケーション向けの要件とテストが含まれています。ほかの複数のプロジェクトがこのライブラリをインポートし、計算アプリケーションの要件とテストを開発した別のアプリケーションで使用しています。ビジネス・アナリストが、計算アプリケーション向けの要件の一部を変更しました。これらの変更を使用してインポート・ライブラリを更新するには、インポート・ライブラリをソース・ライブラリと同期化します。

▶ インポート・ライブラリの開発を使用したソース・ライブラリの更新

テスト担当者は、現在開発中の銀行アプリケーション向けの一連の回帰テストを含むインポート・ライブラリを使用しています。テスト実行中、銀行アプリケーションの新しいバージョンの追加機能をテストするために、新しいテストを開発します。テストが完了したら、テスト担当者はソース・ライブラリの回帰テストを更新します。ソース・ライブラリをインポート・ライブラリと同期化して、将来のテストのニーズのためにテストを更新できます。

ライブラリ同期化の概要

2つの関連ライブラリを同期化し、一方のライブラリに加えられた変更を使用して他方のライブラリを更新できます。ソース・ライブラリに加えられた変更を使用して、インポート・ライブラリを更新できます。また、インポート・ライブラリに加えられた変更を使用して、ソース・ライブラリを更新することもできます。

同期化中、もう一方のライブラリのベースラインからデータがライブラリにコピーされます。次の表に、ライブラリ内のエンティティの更新方法を示します。

ソース・ライブラリのイベント	ユーザのライブラリのイベント
エンティティが追加された。	エンティティが追加される。
エンティティが変更された。	エンティティが更新される。 両方のライブラリでエンティティが変更された場合、ユーザのライブラリのエンティティが上書きされます。 バージョン管理 ：新しいバージョンが作成されます。

ソース・ライブラリのイベント	ユーザのライブラリのイベント
エンティティが削除された。	新しいフォルダが作成され、削除されたエンティティが新しいフォルダに移動されます。新しいフォルダには「SYNC_OBSOLETE_<ライブラリ ID>_<現在の日付>」という名前が付けられ、モジュールのルート・フォルダの下に置かれます。
エンティティが移動した。	エンティティとその子エンティティが移動する。

ライブラリ内のエンティティは、同期化中は編集できません。同期化プロセス中に別のユーザによってライブラリのエンティティが編集されている場合、同期化は正常に終了しません。

バージョン管理：同期化の前に、ライブラリ内のすべてのエンティティをチェックする必要があります。チェックアウトされているエンティティがライブラリ内にあれば、同期化は正常に終了しません。

ライブラリを同期化したら、更新されたライブラリ用のベースラインが自動的に作成されます。このベースラインはいつの時点でもライブラリの比較の基礎となるので、削除しないようにします。

関連タスクの詳細については、「ライブラリの共有方法」(289 ページ) を参照してください。

ライブラリ検証

ライブラリをインポートまたは同期化する場合は、最初にライブラリが検証されます。検証プロセスでは次のチェックを行います。

- ▶ **要件タイプ・チェック**：プロジェクトに必要な要件タイプがあるかどうかを検査します。ソース・ライブラリにカスタマイズされた要件タイプが含まれている場合、ユーザのプロジェクトにも同じ要件タイプが含まれている必要があります。カスタマイズされた要件タイプの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- ▶ **エンティティ互換性チェック**：プロジェクトで必要な拡張機能が有効になっているかどうかを検査します。ソース・プロジェクトで拡張機能が有効で、ソース・ライブラリに該当の拡張機能のエンティティが含まれている場合、ユーザのプロジェクトでも拡張機能が有効になっている必要があります。拡張機能の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- ▶ **ライブラリ・サイズ・チェック**：ライブラリ内のエンティティの数が、サイト管理の LIBRARY_FUSE 設定パラメータで定義された最大値を超えていないかどうかを検査します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』の「LIBRARY_FUSE」を参照してください。

タスク

ライブラリの共有方法

このタスクでは、プロジェクト間またはプロジェクト内でライブラリを共有する方法を説明します。

ライブラリの共有に関する詳細については、「インポートされたライブラリの概要」(284 ページ) を参照してください。

ALM Editions : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition および Quality Center Enterprise Edition では使用できません。

このタスクは次の手順で構成されています。

- ▶ 「前提条件」(289 ページ)
- ▶ 「ライブラリのインポート」(290 ページ)
- ▶ 「ライブラリの比較」(291 ページ)
- ▶ 「ライブラリの同期化」(292 ページ)
- ▶ 「ライブラリ・タスクの監視」(293 ページ)

1 前提条件

- ▶ インポートするライブラリに対してベースラインが作成されていることを確認します。作業の詳細については、「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ) を参照してください。
- ▶ **Business Process Testing :** プロジェクトをアプリケーション領域を使用して別のプロジェクトにインポートする前に、QuickTest Professional 内からインポート先プロジェクトに 1 回以上接続していることを確認します。手順については、『HP QuickTest Professional ユーザ・ガイド』を参照してください。

2 ライブラリのインポート

既存のライブラリをライブラリ・ツリーにインポートして、プロジェクト内で、または別のプロジェクトから、エンティティのセットを再利用します。

- a ライブラリ・モジュールで、ライブラリを右クリックして [**ライブラリのインポート**] を選択します。ライブラリのインポート・ウィザードのユーザ・インタフェースの詳細については、「ライブラリのインポート・ウィザード」(295 ページ) を参照してください。

注：Business Process Testing：ライブラリをインポートする際、**[旧式]** フォルダおよび **[コンポーネント要求]** フォルダのコンポーネントは処理に含まれません。

- b [詳細] タブの [**ログの表示**] ボタンをクリックします。[ログ：ライブラリのインポート] ダイアログ・ボックスが開き、進行状況が表示されます。

注：プロセスが完了したら、ログを確認してから表示を更新します。ライブラリのインポート後に表示を更新すると、**[ログの表示]** ボタンは表示されず、ログを表示できません。

ライブラリ・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースの詳細については、「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(253 ページ) を参照してください。

- c モジュール・ツールバーの [**更新**] ボタンをクリックして、表示を更新します。[詳細] タブにライブラリの詳細が表示されます。[詳細] タブで利用できるフィールドの詳細については、「ライブラリ・モジュールのフィールド」(259 ページ) を参照してください。

3 ライブラリの比較

ライブラリを比較して、一定時間内にプロジェクトのエンティティに加えられた変更を確認します。

- a ライブラリ・ツリーで、ライブラリを右クリックして **[次と比較]** を選択します。比較するライブラリを選択し、次のいずれかを選択します。

▶ **[最後に作成したベースライン]**：ライブラリをほかのライブラリで作成された最新のベースラインと比較します。

▶ **[ベースラインの選択]**：比較するほかのライブラリのベースラインを選択します。**[ベースラインの選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし、リストからベースラインを選択します。

ソース・ライブラリまたはインポートされたライブラリに対して使用可能です。

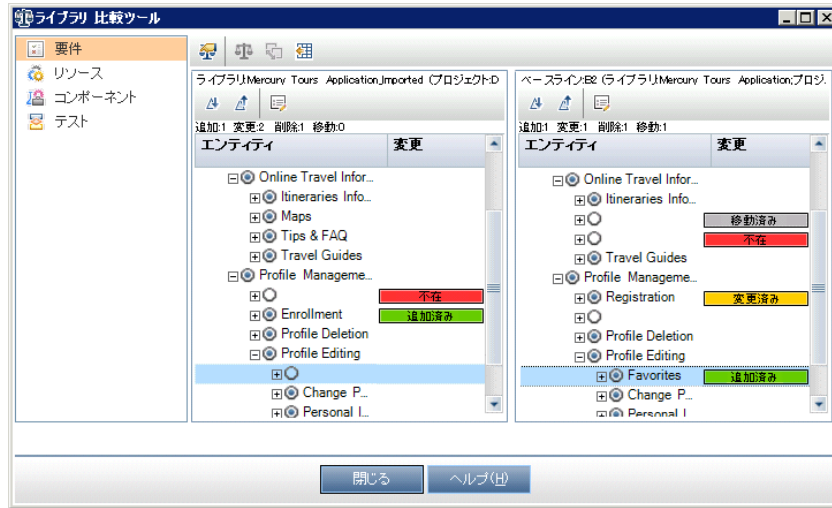
ライブラリ比較ツールのユーザ・インタフェースの詳細については、「**[ライブラリ比較ツール]** ダイアログ・ボックス」(304 ページ) を参照してください。



- b ライブラリの比較結果を .csv ファイル形式で保存するには、**[比較結果のエクスポート]** ボタンをクリックします。保存後に、コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義されたデフォルトのアプリケーション (Microsoft Excel など) でファイルが開きます。


例：

インポートした [Mercury Tours Application] ライブラリを、インポート元のソース・ライブラリと比較した結果を次に示します。



4 ライブラリの同期化

ライブラリを同期化し、別のライブラリに加えられた変更を使用してライブラリを更新できます。ソース・ライブラリに加えられた変更を使用して、インポート・ライブラリを更新できます。また、インポート・ライブラリに加えられた変更を使用して、ソース・ライブラリを更新することもできます。

- a ライブラリ・ツリーで、更新するライブラリを選択します。ライブラリ比較ツールを使用し、同期化するほかのライブラリのベースラインを選択してライブラリを比較します。ライブラリ比較ツールのユーザ・インタフェースの詳細については、「[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックス」(304 ページ)を参照してください。
- b ライブラリ比較ツールで、[同期] ボタン  をクリックします。[ライブラリ検証] ダイアログ・ボックスが開き、検証結果が表示されます。

[ライブラリ検証] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[ライブラリ検証] ダイアログ・ボックス」(308 ページ)を参照してください。ライブラリ検証に関する概念の詳細については、「ライブラリ検証」(288 ページ)を参照してください。

- c [続行] をクリックして、同期化を開始します。もう一方のライブラリのベースラインからデータがライブラリにコピーされます。

インポート時に含まれていなかった空のエンティティ・タイプがベースラインに含まれている場合、プロジェクトに親フォルダが作成されます。たとえば、テストのみを含むライブラリをインポートし、テスト計画モジュールに対してのみターゲット・ルート・フォルダを定義したとします。その後、要件がソース・ライブラリに追加されました。同期化中に、プロジェクトの要件モジュールで、要件ルート・フォルダの下に、新規にインポートした要件を格納する新規フォルダが作成されます。

- d [ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックスを閉じます。同期化はバックグラウンド・プロセスとして実行され、時間がかかる可能性があります。同期化処理中も、引き続きプロジェクトを使用して作業できます。

- e [詳細] タブの [ログの表示] ボタンをクリックします。[ログ:ライブラリの同期化] ダイアログ・ボックスが開き、進行状況が表示されます。

ライブラリ・モジュール・ウィンドウのユーザ・インタフェースの詳細については、「ライブラリ・モジュール・ウィンドウ」(253 ページ) を参照してください。

- f モジュール・ツールバーの [更新] ボタンをクリックして、表示を更新します。プロセスが完了すると、[インポート実行元] タブまたは [インポート元] タブの [最後の同期] データが更新されます。

5 ライブラリ・タスクの監視

ライブラリをインポートまたは同期化する際、これらのタスクはバックグラウンドでタスクが実行されるため、処理の実行中も引き続きプロジェクトを使用して作業できます。タスク・マネージャを使用して、プロジェクトのすべての非同期タスクの状態や進行状況を表示できます。

ALM マストヘッドで、[ツール] > [タスク・マネージャ] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[タスク・マネージャ] ダイアログ・ボックス」(50 ページ) を参照してください。

リファレンス

インポートされたライブラリのユーザ・インタフェース

本項の内容

- ▶ 「ライブラリのインポート・ウィザード」 (295 ページ)
- ▶ 「[インポート実行元] タブ」 (301 ページ)
- ▶ 「[インポート元] タブ」 (303 ページ)
- ▶ 「[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックス」 (304 ページ)
- ▶ 「[ライブラリ検証] ダイアログ・ボックス」 (308 ページ)

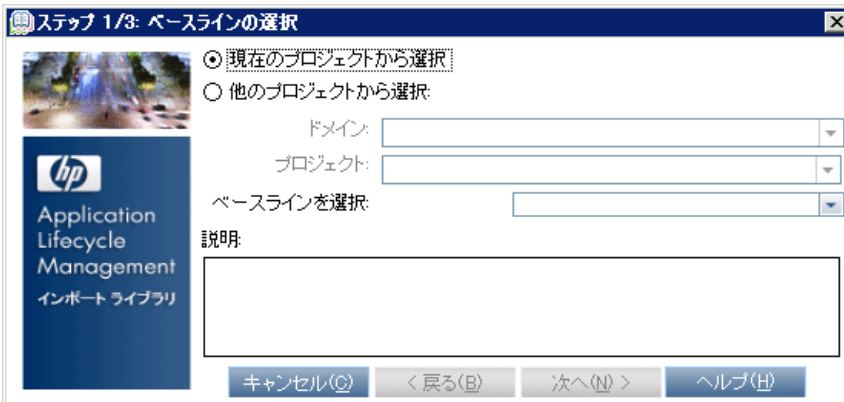
ライブラリのインポート・ウィザード

このウィザードでは、ライブラリをインポートして、既存のエンティティのセットの共有や再利用ができます。ライブラリをインポートするには、インポートする別のライブラリからベースラインを選択します。同じプロジェクトから、または別のプロジェクトから、ライブラリをインポートできます。

アクセス方法	ライブラリ・モジュールで、ライブラリを右クリックして 「ライブラリのインポート」 を選択します。
重要な情報	ライブラリをインポートすると、プロジェクト内に新しいライブラリ用のベースラインが自動的に作成されます。このベースラインはいつの時点でもライブラリの比較の基礎となるので、削除しないようにします。 ALM Editions : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(289 ページ)
ウィザード・マップ	このウィザードには次が含まれます。 [ベースラインの選択] ページ > [ライブラリ検証] ページ > [ターゲットルートフォルダの選択] ページ
参照項目	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 「インポートされたライブラリの概要」(284 ページ) ▶ 「ライブラリの概要」(242 ページ)

[ベースラインの選択] ページ

このウィザード・ページでは、インポートするライブラリのベースラインを選択できます。



重要な情報	このウィザードに関する一般的な情報については、「ライブラリのインポート・ウィザード」(295 ページ) を参照してください。
ウィザード・マップ	ライブラリのインポート・ウィザードには次が含まれます。 [ベースラインの選択] ページ > [ライブラリ検証] ページ > [ターゲットルートフォルダの選択] ページ
参照項目	「ベースラインの概要」(243 ページ)

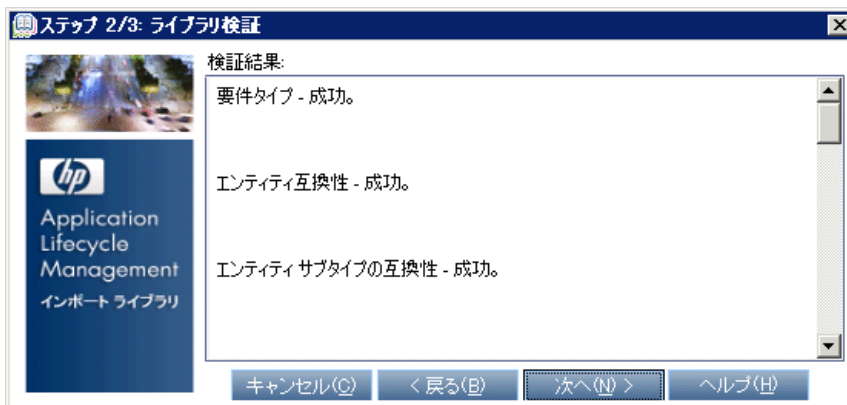
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[説明]	インポートするライブラリの説明。
[ドメイン]	インポートするライブラリが存在するドメイン。
[現在のプロジェクトから選択]	作業中のプロジェクトからライブラリをインポートできます。

UI 要素	説明
[他のプロジェクトから選択]	ライブラリのインポート元のドメインとプロジェクトを選択できます。
[プロジェクト]	インポートするライブラリが存在するプロジェクト。
[ベースラインを選択]	ライブラリのインポート元のベースラインを選択できます。参照ボタンをクリックして、選択したプロジェクトのライブラリ・ツリーを表示します。インポートできるライブラリのみが表示されます。インポートされたライブラリはインポートできません。

[ライブラリ検証] ページ

このウィザード・ページでは、ライブラリ検証処理の結果を表示できます。



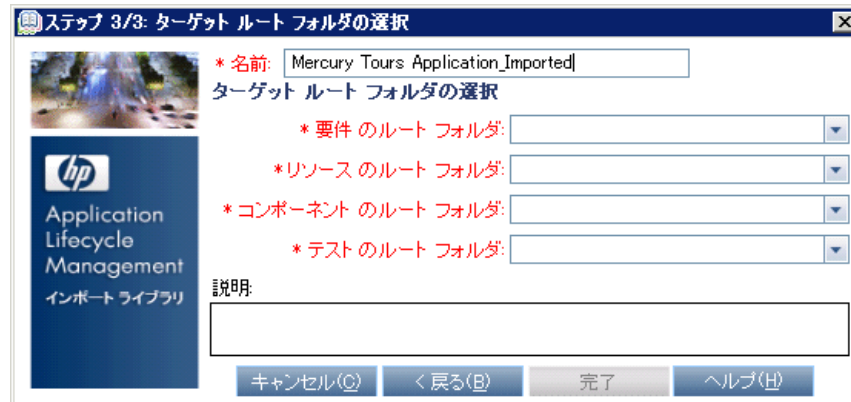
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般的な情報については、「ライブラリのインポート・ウィザード」(295 ページ) を参照してください。 ▶ 検証チェックのいずれかのステータスが [失敗] の場合、インポート・プロセスを続けることはできません。[キャンセル] をクリックします。
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>ライブラリのインポート・ウィザードには次が含まれます。</p> <p>[ベースラインの選択] ページ > [ライブラリ検証] ページ > [ターゲットルートフォルダの選択] ページ</p>
<p>参照項目</p>	<p>「ライブラリ検証」(288 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>[検証結果]</p>	<p>検証結果とインポートするフィールドのリストが表示されます。すべての検証チェックのステータスが [成功] の場合は、インポート処理を続行できます。</p>

[ターゲット ルート フォルダの選択] ページ

このウィザード・ページでは、インポートする各ルート・フォルダのプロジェクト内の場所を選択できます。



<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ このウィザードに関する一般的な情報については、「ライブラリのインポート・ウィザード」(295 ページ) を参照してください。 ▶ 以前にインポートされた同じライブラリにライブラリをインポートすることはできません。詳細については、「トラブルシューティングおよび制限事項」(309 ページ) を参照してください。 ▶ ライブラリのインポートはバックグラウンド・プロセスとして実行され、時間がかかる可能性があります。インポート処理中も、引き続きプロジェクトを使用して作業できます。
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>ライブラリのインポート・ウィザードには次が含まれます。</p> <p>[ベースラインの選択] ページ > [ライブラリ検証] ページ > [ターゲット ルート フォルダの選択] ページ</p>

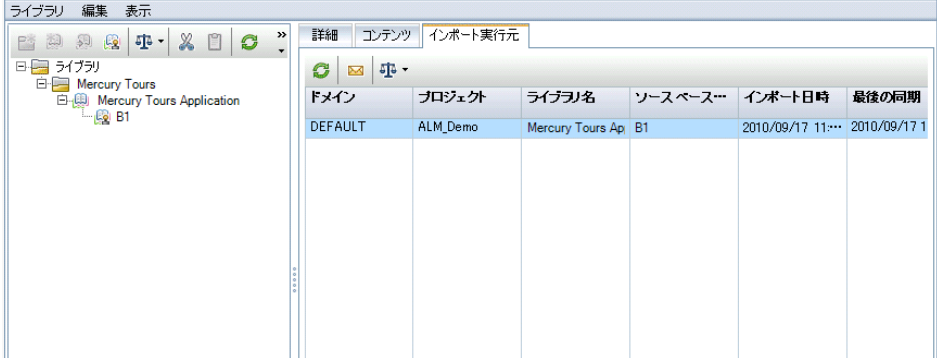
第 11 章・インポートされたライブラリ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【説明】	ライブラリの説明で標準設定では、ソース・ライブラリとベースラインに説明が含まれていれば、その説明が表示されます。
【名前】	ライブラリの名前。標準設定では、インポートするライブラリの名前に接尾辞「 _Imported 」が付加されて表示されます。
【ターゲットルートフォルダの選択】	<p>インポートされた各フォルダのプロジェクト内の場所。たとえば、【要件のルート フォルダ】 ボックスには、要件をインポートする場所を指定します。ライブラリ内で定義されたすべての要件フォルダは、指定した要件フォルダの下にインポートされます。参照ボタンをクリックして、プロジェクトの要件ツリーを表示します。インポートされた要件のフォルダを選択するか、新規フォルダを作成します。</p> <p>注：インポートするライブラリにテストが含まれている場合、テスト・リソースなどのテストを実行する必要がある関連エンティティがベースラインに自動的に含まれます。この場合、【リソースのルートフォルダ】 ボックスも表示され、インポートされたリソースのターゲット・フォルダを指定できます。</p>

[インポート実行元] タブ



このタブでは、選択したライブラリをインポートしたプロジェクトのリストが表示されます。




ドメイン	プロジェクト	ライブラリ名	ソースベース...	インポート日時	最後の同期
DEFAULT	ALM_Demo	Mercury Tours Ap	B1	2010/09/17 11...	2010/09/17 1

アクセス方法	ライブラリ・ツリーでライブラリを選択し、[インポート実行元] タブをクリックします。このタブは、選択したライブラリがインポートされている場合にのみ使用できます。
重要な情報	<p>カラム・ヘッダをドラッグしてグリッドのカラムを並べ替えることができます。</p> <p>ALM Editions: インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。</p>
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(289 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

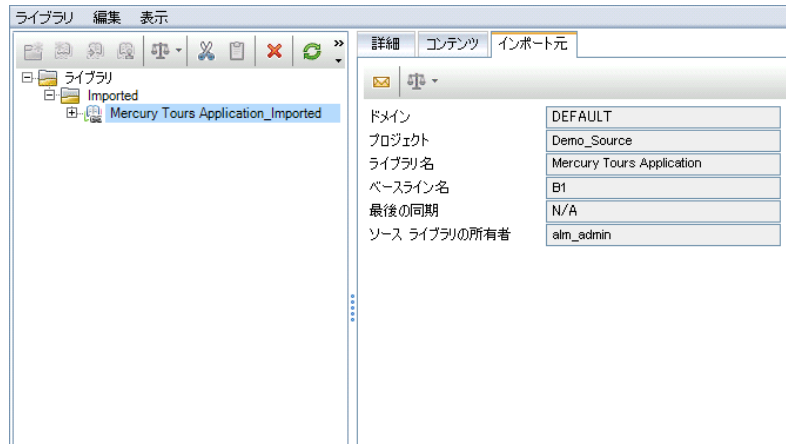
UI 要素	説明
	[更新]: 最新の情報が表示されるように、タブを更新します。
	[メールの送信]: 選択したライブラリの詳細を電子メールで送信します。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。

第 11 章・インポートされたライブラリ

UI 要素	説明
	<p>[次と比較] : ライブラリ・ツリーで選択したソース・ライブラリを、ソース・ライブラリをインポートしたライブラリと比較します。</p> <p>グリッドでインポートされたライブラリを選択して、[次と比較] をクリックします。比較するインポートされたライブラリのベースラインを選択します。</p>
[ドメイン]	インポート・ライブラリが存在するドメイン。
[インポート日時]	ライブラリがインポートされた日時。
[最後の同期]	インポート・ライブラリとソース・ライブラリが最後に同期化された日付。
[ライブラリ名]	インポート・ライブラリの名前
[ライブラリ所有者]	ライブラリをインポートしたユーザの名前。
[プロジェクト]	ライブラリをインポートしたプロジェクトの名前。
[ソース ベースライン名]	初期値は、選択したライブラリのインポート元のソース・プロジェクトでのベースライン名を示します。同期化すると、選択したライブラリを同期化したソース・プロジェクトでのベースライン名を示します。



[インポート元] タブ

このタブでは、選択したライブラリのインポート元のソース・ライブラリの詳細が表示されます。



アクセス方法	ライブラリ・ツリーでインポートされたライブラリを選択し、[インポート元] タブをクリックします。
重要な情報	ALM Editions : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(289 ページ)

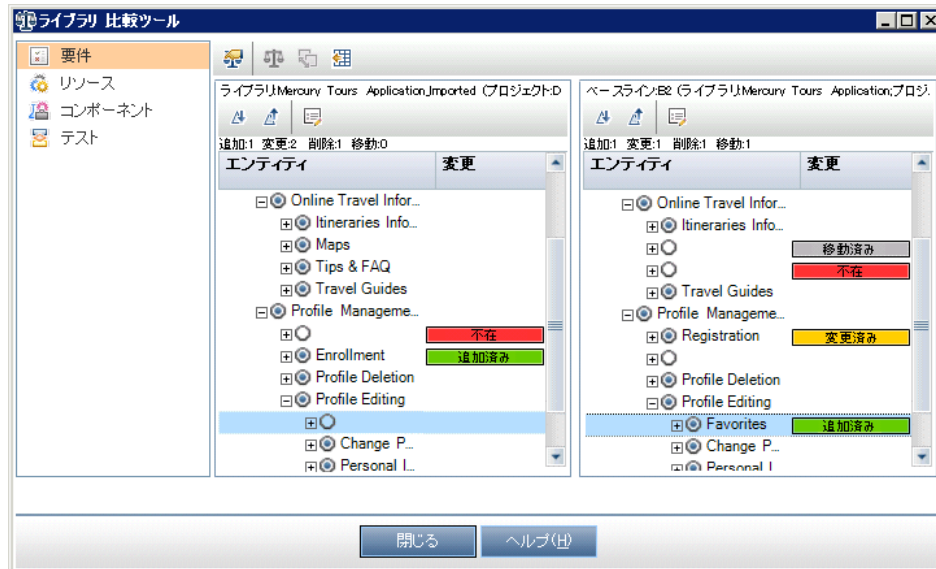
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[所有者にメールを送信] : ソース・ライブラリの所有者に電子メールを送信します。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。
	[ソースと比較] : 選択したライブラリをインポート元のライブラリと比較します。比較するソース・ライブラリのベースラインを選択します。

UI 要素	説明
[ベースライン名]	プロジェクトのインポート元のソース・プロジェクトでのベースラインの名前。
[ドメイン]	ソース・プロジェクトが存在するドメイン。
[最後の同期]	インポート・ライブラリとソース・ライブラリが最後に同期化された日付。ライブラリを初めてインポートすると、このフィールドの値は「N/A」となります。
[ライブラリ名]	ソース・プロジェクトでのライブラリの名前。
[プロジェクト]	ソース・プロジェクトの名前。
[ソース ライブラリの所有者]	ソース・プロジェクトのライブラリを作成したユーザの名前。



[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックス





のダイアログ・ボックスでは、2つの関連付けられたライブラリを比較できます。インポートされたライブラリをインポート元のソース・ライブラリと比較できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>ライブラリ・ツリーで、ライブラリを右クリックして [次と比較] を選択します。比較するライブラリを選択し、次のいずれかを選択します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ [最後に作成したベースライン] : ライブラリをほかのライブラリで作成された最新のベースラインと比較します。 ▶ [ベースラインの選択] : 比較するほかのライブラリのベースラインを選択します。[ベースラインの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。参照ボタンをクリックし、リストからベースラインを選択します。 <p>ソース・ライブラリまたはインポートされたライブラリに対して使用可能です。</p>
<p>重要な情報</p>	<ul style="list-style-type: none"> ▶ エンティティが変更されたかどうかを判断するときに、[ターゲット リリース] フィールドおよび [ターゲット サイクル] フィールドに加えられた変更は検討対象になりません。 ▶ 2つのエンティティ間のカバレッジまたはトレーサビリティが削除され、再度追加された場合、それらのエンティティは変更済みと見なされます。 ▶ ALM Editions : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。
<p>関連タスク</p>	<p>「ライブラリの共有方法」(289 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「ライブラリ同期化の概要」(286 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>[比較の設定] : [比較の設定] ダイアログ・ボックスが開き、ライブラリの比較の設定を定義できます。詳細については、「[比較の設定] ダイアログ・ボックス」(276 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[エンティティの比較] : [エンティティの比較] ダイアログ・ボックスが開き、各ライブラリ内のエンティティの詳細を表示できます。詳細については、「[エンティティの比較] ダイアログ・ボックス」(272 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	<p>[ライブラリの同期化] : 左の表示枠に表示されているライブラリを、右の表示枠に表示されているベースラインに示された変更によって更新します。</p> <p>詳細については、「ライブラリ同期化の概要」(286 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[比較結果のエクスポート] : ライブラリの比較結果を .csv ファイル形式で保存できます。保存後に、コンピュータ上で .csv ファイルを開くよう定義されたデフォルトのアプリケーション (Microsoft Excel など) でファイルが開きます。</p>
	<p>[次の変更に移動] / [1 つ前の変更に移動] : 選択したモジュールの次または 1 つ前の変更に移動します。</p>
	<p>[詳細] : [詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したエンティティの詳細を表示できます。</p> <p>エンティティを選択して [詳細] タブをクリックします。</p> <p>たとえば、いずれかの表示枠で要件を選択します。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したライブラリまたはベースラインの要件の詳細が表示されます。</p>
<p><識別バー></p>	<p>各表示枠の最上部にあり、下の表示枠に表示されているライブラリまたはベースラインの名前を示します。</p>
<p><カウンタ・バー></p>	<p>各表示枠の最上部にあり、変更ステータスに従って、追加、変更、削除、または移動されたエンティティの数が表示されます。</p>
<p><左の表示枠></p>	<p>ライブラリ・ツリーで選択したライブラリが表示されます。</p>
<p><右の表示枠></p>	<p>比較するライブラリのベースラインが表示されます。</p>
<p><サイドバー・ボタン></p>	<p>エンティティの比較結果をモジュールごとに表示できます。たとえば、[テスト] ボタンをクリックすると、テスト計画モジュールの比較結果が表示されます。</p> <p>サイドバーには、ライブラリに含まれるモジュールのみが表示されます。</p>

UI 要素	説明
[変更]	<p>2つのライブラリの相違点を示します。次のような値があります。</p> <ul style="list-style-type: none">▶ [追加済み] : エンティティがもう一方のライブラリに存在しません。▶ [変更済み] : エンティティがライブラリで変更されています。▶ [不在] : エンティティがライブラリに存在しません。▶ [移動済み] : エンティティがライブラリのツリー構造の別の場所にあります。▶ [移動済みと変更済み] : エンティティが変更され、ツリーの別の場所に移動されています。 <p>削除または移動されたエンティティは、ツリー内での元の場所がプレースホルダで表示されます。また、ツリーでは、ほかのライブラリでエンティティが追加された場所にもプレースホルダが表示されます。これにより階層構造が維持され、ライブラリ間の変更を比較できます。</p>
[エンティティ]	<p>ライブラリのエンティティが、選択したモジュールで定義された同じ階層構造で表示されます。</p>

[ライブラリ検証] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ライブラリ同期化時のライブラリ検証処理の結果を表示できます。

アクセス方法	[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックスで、[同期] ボタンをクリックします。
重要な情報	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 検証チェックのいずれかのステータスが [失敗] の場合、同期化を続けることはできません。[キャンセル] をクリックします。 ▶ ALM Editions : インポートされたライブラリの機能は、Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では使用できません。
関連タスク	「ライブラリの共有方法」(289 ページ)
参照項目	「ライブラリ検証」(288 ページ)

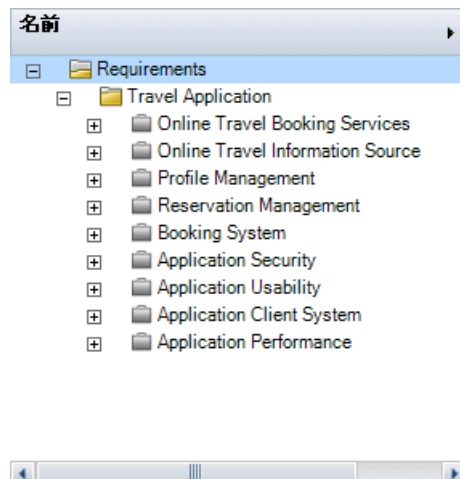
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[検証結果]	検証結果とインポートするフィールドのリストが表示されます。すべての検証チェックのステータスが [成功] の場合は、同期化処理を続行できます。
[続行]	<p>同期化処理を開始します。もう一方のライブラリのベースラインからデータがライブラリにコピーされます。</p> <p>[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックスを閉じます。同期化はバックグラウンド・プロセスとして実行され、時間がかかる可能性があります。同期化処理中も引き続きプロジェクトを使用して作業するには、[ライブラリ比較ツール] ダイアログ・ボックスを閉じます。</p>

🔍 トラブルシューティングおよび制限事項

以前にインポートされた同じライブラリにライブラリをインポートすることはできません。これは、要件ツリー、テスト計画ツリー、テスト・リソース・ツリーに適用されます。

たとえば、要件ツリーで、Travel Application フォルダはインポート・ライブラリです。Travel Application ライブラリを再度インポートする場合、Travel Application フォルダまたはその子フォルダをライブラリ内で要件のルート・フォルダとして定義できません。



第 III 部

要件

第 12 章

要件の紹介

本章の内容

概念

「要件の概要紹介」(314 ページ)

タスク

「ALM の要件の使用方法」(315 ページ)

概念

要件の概要紹介

要件には開発中のアプリケーションの目標を達成するには、何を解決または実現する必要があるのかを詳細に記述します。プロジェクトの初期段階で要件を明確かつ正確に定義することで、次のような利点が得られます。

関係者に、優先度のガイドラインを提供します。

関係者間の期待を明確にします。

無駄を省き、無用な支出を排除します。

要件モジュールを使用して、**Application Lifecycle Management** の全ての段階において、要件の定義、管理、追跡ができます。

Quality Center Starter Edition : 要件モジュールのフィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。

タスクの詳細については、「ALM の要件の使用方法」(315 ページ) を参照してください。

タスク

ALM の要件の使用方法

このタスクでは、ALM での要件の生成および管理する方法を説明します。

要件の詳細については、「要件の概要紹介」(314 ページ) を参照してください。

注: このタスクは、より高いレベルのタスクの一部です。詳細については、「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(316 ページ)
- 「要件の作成」(316 ページ)
- 「ビジネス・プロセス・モデルのインポート」(317 ページ)
- 「要件のトレース」(317 ページ)
- 「リスクの計算」(317 ページ)
- 「カバレッジの作成」(317 ページ)
- 「不具合へのリンク」(318 ページ)
- 「リリースへの割り当て」(318 ページ)
- 「要件の分析」(318 ページ)
- 「ベースラインの確立」(318 ページ)

1 前提条件

機能仕様や技術仕様、マーケティングやビジネスの要件ドキュメント、関係者の目標などの情報を収集することで、要件の範囲を決定します。

例：

いくつか疑問になりそうなものを、次に示します。

- アプリケーションの主な用途と方向性
- アプリケーションの重大な制約
- アプリケーションの主な機能
- アプリケーション機能における各要素の相対的な重要性
- アプリケーションの重要な機能、またはリスクの高い機能
- ビジネスおよびテストの優先度
- あなたが考える優先度と顧客やエンド・ユーザの優先度との一致
- 全体的な品質の目標

2 要件の作成

要件ツリーを作成することで、要件の範囲に対して階層形式の枠組みを定義します。

要件ツリーで、さまざまな要件のグループを定義します。要件グループごとに、要件ツリーに詳細な要件のリストを作成します。ツリーの各要件に、必要に応じて添付ファイルやリッチ・テキスト・ドキュメントを含めることができます。

そして、テスト計画を作成するときに考慮すべき優先度レベルを要件に割り当てます。

タスクの詳細については、「要件の作成方法」(321 ページ)を参照してください。

3 ビジネス・プロセス・モデルのインポート

ビジネス・プロセス・モデルを使用する場合、標準のモデリング・ツールで作成したモデルをインポートすることで、要件の枠組みを作成できます。ビジネス・モデル・モジュールによって、ビジネス・プロセス・モデルやビジネス・フローの品質を分析できます。タスクの詳細については、「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)を参照してください。

4 要件のトレース

要件間のトレーサビリティが追加できます。特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際、トレーサビリティを使用すれば、変更の影響を受ける可能性がある要件がわかります。タスクの詳細については、「要件のトレース方法」(369 ページ)を参照してください。

要件間の関係の完全性を定義するために、トレーサビリティ・マトリクスを生成できます。タスクの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(385 ページ)を参照してください。

5 リスクの計算

要件の性質および利用可能なリソースに基づいて、各要件のテスト・レベルを計算するためには、リスク・ベース品質管理を使用します。タスクの詳細については、「リスクの評価方法」(406 ページ)を参照してください。

6 カバレッジの作成

プロジェクトの全要件の実装を確認するため、要件とテストとの間のカバレッジを作成します。タスクの詳細については、「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)を参照してください。

要件からテスト計画ツリーのテストに変換することで、カバレッジを作成することもできます。カバレッジは、要件とその対応するテストの間に自動的に作成されます。タスクの詳細については、「要件の作成方法」(321 ページ)を参照してください。

7 不具合へのリンク

要件を特定の不具合にリンクすることができます。たとえば、これは要件とテストの間でカバレッジを作成する場合に役立ちます。不具合をリンクすることで、要件とテスト目的の整合性を確保するのに役立ちます。要件が変更された場合に、影響を受けるテストと不具合、および担当責任者を直ちに特定できます。

インターフェースの詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。

8 リリースへの割り当て

リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義されたリリースとサイクルに各要件を割り当てます。

[リリースに割り当て] : 要件を右クリックして、**[リリースに割り当て]** を選択します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[リリースを選択] ダイアログ・ボックス」(187 ページ) を参照してください

[サイクルに割り当て] : 要件を右クリックして、**[サイクルに割り当て]** を選択します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[サイクルを選択] ダイアログ・ボックス」(185 ページ) を参照してください。

9 要件の分析

要件をレビューし、定義した要件の範囲に合致していることを確認します。要件が承認された後、要件のステータスを **[レビュー未完了]** から **[レビュー済み]** に変更します。

要件のレビューに役立つレポートやグラフが作成できます。タスクの詳細については、「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ) を参照してください。

10 ベースラインの確立

アプリケーションのライフサイクルで重要なマイルストーンを承認または比較するためにベースラインを作成します。タスクの詳細については、「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用法」(246 ページ) を参照してください。

第 13 章

要件の定義

本章の内容

概要

「要件定義の概要」(320 ページ)

タスク

「要件の作成方法」(321 ページ)

リファレンス

「要件ユーザ・インターフェイス」(325 ページ)

概念

要件定義の概要

要件ツリーを作成することによって、要件モジュールに要件を記録します。**要件ツリー**は要件定義を視覚的に表したもので、要件間の階層関係を示すものです。ツリーには、要件タイプまたは機能領域に基づいて、さまざまな要件グループが含まれます。

要件グループごとに、要件ツリーに詳細な要件のリストを作成します。ツリーの各要件を詳細に記述し、必要に応じてリンクや添付ファイルを含めることができます。

要件ツリーを作成することで、テスト計画ツリーのテストを定義するための基盤として、要件を使用することができます。

タスクの詳細については、「要件の作成方法」(321 ページ)を参照してください。

タスク

要件の作成方法

このタスクでは、要件モジュールの要件を定義および更新する方法について説明します。要件ツリーを作成することで、テスト計画ツリーのテストを定義するための基盤として、要件を使用できるようになります。

要件の作成の詳細については、「要件定義の概要」(320 ページ) を参照してください。

注: このタスクは、上位タスクの一部です。詳細については、「ALM の要件の使用方法」(315 ページ) を参照してください。

ヒント: このタスクに関連するユースケースについては、「要件の作成方法 - ユースケース・シナリオ」(323 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「要件の作成」(322 ページ)

「要件のインポート - オプション」(322 ページ)

「要件の更新」(322 ページ)

「要件のテストへの変換 (オプション)」(323 ページ)

1 要件の作成

- a **要件モジュールを開きます。** ALM サイドバーの [要件] の下にある [要件] を選択します。[表示] メニューで、[要件ツリー] を選択します。

要件モジュールのユーザ・インターフェイスの詳細については、「要件モジュール・ウィンドウ」(326 ページ) を参照してください。

- b **フォルダを作成します。** 要件ルート・フォルダを右クリックして、[新規フォルダ] を選択します。サブフォルダを作成するには、フォルダを右クリックして、[新規フォルダ] を選択します。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「[新規フォルダ] ダイアログ・ボックス」(358 ページ) を参照してください。

- c **要件を追加します。** 要件フォルダを右クリックして、[新規要件] を選択します。サブ要件を作成するには、要件を右クリックして、[新規要件] を選択します。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「[新規要件] ダイアログ・ボックス」(356 ページ) を参照してください。

2 要件のインポート - オプション

要件は、ALM で直接作成するのに加え、Microsoft Word, Microsoft Excel, その他のサード・パーティ製の要件管理ツールから ALM プロジェクトへインポートすることもできます。要件をインポートするには、まず適切なアドインをインストールする必要があります。アドインの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

3 要件の更新

各要件の、詳細、添付、リッチ・テキスト・ドキュメントを更新することができます。要件を右クリックして、[要件詳細] を選択します。[要件詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「要件詳細ページ」(354 ページ) を参照してください。

4 要件のテストへの変換（オプション）

テスト計画モジュールのテスト計画ツリー構築を支援するために、テストを定義する基盤として要件を使用できます。要件を再利用し、テスト計画ツリーのエンティティ（テスト・サブジェクト、テスト、テスト・ステップ、ステップの説明）に変換できます。

要件に基づいてテストを作成する方法は2つあります。

要件をテストへ変換します。このオプションを使用して、要件をテスト・サブジェクト、テスト、テスト・ステップ、テストの説明に変換します。

要件あるいはフォルダを右クリックして、**[テストへ変換]**を選択します。テストへ変換ウィザードが開きます。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「テストへ変換ウィザード」（359 ページ）を参照してください。

要件をテストに変換して、テスト・セットに追加します。このオプションで、テスト計画ツリーの指定したサブジェクトおよびテスト・ラボ・モジュールの指定したテスト・セットのテストに要件を変換します。

要件を右クリックして、**[テストを生成]**を選択します。[テストの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「[テストの作成] ダイアログ・ボックス」（365 ページ）を参照してください。

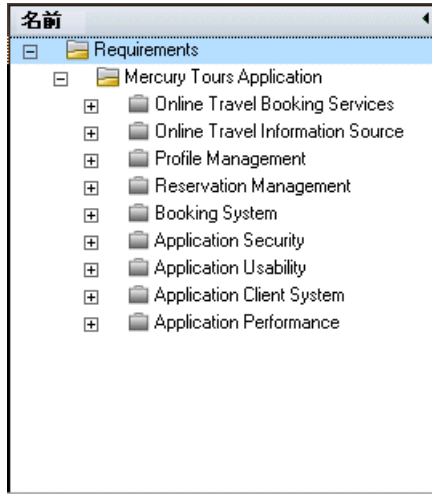
要件の作成方法 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、要件モジュールの要件を指定する例を示します。

注：このシナリオに関連するタスクについては、「要件の作成方法」（321 ページ）を参照してください。

第 13 章・要件の定義

次のシナリオでは、フライトと休暇を予約するアプリケーションに基づいたプロジェクトを使用します。主要な要件を、**Online Travel Booking Services**, **Online Travel Information Source**, **Profile Management**, **Reservation Management**, **Booking System**, **Application Security**, **Application Usability**, **Application Client System**, **Application Performance** と定義します。



要件グループごとに、要件ツリーに詳細な要件のリストを作成します。**Profile Management** 要件は、次の要件に分割できます。



ツリーの各要件に、必要に応じて添付ファイルやリッチ・テキスト・ドキュメントを含めることができます。

リファレンス

要件ユーザ・インターフェイス

本項の内容

- 「要件モジュール・ウィンドウ」(326 ページ)
- 「要件モジュール・メニューとボタン」(333 ページ)
- 「要件モジュール・アイコン」(344 ページ)
- 「要件モジュール・フィールド」(347 ページ)
- 「要件詳細ページ」(354 ページ)
- 「[新規要件] ダイアログ・ボックス」(356 ページ)
- 「[新規フォルダ] ダイアログ・ボックス」(358 ページ)
- 「テストへ変換ウィザード」(359 ページ)
- 「[テストの作成] ダイアログ・ボックス」(365 ページ)

🔑 要件モジュール・ウィンドウ

このウィンドウで、主要な ALM の要件を定義できます。

このウィンドウは、[要件ツリー]、[要件詳細]、[要件グリッド]、[カバレッジアナリシス]、[トレーサビリティマトリクス] のビューで構成されています。[ビュー] メニューからビューを選択します。

要件ツリー

このビューでは、要件をツリーで階層状に表示できます。

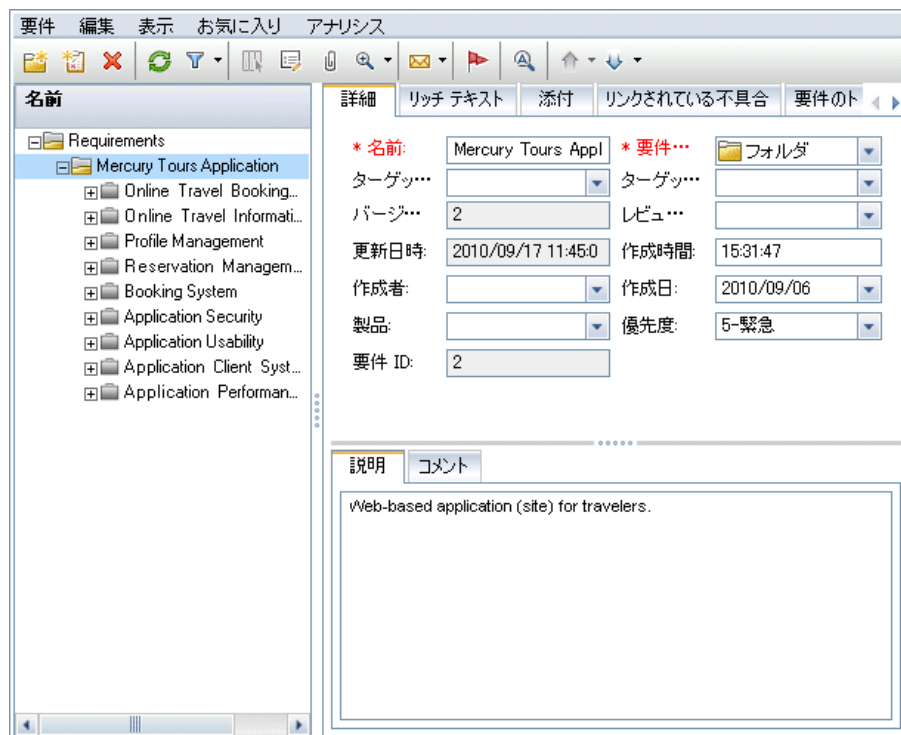
The screenshot shows the Requirements Module window with a tree view of requirements. The window has a menu bar with '要件', '編集', '表示', 'お気に入り', and 'アナリシス'. Below the menu bar is a toolbar with various icons. The main area displays a tree view with columns for '名前', '直接カバレッジ...', '作成者', and '要件 ID'. The 'Mercury Tours Application' folder is expanded, showing several sub-requirements.

名前	直接カバレッジ...	作成者	要件 ID
Requirements	...		0
Mercury Tours Application	...	alex_qc	133
Online Travel Booking Services	...	alex_qc	134
Online Travel Information Source	...	alex_qc	160
Profile Management	...	alex_qc	165
Reservation Management	...	robert_qc	173
Booking System	...	alex_qc	176
Application Security	...	alex_qc	185
Application Usability	...	shelly_qc	212
Application Client System	...	shelly_qc	230
Application Performance	...	shelly_qc	247

At the bottom of the window, there is a '説明' (Description) tab selected, showing the text: 'Web-based application (site) for travelers.'

要件の詳細

このビューでは、要件とほかのエンティティとの間にリンクを作成できます。また、要件のリスクの計算および分析もできます。詳細については、「要件詳細ページ」(354 ページ)を参照してください。



要件 編集 表示 お気に入り アナリシス

名前

- Requirements
 - Mercury Tours Application
 - Online Travel Booking...
 - Online Travel Informati...
 - Profile Management
 - Reservation Managem...
 - Booking System
 - Application Security
 - Application Usability
 - Application Client Syst...
 - Application Performan...

詳細 リッチテキスト 添付 リンクされている不具合 要件のト

* 名前: Mercury Tours Appl * 要件... フォルダ

ターゲット... ターゲット...

バージョン... 2 レビュー...

更新日時: 2010/09/17 11:45:0 作成時間: 15:31:47

作成者: 作成日: 2010/09/06

製品: 優先度: 5-緊急

要件 ID: 2

説明 コメント

Web-based application (site) for travelers.

要件グリッド

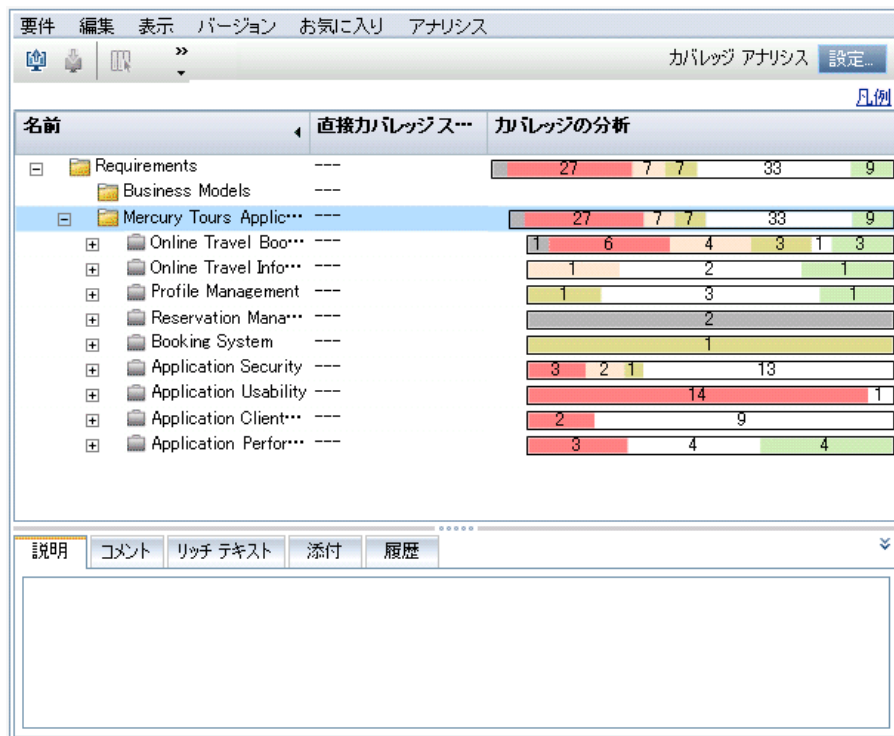
このビューでは、要件を表形式の非階層型のビューとして表示できます。グリッドの各行には、要件が個別に表示されます。

要件			
名前	直接バレッジス...	作成者	要件 ID
Requirements	...		0
Mercury Tours Application	...	alex_qc	133
Online Travel Booking Services	...	alex_qc	134
Products/Services On Sale	Not Covered	shelly_qc	135
Flight Tickets	Failed	shelly_qc	136
Flight Search	Failed	robert_qc	141
Search Conditions	Not Covered	shelly_qc	142
Origin And Destination	Failed	peter_qc	143
One-Way Trip	Failed	robert_qc	149
Relevant Flights	Not Completed	robert_qc	152
Names Of Passengers	Failed	robert_qc	156
Itineraries Information	Not Covered	alex_qc	161
Registration	Not Covered	robert_qc	166
Customer Identification Information	Failed	robert_qc	167
Change Password	Not Covered	robert_qc	170
View Reservations	Not Completed	robert_qc	174
Secure Purchase	Not Completed	alex_qc	177
Credit Card	Not Covered	alex_qc	179
Credit Card Type	Not Completed	robert_qc	180
Access Authorization	Not Covered	alex_qc	186
Customers vs. Site Visitors	Failed	alex_qc	187

説明 コメント リッチ テキスト 添付 履歴

カバレッジ・アナリシス

このビューにより、テスト・カバレッジ・ステータスごとに子要件の内訳を分析できます。詳細については、「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(535 ページ)を参照してください。



トレーサビリティ・マトリクス

このビューによって、ある要件とほかの要件の間、またはある要件とマトリクスのテストの間のトレーサビリティの関係を表示できます。詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの表示」(390 ページ)を参照してください。

The screenshot shows the 'Traceability Matrix' tool interface. At the top, there are tabs for '要件' (Requirements), '編集' (Edit), '表示' (View), 'お気に入り' (Favorites), and 'アナリシス' (Analysis). Below the tabs, there are icons for 'トレーサビリティ マトリクスの設定' (Traceability Matrix Settings), '完全パスを表示' (Show Full Path), and 'トレーサビリティ マトリクスの生成' (Generate Traceability Matrix). A filter bar shows '作成者 [bob]' and 'リンク フィルタ: トレース元要件 の個数 [0]'. Below this, a summary row indicates '合計 トレース元要件 の個数: 4'. The main table has four columns: '要件 ID', '名前', 'トレース元要件 の個数', and '作成者'. It lists requirements req1, req2, req4, and req3a with their respective counts and creator 'bob'. Below the main table, there is a section for 'トレース元要件' (Traceability Elements) with a sub-table showing '要件 ID' and '名前' for req2 and req3.

要件 ID	名前	トレース元要件 の個数	作成者
1	req1	2	bob
2	req2	1	bob
4	req4	1	bob
7	req3a	3	bob

要件 ID	名前
2	req2
3	req3

アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下にある [要件] を選択します。[表示] メニューから要件ビューを選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : 要件モジュールのフィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。
関連タスク	「要件の作成方法」(321 ページ)
参照項目	「要件定義の概要」(320 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<要件モジュールの共通 UI 要素>	<p>要件フィールド。フィールド定義については、「要件モジュール・フィールド」（347 ページ）を参照してください。</p> <p>要件メニューとボタン。コマンドとボタンの説明は、「要件モジュール・メニューとボタン」（333 ページ）を参照してください。</p> <p>要件アイコン。アイコンの詳細については、「要件モジュール・アイコン」（344 ページ）を参照してください。</p> <p>ALM の主要なメニューとサイドバー。[ツール] メニュー、[ヘルプ] メニュー、サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」（40 ページ）を参照してください。</p>
<要件ツリー>	<p>ウィンドウの左にあり、要件を階層状に整理、表示します。</p> <p>使用可能な場所:[要件ツリー],[要件詳細],[カバレッジアナリシス]</p>
[添付] タブ	現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」（86 ページ）を参照してください。
[ビジネス モデル リンク]	現在選択されている要件にリンクされているビジネス・モデル・エンティティの一覧が表示されます。詳細については、「[ビジネス モデル リンク] タブ」（545 ページ）を参照してください。
[コメント] タブ	<p>現在選択されている要件のコメントが表示されます。</p> <p>テキスト・ボックスをクリックすると、テキストのフォーマットやスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[説明] タブ	<p>現在選択されている要件についての説明が表示されます。</p> <p>テキスト・ボックスをクリックすると、テキストのフォーマットやスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[詳細] タブ	現在選択されている要件の詳細が表示されます。
[フィルタ]	グリッドまたはツリーに現在適用されているフィルタの説明が表示されます。グリッド・フィルタ・ボックスまたはツリーの真上にあります。

UI 要素	説明
[履歴] タブ	現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ)を参照してください。
[リンクされている不具合] タブ	現在選択されている要件にリンクされている不具合の一覧です。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ)を参照してください。
[代表的な項目]	現在選択されている要件で代表されるビジネス・モデル・エンティティの一覧が表示されます。 使用可能な場所: [ビジネス モデル要件]
[要件のトレーサビリティ] タブ	現在選択されている要件にリンクされている要件の一覧です。詳細については、「[関係] タブ」(375 ページ) および「影響分析タブ」(380 ページ)を参照してください。
[リッチ テキスト] タブ	ALM 内から、HTML エディタでリッチ・テキストを追加、表示、編集できます。 注: 要件のリッチ・テキストに加えた変更は、別の要件または別のモジュールに移動するときに自動的に保存されます。 リッチ・テキスト・テンプレートの定義の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
[リスク アナリシス] / [リスク評価] タブ	現在選択されている要件のリスクの計算および分析を行います。詳細については、「[リスク評価] タブ」(413 ページ) および「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ)を参照してください。
[テスト カバレッジ] タブ	現在選択されている要件に関連付けられているテストの一覧です。詳細については、「テスト・カバレッジ・ページ」(548 ページ)を参照してください。


要件モジュール・メニューとボタン

本項では、要件モジュールで利用可能なメニューとボタンを説明します。


アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下にある [要件] を選択します。
重要な情報	<p>メニューのコマンドとボタンの中には、すべての要件ビューで使用できないものもあります。</p> <p>バージョン管理：追加されたメニューのコマンドとボタンは、バージョン管理が有効なプロジェクトで使用できます。詳細については、「[バージョン] メニューおよびボタン」(126 ページ) を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition：コマンドおよびボタンの中には使用できないものもあります。</p>
関連タスク	「要件の作成方法」(321 ページ)
参照項目	<p>「要件モジュール・アイコン」(344 ページ)</p> <p>「要件定義の概要」(320 ページ)</p>


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。



UI 要素	メニュー	説明
【お気に入り】に追加	[お気に入り]	[追加お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、お気に入りのビューを非公開または公開のフォルダに追加できます。詳細については、「[追加お気に入り] ダイアログ・ボックス」(113 ページ) を参照してください。
【警告】	[編集]	[警告] ダイアログ・ボックスが開き、要件の警告を表示できます。詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。


UI 要素	メニュー	説明
【サイクルに割り当て】	[要件]	[サイクルを選択] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件をサイクルに割り当てできます。詳細については、「[サイクルを選択] ダイアログ・ボックス」(185 ページ) を参照してください。
【リリースに割り当て】	[要件]	[リリースを選択] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件をリリースに割り当てできます。詳細については、「[リリースを選択] ダイアログ・ボックス」(187 ページ) を参照してください。
 【添付】	<右クリックメニュー>	[添付] ページが開きます。選択したテストに添付を追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
【警告をクリア】	[編集]	表示されたモジュールに対する警告をクリアします。詳細については、「警告の使用方法」(99 ページ) を参照してください。
【フォローアップ フラグをクリア】	[編集]	選択された要件のフォローアップ・フラグをクリアします。フォローアップ・フラグの詳細については、「フォローアップ・フラグの概要」(98 ページ) を参照してください。
【折りたたみ】	[表示]	要件ツリーのすべてのブランチを折りたたみます。
【トレーサビリティマトリクスの設定】	[編集]	[トレーサビリティマトリクス設定]ウィザードが開き、マトリクスに表示されたエンティティを設定できます。詳細については、「トレーサビリティマトリクスの設定ウィザード」(394 ページ) を参照してください。 使用可能な場所 : [トレーサビリティマトリクス]




UI 要素	メニュー	説明
[テストへ変換]	[要件]	<p>テストへ変換ウィザードが開き、選択した要件をテスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換できます。詳細については、「テストへ変換ウィザード」(359 ページ)を参照してください。</p>
[コピー] / [貼り付け]	[編集]	<p>同じプロジェクト内、またはプロジェクト間で選択した要件をコピーします。要件をコピーする場合、要件の子もコピーされます。</p> <p>注：</p> <p>要件のテスト・カバレッジ、不具合のリンク、リスク・ベースの品質管理データはコピーされません。</p> <p>トレーサビリティのある要件をコピーするには、関連付けられている追跡済み要件もコピーする必要があります。</p> <p>ルート・フォルダは、同じプロジェクト内にコピーできません。</p> <p>既存の要件と同じ名前の要件を貼り付けると、接尾語 <code>_Copy</code> が要件名の末尾に自動的に付加されます。</p>
[URL をコピー] / [貼り付け]	[編集]	<p>選択した要件をコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。要件自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き、その要件に移動します。ログインしていない場合、ALM からログインの詳細情報の入力が最初に要求されます。</p>


UI 要素	メニュー	説明
[カバレッジ アナリシス]	[表示]	カバレッジ・アナリシス・ビューを表示し、テスト・カバレッジ・ステータスに応じて、子要件の内訳を分析できます。詳細については、「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(535 ページ)を参照してください。
[切り取り] / [貼り付け]	[編集]	<p>選択した要件を、要件ツリーの別の場所に移動します。</p> <p>注: 要件を要件ツリーの別の場所に移動すると、その子の要件、テスト・カバレッジ、要件トレーサビリティのリンク、不具合のリンクも移動します。ルート・フォルダは移動できません。</p> <p>ヒント: ドラッグ操作により、要件を要件ツリー内の別の場所に移動することもできます。</p>
 [削除]	[編集]	<p>選択した要件を削除します。要件を削除すると、その子要件、テスト・カバレッジ、要件トレーサビリティのリンク、および不具合のリンクも削除されます。ルート・フォルダは削除できません。</p> <p>バージョン管理: 要件を削除すると、以前のバージョンの要件がすべて削除されます。</p>
[全て展開]	[表示]	要件ツリーのすべてのブランチを展開します。
[エクスポート]	[要件]	<p>[カバレッジ アナリシスのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開き、カバレッジ・アナリシス・ビューを Microsoft Word に保存できます。ドキュメントは、要件ツリー内の各親要件の棒グラフを表示します。</p> <p>使用可能な場所: [カバレッジ アナリシス]</p>



UI 要素	メニュー	説明
【エクスポート】	<右クリック メニュー>	<p>[全てのグリッドデータをエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き、グリッドの要件を、テキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>【全て】: グリッドの全ての要件をエクスポートします。</p> <p>【選択済み】: グリッドで選択された要件をエクスポートします。</p> <p>使用可能な場所: [要件グリッド]</p>
【トレーサビリティマトリクスのエクスポート】	[アナリシス]	<p>[トレーサビリティマトリクスのエクスポート]ダイアログ・ボックスが開き、トレーサビリティ・マトリクス・ビューを Microsoft Excel ワークシートに保存できます。</p> <p>使用可能な場所: [トレーサビリティマトリクス]</p>
 【フィルタ / ソート】	[表示]	<p>要件ツリーまたは要件グリッドにある要件のフィルタとソートの処理ができます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p>
【検索】	[編集]	<p>要件モジュールの要件を検索します。詳細については、「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ)を参照してください。</p>



UI 要素	メニュー	説明
<p>[次を検索]</p>	<p>[編集]</p>	<p>前回定義した検索条件に一致する要件グリッドの次の項目を検索します。</p> <p>使用可能な場所: [要件グリッド]</p>
<p> [フォローアップフラグ]</p>	<p>[編集]</p>	<p>[フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件のフォローアップ・フラグを定義できます。詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ)を参照してください。</p>
<p>[テストを生成]</p>	<p>[要件]</p>	<p>[テストの作成] ダイアログ・ボックスを開き、選択した要件をテスト計画ツリーの指定サブジェクト内のテスト、およびテスト・ラボ・モジュール内の指定テスト・セットに変換できます。詳細については、「[テストの作成] ダイアログ・ボックス」(365 ページ)を参照してください。</p>
<p>[要件へ移動]</p>	<p>[要件]</p>	<p>[要件へ移動] ダイアログ・ボックスが開き、ReqID を使って特定の要件を検索できます。要件ツリーの要件を表示するには、[ツリーに表示] をクリックします。[要件詳細] ダイアログ・ボックスの要件を表示するには、[詳細を開く] をクリックします。現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。</p>
<p> [要件ツリーで要件に移動する]</p>	<p><右クリックメニュー></p>	<p>要件ツリー・ビューに移動し、選択された要件を強調表示します。</p> <p>使用可能な場所: [要件グリッド] と [トレーサビリティマトリクス]</p>


UI 要素	メニュー	説明
[グラフ]	[アナリシス]	要件データで生成できるグラフの一覧を表示します。定義済みのグラフを選択するか、グラフ・ウィザードを起動してください。 定義済みのグラフの種類の詳細については、「グラフの種類」(906 ページ)を参照してください。
[グリッド フィルタ] 責任者 alm_admin	[表示]	各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスを表示し、カラムのフィルタ条件を定義できます。 ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして参照用ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。 使用可能な場所 ：[要件グリッド]
[インジケータ カラム]	[表示]	要件ウィンドウの左側にカラム  が表示されます。詳細については、「要件モジュール・アイコン」(344 ページ)を参照してください。
[情報パネル]	[表示]	要件ビューの最下部に情報パネルタブが表示されます。詳細については、「要件モジュール・ウィンドウ」(326 ページ)を参照してください。
[選択 / 非選択項目の 入れ替え]	[編集]	以前選択したグリッドの要件をすべて非選択にし、以前非選択の要件をすべて選択します。 使用可能な場所 ：[要件グリッド]

UI 要素	メニュー	説明
 <p>【下へ移動】</p> <p>【上へ移動】</p>		<p>選択された要件ツリーの実要件を上下に移動させることで、順序を設定できます。</p> <p>注：要件ツリーの実要件が [フィルタ] ダイアログ・ボックスの [表示順序] タブを使用して並べ替え済みの場合、【上へ移動】 ボタンおよび【下へ移動】 ボタンは、使用できません。[表示順序] タブの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：[要件ツリー]、[要件詳細]、[カバレッジアナリシス]</p>
 <p>【新規フォルダ】</p>	[要件]	<p>[新規要件フォルダ] ダイアログ・ボックスが開き、選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。詳細については、「[新規フォルダ] ダイアログ・ボックス」(358 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：[要件ツリー]、[要件詳細]、[カバレッジアナリシス]</p>
 <p>【新規要件】</p>	[要件]	<p>[新規要件] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の下に要件を追加できます。詳細については、「[新規要件] ダイアログ・ボックス」(356 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：[要件ツリー]、[要件詳細]、[カバレッジアナリシス]</p>

UI 要素	メニュー	説明
[お気に入りの整理]	[お気に入り]	[整理お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、プロパティの変更やビューの削除でお気に入りビューのリストを整理できます。詳細については、「[整理お気に入り] ダイアログ・ボックス」(115 ページ) を参照してください。
[非公開]	[お気に入り]	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
[公開]	[お気に入り]	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
[最近の利用]	[アナリシス]	要件モジュールで最近表示したレポートおよびグラフを表示します。
 [全て更新]	[表示]	最新の要件が表示されるように、要件ツリーまたは要件グリッドを更新します。
[名前の変更]	[編集]	選択した要件の名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。 構文の例外： 要件名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。
[置換]	[編集]	ツリーまたはグリッドで要件のフィールド値を置換します。詳細については、「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ) を参照してください。
[レポート]	[アナリシス]	要件データで作成できる定義済みレポートの一覧を表示します。レポートの種類の詳細については、「定義済み標準レポート」(1008 ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
 【要件詳細】	[要件]	[要件詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細を表示できます。詳細については、「要件詳細ページ」(354 ページ)を参照してください。
【要件の詳細】	[表示]	[要件詳細] ビューを表示し、要件とほかのエンティティとの間にリンクを作成できます。また、要件のリスクの計算および分析もできます。詳細については、「要件詳細ページ」(354 ページ)を参照してください。
【要件グリッド】	[表示]	要件グリッド・ビューを表示し、要件を表形式の非階層型のビューとして表示できます。グリッドの各行には、要件が個別に表示されます。
【要件ツリー】	[表示]	要件ツリー・ビューを表示し、要件をツリーで階層状に表示できます。
【全て選択】	[編集]	グリッドの全ての要件を選択します。 使用可能な場所: [要件グリッド]
 【カラムを選択】	[表示]	[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、要件ツリーまたは要件グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
 【電子メールで送信】	[要件]	<p>[電子メールで送信] ダイアログ・ボックスが開き、リストから選択した宛先、または要件の作成者宛てに電子メールで要件を送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。</p>
【完全パスを表示】	[表示]	<p>要件ツリーの要件のパスが表示されます。</p> <p>使用可能な場所: [トレーサビリティマトリクス]</p>
【テストカバレッジ】 > 【[基準カバレッジの追加] を表示】	[表示]	<p>[基準カバレッジ追加] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(557 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: [要件ツリー], [要件詳細], [カバレッジアナリシス]</p>
 【テキスト検索】	[編集]	<p>要件モジュール・ウィンドウの下に [テキスト検索] の表示枠が開き、定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ) を参照してください。</p>
【選択項目の更新】	[編集]	<p>[選択項目の更新] ダイアログ・ボックスが開き、ツリーまたはグリッドの複数選択された要件のフィールドの値を更新できます。詳細については、「[選択項目の更新] ダイアログ・ボックス」(92 ページ) を参照してください。</p>



UI 要素	メニュー	説明
 [ズーム]	[表示]	<p>要件ツリーでの詳細レベルを変更します。次のオプションがあります。</p> <p>[ズーム イン] : 選択した要件が表示され、要件の階層パスを示す見出しが付きます。</p> <p>[1 レベルズームアウト] : 以前の [ズーム イン] コマンドを取り消します。</p> <p>[ルートまでズームアウト] : 階層の最上位まで拡大され、要件ツリー全体が表示されます。</p>
<最近使用されたお気に入りの表示のリスト>	[お気に入り]	<p>要件モジュールで最近表示した 4 つのお気に入りビューを表示します。</p> <p>「サイト管理」の [サイト設定] タブで FAVORITES_DEPTH パラメータを設定することによって、メニューに表示するビューの数を定義できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>

要件モジュール・アイコン










本項では、要件モジュールで利用可能なアイコンを説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下にある [要件] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : アイコンの中には使用できないものもあります。
参照項目	<p>「要件モジュール・メニューとボタン」 (333 ページ)</p> <p>「要件モジュール・ウィンドウ」 (326 ページ)</p>

アイコンを以下で説明します。

UI 要素	説明
	<緑色のアスタリスク>。該当するタブが埋め込まれています。
	[警告]: クリックすると、要件の警告が表示されます。 赤の警告 。新しい警告です。 グレーの警告 。警告は既読です。 詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。
	[添付]: クリックすると、指定要件の添付が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
	[子]: 選択された要件に加えられた変更の影響を受ける子要件。詳細については、「影響分析タブ」(380 ページ) を参照してください。
	[親]: 選択された要件に影響を与える親要件。詳細については、「影響分析タブ」(380 ページ) を参照してください。
	[トレース先]: 選択された要件で影響を受ける要件。詳細については、「影響分析タブ」(380 ページ) を参照してください。
	[トレース元]: 選択された要件に影響を与える要件。詳細については、「影響分析タブ」(380 ページ) を参照してください。
	[再帰的]: 同じ要件が 2 回以上現れる関係です。詳細については、「影響分析タブ」(380 ページ) を参照してください。
	[フォローアップ・フラグ]: クリックすると、要件のフォローアップが表示されます。 グレーのフラグ 。新しいフォローアップフラグです。 赤のフラグ 。フォローアップ日です。 詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。

第 13 章・要件の定義

UI 要素	説明
	[リンクされている不具合]: クリックすると、要件のリンクされている不具合が表示されます。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。
	[ビジネス要件]: ビジネス・プロセス要件。
	[フォルダ要件]: 要件を整理するためのフォルダ。
	[機能要件]: システムの動作要件。
	[グループ要件]: 関連する要件の集合。
	[テスト要件]: テスト・タイプ要件。
	<p>[ビジネス・モデル要件]: ビジネス・プロセス・モデル・エンティティを表す要件。</p> <p>注:</p> <p>ビジネス・モデル要件は、各モデル・エンティティに対して自動的に作成され、ビジネス・モデル・モジュールに追加されます。</p> <p>ビジネス・モデル要件の要件タイプは、変更できません。</p>
	[未定義要件]: 未定義タイプの要件。
	<p>バージョン管理: 要件は、チェックアウトされます。</p> <p>緑の鍵。 要件は、現在のユーザによってチェックアウトされます。</p> <p>赤の鍵。 要件は、別のユーザによってチェックアウトされます。</p>

要件モジュール・フィールド

本項では、要件モジュール・フィールドについて説明しています。

アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下にある [要件] を選択します。
重要な情報	<p>要件モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>スクリプト・エディタを使用して、要件モジュールに表示されるフィールドと値を制限したり、動的に変更したりすることができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>ユーザ名の値を含む要件カラムを選択する場合（ユーザ定義フィールドを含む）、ALM により各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、「[ユーザ リスト] ダイアログ・ボックス」(72 ページ) を参照してください。</p> <p>フィールドの中には、すべての要件ビューで使用できないものもあります。</p> <p>バージョン管理：追加されたフィールドは、バージョン管理が有効なプロジェクトで使用できます。詳細については、「バージョン管理 フィールド」(127 ページ) を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition：フィールドの中には使用できないものもあります。</p>
参照項目	「要件モジュール・ウィンドウ」(326 ページ)

第 13 章・要件の定義

フィールドについて、以下で説明します。

UI 要素	説明
【作成者】	要件を作成したユーザの名前。 標準設定値 ：ログイン・ユーザ名。
【コメント】	要件に関するコメントが表示されます。
【カバレッジ アナリシス】	要件および子要件の直接カバレッジ・ステータスが視覚的に表示されます。現在のフィルタに一致しない要件、つまり直接カバレッジ・ステータスが「N/A」の要件は、分析に含まれません。 注 ：カバレッジをサイクル単位で設定した場合、ALM は算出に【 直接カバレッジ ステータス 】フィールドを使用しません。その代わりに、フィルタに含まれるサイクルに割り当てられたテスト・セット・フォルダに属するインスタンスを持つテストに基づいて算出された直接カバレッジ・ステータスの値を使用します。この場合、フィルタに含まれるサイクル向けのテスト・カバレッジを持たない要件は分析に含まれません。カバレッジをサイクル単位で設定の詳細については、「【アナリシス詳細】ダイアログ・ボックス」(553 ページ)を参照してください。
【作成者】	要件リンクを作成したユーザの名前。 標準設定値 ：ログイン・ユーザ名。
【作成日】	要件あるいは要件リンクが作成された日付。 標準設定値 ：データベース・サーバの現在の日付。
【作成時間】	要件が作成された時刻。 標準設定値 ：データベース・サーバの現在の時間。
【説明】	要件の説明。








UI 要素	説明
<p>[直接カバレッジステータス]</p>	<p>要件の現在のステータスです。要件に関連付けられているテストのステータスに基づいて判断されます。</p> <p>要件ステータスは、次のいずれかになります。</p> <p>[Blocked] : 要件がカバーする 1 つ以上のテストの実行ステータスが「Blocked」になっています。</p> <p>[Not Covered] : 要件がテストにリンクされていません。</p> <p>[Failed] : 要件がカバーする 1 つ以上のテストの実行ステータスが「Failed」であり、「Blocked」になっているものはありません。</p> <p>[Not Completed] : 要件がカバーする 1 つ以上のテストの実行ステータスが「Not Completed」であり、「Blocked」あるいは「Failed」になっているものはありません。一方、要件がカバーするテストの実行ステータスは、「Passed」および「No Run」になっています。</p> <p>[Passed] : 要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが「成功」になっています。</p> <p>[No Run] : 要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが「実行なし」になっています。</p> <p>[N/A] : 要件の現在のステータスは不明です。</p> <p>----。カバレッジをサポートしない要件タイプに属しているため、この要件には直接カバレッジ・ステータスがありません。</p> <p>標準設定値 : ステータスは、 Not Covered です。</p>
<p>[更新日時]</p>	<p>要件あるいは要件リンクが修正された日時。</p> <p>標準設定値 : データベース・サーバの現在の日付と時間。</p>
<p>[名前]</p>	<p>要件の名前。</p>

UI 要素	説明
<p>[古いタイプ (旧型)] (前のバージョンでは [タイプ])</p>	<p>[要件の種類 (旧型)]。以前のバージョンの ALM では、プロジェクトに設定されている値ならどれでも (通常の値は「変更」, 「機能」, 「ガイドライン」, 「品質」, 「標準」, 「システム」), タイプとして指定できました。</p> <p>このフィールドは、未定義タイプの要件にのみ使用できます。</p>
<p>[優先度]</p>	<p>低い (レベル 1) から緊急 (レベル 5) までの要件の優先度。</p>
<p>[製品]</p>	<p>要件の対象となるアプリケーション・コンポーネント。</p>
<p>[RBQM のビジネスへの影響]</p>	<p>計算された、要件のビジネス上の危険性。有効な値は「A」(高い), 「B」(普通), 「C」(低い) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。</p>
<p>[RBQM のカスタムのビジネスへの影響]</p>	<p>要件のユーザ定義のビジネス上の危険性。有効な値は「A」(高い), 「B」(普通), 「C」(低い) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。</p>
<p>[RBQM のカスタムの失敗の確率]</p>	<p>要件のユーザ定義の失敗の確率。有効な値は「1」(高い), 「2」(普通), 「3」(低い) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。</p>
<p>[RBQM のカスタムの機能の複雑性]</p>	<p>要件のユーザ定義の機能の複雑性。有効な値は「1」(高い), 「2」(普通), 「3」(低い) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。</p>
<p>[RBQM のカスタムリスク]</p>	<p>要件のユーザ定義のリスク。有効な値は「A」(高い), 「B」(普通), 「C」(低い) です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。</p>
<p>[RBQM のカスタムのテスト時間]</p>	<p>要件のテストに必要なユーザ定義の効果。プロジェクトのカスタマイズで定義した単位で測定されます。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。</p>
<p>[RBQM のカスタムのテストレベル]</p>	<p>ユーザ定義の、要件のテストのレベル。有効な値は「1 - 完全」, 「2 - 部分」, 「3 - 基本」, 「4 - なし」です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。</p>

UI 要素	説明
[RBQM の最終分析日]	要件に対してリスク・ベースの品質管理分析が最後に行われた日付。このフィールドは、アナリシス要件にのみ使用されます。
[RBQM の有効なビジネスへの影響]	要件の有効なビジネス上の危険性。有効な値は「A」（高い）、「B」（普通）、「C」（低い）です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の有効な失敗の確率]	要件の有効な失敗の確率。有効な値は「1」（高い）、「2」（普通）、「3」（低い）です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の有効な機能の複雑性]	要件の有効な機能の複雑性。有効な値は「1」（高い）、「2」（普通）、「3」（低い）です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の有効なリスク]	要件の有効なリスク。有効な値は「A」（高い）、「B」（普通）、「C」（低い）です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の予想 RnD 作用]	要件の開発に必要な作用のユーザ定義の予想。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の分析なし]	リスク・アナリシスから要件を除外するかどうかを示します。リスク評価を使用できないタイプに要件が属している場合、また、要件を分析から明示的に除外する場合、要件をリスク・アナリシスから除外できます。
[RBQM の失敗の確率]	計算された、要件の失敗の確率。有効な値は「1」（高い）、「2」（普通）、「3」（低い）です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM の機能の複雑性]	計算された、要件の機能の複雑性。有効な値は「1」（高い）、「2」（普通）、「3」（低い）です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM リスク]	計算された要件のリスク。有効な値は「A」（高い）、「B」（普通）、「C」（低い）です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。

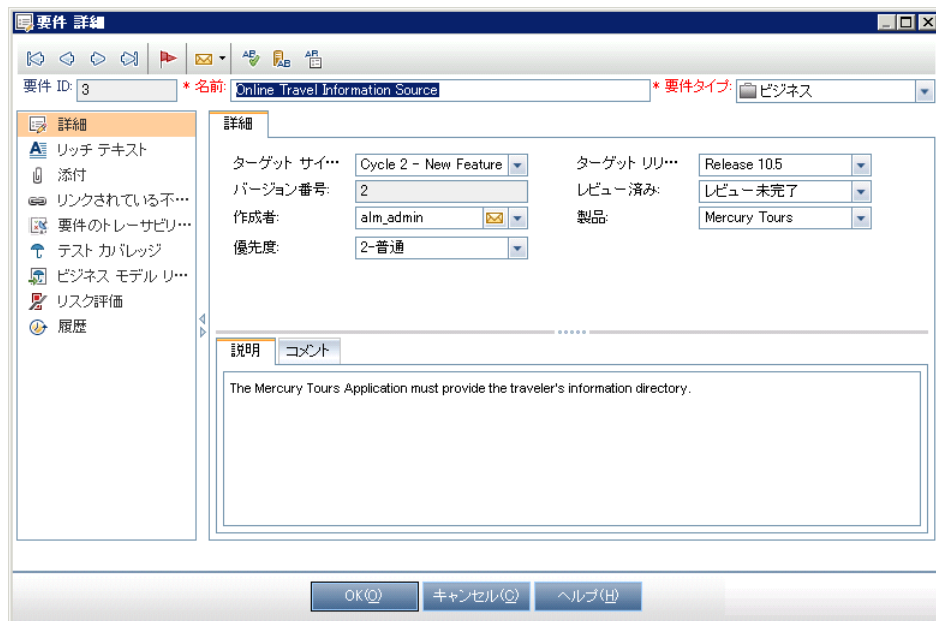
第 13 章・要件の定義

UI 要素	説明
[RBQM のテスト時間]	要件のテストに必要な計算された効果。プロジェクトのカスタマイズで定義した単位で測定されます。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のテストレベル]	計算された、要件のテストのレベル。有効な値は [1 - 完全] 、 [2 - 部分] 、 [3 - 基本] 、 [4 - なし] です。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムのビジネスへの影響を使用]	ALM で計算されたビジネス上の危険性ではなく、ユーザ定義のビジネス上の危険性を使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの失敗の確率を使用]	ALM で計算された失敗の確率ではなく、ユーザ定義の失敗の確率を使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの機能の複雑性を使用]	ALM で計算された機能の複雑性ではなく、ユーザ定義の機能の複雑性を使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムの結果を使用]	ALM で計算された値ではなく、ユーザ定義のテスト効果とテスト・レベルを使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[RBQM のカスタムリスクを使用]	ALM で計算されたリスクではなく、ユーザ定義のリスクを使用するかどうかを示します。このフィールドは、評価要件にのみ使用されます。
[要件 ID]	自動的に要件に割り当てられる一意の英数字の ID。要件 ID フィールドは変更できません。
[親要件]	親要件の名前。
[要件追跡 ID]	自動的に要件リンクに割り当てられる一意の英数字の ID。

UI 要素	説明
[要件タイプ]	<p>要件のタイプ。</p> <p>標準設定値：</p> <ul style="list-style-type: none">  [ビジネス]：ビジネス・プロセス要件。標準設定では、この要件にカバレッジを追加することはできません。  [フォルダ]：要件を整理するためのフォルダ。標準設定では、この要件にカバレッジを追加することはできません。  [機能]：システムの動作要件。  [グループ]：関連する要件の集合。  [テスト]：システムのパフォーマンス要件。  [ビジネス モデル]：ビジネス・プロセス・モデル・エンティティを表す要件。  [未定義]：未定義の要件。 <p>注：標準設定のタイプをカスタマイズして、独自の要件タイプを作成することも可能です。要件タイプのカスタマイズの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
[確認ステータス]	要件が責任者によってレビューされ、承認されたかどうかを示します。
[ターゲット サイクル]	要件が割り当てられたサイクルを示します。
[ターゲット リリース]	要件が割り当てられたリリースを示します。
[トレース コメント]	要件リンクに関するコメントが表示されます。




🔑 要件詳細ページ

このページで、要件の詳細、添付ファイル、テスト・カバレッジ、要件トレーサビリティのリンク、リスク・ベースの品質管理設定、不具合のリンクを更新できます。任意の要件に加えた変更のリストを表示することもできます。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <p>要件モジュールで、要件を右クリックし、[要件の詳細] を選択します。 [要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>[表示] > [要件の詳細] を選択します。要件の詳細ビューが開きます。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>Quality Center Starter Edition : [要件の詳細] のフィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「要件の作成方法」 (321 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「要件定義の概要」 (320 ページ)</p>

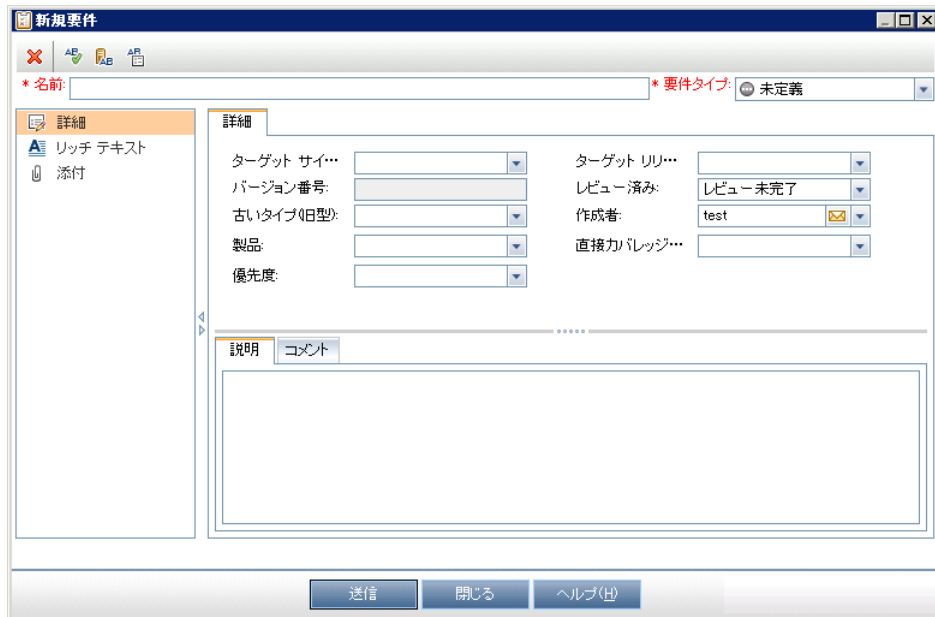
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>[最初のエンティティ] / [前のエンティティ] / [次のエンティティ] / [最後のエンティティ] : 要件をブラウズします。</p> <p>使用可能な場所 : [要件詳細] ダイアログ・ボックス</p>
	<p>[フォローアップ フラグ] : [フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開き、要件のフォローアップ・フラグを定義できます。詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[電子メールで送信] : 要件詳細がメールで送信されます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。</p>
[詳細]	<p>現在選択されている要件の詳細が表示されます。利用可能なフィールドの詳細については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。</p>
[添付]	<p>現在選択されている要件に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p>
[ビジネス モデル リンク]	<p>現在選択されている要件にリンクされているビジネス・モデル・エンティティの一覧が表示されます。詳細については、「[ビジネス モデル リンク] タブ」(545 ページ) を参照してください。</p>
[履歴]	<p>現在選択されている要件に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。</p> <p>また、このタブで要件が表示されるベースラインの履歴も示されません。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。</p>
[リンクされている 不具合]	<p>現在選択されている要件にリンクされている不具合の一覧です。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。</p>
[要件の トレーサビリティ]	<p>現在選択されている要件にリンクされている要件の一覧です。詳細については、「影響分析タブ」(380 ページ) および「[関係] タブ」(375 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[リッチ テキスト]	ALM 内から、エディタでリッチ・テキストを追加、表示、編集できます。 注： 要件のリッチ・テキストに加えた変更は、別の要件または別のモジュールに移動するときに自動的に保存されます。
[リスク アナリシス] / [リスク評価]	現在選択されている要件のリスクの計算および分析を行います。詳細については、「[リスク評価] タブ」(413 ページ) および「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ) を参照してください。
[テスト カバレッジ]	現在選択されている要件に関連付けられているテストの一覧です。詳細については、「テスト・カバレッジ・ページ」(548 ページ) を参照してください。






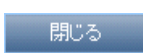
[新規要件] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、新規要件を要件モジュールに追加できます。



アクセス方法	要件モジュールで、要件を右クリックし、 [新規要件] を選択します。 使用可能な場所 ：[要件ツリー]、[要件詳細]、[カバレッジアナリシス]
関連タスク	「要件の作成方法」(321 ページ)
参照項目	「要件定義の概要」(320 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	履歴をクリアします。
	[スペル チェック] ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[スペル オプション] ：ALM によるスペル・チェックの方法を設定できます。
	[類語辞典] ：選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
	要件ツリーに新規要件を追加します。新規要件のページは引き続き開いています。
	新規要件のページを閉じます。
[添付]	現在選択されている要件に添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
[詳細]	必要なフィールドが赤で表示されます。利用可能な要件フィールドの詳細については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。
[名前]	新規要件の名前を入力します。 構文の例外 ：要件名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。

UI 要素	説明
[要件タイプ]	要件タイプを選択します。要件タイプの詳細については、「[要件タイプ]」(353 ページ)を参照してください。 Quality Center Starter Edition : このフィールドは利用できません。
[リッチテキスト]	ALM 内から、HTML エディタでリッチ・テキストを追加、表示、編集できます。 注 : 要件のリッチ・テキストに加えた変更は、別の要件または別のモジュールに移動する場合、自動的に保存されます。

[新規フォルダ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、フォルダを要件ツリーに作成できます。

アクセス方法	要件 モジュールで、フォルダを右クリックし、 [新規フォルダ] を選択します。 利用可能元 : [要件ツリー], [要件詳細], [カバレッジアナリシス]
重要な情報	要件 ルート・フォルダは、名前を変更したり、削除したりすることはできません。
関連タスク	「要件の作成方法」(321 ページ)
参照項目	「要件定義の概要」(320 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
[要件フォルダの名前]	新規要件の名前を入力します。 構文の例外 : フォルダ名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。

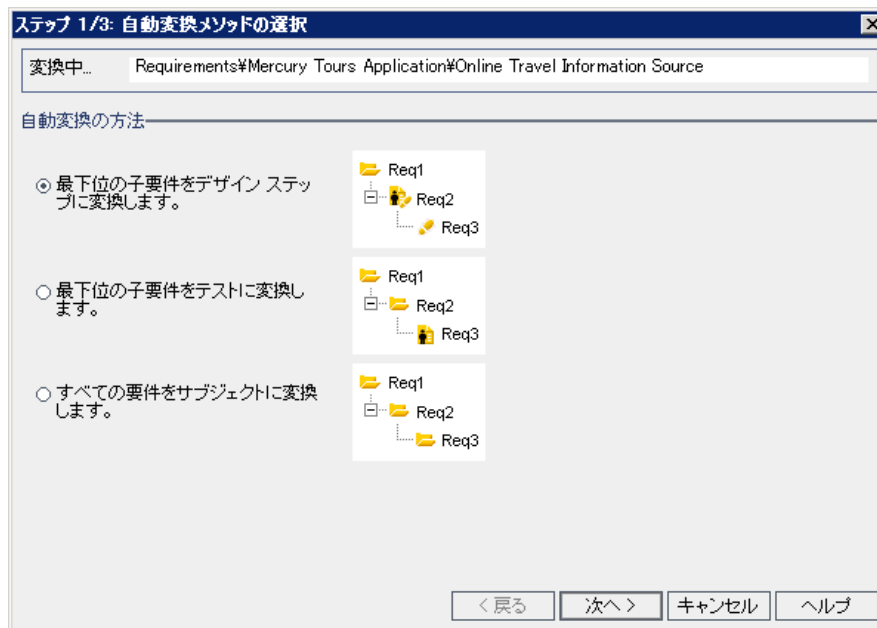
テストへ変換ウィザード

このウィザードを使用して、要件をテスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換します。カバレッジは、要件とその対応するテストの間に自動的に作成されます。要件ツリーで選択した要件またはすべての要件を変換できます。

アクセス方法	要件モジュールで、要件ツリーの要件を右クリックし、 [テストへ変換] を選択します。すべての要件を変換するには、要件ツリーでルート要件フォルダを右クリックし、 [テストへ変換] を選択します。
重要な情報	<p>テストを作成するには、必要な権限を持っていないければなりません。標準設定では、次の要件タイプ（ビジネス、フォルダ、グループ）のテストは変換できません。</p> <p>変換できるようにするためには、これらの要件タイプのテスト・カバレッジを有効にする必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
[ウィザード マップ]	<p>ウィザードの構成は次のとおりです：</p> <p>[自動変換メソッドの選択] ページ > [自動変換の手動変更] ページ > [保存先サブジェクト・パスの選択] ページ</p>
関連タスク	「要件の作成方法」(321 ページ)
参照項目	「要件定義の概要」(320 ページ)

[自動変換メソッドの選択] ページ

ウィザード・ページを使用して、自動変換の方法を選択できます。要件を設計ステップ、テスト、サブジェクトに変換できます。



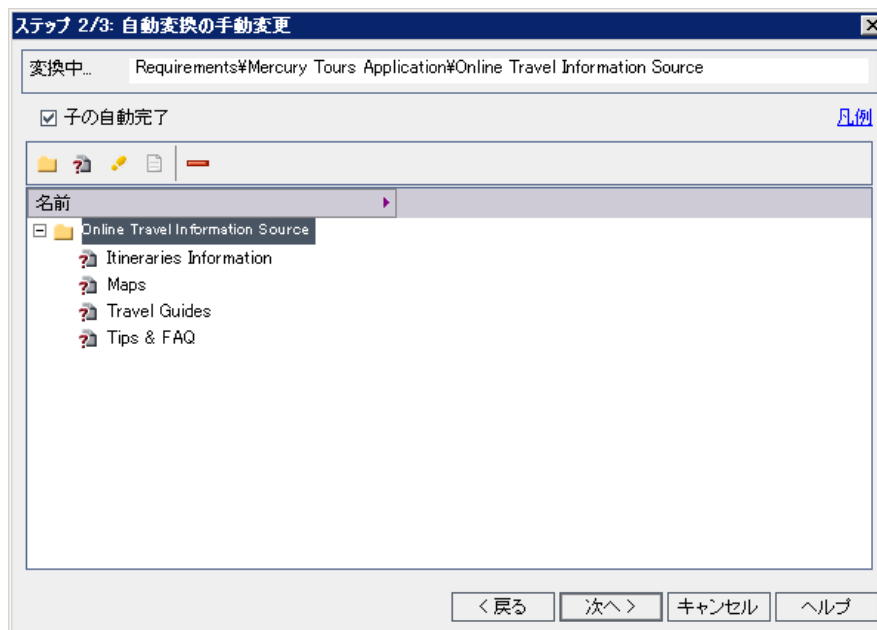
重要な情報	このウィザードに関する一般的な情報は、「テストへ変換ウィザード」(359 ページ) に記載されています。
ウィザード・マップ	テストへ変換ウィザードの構成は次のとおりです： [自動変換メソッドの選択] ページ > [自動変換の手動変更] ページ > [保存先サブジェクト・パスの選択] ページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【キャンセル】	変換プロセス始める前にキャンセルする場合は、ウィザードは閉じられます。 変換プロセス始めた後にキャンセルする場合は、進行状況バーの 停止 ボタンをクリックします。
【すべての要件をサブジェクトに変換します。】	選択したすべての要件をテスト計画モジュールのサブジェクトに変換します。
【最下位の子要件をデザインステップに変換します。】	最下位のすべての子要件をデザイン・ステップに、1つ上位の子要件をテストに、それよりも上位の子要件をサブジェクトに変換します。
【最下位の子要件をテストに変換します。】	最下位のすべての子要件をテストに、それよりも上位の子要件をサブジェクトに変換します。
【変換中】	選択した要件のパス。
【次へ】	変換処理を開始します。結果は、[自動変換の手動変更] ページに表示されます。






[自動変換の手動変更] ページ


このウィザード・ページを使用して、手作業で要件をテスト計画ツリーのサブジェクト、テスト・ステップ、ステップの説明に変換できます。また、変換プロセスから要件の除外もできます。



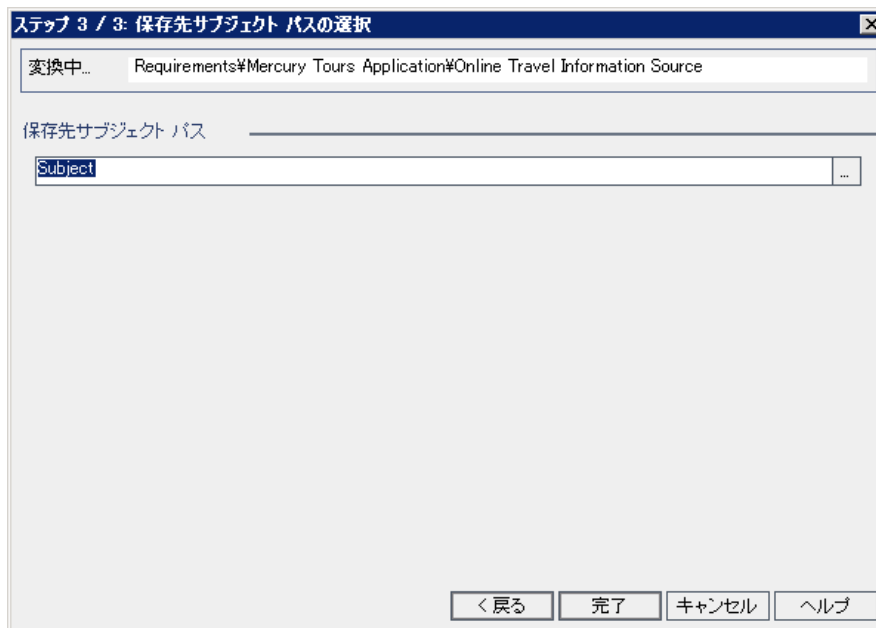
<p>重要な情報</p>	<p>このウィザードに関する一般的な情報は、「テストへ変換ウィザード」(359 ページ)に記載されています。</p> <p>要件を1つのみ変換する場合、ウィザードでは、このページはスキップされます。</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>テストへ変換ウィザードの構成は次のとおりです：</p> <p>[自動変換メソッドの選択] ページ > [自動変換の手動変更] ページ > [保存先サブジェクト・パスの選択] ページ</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[Subject に変換]：選択した項目を、テスト計画ツリーのサブジェクトに変更します。項目をサブジェクトに変換すると、子をサブジェクトまたはテストにできます。サブジェクトの名前は一意でなければなりません。
	[テストに変換]：選択した項目を、テスト計画ツリーのテストに変更します。項目をテストに変換すると、子はステップに変換されます。テスト名は一意でなければなりません。
	[ステップに変換]：選択した項目を、テスト計画ツリーのステップに変更します。項目をステップに変換すると、子はステップの説明に変換されます。
	[説明に変換]：選択した項目を、テスト計画ツリーのステップの説明に変更します。項目をステップの説明に変換すると、子はインデントされた説明テキストに変換されます。
	[変換を除外]：テスト計画ツリーから選択項目を除外します。
[子の自動完了]	選択した親の子のレベルを変更します。親のレベルをたとえばサブジェクトからテストに変更すると、ウィザードによってすべての子のレベルが、テストからテスト・ステップに変更されます。
[変換中]	選択した要件のパス。
[凡例]	このウィザード・ページの凡例を示します。

 **【保存先サブジェクト・パスの選択】 ページ**

ウィザード・ページを使用して、テスト計画ツリーの保存先サブジェクトのパスを定義できます。



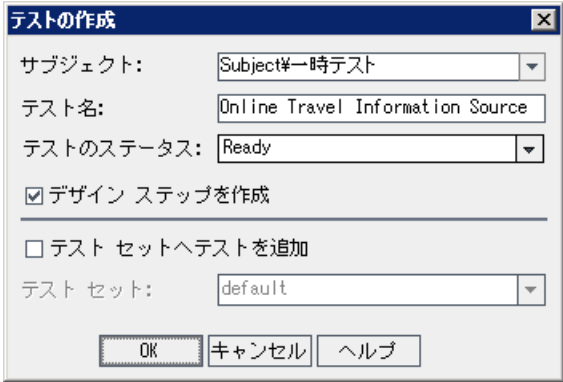
<p>重要な情報</p>	<p>このウィザードに関する一般的な情報は、「テストへ変換ウィザード」(359 ページ) に記載されています。</p> <p>要件を 1 つのみ変換する場合、ウィザードでは、このページはスキップされます。</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>テストへ変換ウィザードの構成は次のとおりです：</p> <p>[自動変換メソッドの選択] ページ > [自動変換の手動変更] ページ > [保存先サブジェクト・パスの選択] ページ</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
[変換中]	選択した要件のパス。
[保存先サブジェクトパス]	テスト計画モジュールの保存先サブジェクトパスを設定します。 標準設定値: サブジェクト・フォルダとテストは、テスト計画モジュールのサブジェクト・フォルダに格納されます。
[完了]	変換処理を開始します。変換処理が完了すれば、 OK をクリックします。ページには、要件の変換中に発生したエラーが表示されます。 注: 変換プロセスを停止した場合、それまでに変換された要件はテスト計画ツリーからは削除されません。これらの要件は、手作業で削除する必要があります。

[テストの作成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスを使用して、要件をテスト計画ツリーで指定したサブジェクトのテストに変換できます。テストをテスト・ラボ・モジュールの指定テスト・セットに追加するかの選択も指定できます。



テストの作成

サブジェクト: Subject#一時テスト

テスト名: Online Travel Information Source

テストのステータス: Ready

デザイン ステップを作成

テスト セットへテストを追加

テスト セット: default

OK キャンセル ヘルプ

第 13 章・要件の定義

アクセス方法	要件モジュールで、要件を右クリックし、 [テストを生成] を選択します。
重要な情報	<p>要件が変換されると、カバレッジは、要件とその対応するテストの間に自動的に作成されます。</p> <p>標準設定では、次の要件タイプ（ビジネス、フォルダ、グループ）のテストは変換できません。</p> <p>変換できるようにするためには、これらの要件タイプのテスト・カバレッジを有効にする必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
関連タスク	「要件の作成方法」（321 ページ）
参照項目	「要件定義の概要」（320 ページ）

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
[テスト セットへ テストを追加]	テストをテスト・ラボ・モジュールのテスト・セットに追加します。
[デザイン ステップを 作成]	各子要件のテスト・ステップを追加します。
[サブジェクト]	<p>テスト計画ツリーのサブジェクト。</p> <p>標準設定値：テストはテスト計画モジュールの一時テスト・フォルダに格納されます。</p>
[テスト名]	<p>テストの名前。</p> <p>標準設定値：要件と同一の名前。</p>
[テスト セット]	テスト・セットの名前。
[テスト ステータス]	<p>テスト計画ステータス。</p> <p>標準設定値：デザイン</p>

第 14 章

要件トレーサビリティ

本章の内容

概念

「要件トレーサビリティの概要」(368 ページ)

タスク

「要件のトレース方法」(369 ページ)

リファレンス

「要件トレーサビリティのユーザ・インターフェイス」(375 ページ)

概念

要件トレーサビリティの概要

要件トレーサビリティによって、2 つ以上の要件間の関係が決まります。特定の要件に対して提案されている変更の影響を分析する際、トレーサビリティのリンクを使用すれば、変更の影響を受ける可能性がある要件がわかります。

選択された要件との間にトレーサビリティのリンクを追加できます。

[**トレース元**] リンクは、選択した要件に影響を与える要件を示します。

[**トレース先**] リンクは、選択した要件の影響を受ける要件を示します。

要件が変更されると、HP Application Lifecycle Management (ALM) によって、影響を受ける要件に警告が発せられます。警告の詳細については、「警告の概要」(96 ページ)を参照してください。

Quality Center Starter Edition : 要件トレーサビリティは利用できません。

タスクの詳細については、「要件のトレース方法」(369 ページ)を参照してください。

タスク

要件のトレース方法

このタスクでは、要件間のトレーサビリティのリンクの定義方法と要件間の関連付けと依存関係の表示方法を説明します。

要件のトレースの詳細については、「要件トレーサビリティの概要」(368 ページ)を参照してください。

ヒント: このタスクに関連するユースケースについては、「要件のトレース方法 - ユースケース・シナリオ」(370 ページ)を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「トレーサビリティのリンクの定義」(369 ページ)

「トレーサビリティの影響の表示」(370 ページ)

「トレーサビリティの影響の表示」(370 ページ)

1 トレーサビリティのリンクの定義

- a 要件モジュールで、**要件の詳細**ビューを選択します。**[要件のトレーサビリティ]** タブをクリックします。
- b トレーサビリティのリンクを定義するために、要件ツリーの要件を選択します。
- c **[関係]** タブで、**[要件トレーサビリティの追加]** ボタンをクリックして、右の表示枠に要件ツリーを表示します。トレーサビリティのリンクを追加します。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「**[関係] タブ**」(375 ページ)を参照してください。

2 トレーサビリティの影響の表示

[影響分析] タブをクリックします。要件間の関連付けと依存関係を確認します。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「影響分析タブ」(380 ページ) を参照してください。

3 トレーサビリティ・マトリクスの生成 (オプション)

トレーサビリティ・マトリクスを生成し、要件間の関係が完全であるか確認できます。

要件モジュールで、[表示] > [トレーサビリティ マトリクス] を選択します。トレーサビリティ・マトリクスを設定します。タスクの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(385 ページ) を参照してください。

要件のトレース方法 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、ALM の要件をトレースする例を示します。

注: このシナリオに関連するタスクについては、「要件のトレース方法」(369 ページ) を参照してください。

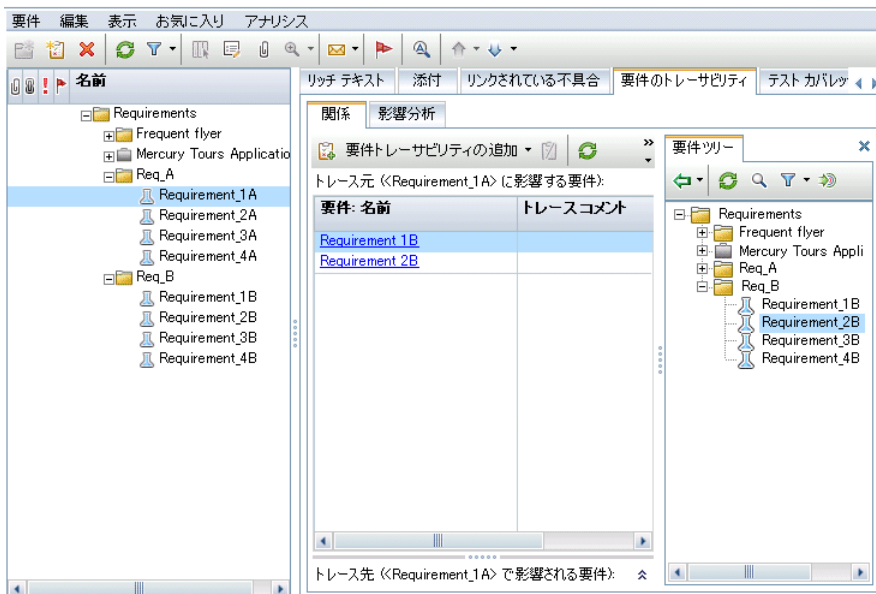
このシナリオは次のステップで構成されています。

「トレーサビリティのリンクの定義」(371 ページ)

「トレーサビリティの影響の表示」(373 ページ)

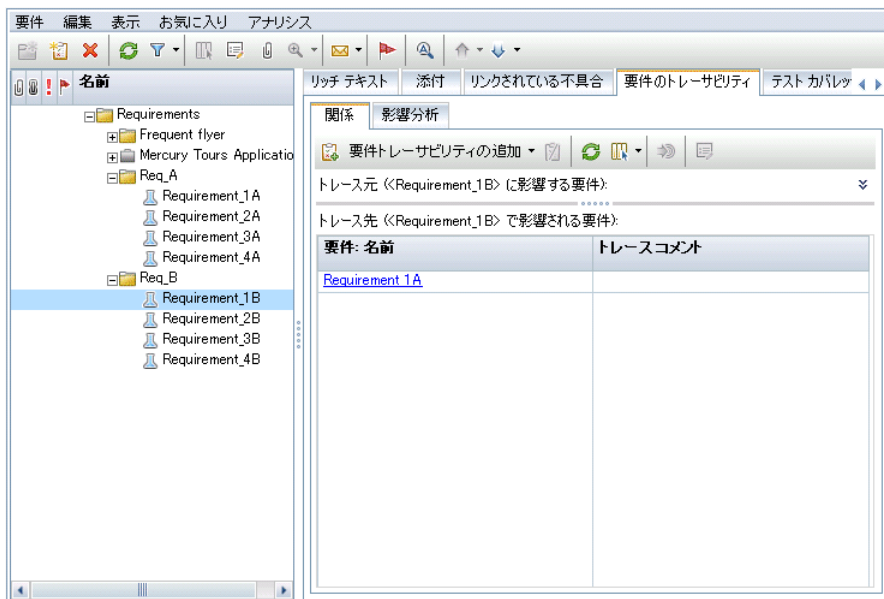
1 トレーサビリティのリンクの定義

要件モジュールで、[要件の詳細] ビューを選択します。[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。要件間の関係を実装するために、Requirement_1B および Requirement_2B が Requirement_1A に影響を与えます。要件ツリーで Requirement_1A を選択します。[関係] タブで Requirement_1B および Requirement_2B を [トレース元] グリッドに追加します。



第 14 章・要件トレーサビリティ

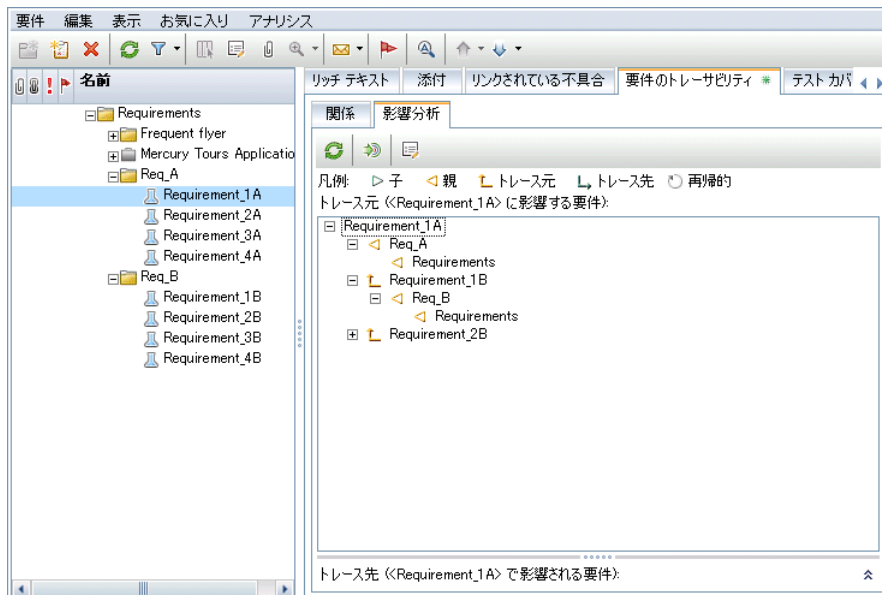
要件ツリーで Requirement_1B を選択すると、[トレース先] グリッドには、Requirement_1B が Requirement_1A まで追跡されると表示されます。



要件ツリーで Requirement_2B を選択すると、[トレース先] グリッドには、Requirement_2B が Requirement_1A まで追跡されると表示されます。

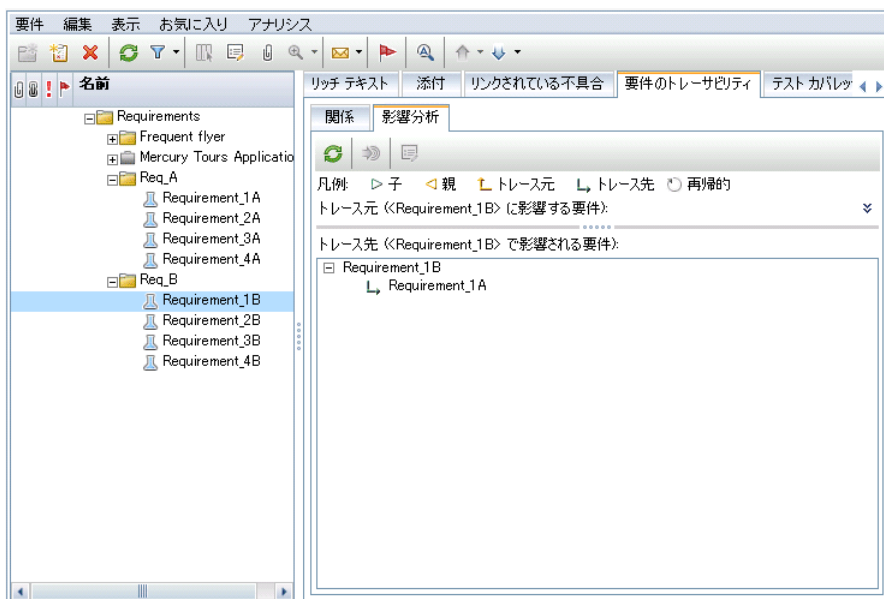
2 トレーサビリティの影響の表示

次の [影響分析] タブのトレース元ツリーには、Requirement_1A が、Requirement_1B と Requirement_2B から追跡されることを示しています。Req_A は Requirement_1A の親要件です。また、Req_B は Requirement_1B の親要件です。



第 14 章・要件トレーサビリティ

[トレース先] ツリーには、選択した要件の影響を受ける要件が表示されます。たとえば、次の [トレース先] ツリーは、Requirement_1B が Requirement_1A まで追跡されることを示しています。



リファレンス

要件トレーサビリティのユーザ・インターフェイス

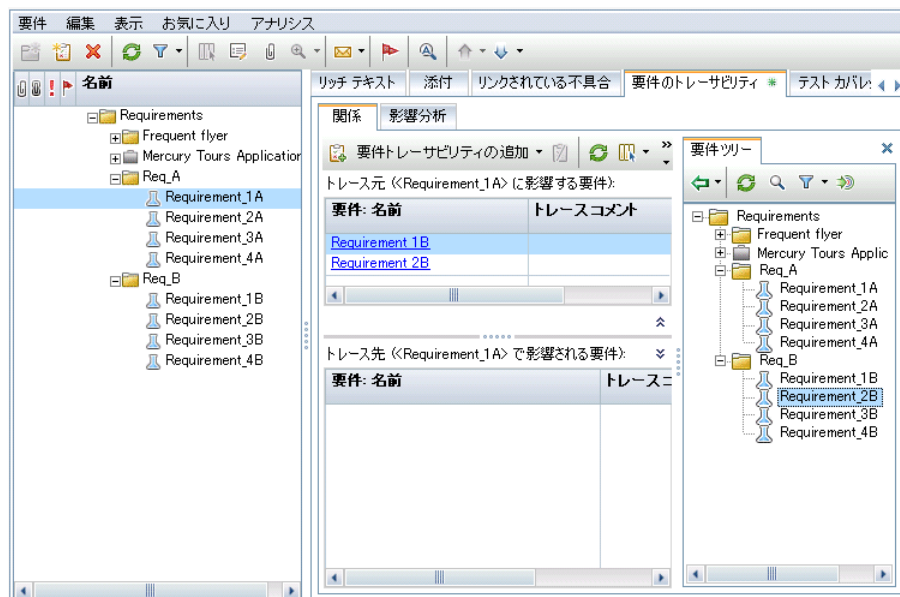
本項の内容

「[関係] タブ」 (375 ページ)

「影響分析タブ」 (380 ページ)

[関係] タブ

このタブで、要件間の関係を定義できます。要件間の関連付けと依存関係を理解するためには、グリッド構造の表示が役立ちます。






第 14 章・要件トレーサビリティ

アクセス方法	要件モジュールで、 [表示] > [要件の詳細] を選択します。 [要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。
重要な情報	[関係] タブには、影響を受ける要件が子要件を除外して表示されます。 Quality Center Starter Edition : 要件トレーサビリティは利用できません。
該当タスク	「要件のトレース方法」(369 ページ)
参照項目	「要件トレーサビリティの概要」(368 ページ) 「影響分析タブ」(380 ページ)

トレース元/トレース先のグリッド

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 要件トレーサビリティの追加 ▾	<p>要件間のトレーサビリティ関係を定義します。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <p>[要件トレーサビリティの追加] または [要件ツリーから] : 右側の表示枠に要件ツリーを表示し、選択した要件へ要件ツリーからトレーサビリティ・リンクを追加できます。詳細については、「[要件ツリー] 表示枠」(378 ページ) を参照してください。</p> <p>[ID 順 (トレース元)] : [既存の要件をトレース] ダイアログ・ボックスが開き、要件 ID を入力することで、[トレース元] グリッドへのトレーサビリティ・リンクを追加できます。</p> <p>[ID 順 (トレース先)] : [既存の要件をトレース] ダイアログ・ボックスが開き、要件 ID を入力することで、[トレース先] グリッドへのトレーサビリティ・リンクを追加できます。</p>
	<p>[トレーサビリティから削除] : [トレース元] グリッド、または [トレース先] グリッドからトレーサビリティ関係リンクを削除します。</p> <p>ヒント : CTRL キーを押しながら、複数のリンクを選択します。</p>
	<p>[全て更新] : グリッドを更新します。</p>







UI 要素	説明
	<p>[カラムの選択]：カラムの表示とその順序を設定します。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <p>[カラムの選択 (トレース元)]：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き，[トレース元] グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。</p> <p>[カラムを選択 (トレース先)]：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き，[トレース先] グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。</p> <p>詳細については，「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[要件へ移動]：要件ツリーでトレースする要件を表示します。</p>
	<p>[要件詳細]：[要件詳細] ダイアログ・ボックスが開き，選択した要件の詳細を表示できます。詳細については，「要件詳細ページ」(354 ページ) を参照してください。</p>
	<p>表示/非表示：[トレース元] または [トレース先] の表示枠が表示/非表示されます。</p>
<要件フィールド>	<p>グリッドで利用できる要件フィールドの詳細については，「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。</p>
[トレース元] 表示枠	<p>選択した要件に影響する要件が表示されます。</p>
[トレース先] 表示枠	<p>選択した要件に影響される要件が表示されます。</p>

[要件ツリー] 表示枠

この表示枠では，要件ツリーから選択した要件へのトレーサビリティ・リンクを追加できます。

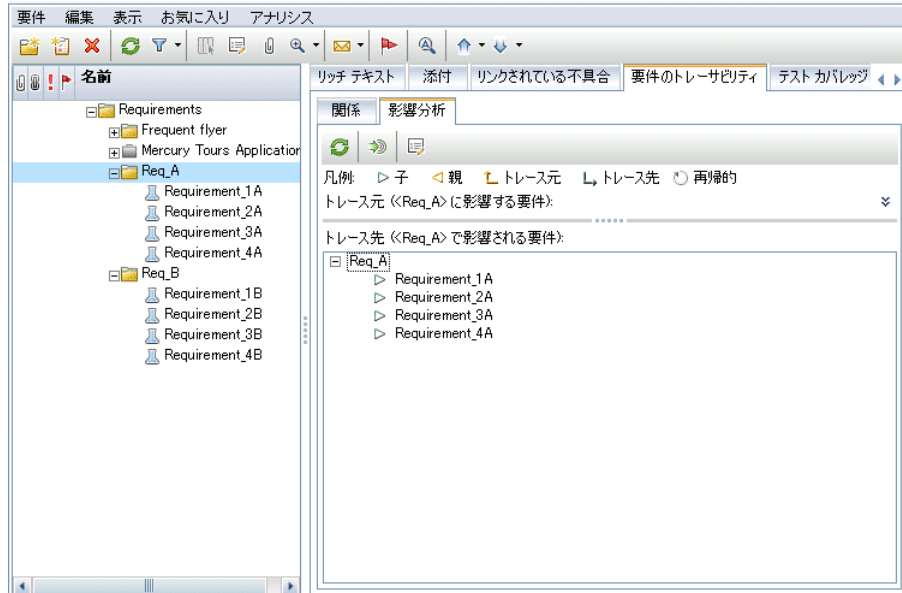
アクセス方法	<p>要件モジュールで，要件の詳細ビューを選択します。[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。[要件トレーサビリティの追加] ボタンをクリックします。</p>
---------------	---

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[トレーサビリティに追加]：要件ツリーからトレーサビリティ・リンクを追加します。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <p> [トレーサビリティに追加(トレース元)]：選択した要件を [トレース元] グリッドに追加します。</p> <p> [トレーサビリティに追加(トレース先)]：選択した要件を [トレース先] グリッドに追加します。</p> <p>ヒント：ツリー内の要件を適切なグリッドにドラッグすることで、トレーサビリティ・リンクの追加もできます。</p>
	<p>[更新]：要件ツリーを更新します。</p>
	<p>[フィルタ/ソート]：要件ツリーの要件のフィルタやソートを行います。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[検索]：ツリーの指定要件が検索されます。</p> <p>[検索] ボックスに要件の名前（または名前の一部）を入力し、[検索] をクリックします。検索が成功すると、ツリーの中で要件が強調表示されます。</p>
	<p>[ID で要件に移動]：[要件へ移動] ダイアログ・ボックスが開き、ReqID を使って特定の要件を検索できます。</p> <p>注：現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。</p>
	<p>閉じる：右側の表示枠にある要件ツリーが非表示となります。</p>





🔑 影響分析タブ

このタブでは、関係を確認して要件変更の影響を分析できます。要件間の関連付けと依存関係を理解するためには、階層ツリー構造の表示が役立ちます。



アクセス方法	要件モジュールで、[表示] > [要件の詳細] を選択します。まず、[要件トレーサビリティ] タブをクリックした後、[影響分析] タブをクリックします。
重要な情報	[影響分析] タブには、影響する親と子の要件が表示されます。 Quality Center Starter Edition : 要件トレーサビリティは利用できません。
該当タスク	「要件のトレース方法」(369 ページ)
参照項目	「要件トレーサビリティの概要」(368 ページ) 「[関係] タブ」(375 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[全て更新]：ツリーを更新します。
	[要件へ移動]：要件ツリーでトレースする要件を表示します。
	[要件の詳細]：[要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細を表示できます。詳細については、「要件詳細ページ」(354 ページ)を参照してください。
	表示/非表示 ：[トレース元] または [トレース先] の表示枠が表示/非表示されます。
[凡例]	要件間の関係が示されます。トレーサビリティ・アイコンの詳細については、「要件モジュール・アイコン」(344 ページ)を参照してください。
[トレース元] 表示枠	選択した要件に影響する要件が表示されます。
[トレース先] 表示枠	選択した要件に影響される要件が表示されます。

第 15 章

トレーサビリティ・マトリクス

本章の内容

概念

「トレーサビリティ・マトリクスの概要」(384 ページ)

タスク

「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(385 ページ)

リファレンス

「トレーサビリティ・マトリクス・ユーザ・インターフェイス」(389 ページ)

概念

トレーサビリティ・マトリクスの概要

トレーサビリティ・マトリクスによって、ある要件とほかの要件や、要件とテストの関係の範囲を決定できます。トレーサビリティ・マトリクスは、すべての要件の適合性の検証や、要件に変更ある場合、要件のスコープに対する変更の特定に役立ちます。

トレーサビリティ・マトリクスには、ソース要件、および、それに関連する要件やテストがリスト表示されます。各ソース要件に対する関係の合計数がリスト表示されます。値が低い場合には、ソース要件が十分な要件やテストと関係していないことを意味しています。値が高い場合には、ソース要件が非常に複雑で、簡略化が可能なことを意味しています。値が 0 の場合は、関係が存在しないことを示します。

タスクの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(385 ページ) を参照してください。

タスク

トレーサビリティ・マトリクスの使用方法

このタスクでは、トレーサビリティ・マトリクスの設定と表示の方法を説明します。

トレーサビリティ・マトリクスの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの概要」(384 ページ) を参照してください。

ヒント: このタスクに関連するユースケースについては、「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法 - ユースケース・シナリオ」(386 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「前提条件」(385 ページ)

「トレーサビリティ・マトリクスの設定」(386 ページ)

「トレーサビリティ・マトリクスの表示」(386 ページ)

1 前提条件

- a **要件トレーサビリティのリンクを定義します。**要件モジュールで、[表示] > [要件の詳細] を選択します。[要件のトレーサビリティ] タブをクリックします。要件間のトレーサビリティ・リンクを定義します。タスクの詳細については、「要件のトレース方法」(369 ページ) を参照してください。
- b **要件とテスト・カバレッジを定義します。**要件をテストへリンクすることで、カバレッジを作成します。要件あるいはテスト計画モジュールからカバレッジを作成できます。タスクの詳細については、「カバレッジを作成する方法」(528 ページ) を参照してください。

2 トレーサビリティ・マトリクスの設定

- a 要件モジュールで、[表示] > [トレーサビリティ マトリクス] を選択します。
- b [トレーサビリティ マトリクスの設定] ボタンをクリックします。[トレーサビリティ マトリクスの設定] ウィザードが開きます。マトリクスを定義します。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの設定 ウィザード」(394 ページ) を参照してください。

3 トレーサビリティ・マトリクスの表示

トレーサビリティ マトリクス・ビューで、要件間のトレーサビリティ・リンクおよび要件とテストの間のリンクを分析し、確認します。ユーザ・インターフェイスの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの表示」(390 ページ) を参照してください。

トレーサビリティ・マトリクスの使用方法 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、例としてトレーサビリティ・マトリクスの設定方法とその結果の表示方法を示します。このシナリオでは、指定するソース要件に影響する要件を特定することにします。

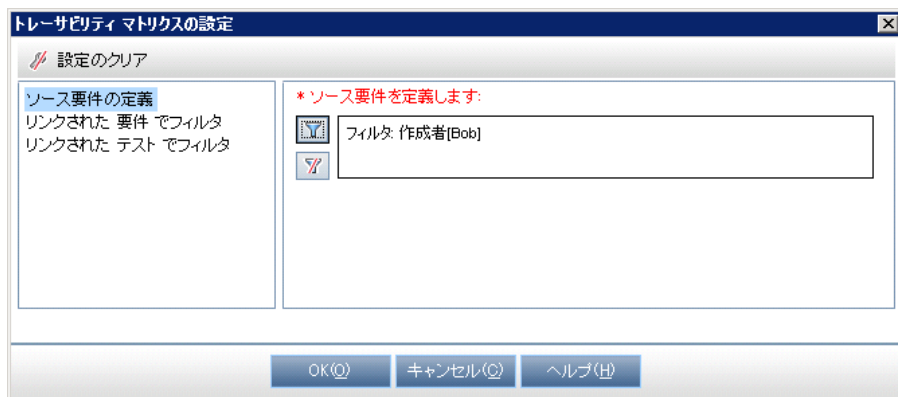
注：このシナリオに関連するタスクについては、「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(385 ページ) を参照してください。

このシナリオは次のステップで構成されています。

- 「ソース要件を定義」(387 ページ)
- 「リンクされた要件を定義」(387 ページ)
- 「トレーサビリティ・マトリクスの表示」(388 ページ)

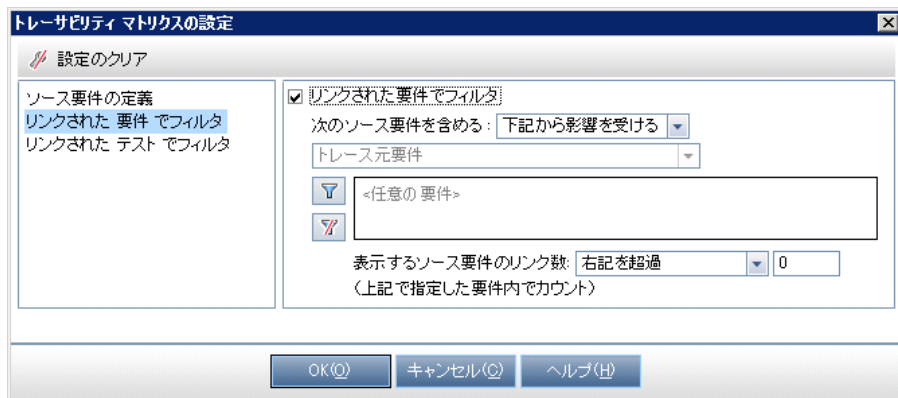
1 ソース要件を定義

トレーサビリティ・マトリクスの設定では、マトリクスを特定ユーザ、たとえば **Bob** が作成した要件に限定します。



2 リンクされた要件を定義

[**リンクされた要件でフィルタ**] を使用して、定義したソース要件に影響する要件を特定します。



3 トレーサビリティ・マトリクスの表示

トレーサビリティ・マトリクス・グリッドでは、ソース要件、およびトレース元要件数が表示されます。たとえば、req1 要件は、2 つのトレース元要件にリンクしています。

要件 ID	名前	トレース元要件 の個数	作成者
1	req1	2	bob
2	req2	1	bob
4	req4	1	bob
7	req3a	3	bob

合計 トレース元要件 の個数: 4

トレース元要件

要件 ID	名前
2	req2
3	req3

[トレース元要件] タブでは、特定のソース要件に影響する要件を表示します。たとえば、req2 および req3 は、req1 に影響します。

リファレンス

トレーサビリティ・マトリクス・ユーザ・インターフェイス

本項の内容

「トレーサビリティ・マトリクスの表示」(390 ページ)

「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(394 ページ)

🔑 トレーサビリティ・マトリクスの表示

このビューにより、トレーサビリティ・マトリクスを分析できます。









要件 ID	名前	トレース元要件 の個数	作成者
1	req1	2	bob
2	req2	1	bob
4	req4	1	bob
7	req3a	3	bob

要件 ID	名前
2	req2
3	req3

アクセス方法	要件モジュールで、[表示] > [トレーサビリティ マトリクス] を選択します。
重要な情報	トレーサビリティ・グリッドに表示されるデータは、編集できません。
該当タスク	「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(385 ページ)
参照項目	「トレーサビリティ・マトリクスの概要」(384 ページ) 「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(394 ページ)

トレーサビリティ・マトリクス・グリッド

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
 トレーサビリティ マトリクスの設定	トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードが開き、マトリクスを定義できます。詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」（394 ページ）を参照してください。
	[全て更新] ：最新のデータが表示されるように、マトリクスを更新します。
	[カラムを選択] ：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」（90 ページ）を参照してください。
	[要件の詳細] ：[要件詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細を表示できます。詳細については、「要件詳細ページ」（354 ページ）を参照してください。
	[要件ツリーで要件に移動] ：要件ツリー・ビューに移動し、選択された要件を強調表示します。
	[電子メールで送信] ：[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開き、リストから選択した宛先、または要件の作成者宛てに電子メールで要件を送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」（83 ページ）を参照してください。
 トレーサビリティ マトリクスの生成	[トレーサビリティ マトリクスの生成] ：[トレーサビリティ マトリクスの生成] ダイアログ・ボックスが開き、トレーサビリティ・マトリクス・ビューを Microsoft Excel ワークシートに保存できます。
	表示/非表示 ：トレーサビリティ・マトリクス・ビューの下部の表示枠を表示/非表示できます。
<グリッド フィールド>	グリッドで利用できる要件フィールドの詳細については、「要件モジュール・フィールド」（347 ページ）を参照してください。
[名前]	要件の名前。



UI 要素	説明
[リンクされたテストの個数]	選択した要件に関連付けられているテストの数です。
[トレース元要件の個数]	選択した要件に影響する要件の数です。
[トレース先要件の個数]	選択した要件に影響される要件の数です。
[完全パスを表示]	要件ツリーの要件のパスが表示されます。

[トレース元] 要件タブ

このタブで、選択した要件に影響する要件が表示されます。

重要な情報	このタブは、トレーサビリティマトリクスの設定ウィザードの [リンクされた要件でフィルタ] ページに次のオプションが設定されると有効になります。[影響されるソース要件を含める] あるいは [影響されないソース要件を含める]。[リンクされた要件でフィルタ] ページの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(394 ページ) を参照してください。
--------------	---

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
	[要件の詳細] : [要件詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細を表示できます。詳細については、「要件詳細ページ」(354 ページ) を参照してください。



UI 要素	説明
<グリッド フィールド>	グリッドで利用できる要件フィールドの詳細については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。
[完全パスを表示]	要件ツリーの要件のパスが表示されます。

トレース先要件タブ

このタブでは、選択した要件に影響される要件を表示します。

重要な情報	このタブは、トレーサビリティマトリクスの設定ウィザードの [リンクされた要件でフィルタ] ページに次のオプションが設定されると有効になります。 [次のソース要件を含める] - [下記に影響を与える] あるいは [次のソース要件を含める] - [影響を与えない] [リンクされた要件でフィルタ] ページの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(394 ページ) を参照してください。
--------------	--

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。


UI 要素	説明
	[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
	[要件の詳細] : [要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した要件の詳細を表示できます。詳細については、「要件詳細ページ」(354 ページ) を参照してください。
<グリッド フィールド>	グリッドで利用できる要件フィールドの詳細については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。
[完全パスを表示]	要件ツリーの要件のパスが表示されます。

リンクされているテスト・タブ

このタブでは、選択した要件にリンクしているテストが表示されます。

<p>重要な情報</p>	<p>このタブは、トレーサビリティマトリクスの設定ウィザードの [リンクされたテストでフィルタ] ページに、[リンクしているソース要件を含める] あるいは [リンクしていないソース要件を含める] オプションを設定すると有効になります。[リンクされたテストでフィルタ] ページの詳細については、「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(394 ページ) を参照してください。</p>
---------------------	--

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	<p>[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、マトリクスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[テストの詳細] : [テストの詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテストの詳細を表示できます。詳細については、「[テスト詳細] ダイアログ・ボックス」(515 ページ) を参照してください。</p>
<p><グリッドフィールド></p>	<p>グリッドで利用できるテスト・フィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) を参照してください。</p>
<p>[完全パスを表示]</p>	<p>テスト計画ツリーのテストのパスが表示されます。</p>

トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード

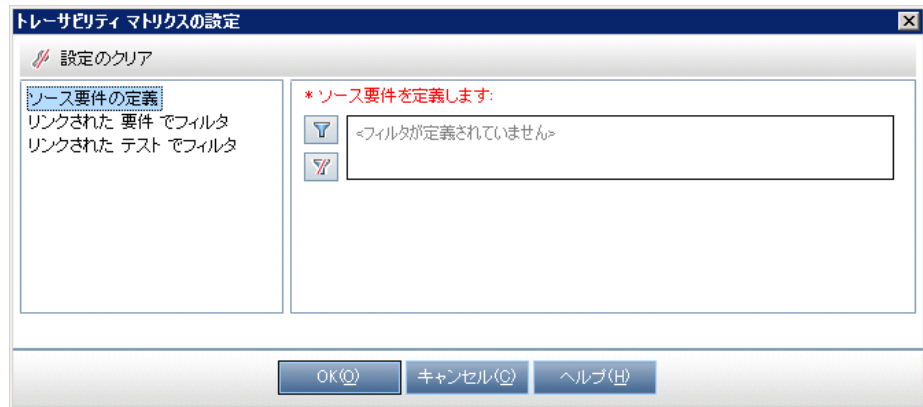
このウィザードにより、トレーサビリティ・マトリクスを設定できます。

<p>アクセス方法</p>	<p>要件モジュールで、[表示] > [トレーサビリティマトリクス] を選択します。[トレーサビリティマトリクスの設定] ボタンをクリックします。</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>ウィザードに含まれるのは次のとおりです： ソース要件の定義のページ > リンクされた要件でフィルタのページ > リンクされたテストでフィルタのページ</p>

該当タスク	「トレーサビリティ・マトリクスの使用方法」(385 ページ)
参照項目	「トレーサビリティ・マトリクスの概要」(384 ページ) 「トレーサビリティ・マトリクスの表示」(390 ページ)

ソース要件の定義のページ




ウィザード・ページを使用して、ソース要件の定義ができます。



重要な情報	このウィザードに関する一般的な情報は、「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(394 ページ)に記載されています。
ウィザード・マップ	トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードに含まれるのは次のとおりです。 ソース要件の定義のページ > リンクされた要件でフィルタのページ > リンクされたテストでフィルタのページ

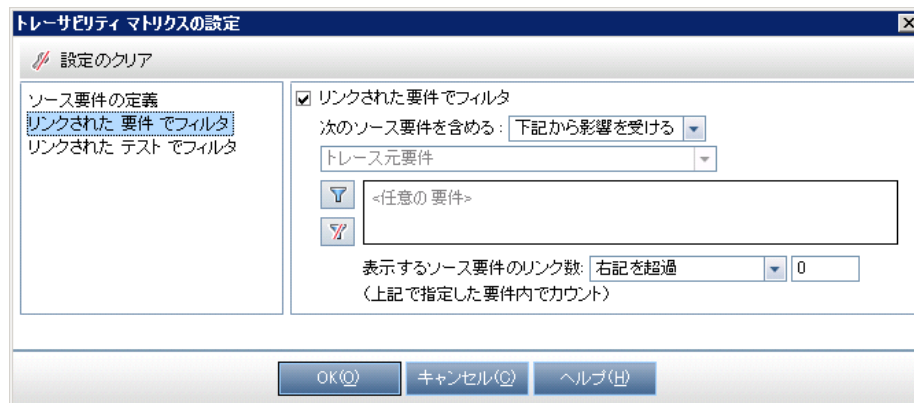
第 15 章・トレーサビリティ・マトリクス

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 設定のクリア	定義した設定をクリアします。
	<p>[フィルタ/ソートを設定]：要件モジュールのソース要件のフィルタやソートが行えます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p> <p>注：フィルタ設定は、子要件には適用されません。</p>
	[フィルタをクリア]：定義したフィルタをクリアします。




リンクされた要件でフィルタのページ

ウィザード・ページを使用して、ソース要件と相互にリンクしている要件の定義ができます。



重要な情報	このウィザードに関する一般的な情報は、「トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザード」(394 ページ)に記載されています。
ウィザード・マップ	トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードの構成は次のとおりです。 ソース要件の定義のページ > リンクされた要件でフィルタのページ > リンクされたテストでフィルタのページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

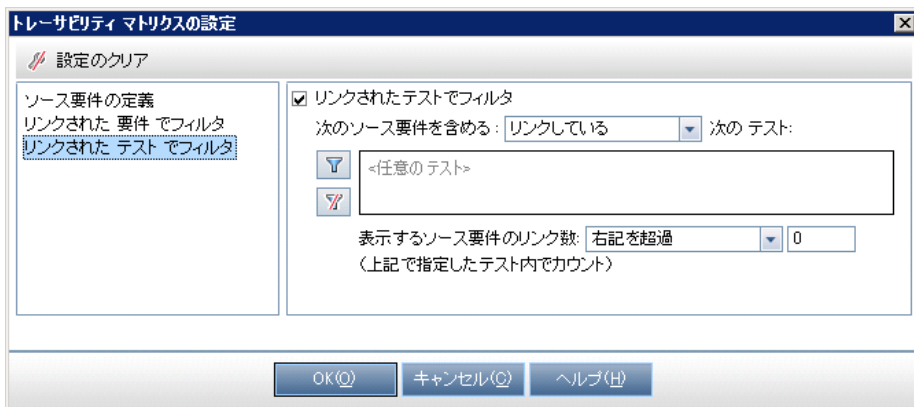
UI 要素	説明
 設定のクリア	定義した設定をクリアします。
	[フィルタ/ソートを設定]: リンクされた要件のフィルタとソートが行えます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ]ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。
	[フィルタをクリア]: 定義したフィルタをクリアします。

UI 要素	説明
[リンクされた要件でフィルタ]	リンクされた要件で、ソース要件をフィルタ処理します。
[次のソース要件を含める] - [下記から影響を受ける] - [トレース元要件]	選択した要件に影響されるソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [影響を受けない] - [トレース元要件]	選択した要件に影響されないソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [下記に影響を与える] - [直接の子とトレース先要件]	子要件とトレース先要件に影響するソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [下記に影響を与える] - [直接の子]	子要件に影響するソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [下記に影響を与える] - [トレース先要件]	トレース先要件に影響するソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [影響を与えない] - [直接の子とトレース先要件]	子要件とトレース先要件に影響しないソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [影響を与えない]-[直接の子]	子要件に影響しないソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [影響を与えない] - [トレース先要件]	トレース先要件に影響しないソース要件を表示します。

UI 要素	説明
[表示するソース要件のリンク数] - [右記を超過 <数>] - [(上記で指定した要件内でカウント)]	指定した数より多くの要件にリンクしているソース要件を表示します。 注： このオプションは、[次のソース要件を含める] - [下記から影響を受ける] あるいは [次のソース要件を含める] - [下記に影響を与える] のどちらかのオプションを選択した場合に、利用可能となります。
[表示するソース要件のリンク数] - [右記未満 <数>] - [(上記で指定した要件内でカウント)]	指定した数より少ない要件にリンクしているソース要件を表示します。 注： このオプションは、[次のソース要件を含める] - [下記から影響を受ける] あるいは [次のソース要件を含める] - [下記に影響を与える] のどちらかのオプションを選択した場合に、利用可能となります。




リンクされたテストでフィルタのページ

ウィザード・ページを使用して、関連するテストを定義できます。



重要な情報	このウィザードに関する一般的な情報は、トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードに記載されています。
ウィザードマップ	トレーサビリティ・マトリクスの設定ウィザードの構成は次のとおりです。 ソース要件の定義のページ > リンクされた要件でフィルタのページ > リンクされたテストでフィルタのページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
 設定のクリア	定義した設定をクリアします。
	[フィルタ/ソートを設定] ：リンクされたテストのフィルタとソートが行えます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」（60 ページ）を参照してください。
	[フィルタをクリア] ：定義したフィルタをクリアします。

UI 要素	説明
[リンクされたテストでフィルタ]	リンクされたテストで、ソース要件をフィルタ処理します。
[次のソース要件を含める] - [リンクしている] - [次のテスト]	選択したテストにリンクしているソース要件を表示します。
[次のソース要件を含める] - [リンクしていない] - [次のテスト]	選択したテストにリンクしていないソース要件を表示します。
[表示するソース要件のリンク数] - [右記未満 <数>] - [(上記で指定した要件内でカウント)]	<p>指定した数より少ないテストにリンクしているソース要件を表示します。</p> <p>注：このオプションは、[次のソース要件を含める] - [リンクしている] - [次のテスト] を選択した場合に、利用可能となります。</p>
[表示するソース要件のリンク数] - [右記超過 <数>] - [(上記で指定した要件内でカウント)]	<p>指定した数より多くの要件にリンクしているソース要件を表示します。</p> <p>注：このオプションは、[次のソース要件を含める] - [リンクしている] - [次のテスト] を選択した場合に、利用可能となります。</p>

第 16 章

リスク・ベース品質管理

本章の内容

概念

「リスク・ベース品質管理の概要」(404 ページ)

タスク

「リスクの評価方法」(406 ページ)

リファレンス

「リスク・ベース品質管理ユーザ・インタフェース」(413 ページ)

概念

リスク・ベース品質管理の概要

要件のテスト方法を計画する場合、通常は、利用できるリソースが無限に存在することはなく、すべての要件に対して完全なテストを行うこともできません。必要なのは折り合いをつけることであり、ビジネス重要度が低い要件、または、実装に関連するリスクが低いものしかない要件については、部分的なテストで済ませる必要があります。リスク・ベース品質管理機能では、要件の性質および利用可能なリソースに基づいて、各要件のテスト・レベルを計算できます。そして、この推奨事項を基にテスト・プロセスを計画できます。

リスク・ベース品質管理が有効になっている各要件タイプでは、「**アナリシス要件**」と呼ばれるリスク・アナリシス、または、「**評価要件**」と呼ばれる個々のリスク評価をサポートできます。

アナリシス要件は、たとえば**フォルダ**・タイプのように、要件のツリー階層で高いレベルを表すタイプに属する要件です。要件ツリーのアナリシス要件の下にある評価要件に基づいて、アナリシス要件に関するリスク・アナリシスを行います。

複数の評価要件のリスク結果が集計され、テスト効果およびテスト戦略を決定する際に利用できる全体的なリスク・アナリシスが行われます。

評価要件は、アナリシス要件の子であり、要件のツリー階層で低いレベルにある要件を表すタイプに属する要件です。特定のアナリシス要件の下にある評価要件は、そのアナリシス要件に関するリスク・アナリシスを行う際の基礎となります。

アナリシス要件の下の評価要件ごとに、**リスク**および**機能の複雑性**の割り当てまたは計算を行うことができます。

リスクは、**ビジネス重要度**と**失敗の確率**で構成されます。ビジネスの危険性では、ビジネスにおけるその要件の重要度を測定します。失敗の確率は、その要件に基づいたテストが失敗する可能性を表します。

機能の複雑性は、その要件の実装の複雑さを示します。

リスク・ベース品質管理の各要件タイプを有効にすることが可能です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

リスク・ベース品質管理の標準設定はカスタマイズ可能です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

Quality Center Starter Edition : リスク・ベース品質管理は、使用できません。

詳細については、「リスクの評価方法」(406 ページ) を参照してください。

タスク

リスクの評価方法

このタスクでは、ALM のリスクの評価方法を説明します。

リスク評価の詳細については、「リスク・ベース品質管理の概要」(404 ページ) を参照してください。

ヒント: このタスクに関するユースケース・シナリオについては、「リスクの評価方法 - ユースケース・シナリオ」(408 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「要件の評価」(406 ページ)
- 「テスト・ポリシー設定の定義」(407 ページ)
- 「テスト・ポリシーの仕上げ」(407 ページ)
- 「テスト戦略の分析」(408 ページ)

1 要件の評価

- a **[リスク アナリシス] タブを表示します。**要件モジュールで、[表示] > [要件の詳細] を選択します。要件ツリーで、アナリシス要件の下にある評価要件を指定します。[リスク アナリシス] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク評価] タブ」(413 ページ) を参照してください。
- b **リスクと機能の複雑性を決定します。**[評価項目] タブをクリックします。次のサブタブが表示されます。[ビジネスの危険性]、[失敗の確率]、[機能の複雑性] です。各サブタブの条件セットに値を割り当てます。[評価項目] タブのユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク評価] タブ」(413 ページ) を参照してください。

条件の値に基づいて計算された値を無視し、その代わりにユーザ定義の値を使用することもできます。各カテゴリに直接値を割り当てるには、[評価の結果] タブをクリックします。[評価の結果] タブのユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク評価] タブ」(413 ページ) を参照してください。

- c アナリシス要件の下の評価要件ごとに、リスクおよび機能の複雑性の割り当てまたは計算を行います。

2 テスト・ポリシー設定の定義

- a 要件ツリーでアナリシス要件を選択します。[リスク アナリシス] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ) を参照してください。
- b [アナリシス定数] の下で、アナリシス要件とその下の評価要件の初期設定を定義します。この設定には、要件を完全にテストするために特定の機能の複雑性の要件に割り当てる時間、および、要件に関する部分テストまたは基本テストを行うのに要する時間が含まれます。また、リスクと機能の複雑性のそれぞれについて、要件に対して実行するテストのレベルも決定します。

[アナリシス定数] 表示枠のユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ) を参照してください。

3 テスト・ポリシーの仕上げ

- a **テスト・ポリシーを計算します。**[リスク アナリシス] タブの [分析] ボタンをクリックし、アナリシス要件の下の各評価要件のテスト・レベルおよびテスト時間を計算します。**必要なテスト時間の合計、割り当てテスト時間の合計、必要な開発時間の合計**が、更新されます。

[リスク アナリシス] タブのユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ) を参照してください。

- b **テスト・ポリシーを調整します。**[アナリシス定数] の下で、すべてのテストを実行するのに十分な時間が確保され、リソースが無駄にならないように、テスト・ポリシーを調整することができます。

[アナリシス定数] 表示枠のユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ) を参照してください。

- c **各評価要件への結果を適用します。**[分析して子に適用] ボタンをクリックします。分析情報を、現在のフィルタに一致するアナリシス要件の下のすべての評価要件に適用します。

4 テスト戦略の分析

アナリシス要件のテスト戦略の詳細なレポートを作成するには、[リスク アナリシス] タブの [レポート] ボタンをクリックします。[レポートの生成] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[レポートの生成] ダイアログ・ボックス」(425 ページ) を参照してください。

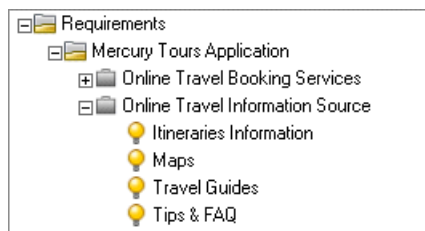
評価要件のテスト戦略を分析するには、要件ツリーから評価要件を選択し、[リスク評価] タブをクリックします。結果は、[評価の結果] サブタブに表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リスク評価] タブ」(413 ページ) を参照してください。

リスクの評価方法 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、ALM のリスクを評価する例を提供します。

注: このシナリオに関するタスクについては、「リスクの評価方法」(406 ページ) を参照してください。

次のシナリオでは、フライトと休暇を予約するアプリケーションに基づいたプロジェクトを使用します。あなたは、[Mercury Tours Application] の下にある [Online Travel Information Source] というアナリシス要件のテストを計画したいと思っています。



まず、[Itineraries Information] という子の評価要件のビジネス上の危険性条件に値を割り当てます。旅行日程に関する情報は、表示するためのものであって計算や検証を伴わないため、[プロセスのタイプ] という条件には [表示] という値を割り当てます。また、旅行日程に関する情報が間違っていると、訴訟につながる可能性があるため、[失敗の影響] という条件には [法的影響] という値を割り当てます。

さらに、[使用頻度]には[非常に頻繁]という値を、[影響を受けるユーザの数/重要性]には[多数/高い]という値を割り当てます。ALMは、ここでは要件のビジネスの危険性を、[A - 致命的]と計算しています。

評価ステータス: 進行中 アナリシスから除外

評価の結果 | 評価項目

ビジネス上の危険性 | 失敗の確率 | 機能の複雑性

この要件のビジネス上の危険性を評価するため、次の条件に値を割り当ててください。

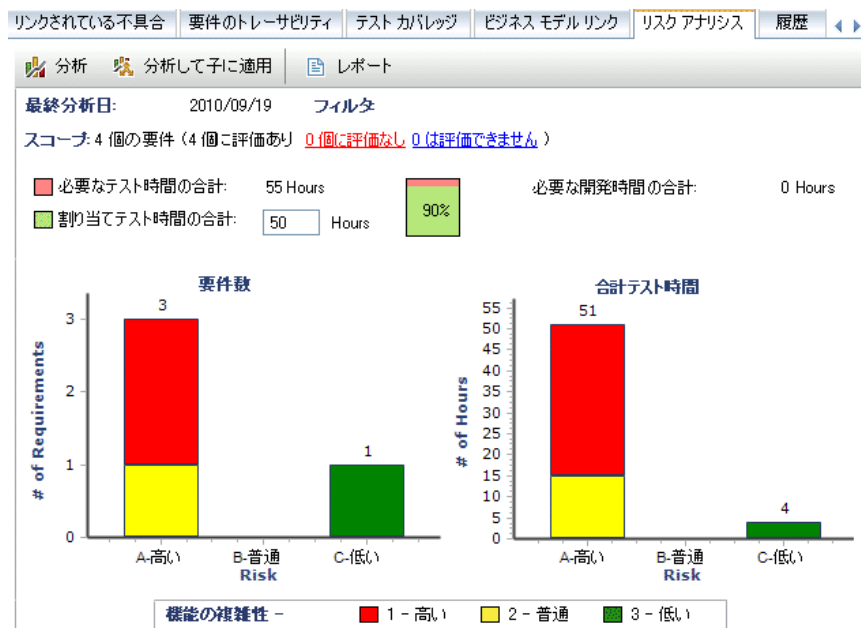
条件	値	条件の説明 "プロセスのタイプ"
プロセスのタイプ	表示	要件によって表されるプロセスのタイプです。この条件は次の値が使用可能です: 計算/検証 - 要件によって表される機能は、重要な計算または検証です。 データ変更 - 要件によって表される機能は、アプリケーション データを変更します。 表示 - 要件によって表される機能は、アプリケーション表示を変更します。
失敗の影響	法的影響	
使用頻度	非常に頻繁	
影響を受けるユーザの数/重要性	多数/高	

計算後のビジネス上の危険性:

同様に、失敗の確率を決定するため、条件に値を割り当てます。ALMは、失敗の確率を[2 - 普通]と計算します。次に、機能の複雑性を決定するため、条件に値を割り当てます。ALMは、機能の複雑性を[1 - 高い]と計算します。全体的なリスク・カテゴリは[A - 高い]となり、全体的な機能の複雑性は、[1 - 高い]となります。

引き続き、[Maps]、[Travel Guide]、[Tips & FAQ]という各評価要件について、リスクおよび機能の複雑性を決定します。

これで、[Online Travel Information Source] という要件に対してリスク・アナリシスを実行する準備が整いました。ALM の標準設定のテスト・ポリシーを使用し、そのポリシーに基づいてリスク・アナリシスを実行するように指定します。ALM は、要件を計算するのに 55 時間必要であると計算しています。しかし、使用できる時間は、必要なリソースの 90% の 50 時間しかありません。そこで、テスト・ポリシーを変更する必要があります。



機能の複雑性の要件を、[1 - 高い] に設定することで、18 時間から 16 時間に、機能の複雑性の要件を、[2 - 普通] に設定することで 15 時間から 14 時間に、テスト時間を変更します。今度は、要件のテストに必要な時間は 50 時間と算出されました。これは使用できる時間と同じです。したがって、この変更されたテスト・ポリシーを受け入れることにします。

これで、要件をテストするのに十分なリソースが確保されました。ALM で推奨されたテスト戦略がまとめられたリスク・アナリシス・レポートを作成し、組織に提出してテスト計画の基礎として使用します。



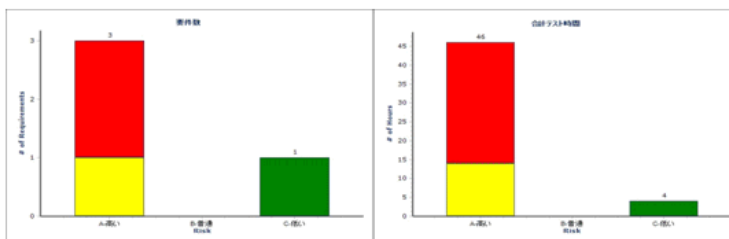
要件分析の予測工数契約 Online Travel Information Source

最終分析日: 2010/10/04
フィルタ:

スコープ: 4 要件 (4 件は評価あり, 0 件は評価なし, 0 件は評価不可)

必要テスト時間の合計: 50 Hours
割り当てテスト時間の合計: 50 Hours

必要な開発時間の合計: 0 Hours



機能の複雑性: 1-高い (Red) 2-普通 (Yellow) 3-低い (Green)

実装済みテストポリシー (単位: Hours):

Risk	Functional Complexity		
	1 - High	2 - Medium	3 - Low
A - High	Full (16)	Full (14)	Full (12)
B - Medium	Partial (11)	Partial (9)	Partial (8)
C - Low	Basic (5)	Basic (5)	Basic (4)

リファレンス

🔍 リスク・ベース品質管理ユーザ・インタフェース

本項の内容

「[リスク評価] タブ」(413 ページ)

「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ)

「[レポートの生成] ダイアログ・ボックス」(425 ページ)

🔍 [リスク評価] タブ

このタブで、値を直接割り当てるか、条件セットに値を割り当てることにより、要件のビジネス上の危険性、失敗の確率、機能の複雑性を決定できます。

要件 編集 表示 お気に入り アナリシス

名前

- Requirements
 - Mercury Tours Application
 - Online Travel Booking Services
 - Online Travel Information Source
 - Itineraries Information
 - Maps
 - Travel Guides
 - Tips & FAQ
 - Profile Management
 - Reservation Management
 - Booking System
 - Application Security
 - Application Usability
 - Application Client System
 - Application Performance

リンクされている不具合 要件のトレーサビリティ テスト カバレッジ ビジネス モデル リンク リスク評価 履歴

評価ステータス: 進行中 アナリシスから除外

評価の結果 評価項目

ビジネス上の危険性 失敗の確率 機能の複雑性

この要件のビジネス上の危険性を評価するため、次の条件に値を割り当ててください。

条件	値	条件の説明 "プロセスのタイプ"
プロセスのタイプ	表示	要件によって表されるプロセスのタイプです。この条件は次の値が使用可能です。
失敗の影響	法的影響	計算/検証 - 要件によって表される機能は、重要な計算または検証です。
使用頻度	非常に頻繁	データ変更 - 要件によって表される機能は、アプリケーションデータを変更します。
影響を受けるユーザの数/重要性	多数/高	表示 - 要件によって表される機能は、アプリケーション表示を変更します。

計算後のビジネス上の危険性: A-致命的

<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使います。</p> <p>要件モジュールで、要件詳細ビューを選択します。評価要件を選択し、[リスク評価] タブをクリックします。</p> <p>要件モジュールで、評価要件を右クリックし、[要件詳細] を選択します。[要件の詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[リスク評価] ボタンをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>要件のビジネス上の危険性、失敗の確率、機能の複雑性が決定されていなければ、ALM は、リスク・アナリシスの要件を含みません。</p> <p>条件、その指定可能な値、そして、それらの値でビジネス上の危険性、失敗の確率、および機能の複雑性を決定する方法についてはカスタマイズ可能です。また、リスクを計算するビジネス上の危険性と失敗の確率の使用方法についてもカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition : リスク・ベース品質管理は、使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「リスクの評価方法」(406 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ)</p> <p>「リスク・ベース品質管理の概要」(404 ページ)</p>

[リスク評価] タブ共通要素

次に、共通ユーザインタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>[評価ステータス]</p>	<p>評価要件の現在のステータス。評価ステータスは、次のいずれかになります。開始されていません、進行中、完了。</p>
<p>[アナリシスから除外]</p>	<p>リスク・アナリシスを実行する場合、指定した評価要件は無視されます。</p>

[評価の結果] タブ - [評価のサマリ] 領域

この領域には、評価要件のリスクおよび機能の複雑性の割り当てられた値あるいは計算された値が表示されます。

重要な情報	評価サマリ・エリアには、[評価項目] タブで計算されたリスクおよび機能の複雑性の値が表示されます。これら値を無視し、その代わりにユーザ定義値を使用することができます。
関連タスク	「リスクの評価方法」(406 ページ)
参照項目	「[評価項目] タブ」(418 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[ビジネス上の危険性]	<p>その要件のビジネス上の危険性を測定します。</p> <p>計算された値を無視し、その代わりにユーザ定義値を使用するには、[カスタムを使用] を選択します。使用可能な値は、[A - 致命的]、[B - 重要]、[C - 推奨] です。</p> <p>例：めったに使用しないと考えられる重要でない機能に影響する要件では、ビジネス上の危険性に推奨を割り当てます。これに対し、アプリケーションの機能に不可欠な要件では、ビジネス上の危険性におそらく致命的を割り当てることになるでしょう。</p>
[失敗の確率]	<p>その要件に基づいたテストが失敗する可能性を測定します。</p> <p>計算された値を無視し、その代わりにユーザ定義値を使用するには、[カスタムを使用] を選択します。使用可能な値は、[1 - 高い]、[2 - 普通]、[3 - 低い] です。</p> <p>例：実装する上でアプリケーションの大部分の領域にわたる大幅な変更を伴う要件では、失敗の確率に高いを割り当てることになるでしょう。これに対し、アプリケーションのアイコンの変更を要する要件の場合、おそらく関連リスクは多くないため、失敗の確率には低いを割り当てることになるでしょう。</p>

UI 要素	説明
[機能の複雑性]	<p>要件の実装の複雑性を示します。</p> <p>計算された値を無視し、その代わりにユーザ定義値を使用するには、[カスタムを使用] を選択します。使用可能な値は、[1 - 高い]、[2 - 普通]、[3 - 低い] です。</p> <p>例：実装する上で、ほかのシステムと通信できるようにするためにアプリケーションに大幅な変更を加える必要がある要件では、おそらく複雑度が高くなり、機能の複雑性に高いを割り当てることになるでしょう。これに対し、アプリケーションがほかのシステムと通信できるようにするために大幅な変更を加える必要がない要件の場合、おそらく関連リスクは多くないため、機能の複雑性には低いを割り当てることになるでしょう。</p>
[リスク]	<p>要件のビジネス上の危険性および失敗の確率に基づいてリスクを計算します。</p> <p>計算された値を無視し、その代わりにユーザ定義値を使用するには、[カスタムを使用] を選択します。使用可能な値は、[1 - 高い]、[2 - 普通]、[3 - 低い] です。</p>

[評価の結果] タブ - [テスト ポリシー] 領域

この領域には、評価要件の親のアナリシス要件に対して行った最後の分析の結論が表示されます。

重要な情報	<p>テスト・ポリシー領域の評価要件のテスト・ポリシーを表示およびエディットするには、まず関連するアナリシス要件（親要件）の分析の実行と結果を[リスク アナリシス] タブのすべての評価要件（子要件）に適用する必要があります。</p>
関連タスク	<p>「リスクの評価方法」（406 ページ）</p>
参照項目	<p>「[リスク アナリシス] タブ」（419 ページ）</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【次のアナリシス要件に基づく】	現在の要件が含まれる最後の分析が行われたアナリシス要件が表示されます。アナリシス要件の名前をクリックすると、要件ツリーのアナリシス要件に移動できます。
【計算テストレベル】	現在の要件が含まれる最後の分析で計算された、要件をテストするレベル。
【計算テスト時間】	現在の要件が含まれる最後の分析で計算された、要件のテストに割り当てられた時間。
【予測開発時間 (オプション)】	要件開発に要する予測時間。ALM は、アナリシス要件とその子要件の予測合計開発時間を、子要件の予測合計開発時間として計算します。予測開発時間の割り当ては任意であり、リスク・アナリシスには影響しません。
【最終分析日】	現在の要件が含まれる最後の分析が行われた日付。
【上記を次の計算に使用する】	次の計算で算出された値を無効にして、その代わりにユーザ定義値を使用します。 [テストレベル] ボックスには、次の計算で使用するテスト・レベルを指定します。[テスト時間] ボックスには、次の計算で使用するテスト効果を入力します。次回、現在の要件が含まれる分析を行うときには、計算された値ではなくこれらの値が使用されます。

[評価項目] タブ

このタブには、ビジネス上の危険性、失敗の確率、機能の複雑性を決定する際に使用する条件のリストが表示されています。

関連タスク	「リスクの評価方法」(406 ページ)
参照項目	「[リスク アナリシス] タブ」(419 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[ビジネス上の危険性] / [失敗の確率] / [機能の複雑性] タブ	各タブには、各カテゴリを評価する場合に考慮する条件がリストされています。
[計算後のビジネスの危険性] / [計算後の失敗確率] / [計算後の機能の複雑性]	指定したカテゴリの条件を割り付けた値に従った更新。 注： リスク・アナリシスを実施する場合、条件の値に基づいて計算された値を無視し、代わりにユーザ定義値を使用することもできます。[評価の結果] タブの評価サマリ・エリアでは、 [カスタムを使用] を指定します。
[条件]	指定カテゴリの評価に使用する条件がリストされます。
[条件の説明]	指定条件の説明をします。
[値]	各条件に割り当てられる使用可能な値がリストされます。

🔗 [リスク アナリシス] タブ

このタブでは、テスト・ポリシー設定の定義と、アナリシス要件とその下の評価要件の推定合計テスト時間の決定ができます。

The screenshot displays the 'Risk Analysis' (リスク アナリシス) tab in a software application. The interface includes a sidebar with a tree view of requirements, a main analysis area with summary statistics and two bar charts, and a bottom section for defining test policies.

Requirements List (Left Sidebar):

- Requirements
 - Mercury Tours Application
 - Online Travel Booking Services
 - Online Travel Information Source
 - Itineraries Information
 - Maps
 - Travel Guides
 - Tips & FAQ
 - Profile Management
 - Reservation Management
 - Booking System
 - Application Security
 - Application Usability
 - Application Client System
 - Application Performance

Analysis Summary (Main Area):

- 最終分析日: 2010/09/19
- スコープ: 6 個の要件 (3 個に評価あり, 0 個に評価なし, 3 は評価できません)
- 必要なテスト時間の合計: 48 Hours
- 割り当てテスト時間の合計: 48 Hours (100%)
- 必要な開発時間の合計: 0 Hours

Bar Charts:

- 要件数 (Requirements Count):**
 - A-高い: 2
 - B-普通 Risk: 1
 - C-低い: 0
- 合計テスト時間 (Total Test Time):**
 - A-高い: 36
 - B-普通 Risk: 12
 - C-低い: 0

Analysis Definition (Bottom Section):

標準設定を表示 | 標準設定に戻す

機能の複雑性に対するテスト実行 (完全)

機能の複雑性	テストポリシー (Hours 中)
1 - 高い	18 Hours
2 - 普通	15 Hours

テストポリシー (Hours 中)

リスク	機能の複雑性
リスク	1 - 高い
	2 - 普通
	3 - 低い




<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使います。</p> <p>要件モジュールで、要件詳細ビューを指定します。アナリシス要件を指定し、[リスク アナリシス] タブをクリックします。</p> <p>要件モジュールで、アナリシス要件を右クリックし、[要件詳細] を指定します。[要件詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[リスク アナリシス] ボタンをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>テスト・ポリシーを仕上げたいアナリシス要件、および、リスク・アナリシスに含めたいアナリシス要件の下にあるすべての評価要件のリスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリが決定していることを確認します。詳細については、「[リスク評価] タブ」(413 ページ) を参照してください。</p> <p>リスク・アナリシスに含めたい評価要件のみ含まれるように、要件ツリーをフィルタ処理できます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p> <p>リスク・ベース品質管理の各要件タイプをカスタマイズ可能です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>標準設定で使用されるテスト・ポリシーはカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition : リスク・ベース品質管理は、使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「リスクの評価方法」(406 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「[リスク評価] タブ」(413 ページ)</p> <p>「リスク・ベース品質管理の概要」(404 ページ)</p>

リスク・アナリシス - 主要領域

このタブでは、アナリシス要件とその下の評価要件の推定合計テスト時間が計算されます。その計算は、[アナリシス定数] 表示枠で定義されるテスト・ポリシーに基づいています。

重要な情報	<p>この主要領域のテスト・ポリシーで計算する場合、標準設定のテスト効果値およびテスト・レベル値を使用しなくなれば、[アナリシス定数] 表示枠にユーザ定義値が設定されていることを確認します。</p> <p>この主要領域のテスト・ポリシーを計算した後、計算された合計テスト時間と使用可能なリソースを比較します。使用可能なリソースでは、現在の設定に従って要件をテストするのに不十分な場合は、[アナリシス定数] 表示枠の設定を変更し、再計算できます。</p>
--------------	--

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。




UI 要素	説明
 分析	現在のフィルタに一致するアナリシス要件の下にある評価要件ごとに、テスト・レベルおよびテスト時間を計算します。 この計算は、評価要件のリスク・カテゴリ、および、アナリシス要件で定義したテスト・レベルおよびテスト時間の値に基づいて行われます。
 分析して子に適用	分析結果を、現在のフィルタに一致するアナリシス要件の下のすべての評価要件に適用します。
 レポート	[レポートの生成] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[レポートの生成] ダイアログ・ボックス」(425 ページ) を参照してください。
[フィルタ]	リスク・アナリシスに含まれている要件を特定するのに使用するフィルタ。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
[機能の複雑性]	機能の複雑性の値についての説明文は、グラフ内に表示されます。
[最終分析日]	リスク・アナリシスが最後に実行された日付。
[要件数]	<p>各リスク・カテゴリのアナリシス要件のサブ要件の数が表示されます。</p> <p>分析に含まれる要件のリストを表示するには、グラフのセグメントをクリックしてください。[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドにカテゴリの要件のリストが表示されます。詳細については、「[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス」(944 ページ) を参照してください。</p>
[スコープ]	<p>リスク・アナリシスに含まれている要件の数。その詳細（評価された要件、評価が不明な要件、評価できない要件）も示します。</p> <p>分析に含まれていない要件のリストを表示するには、[評価なし] または [評価できません] のリンクをクリックしてください。[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドにカテゴリの要件のリストが表示されます。詳細については、「[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス」(944 ページ) を参照してください。</p> <p>ヒント: [評価なし] リンクには、カテゴリを決定しなかった要件、または、分析から明示的に除外した要件が表示されます。カテゴリを割り当てるべき要件がないか確認してください。本当に要件を分析に含めたくない場合は、分析から明示的に除外してください。</p>
[割り当てテスト時間の合計]	リスク・アナリシスに含まれている要件をテストするために割り当てられた時間の合計。
[必要な開発時間の合計]	評価要件ごとに任意に予測した必要な開発時間に基づいた、アナリシス要件の下にあるすべての評価要件を開発するのに必要な合計時間が表示されます。

UI 要素	説明
【必要なテスト時間の合計】	現在のフィルタに一致し、リスク・アナリシスに含まれる、アナリシス要件の下にあるすべての評価要件をテストするのに必要な合計計算時間が表示されます。
【合計テスト時間】	各リスク・カテゴリのすべての要件をテストするのに必要な合計計算テスト時間が表示されます。 分析に含まれる要件のリストを表示するには、グラフのセグメントをクリックしてください。[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドにカテゴリの要件のリストが表示されます。詳細については、「[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス」(944 ページ) を参照してください。

【アナリシス定数】表示枠

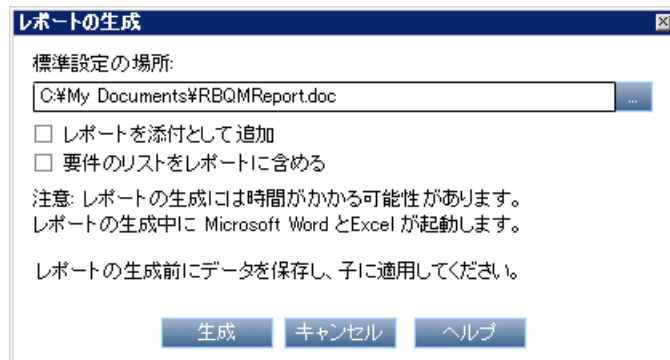
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	表示/非表示 : [アナリシス定数] 表示枠を表示/非表示します。
 標準設定を表示	[リスク ベース品質管理の定数標準] ダイアログ・ボックスを開くことで、使用している標準の定数を表示できます。
 標準設定に戻す	標準の値を現在の要件で使用されている定数に割り付けます。
【機能の複雑性に対するテスト実行 (完全)】	機能の複雑性をもつ要件を完全にテストするのに必要な時間。機能の複雑性の値ごとに、推定テスト時間を入力します。 例 : 一般に、機能の複雑性が高い要件は、要件の実装に不具合が含まれている可能性が高いため、長いテスト時間を必要とします。

UI 要素	説明
<p>[テスト レベル (完全 = 100%, なし = 0%)]</p>	<p>完全テストに対するパーセンテージで、要件に必要なテスト時間を定義します。</p> <p>[部分] ボックスおよび [基本] ボックスに、要件の部分テストおよび基本テストに必要な標準設定のテスト時間を入力します。この値は、完全テストに求められる効果に対するパーセンテージで表します。</p> <p>テスト・レベルが [なし] に設定された要件は、まったくテストされず、テスト効果は 0 になります。</p> <p>例：要件の完全テストを実行するのに 20 時間必要で、部分テストは完全テストの 75% と定義した場合、ALMは、要件の部分テストを実行するのに 15 時間必要と計算します。</p>
<p>[テスト ポリシー (時間) グリッド]</p>	<p>リスク・カテゴリおよび機能の複雑性カテゴリごとに要件のテスト・レベルを定義します。</p> <p>レベルを定義するには、グリッドのセルの横にある矢印をクリックします。使用可能なテスト・レベルの中からテスト・レベルを選択します。使用可能なテスト・レベルは、[完全]、[部分]、[基本]、[なし] です。各テスト・レベルの横に、そのレベルで要件をテストするのに必要な予測時間（定義されたテスト効果およびテスト・レベルに基づいたもの）が表示されます。</p>

[レポートの生成] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、アナリシス要件のテスト戦略、および、アナリシス要件の下にある評価要件のテスト戦略の分析レポートを作成します。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使います。</p> <p>要件モジュールで、要件詳細ビューを指定します。アナリシス要件を指定し、[リスク・アナリシス] タブをクリックします。[レポート] ボタンをクリックします。</p> <p>要件モジュールで、評価要件を右クリックし、[要件詳細] を指定します。[要件詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[リスク アナリシス] ボタンをクリックします。[レポート] ボタンをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>レポートを生成するには、まず分析情報を保存し、アナリシス要件の下のすべての評価要件にその分析情報を適用する必要があります。詳細については、[リスク アナリシス] タブ (419 ページ) を参照してください。</p> <p>レポートを生成するには、お使いのマシンに Microsoft Word がインストールされている必要があります。</p> <p>分析結果は、最後に分析が行われたときの要件にのみ有効です。引き続き、要件のリスク・カテゴリまたは機能の複雑性カテゴリ、あるいはテスト・ポリシーを変更する場合は、再度分析を行う必要があります。</p> <p>Quality Center Starter Edition : リスク・ベース品質管理は、使用できません。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「リスクの評価方法」 (406 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「[リスク アナリシス] タブ」 (419 ページ)</p> <p>「リスク・ベース品質管理の概要」 (404 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>[レポートを添付として追加]</p>	<p>レポートをアナリシス要件の添付ファイルとして追加します。</p>
<p>[標準設定の場所]</p>	<p>データのエクスポート先となる Word ファイルの場所と名前です。参照ボタンをクリックすれば、[名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスから場所を選択できます。</p>

UI 要素	説明
生成	レポートを、Microsoft Word ドキュメントとして作成します。
[要件のリストを レポートに含める]	要件のリストをレポートに含めます。

第 17 章

ビジネス・プロセス・モデル

本章の内容

概念

「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(430 ページ)

タスク

「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)

リファレンス

「ビジネス・モデル・モジュールのユーザ・インタフェース」(438 ページ)

概念

ビジネス・プロセス・モデルの概要

ALM Editions : ビジネス・モデル・モジュールは、Quality Center Starter Edition と Performance Center Edition では使用できません。

HP Application Lifecycle Management (ALM) のビジネス・モデル・モジュールは、ビジネス・プロセスモデリング、品質保証管理、要件定義の間のより緊密な連携のニーズに応えます。このモジュールは、ビジネス・プロセス・モデルをアプリケーションのライフ・サイクルに統合します。

ビジネス・プロセス・モデルを ALM に統合するには、ビジネス・プロセス・モデルを ALM にインポートし、要件とテストを、モデル、アクティビティ、エンドツーエンドのビジネス・フローに結び付けます。テストを実行した後、ビジネス・プロセス・モデル・レベルでの品質ステータス・ビューを表示できます。

ALM でビジネス・プロセス・モデルを扱うには、まず標準のモデリング・ツールでモデルをデザインし、ALM にモデルをインポートします。詳細については、「ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート」(431 ページ) を参照してください。

ALM では、標準のビジネス・プロセス・モデル・エンティティのほかに、エンドツーエンドのビジネス・フロー（「パス」）に対して品質テストを実行できます。詳細については、「ビジネス・プロセス・モデルのパス」(432 ページ) を参照してください。

ビジネス・プロセス・モデルに関する作業の詳細については、「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ) を参照してください。

本項の内容

「ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート」(431 ページ)

「ビジネス・プロセス・モデルのパス」(432 ページ)

ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート

ALM でビジネス・プロセス・モデルを扱うには、まず標準の BPMN または EPC モデリング・ツールでモデルをデザインし、ファイルにエクスポートしておく必要があります。

ALM は次のモデルおよびファイル形式をサポートします。

BPMN 1.1 モデルを **XPDL 2.0** ファイルにエクスポートしたもの

EPC 7.1 モデルを **AML** ファイル (拡張子.xml) にエクスポートしたもの

ALM にインポートしたモデルのそれぞれに対して、選択したフォルダの下にビジネス・プロセス・モデル・エンティティが作成されます。モデル全体に対応するエンティティと、モデルの各アクティビティに対応するエンティティです。

注: Metastorm ProVision を使用する場合、[**Independent Sub-Process**] オプションを使用してモデルをエクスポートする必要があります。

さらに、モデルとその各アクティビティに対して、**代表的な要件**が要件モジュールで自動的に作成されます。

モデルの代表的な要件は、[**ビジネス モデル**] 要件フォルダの下に作成されます。

アクティビティの代表的な要件は、[**アクティビティ**] サブフォルダの下に作成されます。複数のモデルに同じアクティビティが含まれる場合、アクティビティは同じ要件によって表現されます。

代表的な要件には、[**ビジネス モデル**] 要件タイプが割り当てられます。

モデルの再インポート

モデル・オーサリング・ツールでモデルに変更が加えられた場合、モデルを再インポートすることで、モデルに対する変更を ALM に反映させることができます。ALM は次のようにモデル・エンティティを自動的に更新します。

再インポートされたモデルで追加または削除されたアクティビティは、ALM のモデルで追加または削除されます。

注：アクティビティは、オーサリング・ツールで割り当てられた GUID によって識別されます。再インポートされたアクティビティが元のアクティビティと異なる GUID を持つ場合は、別のアクティビティとして再インポートされます。

代替パスが見つかった場合、パスは ALM で自動的に更新されます。代替パスが見つからなかった場合、パス・エンティティに新しいパスを割り当てるか、パス・エンティティを削除する必要があります。

ビジネス・プロセス・モデルのパス

ビジネス・プロセス・モデルの品質は、アクティビティだけではなく、モデル内のビジネス・フロー、すなわちパスによっても決まります。**パス**とは、モデル内のアクティビティの遷移を表すエンドツーエンドのシーケンスです。

標準のモデリング・ツールで作成したビジネス・プロセス・モデルには、パス定義は含まれません。パスはビジネス・プロセスの品質を検証するために重要なので、ALM ではインポートしたモデルにパスを定義できます。

ALM はモデル内の可能なエンドツーエンドのパスをすべて分析し、テスト対象として重要なパスをユーザが選択できるようにします。

注：同じアクティビティを繰り返す再帰的なパスはサポートされません。

作成したパスのそれぞれに対して、代表的な要件が、モデルの代表的な要件の子である **[パス]** グループ要件の下に自動的に作成されます。

タスク

ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法

このタスクでは、ALM でビジネス・プロセス・モデルを指定する方法を説明します。

ALM でのビジネス・プロセス・モデリングの詳細については、「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(430 ページ)を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「前提条件」(433 ページ)

「ビジネス・プロセス・モデルをインポートまたは再インポートします。」(434 ページ)

「パスの作成」(434 ページ)

「要件とテストの作成」(435 ページ)

「要件とテストのモデル・エンティティへのリンク」(435 ページ)

「ビジネス・プロセス・モデルの品質の分析」(437 ページ)

1 前提条件

- a 標準のモデリング・ツールで、ビジネス・プロセス・モデルを作成します。
- b ビジネス・プロセス・モデルをファイルにエクスポートします。

ALM は次のモデルおよびファイル形式をサポートします。

BPMN 1.1 モデルを **XPDL 2.0** ファイルにエクスポートしたもの

EPC 7.1 モデルを **AML** ファイル (拡張子.xml) にエクスポートしたもの

2 ビジネス・プロセス・モデルをインポートまたは再インポートします。

関連する概念については、「ビジネス・プロセス・モデル・ファイルのインポート」(431 ページ) を参照してください。

- a **ビジネス・モデル・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの [要件] の下で、[ビジネス モデル] を選択します。[表示] メニューで、[モデル ツリー] を選択します。
- b **フォルダを作成します。** [モデル] ルート・フォルダを右クリックし、[新規フォルダ] を選択します。サブフォルダを作成するには、フォルダを右クリックし、[新規フォルダ] を選択します。
- c **[モデルのインポート] ダイアログ・ボックスを開きます。** フォルダを右クリックし、[モデルのインポート] を選択します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[モデルのインポート] ダイアログ・ボックス」(459 ページ) を参照してください。
- d **ファイルとモデルを選択します。** [モデルのインポート] ダイアログ・ボックスで、インポートするファイルを選択します。ファイルが分析されたら、ファイルからインポートするモデルを選択します。
- e **インポート・ステータスを確認します。** [モデルのインポート] ダイアログ・ボックスでインポート・ステータスを確認します。インポートが終了したら、[OK] をクリックして [モデルのインポート] ダイアログ・ボックスを閉じます。

3 パスの作成

関連する概念については、「ビジネス・プロセス・モデルのパス」(432 ページ) を参照してください。

- a ビジネス・モデル・モジュールで、[表示] > [モデル ツリー] を選択します。
- b **[新規モデルパス] ダイアログ・ボックスを開きます。** ビジネス・プロセス・モデルを右クリックし、[新規パス] を選択します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[新規モデルパス/モデルパス詳細] ダイアログ・ボックス」(465 ページ) を参照してください。
- c **パスを選択します。** [パス] ドロップダウン・リストで、テスト対象として重要なパスを選択します。パス上のアクティビティがモデル図で強調表示され、[パスの説明] タブにパスの説明が表示されます。

4 要件とテストの作成

ALM のビジネス・プロセス・モデルの品質を判定するには、モデルの重要な側面をすべてカバーする要件とテストを作成する必要があります。

この作業を支援するため、ALM は、インポートしたモデルとアクティビティ、および作成したパスを表現するビジネス・モデル要件の構造を自動的に作成します。

a 次のいずれかを使用します。

代表的な要件を基礎として使用して、詳細な要件ツリーを作成し、テスト・カバレッジを追加します。

代表的な要件に関連しない既存の要件がある場合、それを引き続き作成できます。作成した要件は、後で関連するモデル・エンティティに手動でリンクします。

b テスト戦略によっては、要件に対するテスト・カバレッジを作成します。

作業の詳細については、「ALM の要件の使用方法」(315 ページ) を参照してください。

5 要件とテストのモデル・エンティティへのリンク

要件とテストを品質アナリシスに含めるには、対応するモデル・エンティティにリンクする必要があります。

代表的な要件の下に要件を作成した場合、要件とその対象となるテストは、対応するモデル・エンティティに自動的にリンクされます。

要件が代表的な要件に関連していない場合、要件を手動で対応するモデル・エンティティにリンクする必要があります。


リンクされた要件を対象とするテストは、同じモデル・エンティティに自動的にリンクされます。ほかのテストをモデル・エンティティに手動で直接リンクすることもできます。

代表的な要件をモデル・エンティティに手動でリンクすることはできません。


要件とテストをモデル・エンティティに直接リンクする方法：

- a ビジネス・モデル・モジュールで、**[表示]** > **[モデル ツリー]** を選択します。
- b モデル・エンティティを選択して、**[リンク]** タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[リンク] タブ**」(468 ページ) を参照してください。
- c **[要件]** または **[テスト]** タブをクリックします。
- d **[要件を選択]** または **[テストを選択]** の該当する方をクリックします。
- e **[要件ツリー]** / **[テスト計画ツリー]** 表示枠で、要件またはテストを右クリックし、**[リンクに追加]** を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[要件ツリー]** および **[テスト計画ツリー]** 表示枠」(472 ページ) を参照してください。
- f 別の方法として、要件およびテストをモデル図内のエンティティまでドラッグして、任意のモデル・エンティティへのリンクを作成することもできます。

モデル・エンティティをテストにリンクする方法：

[テスト計画] の**テスト計画ツリー**ビューで、テストを選択し、**[ビジネス モデル リンク]** タブをクリックします。**[リンクに追加]**  をクリックして、右側の表示枠にビジネス・モデル・ツリーを表示します。モデル・エンティティをテストにリンクします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[ビジネス モデル リンク] タブ**」(545 ページ) を参照してください。

モデル・エンティティを要件にリンクする方法：

[要件] の**要件の詳細**ビューで、要件を選択し、**[ビジネス モデル リンク]** タブをクリックします。**[リンクに追加]**  をクリックして、右側の表示枠にビジネス・モデル・ツリーを表示します。モデル・エンティティを要件にリンクします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[ビジネス モデル リンク] タブ**」(545 ページ) を参照してください。

6 ビジネス・プロセス・モデルの品質の分析

モデル・エンティティに対してテストを実行した後、モデル・エンティティの品質を分析するグラフを生成します。

- a **モデル・アナリシス・ビューを開きます。** ビジネス・モデル・モジュールで、[表示] > [モデル アナリシス] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「モデル・アナリシス・ビュー」(443 ページ) を参照してください。
- b **アナリシスのルートとなるモデル・エンティティを選択します。** 次のいずれかを使用します。

[モデル マップ] タブで、モデルを選択します。対応するモデル・ノードが、ビジネス・モデル・ツリーで強調表示されます。

ビジネス・モデル・ツリーで、モデル・エンティティを選択します。

- c [品質アナリシス] タブをクリックします。
- d [深度] ドロップダウン・リストで、アナリシスの対象とするレベル数を選択します。
- e 要件戦略に応じて、代表的な要件または子要件をアナリシスに含めるかどうかを選択します。
- f グラフの棒をクリックして、棒が表すレコードにドリルダウンします。タスクの詳細については、「グラフ・データへのドリル・ダウン」(902 ページ) を参照してください。

7 ビジネス・プロセス・モデルのレポートの生成

ビジネス・プロセス・モデル・エンティティをプロジェクト・レポートに含めます。作業の詳細については、「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ) を参照してください。

リファレンス

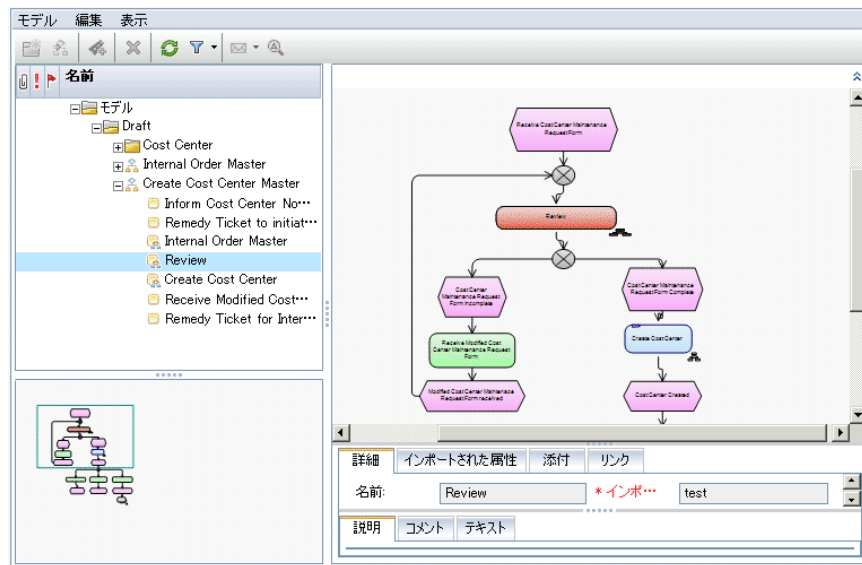
ビジネス・モデル・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」(439 ページ)
- 「モデル・アナリシス・ビュー」(443 ページ)
- 「ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン」(449 ページ)
- 「ビジネス・モデル・モジュールのアイコン」(455 ページ)
- 「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(457 ページ)
- 「[モデルのインポート] ダイアログ・ボックス」(459 ページ)
- 「[モデル詳細/モデル アクティビティ詳細] ダイアログ・ボックス」(461 ページ)
- 「[新規モデル パス/モデル パス詳細] ダイアログ・ボックス」(465 ページ)
- 「[リンク] タブ」(468 ページ)
- 「[要件ツリー] および [テスト計画ツリー] 表示枠」(472 ページ)
- 「[代表的な項目] タブ」(474 ページ)


🔗 ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ

このウィンドウでは、ALM のビジネス・プロセス・モデルを定義して保守できます。



アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下で、 [ビジネス モデル] を選択します。
重要な情報	<p>ビジネス・モデル・モジュールには、次のビューが含まれます。</p> <p>[モデル ツリー]：ビジネス・プロセス・モデルとその要素を階層ツリーに表示します。</p> <p>[モデル グリッド]：モデル、アクティビティ、またはパスの非階層リストを表示します。</p> <p>[モデル アナリシス]：モデルのテスト・カバレッジおよび品質のアナリシスを表示します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「モデル・アナリシス・ビュー」（443 ページ）を参照してください。</p>
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」（433 ページ）
詳細	<p>「ビジネス・プロセス・モデルの概要」（430 ページ）</p> <p>「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」（457 ページ）</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

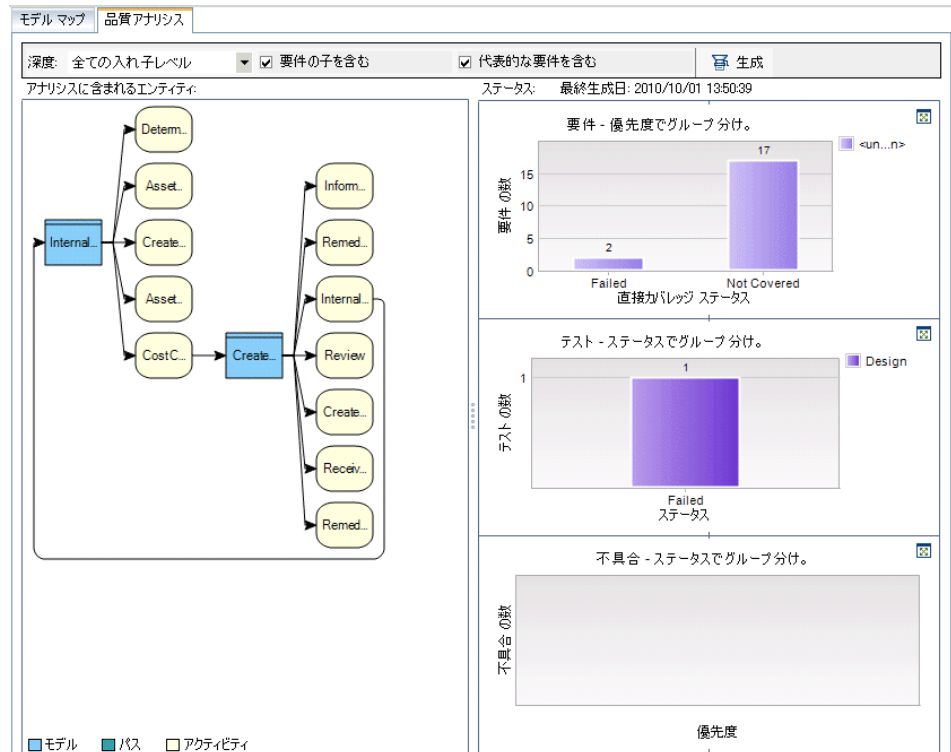
UI 要素	説明
<p><ビジネス・モデル・モジュールの共通 UI 要素></p>	<p>ビジネス・モデルのフィールド：フィールドの定義については、「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」（457 ページ）を参照してください。</p> <p>ビジネス・モデルのメニューとボタン：コマンドとボタンの説明については、「ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン」（449 ページ）を参照してください。</p> <p>ビジネス・モデルのアイコン：アイコンの説明については、「ビジネス・モデル・モジュールのアイコン」（455 ページ）を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューおよびサイドバー：[ツール] メニュー，[ヘルプ] メニュー，サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」（40 ページ）を参照してください。</p>
	<p>モデル図と図の概要の非表示と表示を切り替えます。</p>
<p><ビジネス・モデル・ツリー></p>	<p>ビジネス・プロセス・モデル，アクティビティ，パスの階層表現です。アクティビティとパスは，対応するモデルの子として表示されます。</p> <p>注：ツリー内でのビジネス・プロセス・モデルの位置は，必ずしもモデル間の接続を反映しません。モデル間の接続は，モデル・アナリシス・ビューに表示されます。詳細については、「モデル・アナリシス・ビュー」（443 ページ）を参照してください。</p>
<p><【ビジネス・プロセス・モデル図】表示枠></p>	<p>ウィンドウの右上にあり，現在選択されているビジネス・プロセス・モデルの図を表示します。ビジネス・モデル・ツリーで選択したアクティビティまたはパスが図で強調表示されます。</p> <p>ヒント：</p> <p>CTRL キーを押しながらマウス・ホイールを回すと，表示を拡大縮小できます。</p> <p>図でアクティビティを選択すると，その詳細がメイン・ウィンドウに表示されます。</p> <p>アクティビティをダブルクリックすると，その詳細が別ウィンドウに表示されます。</p>

UI 要素	説明
<p><ビジネス・プロセス・モデルの概要></p>	<p>ウィンドウの左下にあり、現在選択されているビジネス・プロセス・モデルの簡略化した図を表示します。概要で枠で囲まれたモデルの領域が、[図] 表示枠に拡大されています。</p> <p>ヒント:</p> <p>概要で領域を選択すると、その領域が [図] 表示枠に詳しく表示されます。</p> <p>フレームをドラッグまたはサイズ変更すると、[図] 表示枠に詳細表示されるモデルの部分が変わります。</p>
<p><グリッド・フィルタ></p> <p>責任者 alm_admin</p>	<p>各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示されており、カラムに対するフィルタ条件を定義できます。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして参照ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: モデル・グリッド・ビュー</p>
<p>[アクティビティ]</p>	<p>複数のビジネス・プロセス・モデルにわたるアクティビティのリストを表示します。</p> <p>ヒント: アクティビティをビジネス・プロセス・モデルによってグループ分けするには、[所有者モデルでグループ分け] を選択します。</p> <p>使用可能な場所: モデル・グリッド・ビュー</p>
<p>[添付]</p>	<p>現在選択されているビジネス・プロセス・モデル、アクティビティ、またはパスに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p>
<p>[コメント]</p>	<p>現在選択されているモデル・エンティティについてのコメント。</p> <p>テキスト・ボックスをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>
<p>[説明]</p>	<p>現在選択されているモデル・エンティティの説明。</p> <p>テキスト・ボックスをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。</p>
<p>[詳細]</p>	<p>現在選択されているモデル・エンティティの詳細。</p>

UI 要素	説明
【フィルタ】	グリッドまたはツリーに現在適用されているフィルタを記述します。グリッド・フィルタ・ボックスまたはツリーのすぐ上にあります。
【所有者モデルでグループ分け】	<p>[アクティビティ] または [パス] と組み合わせて選択した場合、アクティビティまたはパスを、それが定義されているモデルに基づいてグループ分けします。</p> <p>このオプションが選択されていない場合、アクティビティまたはパスは階層化されていないリストに表示されます。</p> <p>使用可能な場所：モデル・グリッド・ビュー</p>
【履歴】	現在選択されているビジネス・プロセス・モデルに対して行われた変更が一覧表示されます。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。
【インポートされた属性】	<p>ビジネス・プロセス・モデルまたはアクティビティに関連する、モデル・オーサリング・ツールで定義されたフィールド・ラベルと値が一覧表示されます。</p> <p>注：このタブは読み取り専用です。</p>
【リンク】	ビジネス・プロセス・モデル、アクティビティ、またはパスにリンクされたエンティティが一覧表示される [要件] タブと [テスト] タブがあります。詳細については、「[リンク] タブ」(468 ページ) を参照してください。
【モデル】	<p>ビジネス・プロセス・モデルの一覧を表示します。</p> <p>使用可能な場所：モデル・グリッド・ビュー</p>
【パス】	<p>複数のビジネス・プロセス・モデルにわたるパスのリストを表示します。</p> <p>ヒント：アクティビティをビジネス・プロセス・モデルによってグループ分けするには、「所有者モデルでグループ分け」を選択します。</p> <p>使用可能な場所：モデル・グリッド・ビュー</p>
【テキスト】	<p>アクティビティ・エンティティに表示されるテキスト。このフィールドは読み取り専用です。</p> <p>使用可能な場所：モデル・アクティビティ</p>

🔍 モデル・アナリシス・ビュー



このビューでは、ビジネス・プロセス・モデル、アクティビティ、パスの品質を分析できます。



アクセス方法	<p>1 ビジネス・モデル・モジュールで、[表示] > [モデル アナリシス] を選択します。</p> <p>2 次のいずれかを使用します。</p> <p>[モデル マップ] タブで、モデルを選択します。対応するモデル・エンティティが、ビジネス・モデル・ツリーで強調表示されます。</p> <p>ビジネス・モデル・ツリーで、モデル・エンティティを選択します。</p> <p>3 [品質アナリシス] タブをクリックします。</p>
重要な情報	<p>モデル・アナリシス・ビューには、次のタブが含まれます。</p> <p>[モデル マップ]: ALM にインポートされたビジネス・プロセス・モデルの間の関係を表示します。</p> <p>[品質アナリシス]: ビジネス・プロセス・モデル・エンティティの品質を分析します。</p>
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)
詳細	「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(430 ページ)

[モデル マップ] タブ


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	<p>ビジネス・プロセス・モデル。</p> <p>ヒント: モデルをダブルクリックすると、モデルの詳細が別ウィンドウに表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[モデル詳細/モデルアクティビティ詳細] ダイアログ・ボックス」(461 ページ) を参照してください。</p>
	<p>矢印の先のモデルが、矢印の元のモデルのサブプロセスであることを示します。</p>

UI 要素	説明
-----	双方向リンク、すなわち線の一端のモデルが他端のモデルの継続であることを示します。
<マップ領域>	ALM にインポートされたすべてのビジネス・プロセス・モデルと、モデル間の階層的接続を表示します。 分析するモデルをマップ領域で選択し、[品質アナリシス] タブをクリックします。 ヒント ：CTRL キーを押しながらマウス・ホイールを回すと、マップ画像を拡大縮小できます。

[品質アナリシス] タブのツールバー

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。



UI 要素	説明
 生成	アナリシス・グラフを更新して最新情報を表示します。
深度	[エンティティ] 表示枠に表示される階層レベルの数を、ルート・エンティティから数えて定義します。[エンティティ] 表示枠に表示されたエンティティは、アナリシス・グラフで分析されます。 [スタンドアローン エンティティ] ：ルート・エンティティだけを表示します。 [1 入れ子レベル] ：ルート・エンティティと、現在のエンティティから 1 レベル下までを表示します。 [全ての入れ子レベル] ：ルート・エンティティと、ルート・エンティティから発するすべてのレベルのすべてのエンティティを表示して分析します。


UI 要素	説明
要件の子を含む	[エンティティ] 表示枠内のモデル・エンティティにリンクされた要件のすべての子要件をアナリシスに含めるように ALM に指示します。
代表的な要件を含む	[エンティティ] 表示枠内のモデル・エンティティにリンクされた代表的な要件をアナリシスに含めるように ALM に指示します。 ヒント: このオプションは、代表的な要件がテストにリンクされている場合に使用します。

[品質アナリシス] タブの [エンティティ] 表示枠

この表示枠には、[グラフ] 表示枠で分析されるビジネス・プロセス・モデル・エンティティが表示されます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。


UI 要素	説明
	ビジネス・プロセス・モデル・エンティティ。
	パス・エンティティ。

UI 要素	説明
	アクティビティ・エンティティ。
<エンティティ表示枠>	<p>[グラフ] 表示枠で分析されるビジネス・プロセス・モデル、アクティビティ、パスと、その間の階層的接続を表示します。</p> <p>注：</p> <p>表示される階層レベルの数は、[深度] フィールドの値によって決まります。</p> <p>複数のモデルまたはパスに含まれるアクティビティは、[エンティティ] 表示枠に 1 回だけ表示されます。</p> <p>ヒント：</p> <p>[エンティティ] 表示枠に表示されるルート・エンティティを変更するには、[モデルマップ] タブでモデルを選択するか、ビジネス・モデル・ツリーでエンティティを選択します。</p> <p>CTRL キーを押しながらマウス・ホイールを回すと、表示を拡大縮小できます。</p> <p>エンティティをダブルクリックすると、エンティティの詳細が表示されます。</p>

【品質アナリシス】タブの【グラフ】表示枠

この表示枠には、[エンティティ] 表示枠に表示されているエンティティの品質を分析するグラフが表示されます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>[グラフを全画面で表示]：新しいウィンドウでグラフを開き、グラフの表示を最大化します。新しいウィンドウでは、グラフ・ビューをカスタマイズして、グラフ・データを保存できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[表示] タブ グラフ・ウィンドウ」(916 ページ) を参照してください。</p>
[最終生成日]	<p>グラフ・データが最後に更新された日時。データを更新するには [生成] をクリックします。</p>



UI 要素	説明
<グラフ領域>	<p>グラフ領域では次の動作を実行できます。</p> <p>グラフのセグメントをクリックしてグラフのデータにドリルダウンできます。作業の詳細については、「グラフ・データへのドリル・ダウン」(902 ページ) を参照してください。</p> <p>グラフの特定の領域を右クリックして色を変更できます。</p> <p>棒の上にマウスを置くと、その領域のカテゴリ、X 軸、Y 軸の値を示すツールヒントが表示されます。</p>
<グラフのタイトル>	<p>グラフのタイトルをクリックすると、グラフのタイトルと外観を変更できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[グラフの外観] ダイアログ・ボックス」(942 ページ) を参照してください。</p>
<凡例>	<p>グラフのカテゴリとそれに対応する色を表示します。</p> <p>ヒント: カテゴリを右クリックして色を変更できます。</p>
要件グラフ	<p>[エンティティ] 表示枠に表示されたモデル・エンティティにリンクされた要件のカバレッジ・ステータスを表示します。</p> <p>注: グラフに含まれる要件の範囲は、[要件の子を含む] オプションと [代表的な要件を含む] オプションによって決まります。</p>
テスト・グラフ	<p>[エンティティ] 表示枠に表示されたモデル・エンティティにリンクされた要件のカバレッジ・ステータスを表示します。</p> <p>注: テスト・グラフには、要件グラフに含まれる要件にリンクされたテストと、[エンティティ] 表示枠に表示されたエンティティに直接リンクされたテストが含まれます。</p>
不具合グラフ	<p>[エンティティ] 表示枠に表示されたモデル・エンティティにリンクされた不具合の重要度を表示します。</p> <p>注: 不具合グラフには、要件グラフ内の要件にリンクされた不具合と、テスト・グラフ内のテストにリンクされた不具合が含まれます。</p>




ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン

本項では、ビジネス・モデル・モジュールで使用できるメニューとボタンについて説明します。



アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下で、 [ビジネス モデル] を選択します。
重要な情報	<p>モデル・ビューによっては、一部のメニュー・コマンドやボタンが使用できない場合があります。</p> <p>バージョン管理：バージョン管理が有効なプロジェクトでは、追加のメニュー・コマンドとボタンが使用できます。詳細については、「[バージョン] メニューおよびボタン」(126 ページ)を参照してください。</p>
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)
詳細	「ビジネス・モデル・モジュールのアイコン」(455 ページ)





次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	メニュー	説明
[URL のコピー] / [貼り付け]	[編集]	モデル・エンティティまたはフォルダをコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。項目自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き、その項目に移動します。ログインしていない場合、最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
  [切り取り] / [貼り付け]	[編集]	<p>選択したビジネス・プロセス・モデルまたはフォルダを、ツリー内の別の位置に移動します。アクティビティとパスは、モデルとともに移動されます。</p> <p>ヒント：ビジネス・プロセス・モデルまたはフォルダをツリー内の別の場所までドラッグして移動することもできます。</p>

UI 要素	メニュー	説明
 【削除】	[編集]	<p>選択したモデル・エンティティまたはフォルダを削除します。ルート・フォルダは削除できません。</p> <p>注: フォルダを削除すると、そのフォルダに含まれているすべての項目が削除されます。</p>
【詳細】	[モデル]	<p>選択したモデル・エンティティの詳細ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[モデル詳細/モデルアクティビティ詳細] ダイアログ・ボックス」(461 ページ) を参照してください。</p>
【全て展開】 / 【折りたたみ】	[表示]	<p>選択したフォルダの下のすべてのノードを展開するか折りたたみます。</p>
 【フィルタ】	[表示]	<p>ビジネス・モデル・ツリーまたはグリッド内のモデルのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。現在適用されているすべてのフィルタと並べ替え順がツールバーの下に表示されます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
【検索】	[編集]	<p>[検索] ダイアログ・ボックスが開き、選択したフォルダの下のモデル・エンティティを検索できます。詳細については、「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ) を参照してください。</p>
【概要をウィンドウに合わせる】	右クリック・メニュー	<p>図の概要のズーム・レベルを調整して、モデル全体が [概要] 表示枠に表示されるようにします。</p>
【ウィンドウに合わせる】	右クリック・メニュー	<p>モデル図のズーム・レベルを調整して、モデル全体が [図] 表示枠に表示されるようにします。</p>
 【フォローアップフラグ】	[編集]	<p>[フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開き、選択したモデル・エンティティのフォローアップ・フラグを定義できます。詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	メニュー	説明
[モデルに移動]	[モデル]	[モデルに移動] ダイアログ・ボックスが開き、モデル ID でモデルを検索できます。移動できるモデルは現在のフィルタに含まれるものだけです。
[代表的な要件に移動]	[モデル]	要件モジュールで要件ツリーを開き、選択したモデル・エンティティの代表的な要件を強調表示します。
[要件ツリーの要件へ移動]	右クリック・メニュー	要件モジュールで要件ツリーを開き、選択した要件を強調表示します。 使用可能な場所 ：[リンク] タブ > [要件] タブ
[サブパネルに移動]	右クリック・メニュー	ビジネス・モデル・ツリー内で、選択したアクティビティで表されるサブモデルに移動します。
[テストセットのテストへ移動]	右クリック・メニュー	テスト・ラボ・モジュールで、テスト・セット内のテストのインスタンスを表示できます。 選択したテストにインスタンスが 1 つしかない場合、テスト・ラボ・モジュールが開き、インスタンスが強調表示されます。 選択したテストのインスタンスが複数ある場合、[テストセットを選択] ダイアログ・ボックスが開き、テスト・セットとインスタンスの選択を求められます。 使用可能な場所 ：[リンク] タブ > [テスト] タブ
[テストツリーのテストへ移動]	右クリック・メニュー	テスト計画モジュールでテスト計画ツリーを開き、選択したテストを強調表示します。 使用可能な場所 ：[リンク] タブ > [テスト] タブ

UI 要素	メニュー	説明
 【モデルのインポート】	[モデル]	[モデルのインポート] ダイアログ・ボックスが開き、ビジネス・プロセス・モデルをソース・ファイルからインポートまたは再インポートできます。詳細については、「[モデルのインポート] ダイアログ・ボックス」(459 ページ) を参照してください。
【インジケータ カラム】	[表示]	ビジネス・プロセス・モデル・ウィンドウの左側にインジケータを表示します。詳細については、「ビジネス・モデル・モジュールのアイコン」(455 ページ) を参照してください。
【モデル アナリシス】	[表示]	モデル・アナリシス・ビューが表示され、選択したビジネス・プロセス・モデルの品質を分析できます。詳細については、「モデル・アナリシス・ビュー」(443 ページ) を参照してください。
【モデル グリッド】	[表示]	モデル・グリッド・ビューが表示され、モデル、アクティビティ、またはパスが非階層型のビューとして表示されます。
【モデル ツリー】	[表示]	モデル・ツリー・ビューを表示します。このビューには、ビジネス・プロセス・モデルと要素がツリー形式で階層的に示され、選択したモデルの図が表示されます。
 【新規フォルダ】	[モデル]	[新規フォルダ] ダイアログ・ボックスが開き、ビジネス・モデル・ツリーの選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 構文の例外： フォルダ名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。

UI 要素	メニュー	説明
 【新規パス】	[モデル]	[新規モデルパス] ダイアログ・ボックスが開き、モデルのアクティビティの間の遷移のシーケンスを定義できます。詳細については、「[新規モデルパス/モデルパス詳細] ダイアログ・ボックス」(465 ページ) を参照してください。
 【全て更新】	[表示]	ビジネス・プロセス・モデル・ビューを更新し、最新情報を表示します。
【名前の変更】	[編集]	選択したビジネス・プロセス・モデル・フォルダの名前を変更できます。
 【カラムの選択】		[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、ビジネス・モデル・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。 使用可能な場所 : モデル・グリッド・ビュー
 【電子メールで送信】	[モデル]	[電子メールの送信] ダイアログ・ボックスが開き、リストから選択した宛先にビジネス・プロセス・モデルを電子メールで送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。
【完全パスを表示】	右クリック・メニュー	リンクされた要件またはテストのフル・パスを表示します。パスは、リンクされた要件の [名前] カラムと、リンクされたテストの [テスト名] カラムに表示されます。 使用可能な場所 : [リンク] タブ > [テスト] タブ および [要件] タブ







UI 要素	メニュー	説明
 【テキスト検索】	[編集]	<p>ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウの下部にテキスト検索の表示枠が開き、定義済みフィールド内のレコードを検索できます。詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：モデル・エンティティ</p>
【ズーム イン】	右クリック・メニュー	モデル図のズーム・レベルを上げます。
【概要のズーム イン】	右クリック・メニュー	図の概要のズーム・レベルを上げます。
【ズーム アウト】	右クリック・メニュー	モデル図のズーム・レベルを下げます。
【概要のズーム アウト】	右クリック・メニュー	図の概要のズーム・レベルを下げます。







ビジネス・モデル・モジュールのアイコン

本項では、ビジネス・モデル・モジュールで使用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下で、[ビジネス モデル] を選択します。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)
詳細	「ビジネス・モデル・モジュールのメニューとボタン」(449 ページ) 「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」(439 ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	<緑のアスタリスク> : 該当するタブは入力されています。
	警告 : クリックすると、モデル・エンティティのアラートが表示されます。 赤の警告 。新しい警告です。 グレーの警告 。警告は確認済みです。 詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。
	添付ファイル : クリックすると、指定したモデル・エンティティの添付ファイルが表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
	フォローアップ・フラグ : クリックすると、モデル・エンティティのフォローアップ・フラグが表示されます。 グレーのフラグ 。新しいフォローアップ・フラグです。 赤のフラグ 。フォローアップ日が到来しました。 詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。
	ビジネス・プロセス・モデル・フォルダ
	ビジネス・プロセス・モデル

UI 要素	説明
	再インポートされたビジネス・プロセス・モデル 使用可能な場所 ：[モデルのインポート] ダイアログ・ボックス
	ビジネス・プロセス・モデル・アクティビティ
	サブモデルに展開されるアクティビティ
	ビジネス・プロセス・モデル・パス
	未解決パス
	バージョン管理 ：モデル・エンティティはチェックアウトされています。 緑の鍵 。モデル・エンティティは現在のユーザによってチェックアウトされています。 赤の鍵 。モデル・エンティティはほかのユーザによってチェックアウトされています。

ビジネス・モデル・モジュールのフィールド

本項では、ビジネス・モデル・モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [要件] の下で、[ビジネス モデル] を選択します。
重要な情報	<p>ビジネス・モデル・モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>スクリプト・エディタを使用して、ビジネス・モデル・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>ユーザ名の値を含むビジネス・プロセス・モデル・カラムを選択する場合（ユーザ定義フィールドを含む）、各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、[ユーザリスト] ダイアログ・ボックスを参照してください。</p> <p>バージョン管理：バージョン管理が有効なプロジェクトでは、追加のフィールドが使用できます。詳細については、「バージョン管理フィールド」（127 ページ）を参照してください。</p> <p>ビジネス・プロセス・モデル・ビューによっては、一部のフィールドは使用できません。</p>
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」（433 ページ）
詳細	「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」（439 ページ）

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[アクティビティ ID/ フォルダ ID/ パス ID/ モデル ID]	エンティティに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。ID フィールドは変更できません。
[コメント]	モデルに関するコメント。

UI 要素	説明
【作成者】	【モデル】 / 【アクティビティ】: エンティティを最初にインポートしたユーザ。 【パス】: パスを作成したユーザ。
【作成日】	【モデル】 / 【アクティビティ】: エンティティが最初にインポートされた日時。 【パス】: パスが作成された日時。
【コメント】	エンティティに関するコメント。
【説明】	エンティティの説明。
【GUID】	モデルを識別する一意のコード。コードは再インポートの際にモデルを識別するために使用されます。
【インポート日時】	エンティティが最後にインポートされた日時。
【インポート実行元】	エンティティを最後にインポートしたユーザ。
【インポートされたファイル名】	モデルが最後にインポートされたときのソース・ファイル名。
【レーン】	モデル内のアクティビティの位置。
【モデル作者】	モデル・オーサリング・ツールでモデルを作成したユーザ。
【名前】	エンティティ名。
【表記法】	ソース・ファイルでモデルを実装するために用いられている表記法。可能な値は、【EPC】または【BPMN】です。
【表記法バージョン】	ソース・ファイルでモデルを実装するために用いられている表記法(EPCまたはBPMN)のバージョン。
【パスの説明】	パスに含まれるアクティビティが一覧表示されます。
【プール】	モデル内のアクティビティの位置。
【優先度】	エンティティの優先度。
【プロトタイプ】	可能な値は、【As-Is】または【To-Be】です。
【ステータス】	エンティティのステータス。
【ベンダー】	ビジネス・プロセス・モデルの作成に使用されたモデリング・ツール。

[モデルのインポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビジネス・プロセス・モデルをソース・ファイルからインポートできます。



アクセス方法	ビジネス・モデル・モジュールの モデル・ツリー ビューで、フォルダを右クリックし、 [モデルのインポート] を選択します。
重要な情報	インポートされたモデルおよびアクティビティの名前に ALM で使用できない文字（例、¥ ^ *）が含まれる場合は、下線文字に置換されます。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」（433 ページ）
詳細	「ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウ」（439 ページ）

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
分析	ソース・ファイルをスキャンしてビジネス・プロセス・モデルを探します。ファイル中のモデルがファイル内容領域に表示されます。
詳細(D) >>	代表的な要件を定義するためのオプションの表示/非表示を切り替えます。
インポート	[インポートするモデルの選択] 表示枠で選択したモデルをインポートします。 [モデルのインポート] ダイアログ・ボックスが開き、ファイルのインポートの進行状況とステータスが表示されます。
[インポートするモデルの選択]	ソース・ファイルに含まれるビジネス・プロセス・モデルを表示します。 ARIS 表記法のファイルを選択した場合、構造化モデルは階層的に表示されます。
[対象ファイル]	ビジネス・プロセス・モデルをインポートするソース・ファイル。 ヒント: 参照ボタンをクリックして、別のフォルダにあるファイルを選択できます。
[保存先]	インポートしたモデルを追加するビジネス・モデル・ツリーのフォルダ。 注: ルートの [モデル] フォルダの下にはモデルをインポートできません。 再インポートされたモデルは、元のフォルダに置かれます。 ヒント: ドロップダウン・ボタンをクリックして、ビジネス・モデル・ツリーのフォルダを選択します。

UI 要素	説明
[要件のインポート先]	<p>インポートしたビジネス・プロセス・モデルの代表的な要件を追加する要件ツリーのフォルダ。</p> <p>注：</p> <p>[要件] ルート・フォルダは選択できません。 再インポートされたモデルの代表的な要件は、元のフォルダに置かれます。</p> <p>ヒント：ドロップダウン・ボタンをクリックして、要件ツリーのフォルダを選択します。</p> <p>[詳細] 表示枠が展開されている場合に使用できます。</p>
[要件名の変更]	<p>再インポートしたモデルの代表的な要件の名前を変更するように ALM に指示します。要件の名前は、ビジネス・プロセス・モデルとそのアクティビティの新しい名前に基づいて変更されます。</p> <p>[詳細] 表示枠が展開されている場合に使用できます。</p>

[モデル詳細/モデル アクティビティ詳細] ダイアログ・ボックス

[モデル詳細] ダイアログ・ボックスでは、ビジネス・プロセス・モデルの詳細を表示して更新できます。

第 17 章・ビジネス・プロセス・モデル

[モデルアクティビティ詳細] ダイアログ・ボックスでは、ビジネス・プロセス・モデルのアクティビティの詳細を表示して更新できます。

モデル ID: 1003 * 名前: Cost Center Change

詳細

* GUID: 8c5099d1-9f0c-11de-2 * インポ... test

* 作成者: test インポート... ARISAMLExport.xml

インポート... 2010/10/01 11:46:40 プロトタイプ: [dropdown]

ベンダー: ARIS Business Archite モデル作者: rs11809

作成日: 2010/10/01 11:46:40 表記法: EPC





表記法ノ... [input] 優先度: [input]

説明 コメント

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

アクセス方法	ビジネス・モデル・モジュールで、ビジネス・プロセス・モデルまたはアクティビティを右クリックし、[詳細] を選択します。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)
詳細	「ビジネス・プロセス・モデルの概要」(430 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

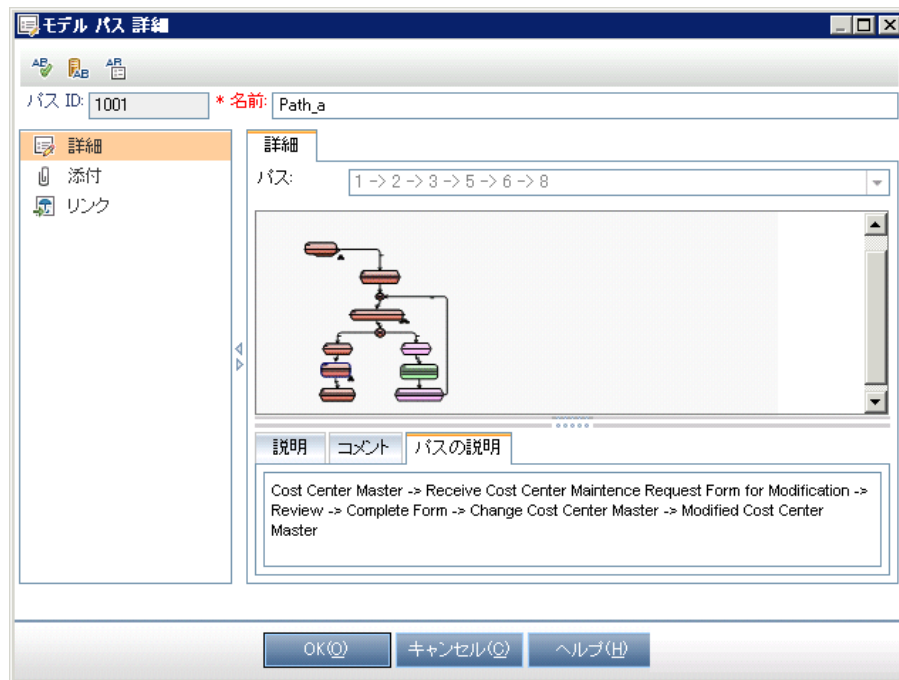
UI 要素	説明
	[スペル チェック] ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[電子メールで送信] ：[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開き、リストから選択した宛先にビジネス・プロセス・モデルを電子メールで送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」（83 ページ）を参照してください。 使用可能な場所 ：[ビジネス プロセス モデルの詳細] ダイアログ・ボックス
	[スペル オプション] ：ALM によるスペル・チェックの方法を設定できます。
	[類語辞典] ：選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語を表示します。
<ビジネス・モデル・モジュールのフィールド>	ビジネス・モデル・モジュールで使用可能なフィールドの詳細については、「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」（457 ページ）を参照してください。
[添付]	現在選択されているモデル・エンティティに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」（86 ページ）を参照してください。
[詳細]	選択したビジネス・エンティティに関連するフィールドが一覧表示されます。詳細については、「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」（457 ページ）を参照してください。
[履歴]	現在選択されているビジネス・プロセス・モデルに対して行われた変更が一覧表示されます。詳細については、「[履歴] タブ」（81 ページ）を参照してください。 使用可能な場所 ：[ビジネス プロセス モデル詳細] ダイアログ・ボックス
[インポートされた属性]	ビジネス・エンティティに関連する、モデリング・ツールで定義されたフィールド・ラベルと値が一覧表示されます。

UI 要素	説明
[リンク]	<p>ビジネス・エンティティにリンクされたエンティティが一覧表示される [要件] タブと [テスト] タブがあります。詳細については、「[リンク] タブ」(468 ページ) を参照してください。</p>
[モデル図]	<p>[ビジネス プロセス モデル詳細] ダイアログ・ボックス : 現在のビジネス・プロセス・モデルの図を表示します。</p> <p>[モデル アクティビティ詳細] ダイアログ・ボックス : 現在のアクティビティが組み込まれているビジネス・プロセス・モデルの図を表示します。現在のアクティビティはモデル図で強調表示されます。</p> <p>ヒント : 図の領域を右クリックして、ズーム・オプションを選択できます。</p>

[新規モデルパス/モデルパス詳細] ダイアログ・ボックス




[新規モデルパス] ダイアログ・ボックスでは、ビジネス・プロセス・モデル内のアクティビティの間の遷移のパスを定義できます。

[モデルパス詳細] ダイアログ・ボックスでは、ビジネス・プロセス・モデルのパスの詳細を表示して更新できます。



アクセス方法	<p>[新規モデルパス] ダイアログ・ボックス：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス・モデル・モジュールで、[モデル ツリー] ビューを選択します。 2 ビジネス・プロセス・モデルを右クリックし、[新規パス] を選択します。 <p>[モデルパス詳細] ダイアログ・ボックス：</p> <p>ビジネス・モデル・モジュールで、パスを右クリックし、[詳細] を選択します。</p>
重要な情報	<p>パスはビジネス・モデル・ツリー内にビジネス・プロセス・モデルのサブエンティティとして作成されます。</p> <p>同じアクティビティを繰り返す再帰的なパスはサポートされません。</p>
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)
詳細	「ビジネス・プロセス・モデルのパス」(432 ページ)

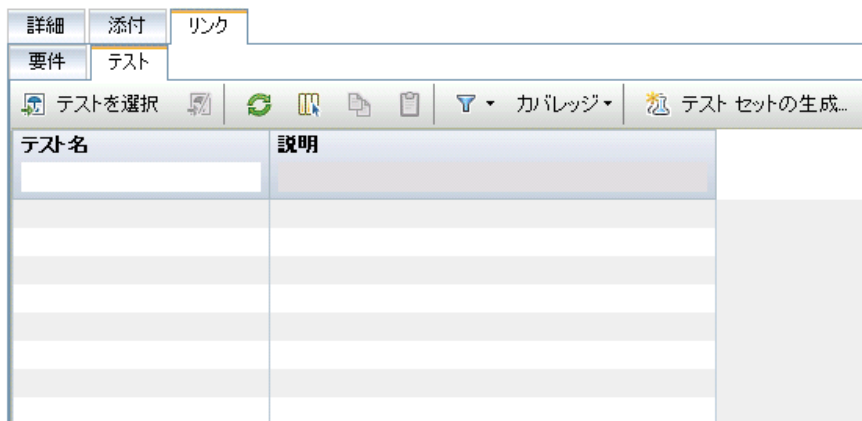
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	[スペルチェック] ：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[スペルオプション] ：ALM によるスペル・チェックの方法を設定できます。
	[類語辞典] ：選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語を表示します。
<ビジネス・モデル・モジュールのフィールド>	ビジネス・モデル・モジュールで使用可能なフィールドの詳細については、「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(457 ページ)を参照してください。
<モデル図>	ビジネス・プロセス・モデルの図。 [パス] ドロップダウン・リストでパスを選択すると、そのパス上のアクティビティとノードが強調表示されます。
[添付]	現在選択されているパスに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
【詳細】	<p>選択したパスに関連するフィールドが一覧表示されます。詳細については、「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(457 ページ)を参照してください。</p>
【リンク】	<p>パスにリンクされたエンティティが一覧表示される [要件] タブと [テスト] タブがあります。</p> <p>使用可能な場所: [モデルパス詳細] ダイアログ・ボックス</p>
【パス】	<p>[新規ビジネス モデル パス] ダイアログ・ボックス: ビジネス・プロセス・モデル内の可能なエンドツーエンド・パスのドロップダウン・リスト。テスト対象として重要なパスを選択します。</p> <p>[ビジネス モデル パスの詳細] ダイアログ・ボックス: 現在のエンドツーエンド・パスの表記法。パス内のアクティビティは番号で表現されます。</p> <p>注: パスが未解決の場合、ドロップダウン・リストから新しいパスを選択します。</p> <p>ヒント: [パスの説明] タブをクリックすると、パス内のアクティビティの完全な名前を含む、パスの詳細な説明が表示されます。</p>

[リンク] タブ

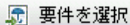




このタブでは、要件とテストをモデル・エンティティにリンクできます。



アクセス方法	ビジネス・プロセス・モデル・エンティティを選択して、[リンク] タブまたはボタンをクリックします。
重要な情報	要件リンクは、代表的な要件をテストに変換した場合には、自動的に作成されます。したがって要件リンクを追加しなくても、すでに存在していることがあります。
関連タスク	「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)







[要件] タブ


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>現在選択されているモデル・エンティティにリンクする要件を選択できます。次のものが表示されます。</p> <p>[要件ツリー] タブ [テスト計画ツリー] タブ</p> <p>詳細については、「[要件ツリー] および [テスト計画ツリー] 表示枠」(472 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[リンクから削除]: 選択した要件をリンク・グリッドから削除します。</p>
	<p>[全て更新]: リンク・グリッドを更新します。</p>
	<p>[カラムを選択]: [カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、リンク・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[コピー] / [貼り付け] リンクされた要件を別のモデル・エンティティにコピーします。コピーした要件を貼り付けるには、モデル・エンティティを選択し、[リンク] > [要件] タブをクリックし、[貼り付け] をクリックします。</p>
<p><リンク・グリッド></p>	<p>フィールドの定義については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。</p>

【テスト】 タブ

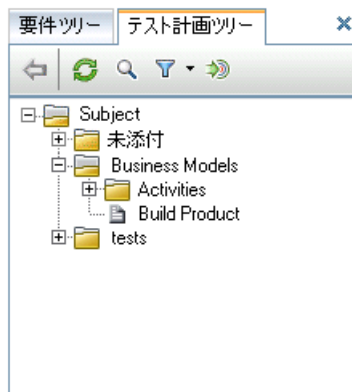
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 テストを選択	<p>現在選択されているモデル・エンティティにリンクするテストを選択できます。次のものが表示されます。</p> <p>[要件ツリー] タブ [テスト計画ツリー] タブ</p> <p>詳細については、「[要件ツリー] および [テスト計画ツリー] 表示枠」(472 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[リンクから削除]：選択したテストをリンク・グリッドから削除します。</p> <p>注：リンクされている要件を対象とするテストは削除できません。</p>
	<p>[全て更新] リンク・グリッドを更新します。</p>
	<p>[カラムの選択]：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、リンク・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。</p> <p>詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[コピー] / [貼り付け] リンクされたテストを別のモデル・エンティティにコピーします。コピーしたテストを貼り付けるには、モデル・エンティティを選択し、[リンク] > [テスト] タブをクリックし、[貼り付け] をクリックします。</p>
	<p>[フィルタ/ソートをセット]：次のオプションがあります。</p> <p>[フィルタ/ソートのセット]：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き、テストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。</p> <p>[フィルタ/ソートをクリア]：適用したフィルタまたは並べ替えを解除します。</p> <p>詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
カバレッジ	<p>グリッドに表示されるリンクされたテストのタイプを選択します。</p> <p>[直接カバレッジ]: モデル・エンティティまたは代表的な要件に直接リンクされたテストを表示します。このオプションは必ず選択されています。</p> <p>[リンクされた要件カバレッジ]: モデル・エンティティにリンクされた要件にリンクされたテストを表示します。</p> <p>[子要件カバレッジ]: モデル・エンティティにリンクされた要件の子要件にリンクされたテストを表示します。</p>
 テスト セットの生成...	<p>リンク・グリッド内のテストを含むテスト・セットを作成できます。</p> <p>[テストセット フォルダを選択] ダイアログ・ボックスで、テスト・セットを作成するテスト・セット・ツリーのフォルダを選択します。</p>
<リンク・グリッド>	<p>フィールドの定義については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) を参照してください。</p>







🔑 [要件ツリー] および [テスト計画ツリー] 表示枠

この表示枠では、要件とテストをビジネス・プロセス・モデル・エンティティにリンクできます。




アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ビジネス・プロセス・モデル、アクティビティ、またはパスを選択して、[リンク] タブまたはボタンをクリックします。 2 [要件] または [テスト] タブをクリックします。 3 [要件を選択] または [テストを選択] ボタンをクリックします。
重要な情報	<p>ビジネス・モデル・モジュール・ウィンドウでは、要件およびテストをモデル図内の任意のエンティティにドラッグ・アンド・ドロップすることにより、リンクを作成できます。</p>
関連タスク	<p>「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[リンクに追加]：選択した要件，テスト，またはフォルダをリンク・グリッドに追加します。</p> <p>ヒント：別の方法として，要件およびテストをモデル図内のエンティティまで直接ドラッグして，任意のモデル・エンティティへのリンクを作成することもできます。</p>
	<p>[更新]：ツリーを更新して最新情報を表示します。</p>
	<p>[検索]：ツリーで特定の要件またはテストを検索します。</p> <p>[検索] ボックスに要件またはテストの名前（またはその一部）を入力して，[検索] をクリックします。検索が成功すると，要件またはテストがツリーで強調表示されます。</p>
	<p>[フィルタ/ソート]：次のオプションがあります。</p> <p>[フィルタ/ソートの設定]：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開き，テストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。</p> <p>[フィルタ/ソートのクリア]：適用したフィルタまたは並べ替えを解除します。</p> <p>詳細については，「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[ID で要件に移動]：[要件へ移動] ダイアログ・ボックスが開き，要件 ID で要件を検索できます。</p> <p>[ID でテストへ移動]：[テストに移動] ダイアログ・ボックスが開き，テスト ID でテストを検索できます。</p> <p>注：現在のフィルタ内の要件およびテストにのみ移動できます。</p>
	<p>[要件ツリー] および [テスト計画ツリー] 表示枠を非表示にします。</p>

[代表的な項目] タブ


このタブには、選択した要件で表されるビジネス・プロセス・モデル・エンティティが一覧表示されます。




名前	作成者	作成日
Create Cost C...	test	2010/10/01 11:...

アクセス方法	[要件] モジュールで、ビジネスモデル要件を選択し、[代表的な項目] タブをクリックします。
関連タスク	「要件の作成方法」(321 ページ) 「ビジネス・プロセス・モデルに関する作業方法」(433 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[更新]：グリッドを更新して最新情報を表示します。

UI 要素	説明
	<p>[カラムの選択]: [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、要件ツリーまたは要件グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
<ビジネス・モデル・エンティティ・グリッド>	<p>グリッド内のリンクをクリックすると、ビジネス・モデル・ツリーで、表されるビジネス・プロセス・モデルに移動します。</p> <p>フィールドの定義については、「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」(457 ページ) を参照してください。</p>

第 IV 部

テスト計画

第 18 章

テスト計画の紹介

本章の内容

概念

「テスト計画の概要」(480 ページ)

タスク

「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ)

概念

テスト計画の概要

明確で簡潔なテスト計画の作成は、アプリケーションのテストを成功させるために不可欠です。適切なテスト計画があれば、アプリケーション管理プロセスのどの時点でもアプリケーションの品質を評価できます。

要件モジュールで定義した要件を達成するための戦略の枠組みを設定します。そのためには、次の 2 つの基本的な問題について検討してみてください。

アプリケーションをどのようにテストすればよいか

使用するテスト手法（ストレス・テスト、セキュリティ・テスト、パフォーマンスおよび負荷テストなど）

不具合の処理方法（重要度の分類、不具合の開始または終了の承認など）

どのようなリソースが必要か

テストを行うために必要なリソース（人員、ハードウェアなど）

さまざまな作業の完了時期

たとえば、フライトのスケジューリング、搭乗予約、および航空券販売を管理する航空券予約アプリケーション（デモ・アプリケーションは英語）の場合を考えてみます。テストにあたっては、手動テストと自動テストの両方を設計することが必要となります。自動テストの設計作業にはプログラミング経験のあるテスト担当者を、手動テストの設計にはプログラマ以外の担当者を割り当てることができます。

タスク

ALMでテストを計画する方法

このタスクでは、HP Application Lifecycle Management (ALM) におけるテストの使用方法について説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(482 ページ)
- 「テスト計画ツリーの作成」(482 ページ)
- 「テスト・リソースで依存関係を作成 (オプション)」(482 ページ)
- 「テスト・パラメータの定義」(483 ページ)
- 「テスト設定の定義」(483 ページ)
- 「テストのステップの作成」(483 ページ)
- 「自動テスト」(483 ページ)
- 「要件カバレッジの作成」(484 ページ)
- 「不具合にテストをリンクする」(484 ページ)
- 「テスト計画データの分析」(484 ページ)
- 「ベースラインの確立」(485 ページ)

1 前提条件

一連の要件は、要件ツリーで定義されます。

タスクの詳細については、「ALM の要件の使用方法」(315 ページ)を参照してください。

ヒント: 要件モジュールの要件を直接ベースにしてテストを自動作成できます。詳細については、「要件の作成方法」の「要件のテストへの変換 (オプション)」(323 ページ)を参照してください。

2 テスト計画ツリーの作成

テスト・サブジェクト・フォルダおよびテストのテスト計画ツリーを作成します。タスクの詳細については、「テストを作成する方法」(489 ページ)を参照してください。

3 テスト・リソースで依存関係を作成 (オプション)

ALM リポジトリにアップロードした一連のリソースにテストを関連付けることができます。

その後、これらの依存関係を表示し、使用中のリソースを特定できます。タスクの詳細については、「テスト・リソースの使用法」(628 ページ)を参照してください。

Business Process Testing: コンポーネント・ステップを、アップロードしたアプリケーション領域リソースと関連付けることができます。

4 テスト・パラメータの定義

テストの柔軟性をより高めるために、パラメータをテスト・ステップに含めることができます。これにより、同じテストを繰り返し実行したり、パラメータに異なる値を割り当てたりできます。タスクの詳細については、「テスト・パラメータの使用法」(561 ページ) を参照してください。

5 テスト設定の定義

さまざまなユースケースでテストを実行するために、テスト設定を定義できます。これにより、同じテストをさまざまなシナリオで実行できます。タスクの詳細については、「テスト設定の使用法」(597 ページ) を参照してください。

6 テストのステップの作成

実行する操作と期待結果を記述するテスト・ステップを作成します。テスト・ステップを定義したら、テストを手作業で実行するか、自動化するかを決定します。タスクの詳細については、「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ) を参照してください。

7 自動テスト

テスト・ステップを設計したら、どのテストを自動化するかを決定します。テストの自動化の決定に影響する要因には、実行頻度、データの入力量、実行時間の長さ、および複雑さがあります。タスクの詳細については、「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ) を参照してください。

システム・テスト: 自動システム・テストを作成して、マシンのシステム情報の取得、デスクトップの画像のキャプチャ、マシンの再起動といった処理を行うこともできます。タスクの詳細については、「システム・テストの作成方法」(621 ページ) を参照してください。

8 要件カバレッジの作成

テスト計画ツリーの各テストを要件ツリーの要件にリンクします。テストの要件カバレッジを定義することによって、テスト計画のテストと元の要件の関係を追跡します。タスクの詳細については、「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)を参照してください。

9 不具合にテストをリンクする

テストを特定の不具合にリンクするこれは既知の不具合を対象にした新しいテストを作成した場合などに便利です。リンクを作成することで、不具合のステータスに基づいて、テストを実行するかどうかを判断できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ)を参照してください。

10 テスト計画データの分析

レポートおよびグラフを作成してテスト計画を分析します。

次のいずれかを使用します。

テスト・サブジェクトの動的グラフを表示する : テスト計画ツリーでテスト・サブジェクトを選択し、[ライブ アナリシス] タブをクリックします。ライブ・アナリシス・グラフの生成のタスク詳細については、「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ)を参照してください。

テスト計画データをグラフで表示する : テスト計画モジュールのメニューで、[アナリシス] > [グラフ] を選択します。グラフの生成のタスク詳細については、「グラフを生成する方法」(900 ページ)を参照してください。

テスト計画データのレポートを作成する : テスト計画モジュールのメニューで、[アナリシス] > [レポート] を選択します。レポートの生成のタスク詳細については、「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ)を参照してください。

ALM のその他のアナリシス・ツールについては、「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)を参照してください。

11 ベースラインの確立

テスト計画がレビューされ、承認されたら、ベースラインを作成できます。ベースラインでは、特定の時点のテスト計画のスナップショットを参照できます。ベースラインを使用して、アプリケーションのライフサイクル内で任意の重要なポイントをマークできます。さらにベースラインは、変更を比較できる参照ポイントとして機能します。タスクの詳細については、「ALM でのライブラリおよびベースラインの使用方法」(246 ページ) を参照してください。

第 19 章

テスト計画の仕様

本章の内容

概念

「テスト計画の仕様の概要」(488 ページ)

タスク

「テストを作成する方法」(489 ページ)

リファレンス

「テストのタイプ」(493 ページ)

「テスト計画のユーザ・インタフェース」(494 ページ)

概念

テスト計画の仕様の概要

通常のアプリケーションは、全体を一度にテストするには大きすぎます。テスト計画モジュールでは、アプリケーションを機能ごとに分割できます。テスト計画ツリーを作成して、アプリケーションを特定の単位、つまり「**サブジェクト**」に分割します。テスト計画ツリーは、テスト計画を視覚的に表したもので、アプリケーションの機能の階層関係に従ってテストが表示されます。

ツリーのサブジェクトを定義したら、各サブジェクトに対して作成するテストを決定し、ツリーに追加します。この段階では、テスト名、ステータス、および設計者などのテストの基本的な情報を定義します。また、テストにファイル、URL、アプリケーションのスナップショット、またはシステム情報を添付できます。その後で「**テスト・ステップ**」を定義します。**テスト・ステップ**には、テストの実行方法および結果の評価方法に関する詳細な手順が指定されています。

アプリケーション管理プロセスの過程で、テスト計画の変更が必要になることがあります。テスト計画ツリーは、いつでも更新できます。

テスト計画をサブジェクトごとに編成する方法はいくつかあります。たとえば、次の分類に従ってサブジェクトを定義できます。

アプリケーションの機能：編集、ファイル操作、レポート機能など

テストのタイプ：機能、ユーザ・インタフェース、パフォーマンス、負荷など

注：テスト計画ツリーを開発および編集するには、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

テストの指定の詳細については、「テストを作成する方法」(489 ページ) を参照してください。

タスク

テストを作成する方法

このタスクでは、テスト計画ツリーにテスト・サブジェクトのフォルダを作成する方法と、テスト・サブジェクトにタスクを追加する方法を説明します。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ) を参照してください。

テスト仕様の詳細については、「テスト計画の仕様の概要」(488 ページ) を参照してください。


このタスクは次の手順で構成されています。

- 「テスト・サブジェクトの作成」(489 ページ)
- 「テスト計画ツリーにテストを作成する」(490 ページ)
- 「手動テンプレート・テストの作成」(491 ページ)
- 「テストへのステップの追加」(492 ページ)

1 テスト・サブジェクトの作成

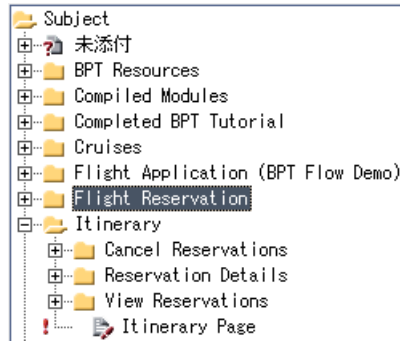
テスト計画ツリーにフォルダを作成します。各フォルダが **テスト・サブジェクト** アプリケーションのテスト領域を表しています。

テスト・サブジェクトを作成するには、以下の手順を実行します。

- a ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト計画] を選択します。
- b [表示] > [テスト計画ツリー] を選択します。
- c [Subject] のルート・フォルダまたは既存のテスト・サブジェクトを選択して、[新規フォルダ]  をクリックします。

例：

フライトのスケジューリング、搭乗予約、航空券販売を管理する航空券予約アプリケーションをテストするには、テスト計画ツリーで次のサブジェクトを定義することが考えられます。



[**Itinerary**] というサブジェクトには、追加のサブジェクト・フォルダが含まれています。これらのフォルダでサブジェクトのレベルをいくつか追加して作成することによって、テスト計画ツリーのテストをさらに細かく分類できます。詳細な例については、**ALM_Demo** プロジェクトを参照してください。

2 テスト計画ツリーにテストを作成する

テスト・サブジェクト・フォルダの下にテストを作成します。

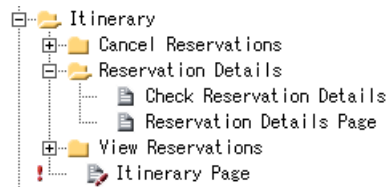
テストを作成するには、次の手順で行います。

- a テスト計画ツリーでフォルダを右クリックし、**[新規テスト]** を選択します。
- b **[新規テスト]** ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[新規テスト]** ダイアログ・ボックス」(518 ページ) を参照してください。

それぞれのテストには、特定の機能やシステム要件の確認などの明確な目的が必要です。テストは、アプリケーション管理プロセスで最初に設定した目標に基づいて定義する必要があります。

例：

以前のステップで示したテスト計画ツリーでは、テストを次のように [Reservation Details] というサブジェクト・フォルダに割り当てることができます。



3 テストのインポート（オプション）

ALM テスト計画モジュールでテスト計画ツリーを作成することに加え、テスト計画のデータを Microsoft Word または Microsoft Excel から ALM プロジェクトにインポートすることもできます。Word からインポートするには、**HP ALM Microsoft Word Add-in** および **HP Quality Center Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。Excel からインポートするには、**HP ALM Microsoft Excel Add-in** および **HP Quality Center Connectivity Add-in** がインストールされている必要があります。アドインは、HP Application Lifecycle Management Add-in ページからインストールできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

4 手動テンプレート・テストの作成

たとえば、アプリケーションにログインするなどの、複数のテストで繰り返し実行される共通の指示がある場合、他の手動テストから呼び出すことができる、共通の指示の手動テンプレート・テストを作成できます。

注：テストを呼び出せるようにするために、テストにテンプレート・テストの印を付ける必要はありません

手動テンプレート・テストを作成するには、次の手順で行います。

- a ステップ 2 「テスト計画ツリーにテストを作成する」で説明したように、手動テストを作成します
- b テスト計画ツリーのテストの新規作成を右クリックし、[**テンプレート テストとしてマーク**] を選択します。テスト・アイコンがグレーから白に変わり、テンプレート・テストになったことを示します。

5 QuickTest テンプレート・テストの作成（オプション）

テンプレート・テストでは、ALM によって新しい QuickTest テストに関連付けられる QuickTest アドインを定義します。詳細については、QuickTest ドキュメント、および関連する QuickTest アドインのドキュメントを参照してください。

ALM クライアントに含まれる標準設定の QuickTest テンプレート・テストに加え、他の QuickTest テンプレート・テストを作成できます。

QuickTest テンプレート・テストを作成するには、次の手順で行います。

- a ステップ 2 「テスト計画ツリーにテストを作成する」で説明したように、QuickTest Professional テストを作成します。
- b テスト計画ツリーのテストの新規作成を右クリックし、[**テンプレートテストとしてマーク**] を選択します。テスト・アイコンがグレーから白に変わり、テンプレート・テストになったことを示します。

6 テストへのステップの追加

テストにステップを追加して、テスト担当者がテストを完了するために実行する操作を記述します。








タスクの詳細については、「テスト・ステップの設計方法」（577 ページ）を参照してください。

リファレンス

テストのタイプ

テスト計画モジュールでは、次のテストのタイプを使用できます。

ALM Editions : エディションによっては、利用できないテストのタイプもあります。

テスト・アイコン	テストのタイプ	説明
	BUSINESS-PROCESS	ビジネス・プロセス・テスト。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	FLOW	特定のタスクを実行する固定シーケンスのビジネス・コンポーネントのコレクションで構成されるテスト。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
	LR-SCENARIO	HP の負荷テスト・ツールである LoadRunner で実行されるシナリオ。
	MANUAL	手作業で実行されるテスト。
	PERFORMANCE-TEST	パフォーマンス・テスト。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。
	QAINPECT_TEST	HP のセキュリティ・テスト・ツールである QAIInspect で実行されるテスト。
	QUICKTEST-TEST	HP のエンタープライズ機能テスト・ツールである QuickTest Professional で実行されるテスト。 このテスト・タイプは、[HP Application Lifecycle Management Add-in] ページから該当するアドインがインストールされている場合にのみ使用できます。アドインのインストールの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

テスト・アイコン	テストのタイプ	説明
	SERVICE-TEST	Web および REST サービスなどの、GUI を持たないアプリケーションのためにテストを作成する HP のツールである、サービス・テストによって実行されるテスト。詳細については、『HP Service Test User Guide』を参照してください。
	SYSTEM-TEST	ALM に、システム情報の取得、デスクトップの画像のキャプチャ、またはマシンの再起動を行うよう指定するテスト。
	VAPI-XP-TEST	ALM のオープン・テスト・アーキテクチャ API テスト・ツールである Visual API-XP を使用して作成したテスト。VAPI-XP テストの詳細については、「VAPI-XP テスト」(651 ページ) を参照してください。

テスト計画のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「テスト計画モジュール・ウィンドウ」(495 ページ)
- 「テスト計画モジュールのメニューとボタン」(499 ページ)
- 「テスト計画モジュールのアイコン」(510 ページ)
- 「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)
- 「[テスト詳細] ダイアログ・ボックス」(515 ページ)
- 「[新規テスト] ダイアログ・ボックス」(518 ページ)
- 「[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート] ダイアログ・ボックス」(521 ページ)
- 「[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け] ダイアログ・ボックス」(523 ページ)

🔑 テスト計画モジュール・ウィンドウ

テスト計画ウィンドウでは、ALM テストの定義および保守ができます。

The screenshot displays the Test Plan Module Window with the following details:

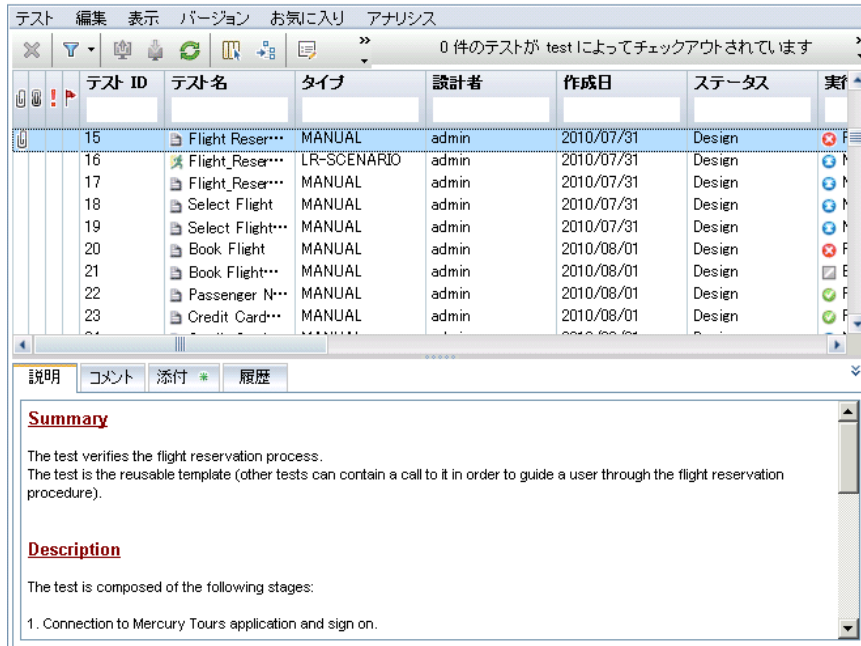
- Toolbar:** テスト, 編集, 表示, バージョン, お気に入り, アナリシス
- Status Bar:** 0 件のテストが test によってチェックアウトされています
- Navigation:** 名前, 詳細, デザイン ステップ, パラメータ, テスト設定, 添付, 要件カバレッジ
- Tree View (名前):**
 - Subject
 - 未添付
 - BPT Resources
 - Compiled Mod...
 - Completed B...
 - Cruises
 - Flight Applica...
 - Flight Reserv...
 - Book Flight
 - Book...
 - Book...
 - Passer...
 - Credit...
 - Credit...
 - Credit...
 - Billing...
 - Adre...
 - Book...
 - Flight Con...
 - Flight...
 - Point...

- Test Details (詳細):**
- *タイプ: MANUAL
- *テスト名: Book Flight
- ステータス: Design
- テスト ID: 20
- バージョン: 1
- 作成日: 2010/08/01
- 設計者: admin
- 説明 (Summary):**

The test completes the Book Flight page.
The test is the reusable template (other tests can contain a call to it in order to guide a user through the Book Flight page completion procedure).
- 説明 (Description):**

The test is composed of the following stages:

1. Book Flight page form completion.
2. Secure Purchase execution.



<p>アクセスするには</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト計画] を選択します。 2 [表示] メニューで、[テスト グリッド] または [テスト計画ツリー] を選択します。
<p>重要な情報</p>	<p>テスト計画ウィンドウには、次のビューがあります。</p> <p>テスト計画ツリー。 テスト・サブジェクトとテスト階層をツリーに表示します。</p> <p>テスト・グリッド。 テストをフラットで階層化されていないビューで表示します。グリッドの各行には、テストが個別に表示されます。</p> <p>Quality Center Starter Edition : このテスト計画モジュールでは利用できないフィールドまたは機能もあります。</p> <p>Business Process Testing : ビジネス・プロセス・テストで作業をしている場合、このモジュールに表示されるタブは異なります。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ)</p> <p>「テストを作成する方法」(489 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<p><テスト計画モジュールの共通の UI 要素></p>	<p>テスト計画フィールド。フィールドの定義については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)を参照してください。</p> <p>テスト計画のメニューとボタン。コマンドとボタンの説明については、「テスト計画モジュールのメニューとボタン」(499 ページ)を参照してください。</p> <p>テスト計画のアイコン。アイコンの説明については、「テスト計画モジュールのアイコン」(510 ページ)を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューとサイドバー。[ツール] メニュー, [ヘルプ] メニュー, サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」(40 ページ)を参照してください。</p>
<p><テスト計画ツリー></p>	<p>ウィンドウの左側に表示され、テストを階層構造に編成して表示します。</p> <p>注:フォルダ内の項目はアルファベット順に並べ替えられます。フォルダ内の項目は移動できません。</p>
<p><グリッド・フィルタ></p> <p>責任者 alm_admin</p>	<p>各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され、カラムのフィルタ条件を定義できます。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: テスト・グリッド・ビュー</p>
<p>[添付] タブ</p>	<p>現在選択されているテストに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。</p>
<p>[ビジネス モデルのリンク] タブ</p>	<p>現在選択されているテストにリンクされているビジネス・モデル・エンティティの一覧です。詳細については、「[ビジネス モデル リンク] タブ」(545 ページ)を参照してください。</p>
<p>[条件] タブ</p>	<p>選択したビジネス・プロセス・テストの条件を表示します。詳細については、「[条件] タブ」(593 ページ)を参照してください。</p> <p>Business Process Testing : テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

UI 要素	説明
【依存関係】 タブ	テスト・リソースやテストなどのエンティティ間に存在する依存関係が表示されます。詳細については、「[依存関係] タブ」(645 ページ) を参照してください。
【デザインステップ】 タブ	選択したテストの実行方法の説明の一覧です。詳細については、「[デザインステップ] タブ/[デザインステップ詳細] ダイアログ・ボックス」(582 ページ) を参照してください。
【詳細】 タブ	[テスト] フィールドの一覧です。[テスト] フィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) を参照してください。 ヒント: このタブの【説明】または【コメント】フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
【フィルタ】	現在グリッドまたはツリーに適用されているフィルタについて説明します。グリッド・フィルタ・ボックスまたはツリーのすぐ上にあります。
【履歴】 タブ	現在選択されているテストに行われた変更の一覧です。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。
【リンクされている不具合】 タブ	現在選択されているテストにリンクされている不具合の一覧です。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。
【ライブアナリシス】 タブ	選択したテスト・サブジェクト・フォルダに関連するテスト・データを視覚的に表現したものを表示します。詳細については、「[ライブアナリシス] タブ」(1026 ページ) を参照してください。 使用可能な場所: テスト計画ツリー・ビュー
【パラメータ】 タブ	現在選択されているテストに関連付けられたパラメータの一覧です。パラメータはテストのデザイン・ステップに組み込むことができます。詳細については、「[パラメータ] タブ/[パラメータ] ダイアログ・ボックス」(565 ページ) を参照してください。
【要件カバレッジ】 タブ	現在選択されているテストによって満たされている要件の一覧です。詳細については、「[要件カバレッジ] タブ」(538 ページ) を参照してください。
【テスト設定】 タブ	選択したテストのテスト構成を表示します。詳細については、「[テスト設定] タブ」(604 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
[テストの設計] タブ	Performance Center : 選択したパフォーマンス・テストの詳細なサマリを表示します。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。
[テストスクリプト] タブ	自動テストでは、現在選択しているテスト用にテスト・ツールによって実行されているテスト・スクリプトです。詳細については、「[テストスクリプト] タブ」(588 ページ) を参照してください。


テスト計画モジュールのメニューとボタン


本項では、テスト計画モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト計画] を選択します。
重要な情報	<p>一部のメニュー・コマンドおよびボタンは、すべてのテスト計画ビューで利用できるわけではありません。</p> <p>バージョン管理 : 追加のメニュー・コマンドおよびボタンは、バージョン管理が有効なプロジェクトで使用できます。詳細については、「[バージョン] メニューおよびボタン」(126 ページ) を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition : すべてのコマンドおよびボタンが利用できるわけではありません。</p>
関連タスク	「テストを作成する方法」(489 ページ)
参照項目	<p>「テスト計画モジュール・ウィンドウ」(495 ページ)</p> <p>「テスト計画モジュールのアイコン」(510 ページ)</p>


第 19 章・テスト計画の仕様



次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。



UI 要素	メニュー	説明
<最近使用したお気に入りビューの一覧>	[お気に入り]	テスト計画モジュールで、最近使用したお気に入りビューから4つを表示します。 「サイト管理」の [サイト設定] タブで FAVORITES_DEPTH パラメータを設定することによって、メニューに表示するビューの数を定義できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
[お気に入りに追加]	[お気に入り]	[追加お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、お気に入りのビューを非公開または公開のフォルダに追加できます。詳細については、「[追加お気に入り] ダイアログ・ボックス」(113 ページ) を参照してください。
[警告]	[編集]	[警告] ダイアログ・ボックスが開きます。テストの警告を表示できます。詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。
 [添付]	<ツールバー>	[添付] ページが開きます。添付ファイルを選択したテストに追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
[警告をクリア]	[編集]	表示されたモジュールの警告をクリアします。詳細については、「警告の使用法」(99 ページ) を参照してください。
[フォローアップ フラグをクリア]	[編集]	選択したテストのフォローアップ・フラグをクリアします。詳細については、「フォローアップ・フラグの概要」(98 ページ) を参照してください。 使用可能な場所 ：テスト・グリッド
[折りたたみ]	[表示]	テスト計画ツリーのすべての分岐を折りたたみます。


UI 要素	メニュー	説明
 【コンポーネントに変換】	[テスト]	<p>テストまたはフローからコンポーネントを作成します。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
【URL をコピー】 / 【貼り付け】	[編集]	<p>選択したテストをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。テスト自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、テストが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。</p>
【コピー】 / 【貼り付け】	[編集]	<p>同じプロジェクト内、またはプロジェクト間で、選択したテストをコピーできます。テスト・サブジェクトをコピーすると、テスト・サブジェクトのすべてのサブフォルダとテストもコピーされます。</p> <p>注：</p> <p>1 つのプロジェクトから別のプロジェクトにテストをコピーする場合で、テストに他のテストの呼び出しが含まれている場合、またはテストがテスト・リソースに依存している場合は、ALM に対してそれらを 3 つの方法のうち 1 つを使用してコピーするよう指示できます。詳細については、「[ターゲットプロジェクトにテストフォルダを貼り付け]ダイアログ・ボックス」(523 ページ)を参照してください。</p> <p>プロジェクト間でテストをコピーするには、使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。</p>




UI 要素	メニュー	説明
[切り取り] / [貼り付け]	[編集]	<p>選択したテストを、テスト計画ツリーの別の場所に移動します。</p> <p>注：テスト・サブジェクトを移動すると、テスト・サブジェクトのすべてのサブフォルダとテストも一緒に移動されます。ルート・フォルダは移動できません。</p> <p>ヒント：テストまたはテスト・サブジェクトは、ドラッグすることでもテスト計画ツリー内の新しい場所に移動できます。</p>




UI 要素	メニュー	説明
 [削除]	[編集]	<p>テスト計画ツリーの選択したテストまたはフォルダを削除します。</p> <p>フォルダを削除する場合、次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>フォルダのみ削除する。フォルダを削除し、関連するすべてのテストを未添付フォルダに移動する。</p> <p>フォルダとテストを削除する。フォルダ、テスト、テスト・スクリプトを削除します。</p> <p>バージョン管理。テストを削除すると、以前のバージョンのテストがすべて削除されます。</p> <p>テストを削除する場合、テストに対して依存関係が定義されていると、[テストの削除] ダイアログ・ボックスが開きます。[使用者] エンティティを表示するには、[詳細] をクリックします。</p> <p>注意：</p> <p>フォルダとテストを削除すると、選択したフォルダのすべてのサブフォルダおよびテストが完全に削除されます。</p> <p>テストを削除すると、テストとテスト・スクリプトが恒久的に削除されます。</p> <p>テストに対して依存関係が定義されている場合、テストを削除すると依存するエンティティに影響を与える可能性があります。削除する前に依存関係を表示するには、[依存関係] タブをクリックします。関連エンティティの詳細については、「[依存関係] タブ」(645 ページ) を参照してください。</p>
[詳細ページ]	<右クリック・メニュー>	<p>[詳細] タブが開きます。</p> <p>使用可能な場所：テスト・グリッド</p>





UI 要素	メニュー	説明
 [テストの編集]	[テスト]	Performance Center : パフォーマンス・テスト設計者が開きます。パフォーマンス・テストを設計できます。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。
[すべて展開]	[表示]	テスト計画ツリーのすべての分岐を展開します。
[エクスポート]	<右クリック・メニュー>	<p>[グリッドデータのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドのテストをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、または HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[全てエクスポート] : グリッドのすべてのテストをエクスポートします。</p> <p>[選択項目のエクスポート] : グリッドの選択したテストをエクスポートします。</p> <p>使用可能な場所 : テスト・グリッド</p>
 [フィルタ/ソートを設定]	[表示]	テスト・ツリーまたはグリッドのテストのフィルタ処理と並べ替えが実行できます。現在適用されているフィルタまたは並べ替え順がツールバーの下に表示されます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。
[検索]	[編集]	<p>[検索] ダイアログ・ボックスが開き、テスト計画モジュールでテストを検索できます。詳細については、「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ)を参照してください。</p>
[次を検索]	[編集]	以前に定義した検索条件に一致する、テスト・グリッド内の次の項目を検索します。

UI 要素	メニュー	説明
 【フォローアップフラグ】	[編集]	<p>[フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したテストのフォローアップ・フラグの定義を行えます。詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。</p>
[テストに移動]	[テスト]	<p>[テストへ移動] ダイアログ・ボックスが開き、[テスト ID] で特定のテストを検索できます。現在のフィルタに含まれるテストにのみ移動できます。</p>
 【テスト計画ツリーでテストへ移動】	<ツールバー>	<p>テスト計画ツリー・ビューに移動して、選択したテストを強調表示します。</p> <p>使用可能な場所: テスト・グリッド</p>
【テストセットのテストへ移動】	[テスト]	<p>テスト・ラボ・モジュールで、テスト・セット内のテストのインスタンスを表示できます。</p> <p>選択したテストにインスタンスが 1 つしかない場合、テスト・ラボ・モジュールが開き、インスタンスが強調表示されます。</p> <p>選択したテストに複数のインスタンスがある場合、[テストセットの選択] ダイアログ・ボックスが開き、テスト・セットおよびインスタンスを選択できます。</p>
[グラフ]	[アナリシス]	<p>テスト計画データに作成できるグラフを一覧表示します。定義済みのグラフを選択するか、グラフ・ウィザードを起動します。</p> <p>定義済みグラフの種類の詳細については、「グラフの種類」(906 ページ) を参照してください。</p>
[履歴ページ]	<右クリック・メニュー>	<p>[履歴] タブが開きます。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: テスト・グリッド</p>

UI 要素	メニュー	説明
[インジケータ カラム]	[表示]	<p>テスト・ウィンドウの左側にインジケータを表示します。詳細については、「テスト計画モジュールのアイコン」(510 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: テスト・グリッド</p>
[選択 / 非選択項目の入れ替え]	[編集]	<p>グリッドで以前に選択されていたテストのすべてを非選択状態にし、以前に選択されていなかったテストをすべて選択します。</p> <p>使用可能な場所: テスト・グリッド</p>
[ライブ アナリシス]	[アナリシス]	<p>[ライブ アナリシス] タブでグラフを表示するオプションを一覧表示します。グラフを追加または削除したり、表示形式を構成します。</p> <p>ライブ・アナリシスの詳細については、「ライブ・アナリシス・グラフの概要」(1022 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: [ライブ アナリシス] タブ</p>
[テンプレート テストとしてマーク]	[テスト]	<p>手動テスト用。 テストを他のテストから呼び出せるように、テンプレート・テストとしてマークします。</p> <p>テンプレート・テストをマークすると、手動テスト・アイコンがグレーから白に変わります 。</p> <p>QuickTest Professional テスト用。 テストをテンプレート・テストとしてマークすると、他の QuickTest Professional テストを作成するのに使用できるようになります。</p>
[最近の利用]	[アナリシス]	<p>テスト計画モジュールで、最近表示されたレポートとグラフを一覧表示します。</p>

UI 要素	メニュー	説明
 【新規フォルダ】	[テスト]	<p>[新規テストフォルダ] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダにテスト・サブジェクトを追加できます。</p> <p>構文の例外：フォルダ名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。</p> <p>使用可能な場所：テスト計画ツリー</p>
 【新規テスト】	[テスト]	<p>[テストの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダにテストを追加できます。詳細については、「[新規テスト] ダイアログ・ボックス」(518 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：テスト計画ツリー</p>
【お気に入りの整理】	[お気に入り]	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。詳細については、「[整理お気に入り] ダイアログ・ボックス」(115 ページ)を参照してください。
【非公開】	[お気に入り]	ビューの作成者だけがアクセスできる、お気に入りビューを一覧表示します。
【公開】	[お気に入り]	すべてのユーザがアクセスできる、お気に入りビューを一覧表示します。
 【全て更新】	[表示]	最新のテストが表示されるように、テスト計画ツリーまたはテスト計画グリッドを更新します。
【名前の変更】	[編集]	<p>選択したテストまたはフォルダの名前を変更します。ルート・フォルダ名は変更できません。</p> <p>構文の例外：テスト名には、「¥」、「/」、「:」、「"」、「?」、「<」、「>」、「 」、「*」、「%」、「」は使用できません。</p>
【置換】	[編集]	テスト・グリッドで [置換] ダイアログ・ボックスを開きます。テスト・フィールドの値を置き換えることができます。詳細については、「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ)を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
[選択項目のレポート]	<右クリック・メニュー>	選択したテストのレポートを表示します。
[レポート]	[アナリシス]	テスト計画データに作成できる定義済みレポートを一覧表示します。レポートの種類の詳細については、「定義済み標準レポート」(1008 ページ)を参照してください。
[要件カバレッジ]	[表示]	[詳細カバレッジの有効化] ダイアログ・ボックスを閉じます。詳細については、「[詳細カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(543 ページ)を参照してください。
 [テストの実行]	[テスト]	Performance Center: 選択したパフォーマンス・テストをテスト計画モジュールから実行できます。パフォーマンス・テストの実行の詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。
[全て選択]	[編集]	グリッドのすべてのテストを選択します。 使用可能な場所: テスト・グリッド
 [カラムの選択]	[表示]	[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、テスト・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)を参照してください。
 [電子メールで送信]	[テスト]	[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先やテスト設計者の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ)を参照してください。
[詳細と履歴の表示]	<右クリック・メニュー>	テスト・グリッドの下部に [情報パネル] タブを表示します。 使用可能な場所: テスト・グリッド






UI 要素	メニュー	説明
 【並べ替えのフォルダ】	[表示]	<p>[テスト計画ツリー] ダイアログ・ボックスで [フォルダの並べ替え] を開きます。テスト・サブジェクト・フォルダでサブフォルダを並べ替えることができます。詳細については、「[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート] ダイアログ・ボックス」(521 ページ) を参照してください。</p>
 【テストの詳細】	[テスト]	<p>選択したテストの詳細を表示できる [テストの詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「テスト計画モジュール・ウィンドウ」(495 ページ) を参照してください。</p>
【テストグリッド】	[表示]	<p>テスト・グリッド・ビューでは、テストを要件をフラットで階層化されていないビューとして表示できます。グリッドの各行には、テストが個別に表示されます。</p>
【テスト計画ツリー】	[表示]	<p>テスト計画ツリー・ビューが表示され、テストとテスト・サブジェクトの階層をツリーで表示できます。</p>
 【テキスト検索】	[編集]	<p>テスト計画モジュールのウィンドウの下部にテキスト検索の表示枠が開き、定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ) を参照してください。</p>
【選択項目の更新】	[編集]	<p>[選択項目の更新] ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドで選択した複数のテストのフィールド値を更新できます。詳細については、「[選択項目の更新] ダイアログ・ボックス」(92 ページ) を参照してください。</p>
 【スクリプトのアップロード】	[テスト]	<p>Performance Center: VuGen スクリプトを ALM にアップロードできます。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>

テスト計画モジュールのアイコン



本項では、テスト計画モジュールで利用可能なアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト計画] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : すべてのアイコンが使用できるわけではありません。
関連タスク	テストを作成する方法
参照項目	「テスト計画モジュールのメニューとボタン」(499 ページ) 「テスト計画モジュール・ウィンドウ」(495 ページ)

アイコンについて以下で説明します。

UI 要素	説明
	緑のアスタリスク 。適切なタブがポピュレートされています。
	[警告] : クリックすると、テストに対する警告が表示されます。 赤の警告 。新しい警告です。 グレーの警告 。この警告は未読です。 詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。
	[添付] : クリックすると、指定したテストの添付ファイルが表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
	[フォローアップ フラグ] : クリックすると、テストのフォローアップ・フラグが表示されます。 グレーのフラグ 。新しいフォローアップ・フラグです。 赤のフラグ 。フォローアップ処理の設定日が到来しました。 詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。
	[リンクされている不具合] : クリックすると、テストのリンクされている不具合が表示されます。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
	サブジェクト・フォルダ
	手動テスト
	テスト・ステップがある手動テスト
	手動テンプレート・テスト
	テスト・ステップがある手動テンプレート・テスト
	ビジネス・プロセス・テスト
	ビジネス・コンポーネントのフロー
	LoadRunner シナリオ
	QuickTest Professional テスト
	QuickTest Professional テンプレート・テスト
	テスト・ステップがある QuickTest Professional テスト
	テスト・ステップがある QuickTest Professional テンプレート・テスト
	Visual API-XP テスト
	システム・テスト
	Vuser スクリプト・テスト

UI 要素	説明
	QAInspect テスト
	<p>[バージョン管理]: テストはチェックアウトされています。</p> <p>緑の鍵。 現在のユーザによってチェックアウトされたテスト。</p> <p>赤の鍵。 別のユーザによってチェックアウトされたテスト。</p>

テスト計画モジュール・フィールド

本項では、テスト計画モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト計画] を選択します。
重要な情報	<p>テスト計画モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、任意のフィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>スクリプト・エディタを使用して、テスト計画モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>ユーザ名の値を含むテスト計画カラムを選択する場合（ユーザ定義フィールドを含む）、ALM には各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、「[ユーザリスト] ダイアログ・ボックス」(72 ページ) を参照してください。</p> <p>一部のフィールドは、すべてのテスト計画ビューで利用できるわけではありません。</p> <p>バージョン管理追加のフィールドは、バージョン管理が有効なプロジェクトで使用できます。詳細については、「バージョン管理フィールド」(127 ページ) を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition : すべてのフィールドが利用できるわけではありません。</p>
参照項目	「テスト計画モジュール・ウィンドウ」(495 ページ)

テスト計画フィールド

UI 要素	説明
【コメント】	テストに関するコメント。
【作成日】	テストが作成された日付。標準設定では、ALM Platform サーバの現在の日付に設定されます。下矢印をクリックしてカレンダーを表示し、別の作成日を選択できます。
【説明】	テストの説明。
【設計者】	テストを設計したユーザの名前。
【予定開発時間】	テストの設計と開発に要すると推定される時間。
【実行ステータス】	最後のテスト・インスタンスの実行のステータス。実行ステータスは、次のいずれかになります。 [Blocked] : 1 つ以上のステップが実行できません。たとえば、テストはリモート・マシンで実行されていますが、ネットワークの問題またはハードウェアのエラーといった、何らかの環境エラーにより実行を継続することができません。 [Failed] : 実行の 1 つ以上のステップが失敗しましたが「ブロック」のステータスを示しているものではありません。 [N/A] : テストの現在のステータスは不明です。 [No Run] : ステップは実行されていません。 [Not Completed] : 1 つ以上のステップが完了していないか実行されませんでした。が、「ブロック」または「失敗」のステータスを示しているものではありません。 [Passed] : 実行は成功しました。
【更新日時】	テストに加えられた最新の変更日時。
【パス】	プロジェクト・リポジトリ内でのこのテストのテスト・ディレクトリからの相対パス。
【ステータス】	テスト計画ステータス。標準設定のステータスは、[Design] です。
【Subject】	テスト計画ツリーでテストが含まれているサブジェクト・フォルダ。

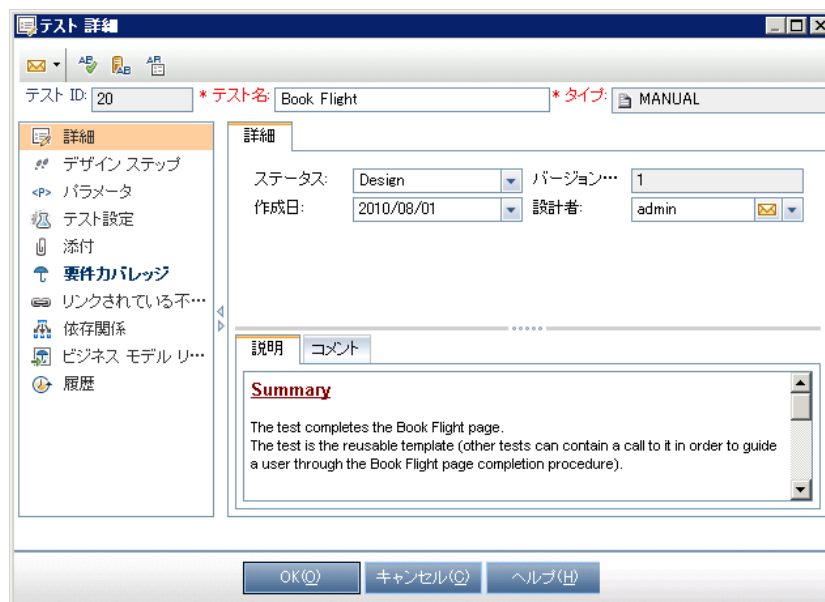
UI 要素	説明
【テンプレート】	手動テストまたは QuickTest Professional テストがテスト・テンプレートかどうかを示します。このカラムの値は、テストがテスト・テンプレートなら「 Y 」、そうでなければ「 N 」または空白です。タスクの詳細については、「テストを作成する方法」(489 ページ)を参照してください。
【テスト ID】	ALM によってテストに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは読み取り専用です。
【テスト名】	テストの名前。
【タイプ】	現在のテストのテスト・タイプ。詳細については、「テストのタイプ」(493 ページ)を参照してください。

テスト・パラメータ・フィールド

UI 要素	説明
【標準設定値】	パラメータの標準設定値。標準設定値は、ユーザがテスト実行に実際の値を割り当てるのに役立ちます。
【説明】	パラメータの説明です。
【更新日時】	テスト・パラメータが最後に修正された日時。
【順序】	パラメータのセットの中のパラメータの位置です。
【パラメータ名】	パラメータの名前です。
【使用中】	パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。





[テスト詳細] ダイアログ・ボックス

[テスト詳細] ダイアログ・ボックスでは、単一のテストの表示と更新ができます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト計画] を選択します。 2 テストを右クリックし、[テストの詳細] を選択します。
関連タスク	「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ) 「テストを作成する方法」(489 ページ)
参照項目	「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)

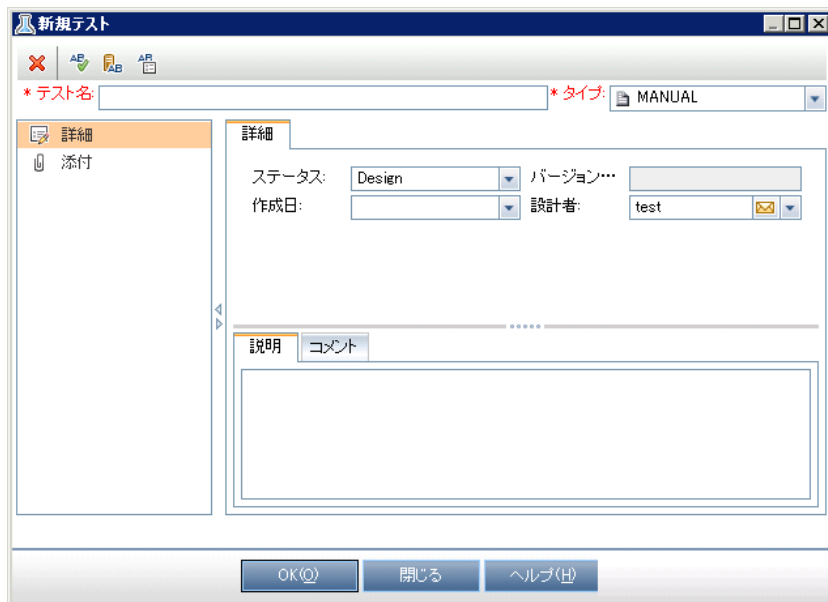
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[電子メールで送信]: テストの詳細を電子メールで送信します。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ)を参照してください。
	[スペル チェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[スペル オプション]: ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。
	[類語辞典]: 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
[添付]	現在選択されているテストに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。
[ビジネス モデル リンク]	選択したテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデル・エンティティの一覧です。詳細については、「[ビジネス モデル リンク] タブ」(545 ページ)を参照してください。
[条件]	選択したビジネス・プロセス・テストの条件を表示します。詳細については、「[条件] タブ」(593 ページ)を参照してください。
[依存関係]	テスト・リソースやテストなどのエンティティ間に存在する依存関係が表示されます。詳細については、「[依存関係] タブ」(645 ページ)を参照してください。
[デザイン ステップ]	選択したテストの実行方法の説明の一覧です。詳細については、「[デザイン ステップ] タブ/[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス」(582 ページ)を参照してください。
[詳細]	[テスト] フィールドの一覧です。[テスト] フィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)を参照してください。 ヒント: このタブの [説明] または [コメント] フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[履歴]	現在選択されているテストに行われた変更の一覧です。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[リンクされている不具合]	現在選択されているテストにリンクされている不具合の一覧です。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。
[パラメータ]	現在選択されているテストに関連付けられたパラメータの一覧です。パラメータはテストのデザイン・ステップに組み込むことができます。詳細については、「[パラメータ] タブ/[パラメータ] ダイアログ・ボックス」(565 ページ) を参照してください。
[要件カバレッジ]	現在選択されているテストによって満たされている要件の一覧です。詳細については、「[要件カバレッジ] タブ」(538 ページ) を参照してください。
[テスト設定]	選択したテストの構成を表示します。詳細については、「[テスト設定] タブ」(604 ページ) を参照してください。
[テストスクリプト]	自動テストでは、現在選択しているテスト用にテスト・ツールによって実行されているテスト・スクリプトです。詳細については、「[テストスクリプト] タブ」(588 ページ) を参照してください。





[新規テスト] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テスト計画ツリーに新しいテストを追加できます。



アクセス方法	テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択し、[新規テスト] を右クリックして選択します。
重要な情報	QuickTest Professional Add-in がマシンにインストールされている場合、[新規テスト] ダイアログ・ボックスには[テンプレート] ボックスが表示されます。
関連タスク	「テストを作成する方法」(489 ページ)

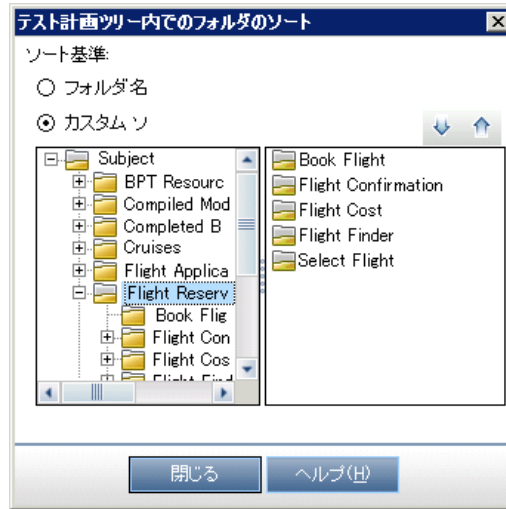
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	説明
	[全てのフィールドをクリア]: ダイアログ・ボックスのすべてのデータをクリアします。
	[スペル チェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[スペル オプション]: ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。
	[類語辞典]: 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
[添付]	新しいテストに関して追加の情報を有する添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。
[詳細]	<p>テストのフィールドが一覧表示されます。必須のフィールドは赤く表示されます。使用できるテスト・フィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント: このページの [説明] または [コメント] フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>

UI 要素	説明
<p>[テンプレート]</p>	<p>[QUICKTEST_TEST] を [テストタイプ] のリストで選択した場合は利用可能です。</p> <p>別の QuickTest テストを、新しいテストのテンプレートとして選択します。テンプレート・テストが新規のテストにコピーされますが、テスト結果は含まれません。</p> <p>テンプレート・テストを選択するには、参照ボタンをクリックします。[テストの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では、QuickTest のテンプレート・テストのみが表示されます。</p> <p>テンプレート・テストを選択し、[テストの追加] ボタンをクリックします。</p> <p>注： ALM が新しい QuickTest テストに関連付ける QuickTest アドインを設定するには、該当するアドインを一覧表示しているテンプレート・テストを選択します。あるいは、ALM クライアントに用意されている標準設定のテンプレート・テストを使用します。このテストは、標準設定で、Web アドインおよび ActiveX アドインを読み込みます。詳細については、QuickTest ドキュメント、および関連する QuickTest アドインのドキュメントを参照してください。</p>
<p>[テスト名]</p>	<p>新しいテストに付ける名前を入力します。</p> <p>構文の例外： テスト名には、「¥」、「/」、「:」、「"」、「?」、「<」、「>」、「 」、「*」、「%」、「'」は使用できません。</p>
<p>[タイプ]</p>	<p>手動または自動のテスト・タイプを選択します。テストを自動化するかしないかについて考慮すべき事項については、「テストの自動化」(575 ページ) を参照してください。</p> <p>テスト・タイプの詳細については、「テストのタイプ」(493 ページ) を参照してください。</p> <p>注：</p> <p>手動のテスト・タイプを選択する場合、テストを手動でデザインしてから、後で [デザイン ステップ] タブでテストを自動テスト・タイプに変換できます。</p> <p>自動テスト・タイプを選択する場合、別の自動テスト・ツールを後で [デザイン ステップ] タブで選択できますが、手動テスト・タイプに変換して戻すことはできません。</p> <p>フローのテスト・タイプを選択する場合、別のテスト・タイプに変換することはできません。</p>

[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート] ダイアログ・ボックス


このダイアログ・ボックスでは、テスト計画ツリーのフォルダを並べ替えたり、必要に応じてユーザ定義の並べ替えを作成したりすることができます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 テスト計画モジュールで、[表示] > [テスト計画ツリー] を選択します。 2 フォルダを選択して、[フォルダの並べ替え]  をクリックします。
重要な情報	<p>ユーザ定義の並べ替えを作成するには、プロジェクトの管理者権限が必要です。ユーザ・グループ権限の割り当ての詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>テスト計画ツリーの変更を表示するには、[全て更新] をクリックします。</p>

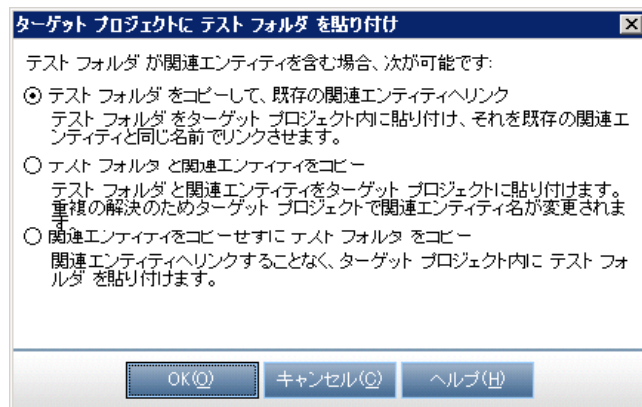
第 19 章・テスト計画の仕様

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[項目を下へ移動] / [項目を上へ移動] : 選択したサブフォルダを、親フォルダ内で上または下に移動します。
[カスタム ソート]	選択したサブジェクト・フォルダ内で、サブフォルダの順序変更ができます。 左側の表示枠でサブジェクト・フォルダを選択し、ドラッグするか垂直の矢印を使用して右側の表示枠でサブフォルダの並べ替えを行います。
<フォルダ名>	選択したテスト・サブジェクト・フォルダ内で、サブフォルダをアルファベット順に並べ替えます。

[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ALM がテストまたはテスト・サブジェクトをプロジェクトにまたがってコピーする方法を選択できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 テスト計画ツリーまたはグリッドで、テストまたはサブジェクト・フォルダを選択します。 2 右クリックして [コピー] を選択します。 3 ALM インスタンスをもう 1 つ開き、テストを貼り付けるプロジェクトにログインします。 4 右クリックして [貼り付け] を選択します。
重要な情報	プロジェクト間でテストをコピーするには、使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>[テストまたはテストフォルダをコピーして、既存の関連エンティティへリンク]</p>	<p>ALM はテストまたはサブジェクト・フォルダをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたテストまたはサブジェクト・フォルダは、既存のテスト・リソースおよび呼び出し先テストと同じ名前でリンクされます。関連するテスト・リソースまたはテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、ALM によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。</p>
<p>[テストまたはテストフォルダと関連エンティティをコピー]</p>	<p>ALM は、関連するテスト・リソースおよび呼び出し先テストをテストまたはサブジェクト・フォルダと一緒にコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、名前の重複の解決のため、コピーされた関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストの名前が変更されます。</p>
<p>[関連エンティティをコピーせずにテストまたはテストフォルダをコピー]</p>	<p>ALM は、関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストをコピーすることなく、テストまたはサブジェクト・フォルダをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。</p>

第 20 章

要件とテスト・カバレッジ

本章の内容

概念

「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)

タスク

「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)

リファレンス

「要件とテスト・カバレッジのユーザ・インタフェース」(534 ページ)

概念

要件とテスト・カバレッジの概要

テスト計画のテストは、当初の要件を満たしていることが重要です。その後、要件とテストとの関係を追跡できるように、要件とテストを結ぶリンクを設定します。

テスト計画モジュールで、テストへリンクする要件を選択することによって、要件カバレッジを作成します。要件カバレッジは、テストまたは要件の変更による影響を評価するのに役立ちます。テストは複数の要件をカバーすることができます。

あるいは、要件モジュールで要件へテストをリンクして、テストのカバレッジを作成します。テスト・カバレッジは、テストまたは要件の変更による影響を評価するのに役立ちます。要件は複数のテストでカバーすることができます。

テストのレベルでのみ各要件をカバーする代わりに、テスト設定で要件をカバーすることができます。**テスト設定**は、テストの特定のユースケースを記述する定義のセットです。たとえば、テスト設定ではテストが使用するデータのサブセットまたは実行時の環境を指定できます。テスト設定を要件と関連付けることで、テストのさまざまなユースケースによるカバレッジを有効化し、要件カバレッジをよりきめ細かく調整できるようになります。テスト構成の詳細については、「テスト設定の概要」(596 ページ)を参照してください。

ビジネス・モデル・モジュールを使用する場合は、テスト計画モジュールまたはビジネス・モデル・モジュールで、モデル・エンティティをテストにリンクできます。

Business Process Testing : 要件とビジネス・プロセス・テストの間のカバレッジを作成する場合、テストやそのテスト設定のレベルでのみ各要件をカバーする代わりに、条件でカバレッジを定義することもできます。HP Application Lifecycle Management (ALM) では、各ビジネス・コンポーネントとフローに対して条件を作成します。カバレッジの計算に条件を含めるかどうかを決定できます。テスト条件の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

注：要件およびテストを不具合にリンクすることができます。これは、アプリケーション管理プロセスの全体を通じてテストのニーズとの整合性を確保するのに役立ちます。要件が変更された場合に、影響を受けるテストと不具合、および担当責任者を直ちに特定できます。詳細については、「不具合のリンク」(829 ページ) を参照してください。

タスクの詳細については、「カバレッジを作成する方法」(528 ページ) を参照してください。

タスク

カバレッジを作成する方法

次の手順では、要件をテストにリンクしてカバレッジを作成する方法を説明します。テストのレベルでのみ各要件をカバーする代わりに、テスト設定で要件をカバーすることができます。

要件またはテスト計画モジュールからカバレッジを作成できます。テスト・カバレッジに従って子要件の詳細を把握することで、要件のステータスを調べる方法についても説明します。

カバレッジの作成の詳細については、「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)を参照してください。

ヒント: このテストに関連したユースケースのシナリオについては、「カバレッジの作成方法 - ユースケースのシナリオ」(530 ページ)を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ) を参照してください。

「要件をテストにリンク」(529 ページ)

「テストを要件にリンク」(529 ページ)

「カバレッジの分析」(530 ページ)

要件をテストにリンク

- a テスト計画モジュールで、**テスト計画ツリー**・ビューを選択します。
- b テストを選択して [**要件カバレッジ**] タブをクリックします。[**要件の選択**] ボタンをクリックすると、右側の表示枠に要件ツリーが表示されます。選択した要件にカバレッジを追加します。インターフェースの詳細については、「[要件カバレッジ] タブ」(538 ページ) を参照してください。

テストを要件にリンク

- a 要件モジュールで、**要件の詳細**ビューを選択します。
- b 要件を選択して [**テストカバレッジ**] タブをクリックします。[**選択**] ボタンをクリックすると、右側の表示枠にテスト計画ツリーが表示されます。選択したテストにカバレッジを追加します。インターフェースの詳細については、「テスト・カバレッジ・ページ」(548 ページ) を参照してください。

カバレッジの分析

要件モジュールで、[表示]メニューから[カバレッジ アナリシス]を選択します。テスト・カバレッジに従って、要件と子要件のステータスを調べます。インターフェースの詳細については、「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(535 ページ)を参照してください。

カバレッジの作成方法 - ユースケースのシナリオ

このユースケースのシナリオでは、ALM でカバレッジを作成する例を示します。

注: このシナリオに関連したタスクについては、「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)を参照してください。

このシナリオは次の手順で構成されています。

「要件をテストにリンク」(531 ページ)

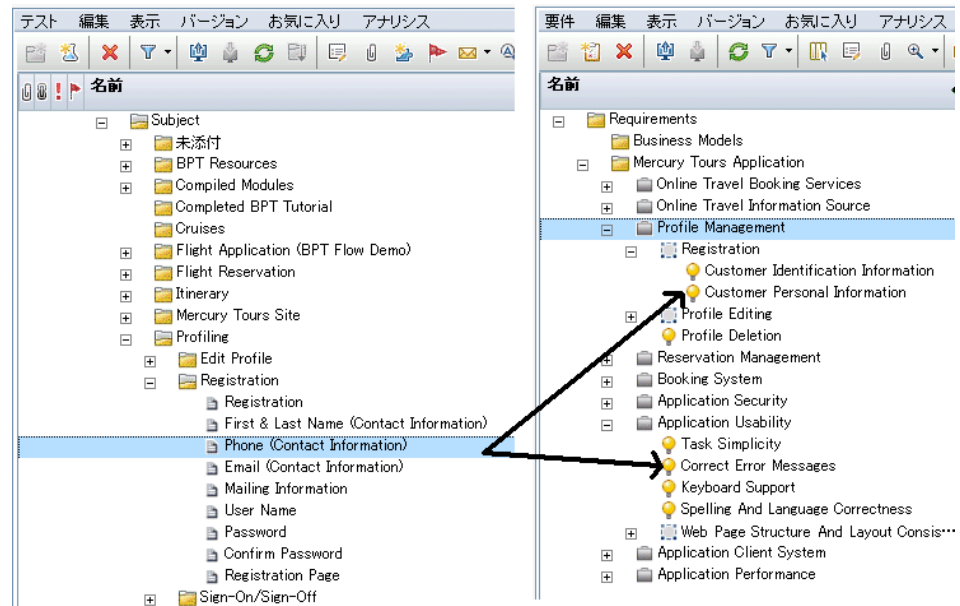
「テストを要件にリンク」(532 ページ)

「カバレッジの分析」(533 ページ)

要件をテストにリンク

ALM_Demo プロジェクトを使用して、テスト計画ツリーで、[Profiling] フォルダの下にある [Registration] フォルダを展開し、[Phone (Contact Information)] テストを選択します。

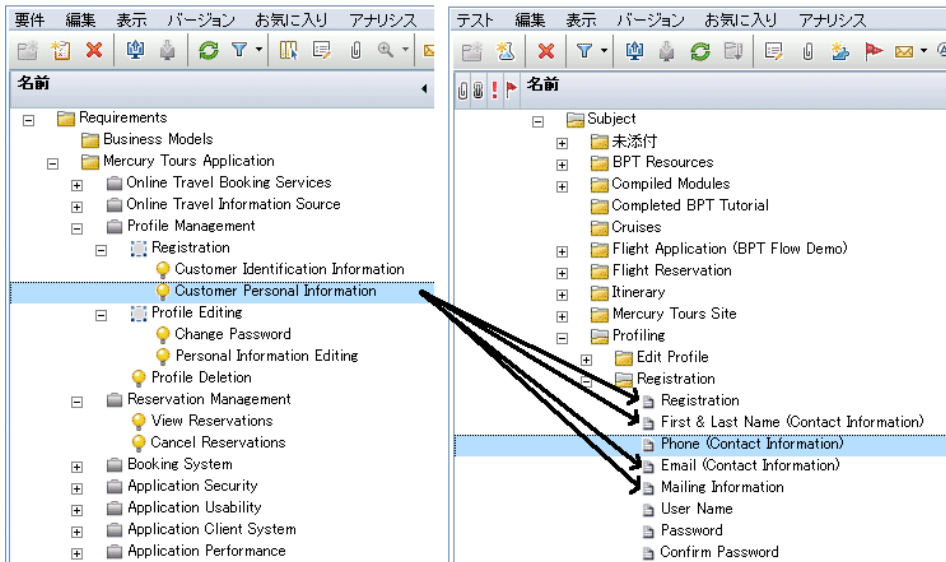
[Phone (Contact Information)] テストでは、[Registration] ページの顧客の電話番号を確認します。[要件カバレッジ] タブをクリックすると、このテストが次の要件を対象としていることがわかります。[Customer Personal Information] および [Correct Error Messages]



テストを要件にリンク

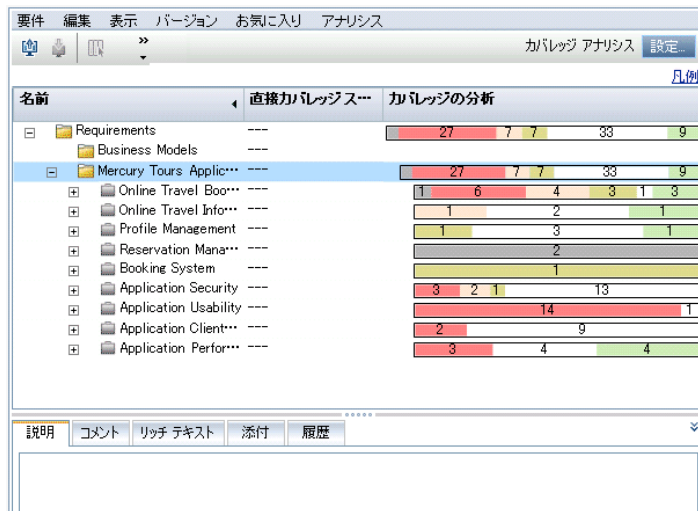
ALM_Demo プロジェクトで別の方向からカバレッジをリンクすることもできます。要件モジュールで、要件ツリーに移動します。[Requirements] の下にある要件トピック、[Mercury Tours Application]、[Profile Management]、[Registration] を展開し、[Customer Personal Information] 要件を選択します。

[Customer Personal Information] 要件では、航空券予約システムに顧客の個人情報が記録されていることが確認されます。[テスト カバレッジ] タブで、この要件が次のテストによってカバーされていることがわかります。[Email (Contact Information)]、[First & Last Name (Contact Information)]、[Mailing Information]、[Phone (Contact Information)]、[Registration]。



カバレッジの分析

ALM_Demo プロジェクトで、[Mercury Tours Application]要件の下にある[Application Client System] という要件を選択します。この要件には、この要件自体も含め、子が 12 個あります。カバレッジ・アナリシスには、ステータスが [Failed] (失敗した要件がカバーするテストが少なくとも 1 つ存在する) の子が 2 つあることがわかります。これを分析すると、この要件に関連付けられているテストのうち、3 個 (27%) が失敗していることがわかります。



リファレンス

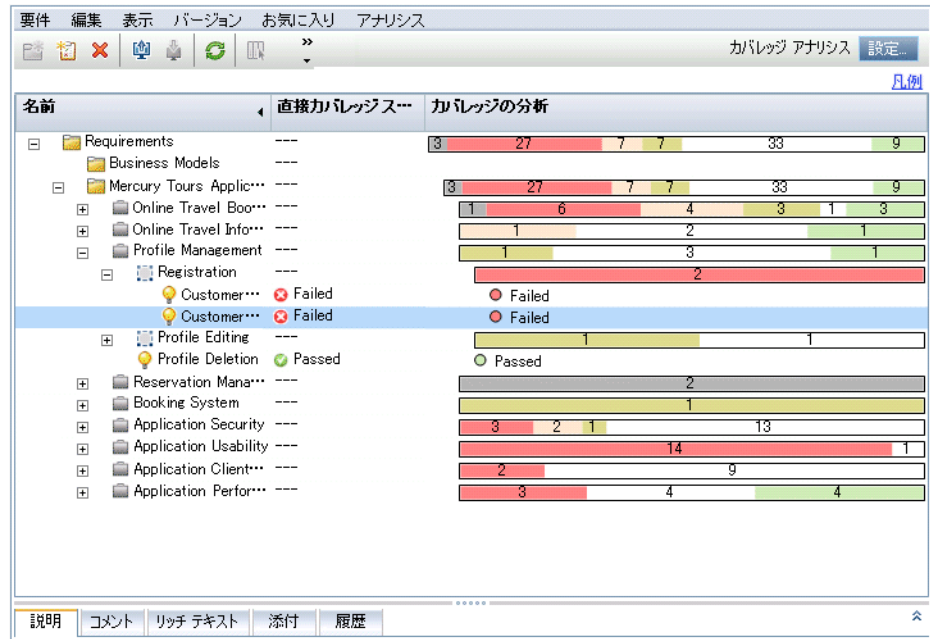
要件とテスト・カバレッジのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(535 ページ)
- 「[要件カバレッジ] タブ」(538 ページ)
- 「[詳細カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(543 ページ)
- 「[ビジネス モデル リンク] タブ」(545 ページ)
- 「テスト・カバレッジ・ページ」(548 ページ)
- 「[アナリシス詳細] ダイアログ・ボックス」(553 ページ)
- 「[カバレッジ アナリシス] ダイアログ・ボックス」(555 ページ)
- 「[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(557 ページ)

🔍 カバレッジ・アナリシス・ビュー



このビューでは、テスト・カバレッジに従って子要件の詳細を把握することで、要件のステータスを調べることができます。カバレッジ・アナリシスをサイクル単位で設定できます。これにより、特定のサイクルに割り当てられた実行のカバレッジのみを分析に表示できます。



アクセス方法	要件モジュールで、[表示] メニューから [カバレッジ アナリシス] を選択します。
重要な情報	標準設定では、カバレッジは次の要件タイプでのみ使用できます。[機能]、[テスト]、[未定義]。 Quality Center Starter Edition : カバレッジ・アナリシス・ビューでは利用できないフィールドまたは機能もあります。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)
参照項目	「要件モジュール・ウィンドウ」(326 ページ)

第 20 章・要件とテスト・カバレッジ

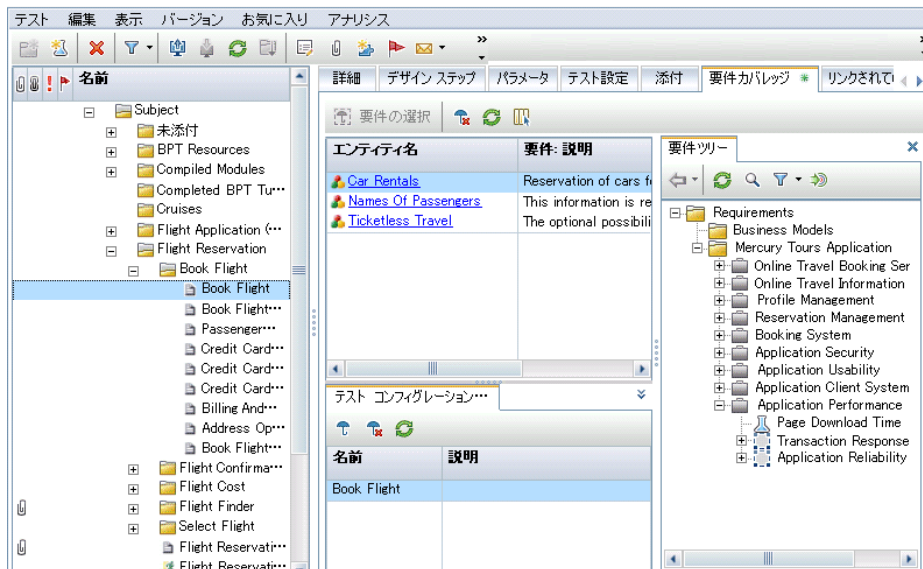
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[アナリシス設定] ダイアログ・ボックスが開き、カバレッジ・アナリシスの設定を定義できます。詳細については、「[アナリシス詳細] ダイアログ・ボックス」(553 ページ) を参照してください。
	表示 ：要件ビューの下部に [情報パネル] タブを表示します。詳細については、「要件モジュール・ウィンドウ」(326 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
<p>＜カバレッジ・アナリシス・ビューの共通の UI 要素＞</p>	<p>カバレッジ・アナリシス・フィールド: フィールドの定義については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。</p> <p>カバレッジ・アナリシス・ビューのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「要件モジュール・メニューとボタン」(333 ページ) を参照してください。</p> <p>カバレッジ・アナリシスのアイコン: アイコンの説明については、「要件モジュール・アイコン」(344 ページ) を参照してください。</p>
<p>凡例</p>	<p>要件とその子要件の直接カバレッジ・ステータスを示すのに使用する、カラー・コーディングを表示します。</p> <p>要件ステータスは、次のいずれかになります。</p> <p>[Blocked]: 要件がカバーする 1 つ以上のテストの実行ステータスが「ブロック」になっています。</p> <p>[Failed]: 要件がカバーする 1 つ以上のテストの実行ステータスが「Failed」であり、「Blocked」になっているものではありません。</p> <p>[No Run]: 要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが「No Run」になっています。</p> <p>[Not Completed]: 要件がカバーする 1 つ以上のテストの実行ステータスが「Not Completed」であり、「Blocked」あるいは「Failed」になっているものではありません。一方、要件がカバーするテストの実行ステータスは、「Passed」および「No Run」になっています。</p> <p>[Not Covered]: 要件がテストにリンクされていません。</p> <p>[Passed]: 要件がカバーするすべてのテストの実行ステータスが「Passed」になっています。</p>

🔑 [要件カバレッジ] タブ




このタブでは、テスト計画ツリーで選択したテストの対象となっている要件を表示できます。




アクセス方法	テスト計画モジュールで、 テスト計画ツリービュー を選択します。テストを選択して [要件カバレッジ] タブをクリックします。
重要な情報	<p>要件カバレッジは、要件をテストに変換した場合には、自動的に作成されます。したがって要件カバレッジを追加しなくても、すでに存在していることがあります。詳細については、「テストへ変換ウィザード」(359 ページ) および「[テストの作成] ダイアログ・ボックス」(365 ページ) を参照してください。</p> <p>次の要件タイプが設定され、標準設定ではそれらにカバレッジを追加できないようになっています。ビジネス、フォルダ、グループ。</p> <p>カバレッジを追加するためには、それらの要件タイプのテスト・カバレッジを有効にする必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
関連タスク	<p>「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)</p> <p>「テスト設定の使用法」(597 ページ)</p>
参照項目	<p>「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)</p> <p>「テスト設定の概要」(596 ページ)</p>

要件カバレッジ・グリッド




次に、ユーザ・インターフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。



UI 要素	説明
 要件の選択	右の表示枠に要件ツリーを表示し、要件カバレッジをテストに追加できます。詳細については、「[要件ツリー] 表示枠」(541 ページ) を参照してください。
	[選択項目の削除] ：選択した要件をカバレッジ・グリッドから削除します。
	[全て更新] ：カバレッジ・グリッドを更新します。

UI 要素	説明
	<p>[カラムの選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、カバレッジ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
<p><カバレッジ・グリッド></p>	<p>フィールドの定義については、「要件モジュール・フィールド」(347 ページ) を参照してください。</p>
<p>[カバレッジモード]</p>	<p>エンティティが、選択したテスト設定またはすべてのテスト設定で対象とされているかどうかを示します。</p>
<p>[カバレッジタイプ]</p>	<p>カバレッジのタイプ。</p>
<p>[エンティティ名]</p>	<p>要件の名前。</p>
<p>[要件ツリーの要件に移動]</p>	<p>カバレッジ・グリッドの要件を右クリックして、要件モジュールの要件ツリーに移動し、選択した要件を強調表示します。</p>
<p>[完全パスを表示]</p>	<p>カバレッジ・グリッドの要件を右クリックして、要件ツリーの選択した要件の位置を表示します。</p>

[要件ツリー] 表示枠

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[カバレッジに追加]: 指定したテストに要件カバレッジを追加します。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <p>[カバレッジに追加 (子を除く)]: 選択した要件 (子要件を除く) をカバレッジ・グリッドに追加します。別の方法として、選択した要件をダブルクリックまたはドラッグでカバレッジ・グリッドに追加することもできます。</p> <p>指定したテストに複数のテスト設定が含まれている場合、[設定カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開き、利用可能なテスト設定が表示されます。カバレッジに含むテスト設定を選択します。</p> <p>[カバレッジに追加 (子を含む)]: 選択した要件を、その子要件も含めて追加します。</p> <p>注: 現在のフィルタに一致し、テスト・カバレッジをサポートするタイプに属する子要件のみがカバレッジに追加されます。</p> <p>Business Process Testing: 要件カバレッジをビジネス・プロセス・テストに追加すると、[詳細カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[詳細カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(543 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[更新]: 要件ツリーを更新します。</p>
	<p>[フィルタ/ソート]: 要件ツリーの要件をフィルタ処理して並べ替えます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[検索]: ツリーで特定の要件が検索されます。</p> <p>[検索] ボックスに要件の名前 (または名前の一部) を入力し、[検索] ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中で要件が強調表示されます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[ID で要件に移動] : [要件へ移動] ダイアログ・ボックスが開きます。[要件 ID] で特定の要件を検索できます。</p> <p>注 : 現在のフィルタ内の要件にのみ移動できます。</p>
	<p>[閉じる] : 右側の表示枠の要件ツリーを非表示にします。</p>

[テスト コンフィグレーション設定] タブ




このタブでは、要件カバレッジに関連付けられたテスト設定を表示します。詳細については、「[テスト コンフィグレーション設定] タブ」(611 ページ) を参照してください。

[基準の設定] タブ

このタブでは、選択したカバーされるテストの条件を追加または削除できます。

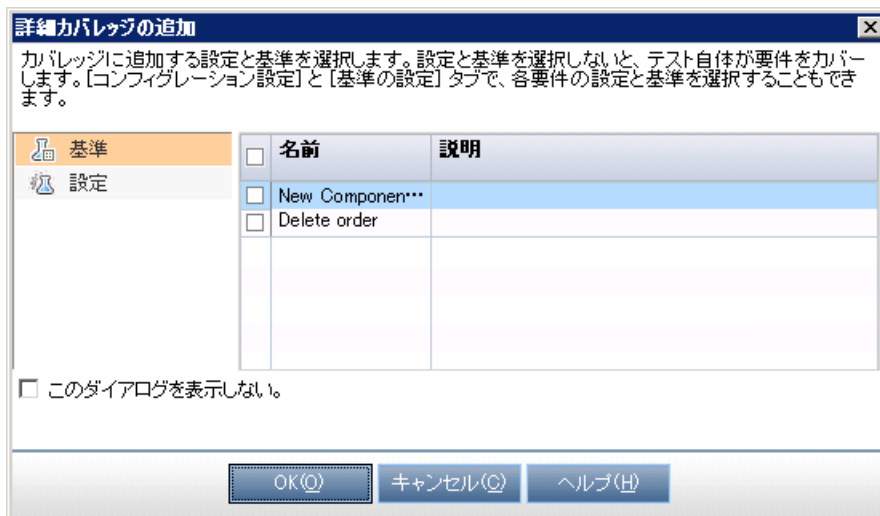
重要な情報	<p>Business Process Testing : テスト基準に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
--------------	---

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[基準の追加] : [基準の追加] ダイアログ・ボックスが開き、基準の設定グリッドに基準を追加できます。詳細については、「[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(557 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[基準の削除] : 選択した基準を基準の設定グリッドから削除します。</p> <p>注 : 最後の基準を削除すると、カバレッジはテストレベルに戻ります。</p>
	<p>[更新] : 条件設定グリッドを更新します。</p>

[詳細カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、基準を追加してテスト設定をカバレッジに追加できます。




詳細カバレッジの追加

カバレッジに追加する設定と基準を選択します。設定と基準を選択しないと、テスト自体が要件をカバーします。[コンフィグレーション設定]と[基準の設定]タブで、各要件の設定と基準を選択することもできます。

基準	名前	説明
<input type="checkbox"/>	New Component...	
<input type="checkbox"/>	Delete order	

このダイアログを表示しない。

OK(O) キャンセル(O) ヘルプ(H)

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 テスト計画モジュールで、テスト計画ツリーからビジネス・プロセス・テストを選択します。[要件カバレッジ] タブをクリックします。 2 [要件の選択] をクリックして、[要件ツリー] 表示枠を表示します。 3 要件を選択します。[カバレッジに追加]  をクリックします。[詳細カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	<p>Business Process Testing : このダイアログ・ボックスは、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用できます。</p> <p>このダイアログ・ボックスは、選択したビジネス・プロセス・テストに基準とテスト設定が含まれている場合にのみ開きます。</p>
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)
参照項目	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(535 ページ)

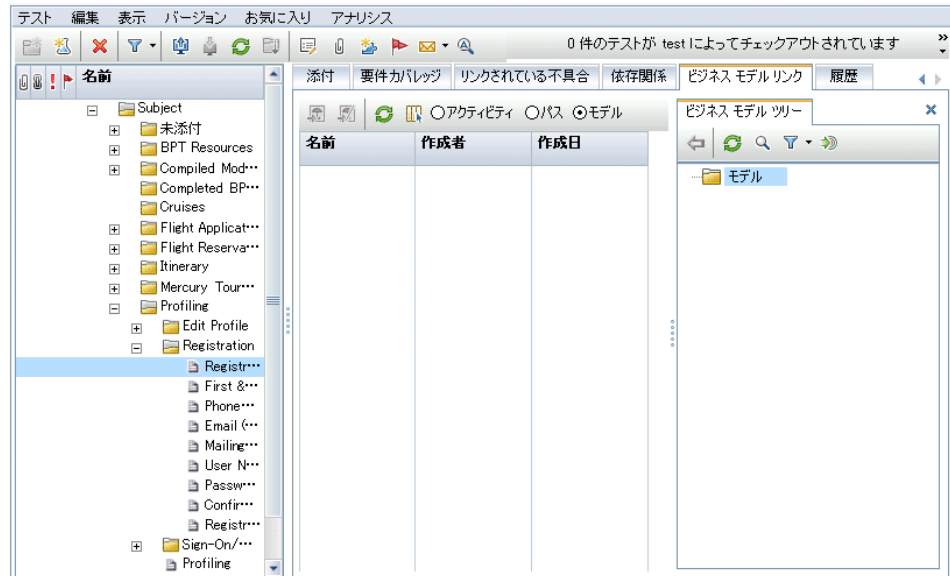
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
基準	基準を選択できます。 Business Process Testing : テスト基準に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
設定	テスト設定を選択できます。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
[このダイアログを表示しない]	このダイアログ・ボックスを非表示にします。 このダイアログ・ボックスを表示するには、[表示] > [要件カバレッジ] > [詳細カバレッジ ダイアログを表示] を選択します。

[ビジネス モデル リンク] タブ

要件モジュール：このタブでは、要件ツリーで選択した要件の対象となっているビジネス・プロセス・モデルのエンティティを表示できます。





テスト計画モジュール：このタブでは、テスト計画ツリーで選択したテストの対象となっているビジネス・プロセス・モデルのエンティティを表示できます。



アクセス方法	<p>要件モジュールで、 要件の詳細ビューを選択し、要件を選択して [ビジネス モデル リンク] タブをクリックします。</p> <p>テスト計画モジュールで、 テスト計画ツリービューを選択し、テスト（またはBusiness Process Testingフロー）を選択して、[ビジネス モデル リンク] タブをクリックします。</p>
重要な情報	<p>テストへのビジネス・モデル・リンクは、モデル・エンティティの代表的な要件をテストに変換することで、自動的に作成されます。</p>
関連タスク	<p>「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)</p>
参照項目	<p>「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)</p>







ビジネス・モデル・リンクのグリッド

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[リンクに追加] ：右の表示枠にビジネス・モデル・ツリーを表示して、ビジネス・モデル・エンティティをテストまたは要件に追加できます。詳細については、「[ビジネス モデル ツリー] 表示枠」（547 ページ）を参照してください。
	[リンクから削除] ：選択したモデル・エンティティをリンク・グリッドから削除します。
	[更新] ：リンク・グリッドを更新して最新の情報を表示します。
	[カラムの選択] ：[カラムの選択] ダイアログ・ボックスが開き、リンク・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」（90 ページ）を参照してください。
[アクティビティ]	選択した要件またはテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデル・アクティビティの一覧です。
[パス]	選択した要件またはテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデル・パスの一覧です。
[モデル]	選択した要件またはテストにリンクされているビジネス・プロセス・モデルの一覧です。
<リンク・グリッド>	グリッドのリンクをクリックすると、ビジネス・モデル・ツリーのモデル・エンティティに移動します。 フィールドの定義については、「ビジネス・モデル・モジュールのフィールド」（457 ページ）を参照してください。

[ビジネス モデル ツリー] 表示枠

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[リンクに追加]：選択したモデル・エンティティを現在の要件またはテストにリンクします。</p> <p>ヒント：モデル・エンティティをダブルクリックするか、ビジネス・モデル・ツリーからリンク・グリッドにドラッグすることで、モデル・エンティティをリンクすることもできます。</p>
	<p>[更新]：ビジネス・モデル・ツリーを更新します。</p>
	<p>[検索]：ツリーで特定のモデル・エンティティを検索します。</p> <p>[検索] ボックスにモデル・エンティティの名前（または名前の一部）を入力し、[検索] ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中でエンティティが強調表示されます。</p>
	<p>[フィルタ/ソート]：ビジネス・モデル・ツリーのエンティティをフィルタ処理して並べ替えます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[ID でモデル フォルダに移動]：[モデルへ移動] ダイアログ・ボックスが開きます。[モデル ID] で特定のモデルを検索できます。</p> <p>注：現在のフィルタに含まれるモデルにのみ移動できます。</p>
	<p>[閉じる]：右側の表示枠のビジネス・モデル・ツリーを非表示にします。</p>

🔗 テスト・カバレッジ・ページ

このページでは、要件ツリーで選択した要件を対象としているテストを表示できます。

要件 ツリー: Requirements > Mercury Tours Application > Task Simplicity

カバレッジタイプ	エンティティ名	カバレッジス...	カバレッジモード
テスト	Sign-On	Not Completed	全ての設定
テスト	Sign-Off	No Run	全ての設定
テスト	Profiling	Failed	全ての設定
テスト	Connect Arr...	Passed	全ての設定







カバレッジ グラフ: テスト設定ステータス

1 Passed	1 Not Completed	1 Not Completed 25 %
1 No Run	1 Failed	1 Passed 25 %
		1 No Run 25 %
		1 Failed 25 %

アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>要件モジュールで、要件の詳細ビューを選択します。要件を選択して [テスト カバレッジ] タブをクリックします。</p> <p>[テスト カバレッジ] タブで、要件を右クリックして [カバレッジ アナリシス] を選択します。[カバレッジ アナリシス] ダイアログ・ボックスが開きます。[テスト カバレッジを表示] をクリックして、グラフ内の項をクリックします。[テスト カバレッジ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
重要な情報	<p>テスト・カバレッジは、要件からテストを生成した場合には、自動的に作成されます。したがってテスト・カバレッジを追加しなくても、すでに存在していることがあります。詳細については、「テストへ変換ウィザード」(359 ページ) および「[テストの作成] ダイアログ・ボックス」(365 ページ) を参照してください。</p> <p>次の要件タイプが設定され、標準設定ではそれらにカバレッジを追加できないようになっています。ビジネス、フォルダ、グループ。</p> <p>カバレッジを追加するためには、それらの要件タイプのテスト・カバレッジを有効にする必要があります。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)
参照項目	「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)

テスト・カバレッジのグリッド

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。




UI 要素	説明
 選択	[テストを選択]: 右の表示枠にテスト計画ツリーを表示し、テスト・カバレッジを要件に追加できます。詳細については、「[テスト計画ツリー] 表示枠」(551 ページ) を参照してください。
	[カバレッジから削除]: 選択したテストをカバレッジ・グリッドから削除します。
	[全て更新]: カバレッジ・グリッドを更新します。
	[フィルタ/ソートを設定]: カバレッジ・グリッドのテストをフィルタ処理して並べ替えます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
	[カラムの選択]: [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、カバレッジ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
	表示/非表示 : テスト・カバレッジ・ページの下部の表示枠を表示/非表示します。
<カバレッジ・グリッド>	フィールドの定義については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) を参照してください。
[カバレッジ モード]	選択したテストまたは特定のテストに関連付けられたテスト設定のすべてが、テスト・カバレッジに含まれているかどうかを示します。このカラムの値は、[選択した設定] または [全ての設定] のいずれかです。
[カバレッジ タイプ]	カバレッジのタイプ。
[エンティティ名]	テストの名前。
[カバレッジ ステータス]	テストの現在の実行ステータス。
[完全カバレッジ]	選択した要件のすべての子のテスト・カバレッジを表示します。





UI 要素	説明
[テストセットのテストへ移動]	カバレッジ・グリッドのテストを右クリックして、テスト・モジュールの実行グリッドに移動し、選択したテストを強調表示します。
[テスト計画ツリーのテストに移動]	カバレッジ・グリッドのテストを右クリックして、テスト計画モジュールのテスト計画ツリーに移動し、選択したテストを強調表示します。
[ステータス フィルタ]	カバレッジ・グリッドをステータス・タイプでフィルタ処理します。

[テスト計画ツリー] 表示枠

この表示枠では、テストを要件のテスト・カバレッジに追加できます。テストを追加する場合、ALM は [テスト設定] 表示枠に表示された関連付けられたテスト設定も追加します。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[カバレッジに追加] : 選択したテストを、それに関連付けられたテスト設定を含めて、要件のテスト・カバレッジに追加します。別の方法として、選択したテストをダブルクリックまたはドラッグでテスト・カバレッジ・グリッドに追加することもできます。</p> <p>注 : フォルダを選択すると、現在のフィルタ条件に一致するテストのみがテスト・カバレッジに追加されます。</p> <p>Business Process Testing : ビジネス・プロセス・テストを追加すると、[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(557 ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント : テストの選択した設定を要件のテスト・カバレッジに追加するには、[テスト設定] 表示枠からカバレッジを追加します。</p>
	[更新] : 要件ツリーを更新します。
	[フィルタ/ソート] : ツリーのテストをフィルタ処理して並べ替えます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
	<p>[検索] : ツリーで特定のテストが検索されます。</p> <p>[検索] ボックスにテストの名前（または名前の一部）を入力し、[検索] ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中でテストが強調表示されます。</p>
	<p>[ID でテストに移動] : [テストへ移動] ダイアログ・ボックスが開きます。[テスト ID] で特定のテストを検索できます。</p> <p>注 : 現在のフィルタに含まれるテストにのみ移動できます。</p>
	<p>[閉じる] : [テスト計画ツリー] 表示枠を非表示にします。</p>
	<p>表示/非表示 : [テスト設定] 表示枠を表示/非表示します。</p>

【テスト設定】表示枠

この表示枠では、選択したテスト設定を要件のテスト・カバレッジに追加できます。詳細については、「[テスト設定] 表示枠」（613 ページ）を参照してください。

【カバレッジグラフ】タブ

このタブは、カバレッジ・グリッドのテストの実行ステータスを円グラフで視覚的に表示します。

【テスト設定ステータス】タブ




このタブでは、カバーするテストに関連付けられた設定のステータスを表示します。詳細については、「[テスト設定ステータス] タブ」（616 ページ）を参照してください。

【基準の設定】タブ

このタブでは、選択したカバーされるテストの条件を追加または削除できます。

重要な情報	<p>テスト基準に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
--------------	---

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[基準の追加] : [基準の追加] ダイアログ・ボックスが開き、基準の設定グリッドに基準を追加できます。詳細については、「[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(557 ページ) を参照してください。
	[基準の削除] : 選択した基準を基準の設定グリッドから削除します。
	[更新] : 条件設定グリッドを更新します。

[アナリシス詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは、要件のカバレッジ・ステータスと、アナリシス設定に応じた子要件を表示します。

アクセス方法	カバレッジアナリシス・ビューで、[設定] ボタンをクリックします。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)
参照項目	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(535 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>[カバレッジ アナリシス]</p>	<p>[直接カバレッジ ステータス] フィールドの値に基づいて計算された、要件の現在のカバレッジ・ステータス。ステータスは、カバレッジ・アナリシス・ビューの [カバレッジ アナリシス] フィールドの下に視覚的に表示されます。</p> <p>[直接カバレッジ ステータス] フィールドの詳細については、「[直接カバレッジ ステータス]」(349 ページ) を参照してください。</p> <p>[カバレッジ アナリシス] フィールドの詳細については、「[カバレッジ アナリシス]」(348 ページ) を参照してください。</p>
<p>[実行アナリシス]</p>	<p>選択したサイクルによって計算された、要件のカバレッジ・ステータス。</p> <p>[実行アナリシス] ボックスで、矢印ボタンをクリックします。リリース・ツリーが開きます。ツリーを展開し、カバレッジの分析対象にするサイクルを選択します。</p> <p>ステータスは、カバレッジ・アナリシス・ビューの [カバレッジ アナリシス] フィールドの下に視覚的に表示されます。[カバレッジ アナリシス] フィールドの詳細については、「[カバレッジ アナリシス]」(348 ページ) を参照してください。</p> <p>注：</p> <p>[実行アナリシス] オプションは、算出に [直接カバレッジ ステータス] フィールドを使用しません。その代わりに、フィルタに含まれるサイクルに割り当てられたテスト・セット・フォルダに属するインスタンスを持つテストに基づいて算出された直接カバレッジ・ステータス値を使用します。この場合、フィルタに含まれるサイクル向けのテスト・カバレッジを持たない要件は分析に含まれません。</p> <p>[直接カバレッジ ステータス] フィールドの詳細については、「[直接カバレッジ ステータス]」(349 ページ) を参照してください。</p> <p>[実行アナリシス] オプションを選択すると、[直接カバレッジ ステータス] フィールドは、カバレッジ・アナリシス・ビューでは利用できません。</p> <p>Quality Center Starter Edition : 実行アナリシスは利用できません。</p>

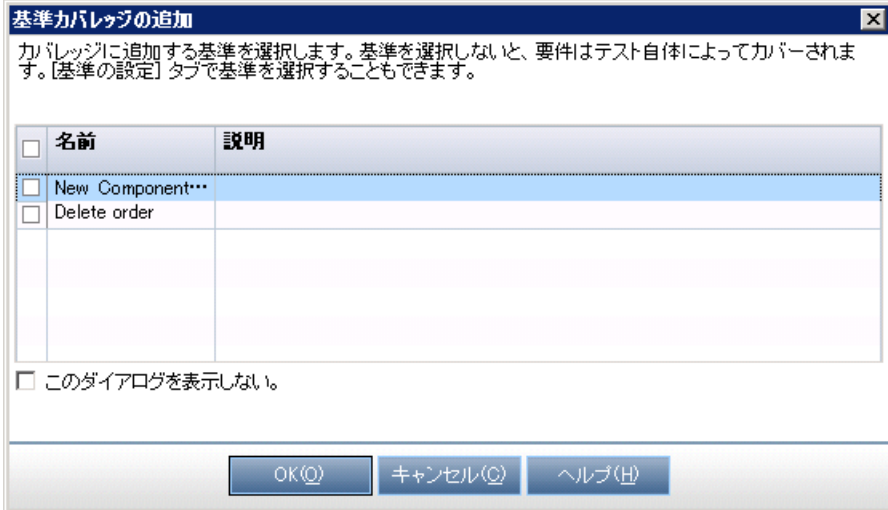
第 20 章・要件とテスト・カバレッジ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<グラフ領域>	<p>選択した要件とその子要件のカバレッジ・ステータスを表示します。</p> <p>グラフ内の各部分をクリックすると、クリックした部分のステータスに対応する子要件のリストが表示されます。</p> <p>リストから要件を選択して [移動] をクリックすると、要件ツリー内でその要件を強調表示できます。</p> <p>例： [Failed] 領域をクリックすると、失敗のステータスとともに要件のリストを表示します。</p>
[クリップボードへコピー]	<p>[カバレッジアナリシス] ボックスのスナップショットをクリップボードにコピーします。</p>
[テスト・カバレッジを表示]	<p>ダイアログ・ボックスを展開すると、テスト・カバレッジ・グラフを表示します。この円グラフでは、要件の完全なテスト・カバレッジがテスト・ステータスごとにグループ化して視覚的に表示されています。</p> <p>グラフ内の各部分をクリックすると、その部分のステータスに対応する要件と子要件がカバーするテストの一覧が表示されます。[ステータスフィルタ] に、グラフの中で選択した領域のステータスが設定された状態で [テストカバレッジ] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「テスト・カバレッジ・ページ」（548 ページ）を参照してください。</p> <p>注： 親要件に複数の子があり、すべての子が同じテストをカバーする場合、そのテストは親要件のテスト・カバレッジ・チャートに一度だけ含まれます。</p>

[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、テストの基準を追加できます。






基準カバレッジの追加

カバレッジに追加する基準を選択します。基準を選択しないと、要件はテスト自体によってカバーされます。[基準の設定] タブで基準を選択することもできます。

名前	説明
<input type="checkbox"/> New Component...	
<input type="checkbox"/> Delete order	

このダイアログを表示しない。

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 要件モジュールで、要件ツリーから要件を選択します。[テスト カバレッジ] タブをクリックします。[選択]  をクリックすると、ウィンドウの右側に [テスト計画ツリー] 表示枠が表示されます。 2 [テスト計画ツリー] 表示枠で、ビジネス・プロセス・テストを選択して [カバレッジに追加]  をクリックします。代わりに、テスト設定表示枠で、ビジネス・プロセス・テストのテスト設定を選択して [カバレッジにテスト設定を追加]  をクリックします。[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。
重要な情報	Business Process Testing : テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)
参照項目	「カバレッジ・アナリシス・ビュー」(535 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[説明]	条件の説明。
[このダイアログを表示しない]	このダイアログ・ボックスを非表示にします。 このダイアログ・ボックスを表示するには、[表示] > [テスト カバレッジ] > [[基準カバレッジの追加] を表示] を選択します。
[名前]	条件の名前。

第 21 章

テスト・パラメータ

本章の内容

概念

「テスト・パラメータの概要」(560 ページ)

タスク

「テスト・パラメータの使用方法」(561 ページ)

リファレンス

「テスト・パラメータのユーザ・インタフェース」(564 ページ)

概念

テスト・パラメータの概要

テストにパラメータを追加できます。**テスト・パラメータ**は、パラメータが定義されているテストの外側から値を割り当てることができます。パラメータを使用することで、毎回異なるデータで同じテストを繰り返し実行することができ、テストの柔軟性を向上させます。

手動テストを使用する場合、テスト内からデザイン・ステップにパラメータを追加したり、それらを別のテストから呼び出してパラメータを追加できます。これは、別のテストの一環として実行することが多い共通のステップがある場合に役立ちます。たとえば、アプリケーションの起動時にユーザとしてログインを行うテンプレート・テスト「**Login_Template**」を作成できます。このテストは、各テストの開始時に呼び出す必要があります。また、通常ユーザとしてアプリケーションにログインする場合と、プロジェクト管理者としてログインする場合が必要であるとします。

そのためには、<<<user name>>> および <<<password>>> という 2 つのパラメータを作成し、「**Login_Template**」を呼び出すテストのタイプに応じて値を変更できます。通常ユーザとしてログインすることが多い場合には、通常ユーザ名とパスワードをこのパラメータの標準設定の値として設定しておきます。手動テストの呼び出しの詳細については、「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ)を参照してください。

自動テストを使用する場合、テスト内からテスト・スクリプトのパラメータを定義するか、または共有のテスト・リソース・ファイルからパラメータを読み込むことができます。テスト・リソースの使用の詳細については、「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)を参照してください。

タスクの詳細については、「テスト・パラメータの使用方法」(561 ページ)を参照してください。

タスク

テスト・パラメータの使用方法

このタスクでは、テスト・パラメータの使用方法について説明します。

テスト・パラメータの詳細については、「テスト・パラメータの概要」(560 ページ)を参照してください。

ビジネス・プロセス・テスト/QuickTest Professional : ビジネス・プロセス・テスト・タイプまたは QuickTest テスト・タイプを使用する場合は、テスト・パラメータの使用にさまざまなオプションが利用できます。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』および『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「前提条件」(562 ページ)

「テスト・パラメータの定義」(562 ページ)

「パラメータをデザイン・ステップに追加します」(562 ページ)

「パラメータへの実際の値の割り当て」(562 ページ)


1 前提条件

手動テストは、テスト計画ツリーで定義されます。詳細については、「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ) を参照してください。

2 テスト・パラメータの定義

[パラメータ] タブで、テスト・デザイン・ステップで使用するテスト・パラメータを計画して定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規 Test Parameter] / [Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックス」(568 ページ) を参照してください。

3 パラメータをデザイン・ステップに追加します

デザイン・ステップの作成中に、[新規パラメータ]  をクリックして、デザイン・ステップにパラメータを追加します。[パラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[パラメータ] タブ / [パラメータ] ダイアログ・ボックス」(565 ページ) を参照してください。

あるいは、デザイン・ステップの [詳細] または [予期される結果] で、新規または既存のパラメータ名を <<<パラメータ名>>> 形式で入力します。新しいパラメータを入力すると、テスト・パラメータ・グリッドに自動的に追加されます。

デザイン・ステップでパラメータ名に書式を適用する場合、同一の書式をパラメータ名全体、および <<< と >>> にも適用する必要があります。たとえば、<<<password>>> パラメータをイタリック体にする場合、password という語だけでなく、<<<password>>> の文字列全体をイタリック体にする必要があります。

4 パラメータへの実際の値の割り当て

テストを実行する前に、ALM からテストに含まれるパラメータに実際の値を割り当てるよう求められます。**実際の値**は、テストの実行中に使用されるデータです。パラメータの標準設定値を実際の値として使用できます。

テストの設計では、3つの段階で実際の値を割り当てるよう ALM から求められます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[呼び出されたテストパラメータ] / [テストのパラメータ] ダイアログ・ボックス」(570 ページ) を参照してください。

テスト・ポリシーに応じて、次の3つの段階のいつでも実際の値を割り当てることができます。

パラメータを使ったテストの呼び出し時: テストの呼び出し時にパラメータに実際の値を割り当てると、呼び出し元テストから作成した各テスト・インスタンスに値が自動的に適用されます。

テスト・インスタンスの作成時: テスト・インスタンスの作成時にパラメータに実際の値を割り当てると、テスト・インスタンスの各実行に値が自動的に適用されます。テスト・インスタンスの実行設定ビューで、実際の値をテスト・インスタンスに割り当てることができます。「[テスト インスタンス詳細] - 実行設定ビュー」(808 ページ) を参照してください。

テストの実行時: 実際の値をテスト実行のパラメータに割り当てると、値はそのテスト実行だけに適用されます。この段階で実際の値を割り当てない場合、テストは NULL 値で実行されます。

それらの各段階において、まだ値が割り当てられていないパラメータにのみ値を割り当てることができます。

リファレンス

テスト・パラメータのユーザ・インタフェース

本項の内容

「[パラメータ] タブ / [パラメータ] ダイアログ・ボックス」(565 ページ)

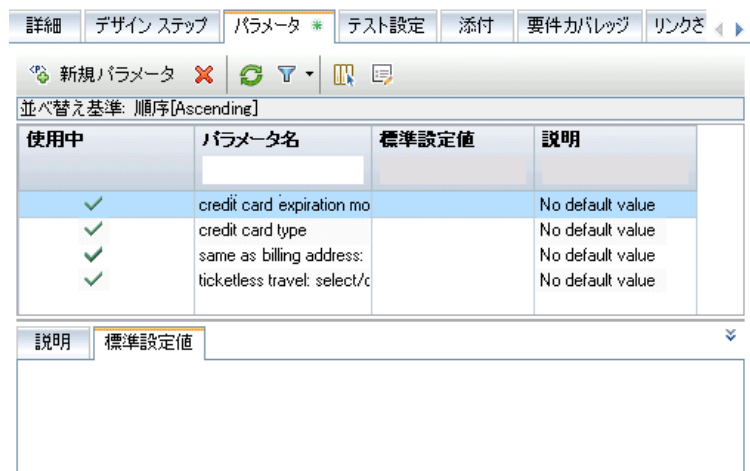
「[新規 Test Parameter] / [Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックス」(568 ページ)


「[呼び出されたテスト パラメータ] / [テストのパラメータ] ダイアログ・ボックス」
(570 ページ)

[パラメータ] タブ/ [パラメータ] ダイアログ・ボックス

[パラメータ] タブでは、テスト・パラメータの作成および表示が行えます。






[パラメータ] ダイアログ・ボックスでは、テスト実行にテスト・パラメータを挿入できます。






アクセス方法	<p>[パラメータ] タブ： テスト計画ツリーでテストを選択し、[パラメータ] タブをクリックします。</p> <p>[パラメータ] ダイアログ ボックス： テスト計画ツリーで、テスト（ビジネス・プロセス・テストまたはフロー以外）を選択して、[デザインステップ] タブをクリックします。デザイン・ステップをダブルクリックして、カーソルを [説明] または [予期される結果] フィールドに移動します。[パラメータの挿入]  をクリックします。</p>
重要な情報	<p>[パラメータ] ダイアログ・ボックスでパラメータを選択すると、パラメータが <<<パラメータ名>>> の書式でデザイン・ステップのカーソルの位置に挿入されます。</p>

関連タスク	「テスト・パラメータの使用方法」(561 ページ) 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』
参照項目	「テスト・パラメータの概要」(560 ページ) 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

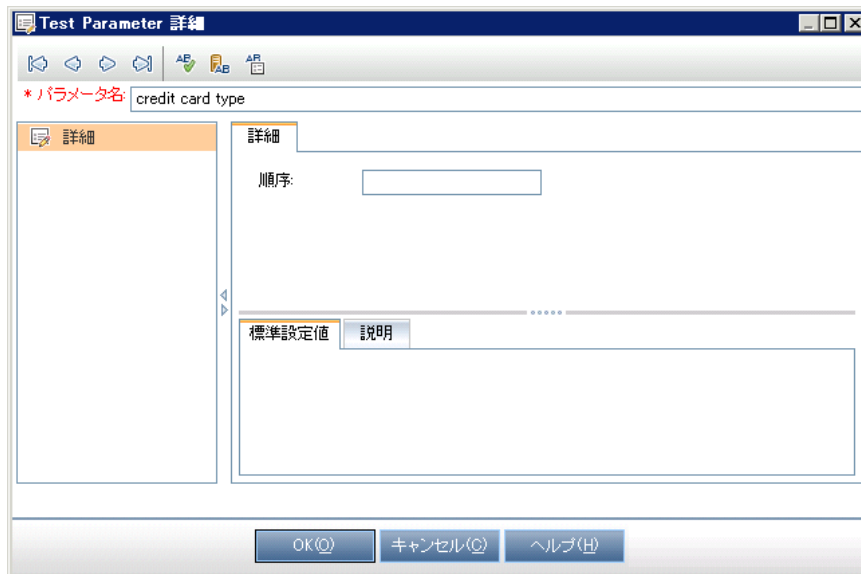
UI 要素	説明
	[リソースへ移動] ：テスト・リソース・ツリーに移動して、選択したリソースを強調表示します。 注 ：このオプションは自動テスト・タイプでのみ表示されます。
	[リソース・プレビュー] ：選択したテスト・リソースの内容を表示します。 注 ：このオプションは自動テスト・タイプでのみ表示されます。
	[パラメータのマップ] ダイアログ・ボックスが開きます。パラメータ名を、選択したテスト・リソース・ファイルのカラム名にマップできます。 [マップされた値] カラムで、各パラメータ名に対してテスト・リソースのカラム名を入力します。 使用可能 ：自動テスト・タイプ
 新規パラメータ	[新規パラメータ] ：[新規 Test Parameter] ダイアログ・ボックスが開き、新しいパラメータを定義できます。詳細については、「[新規 Test Parameter] / [Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックス」(568 ページ)を参照してください。
	[削除] ：現在選択中のパラメータを削除します。デザイン・ステップに含まれるパラメータを削除すると、デザイン・ステップのパラメータは、<パラメータ名>の書式で通常のテキストに置き換えられます。
	[更新] ：テスト・パラメータを更新して最新の情報を表示します。

UI 要素	説明
	<p>[フィルタを設定] : [フィルタ Test Parameters] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・パラメータ・グリッドのテスト・パラメータをフィルタ処理して並べ替えることができます。現在適用されているすべてのフィルタまたは並べ替えの順序が、ツールバーの下に表示されます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[カラムの選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[パラメータの詳細] : [Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したパラメータの詳細を表示します。詳細については、「[新規 Test Parameter] / [Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックス」(568 ページ) を参照してください。</p>
<p><テスト・パラメータ・フィールド></p>	<p>テスト・パラメータで利用可能なフィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) を参照してください。</p>
<p>[データ リソース]</p>	<p>テスト・リソース・ツリーからテスト・リソース・ファイルを読み込むことができます。テスト・リソースの詳細については、「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ) を参照してください。</p> <p>注 : このオプションは自動テスト・タイプでのみ表示されます。</p>
<p>[標準設定値]</p>	<p>パラメータの標準設定値。</p>
<p>[説明]</p>	<p>パラメータの説明。</p>
<p>[使用中]</p>	<p>パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。</p>

[新規 Test Parameter] / [Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックス






[新規 Test Parameter] ダイアログ・ボックスが開き、テスト・パラメータを定義できます。

[Test Parameter 詳細] ダイアログ・ボックスでは、テスト・パラメータの詳細の表示と変更ができます。



<p>アクセス方法</p>	<p>テスト・パラメータの新規作成： テスト計画ツリーでテストを選択し、[パラメータ] タブをクリックします。 [パラメータの新規作成] ボタンをクリックします。[テスト パラメータの新規作成] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>テストパラメータの詳細： テスト計画ツリーでテストを選択し、[パラメータ] タブをクリックします。 パラメータをダブルクリックします。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「テスト・パラメータの使用方法」(561 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「テスト・パラメータの概要」(560 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[最初の/前の/次の/最後のエンティティ]: テスト・パラメータを通して表示できるようになります。</p> <p>使用可能な場所: [詳細 Test Parameter] ダイアログ・ボックス</p>
	<p>[全てのフィールドをクリア]: 全てのフィールドをクリア。</p> <p>使用可能な場所: [新規 Test Parameter] ダイアログ・ボックス</p>
	<p>[スペル チェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[類語辞典]: 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。</p>
	<p>[スペル オプション]: ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。</p>
<p>[標準設定値]</p>	<p>パラメータの標準設定値。</p>
<p>[説明]</p>	<p>パラメータの説明。</p>
<p>[詳細] タブ</p>	<p>テスト・パラメータで利用可能なフィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ)を参照してください。</p>

[呼び出されたテスト パラメータ] / [テストのパラメータ] ダイアログ・ボックス


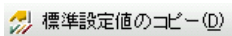
[呼び出されたテスト パラメータ] ダイアログ・ボックスでは、呼び出したテストに含まれるパラメータの実際の値を表示して割り当てることができます。

[テストのパラメータ] ダイアログ・ボックスでは、テスト・インスタンスまたはテスト実行のパラメータの実際の値を割り当てることができます。



アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト計画モジュールでテストを選択し、[デザイン ステップ] タブをクリックします。ステップを右クリックし、[テストの呼び出し] を選択します。テストを選択します。選択したテストにパラメータが含まれている場合、[呼び出されたテストのパラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>テスト計画モジュールでテストを選択し、[デザイン ステップ] タブをクリックします。テストの呼び出しを含むステップを右クリックし、[呼び出したテストのパラメータ] を選択します。[呼び出されたテストパラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>テスト・ラボ・モジュールで、パラメータを使ってテストを実行します。[テストのパラメータ] ダイアログ・ボックスによって、パラメータに実際の値を割り当てるよう要求されます。</p>
重要な情報	実際の値がまだ設定されていないパラメータのみが表示されます。
関連タスク	「テスト・パラメータの使用方法」(561 ページ)
参照項目	「テスト・パラメータの概要」(560 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[カラムの選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、ダイアログ・ボックスに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[実際の値] カラムの値を、現在選択しているパラメータの [標準設定値] カラムの値で置き換えます。</p>
<p>[実際の値]</p>	<p>テスト実行中にパラメータに使用される実際の値。</p> <p>[実際の値] カラムまたは [実際の値] タブに、実際の値を入力します。</p>
<p>[標準設定値]</p>	<p>パラメータの標準設定値。</p>
<p>[説明]</p>	<p>パラメータの説明。</p>

第 21 章・テスト・パラメータ

UI 要素	説明
[パラメータ名]	パラメータの名前。
[使用中]	パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。

第 22 章

テストの設計

本章の内容

概念

「テストの設計の概要」(574 ページ)

「テストの自動化」(575 ページ)

タスク

「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ)

リファレンス

「デザイン・ステップのユーザ・インタフェース」(581 ページ)

概念

テストの設計の概要

テストをテスト計画ツリーに追加した後は、デザイン・ステップを定義してテストを組み立てます。詳細については、「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ) を参照してください。

テスト・ステップを定義したら、テストを手作業で実行するか、自動化するかを決定します。

手動テストの場合、ステップを定義し、これらのステップをアプリケーションで実行し、それぞれのステップの結果を記録します。手動テストは、テスト担当者の応答が必要な場合に使用します。手動テストには、ユーザビリティ・テスト、1 回限りのテスト、すぐに実行する必要のあるテスト、アプリケーションの知識が必要なテスト、および結果が予測できないテストがあります。

たとえば、航空券予約アプリケーションの場合、ダイアログ・ボックスがユーザにとって使いやすいものであるかどうかを確認するテストでは、ユーザの意見が必要です。したがって、これらのテストは手作業で行う必要があります。

自動テストでは、テストのエキスパートが詳細なテスト・スクリプトを作成するための基礎としてデザイン・ステップを使用できます。自動テストの場合、HP のテスト・ツール、またはサードパーティ製のテスト・ツールを使用して、自動テスト・スクリプトを作成する必要があります。自動テストの詳細については、「テストの自動化」(575 ページ) を参照してください。

テストの設計の一部として、別の手動テストへの呼び出しを含めることができます。呼び出し元のテストを実行すると、呼び出し元のテストには呼び出し先のテストのステップが組み込まれます。これは、別のテストの一環として実行することが多い共通のステップがある場合に役立ちます。

たとえば、多くの異なるテストにログイン・ステップを含めるとします。アプリケーションの起動時にユーザとしてログインを行うテスト「**Login_Template**」を作成できます。このテストは、各テストの開始時に呼び出すことができます。

テンプレート・テストにはテスト・パラメータを含めることができます。呼び出し元のテストのタイプに基づいたさまざまなデータでテンプレート・テストを実行する場合、パラメータが役立ちます。手動テストでのパラメータの使用の詳細については、「テスト・パラメータの概要」(560 ページ)を参照してください。

テストの設計の詳細については、「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ)を参照してください。

テストの自動化

テスト計画の作成には、自動化するテストを決めるという作業も含まれます。テストを自動化すると、QuickTest Professional、LoadRunner、または Visual API-XP を使用してテスト・スクリプトを作成し、そのテストを実行できます。

テストを自動化すると、テストを短時間かつ無人で実行できます。また、テストを再利用したり、繰り返し実行したりすることができます。たとえば、機能テストやベンチマーク・テスト、単体テスト、ストレス・テスト、負荷テストを自動実行できるほか、アプリケーションに関する詳細情報が要求されるテストも自動実行できます。

テストを自動化するかどうかを決めるときには、次の事項を考慮してください。

実行の頻度

自動化に適しているのは、アプリケーションの新しいバージョンが出るごとに実行するテストです。こうしたテストには、アプリケーション全体の基本的な機能の動作を確認する動作確認テストが含まれます。アプリケーションの新しいバージョンが出るたびに、動作確認テストを実行して新しいバージョンの安定性を確認してから、詳細なテストに進みます。

1つの操作に対して複数のデータ値を使用するテスト(データ駆動テスト)も自動化に適しています。入力するデータ・セットを毎回更新しながら同じテストを手作業で実行すると、時間がかかり非効率的です。自動のデータ駆動テストを作成することによって、複数のデータ・セットを使用したテストを1回で実行することができます。

ストレス/負荷テスト

何回も実行するテスト（ストレス・テスト）やマルチユーザのクライアント/サーバ・システムを確認するテスト（負荷テスト）も自動化することをお勧めします。たとえば、テストを 1,000 回繰り返すとしします。このテストを手作業で実行するのは、実に非現実的です。この場合には、1,000 回反復実行されるテストを作成できます。

自動化すべきでないテスト

一般に、ユーザによる操作の必要が多ければ多いほど、テストは自動化に適していません。次に示すテスト・ケースは、自動化するべきではありません。

ユーザビリティ・テスト — アプリケーションの使いやすさを検査するための使用方法モデルを提供するテスト。

1 回だけ実行するテスト。

直ちに実行する必要のあるテスト。

ユーザの直感およびアプリケーションの知識に基づいたテスト。

結果を予測できないテスト。

タスク

テスト・ステップの設計方法

テストをテスト計画ツリーに追加した後は、テスト担当者がテストを完了するために実行する、詳細で段階的な指示を記述します。各テストのステップには、操作の説明が含まれています。

注：このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ)を参照してください。

テストの設計の詳細については、「テストの設計の概要」(574 ページ)を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「前提条件」(577 ページ)

「テストのステップの作成」(578 ページ)

「テンプレート・テストの呼び出し (オプション)」(579 ページ)

「自動テストの生成 (オプション)」(579 ページ)

「結果」(580 ページ)

1 前提条件



テスト、および基本的なテストの情報については、テスト計画ツリーで定義されます。

テストの作成のタスク詳細については、「テストを作成する方法」(489 ページ)を参照してください。

2 テストのステップの作成

テスト担当者がテストを実行するのに必要なステップを記述します。テストのステップには、アプリケーションで実行するアクション、入力内容、およびアクションや入力に対して予期される結果を指定します。

テストのステップを作成するには、次の手順で行います。

- a テスト計画モジュールで、[表示] > [テスト計画ツリー] を選択し、テストを選択します。
- b [デザイン ステップ] タブをクリックします。
- c 既存のデザイン・ステップがある場合、新しいステップを追加するステップを次から選択します。
- d [新規ステップ]  をクリックします。[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[デザイン ステップ] タブ/[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス」(582 ページ) を参照してください。
- e デザイン・ステップにパラメータを追加するには、[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックスで、[パラメータの挿入]  をクリックします。テスト・パラメータの作業の詳細については、「テスト・パラメータの使用法」(561 ページ) を参照してください。

例：

Mercury Tours application の [Reservation Details] ページをテストするには、次のようにデザイン・ステップを作成するとよいでしょう。


ステップ名	説明	予期される結果
Initialization	1. Register new user profile. 2. Create different flight reservations for the user. Print Flight Confirmation for each reservation created to compare the reservation details in following steps.	
Step 1: Open Itinerary	Select the itinerary from the top menu.	The Itinerary page opens. All the flight reservations that you have created in the Initialization step should be shown.
Step 2: Compare Flight Reservation Details	Compare the flight reservation details in the Flight Confirmation page (printed in the Initialization step), to the details in the Itinerary page. Check each of the following: 1. Booking date and time. 2. Departing and returning destinations. 3. Airline and flight number. 4. Service class. 5. Number of	All flight reservation details must be identical Flight Confirmation and Itinerary page.

3 テンプレート・テストの呼び出し（オプション）

アプリケーションへのログインなどの、共通で使用される指示をテストに含めるには、共通の指示が含まれるテスト内からテンプレート・テストを呼び出すことができます。

注：テンプレート・テストの作成の詳細については、「テストを作成する方法」（489 ページ）を参照してください

テンプレート・テストを呼び出すには、次の手順で行います。

- a テンプレート・テストに含めるテストを選択します。
- b **[デザイン ステップ]** タブをクリックします。
- c 既存のデザイン・ステップがある場合、テンプレート・テストを呼び出すステップを次から選択します。
- d **[テストの呼び出し]**  をクリックします。
- e **[テストを選択]** ダイアログ・ボックスで、呼び出すテストを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テストを選択] ダイアログ・ボックス」（590 ページ）を参照してください。

選択したテンプレート・テストへの呼び出しが、選択したステップの下に挿入されます。テストを実行すると、テンプレート・テストのデザイン・ステップがそれに応じて一覧表示されます。

4 自動テストの生成（オプション）


手動テストにステップを作成すると、自動テストとしてテストを実行するスクリプトの生成に使用可能な、テスト・スクリプト・スケルトンを生成できます。

注：

テストの自動化に関する考慮事項については、「テストの自動化」（575 ページ）を参照してください。

自動テスト・タイプの一覧については、「テストのタイプ」（493 ページ）を参照してください。

自動テストを生成するには、次の手順で行います。


[デザイン ステップ] タブで、**[スクリプトの生成]**  をクリックして、変換先の自動テスト・タイプを選択します。

手動テストのステップに表示される任意のテキストは、生成されたテスト・スクリプトではコメントとして表示されます。手動テストにパラメータが設定されている場合、パラメータもコメントのテキストとして表示されます。

例：

航空券予約アプリケーションの場合、ログインの仕組みが機能するかどうかを確認するテストを自動化できます。テスト・ステップを追加した後、テスト・スクリプトを作成します。次に、QuickTest Professional を使用して、自動テスト・スクリプトを完成します。

5 結果

追加するデザイン・ステップが、[デザイン ステップ] タブに表示されます。デザイン・ステップをテストに初めて追加する場合、テスト・アイコンの隣のテスト計画ツリーに足跡  が表示され、ステップがテスト用に定義されたことを示します。

リファレンス

デザイン・ステップのユーザ・インタフェース

本項の内容

「[デザイン ステップ] タブ/ [デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス」
(582 ページ)

「[テスト スクリプト] タブ」 (588 ページ)

「[テストを選択] ダイアログ・ボックス」 (590 ページ)

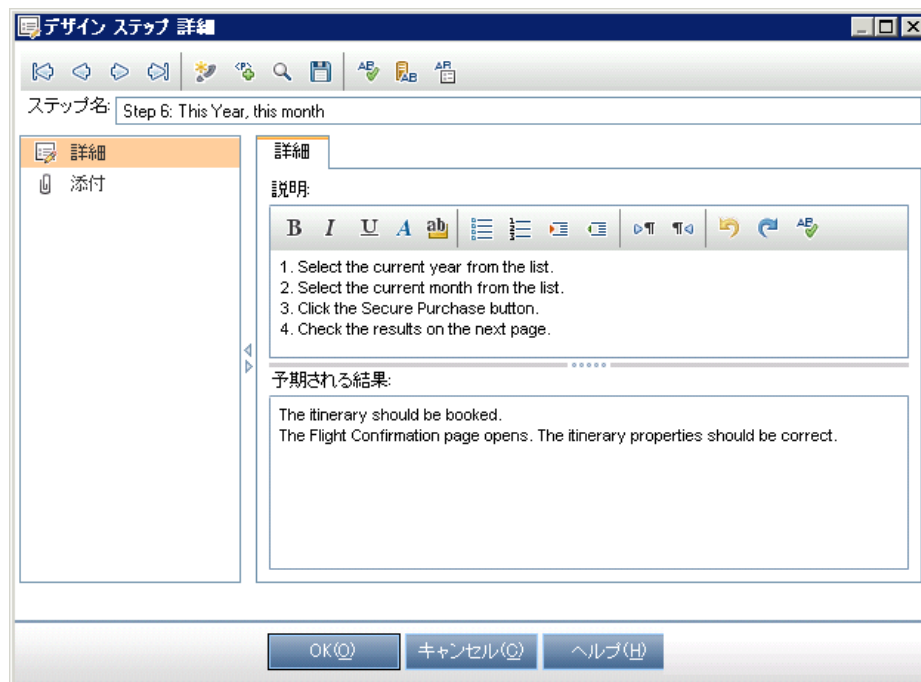
「[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックス」
(592 ページ)

「[条件] タブ」 (593 ページ)

🔗 [デザイン ステップ] タブ/[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス

[デザイン ステップ] タブでは、選択したテストのデザイン・ステップを表示して編集することができます。[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックスでは、個別のデザイン・ステップを作成して編集できます。









ステップ名	説明	予期される結果
Call <Connect And Sign-On>	Call <Connect And Sign-On> with the following parameters: user name = ?, mercury tours url = ?, password = ?	
Call <Book Flight Preparation>	Call <Book Flight Preparation> with the following parameters: return flight = ?, sections to complete = ?, airline = ?, number of passengers = ?, class of service = ?, depart flight = ?, round or oneway = ?	
Step 3: General	After each step performing, in case of incorrect filling, make sure that you can go back and refill all fields	
Step 4: Future Year	<ol style="list-style-type: none"> Select a future year from the list. Select a month from the list. Click the Secure Purchase button. Check the results on the next page. 	The itinerary should be booked. The Flight Confirmation page opens. The itinerary properties should be correct.
Step 5: Future Month, This Year	<ol style="list-style-type: none"> Select the current year from the list. Select a future month from the list. Click the Secure Purchase button. Check the results on the next page. 	The itinerary should be booked. The Flight Confirmation page opens. The itinerary properties should be correct.
Step 6: This Year, this month	<ol style="list-style-type: none"> Select the current year from the list. Select the current month from the list. Click the Secure Purchase button. Check the results on the next page. 	The itinerary should be booked. The Flight Confirmation page opens. The itinerary properties should be correct.
Step 7: Past	<ol style="list-style-type: none"> Select an expired date. 	The itinerary should not be booked.











<p>アクセス方法</p>	<p>[デザイン ステップ] タブ : テスト計画モジュールで、テスト計画ツリーからテストを選択し、[デザイン ステップ] タブをクリックします。</p> <p>[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス : テスト計画モジュールで、テスト計画ツリーからテストを選択し、[デザイン ステップ] タブをクリックします。次のいずれかを使用します。</p> <p>デザイン・ステップのグリッドを右クリックするか、デザイン・ステップで、[新規ステップ] を選択します。</p> <p>デザイン・ステップを右クリックして[ステップの編集]を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>デザイン・ステップでパラメータ名に書式を適用する場合、同一の書式をパラメータ名全体、および <<< と >>> にも適用する必要があります。たとえば、password パラメータをイタリック体にする場合、password という語だけでなく、<<<password>>> の文字列全体をイタリック体にする必要があります。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「テストの設計の概要」(574 ページ)</p>




第 22 章・テストの設計

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	デザイン・ステップを通して表示できるようになります。 使用可能な場所 ：[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス
	[スペル チェック]：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。 使用可能な場所 ：[デザイン ステップの詳細] ダイアログ・ボックス
	[スペル オプション]：ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。 使用可能な場所 ：[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス
	[類語辞典]：選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。 使用可能な場所 ：[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス
	[新規ステップ]：[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックスで新しいデザイン ステップを作成します。 選択したステップの下に、新しいステップが追加されます。
	[ステップの編集]：[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックスで、選択したデザイン ステップを開きます。 ヒント ：編集するにはステップをダブルクリックします。 使用可能な場所 ：[デザイン ステップ] タブ
	[ステップの番号付け替え]：デザイン・ステップの番号を順番に付け替えます。ステップを並べ替えた後にこのコマンドを使用します。 使用可能な場所 ：[デザイン ステップ] タブ
	[選択項目の削除]：選択したデザイン・ステップを削除します。

UI 要素	説明
	<p>[ステップのコピー/ステップの貼り付け] : 選択されたデザイン・ステップをコピーして、同じプロジェクトまたは別のプロジェクトの別のテストに貼り付けます。コピーしたデザイン・ステップは、選択したステップの上に挿入されます。</p> <p>デザイン・ステップを別のプロジェクトに貼り付けると、[デザインステップをターゲットプロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[デザインステップをターゲットプロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックス」(592 ページ) を参照してください。</p> <p>注 : デザイン・ステップ・テストで使用されているパラメータは、ターゲット・テストにコピーされます。</p> <p>使用可能な場所 : [デザイン ステップ] タブ</p>
	<p>[添付] : [添付] ページが開きます。添付ファイルを選択したデザイン・ステップに追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p> <p>添付ファイルを追加した後は、デザイン ステップ・グリッドの適切なデザイン・ステップの隣に  アイコンが表示されます。</p> <p>注 : 添付ファイルをデザイン・ステップに追加すると、テストが実行されるたびに添付ファイルのコピーが作成されます。</p>
	<p>[テストの呼び出し] : [テストを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。別の手動テストを呼び出すことができます。詳細については、「[テストを選択] ダイアログ・ボックス」(590 ページ) を参照してください。テストの呼び出しは、新しいデザイン・ステップとして選択したステップの下に挿入されます。</p> <p>使用可能な場所 : [デザイン ステップ] タブ</p>

UI 要素	説明
	<p>[スクリプトの生成] : テストを、適切な自動テストツールによって実行される自動テストのタイプに変換できます。テストを自動化するかしないかについて考慮すべき事項については、「テストの自動化」(575 ページ) を参照してください。</p> <p>テスト・タイプの詳細については、「テストのタイプ」(493 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM は、現在のデザイン・ステップに基づいてテスト・スクリプト・スケルトンを生成します。</p> <p>自動化したテストの隣のテスト・アイコンは、自動テスト・アイコンに置き換えられます。</p> <p>注 :</p> <p>テストを自動化した後は、手動のテスト・タイプに変換して戻すことはできません。</p> <p>フロー以外の自動テスト・タイプについては、このボタンを使用して別のテスト・ツールを選択できます。</p> <p>使用可能な場所 : [デザイン ステップ] タブ</p>
	<p>[パラメータの挿入] : [パラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・パラメータを [説明] フィールドまたは [予期される結果] フィールドに挿入できます。パラメータはカーソルの位置に挿入されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[パラメータ] タブ/ [パラメータ] ダイアログ・ボックス」(565 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[テキストの検索] : [デザイン ステップ] タブで、[検索] ダイアログ・ボックスが開き、特定のフィールドでテキストの検索ができます。詳細については、「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ) を参照してください。</p> <p>[テキストの検索/置換] : [デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックスで、[検索と置換] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフィールドで、指定した文字列の検索または置換ができます。</p>
	<p>[カラムの選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドに表示するカラムと表示の順序を定義できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : [デザイン ステップ] タブ</p>

UI 要素	説明
	<p>[行の高さの調整] : テスト・ステップの行のサイズを調整します。これにより、テキストが長い場合でも [説明] カラムや [予想される結果] カラムですべてのテキストを表示できるようになります。</p> <p>ヒント : 単一ステップのサイズを変更するには、ステップの下にあるグリッドライン上の灰色のサイドバー上にマウスを置きます。カーソルが垂直の矢印に変わります。グリッドラインを上または下にドラッグします。</p> <p>使用可能な場所 : [デザイン ステップ] タブ</p>
	<p>[ステップの保存] : デザイン・ステップをプロジェクトに保存します。長いテキストを入力する場合は、[ステップの保存] ボタンを使用してデータの消失を防止します。</p>
	<p>[下へ移動] / [上へ移動] : 選択したデザイン・ステップを、デザイン・ステップ・グリッド内で上または下に移動します。</p> <p>ヒント : または、デザイン・ステップを選択して新しい位置にドラッグできます。</p>
<p><デザイン・ステップ・グリッド></p>	<p>選択したテストに含まれるデザイン・ステップを表示します。</p> <p>使用可能な場所 : [デザイン ステップ] タブ</p>
<p>[添付]</p>	<p>デザイン・ステップに関して追加の情報を有する添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : [デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス</p>
<p>[説明]</p>	<p>テスト担当者が実行するための手順。</p> <p>注 :</p> <p>[説明] フィールドに含まれるテスト・パラメータは、<<< >>> 括弧で囲まれています。</p> <p>[デザイン ステップ] タブ : ステップが別のテストに対する呼び出しの場合、[説明] フィールドには、呼び出し先のテストへのリンクおよび呼び出し先のテストに含まれるパラメータの実際の値が表示されます。呼び出し先のテスト・パラメータの実際の値を編集するには、リンクを右クリックし、[呼び出したテストのパラメータ] を選択します。</p> <p>ヒント : このフィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>

UI 要素	説明
[詳細]	デザイン・ステップの詳細。必須のフィールドは赤く表示されます。 使用可能な場所 ：[デザイン ステップの詳細] ダイアログ・ボックス
[予期される結果]	ステップの手順を実行した後の期待される状態です。 ヒント ：このフィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
[ステップ名]	ステップの名前です。 標準設定値 ：デザイン・ステップの通番です。たとえば、初めてテストにステップを追加する場合は「 ステップ 1 」となります。 注 ： [ステップ名] フィールドに含まれるテスト・パラメータは、<<<>>> 括弧で囲まれています。 ステップが別のテストに対する呼び出しの場合、[ステップ名] フィールドには、呼び出し先のテストへのリンクおよび呼び出し先のテストに含まれるパラメータの実際の値が表示されます。呼び出し先のテスト・パラメータの実際の値を編集するには、リンクを右クリックし、[呼び出したテストのパラメータ] を選択します。

[テスト スクリプト] タブ

このタブには、選択したテストに指定されたテスト・ツールによって実行されるスクリプトが含まれます。

使用可能な場所：自動テスト・タイプ

アクセス方法	テスト計画ツリーでテストを選択し、[テスト スクリプト] タブをクリックします。
重要な情報	システム・テストのユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスト スクリプト] タブ システム・テスト」(623 ページ)を参照してください。 [テスト スクリプト] タブは、適切なテスト・ツールでデザインされた要素でポピュレートされます。詳細については、テスト・ツールのドキュメントを参照してください。

関連タスク	「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ)
参照項目	「テストの自動化」(575 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【起動】	適切なテスト・ツールのテスト・スクリプトを表示します。





[テストを選択] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、デザイン・ステップで呼び出す手動テストを選択できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 テスト計画モジュールで、テスト計画ツリーからテストを選択し、[デザインステップ] タブをクリックします。 2 手動テストへの呼び出しを追加するデザイン・ステップを右クリックして、[テストの呼び出し] を選択します。
重要な情報	<p>呼び出したテストにパラメータが含まれている場合、[呼び出したテストのパラメータ] ダイアログ・ボックスが開き、実際のパラメータ値を設定できます。実際値は、現在のテストから作成されたテスト・インスタンスで標準設定で使用されます。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[呼び出されたテスト パラメータ] / [テストのパラメータ] ダイアログ・ボックス (570 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	<p>「テスト・ステップの設計方法」(577 ページ)</p>
参照項目	<p>「テストの設計の概要」(574 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[更新]：最新のテストが表示されるように、テスト計画ツリーを更新します。
	[フィルタ/ソート]：[フィルタ テスト] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト計画ツリーのテストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」（60 ページ）を参照してください。
	[検索]：テスト計画ツリーで特定のテストを検索します。 [検索] ボックスにテストの名前を入力し、[検索] ボタンをクリックします。検索が成功すると、ツリーの中でテストが強調表示されます。[検索] ボタンを再度クリックして次に一致するテストを強調表示します。
	[ID でテストに移動]：[テストへ移動] ダイアログ・ボックスが開き、ID でテストを選択できます。
<テスト計画ツリー>	手動テストを含むテスト計画ツリーのフォルダを表示します。[テンプレート テストのみを表示] チェック・ボックスを選択すると、テンプレート・テストが含まれるフォルダのみが表示されます。 ツリーを展開して、呼び出し先となるテストに移動します。
[テンプレート テストのみを表示]	ALM がテンプレート・テストのみを表示するようにします。テンプレート・テストでないテストを選択するには、チェック・ボックスをクリアします。

[デザイン ステップをターゲット プロジェクトに貼り付け] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、デザイン・ステップを 1 つのプロジェクトのテストから別のプロジェクトのテストにコピーする方法を選択できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソース・プロジェクトで、デザイン・ステップを右クリックして [コピー] を選択します。 2 ターゲット・プロジェクトが別のブラウザ・ウィンドウで開きます。 3 ターゲット・プロジェクトで、コピーしたステップの挿入先のデザイン・ステップを右クリックして、[貼り付け] を選択します。
重要な情報	使用している ALM のバージョンとバッチ・レベルが、ソース・プロジェクトとターゲット・プロジェクトで同じである必要があります。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[デザイン・ステップをコピーして、既存の関連エンティティへリンク]	ALM はデザイン・ステップをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたデザイン・ステップは、既存のテストに同じ名前でもリンクされます。呼び出し先のテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、ALM によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。
[デザイン・ステップと関連エンティティをコピー]	ALM は、デザイン・ステップおよび呼び出し先テストをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。呼び出し先テスト名がターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、テスト名の重複の解決のため、コピーされた呼び出し先テストの名前が変更されます。
[関連エンティティをコピーせずにデザイン・ステップをコピー]	ALM は、呼び出し先テストをコピーすることなく、デザイン・ステップをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーされたデザイン・ステップは呼び出し先テストにリンクされません。



[条件] タブ

このタブでは、選択したビジネス・プロセス・テストの条件を表示できます。



アクセス方法	テスト計画ツリーでビジネス・プロセス・テストを選択し、[条件] タブをクリックします。
重要な情報	Business Process Testing : テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。
参照項目	「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[更新] : 条件グリッドを更新します。
 コンポーネントに移動	[テスト スクリプト] タブに移動して、選択した要素を強調表示します。
[作成者]	条件を作成したユーザの名前。

UI 要素	説明
【作成日】	条件が作成された日付。標準設定では、条件が作成されたサーバの日付に設定されます。
【説明】	条件の説明。
【実行ステータス】	条件の現在の実行ステータス。実行ステータスは、次のいずれかになります。Failed, N/A, No Run, Not Completed, Passed。
【名前】	条件の名前。

第 23 章

テスト設定

本章の内容

概念

「テスト設定の概要」(596 ページ)

タスク

「テスト設定の使用法」(597 ページ)

リファレンス

「テスト設定のユーザ・インターフェース」(603 ページ)

概念

テスト設定の概要

テストするアプリケーションのさまざまなユースケースに対してテストを実行できません。テストのそれぞれのユースケースは、テスト設定によって表されます。**テスト設定**は、テストの特定のユースケースを記述する定義のセットです。テスト設定それぞれについて、データのさまざまなセットを関連付けることができます。テスト設定を使用すると、同じテストを異なるシナリオで実行することができます。

テストを作成する場合、標準設定では HP Application Lifecycle Management (ALM) によって単一のテスト設定が作成されます。このテスト設定は、テストと同じ名前で作成されます。テスト計画モジュールの [テスト設定] タブを使用すると、必要に応じて好きな数だけ追加のテスト設定を作成できます。

テスト設定を、テスト計画モジュールの [パラメータ] タブで定義したデータに関連付けます。テスト設定それぞれについて、さまざまなデータを関連付けることができます。

テストのレベルでのみ各要件を対象とする代わりにカバレッジを作成する場合、要件をテスト設定にリンクすることができます。テスト設定を要件と関連付けることで、テストのさまざまなユースケースによるカバレッジを有効化し、要件カバレッジをよりきめ細かく調整できるようになります。

カバレッジを作成した後は、テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを定義します。テスト・セットには、テストに対して定義された任意またはすべてのテスト設定を含めることができます。または、要件カバレッジに基づいたテスト設定を含めることができます。テスト・セットを実行する場合、パラメータの値は各テスト設定に定義された設定に従って、データ・リソースから取得されます。

タスク

テスト設定の使用方法

このタスクでは、テスト設定の使用方法について説明します。

ヒント: このテストに関連したユースケースのシナリオについては、「テスト設定の使用
方法 - ユースケースのシナリオ」(598 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(597 ページ)
- 「テスト設定の定義」(598 ページ)
- 「カバレッジの作成」(598 ページ)
- 「テスト・セットの定義」(598 ページ)
- 「テスト結果の表示」(598 ページ)

1 前提条件

- a 要件モジュールで要件を定義します。タスクの詳細については、「要件の作成方法」
(321 ページ) を参照してください。
- b テスト計画モジュールのテスト・パラメータでテストを定義します。

テストを作成するタスクの詳細については、「テストを作成する方法」(489 ページ)
を参照してください。

テスト・パラメータのタスクの詳細については、「テスト・パラメータの使用法」
(561 ページ) を参照してください。

2 テスト設定の定義

- a テスト計画ツリーでテストを選択し、[**テスト設定**] タブをクリックします。
- b テストの設定を定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[**テスト設定**] タブ」(604 ページ) を参照してください。

Business Process Testing: テスト設定の使用の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

QuickTest Professional: テスト設定の使用方法の詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』の「ALM の使用方法」の項を参照してください。

3 カバレッジの作成

テストまたは特定のテスト設定に対するリンク要件。タスクの詳細については、「カバレッジを作成する方法」(528 ページ) を参照してください。

4 テスト・セットの定義

テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを作成して定義します。タスクの詳細については、「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ) を参照してください。

5 テスト結果の表示

テスト・セットの実行結果を表示します。タスクの詳細については、「テストの結果を表示する方法」(797 ページ) を参照してください。

テスト設定の使用法 - ユースケースのシナリオ

このユースケースのシナリオでは、ALM のテスト設定の使用法の例を示します。

会社が購買注文アプリケーションの新しいバージョンをここ数か月のうちにリリースするとします。新しいバージョンには、新しい機能強化がいくつか含まれています。機能強化の 1 つは新しい購買注文フォームです。フォームでは、Gold Card, Silver Card, Bronze Card のユーザに対して異なるソリューションを提供する必要があります。

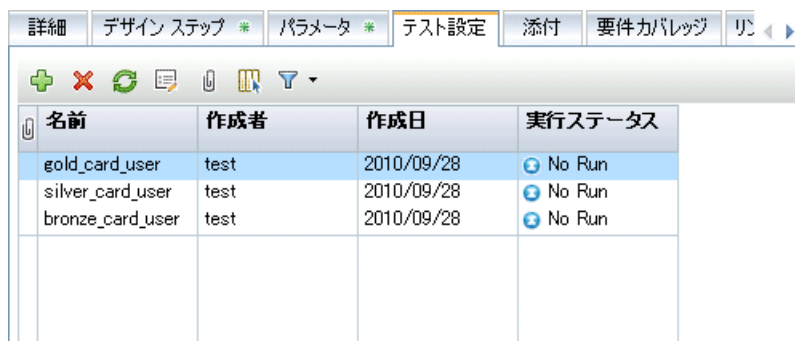
注：このシナリオに関連したタスクについては、「テスト設定の使用方法」(597 ページ)を参照してください。

このシナリオは次の手順で構成されています。

- 「テスト設定の定義」(599 ページ)
- 「カバレッジの作成」(600 ページ)
- 「テスト・セットの定義」(601 ページ)
- 「テスト結果の表示」(602 ページ)

1 テスト設定の定義

テスト計画ツリーで [user_type] テストを選択して [テスト設定] タブをクリックします。既存のテスト設定の名前を **gold_card_user** に変更します。次のテストの設定を定義します。**silver_card_user** および **bronze_card_user**。[データ] タブのテスト設定それぞれについて、各シナリオのテストで使用するデータを指定します。



名前	作成者	作成日	実行ステータス
gold_card_user	test	2010/09/28	No Run
silver_card_user	test	2010/09/28	No Run
bronze_card_user	test	2010/09/28	No Run

2 カバレッジの作成

[要件カバレッジ] タブで, [user_type_req] 要件と [user_type] テストの間の要件カバレッジを作成します。[カバレッジへ追加] をクリックします。[設定カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開き, 利用可能なテスト設定が表示されます。テスト設定をカバレッジに追加します。[テスト コンフィグレーション設定] タブでは, カバレッジに含まれるテスト設定を一覧表示します。

The screenshot shows a software interface with several tabs at the top: 詳細, テストスクリプト, パラメータ, 添付, 要件カバレッジ (selected), リンクされている不具合, 依存関係, and ビジネス. Below the tabs is a toolbar with icons for selection, refresh, and other actions. The main area is divided into two panes.

The left pane is titled '要件: 説明' and contains a table with the following data:

エンティティ名	要件: 説明
user_type_req	

The right pane is titled '要件ツリー' and shows a hierarchical tree structure:

- Requirements
 - purchase order system
 - purchase order form
 - user_type_req
 - req_1
 - req_2
 - req_3

Below the panes is a 'テスト コンフィグレーション...' dialog box with a dropdown menu and a toolbar. It contains a table with the following data:

名前	説明
gold_card_user	
silver_card_user	
bronze_card_user	

3 テスト・セットの定義

テスト・ラボ・モジュールの [実行グリッド] タブで、カバレッジに基づいたテスト・セットを作成します。[user_type_req] 要件を [要件ツリー] 表示枠から追加します。[テスト カバレッジ] 表示枠には、選択した要件を対象とするテストのリストが表示されます。[実行グリッド] には、テスト・セットに含まれるテスト設定が表示されます。

The screenshot displays the 'Test Plan Viewer' window with the 'Requirements' tab selected. The main area shows a table of test settings, and the right-hand pane shows a tree view of requirements.

設定: 名前	テスト: テスト名	タイプ
[1]gold_card_user	user_type_test	QUICKTEST_TE..
[1]silver_card_us...	user_type_test	QUICKTEST_TE..
[1]bronze_card_...	user_type_test	QUICKTEST_TE..

The requirements tree on the right shows the following structure:

- Requirements
 - purchase order system
 - purchase order form
 - user_type_req
 - req_1
 - req_2
 - req_3

Below the requirements tree, the 'Test Coverage' section is visible, showing a list of test names:

- テスト名
 - user_type_test

At the bottom of the window, there is a button labeled '最後の実行レポート' (Last Execution Report).

4 テスト結果の表示

テスト・セットの実行後、結果を表示します。[テスト実行]タブは、[bronze_card_user] テスト設定によるテスト実行が失敗したこと、および [gold_card_user] と [silver_card_user] テスト設定によるテスト実行が成功したことを示しています。

テストセット		テスト実行					
テスト実行		編集	表示	アナリシス			
フィルタ: 実行日 [[今月]] 並び替え基準: 実行日 [Descending] 実行時間 [Descending]							
実行 ID	実行名	テスト: テスト名	設定: 名前	ステータス	実行日 [今月]	テスター	
3	Fast_Run_5-1...	user_type_test	bronze_card_user	Failed	6/17/2010	sa	
2	Fast_Run_5-1...	user_type_test	silver_card_user	Passed	6/17/2010	sa	
1	Fast_Run_5-1...	user_type_test	gold_card_user	Passed	6/17/2010	sa	

コメント レポート 添付 履歴

リファレンス

テスト設定のユーザ・インタフェース

本項の内容

「[テスト設定] タブ」(604 ページ)

「[新規テスト設定] / [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックス」(607 ページ)

「[データ] タブ」(609 ページ)

「[テストコンフィグレーション設定] タブ」(611 ページ)

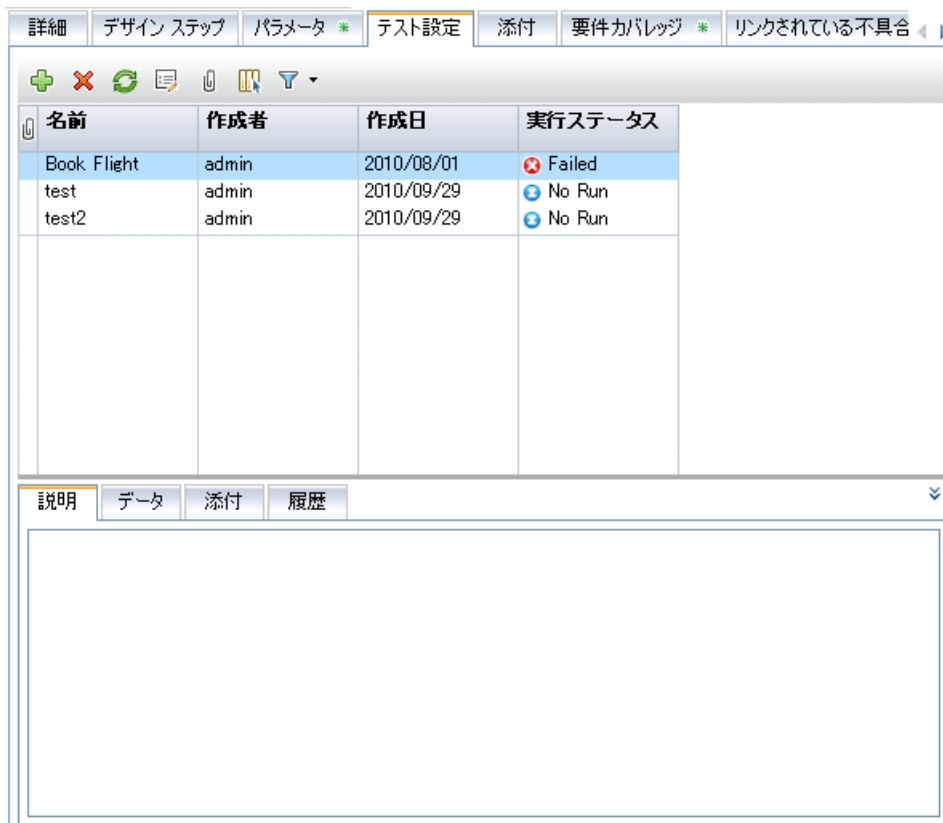
「[テスト設定] 表示枠」(613 ページ)

「[テスト設定ステータス] タブ」(616 ページ)

「[テスト設定の生成] ダイアログ・ボックス」(618 ページ)

[テスト設定] タブ

このダイアログ・ボックスで、テスト設定を定義して更新できます。



名前	作成者	作成日	実行ステータス
Book Flight	admin	2010/08/01	Failed
test	admin	2010/09/29	No Run
test2	admin	2010/09/29	No Run

アクセス方法	テスト計画ツリーでテストを選択し、[テスト設定] タブをクリックします。
重要な情報	<p>Business Process Testing : テスト設定の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>QuickTest Professional : テスト設定の使用方法の詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』の「ALM の使用方法」の項を参照してください。</p>

関連タスク	「テスト設定の使用方法」(597 ページ)
参照項目	「テスト設定の概要」(596 ページ)

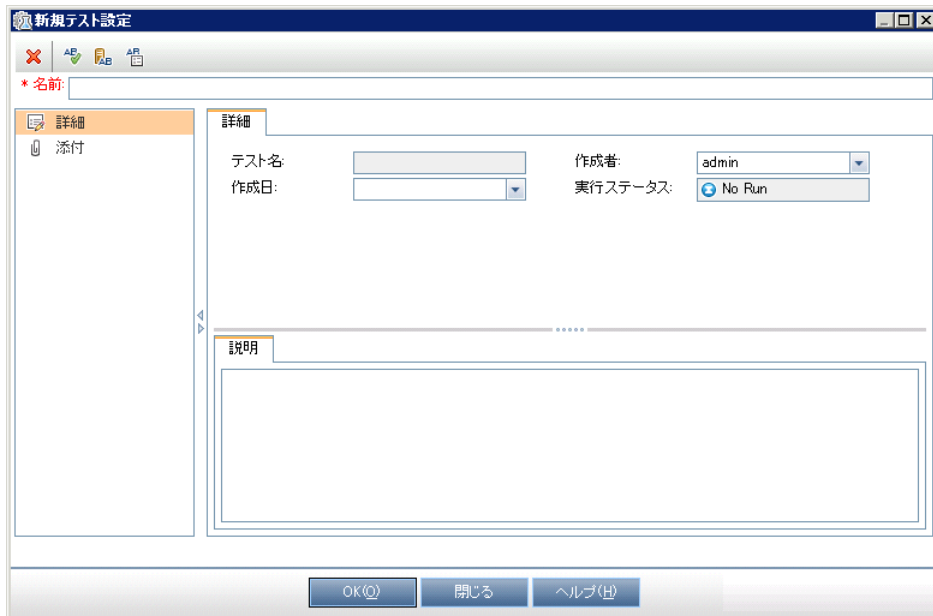
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。



UI 要素	説明
	[新規テスト設定] : [新規テスト設定] ダイアログ・ボックスが開き、テスト設定を定義できます。詳細については、「[新規テスト設定] / [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックス」(607 ページ) を参照してください。
	[テスト設定の削除] : 選択したテスト設定を、テスト設定グリッドから削除します。
	[更新] : 最新の情報が表示されるように、テスト設定グリッドを更新します。
	[テスト設定の詳細] : [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテスト設定の詳細を表示できます。詳細については、「[新規テスト設定] / [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックス」(607 ページ) を参照してください。
	[添付] : [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックスの [添付ファイル] ページが開き、選択したテスト設定の添付ファイルを表示できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
	[カラムの選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
	[フィルタ/ソートを設定] : テスト設定グリッドのテスト設定をフィルタ処理して並べ替えることができます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
[添付] タブ	現在選択されているテスト設定に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
【作成者】	テスト設定を作成したユーザの名前。
【作成日】	テスト設定が作成された日付。標準設定では、ALM Platform サーバの現在の日付に設定されます。
【データ】 タブ	現在選択されているテスト設定に関連付けられたデータの一覧です。詳細については、「 【データ】 タブ 」(609 ページ)を参照してください。
【説明】 タブ	テスト設定の説明。
【実行ステータス】	テスト設定の最後の実行のステータス。標準設定では、実行ステータスは次のいずれかになります。Failed, N/A, No Run, Not Completed, Passed。
【ID】	ALM によってテスト設定に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
【更新日時】	テスト設定に加えられた最新の変更日時。
【名前】	テスト設定の名前。
【テスト ID】	ALM によってテストに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
【テスト名】	テストの名前。






[新規テスト設定] / [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、テスト・パラメータを定義して更新できます。






アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト計画ツリーでテストを選択し、[テスト設定] タブをクリックします。[新規テスト設定] ボタン  をクリックします。[新規テスト設定] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>テスト計画ツリーでテストを選択し、[テスト設定] タブをクリックします。[テスト設定の詳細] ボタン  をクリックします。[テスト設定詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
関連タスク	「テスト設定の使用方法」(597 ページ)
参照項目	「テスト設定の概要」(596 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[最初の/前の/次の/最後のエンティティ]: テスト・パラメータを通して表示できるようになります。</p> <p>使用可能な場所: [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックス</p>
	<p>[全てのフィールドをクリア]: 全てのフィールドをクリア。</p> <p>使用可能な場所: [新規テスト設定] ダイアログ・ボックス</p>
	<p>[スペル チェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[類語辞典]: 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。</p>
	<p>[スペル オプション]: ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。</p>
[添付] タブ	<p>現在選択されているテスト設定に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p>
[データ] タブ	<p>現在選択されているテスト設定に関連付けられたデータの一覧です。詳細については、「[データ] タブ」(609 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能: [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックス</p>
[説明] タブ	<p>現在選択されているテスト設定の説明。</p> <p>テキスト・ボックス内をクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[履歴] タブ	<p>テスト設定に対して変更が行われた日時と、変更を行ったユーザの名前を表示します。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能: [テスト設定詳細] ダイアログ・ボックス</p>
[詳細] タブ	<p>現在選択されているテスト設定の詳細。使用できるフィールドの詳細については、「[テスト設定] タブ」(604 ページ) を参照してください。</p>




[データ] タブ

このダイアログ・ボックスは、選択したテスト設定に定義されたデータを表示します。

説明	データ	添付	履歴
  標準設定値のコピー(D)  選択したパラメータの更新			
使用中	パラメータ名	標準設定値	実際の値
	param_1	a	a
	param_2	b	b

アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト計画ツリーでテストを選択し、[テスト設定] タブをクリックします。下部の表示枠で [データ] タブをクリックします。</p> <p>テスト計画ツリーでテストを選択し、[テスト設定] タブをクリックします。[テスト設定の詳細] ボタン  をクリックします。[テスト設定詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。[データ] をクリックします。</p>
重要な情報	<p>Business Process Testing : ビジネス・プロセス・テスト・タイプを使用する場合は、[データ] タブでさまざまなオプションが利用できます。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>QuickTest Professional : QuickTest テスト・タイプを使用する場合は、[データ] タブでさまざまなオプションが利用できます。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』の「ALM を使用した作業」の項を参照してください。</p>
関連タスク	「テスト設定の使用方法」(597 ページ)
参照項目	「テスト設定の概要」(596 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[カラムの選択]: [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p>
 標準設定値のコピー (D)	<p>実際の値を、現在選択されているパラメータの標準設定値で置き換えます。</p>
 選択したパラメータの更新 ▾	<p>テスト・ラボ・モジュールの選択したテスト設定に関連付けられている、すべてのテスト・インスタンスにまたがる、すべてのまたは選択したパラメータの実際値を更新できます。</p>
<p>[実際の値]</p>	<p>テスト実行中にパラメータに使用される実際の値。</p>
<p>[標準設定値]</p>	<p>テスト・レベルで定義された、パラメータの標準設定値。</p>
<p>[説明]</p>	<p>パラメータの説明。</p>
<p>[更新日時]</p>	<p>パラメータの最終更新日。</p>
<p>[順序]</p>	<p>パラメータのセットの中のパラメータの位置。</p>
<p>[パラメータ名]</p>	<p>パラメータの名前。</p>
<p>[使用中]</p>	<p>パラメータがデザイン・ステップに含まれているかどうかを示します。</p>

[テスト コンフィグレーション設定] タブ




このタブでは、要件カバレッジに関連付けられたテスト設定を表示します。

テスト コンフィグレーション…	
名前	説明
Book Flight	
test	
test2	

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 テスト計画モジュールで、テスト計画ツリービューを選択します。 2 テストを選択して [要件カバレッジ] タブをクリックします。 3 [要件の選択] ボタンをクリックします。 4 [要件ツリー] 表示枠で、[カバレッジに追加] をクリックして要件カバレッジを指定したテストに追加します。要件カバレッジが、要件カバレッジ・グリッドに追加されます。[テスト コンフィグレーション設定] タブは、[要件カバレッジ] タブの下部に表示されます。
重要な情報	このタブは、カバレッジが作成済みの場合のみ表示されます。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ) 「テスト設定の使用方法」(597 ページ)
参照項目	「[要件カバレッジ] タブ」(538 ページ) 「テスト設定の概要」(596 ページ)

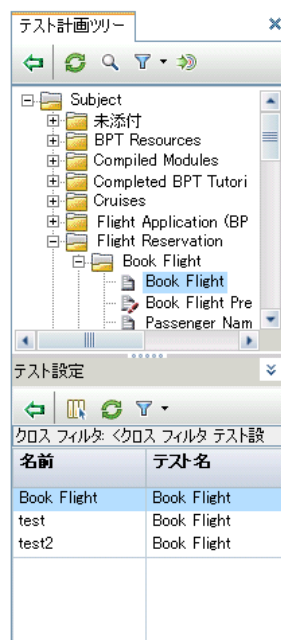
第 23 章・テスト設定

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[設定の追加] : [設定カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。選択した要件を対象とするテスト設定のリストに設定を追加できます。
	[設定の削除] : 選択した要件を対象とするテスト設定のリストから、選択した設定を削除します。
	[更新] : テスト設定グリッドを更新します。
[説明]	テスト設定の説明。
[名前]	テスト設定の名前。

[テスト設定] 表示枠





この表示枠には、選択したテストのテスト設定が一覧表示されます。



アクセス方法	<p>要件モジュールから,</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [表示] > [要件の詳細] を選択します。要件を選択して [テストカバレッジ] タブをクリックします。 2 [選択] ボタンをクリックします。[テスト計画ツリー] と [テスト設定] 表示枠が表示されます。 <p>テスト・ラボ・モジュールから,</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 [テストセット] タブを選択します。テストを選択して [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブをクリックします。 2 [テストを選択] ボタンをクリックします。[テスト計画ツリー] タブと [テスト設定] 表示枠が表示されます。
---------------	--

関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ) 「テスト設定の使用方法」(597 ページ)
参照項目	「テスト・カバレッジ・ページ」(548 ページ) 「テスト設定の概要」(596 ページ)






次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[カバレッジにテスト設定を追加]: 選択したテスト設定を使用するテスト・インスタンスを、要件のテスト・カバレッジに追加します。</p> <p>[テスト・セットにテスト設定を追加]: 選択したテスト設定を使用するテスト・インスタンスを、テスト・セットに追加します。</p> <p>Business Process Testing: ビジネス・プロセス・テストのテスト設定を含めると、[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[基準カバレッジの追加] ダイアログ・ボックス」(557 ページ)を参照してください。</p>
	<p>[カラムの選択]: [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、テスト設定グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)を参照してください。</p>
	<p>[更新]: テスト設定グリッドを更新します。</p>
	<p>[フィルタ/ソート]: グリッドのテスト設定をフィルタ処理して並べ替えます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p>
【作成者】	テスト設定を作成したユーザの名前。
【作成日】	テストが作成された日付。標準設定では、ALM Platform サーバの現在の日付に設定されます。
【説明】	テスト設定の説明。

UI 要素	説明
[実行ステータス]	テスト設定の最後の実行のステータス。標準設定では、実行ステータスは次のいずれかになります。Failed, N/A, No Run, Not Completed, Passed。
[ID]	ALM によってテスト設定に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[更新日時]	テスト設定に加えられた最新の変更日時。
[名前]	テスト設定の名前。
[テスト ID]	ALM によってテストに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。
[テスト名]	テストの名前。



[テスト設定ステータス] タブ

このタブでは、要件カバレッジに関連付けられたテスト設定のステータスを表示します。

カバレッジ グラフ		テスト設定ステータス
		
名前	説明	ステータス
Book Flight		 Failed
test		 No Run
test2		 No Run

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 要件モジュールで、要件詳細ビューを指定します。要件を選択して [テストカバレッジ] タブをクリックします。 [選択] ボタンをクリックします。[テスト計画ツリー] と [テスト設定] 表示枠が、[テストカバレッジ] タブの右側に表示されます。 [カバレッジへ追加] をクリックしてテスト・カバレッジを追加します。テスト・カバレッジが、テスト・カバレッジ・グリッドに追加されます。[テスト設定ステータス] タブが、[テストカバレッジ] タブの下部に表示されます。
関連タスク	「カバレッジを作成する方法」(528 ページ) 「テスト設定の使用方法」(597 ページ)
参照項目	「テスト・カバレッジ・ページ」(548 ページ) 「テスト設定の概要」(596 ページ) 「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[設定の削除] ：選択した要件を対象とするために使用される設定のリストから、選択した設定を削除します。
	[更新] ：設定ステータス・グリッドを更新します。
[名前]	テスト設定の名前。
[説明]	テスト設定の説明。
[ステータス]	<p>テスト設定の現在のテスト実行ステータス。標準設定では、ステータスは次のいずれかになります。Failed, N/A, No Run, Not Completed, Passed。</p> <p>Business Process Testing：テスト設定の条件のステータスを表示するには、そのステータスの値をクリックします。[条件のステータス] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>

[テスト設定の生成] ダイアログ・ボックス

Quality Center の以前のバージョンからアップグレードした後は、このダイアログ・ボックスで既存のテスト・インスタンスからテスト設定を作成できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 テスト・ラボ・モジュールで、[テストセット] タブを選択します。 2 テスト・セットを選択して、[実行グリッド] タブをクリックします。 3 グリッドでテスト・インスタンスを右クリックし、[テスト設定の生成] を選択します。
重要な情報	<p>テスト・インスタンスからテスト設定を生成する場合、ALM は次の操作を実行します。</p> <p>生成したテスト設定にテスト・インスタンスを関連付ける。</p> <p>生成したテスト設定にテスト・インスタンスの実行を関連付ける。</p> <p>生成したテスト設定にテスト・インスタンスのリンク（たとえば、テスト、要件）を関連付ける。</p> <p>生成したテスト設定ステータスを、テスト・インスタンスのステータスと同じになるように設定する。</p> <p>テスト・インスタンスのパラメータの値を、生成したテスト設定にコピーする。</p>
関連タスク	<p>「カバレッジを作成する方法」(528 ページ)</p> <p>「テスト設定の使用方法」(597 ページ)</p>
参照項目	<p>「テスト・カバレッジ・ページ」(548 ページ)</p> <p>「テスト設定の概要」(596 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[新規テスト設定名]	生成したテスト設定の名前。

第 24 章

システム・テスト

本章の内容

概念

「システム・テストの概要」(620 ページ)

タスク

「システム・テストの作成方法」(621 ページ)

リファレンス

「システム・テストのユーザ・インタフェース」(623 ページ)

概念

システム・テストの概要

システム・テストでは、マシンのシステム情報の取得、マシンにおけるテスト実行状態のデスクトップ画像の表示、およびマシンの再起動を実行できます。たとえば、自動テストが失敗したときにマシンを再起動する、システム・クリーンアップ・テストを実行できます。また、システム・テストを作成し、テスト実行の前後にマシンのリソース使用率に関する情報を取得できます。

システム・テストを作成するには、システム・テストをテスト・サブジェクト・フォルダに追加してテストを定義し、そのテストをテスト・セットに追加します。

注：システム・テストを実行するには、テストを実行するマシンに次のアドインをインストールする必要があります。

HP Quality Center システム テストのリモート エージェント・アドイン

HP Quality Center 接続アドイン

HP Application Lifecycle Management (ALM) アドインの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

システム・テストの実行時に、次のステップを作成できます。

SysInfo : システム情報の集合

Snapshot : デスクトップ画像のキャプチャ

Reboot Start と **Reboot Finish** : マシンの再起動

システム・テストの実行後、上記の各ステップの詳細を表示できます。また、CPU、メモリ、マシンで実行中のプロセスなど、取得されたシステム情報やシステム・テストを実行したときのマシンの画像も表示できます。

タスク

システム・テストの作成方法

このタスクでは、マシンのシステム情報の取得、デスクトップの画像のキャプチャ、マシンの再起動といった処理を ALM に指示する、システム・テストの作成方法および実行方法を説明します。

注：このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ)を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(621 ページ)
- 「システム・テストの作成」(621 ページ)
- 「システム・テストの設定」(622 ページ)

1 前提条件

テスト・サブジェクトは、テスト計画ツリーで定義されます。


テスト・サブジェクトの作成に関する詳細は、テスト・タスクの作成方法の「テスト・サブジェクトの作成」手順 1を参照してください。

2 システム・テストの作成

システム・テストをサブジェクト・フォルダに作成します。

- a テスト計画ツリー・ビューでテスト・サブジェクトを右クリックし、**[新規テスト]**を選択します。
- b **[新規テスト]** ダイアログ・ボックスで、**[タイプ]** フィールドの **[SYSTEM-TEST]**を選択します。

- c [新規テスト] ダイアログ・ボックスのほかのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規テスト] ダイアログ・ボックス」(518 ページ) を参照してください。

新しいテストが、システム・テスト・アイコン  とともに、選択したサブジェクト・フォルダの下のテスト計画ツリーに追加されます。

3 システム・テストの設定

システム・テストが実行する操作を選択します。

- a テスト計画ツリーで、システム・テストを選択します。
- b [テスト スクリプト] タブをクリックし、システム・テスト設定を構成します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスト スクリプト] タブ システム・テスト」(623 ページ) を参照してください。

4 システム・テストの実行

テスト・ラボ・モジュールでシステム・テストを実行します。テストの実行の詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ) を参照してください。

リファレンス

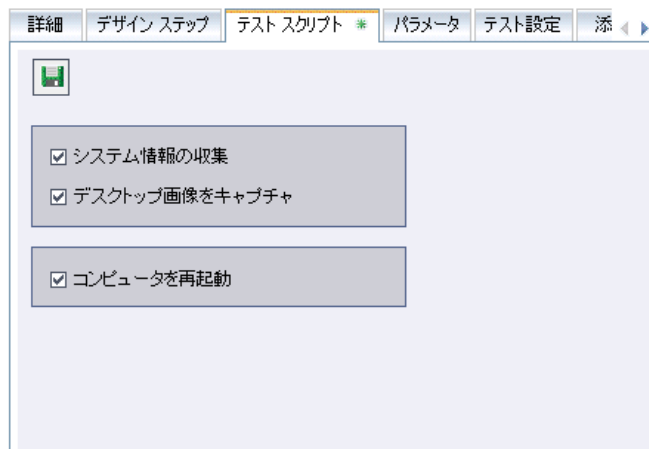
システム・テストのユーザ・インタフェース

本項の内容

「[テストスクリプト] タブ システム・テスト」(623 ページ)


[テストスクリプト] タブ システム・テスト

このタブでは、システム・テストの設定を定義できます。



アクセス方法	テスト計画ツリーでシステム・テストを選択し、[テストスクリプト] タブをクリックします。
関連タスク	「システム・テストの作成方法」(621 ページ)
参照項目	「システム・テストの概要」(620 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	システム・テスト設定の保存。
[デスクトップ画像をキャプチャ]	テストの実行時に、ALM がマシンのデスクトップのスナップショットを表示する添付ファイルを追加するようにします。
[システム情報の収集]	テストの実行時に、ALM が CPU、メモリ、マシンで実行中のプロセスなどのシステム情報を収集するようにします。
[コンピュータを再起動]	テストの実行時に ALM がマシンを再起動するようにします。 注： [コンピュータを再起動] オプションを使用するには、そのマシンで自動ログインを有効にする必要があります。[スタート] > [プログラム] > [HP ALM Platform SystemTest Agent] > [SystemTest Agent (configuration)] を選択します。[自動再起動設定] ダイアログ・ボックスが開きます。標準設定では、[ユーザ名] および [ドメイン] は読み取り専用です。パスワードを入力します。 別のユーザ名を選択するには、[自動再起動設定] ダイアログ・ボックスを開き直します。[ユーザ名] および [ドメイン] は読み取り専用ではなくなります。値を変更します。

第 25 章

テスト・リソース

本章の内容

概念

「テスト・リソースの概要」(626 ページ)

タスク

「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)

リファレンス

「テスト・リソースのユーザ・インタフェース」(631 ページ)

概念

テスト・リソースの概要

テスト・リソース・モジュールを使用して、テストで使用するリソースを管理できます。リソース・フォルダやリソースを含む階層構造の**テスト・リソース・ツリー**を定義することで、リソースを整理できます。ツリー内の各リソースに対して、リソース・ファイルのセットを選択し、HP Application Lifecycle Management (ALM) リポジトリへアップロードします。これらのファイルは1つまたは複数のテストで使用できます。

そして、リソースとテストの間に依存関係を定義できます。依存関係の詳細については、「エンティティの依存関係の概要」(627 ページ)を参照してください。

タスクの詳細については、「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)を参照してください。

例

QA テスト担当者の Michael が、ALM にテストを格納する外部のテスト・ツールを使用するとします。各テストは多くのテストに共通な共有設定ファイルを使用します。したがって、各テストごとにそれぞれファイルのコピーを保存するのではなく、構成ファイルを1か所で保守したいと考えます。

Michael はテスト・ツールを使用して、構成ファイルをリソースとして定義し、構成ファイルを使用する各テストをこのリソースに依存すると定義します。ALM に存在するリソースのコピーは1つだけなので、構成ファイルに依存するすべてのテストに対して構成ファイルの置き換えが行われます。

Michael が依存関係を定義すると、彼がリソースの削除を試みた場合、ALM により、該当のリソースに依存するテストに影響を与える可能性があることが警告されます。さらに、リソースに依存するテストのいずれかをプロジェクト間でコピーする場合、ALM ではテストと一緒にリソースもコピーするかどうかを選択できます。

エンティティの依存関係の概要

依存関係では、テスト、コンポーネント、テスト・リソースなどのエンティティ間の関係を定義します。特定のエンティティに予定されている変更の影響を分析すると、変更が影響する可能性のあるほかのエンティティが依存関係によって示されます。たとえば、エンティティを削除またはコピーする前に依存関係を表示することができます。

依存関係は「依存関係」タブに表示されます。このタブはテスト計画モジュール、ビジネス・コンポーネント・モジュール、テスト・リソース・モジュールから使用できます。選択したエンティティで使用されているエンティティ、および選択したエンティティが使用しているエンティティを表示できます。

たとえば QuickTest Professional などのほかの HP テスト・ツールを使用して、エンティティ間の依存関係を定義できます。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

独自のアプリケーションを作成して、エンティティ間の依存関係を定義することもできます。詳細については、『HP ALM Open Test Architecture API Reference』を参照してください。

タスク

テスト・リソースの使用方法

このタスクでは、テスト・リソース・モジュールで、テスト・リソースを管理する方法について説明します。テスト・リソース・ツリーを作成し、リソースをアップロードおよびダウンロードして、リソースとテストなどのほかのエンティティの間の依存関係を定義します。

注：このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを計画する方法」(481 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(628 ページ)
- 「リソースの作成」(628 ページ)
- 「リソース・ファイルのアップロード」(629 ページ)
- 「リソース・ファイルのダウンロード」(629 ページ)
- 「依存関係の定義」(629 ページ)
- 「依存関係の表示」(630 ページ)

1 前提条件

QuickTest リソースの使用方法の詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』の「ALM を使用した作業」の項を参照してください。

2 リソースの作成

- a **テスト・リソース・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト リソース] を選択します。

- b **フォルダを作成します。**[Resources] ルートフォルダを右クリックして [新規リソース フォルダ] を選択します。サブフォルダを作成するには、フォルダを右クリックして [新規リソース フォルダ] を選択します。
- c **フォルダにリソースを追加します。**フォルダまたはサブフォルダを右クリックして [新規リソース] を選択します。[新規リソース] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規リソース] / [リソース詳細] ダイアログ・ボックス」(647 ページ) を参照してください。

3 リソース・ファイルのアップロード

テスト・リソース・ツリーの各リソースのファイルを ALM リポジトリにアップロードできます。

テスト・リソース・ツリーでリソースを選択し、[リソース ビューア] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リソース・ビューア] タブ」(641 ページ) を参照してください。

Business Process Testing : アプリケーション領域で作業する場合は、[アプリケーション領域ビューア] タブでテスト・ツールを起動して、リソースで作業します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[アプリケーション領域ビューア] タブ」(643 ページ) を参照してください。

4 リソース・ファイルのダウンロード

テスト・リソースをローカル・ディレクトリにダウンロードすると、それらの表示や編集ができます。

テスト・リソース・ツリーでリソースを選択し、[リソース ビューア] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リソース・ビューア] タブ」(641 ページ) を参照してください。

5 依存関係の定義

たとえば QuickTest Professional などのテスト・ツールから、エンティティ間の依存関係を定義できます。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

独自のアプリケーションを作成して、エンティティ間の依存関係を定義することもできます。詳細については、『HP ALM Open Test Architecture API Reference』を参照してください。

6 依存関係の表示

テスト、コンポーネント、テスト・リソースなどのエンティティ間の関係が表示されます。選択したエンティティに依存しているエンティティ、および選択したエンティティが依存しているエンティティを表示できます。

リソース（テスト・リソース・モジュール）、テスト（テスト計画モジュール）またはコンポーネント（ビジネス・コンポーネント・モジュール）を選択して、**[依存関係]** タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[依存関係]** タブ」（645 ページ）を参照してください。

リファレンス

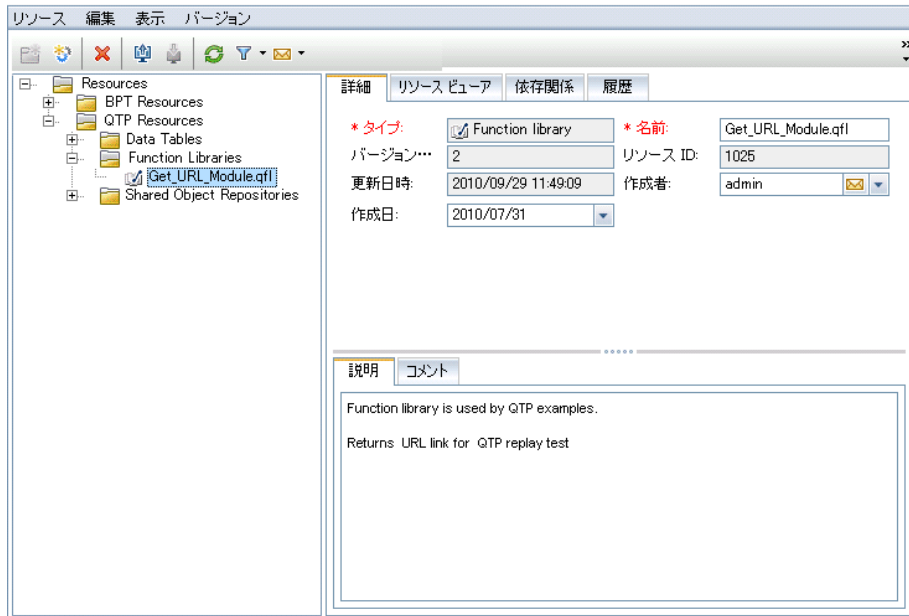
テスト・リソースのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「テスト・リソース・モジュールのウィンドウ」(632 ページ)
- 「テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン」(634 ページ)
- 「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(637 ページ)
- 「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(639 ページ)
- 「[リソース・ビューア] タブ」(641 ページ)
- 「[アプリケーション領域ビューア] タブ」(643 ページ)
- 「[依存関係] タブ」(645 ページ)
- 「[新規リソース] / [リソース詳細] ダイアログ・ボックス」(647 ページ)
- 「[ターゲット プロジェクトにリソースを貼り付け] ダイアログ・ボックス」(649 ページ)

🔑 テスト・リソース・モジュールのウィンドウ

このウィンドウでは、テストで使用するリソースを管理できます。



アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テストリソース] を選択します。
重要な情報	<p>QuickTest Professional : QuickTest リソースの使用方法の詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』の ALM の使用方法の項を参照してください。</p> <p>Business Process Testing : Business Process Testing を使用した ALM プロジェクトが QuickTest Professional に接続されている場合、ツリーに BPT Resources フォルダが自動的に作成されます。BPT Resources フォルダには、プロジェクトのビジネス・コンポーネントで使用可能なすべての QuickTest リソースが含まれます。Business Process Testing アプリケーション領域の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>Performance Center : Performance Center リソースの使用の詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>

関連タスク	「テスト・リソースの使用法」(628 ページ)
参照項目	「テスト・リソースの概要」(626 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<テスト・リソース・モジュールの共通の UI 要素>	<p>テスト・リソース・フィールド：フィールドの定義については、「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(639 ページ) を参照してください。</p> <p>テスト・リソースのメニューとボタン：コマンドとボタンの説明については、「テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン」(634 ページ) を参照してください。</p> <p>テスト・リソースのアイコン：アイコンの説明については、「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(637 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューとサイドバー：[ツール] メニュー, [ヘルプ] メニュー, サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」(40 ページ) を参照してください。</p>
<テスト・リソース・ツリー>	<p>テスト・リソースを視覚的に表したものです。</p> <p>注:プロジェクトで Sprinter を手動テストで使用する場合, Sprinter フォルダが リソース フォルダに追加されます。このフォルダには, 各 Sprinter ユーザのサブフォルダが含まれ, ユーザ情報を格納するのに使用されます。注意: Sprinter フォルダは Sprinter によってのみ管理されます。フォルダまたはサブフォルダに変更を加えないでください。詳細については, 『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
[依存関係] タブ	<p>テスト・リソース, コンポーネント, テストなどのエンティティ間に存在する依存関係が表示されます。詳細については, 「[依存関係] タブ」(645 ページ) を参照してください。</p>
[詳細] タブ	<p>現在選択されているリソース・フォルダまたはリソースの詳細が表示されます。詳細については, 「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(639 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
【履歴】 タブ	<p>テスト・リソースが含まれているベースラインの履歴も表示されます。また、2つのベースラインのバージョンの比較もできます。</p> <p>Version Control : テスト・リソースの以前のバージョンをすべて表示することができます。</p> <p>【履歴】 タブの詳細については、「【履歴】 タブ」(81 ページ) を参照してください。</p>
【モニタの設定】 タブ	<p>Performance Center : Performance Center モニタのプロファイルを設定できます。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>
【リソース・ビューア】 タブ	<p>ALM リポジトリに対して、テスト・リソース・ファイルのアップロードおよびダウンロードができます。詳細については、「【リソース・ビューア】 タブ」(641 ページ) を参照してください。</p> <p>注 : リソースによっては、アプリケーション領域リソースのように異なるビューア・タブを持つものがあります。そのビューア・タブの詳細については、「【アプリケーション領域ビューア】 タブ」(643 ページ) を参照してください。</p>



テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン





本項では、テスト・リソース・モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト リソース] を選択します。
関連タスク	「テスト・リソースの使用法」(628 ページ)
参照項目	<p>「テスト・リソース・モジュールのウィンドウ」(632 ページ)</p> <p>「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(637 ページ)</p> <p>「テスト・リソースの概要」(626 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	メニュー	説明
[折りたたみ]	[表示]	テスト・リソース・ツリーのすべての分岐を折りたたみます。
[URL をコピー] と [貼り付け]	[編集]	<p>選択したリソースをコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。リソース自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、リソース・ファイルまたはフォルダが表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。</p>
[コピー] / [貼り付け]	[編集]	<p>同じプロジェクト内、またはプロジェクト間で、選択したリソースまたはフォルダをコピーできます。</p> <p>注：</p> <p>リソースを 1 つのプロジェクトから別のプロジェクトにコピーする場合に、そのリソースが別のテスト・リソースに依存していると、ALM に対して 3 つの方法から 1 つを使用してコピーするよう指示できます。詳細については、「[ターゲットプロジェクトにリソースを貼り付け] ダイアログ・ボックス」(649 ページ)を参照してください。</p> <p>プロジェクト間でリソースをコピーするには、使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが両方のプロジェクトで同じである必要があります。</p>

UI 要素	メニュー	説明
【切り取り】 / 【貼り付け】	[編集]	<p>選択したリソースを、テスト・リソース・ツリーの別の場所に移動します。</p> <p>注：ルート・フォルダは移動できません。</p> <p>ヒント：ドラッグ操作により、リソースをテスト・リソース・ツリー内の新しい場所に移動することもできます。</p>
 【削除】	[編集]	<p>テスト・リソース・ツリーから、選択したリソースやフォルダを削除します。</p> <p>リソースにほかのエンティティが依存している場合、【リソースの削除】ダイアログ・ボックスが開きます。関連エンティティが表示されます。</p> <p>注意：リソースにほかのエンティティが依存している場合、リソースを削除するとこれらの関連エンティティに影響を与える可能性があります。関連エンティティは【依存関係】タブで表示できます。詳細については、「【依存関係】タブ」(645 ページ)を参照してください。</p> <p>Version Control：リソースを削除すると、以前のバージョンのリソースがすべて削除されます。</p>
【全て展開】	[表示]	<p>テスト・リソース・ツリーのすべての分岐を展開します。</p>
 【フィルタ】	[表示]	<p>テスト・リソース・ツリー内のリソースをフィルタ処理できます。詳細については、「【フィルタ】ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p>
【検索】	[編集]	<p>【検索】ダイアログ・ボックスが開き、テスト・リソース・ツリーでリソースを検索できます。詳細については、「【検索】ダイアログ・ボックス」(74 ページ)を参照してください。</p>



UI 要素	メニュー	説明
 【新規リソース】	[リソース]	[新規リソース] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダにリソースを追加できません。詳細については、「[新規リソース] / [リソース詳細] ダイアログ・ボックス」(647 ページ) を参照してください。
 【新規リソース・フォルダ】	[リソース]	[新規リソース フォルダ] ダイアログ・ボックスが開きます。選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。
 【全て更新】	[表示]	最新の情報が表示されるように、テスト・リソース・ツリーを更新します。
【名前の変更】	[編集]	選択したリソースまたはフォルダの名前を変更します。
 【電子メールで送信】	[リソース]	[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛にリソースを電子メールで送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。



テスト・リソース・モジュールのアイコン

本項では、テスト・リソース・モジュールで利用可能なアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テストリソース] を選択します。
重要な情報	ALM Editions : エディションによっては、利用できないリソースのタイプもあります。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)
参照項目	「テスト・リソース・モジュールのウィンドウ」(632 ページ) 「テスト・リソース・モジュールのメニューとボタン」(634 ページ) 「テスト・リソースの概要」(626 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[アプリケーション領域]：特定のアプリケーションまたはアプリケーションの一部に対するキーワード方式のビジネス・コンポーネントのコンテンツを作成するのに必要なすべての設定およびリソースが含まれています。アプリケーション領域の詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
	<p>[データ・テーブル]：QuickTest 実行ステップの実行に使用されるデータが含まれています。データ・テーブルの詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
	<p>[環境変数]：QuickTest テストからアクセス可能な変数と対応する値が含まれています。環境変数の詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
	<p>[関数ライブラリ]：QuickTest テストで使用する、Visual Basic のスクリプト関数、サブルーチン、モジュールが含まれています。関数ライブラリの詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
	<p>[回復シナリオ]：予期しないイベントの定義および QuickTest 実行セッションを回復するのに必要な操作を含むシナリオが含まれています。回復シナリオの詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
	<p>[共有オブジェクト・リポジトリ]：QuickTest でアプリケーションのオブジェクトが識別可能になる情報が含まれています。QuickTest では、テスト・オブジェクトに関するすべての情報を共有オブジェクト・リポジトリに格納することで、テストを再利用できるよう維持できます。共有オブジェクト・リポジトリの詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
	<p>[テスト・リソース]：すべてのテスト・タイプで使用する一般的なテスト・リソース・タイプです。</p>

UI 要素	説明
	[ファイアウォールをまたがったモニタ] ：ファイアウォールをまたがって配置されているサーバに対する Performance Center のモニタ設定が含まれています。ファイアウォールをまたがったモニタの詳細については、『HP Performance Center Guide』を参照してください。
	モニタのプロファイル ：プロジェクトの任意の負荷テストで使用するモニタのプロファイルとして保存可能な、モニタの設定が含まれています。ファイアウォールをまたがったモニタの詳細については、『HP Performance Center Guide』を参照してください。

テスト・リソース・モジュールのフィールド

本項では、テスト・リソース・モジュールのフィールドについて説明します。

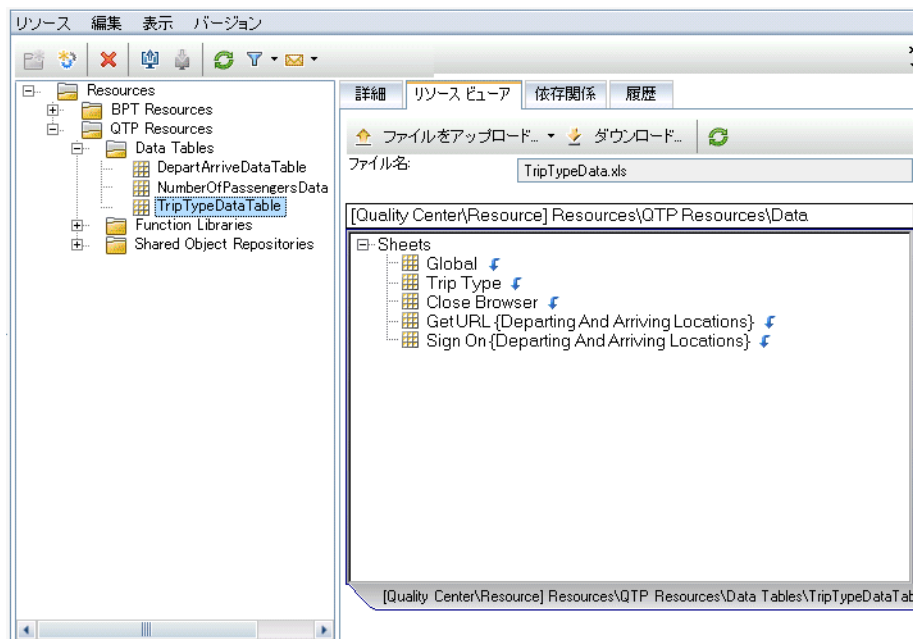
アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト リソース] を選択します。
重要な情報	テスト・リソース・モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、任意のフィールドのラベルの変更ができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。スクリプト・エディタを使用して、テスト・リソース・モジュールに表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)
参照項目	「テスト・リソース・モジュールのウィンドウ」(632 ページ) 「テスト・リソースの概要」(626 ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
【コメント】	リソースに関するコメント。新しいコメントを追加するには、 【コメントを追加】 ボタンをクリックします。 【コメント】 ボックスに新しいセクションが追加され、ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。
【作成者】	リソースを作成したユーザ。
【作成日】	リソースが作成された日付。 標準設定値 ：現在のデータベース・サーバの日付です。
【説明】	フォルダまたはリソースについて説明します。 Business Process Testing ：アプリケーション領域リソースを指定する場合、このフィールドは必須です。
【ファイル名】	ファイルの名前。
【フォルダ ID】	ALM によってフォルダに割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは変更できません。
【名前】	フォルダまたはリソース名。
【更新日時】	リソースが変更された日付。
【リソース ID】	ALM によってファイルに割り当てられる一意の ID 番号。このフィールドは変更できません。
【タイプ】	リソースのタイプ。詳細については、「テスト・リソース・モジュールのアイコン」（637 ページ）を参照してください。
【バージョン番号】	Version Control ：リソースのバージョン番号。このフィールドは、プロジェクトでバージョン管理が有効な場合にのみ表示されます。




[リソース・ビューア] タブ

このタブで、テスト・リソース・ツリーの各リソースのファイルを ALM リポジトリにアップロードできます。ファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードすることもできます。



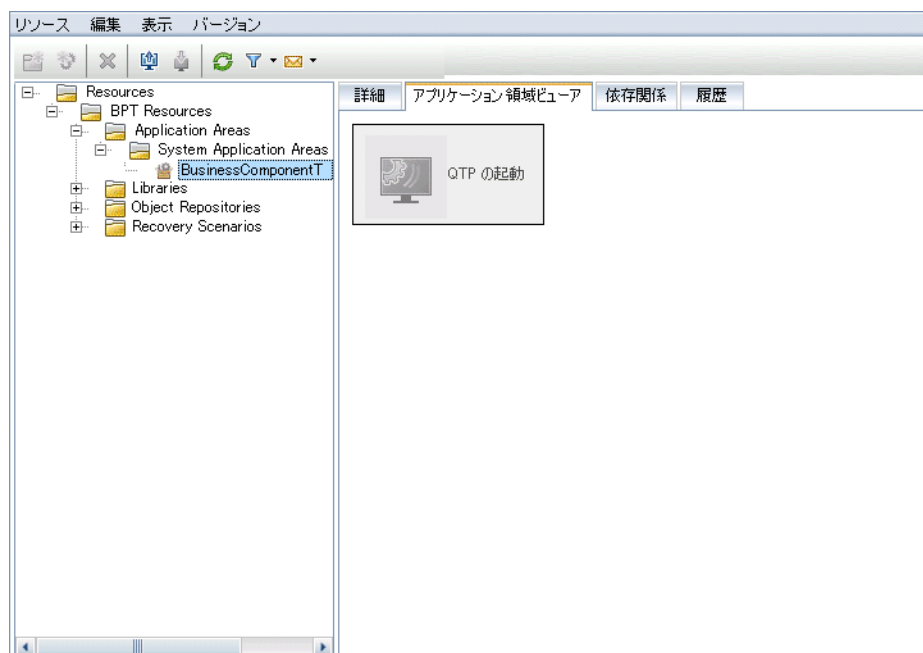
アクセス方法	テスト・リソース・モジュールで、テスト・リソース・ツリーのリソースを選択し、 [リソース ビューア] タブをクリックします。
重要な情報	<p>リソースのコンテンツを表示するには、関連するアドインまたは拡張機能をインストールしなければなりません。QuickTest Professional アドインの詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>リソースによっては、アプリケーション領域リソースのように異なるビューア・タブを持つものがあります。そのビューア・タブの詳細については、「[アプリケーション領域ビューア] タブ」(643 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)
参照項目	「テスト・リソースの概要」(626 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 ファイルをアップロード... ▾	<p>[ファイルをアップロード] : ファイルまたはフォルダを ALM リポジトリにアップロードします。次のオプションがあります。</p> <p>[ファイルをアップロード] : [ファイルをアップロード] ダイアログ・ボックスが開き、ファイルを選択できます。</p> <p>[フォルダをアップロード] : [フォルダの参照] ダイアログ・ボックスが開き、ファイルを選択できます。</p> <p>アップロードしたファイルを置き換えるには、再度アップロードします。</p>
 ダウンロード...	<p>[ダウンロード] : [フォルダの参照] ダイアログ・ボックスが開き、選択したファイルをダウンロードできます。</p>
	<p>[更新] : タブを更新します。</p>
<p>[ファイル名]</p>	<p>リソース・ファイルの名前。</p>

[アプリケーション領域ビューア] タブ

このタブでは、アプリケーション領域リソース用のテスト・ツールを起動できます。



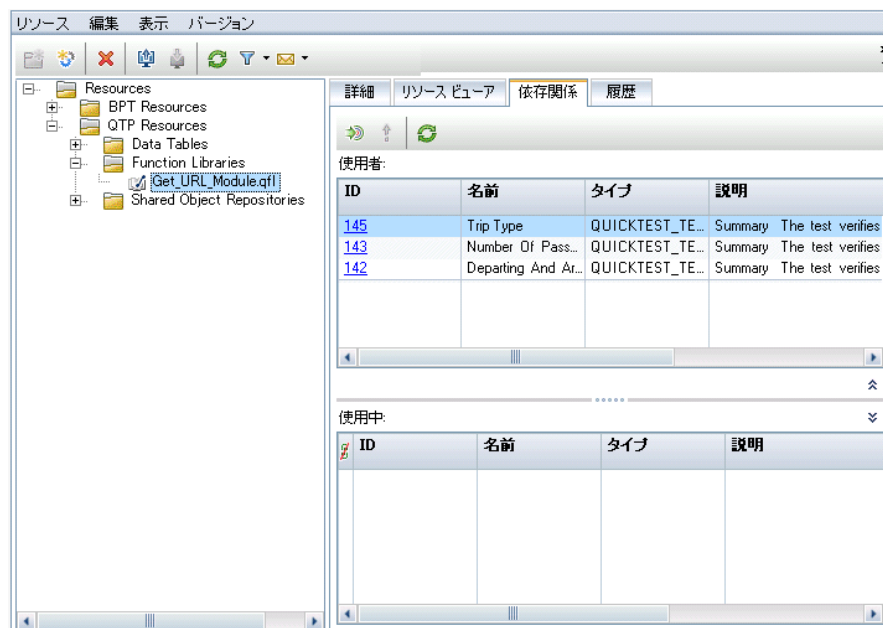
アクセス方法	Business Process Testing : テスト・リソース・モジュールで、テスト・リソース・ツリーのアプリケーション領域リソースを選択し、[アプリケーション領域ビューア] タブをクリックします。
重要な情報	<p>リソースのコンテンツを表示するには、関連するテスト・ツール、アドインまたは拡張機能をインストールしなければなりません。QuickTest Professional アドインの詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p> <p>QuickTest Professional バージョン 10.00 における ALM バージョン 11.00 のアプリケーション領域リソースの起動はサポートされていません。代わりに、QuickTest Professional でアプリケーション領域を直接起動します。</p>
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)
参照項目	「テスト・リソースの概要」(626 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<テスト・ツール>の 起動	関連するテスト・ツールを起動します。 Version Control : 以前のバージョンまたはベースラインからアプリケーション領域を起動しようとする時、 [起動] ボタンは無効になります。代わりに、QuickTest Professional でアプリケーション領域を直接起動します。

[依存関係] タブ

このタブは、テスト、コンポーネント、テスト・リソースなどのエンティティ間の関係が表示されます。選択したエンティティに依存しているエンティティ（[**使用者**] グリッド）、および選択したエンティティが依存しているエンティティ（[**使用中**] グリッド）を表示できます。



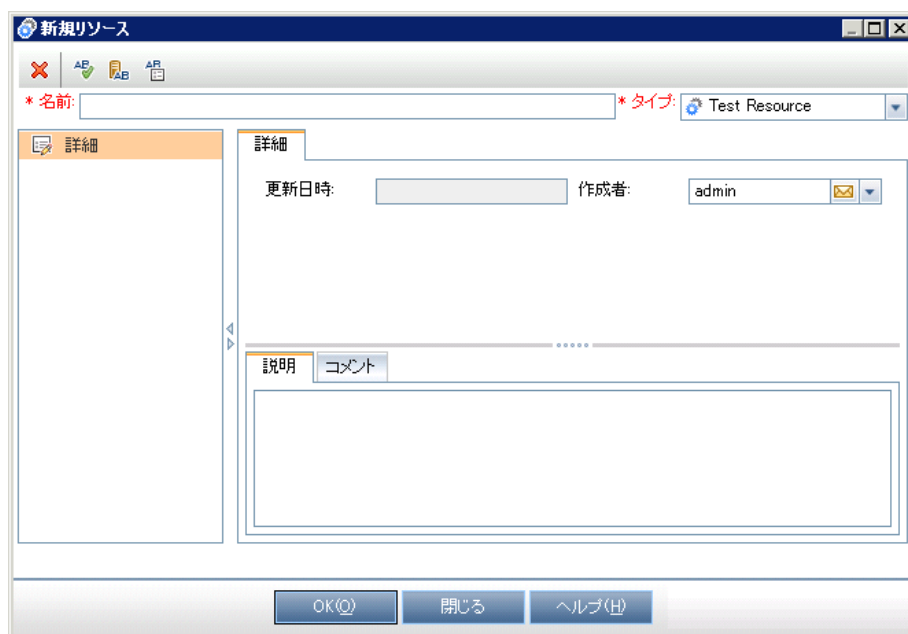
アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト・リソース・モジュール：テスト・リソース・ツリーでリソースを選択し、[依存関係] タブをクリックします。</p> <p>テスト計画モジュール：テスト計画ツリーでテストを選択し、[依存関係] タブをクリックします。</p> <p>ビジネス・コンポーネント・モジュール：コンポーネント・ツリーでコンポーネントを選択し、[依存関係] タブをクリックします。</p>
関連タスク	「テスト・リソースの使用方法」（628 ページ）
参照項目	「エンティティの依存関係の概要」（627 ページ）

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[移動]：選択したエンティティに移動できます。
	[破損した関係の表示]：[使用] グリッドの、選択した関係について破損した関係の詳細が表示されます。 破損した関係としてマークされている [使用] グリッドのエンティティを選択し、[破損した関係の表示] ボタンをクリックします。
	[更新]：タブを更新します。
	[破損した関係]：関連するエンティティは存在なくなりました。アイコンをクリックすると詳細が表示されます。
	表示/非表示の矢印：[使用者] または [使用中] グリッドを表示または非表示にします。
< [使用者] グリッド >	選択したエンティティに依存するエンティティが表示されます。
< [使用中] グリッド >	選択したエンティティが依存するエンティティが表示されます。
[説明]	関連付けられているエンティティの説明。
[ID]	関連付けられているエンティティに対する一意の ID 番号。ID は ALM によって自動的に割り当てられます。
[名前]	関連付けられているエンティティの名前。
[タイプ]	関連付けられているエンティティのタイプ。
[所有者名]	選択されたエンティティを所有するエンティティの名前。
[所有者タイプ]	選択されたエンティティを所有するエンティティのタイプ。






[新規リソース] / [リソース詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、リソースの追加および表示ができます。



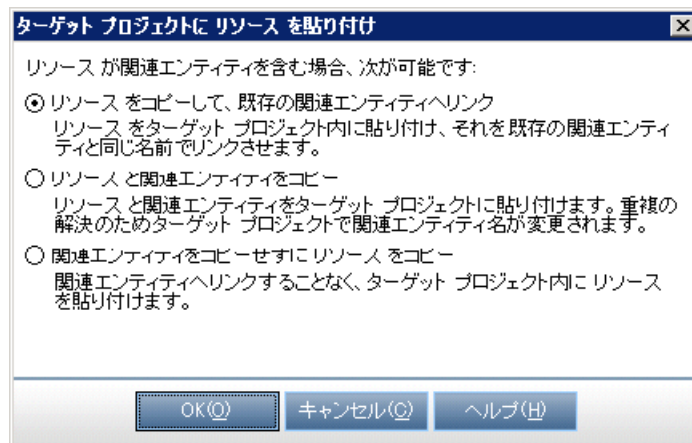
アクセス方法	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト・リソース・モジュールで、リソース・フォルダを右クリックして [新規リソース] を選択します。[新規リソース] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>テスト・リソース・モジュールで、[履歴] タブをクリックします。[ベースライン] または [バージョンおよびベースライン] をクリックします。[表示] ボタンをクリックします。[リソース詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
重要な情報	<p>Version Control : 新規リソースは自動的にチェックアウトされます。詳細については、「[チェックアウト] ダイアログ・ボックス」(131 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	<p>「テスト・リソースの使用方法」(628 ページ)</p>
参照項目	<p>「テスト・リソースの概要」(626 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 クリア	ダイアログ・ボックスの内容をクリアします。 使用可能な場所 ：[新規リソース] ダイアログ・ボックス
	電子メールで送信 ：テスト・リソースの詳細を電子メールで送信します。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。 使用可能な場所 ：[リソース詳細] ダイアログ・ボックス
	[スペル チェック]：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[スペル オプション]：ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。
	[類語辞典]：選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
[依存関係]	現在選択されているテスト・リソースとほかのエンティティの間の関係が表示されます。詳細については、「[依存関係] タブ」(645 ページ) を参照してください。
[詳細]	現在選択されているテスト・リソースの詳細。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・リソース・モジュールのフィールド」(639 ページ) を参照してください。
[名前]	リソースの名前。
[リソース ビューア]	現在選択されているテスト・リソースのファイルを ALM リポジトリにアップロードできます。ファイルをローカル・ディレクトリにダウンロードすることもできます。詳細については、「[リソース・ビューア] タブ」(641 ページ) を参照してください。
[タイプ]	リソースのタイプ。詳細については、「テスト・リソース・モジュールのアイコン」(637 ページ) を参照してください。

[ターゲット プロジェクトにリソースを貼り付け] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ALM がテスト・リソースをプロジェクトにまたがってコピーする方法を選択できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト・リソース・モジュールで、リソース・フォルダを右クリックして [新規リソース] を選択します。[新規リソース] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>テスト・リソース・モジュールで、[履歴] タブをクリックします。[ベースライン] または [バージョンおよびベースライン] をクリックします。[表示] ボタンをクリックします。[リソース詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
----------------------	---

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>[リソースをコピーして、既存の関連エンティティへリンク]</p>	<p>ALM はテスト・リソースをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーしたテスト・リソースは、既存のエンティティに同じ名前とパスでリンクされます。ターゲット・プロジェクトに関連するエンティティが存在しない場合、ALM はそれをターゲット・プロジェクトにコピーします。</p>
<p>[リソースと関連エンティティをコピー]</p>	<p>ALM はテスト・リソースを関連するエンティティと一緒にコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。エンティティがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、名前の重複の解決のため、コピーされた関連エンティティの名前が変更されます。</p>
<p>[関連エンティティをコピーせずにリソースをコピー]</p>	<p>ALM は関連エンティティをコピーせずにテスト・リソースをコピーし、ターゲット・プロジェクト内に貼り付けます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。</p>

第 26 章

VAPI-XP テスト

本章の内容

概念

「VAPI-XP テストの概要」(652 ページ)

タスク

「VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法」(653 ページ)

「VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法」(663 ページ)

「VAPI-XP API の使用方法」(667 ページ)

「デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法」(672 ページ)

「テスト・モードでの VAPI-XP テストの実行方法」(673 ページ)

「テスト・モードでの VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ方法」(674 ページ)

リファレンス

「VAPI-XP ユーザ・インタフェース」(677 ページ)

概念

VAPI-XP テストの概要

VAPI-XP テスト・ツールでは、Microsoft VBScript、Microsoft JavaScript (JScript バージョン)、PerlScript、および PythonScript を使用して新規のテスト・スクリプトを作成し、そのスクリプトをアプリケーション管理プロセスに組み込むことができます。VAPI-XP テスト・スクリプトを使用することで、COM/DCOM サーバ、SOAP ベースの Web サービス、Java API (Java クラスや EJB など) およびコンソール・アプリケーションをテストできます。VAPI-XP は、LoadRunner Vuser の作成に使用することもできます。

さらに、VAPI-XP は HP Application Lifecycle Management (ALM) と完全に統合されているため、ALM のテストやテスト・セットを呼び出す VAPI-XP テスト・スクリプトを設計し、スクリプトの一部としてそれらのテストやテスト・セットを実行することができます。これによって、より高度なテスト・セット実行フローを構築することができ、各テストのステータスやタイプに基づいて、実行中にテスト・セット内のテストをフィルタ処理することが可能となります。

VAPI-XP は ALM のオープン・テスト・アーキテクチャ API と完全に統合されています。オープン・テスト・アーキテクチャ API のすべてのクラスとメソッドを VAPI-XP ユーザ・インタフェースから参照することができるため、これらをテスト・スクリプトに簡単に組み込むことができます。

タスクの詳細については、次を参照してください。

「VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法」(653 ページ)

「VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法」(663 ページ)

「VAPI-XP API の使用方法」(667 ページ)

「デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法」(672 ページ)

「テスト・モードでの VAPI-XP テストの実行方法」(673 ページ)

「テスト・モードでの VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ方法」(674 ページ)

タスク

VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法


VAPI-XP テスト・スクリプトは、テスト計画モジュールのテスト計画ツリーから作成します。

VAPI-XP テストの詳細については、「VAPI-XP テストの概要」(652 ページ) を参照してください。



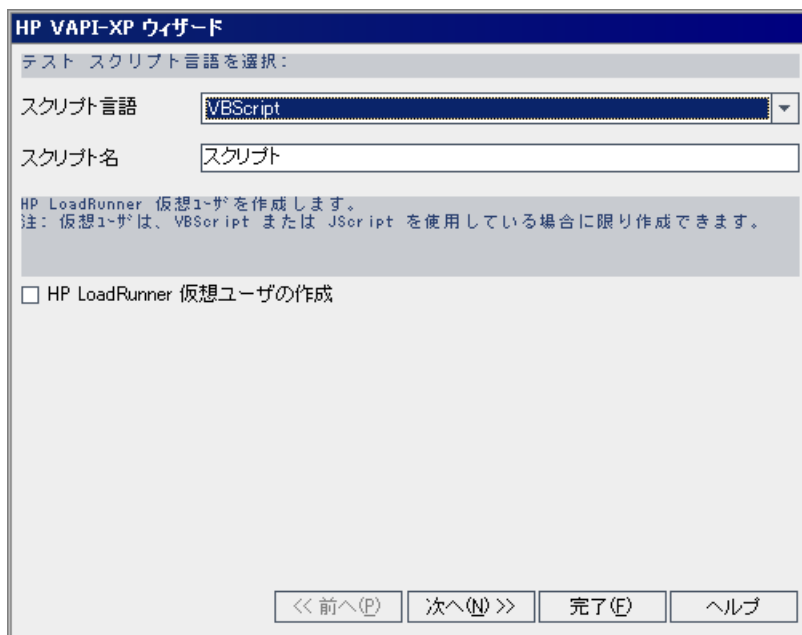
注： 手動テストを VAPI-XP テストに変換することもできます。[**デザイン ステップ**] タブで、[**スクリプトの生成**] ボタンをクリックし、「**VAPI-XP-TEST**」を選択します。ALM によって、定義したステップに対応するコードを含む VAPI-XP テスト・スクリプトが作成されます。また、元の手動テストの一部であった呼び出し先のテストのコードも含まれます。手動テストの詳細については、第 22 章、「テストの設計」を参照してください。

VAPI-XP テスト・スクリプトを作成するには、次の手順で行います。

- 1 テスト計画ツリーでサブジェクト・フォルダを選択します。
- 2  [新規テスト] ボタンをクリックするか、[テスト] > [新規テスト] を選択します。
[新規テスト] ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 3 [テストのタイプ] ボックスで、「**VAPI-XP-TEST**」を選択します。
- 4 [テスト名] ボックスにテストの名前を入力します。テストの名前には、「¥」「/」「:」「"」「?」「<」「>」「|」「*」「%」「'」は使用できません。
- 5 [詳細] タブでテストの詳細を追加します。[OK] をクリックします。

注: [プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウで必須テスト・フィールドを定義した場合は、[Required Test Fields] ダイアログ・ボックスが表示されます。必須フィールドの値を選択し、[OK] をクリックします。

HP VAPI-XP ウィザードが開きます。



- 6 [スクリプト言語] ボックスで、スクリプト言語を選択します。

注：

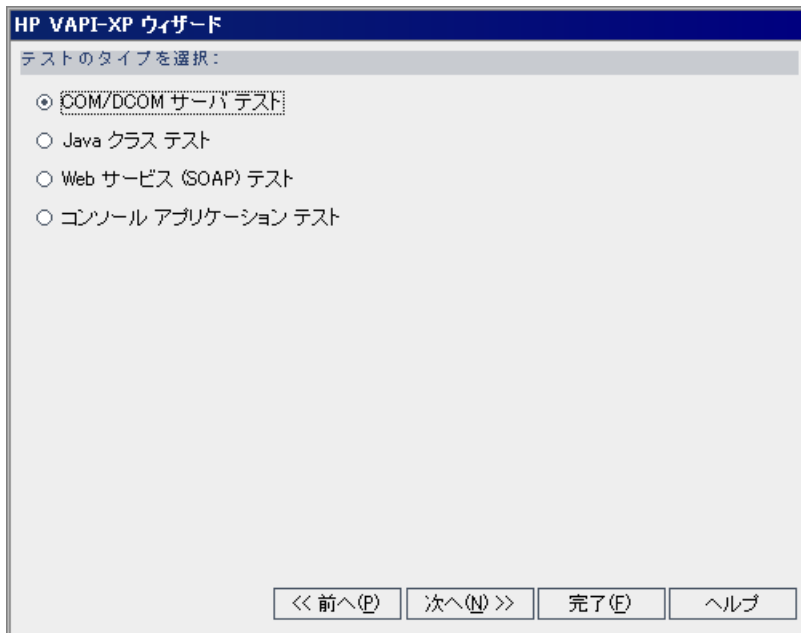
ActiveState の ActivePython スクリプトまたは ActivePerl スクリプトを使用して VAPI-XP テスト・スクリプトを作成するには、コンピュータにそのスクリプト言語がインストールされている必要があります。[テスト スクリプト] タブの [ヘルプ] メニューから [ActivePython ホーム ページ] または [ActivePerl ホーム ページ] を選択し、指示に従ってインストールします。

Microsoft の VBScript および JScript は通常、Internet Explorer と一緒にインストールされています。VBScript および JScript がインストールされていない場合は、[テスト スクリプト] タブの [ヘルプ] メニューから [VBScript ホーム ページ] または [JScript ホーム ページ] を選択し、画面の指示に従ってインストールします。

- 7 [スクリプト名] ボックスに、VAPI-XP テスト・スクリプトの名前を入力します。
- 8 VBScript または JavaScript をテスト・スクリプト言語として選択した場合、[HP LoadRunner 仮想ユーザの作成] を選択し、LoadRunner Controller で実行可能な LoadRunner Vuser スクリプトを作成することもできます。

注：作成した Vuser スクリプトを LoadRunner Controller で実行するには、LoadRunner のクライアント・マシンに HP Quality Center Connectivity Add-in の最新バージョンがインストールされている必要があります。このアドインは、[HP Application Lifecycle Management アドイン] ページからインストールできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

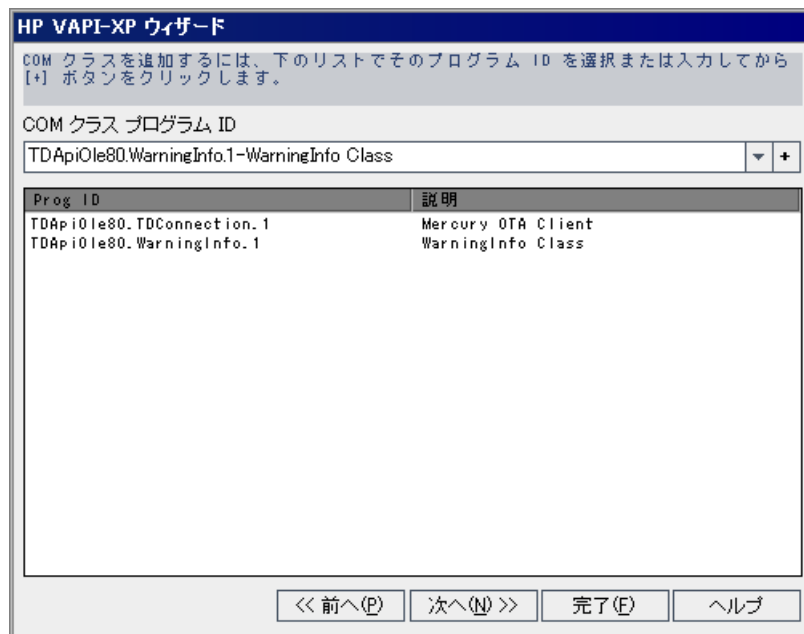
- 9 [次へ] をクリックして、HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。次のダイアログ・ボックスが開きます。



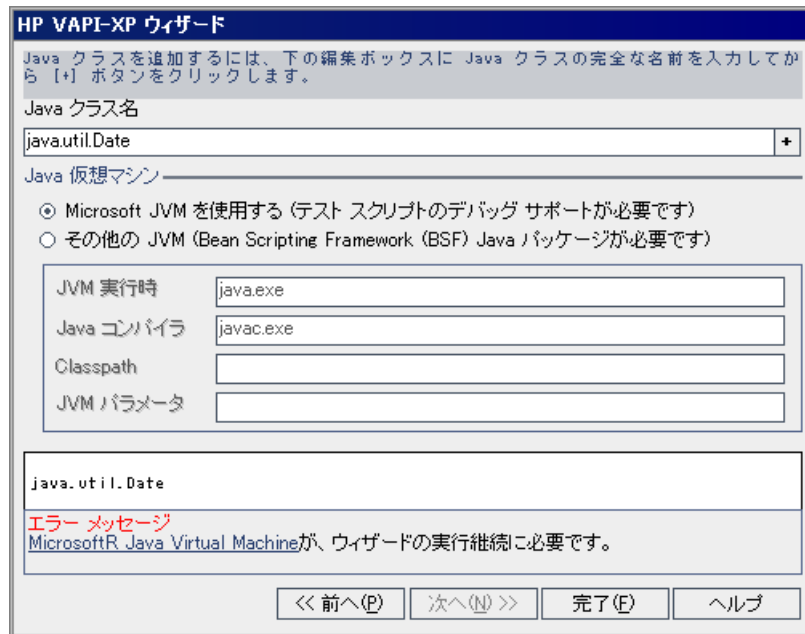
注: 各ダイアログ・ボックスで [完了] をクリックするとウィザードが終了し、[テストスクリプト] タブでテスト・スクリプトの作成を続けることができます。

- 10 作成するテストの種類を選択します。
- 11 [次へ] をクリックして、HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。

[COM/DCOM サーバテスト] を選択した場合は、テスト対象マシンのレジストリに登録されている、COM/DCOM オブジェクトのプログラム ID を選択し、[+] ボタンをクリックします。選択した COM/DCOM オブジェクトとその説明が下のボックスに表示されます。



[**Java クラス テスト**] を選択した場合は、テスト対象の Java クラスの完全名を [**Java クラス名**] ボックスに入力し、[+] ボタンをクリックします。入力した Java クラス名が下のテキスト・ボックスに表示されます。



注: 使用できるのは、引数のない public コンストラクタを含む Java クラスのみです。

[**Java 仮想マシン**] で、次の内容を指定します。

JVM 実行時: Java 仮想マシン・ランタイム実行可能ファイル (通常 **java.exe**) を指定します。

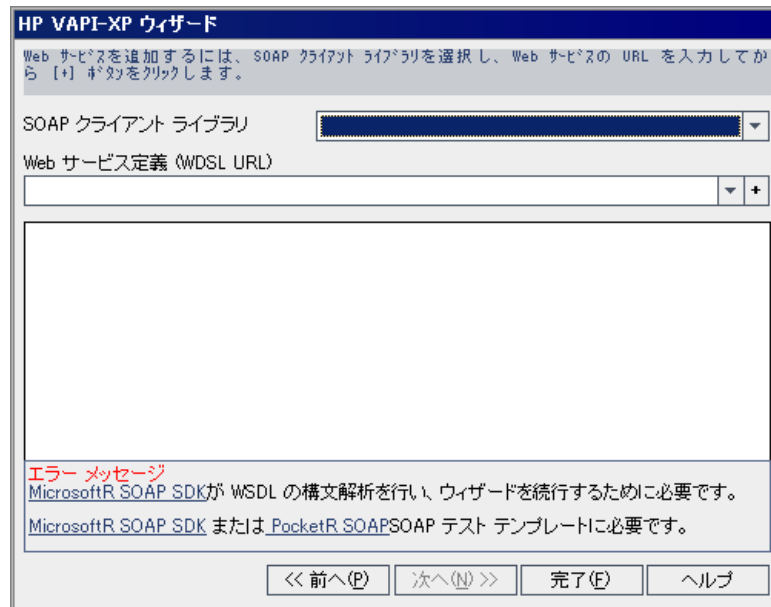
Java コンパイラ: 実行プラットフォーム (通常 **javac.exe**) でバイトコードを再コンパイルする実行可能ファイルを指定します。

Classpath : 指定した Java アプリケーションの実行に必要な、追加の（非標準の）Java ライブラリのリストを、セミコロン (;) で区切って指定します。Java クラスパスを指定しない場合、ALM は環境変数 **CLASSPATH** を使用します。

JVM パラメータ : Java 仮想マシン・ランタイム実行可能ファイルのパラメータを指定します。

ほかの Java 仮想マシンを使用する場合は、次のようにシステム・パスに BSF DLL の場所を追加します。コントロール・パネルで [システム] > [システムのプロパティ] を選択してから、[詳細設定] タブをクリックします。[環境変数] ボタンをクリックし、[システム環境変数] 領域で次の DLL のパスを追加して、パスのパラメータを編集します。**msvc60.dll**, **bsfactivscriptengine.dll**, および **bsfactivscriptengine_g.dll** を追加します。[OK] をクリックします。

[Web サービス (SOAP) テスト] を選択した場合は [SOAP クライアント ライブラリ] リストから SOAP クライアント・ライブラリを選択し、テスト対象の URL を [Web サービス定義] ボックスに入力するか、または選択します。[+] ボタンをクリックします。入力した URL が下のテキスト・ボックスに表示されます。



注：Microsoft SOAP SDK と PocketSOAP の 2 つの SOAP クライアント・ライブラリをサポートしています。PocketSOAP を使用する場合であっても、Web サービスを解析するために Microsoft SOAP SDK をインストールする必要があります。Microsoft SOAP SDK がコンピュータにインストールされていない場合は、ALM インストール DVD の **Redist** ディレクトリにある **SoapToolkit30.exe** ファイルを実行します。

[**コンソール アプリケーション テスト**] を選択した場合は、テスト対象のアプリケーション・ファイルの名前を [**アプリケーション実行可能ファイル**] ボックスに入力し、パラメータを [**コマンドラインパラメータ**] ボックスに入力します。

VAPI-XP 出力ウィンドウではなく、標準出力をそのまま使用する場合は、[**標準出力の代わりに Vapi-XP 出力を使用する**] ボックスをクリアします。

[**アプリケーションのタイムアウト**] ボックスに、ALM がアプリケーションの実行が完了するまで待つ時間（ミリ秒単位）を入力します。この値を **-1** に設定した場合、ALM はアプリケーションの実行が完了するまで、時間の制限なく待機します。

[+] ボタンをクリックします。入力したデータが下のテキスト・ボックスに表示されます。

HP VAPI-XP ウィザード

コンソール アプリケーションを追加するには、アプリケーション ファイル名とパラメータを入力してから [+] ボタンをクリックします。

コンソール アプリケーション

アプリケーション実行可能ファイル +

ping.exe

コマンド ライン パラメータ

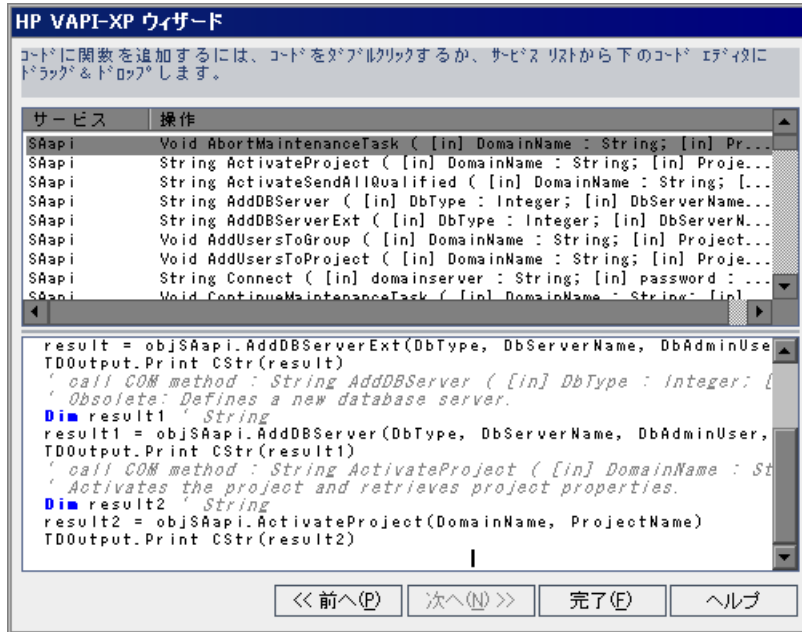
標準出力の代わりに Vapi-XP 出力を使用する

アプリケーションのタイムアウト (ミリ秒単位、-1 = INFINITE)

アプリケーション	引数	タイム...	出力を...
ping.exe		-1	true

<< 前へ(P) 次へ(N) >> 完了(E) ヘルプ

- 12 [次へ] をクリックして、HP VAPI-XP ウィザードによるテスト・スクリプト作成の次の手順に進みます。次のダイアログ・ボックスが開きます。



- 13 [サービス] リストで、テスト・スクリプトに追加する関数を選択します。関数をダブルクリックするか、またはドラッグ・アンド・ドロップすると、関数がスクリプト・コードに追加されます。関数は、[サービス] リストの下のボックスに追加されます。
- 14 必要に応じて、下部の表示枠で、追加パラメータを入力したり、スクリプトにコードを追加することができます。
- 15 [完了] をクリックします。新しいテストが、テスト計画ツリーで選択したサブジェクト・フォルダの下に表示されます。

注：作成した VAPI-XP テストに詳細と添付ファイルを追加したり、要件カバレッジを定義したりできます。詳細については、第 19 章、「テスト計画の仕様」を参照してください。

VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法

HP VAPI-XP ウィザードを使用して VAPI-XP テスト・スクリプトを作成した後は、[テストスクリプト] タブでスクリプトを編集できます。

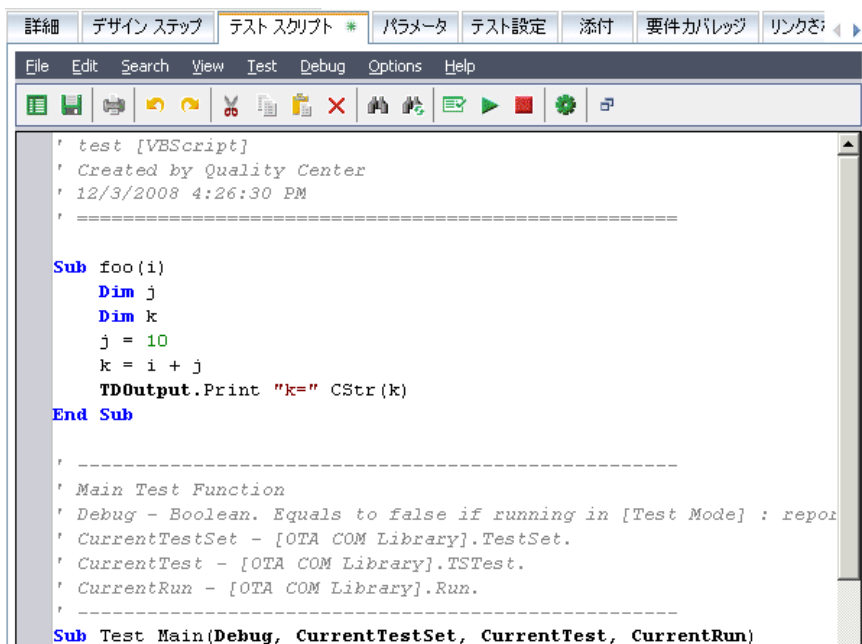
VAPI-XP テストの詳細については、「VAPI-XP テストの概要」(652 ページ) を参照してください。



ヒント: [テスト スクリプト] タブは、[表示] > [ウィンドウ] を選択するか、または [ウィンドウ] ボタンをクリックすることで、独立したウィンドウに表示することができます。

VAPI-XP テスト・スクリプトを編集するには、次の手順で行います。

- 1 テスト計画ツリーで VAPI-XP テストを選択し、[テスト スクリプト] タブをクリックします。テスト・スクリプトが表示されます。



The screenshot shows the VAPI-XP Test Editor interface. The 'Test Scripts' tab is active. The editor contains the following VBS script:

```
' test [VBScript]
' Created by Quality Center
' 12/3/2008 4:26:30 PM
'
' -----
Sub foo(i)
  Dim j
  Dim k
  j = 10
  k = i + j
  TDOutput.Print "k=" CStr(k)
End Sub

'
' -----
' Main Test Function
' Debug - Boolean. Equals to false if running in [Test Mode] : report
' CurrentTestSet - [OTA COM Library].TestSet.
' CurrentTest - [OTA COM Library].TSTest.
' CurrentRun - [OTA COM Library].Run.
' -----
Sub Test_Main(Debug, CurrentTestSet, CurrentTest, CurrentRun)
```

注: 作成したテスト・スクリプトのプロパティを表示するには、[テスト] > [プロパティ] を選択します。

- 2 スクリプトに追加できるオブジェクト定義、メソッド、およびプロパティのリストを表示するには、次の 3 つのオプションのいずれかを選択します。

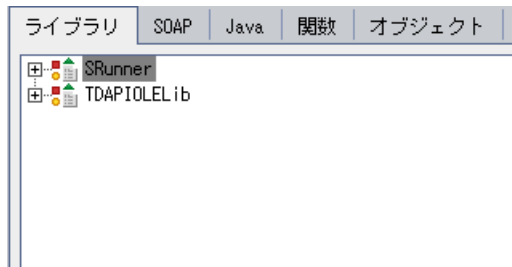
[テスト] > [参照] > [COM ライブラリ リファレンス]: 表示する COM オブジェクト定義、メソッド、プロパティを選択できる [参照] ダイアログ・ボックスが表示されます。

[テスト] > [参照] > [SOAP Web サービス リファレンス]: [Web サービス参照の追加] ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスでは、表示する Web サービス・オブジェクトの定義またはメソッドを入力できます。

[テスト] > [参照] > [Java クラス リファレンス]: [Java クラス参照の追加] ダイアログ・ボックスが表示されます。このダイアログ・ボックスでは、表示する Java クラス・オブジェクトの定義またはメソッドを入力できます。



- 3 [表示] > [ブラウザ] を選択するか、または [ブラウザの表示 / 非表示] ボタンをクリックします。次のタブが表示されます。



[ライブラリ] タブ: スクリプトに追加できる VAPI-XP (SRRunner) , ALM (TDAPIOLELib) , および COM/DCOM のオブジェクト定義、メソッド、およびプロパティのリストが表示されます。VAPI-XP オブジェクトの定義、メソッド、およびプロパティの詳細については、「VAPI-XP API の使用方法」(667 ページ) を参照してください。ALM のオブジェクト定義、メソッド、およびプロパティの詳細については、『HP ALM Open Test Architecture API Reference』を参照してください。

[SOAP] タブ：スクリプトに追加できる Web サービスのオブジェクト定義とメソッドのリストが表示されます。

[Java] タブ：スクリプトに追加できる Java クラスのオブジェクト定義とメソッドのリストが表示されます。

[関数] タブ：スクリプトに含まれている関数のリストが表示されます。

[オブジェクト] タブ：スクリプトに追加でき、定義名をもつオブジェクトのリストが表示されます。

注：各オブジェクトの定義、メソッド、またはプロパティの説明を表示するには、**[表示]** > **[出力]** を選択し、**[ヘルプ]** タブをクリックします。

- 4 スクリプト内の現在の関数に、オブジェクト定義、メソッド、またはプロパティを追加するには、コード内の該当箇所にカーソルを置き、**[ライブラリ]** タブ、**[SOAP]** タブ、または **[Java]** タブに表示されているオブジェクト定義、メソッド、またはプロパティをダブルクリックします。

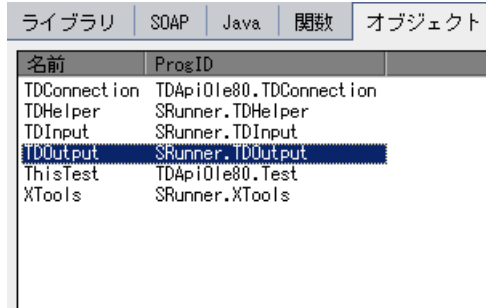
```

    ' TODO: put your code here
    ' clear output window

    ' VugenType of "VuGenTestType.VugenType.1"
    ' VugenType Class
    Set objVugenType = CreateObject("VuGenTestType.VugenType.1")
    ' call COM method : Integer CanCreateScriptTemplate
    Dim result As Integer
    result = objVugenType.CanCreateScriptTemplate()
    TDOutput.Print CStr(result)

```

- 5 定義名をもつオブジェクトを追加するには、[ライブラリ] タブ、[SOAP] タブ、または [Java] タブで、オブジェクト定義、メソッド、またはプロパティを選択し、[テスト] > [オブジェクトの追加] を選択します。[オブジェクトの追加] ダイアログ・ボックスで、オブジェクトに付ける名前を入力し、[OK] をクリックします。オブジェクトが [オブジェクト] タブに追加されます。



スクリプトにオブジェクトを追加するには、オブジェクトをダブルクリックするか、オブジェクトを右クリックし [スクリプトに挿入] を選択します。



- 6 コードの構文をチェックするには、[テスト] > [構文のチェック] を選択するか、[構文チェック] ボタンをクリックします。[表示] > [出力] を選択すると、検査の結果が [出力] タブに表示されます。

その他の編集機能

[テスト スクリプト] タブでは、次に示す編集機能も使用できます。

直前の操作を元に戻すには、[元に戻す] ボタンをクリックします。元に戻した操作をやり直すには、[やり直し] ボタンをクリックします。



スクリプトの一部からある部分のコードを削除しスクリプト内の別の場所に挿入するには、コードの該当箇所を選択し、[切り取り] ボタンをクリックし、[貼り付け] ボタンを使用して別の場所に挿入します。



スクリプトの一部からある部分のコードをコピーし、スクリプト内の別の場所に挿入するには、コードの該当箇所を選択し、[コピー] ボタンをクリックし、[貼り付け] ボタンを使用して別の場所に挿入します。



ある部分のコードを削除するには、該当箇所のコードを選択し、[削除] ボタンをクリックします。



スクリプトに含まれる特定のテキストを検索するには、[**スクリプト内で検索**] ボタンをクリックします。[テキスト検索] ダイアログ・ボックスの [検索テキスト] ボックスに、検索するテキストを入力します。検索のオプション、検索方向、検索範囲、検索開始位置を選択し、[**OK**] をクリックします。

スクリプト内で同じテキストがさらに含まれているかを調べるには、[**検索**] > [**次を検索**] を選択します。



スクリプト内の特定のテキストを検索し、該当箇所を別のテキストで置き換えるには、[**置換**] ボタンをクリックします。[テキストの置換] ダイアログ・ボックスの [**検索テキスト**] ボックスに、検索するテキストを入力します。[**置換後の値**] ボックスに、見つかったテキストを置き換える新しいテキストを入力します。検索のオプション、検索方向、検索範囲、検索開始位置を選択し、[**OK**] をクリックします。スクリプト内に含まれる、検索対象のテキストをすべて一括置換するには、[**すべて置換**] ボタンをクリックします。

スクリプト内の特定の行番号に移動するには、[**検索**] > [**次の行番号に移動**] を選択します。[次の行番号に移動] ダイアログ・ボックスに、移動する行番号を入力し、[**OK**] をクリックします。



マージンやフォント、画面やテキストの色など、エディタのオプションを変更するには、[**エディタ**] ボタンをクリックします。[エディタ]、[表示]、[色] の各タブで必要に応じてプロパティを設定し、[**OK**] をクリックします。



スクリプトの編集が終わったら、[**上書き保存**] ボタンをクリックして編集結果を保存します。

VAPI-XP API の使用方法

VAPI-XP ツールには、テスト・スクリプトの作成時に参照可能な、VAPI-XP オブジェクト定義の組み込みライブラリが用意されています。

VAPI-XP テストの詳細については、「VAPI-XP テストの概要」(652 ページ) を参照してください。

TDHelper オブジェクトの使用

TDHelper オブジェクトは、ALM 関連の作業を実行する次の関数を提供します。

RunTestSet

選択したテスト・セットを実行し、テスト・セット実行の最終的なステータスを返します。

```
RunTestSet([Name = "default"], [Filter = ""], [Locally = FALSE], [Host = ""], [HostGroup = ""])
```

Name : テスト・セットの名前。任意指定。標準設定は "default"

Filter : テストのフィルタ。実行するテストを指定。何も指定しない場合は、指定したテスト・セット内のすべてのテストが ALM によって実行されるようにします。任意指定。標準設定は ""

Locally : TRUE にセットした場合は、ALM がテスト・セットをローカルで実行するようにします。任意指定。標準設定は FALSE

Host : テスト・セットが実行されるホスト。任意指定。標準設定は ""

HostGroup : テスト・セットが実行されるホスト・グループ。任意指定。標準設定は ""

RunTest

選択したテストを実行し、テストの実行結果を返します。

```
RunTest(Name, Instance, TestSet, [Locally = FALSE], [Host = ""], [HostGroup = ""])
```

Name : テストの名前。

Instance : テストのインスタンス。

TestSet : テスト・セットの名前。

Locally : TRUE にセットした場合は、ALM がテスト・セットをローカルで実行するようにします。任意指定。標準設定は FALSE

Host : テスト・セットが実行されるホスト。任意指定。標準設定は ""

HostGroup : テスト・セットが実行されるホスト・グループ。任意指定。標準設定は ""

AddDefect

テストがデバッグ・モードで実行されている場合、現在のテストに新しい不具合を追加します。テストがテスト・モードで実行されている場合、現在のテスト・セットにおけるテスト・インスタンスの現在の実行に新しい不具合が追加されます。作成された不具合オブジェクトを返します。

AddDefect([Fields], [StepKey])

Fields : 2次元配列。次元の1つはフィールド名、もう1つはフィールド値。任意指定。

StepKey : 新しい不具合に関連するステップのステップ ID。任意指定。

AddDefectUI

[新規不具合] ダイアログ・ボックスを使用して、現在のテスト・セット (デバッグ・モードの場合) または現在の実行 (テスト・モードの場合) に新しい不具合を追加します。

AddDefectUI([StepKey])

StepKey : 新しい不具合に関連するステップのステップ ID。任意指定。

AddStepToRun

現在の実行に新しいステップを追加します。作成されたステップ・オブジェクトを返します。

AddStepToRun(Name, [Desc], [Expected], [Actual], [Status])

Name : ステップの名前。

Desc : ステップの説明。任意指定。

Expected : ステップの期待結果。任意指定。

Actual : ステップの実際の結果。任意指定。

Status : ステップのステータス。任意指定。

DownloadAttachment

テスト・オブジェクトと関連付けられている添付をダウンロードします。ダウンロードが実行されたローカル・パスを返します。

DownloadAttachment(Name, item)

Name : 添付名。

item : 添付付きのオブジェクトのリファレンス。

UploadAttachment

添付をアップロードし、テスト・オブジェクトと関連付けます。

UploadAttachment(path, item)

path : アップロードする項目のローカル・パス (完全なファイル名を指定)。

item : 添付を関連付けるオブジェクトへのリファレンス。

TDHelper オブジェクトの使用

TDInput オブジェクトは、次の関数を提供します。エンド・ユーザからの入力値を取得するために使用できます。

GetInput

入力ダイアログ・ボックスを表示します。このダイアログ・ボックスでは、エンド・ユーザからの入力を取得できます。

GetInput([Caption],[Name])

Caption : ダイアログ・ボックスの見出し。任意指定。

Name : 入力値の名前。任意指定。

TDOutput オブジェクトの使用

TDOutput オブジェクトは、次の関数を提供します。VAPI-XPの [出力] タブの制御に使用できます。

Clear メソッド

[出力] タブをクリアします。

Clear

Print メソッド

[出力] タブの新しい行にテキスト・メッセージを出力します。

Print(Msg)

HookDebug プロパティ

[OutputDebugString] タブの API 関数用のフックを設定または削除します。

HookDebug

Text プロパティ

[出力] タブのテキストを取得または設定します。

String Text

XTools オブジェクトの使用

XTools オブジェクトは、一般的な作業を実行する次の関数を提供します。

run

渡された属性を使って、コマンド・ラインを実行します。

run(Command, [Args = ""], [Timeout = -1], [UseOutput = TRUE])

Command : アプリケーションの実行可能ファイル。

Args : アプリケーションの引数。任意指定。標準設定は ""。

Timeout : タイムアウト時間。単位はミリ秒。-1 の場合、ALM はアプリケーションの実行が完了するまで、時間の制限なく待機。

UseOutput: TRUE の場合は、ALM は標準出力の代わりに VAPI-XP 出力ウィンドウを使用。

WrapArray

オブジェクトの配列からバリエーションの配列を作成します。たとえば、呼び出されたオブジェクトがメソッドの結果として文字列の配列を返す場合、サポートされているスクリプト・エンジンでは、配列の読み取りができません。WrapArray 関数を呼び出して、返された配列を関数のパラメータとして渡すことにより、スクリプト・エンジンが解釈できる、バリエーションの配列を作成できます。

WrapArray (array)

array : ラップする配列。

Sleep

指定した時間の間、スクリプトの実行を中断します。

Sleep(interval)

interval : スクリプト実行の中断時間 (ミリ秒単位)。

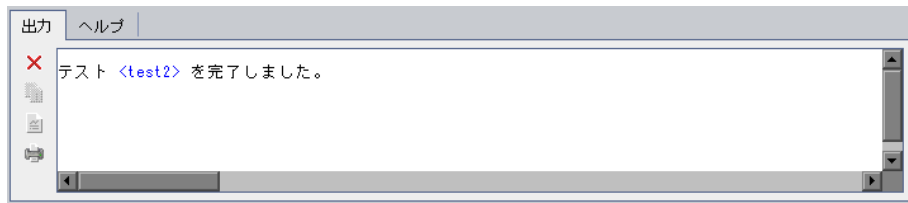
デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法

VAPI-XP テスト・スクリプトの作成、編集が完了したら、スクリプトをデバッグ・モードまたはテスト・モードで実行できます。VAPI-XP テストをデバッグ・モードで実行すると、テスト・セットにテストを含めなくてもテストを実行できます。また、ALM プロジェクト内にテスト実行データを作成しなくてもテストを実行できます。通常、デバッグ・モードはテストの開発中に使用し、テストが完成したらテスト・モードを使用することをお勧めします。

VAPI-XP テストの詳細については、「VAPI-XP テストの概要」(652 ページ)を参照してください。

VAPI-XP テストをデバッグ・モードで実行するには、次の手順で行います。

- 1 テスト計画モジュールで、テスト計画ツリーから VAPI-XP テストを選択し、[**テストスクリプト**] タブをクリックします。
- 2 [テスト] > [**実行 [デバッグ モード]**] を選択するか、[**実行スクリプト**] ボタンをクリックすると、ALM は選択したテスト・スクリプトの実行を開始します。
- 3 [表示] > [**出力**] を選択すると、テスト・スクリプトによって生成された出力が表示されます。



[出力] タブをクリアするには、[**出力のクリア**] ボタンをクリックします。



出力のテキストをクリップボードにコピーするには、対象テキストを選択し、[**選択したテキストをクリップボードへコピー**] ボタンをクリックします。



テスト・スクリプトの出力を Web ブラウザで閲覧するには、**[Web ブラウザで出力テキストを開く]** ボタンをクリックします。



テスト・スクリプト出力を印刷するには、**[印刷出力]** ボタンをクリックします。



- 4 実行中の VAPI-XP テストを完了前に停止するには、**[テスト]** > **[停止]** を選択するか、**[停止]** ボタンをクリックします。

テスト・モードでの VAPI-XP テストの実行方法

テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットに VAPI-XP テストを追加したら、VAPI-XP テストをテスト・モードで実行することができます。

VAPI-XP テストをテスト・モードで実行すると、テスト実行データが ALM プロジェクトに作成されます。VAPI-XP テストは、テスト計画モジュールおよびテスト・ラボ・モジュールのどちらからでも、テスト・モードで実行できます。

注：VAPI-XP テストをリモートで実行するには、HP ALM Client Registration Add-in と HP Quality Center Connectivity Add-in を、テストを実行するホスト・マシンにインストールする必要があります。アドインの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

VAPI-XP テストの詳細については、「VAPI-XP テストの概要」(652 ページ) を参照してください。

VAPI-XP テストをテスト計画モジュールからテスト・モードで実行するには、次の手順で行います。

- 1 テスト計画ツリーから VAPI-XP テストを選択し、**[テストスクリプト]** タブをクリックします。
- 2 **[テスト]** > **[実行 [テストモード]]** を選択します。**[テストセットを選択]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- 3 **[テストセット]** で、現在の VAPI-XP テストを含むテスト・セットを選択します。
- 4 **[インスタンス]** ボックスで、実行するテスト・インスタンスを選択します。
- 5 **[実行名]** ボックスで、テスト実行に付ける名前を入力します。

- 6 [OK] をクリックすると、ALM により、選択したテストの実行が開始されます。
- 7 テスト・スクリプトによって生成された出力を表示するには、[表示] > [出力] を選択します。[出力] タブの説明については、「デバッグ・モードでの VAPI-XP テストの実行方法」(672 ページ) を参照してください。
- 8 実行中の VAPI-XP テストを完了前に停止するには、[テスト] > [停止] を選択するか、[停止] ボタンをクリックします。



VAPI-XP テストをテスト・ラボ・モジュールからテスト・モードで実行するには、次の手順で行います。

- 1 [テスト セット] リストから、実行する VAPI-XP テストを含むテスト・セットを選択します。
- 2 [実行グリッド] で実行するテストを選択し、[実行] ボタンをクリックします。[自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテストが表示されます。
- 3 [ホスト上で実行] カラムで、VAPI-XP テストを実行するホスト・マシンを選択するか、[すべてのテストをローカルで実行] を選択してローカル・マシンでテストを実行します。
- 4 [実行] ボタンをクリックします。選択した VAPI-XP テストの実行が開始されると [VAPI-XP テスト スクリプト] ウィンドウが開きます。テストの実行が完了すると、[自動ランナー] ダイアログ・ボックスにテスト実行のステータスが表示されます。



テスト・モードでの VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ方法

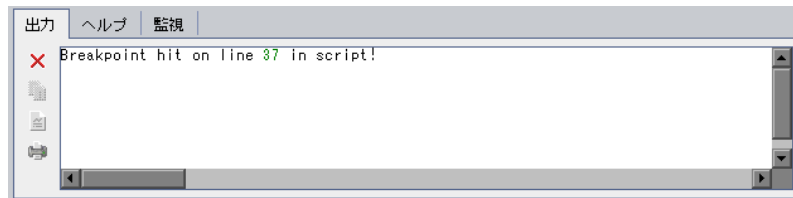
テスト実行が成功せずに完了したら、VAPI-XP の統合デバッガを使用して VAPI-XP テスト・スクリプトのデバッグ作業を行うことができます。


注：統合デバッガは PerlScript または PythonScript のテスト・スクリプトのデバッグには使用できません。

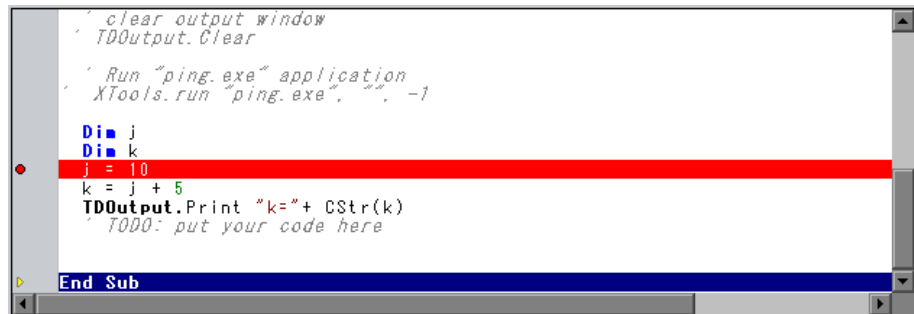
VAPI-XP テストの詳細については、「VAPI-XP テストの概要」(652 ページ) を参照してください。


VAPI-XP テスト・スクリプトをデバッグするには、次の手順で行います。

- 1 テスト計画モジュールの [テスト スクリプト] タブで、[デバッグ] > [統合デバッグ] を選択します。デバッグ処理に関するボタンがツールバーに表示されます。
- 2  スクリプト内にブレークポイントを設定するには、ブレークポイントを設定する対象となるスクリプト行を選択し、[デバッグ] > [ブレークポイントの設定/解除] を選択するか、[ブレークポイントの設定/解除] ボタンをクリックします。あるいは、スクリプトの行の横のグレーのマージンをクリックします。選択した行が赤色で強調表示されます。
- 3  [実行スクリプト] ボタンをクリックすると、ALM、スクリプトの実行が開始し、指定したブレークポイントで停止します。[出力] タブに次のメッセージが表示されます。



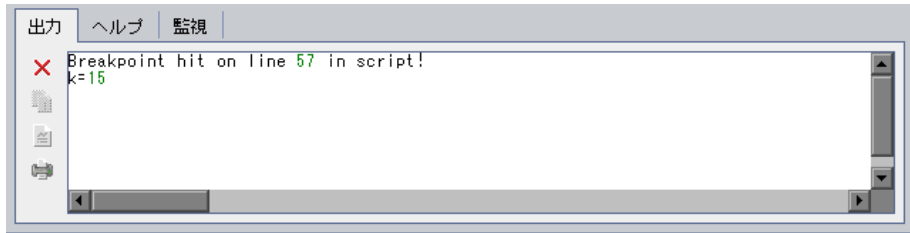
- 4  ブレークポイントの後のスクリプトに進むには、[デバッグ] > [ステップイントウ] を選択するか、[ステップイントウ] ボタンをクリックします。ブレークポイントの次のスクリプト行が青色で強調表示されます。



- 5  スクリプト内の行をスキップするには、[ステップ オーバー] ボタンをクリックするか、[デバッグ] > [ステップ オーバー] を選択します。



- 6 ALM に対してスクリプトを実行するよう指示するには、**[デバッグ]** > **[ステップアウト]** を選択するか、**[ステップアウト]** ボタンをクリックします。出力が **[出力]** タブに表示されます。



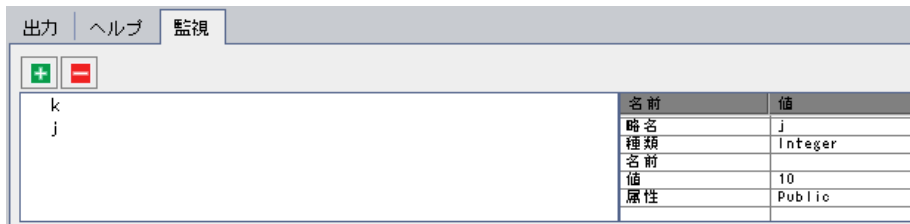
- 7 スクリプト内の各変数の値を表示または編集するには、**[デバッグ]** > **[変数]** を選択するか、または **[変数の表示]** ボタンをクリックします。**[変数]** ダイアログ・ボックスが開き、現在のスクリプトで利用できる変数が表示されます。変数を選択すると、その変数のプロパティが表示されます。

変数の値を変更するには、**[値]** ボックスで変数に割り当てる新しい値を入力し、**[更新]** をクリックします。**[OK]** をクリックすると変更が保存され、**[変数]** ダイアログ・ボックスを閉じます。



- 8 デバッグ中に特定の変数に関する情報を表示するには、**[デバッグ]** > **[監視]** を選択するか、**[監視ウィンドウの表示]** ボタンをクリックして、**[監視]** タブを表示します。

[監視] タブに変数を追加するには、**[+]** をクリックし、**[Prompt]** ボックスに変数名を入力して、**[OK]** をクリックします。変数とその値が **[監視]** タブに表示されます。



- 9 スクリプトの実行を再開するには、**[デバッグ]** > **[実行を再開]** を選択するか、**[実行を再開]** ボタンをクリックします。



- 10 **[デバッグ]** > **[デバッグ停止]** を選択するか、**[デバッグ停止]** ボタンをクリックし、統合デバッガによるスクリプトのデバッグを終了します。

リファレンス

VAPI-XP ユーザ・インタフェース

本項の内容

「HP VAPI-XP ウィザード」(677 ページ)

「[テストスクリプト] タブ」(677 ページ)

HP VAPI-XP ウィザード

このウィザードにより、VAPI-XP テスト・スクリプトを作成できます。詳細については、「VAPI-XP テスト・スクリプトの作成方法」(653 ページ)を参照してください。

[テストスクリプト] タブ

このタブにより、VAPI-XP テスト・スクリプトの表示および編集ができます。詳細については、次を参照してください。

「VAPI-XP テスト・スクリプトの編集方法」(663 ページ)

「VAPI-XP API の使用方法」(667 ページ)

第 V 部

テスト・ラボ

Quality Center Starter Edition : リリース管理とベースラインに関連するフィールドおよび機能は、テスト・ラボ・モジュールでは使用できません。

第 27 章

テスト実行の紹介

本章の内容

概念

「テスト実行の概要」(682 ページ)

タスク

「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ)

「ドラフト実行による作業」(687 ページ)

リファレンス

「テスト・ラボ・モジュールのユーザ・インタフェース」(688 ページ)

概念

テスト実行の概要

テスト・セットを作成してテストの実行を開始し、各セットに含めるテストを選択します。**テスト・セット**には、HP Application Lifecycle Management (ALM) プロジェクトのテストのサブセットが含まれており、特定のテスト目標を達成するように設計されています。アプリケーションに変更を加えながら、プロジェクトの手動テストと自動テストを実行し、不具合を見つけ、品質を評価します。

ALM テストは手作業または自動で実行します。

手動テストの実行

ALM では、以下を使用してテストを手作業で実行します。

HP Sprinter。Sprinter のもたらす強化された機能は、手作業によるテスト・プロセスを支援します。**ALM Editions** : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition や Performance Center Edition では利用できません。

マニュアル・ランナー。Sprinter を使用していない場合は、マニュアル・ランナーを使用して手作業で実行できます。

ALM では、手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。手作業でテストを実行する場合、テスト・ステップに従って、テスト対象のアプリケーションを操作します。実際アプリケーションの結果が期待結果と一致しているかどうかによって、各ステップの成功または失敗を判定します。

テストの自動実行

自動ランナーを使用して、テストを自動で実行できます。

手動テストと自動テストは自動で実行できます。

自動テストを自動実行すると、選択されているテスト・ツールが ALM によって自動的に起動され、ローカル・マシンまたはリモート・ホストでこのテストが実行され、結果が ALM にエクスポートされます。

手動テストを自動実行すると、指定されているテスト責任者に ALM からテストの実行を求める電子メールが指定したホストに送信されます。

テスト実行に続いて、テスト結果を確認して分析します。分析の目的は、失敗したステップを特定し、アプリケーションで不具合が検出されたか、テストの期待結果を更新する必要があるかどうかを判断することです。実行データを表示し、レポートおよびグラフを生成することで、定期的にテスト結果を検証できます。

テストをドラフト実行として設定し、ALM が実行結果を無視するようにもできます。詳細については、「ドラフト実行」(683 ページ) を参照してください。

Quality Center Starter Edition : リリース管理やベースライン設定に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。

タスクの詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ) を参照してください。

ドラフト実行

テストをドラフト実行として設定し、ALM が実行結果を無視するようにします。テスト・インスタンスをドラフト実行として設定すると、実行の結果はテストのステータス、テスト・インスタンスのステータス、カバレッジ・ステータスに影響しません。ALM もまた、実行する残りのテスト・インスタンス数の計算時、およびカバレッジ、進捗、ライブ・アナリシス・グラフの結果の表示時はドラフト実行を無視します。

テストを実行する前に、テスト実行をドラフトとして指定できます。実行後いつでも、**[ドラフト実行]** フィールドを変更して、テスト実行をドラフトとしてマークすることもできます。実行用に **[ドラフト実行]** の値を変更すると、ALM は関連するすべての統計情報を再計算し、関連するステータス・フィールドを更新します。グラフには更新された結果が表示されます。

ドラフト実行により、開発中のテストまたは変更後のテストを試してみることができます。たとえば、各ステップの説明が正しく構築されているかをテストしたり、大きなテスト・スクリプトの一部を試すこともできます。

テスト実行をドラフトとして設定するには、適切なユーザ権限が必要です。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

タスクの詳細については、「ドラフト実行による作業」(687 ページ) を参照してください。

タスク

ALMでテストを実行する方法

このタスクでは、ALM のテスト・ラボ・モジュールを使用して、プロジェクトのテストを実行する方法について説明します。

注：このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ)を参照してください。

Quality Center Starter Edition : リリース管理やベースライン設定に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「テスト・セットの作成」(685 ページ)
- 「テスト実行のスケジュール設定」(685 ページ)
- 「テストの手動実行」(685 ページ)
- 「テストの自動実行」(685 ページ)
- 「パフォーマンス・テストの実行」(686 ページ)
- 「テスト結果の表示と分析」(686 ページ)
- 「不具合へのリンク」(686 ページ)

1 テスト・セットの作成

まず、テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを作成して定義します。テスト・セットを作成したら、リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。

タスクの詳細については、「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)を参照してください。

2 テスト実行のスケジュール設定

テストを実行するために、条件を設定したり、日付や時刻のスケジュールを作成したりすることができます。また、テストの実行順序を指定することもできます。

タスクの詳細については、「テスト実行をスケジュールする方法」(747 ページ)を参照してください。

3 テストの手動実行

テスト計画時に定義したテスト・ステップを実行して、手動テストや自動テストを手作業で実行できます。

タスクの詳細については、「テストを手作業で実行する方法」(763 ページ)を参照してください。

4 テストの自動実行

テスト・セットの手動テストや自動テストを、自動実行するかどうか選択できます。

タスクの詳細については、「テストを自動で実行する方法」(780 ページ)を参照してください。

5 パフォーマンス・テストの実行

Performance Center : パフォーマンス・テストを実行してアプリケーションに負荷をかけて、そのパフォーマンスを測定できます。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。

6 テスト結果の表示と分析

テスト結果を表示します。 テストを実行した後は、結果を確認して実際の結果がテストの予想した結果と一致しているかどうかを判断します。テスト結果の表示のタスク詳細については、「テストの結果を表示する方法」(797 ページ) を参照してください。

グラフとレポートを作成して実行データを分析します。 次のいずれかを使用します。

テスト・セット・フォルダの動的グラフを表示します。 テスト・セット・ツリーでテスト・フォルダを選択し、**[ライブ アナリシス]** タブをクリックします。ライブ・アナリシス・グラフの生成のタスク詳細については、「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ) を参照してください。

テスト・セットのデータをグラフで表示します。 テスト・ラボ・モジュールのメニューで、**[アナリシス]** > **[グラフ]** を選択します。グラフの生成のタスク詳細については、「グラフを生成する方法」(900 ページ) を参照してください。

テスト・セットのデータのレポートを作成します。 テスト・ラボ・モジュールのメニューで、**[アナリシス]** > **[レポート]** を選択します。レポートの生成のタスク詳細については、「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ) を参照してください。

ALM のその他のアナリシス・ツールについては、「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ) を参照してください。

7 不具合へのリンク

不具合が検出された場合、新しい不具合を作成してテスト・セット、テスト・インスタンス、テスト実行、実行ステップにリンクするか、または既存の不具合をリンクできます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[リンクされている不具合]** ページと **[リンクされているエンティティ]** ページ」(866 ページ) を参照してください。

ドラフト実行による作業

このタスクでは、テスト実行をドラフト実行として設定する方法について説明します。

テスト実行の前。テストを実行する前に、手作業で実行するテストをドラフトとしてマークできます。マニュアル・ランナーの、[実行の詳細] ページで、[**ドラフト実行**] フィールドの値を「Y」に設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「Manual Runner ウィザード」(769 ページ) を参照してください。

テスト実行の後。実行の [**ドラフト実行**] フィールドを変更して、テスト実行をドラフトとしてマークできます。実行の詳細へのアクセスについては、「テストの結果を表示する方法」(797 ページ) を参照してください。

リファレンス

テスト・ラボ・モジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(692 ページ)

「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(708 ページ)

「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ)

🔍 テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ

このウィンドウにより、テスト・セットを作成してテストを実行できます。

設定:名前	テスト:テスト名	タイプ	ステータス
[1]Returning Date	Returning Date	MANUAL	Failed
[1]View Calendar	View Calendar	MANUAL	Passed
[1]Service Class...	Service Class...	MANUAL	Passed
[1]Flight Time Pr...	Flight Time Pr...	MANUAL	Passed
[1]Range of Dates	Range of Dates	MANUAL	Failed
[1]Number Of Pa...	Number Of Pa...	QUICKTEST_TE...	Failed
[1]Trip Type	Trip Type	QUICKTEST_TE...	Failed
[1]Passenger Na...	Passenger Na...	MANUAL	Failed
[1]Credit Card N...	Credit Card N...	MANUAL	Failed
[1]Credit Card Ex...	Credit Card Ex...	MANUAL	Passed
[1]Credit Card O...	Credit Card O...	MANUAL	Failed
[1]Billing And De...	Billing And De...	MANUAL	Passed
[1]Address Optio...	Address Optio...	MANUAL	Failed
[1]Flight Confirm...	Flight Confirm...	MANUAL	Passed
[1]Flight Cost By...	Flight Cost By...	MANUAL	Passed
[1]Flight Cost By...	Flight Cost By...	MANUAL	Failed
[2]Billing And De...	Billing And De...	MANUAL	Passed
[1]User Name	User Name	MANUAL	Passed
[1>Password	Password	MANUAL	Failed
[1]Confirm Pass...	Confirm Pass...	MANUAL	Passed

ステップ名	ステータス	ステップ詳細
ステップ 1	No Run	説明:
ステップ 2	No Run	
ステップ 3	No Run	期待:

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト・ラボ] を選択します。
重要な情報	<p>テスト・ラボ・モジュールに含まれるタブは、次のとおりです。</p> <p>[テストセット]: テスト・セット・ツリーにテスト・セットを作成して変更できます。</p> <p>[テスト実行]: グリッドにあるプロジェクトのすべてのテスト実行を表示できます。</p> <p>Quality Center Starter Edition: リリース管理やベースライン設定に関係するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。</p>
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)
参照項目	「テスト実行の概要」(682 ページ)

テスト・ラボ・モジュールの共通の要素

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<テスト・ラボ・モジュールの共通の UI 要素>	<p>テスト・ラボ・フィールド。フィールドの定義については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」（710 ページ）を参照してください。</p> <p>テスト・ラボのメニューとボタン。コマンドとボタンの説明については、「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」（692 ページ）を参照してください。</p> <p>テスト・ラボのアイコン。アイコンの説明については、「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」（708 ページ）を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューとサイドバー。[ツール] メニュー、[ヘルプ] メニュー、サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」（40 ページ）を参照してください。</p>

【テストセット】タブ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<テスト・セット・ツリー>	<p>ウィンドウの左側に表示され、テスト・セットを階層構造に編成して表示します。プロジェクトのテスト・セットには、テストのサブセットが含まれます。</p> <p>注：フォルダ内の項目は移動できません。ツリー・ビューを更新すると、フォルダ内の項目はアルファベット順に並べ替えられます。</p>
【添付】タブ	<p>現在選択されているテスト・セットに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「【添付】ページ」（86 ページ）を参照してください。</p>
【オートメーション】タブ	<p>現在選択されているテスト・セットの電子メール通知ルールおよび失敗時の指示が表示されます。詳細については、「【オートメーション】タブ」（726 ページ）を参照してください。</p>

UI 要素	説明
【説明】 タブ	現在選択されているテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダについて説明します。 テキスト・ボックス内をクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。
【詳細】 タブ	現在選択されているテスト・セットまたはフォルダの詳細を表示します。 注: テスト・セット・フォルダの場合、 【表示】 ボタンをクリックして追加情報を表示します。
【実行フロー】 タブ	テスト・データを図に表示します。テスト実行の条件を指定できます。詳細については、「 【実行フロー】タブ 」(751 ページ)を参照してください。
【実行グリッド】 タブ	テスト・データをグリッドに表示します。詳細については、「 【実行グリッド】 タブ 」(723 ページ)を参照してください。
フィルタ	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。テスト・セット・ツリーのすぐ上にあります。
【履歴】 タブ	現在選択されているテスト・セットに行われた変更の一覧です。詳細については、「 【履歴】 タブ 」(81 ページ)を参照してください。
【リンクされている不具合】 タブ	現在選択されているテスト・セットにリンクされている不具合の一覧です。ユーザ・インタフェースの詳細については、「 【リンクされている不具合】 ページと 【リンクされているエンティティ】 ページ」(866 ページ)を参照してください。
【ライブアナリシス】	現在選択されているテスト・セット・フォルダに関連するテスト・データを視覚的に表現したもの。詳細については、「 【ライブアナリシス】 タブ 」(1026 ページ)を参照してください。 使用可能な場所: テスト・セット・フォルダ
【テストの選択表示枠】	【テスト計画ツリー】 タブおよび 【要件ツリー】 タブにより、選択されているテスト・セットに追加するテストを選択できます。詳細については、「 【テストの選択】 表示枠 」(732 ページ)を参照してください。 使用可能な場所: 実行グリッド, 実行フロー

【テスト実行】 タブ





詳細については、「**【テスト実行】 タブ**」(813 ページ)を参照してください。


テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン

本項では、テスト・ラボ・モジュールで利用可能なメニューとボタンについて説明します。


アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト ラボ] を選択します。
重要な情報	<p>一部のメニュー・コマンドおよびボタンは、すべての [テスト ラボ] で利用できるわけではありません。</p> <p>[テスト] メニューは、[実行グリッド] および [実行フロー] タブで利用可能です。</p> <p>ALM Editions :</p> <p>Quality Center Starter Edition: リリース管理に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。</p> <p>Quality Center Starter Edition および Performance Center Edition : Sprinter 機能は利用できません。</p>
関連タスク	「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ)
参照項目	<p>「テスト実行の概要」(682 ページ)</p> <p>「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)</p> <p>「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(708 ページ)</p>



次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。




UI 要素	メニュー	説明
		<p>[フローに時間の依存関係を追加]：時刻の依存アイコンを図に追加します。</p> <p>テストの時刻の依存を作成するには、実行フロー内でアイコンからテストへ矢印をつなげます。標準設定の時刻の基準は、ALM Platform サーバの現在の日付と時刻です。詳細については、「[実行フロー] タブ」(751 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：実行フロー</p>
[警告]	[テスト]	<p>[警告] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・インスタンスの警告を表示できます。詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：[テストセット] タブ > [実行グリッド], [テスト実行] タブ</p>
 [レイアウトの並べ替え]	[テスト]	<p>テスト間の関係がわかりやすいように、実行フロー図のテストが階層レイアウトで並べられて表示されます。</p> <p>使用可能な場所：実行フロー</p>
 [サイクルに割り当て]	[テストセット]	<p>サイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てることができます。詳細については、「[サイクルを選択] ダイアログ・ボックス」(185 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：[テストセット] タブ</p>
 [添付]		<p>[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックス内の [添付] ページが開きます。テスト・インスタンスに添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：実行グリッド</p>



UI 要素	メニュー	説明
[警告をクリア]	[テスト]	<p>表示されたモジュールの警告をクリアします。詳細については、「警告の使用方法」(99 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: 実行グリッド</p>
 [割り当てられたサイクルをクリア]	[テストセット]	<p>テスト・セット・フォルダから、割り当てられたサイクルをクリアします。</p> <p>使用可能な場所: [テストセット] タブ</p>
[フォローアップフラグをクリア]	[編集] ([テスト実行] タブ) [テスト] ([テストセット] タブ > [実行グリッド])	<p>選択されたテスト・インスタンスまたはテスト実行のフォローアップ・フラグをクリアします。詳細については、「フォローアップ・フラグの概要」(98 ページ) を参照してください。</p>
[設定されたベースラインのクリア]	[テストセット]	<p>テスト・セットに設定されたベースラインをクリアします。</p> <p>注:</p> <p>テスト計画モジュールに存在しなくなったテストがテスト・セットに含まれている場合、ALM によってテスト・セットからテストが削除されます。</p> <p>テスト・セットからすべてのテスト実行を削除します。</p>
[折りたたみ]	[表示]	<p>選択されたフォルダの下の、テスト・セット・ツリーのフォルダを折りたたみます。</p> <p>使用可能な場所: [テストセット] タブ</p>




UI 要素	メニュー	説明
[手作業実行の続行]	[テスト 実行] ([テスト 実行] タブ) [テスト] ([テスト セット] タブ > [実行 グリッド] または [実行 フロー])	初回のテスト実行で使用されたのと同じランナーで、選択されたテストの実行を続行します。詳細については、「テストを手作業で実行する方法」(763 ページ)を参照してください。
[コピー] / [貼り付け]	[編集]	選択されたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーして、同じプロジェクトか別のプロジェクトの別のテスト・セット・フォルダに貼り付けます。 テスト・セットを別のプロジェクトに貼り付けると、[ターゲットプロジェクトをテストセットに貼り付け] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[ターゲットプロジェクトにテストフォルダを貼り付け] ダイアログ・ボックス」(743 ページ)を参照してください。 注： テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーする場合、テスト実行の情報はコピーされません。 プロジェクト間でテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダをコピーするには、両方のプロジェクトで同じ ALM のバージョンとパッチ・レベルを使用している必要があります。 使用可能な場所： [テストセット] タブ
[クリップボードへコピー]	[テスト]	[実行フロー] の図をビットマップとしてクリップボードに貼り付けます。



UI 要素	メニュー	説明
<p>[URL をコピー] と [URL を貼り付け]</p>	<p>[編集]</p>	<p>選択されたテスト・セットまたはテスト実行をコピーして、その URL をリンクとして貼り付けます。テスト・セットまたはテスト実行自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。このリンクをクリックすると ALM が開き、該当するテスト・セットまたはテスト実行が表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が要求されます。</p>
<p>[切り取り] / [貼り付け]</p>	<p>[編集]</p>	<p>選択されたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを、テスト・セット・ツリーの別の場所に移動します。</p> <p>ヒント: テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダは、ドラッグすることでもテスト・セット内の新しい場所に移動できます。</p> <p>使用可能な場所: [テストセット] タブ</p>
<p> [削除]</p>	<p>[編集]</p>	<p>選択されたテスト・セット、テスト・セット・フォルダ、テスト実行を削除します。Root フォルダ、未添付フォルダ、標準設定のテスト・セットは削除できません。</p> <p>テスト・セット・フォルダを削除すると、[フォルダ削除の確認] ダイアログ・ボックスが開き、次の削除のオプションから 1 つを選択できます。</p> <p>[フォルダのみ削除する]: フォルダを削除して、すべてのテスト・セットを未添付フォルダに移動します。未添付フォルダには、フォルダとの関連付けがなくなったすべてのテスト・セットが格納されます。</p> <p>[フォルダとテスト・セットを削除する]: フォルダとそのすべてのサブフォルダとテスト・セットが完全に削除されます。</p>



UI 要素	メニュー	説明
 【詳細】		<p>対応する [詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択されたテスト・セット、テスト・インスタンス、テスト実行の詳細を表示して更新できます。</p> <p>詳細については、次を参照してください。</p> <p>「[テストセット詳細] ダイアログ・ボックス」(738 ページ)</p> <p>「[テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックス」(801 ページ)</p> <p>「[実行詳細] ダイアログ・ボックス」(816 ページ)</p>
 【テストの編集】		<p>Performance Center : パフォーマンス・テスト設計者が開き、選択されたパフォーマンス・テストを設計できます。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>
【手動テスト設定の有効化】	[テスト]	<p>マニュアル・テストを実行するたびに、ALM によって [マニュアル・テスト実行] ダイアログ・ボックスが表示されるようになります。詳細については、「[手動テスト実行] ダイアログ・ボックス」(767 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : 実行グリッド, 実行フロー</p>
【全て展開】	[表示]	<p>選択されたフォルダの下の、テスト・セット・ツリーのすべてのフォルダを展開します。</p> <p>使用可能な場所 : [テストセット] タブ</p>
【エクスポート】	[編集]	<p>[テスト実行] タブのデータをテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメント、またはテキスト・ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>使用可能な場所 : [テスト実行] タブ</p>

UI 要素	メニュー	説明
<p>【フィルタ】</p>	<p>[表示]</p>	<p>テスト実行グリッドの実行のフィルタ処理と並べ替えが実行できます。詳細については、「【フィルタ】ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : [テスト実行] タブ</p>
<p>【検索】</p>	<p>[編集] ([テスト実行] タブ) [テスト] ([テストセット] タブ > [実行グリッド])</p>	<p>[検索] ダイアログ・ボックスが開き、テスト実行グリッドのテスト実行、または [実行グリッド] のテスト・インスタンスを検索できます。詳細については、「【検索】ダイアログ・ボックス」(74 ページ)を参照してください。</p>
<p>【フォルダ/テストセットの検索】</p>	<p>[編集]</p>	<p>[検索] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットとテスト・セット・フォルダの検索ができます。詳細については、「【検索】ダイアログ・ボックス」(74 ページ)を参照してください。</p> <p>注 : テスト・セット・ツリーにフィルタを適用している場合、ALM では、検索は現在表示されているテスト・セットに制限されます。</p> <p>使用可能な場所 : [テストセット] タブ</p>
<p> 【フロー内のテストの検索】</p>		<p>[テストインスタンスの検索] ダイアログ・ボックスが開き、[実行フロー] の図でテストを検索できます。</p> <p>検索に成功すると、[検索結果] ダイアログ・ボックスが開きます。開いているすべてのウィンドウの上に [検索結果] ダイアログ・ボックスを表示するには、【常に手前に表示】 ボタン  をクリックします。</p> <p>[検索結果] ダイアログ・ボックスの上に選択したウィンドウを表示するには、【手前に表示しない】 ボタン  をクリックします。</p> <p>使用可能な場所 : 実行フロー</p>

UI 要素	メニュー	説明
 【ウィンドウに合わせる】		<p>実行フローの図がウィンドウに収まるようにサイズが変更されます。</p> <p>倍率オプションを選択するには、下矢印をクリックします。オプションは次のとおりです。</p> <p>倍率レベル：[25%]、[50%]、[150%]、[200%]</p> <p>[標準]：図を 100% の倍率で表示します。</p> <p>ウィンドウに合わせる：図全体をウィンドウに表示します。</p> <p>ユーザ定義のズーム：[ユーザ定義のズーム] ダイアログ・ボックスを開きます。倍率を入力し、[ズーム]をクリックします。</p> <p>使用可能な場所：実行フロー</p>
 【フォローアップフラグ】	<p>[編集] ([テスト実行] タブ)</p> <p>[テスト] ([テストセット] タブ > [実行グリッド])</p>	<p>[フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。選択されたテスト・インスタンスまたはテスト実行のフォローアップ・フラグの追加または変更を行えます。詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ)を参照してください。</p>
【テスト計画ツリーのテストへ移動】	<p>[テスト]</p>	<p>テスト計画モジュールが開き、テスト計画ツリーの選択されたテストが強調表示されます。</p> <p>使用可能な場所：実行グリッド</p> <p>ヒント：[実行グリッド] または [実行フロー] のテストを右クリックして、[テスト計画ツリーのテストへ移動] を選択することもできます。</p>



UI 要素	メニュー	説明
[テストセットに移動]	[テストセット]	<p>[テストセットへ移動] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セット・ツリーでテスト・セット ID を入力して特定のテスト・セットを検索できます。</p> <p>テスト・セットのテスト・セット IDを検索するには、テスト・セット・ツリーでテスト・セットを選択し、[詳細] タブをクリックします。</p>
[グラフ]	[アナリシス]	<p>テスト・ラボ・データに作成できるグラフを一覧表示します。定義済みのグラフを選択するか、グラフ・ウィザードを起動します。</p> <p>定義済みグラフの種類の詳細については、「グラフの種類」(906 ページ) を参照してください。</p>
[グリッドフィルタ]	<p>[表示] ([テスト 実行] タブ)</p> <p>[テスト] ([テスト セット] タブ > [実行 グリッド])</p>	<p>各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され、カラムのフィルタ条件を定義できます。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>
[ホスト マネージャ]	[テストセット]	<p>[ホスト マネージャ] ダイアログ・ボックスが開きます。リモート・テスト実行用にホストを定義できます。詳細については、「[ホスト マネージャ] ダイアログ・ボックス」(788 ページ) を参照してください。</p>
[インジケータ カラム]	[テスト]	<p>[実行グリッド] とテスト実行グリッドの左側に、以下のカラムが表示されます。   。詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(708 ページ) を参照してください。</p>



UI 要素	メニュー	説明
[最後の実行レポート]	[テスト]	<p>[最後の実行レポート] 表示枠を開きます。選択されたテストの最後のテスト実行結果を表示します。</p> <p>表示 矢印をクリックして、[最後の実行レポート] を表示することもできます。</p> <p>Performance Center : [最後の実行レポート] 表示枠を開きます。詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : 実行グリッド</p>
[ライブ アナリシス]	[アナリシス]	<p>[ライブ アナリシス] タブでグラフを表示するオプションを一覧表示します。グラフを追加または削除したり、表示形式を構成します。</p> <p>ライブ・アナリシスの詳細については、「ライブ・アナリシス・グラフの概要」(1022 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : [テストセット] > [ライブアナリシス] タブ</p>
[最近の利用]	[アナリシス]	<p>テスト・ラボ・モジュールで、最近表示されたレポートとグラフを表示します。</p>
 [新規フォルダ]	[テストセット]	<p>[新規テストセットフォルダ] ダイアログ・ボックスを開きます。選択されたフォルダの下に新しいフォルダを追加できます。</p> <p>構文の例外: フォルダの名前には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。</p>
 [テスト・セットの新規作成]	[テストセット]	<p>[新規テストセット] ダイアログ・ボックスを開きます。選択されたフォルダにテスト・セットを追加できます。詳細については、「[新規テストセット] ダイアログ・ボックス」(730 ページ) を参照してください。</p>




UI 要素	メニュー	説明
 【テストインスタンスの並べ替え】	[テスト]	<p>[テストインスタンスの順序変更] ダイアログ・ボックスを開きます。[実行グリッド] または [実行フロー] におけるテストの実行順序を変更できます。詳細については、「[テストインスタンスの順序変更] ダイアログ・ボックス」(791 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: 実行グリッド, 実行フロー</p>
【ベースラインに設定】	[テストセット]	<p>[ベースラインを選択] ダイアログ・ボックスを開きます。テスト・セットをベースラインに固定できます。詳細については、「[ベースラインを選択] ダイアログ・ボックス」(281 ページ) を参照してください。</p>
【実行の削除】	[テスト・セット] [テスト実行]	<p>[実行の削除] ウィザードを開きます。プロジェクトの古いテスト実行結果を削除できます。詳細については、「実行の削除ウィザード」(821 ページ) を参照してください。</p>
 【全て更新】	[表示]	<p>ビューが最新の情報を表示するように更新します。</p>
【すべての実行条件を削除】	[テスト]	<p>選択されたテスト・セット内の実行条件と時刻の依存すべてをまとめて削除できます。</p> <p>テスト・セットに実行条件と時刻の依存の両方が含まれている場合は、[すべての実行条件を削除] ダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>テスト・セットに実行条件のみ、または時間の依存のみが含まれている場合は、確認のダイアログ・ボックスが開きます。</p> <p>使用可能な場所: 実行フロー</p>


UI 要素	メニュー	説明
[テストの実行条件を削除]	<右クリック・メニュー>	選択された条件を示す矢印の実行条件を削除できます。 使用可能な場所 ：実行フロー
[すべての実行条件を削除]	<右クリック・メニュー>	選択されたテスト・インスタンスの実行条件をすべて削除できます。 使用可能な場所 ：実行フロー
 [テストセットからテストインスタンスを削除]	[テスト]	選択したテスト・インスタンスをテスト・セットから削除します。 使用可能な場所 ：実行グリッド, 実行フロー
[時刻の依存の削除]	<右クリック・メニュー>	テストに接続されている [時刻の依存]  アイコンを右クリックし, [時間依存の削除] を選択して 指定された時刻依存を削除します。 使用可能な場所 ：実行フロー
[名前の変更]	[編集]	テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダの名前を変更できます。 Root フォルダ, 未添付 フォルダ, 標準設定 のテスト・セットの名前は変更できません。 使用可能な場所 ：[テストセット] タブ
[置換]	[編集] ([テスト実行] タブ) [テスト] ([テストセット] タブ > [実行グリッド])	[置換] ダイアログ・ボックスを開きます。グリッドのフィールドの値を置き換えることができます。詳細については, 「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
[レポート]	[アナリシス]	<p>テスト・ラボ・データに作成できる定義済みレポートを一覧表示します。レポートの種類の詳細については、「定義済み標準レポート」(1008 ページ)を参照してください。</p>
[テストセットのリセット]	[テストセット]	<p>[テストセット更新の確認] ダイアログ・ボックスを開きます。テスト・セットのすべてのテストのステータスを「実行なし」に設定できます。</p> <p>テスト・セットのすべてのテスト実行結果を削除するよう ALM に指示することもできます。</p>
[実行]	[テスト]	<p>手動テストを選択すると, 次のいずれかを開いてテストを実行します。</p> <p>Sprinter がローカル・マシンにインストールされている場合, Sprinter を開きます。詳細については、「Sprinter の概要」(760 ページ)を参照してください。</p> <p>ALM Editions : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition や Performance Center Edition では利用できません。</p> <p>Sprinter がインストールされていない場合, [Manual Runner] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「Manual Runner ウィザード」(769 ページ)を参照してください。</p> <p>2 つ以上の手動テストを選択すると, [手動テスト実行] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[手動テスト実行] ダイアログ・ボックス」(767 ページ)を参照してください。</p> <p>自動テストを選択すると, [自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[自動ランナー] ダイアログ・ボックス」(785 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: 実行グリッド, 実行フロー</p>

UI 要素	メニュー	説明
[手作業で実行]	[テスト]	<p>手動テストまたは自動テストを、[Manual Runner] ダイアログ・ボックスから手作業で実行します。詳細については、「Manual Runner ウィザード」(769 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: 実行グリッド, 実行フロー</p>
[実行 ...] (Sprinter)	[テスト]	<p>Sprinter を開くと、選択したテストが実行されます。詳細については、「Sprinter の概要」(760 ページ)を参照してください。</p> <p>ALM Editions : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition や Performance Center Edition では利用できません。</p> <p>使用可能な場所: 実行グリッド</p>
 [テストの実行]	<右クリック・メニュー>	<p>Performance Center : 選択したパフォーマンス・テストを実行できます。パフォーマンス・テストの実行の詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>
 テスト・セットの実行 [テスト・セットの実行]	[テスト・セット]	<p>テスト・セットに 1 つ以上の自動テストが含まれている場合、[自動ランナー] ダイアログ・ボックスが開いて、現在選択されているテスト・セットを実行します。詳細については、「[自動ランナー] ダイアログ・ボックス」(785 ページ)を参照してください。</p> <p>テスト・セットに手動テストのみが含まれる場合、[手動テスト実行]ダイアログ・ボックスが開きます。詳細については、「[手動テスト実行] ダイアログ・ボックス」(767 ページ)を参照してください。</p>

UI 要素	メニュー	説明
 【コラムを選択】	[表示] ([テスト 実行] タブ) [テスト] ([テスト セット] タブ > [実行 グリッド])	[コラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、表示するコラムとコラムを表示する順序を設定できます。詳細については、「[コラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。 使用可能な場所: [テスト実行] タブ, 実行グリッド
 【テストを選択】	[テストセット]	テストを選択して、現在選択されているテスト・セットに追加できます。次のように表示します。 [テスト計画ツリー] タブ [要件ツリー] タブ 詳細については、「[テストの選択] 表示枠」(732 ページ) を参照してください。 使用可能な場所: 実行グリッド, 実行フロー
【電子メールで送信】	[テスト実行]	[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先やテスト担当者の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
 【フィルタ/ソートを設定】	[表示]	<p>テスト・セット・ツリーまたは実行グリッドに、フィルタ処理と並べ替えのオプションを設定できます。</p> <p>次のオプションがあります。</p> <p>【フィルタ/ソートを設定】: [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。</p> <p>【フィルタ/ソートをクリア】: 適用したフィルタまたは並べ替えが解除されます。</p> <p>詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: [テストセット] タブ</p>
【テスト完全名の表示】	[テスト]	<p>[実行フロー] の図にテスト完全名が表示されます。標準設定では、長い名前は切り捨てられます。</p> <p>使用可能な場所: 実行フロー</p>
 【テストインスタンスの詳細】	[テスト]	<p>[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択されたテスト・インスタンスの詳細を表示して更新できます。詳細については、「[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックス」(801 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: 実行グリッド</p>
 【テストセットの詳細】	[テストセット]	<p>[テストセット詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択されたテスト・セットの詳細を表示して更新できます。詳細については、「[テストセット詳細] ダイアログ・ボックス」(738 ページ)を参照してください。</p>
【テキスト検索】	[編集]	<p>テスト・ラボ・モジュールのウィンドウの下部にテキスト検索の表示枠が開き、定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: [テスト実行] タブ</p>



UI 要素	メニュー	説明
[表示]	[テスト]	実行グリッドでテストを選択するオプションを一覧表示します。オプションは次のとおりです。 [全て選択] [すべて選択解除] [選択の切り替え]
 [ズーム]	[テスト]	実行フローの倍率を変更します。オプションは次のとおりです。 [ズーム イン]: 表示倍率が上がり、実行フローが拡大表示されます。 [ズーム アウト]: 表示倍率が下がり、実行フローの広い範囲が表示されます。 使用可能な場所: 実行フロー



テスト・ラボ・モジュールのアイコン

本項では、テスト・ラボ・モジュールで表示されるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト ラボ] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : リリース管理に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。
参照項目	「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(692 ページ) 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<緑のアスタリスク>。適切なタブがボビュレートされています。
	<p>[警告]: クリックすると、テスト・インスタンスまたはテスト実行の警告を表示します。</p> <p>赤の警告。新しい警告です。</p> <p>グレーの警告。この警告は未読です。</p> <p>詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[添付]: クリックすると、指定したテスト・インスタンスまたはテスト実行の添付ファイルを表示します。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[フォローアップ フラグ]: クリックすると、テスト・インスタンスまたはテスト実行のフォローアップ・フラグを表示します。</p> <p>グレーのフラグ。新しいフォローアップ・フラグです。</p> <p>赤のフラグ。フォローアップ処理の設定日が到来しました。</p> <p>詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[リンクされている不具合]: クリックすると、テスト・インスタンスまたはテスト実行のリンクされている不具合を表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。</p>
	[テストセット フォルダ]: テスト・セットを整理するためのフォルダ。
	[割り当てられたテスト セット フォルダ]: サイクルに割り当てられたテスト・セット・フォルダ。
	[テストセット]: テスト・セット・ツリーのテスト・セット。

UI 要素	説明
	[固定されたテスト セット] : ベースラインに固定されたテスト・セット。概念の詳細については、「固定されたテスト・セット」(244 ページ) を参照してください。
	[時刻の依存] : クリックすると、テスト・インスタンスの時刻の依存条件を変更します。詳細については、「[時刻の依存] ページ」(756 ページ) を参照してください。

テスト・ラボ・モジュールのフィールド

本項では、テスト・ラボ・モジュールのフィールドについて説明します。


アクセス方法	ALM サイドバーの、 [テスト ラボ] を選択します。
重要な情報	<p>テスト・ラボ・モジュールには、テスト計画とテスト実行フィールドが表示されます。テスト・ラボ・モジュールに表示されるテスト計画フィールドの名前には、「Test:」プレフィックスが含まれます。追加済み。テスト計画フィールドの詳細については、「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) を参照してください。</p> <p>実行グリッドでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールドのラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>スクリプト・エディタを使用して、[実行グリッド] に表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>ユーザ名の値を含む実行グリッド・カラムを選択する場合、ALM には各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。詳細については、「[ユーザ リスト] ダイアログ・ボックス」(72 ページ) を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition : リリース管理に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。</p>
参照項目	「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

フィールドについて以下で説明します。

UI 要素	説明
【割り当て対象サイクル】	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクル。
【ベースライン】	テスト・セットが固定されているベースライン。 Quality Center Starter Edition : 使用できません。
【終了日】	テスト・セットの終了予定日です。
【サイクル開始日】	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクルの開始日。
【サイクル終了日】	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクルの終了日。
【ドラフト実行】	選択したテスト実行がドラフト実行であることを示します。詳細については、「ドラフト実行」(683 ページ)を参照してください。 標準設定値 : N
【期間】	テスト実行が継続する時間の長さ。
【実行日】	テストが最後に実行された日付。
【実行時間】	テスト・ステップが最後に実行された日付。
【ホスト】	テストが実行されたマシンの名前。
【反復ステータス】	Business Process Testing : テスト反復のステータス。色はステータスを表し、数字はステータスとともに反復の回数を表します。 凡例 : 成功。緑 失敗。赤 ブロック (およびユーザ定義)。白 未完了。紫 実行なし。橙 N/A。黄
【ITG 要求 ID】	IT ガバナンス・リクエスト ID。 注 : このフィールドは、IT ガバナンス・ツールと統合する場合にのみ必要となります。

第 27 章・テスト実行の紹介

UI 要素	説明
【更新日時】	[実行グリッド] のテストに最後に変更を加えた日時。
【開始日】	テスト・セットの開始予定日。 標準設定値: テスト・セットが作成された場合の、現在のデータベース・サーバの日付。
【オペレーティングシステム】	テストが実行されたホスト・マシン上で実行されているオペレーティング・システム。 標準設定値: ALM クライアント・マシンのオペレーティング・システム。
【OS ビルド番号】	テストが実行されたホスト・マシン上で実行されているオペレーティング・システムのビルド番号。 標準設定値: ALM クライアント・マシンのオペレーティング・システムのビルド番号。
【OS サービス パック】	テストが実行されたホスト・マシンにインストールされているオペレーティング・システムのサービス・パック。 標準設定値: ALM クライアント・マシンのオペレーティング・システムのサービス・パック。
【実行予定日】	テストの実行予定日。
【実行予定時間】	テストの実行予定時刻。
【予定ホスト名】	テストを実行するマシンの名前または IP アドレス。
【サイクルの残り日数】	選択したテスト・セット・フォルダが割り当てられるサイクルの残り日数。
【未実行テストインスタンス】	選択したテスト・セット・フォルダの未実行のテスト・インスタンスの合計数です。
【テスト責任者】	テスト実行担当者のユーザ名。 [自動ランナー] ダイアログ・ボックスから手動テストを自動で実行すると、ALM ではテストを実行するようユーザに電子メールで通知が送られます。
【実行 ID】	ALM によって実行に自動的に割り当てられる一意の ID 番号。

UI 要素	説明
【実行名】	<p>テスト実行の名前です。Fast_run は、テストを実行することなくテスト・インスタンスの 【ステータス】 フィールドがユーザによって手作業で変更された場合に、ALM によってこの実行が作成されたことを示しています。</p> <p>表示されるアイコンは次のいずれかを示します。</p> <p>テスト・タイプ。詳細については、「テストのタイプ」(493 ページ)を参照してください。</p> <p>Sprinter による手動テスト実行 。Sprinter の詳細については、「Sprinter の概要」(760 ページ)を参照してください。</p>
【状態】	<p>テスト実行の進行状況を示します。有効な値は次のとおりです。初期化中、実行中、停止中、実行エラー、完了。このフィールドは読み取り専用です。</p>
【ステータス】 (テスト・セット)	<p>テスト・セットの 【詳細】 タブは、テスト・セットのステータスを示します。オプションは次のとおりです。オープン、クローズ。</p>
【ステータス】 (テスト・インスタンス またはテスト実行)	<p>実行ステータスは、次のいずれかになります。</p> <p>[Blocked] : 1 つ以上のステップが実行できません。たとえば、テストはリモート・マシンで実行されていますが、ネットワークの問題またはハードウェアのエラーといった、何らかの環境エラーにより実行を継続することができません。</p> <p>[Failed] : 実行の 1 つ以上のステップが失敗しましたが「ブロック」のステータスを示しているものではありません。</p> <p>[N/A] : テストの現在のステータスは不明です。</p> <p>[No Run] : ステップは実行されていません。</p> <p>[Not Completed] : 1 つ以上のステップが完了していないか実行されませんでした。が、「ブロック」または「失敗」のステータスを示しているものではありません。</p> <p>[Passed] : 実行は成功しました。</p>

UI 要素	説明
<p>[ステータス] (実行ステップ)</p>	<p>実行ステータスは、次のいずれかになります。</p> <p>[Blocked] : ステップは実行できません。たとえば、テストはリモート・マシンで実行されていますが、ネットワークの問題またはハードウェアのエラーといった、何らかの環境エラーにより実行を継続することができません。</p> <p>[Failed] : ステップは失敗しました。</p> <p>[N/A] : ステップの現在のステータスは不明です。</p> <p>[No Run] : ステップは実行されていません。</p> <p>[Not Completed] : ステップは完了しませんでした。</p> <p>[Passed] : ステップは成功しました。</p>
<p>[ターゲット サイクル]</p>	<p>テストが割り当てられているサイクル。</p>
<p>[テスト]</p>	<p>選択したテスト実行に関連付けられたテスト計画モジュールのテストの名前。</p>
<p>[テスト・インスタンス]</p>	<p>選択したテスト実行に関連付けられたテスト・インスタンスの名前。</p>
<p>[テスト セット]</p>	<p>選択したテスト実行に関連付けられたテスト・セットの名前。</p>
<p>[テスト セット ID]</p>	<p>ALM によってテスト・セットに自動的に割り当てられる一意の ID 番号。</p>
<p>[テスト担当者]</p>	<p>テストを最後に実行したユーザの名前。</p>
<p>[時間]</p>	<p>テストを最後に実行した時刻。</p>
<p>[テスト インスタンス 総数]</p>	<p>選択したテスト・セット・フォルダのテスト・インスタンスの合計数です。</p>
<p>[タイプ]</p>	<p>テストのテスト・タイプ。詳細については、「テストのタイプ」(493 ページ)を参照してください。このフィールドは読み取り専用です。</p>

第 28 章

テスト・セットの仕様

本章の内容

概念

「テスト・セットの仕様の概要」(716 ページ)

タスク

「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)

リファレンス

「テスト・セットのユーザ・インタフェース」(722 ページ)

概念

テスト・セットの仕様の概要

テスト計画モジュールでテストを設計し終えたら、テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを作成してテスト実行を整理できます。**テスト・セット**には、プロジェクトのテストのサブセットが含まれており、特定のテスト目標を達成するように設計されています。テスト・セットには、手動テストと自動テストの両方を含めることができます。

テスト・セットを定義する場合、ALM により選択したテストのインスタンスがテスト・セットに追加されます。各テスト・インスタンスには、定義済みのテスト構成が含まれています。**テスト構成**により、同じテストを異なるシナリオで実行することができます。テスト構成の詳細については、「テスト設定の概要」(596 ページ)を参照してください。

テスト・セット・ツリーでは、テスト・セットをフォルダ単位でグループ化し、階層レベルに分けてテスト・セットを整理することで、アプリケーション管理プロセスを組織化できます。

作成するテスト・セットを決定するには、アプリケーション管理プロセスの開始時に定義した目標を考慮します。また、アプリケーションの現在の状態、新しい機能の追加や変更などを考慮します。

作成できるテスト・セットの一般的な分類の例を次に示します。

テスト・セット	説明
動作確認	アプリケーションの機能性と安定性を確認するために、アプリケーション全体を詳細に検査するのではなく、基礎レベルで幅広く検査します。このセットには、アプリケーションが適切に機能するかどうかを検証する正常系の検査を含む基礎的なテストが含まれています。たとえば、Mercury Tours アプリケーションであれば、アプリケーションが開くかどうか、ユーザによるログインが可能かどうかをテストできます。
回帰	動作確認セットより詳細にシステムをテストします。このセットには、正常系と異常系の両方の検査を含めることができます。異常系テストは、アプリケーションで失敗が生じるようにして、アプリケーションが不適切な動作をするように行うテストです。
詳細	幅広くかつ詳細にテストを行います。このセットは、アプリケーション全体を対象とし、アプリケーションの詳細オプションもテストします。テストに十分な時間をかけることができる場合には、このセットを実行します。
機能	アプリケーションのサブシステムをテストします。テストの対象は、単一の機能でも複数の機能でもかまいません。たとえば、Mercury Tours アプリケーションの場合、機能セットは航空券予約に関するすべての作業をテストできます。

テスト・セットを作成したら、リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。サイクルは、プロジェクト・スケジュールに基づいた開発と QA のサイクルを示します。

Quality Center Starter Edition : リリース管理やベースライン設定に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。

テスト・セットを使った作業の詳細については、「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)を参照してください。

タスク

テスト・セットを作成する方法

このタスクでは、テスト・ラボ・モジュールでテスト・セットを作成して定義する方法について説明します。

テスト・セットの詳細については、「テスト・セットの仕様の概要」(716 ページ) を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ) を参照してください。

Quality Center Starter Edition : リリース管理やベースライン設定に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。

このタスクは次の手順で構成されています。

「テスト・セットの定義」(719 ページ)

「サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て」(720 ページ)

「テスト・セットへのテストの追加」(720 ページ)

「通知ルールの設定」(720 ページ)

「失敗時のルールの設定」(720 ページ)

「テスト・セットをベースラインに設定する (オプション)」(721 ページ)

1 テスト・セットの定義

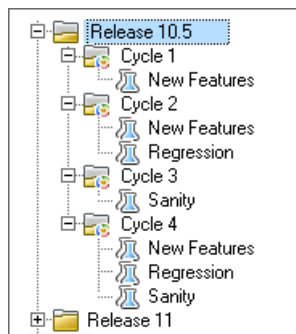
フォルダおよびサブフォルダで構成されるテスト・セット・ツリーを作成することによって、テスト・セットの階層形式の枠組みを定義します。

- a **テスト・ラボ・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの、[テスト] の下の [テスト ラボ] を選択します。
- b **フォルダを作成します。** Root フォルダを右クリックして [新規フォルダ] を選択します。サブフォルダを作成するには、フォルダを右クリックして [新規フォルダ] を選択します。
- c **フォルダにテスト・セットを追加します。** フォルダを右クリックして [テストセットの新規作成] を選択します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[新規テストセット] ダイアログ・ボックス」(730 ページ) を参照してください。

例：

Mercury Tours アプリケーションの Release 10.5 に追加された新しい機能をテストすると仮定します。Release 10.5 は 4 つのサイクルから構成されていて、サイクル 1、サイクル 2、サイクル 4 でリリースの新しい機能をテストします。新しい機能をテストするのに必要なテストは各サイクルで同じなので、各サイクルの新しい機能をテストする基礎として同じテスト・セットを使用します。

テスト・セット・ツリーで、リリースに対して **Release 10.5** フォルダを作成できます。このフォルダで、リリースの最初のサイクルに対して **Cycle 1** フォルダを作成します。**Cycle 1** フォルダで、リリースの新しい機能をテストするのに必要なテストを含むテスト・セット **New Features** を作成します。このテスト・セットを作成してテストを追加したら、**Cycle 1** フォルダをコピーして貼り付け、新しい機能をテストするほかのサイクルの基礎として使用できます。



2 サイクルへのテスト・セット・フォルダの割り当て

リリース・モジュールのリリース・ツリーで定義したサイクルにテスト・セット・フォルダを割り当てます。

テスト・セット・フォルダを右クリックして **[サイクルに割り当て]** を選択します。**[サイクルを選択]** ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「**[サイクルを選択]** ダイアログ・ボックス」(185 ページ) を参照してください。

3 テスト・セットへのテストの追加

手動テストや自動テストをテスト・セットに追加できます。

テスト・ラボ・モジュールの **[テストセット]** タブで、テスト・セットを選択して **[実行グリッド]** タブまたは **[実行フロー]** タブをクリックします。次に **[テストを選択]** ボタンをクリックします。**[テストの選択]** 表示枠のユーザ・インタフェースの詳細については、「**[テストの選択]** 表示枠」(732 ページ) を参照してください。

4 通知ルールの設定

テスト・セットの通知ルールを設定すると、選択したイベントがテスト・セットに発生した場合に、ALM から指定したユーザに電子メールを送信するように指定できます。

通知ルールは、**[オートメーション]** タブ、**[通知]** 領域で設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[オートメーション]** タブ」(726 ページ) を参照してください。

5 失敗時のルールの設定

テスト・セットに失敗時のルールを設定し、テスト・セットの自動テストが失敗した場合に ALM が実行する処理を指定できます。

通知ルールは、**[オートメーション]** タブ、**[自動テスト失敗時]** 領域で設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[オートメーション]** タブ」(726 ページ) を参照してください。

6 テスト・セットをベースラインに設定する (オプション)

テスト・セットをベースラインに設定し、テスト・セットを選択したベースラインに保存されたテストのバージョンと関連付けることができます。

テスト・ラボ・モジュールで、テスト・セットを右クリックして、**[ベースラインに設定]** を選択します。**[ベースラインを選択]** ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「**[ベースラインを選択]** ダイアログ・ボックス」(281 ページ) を参照してください。

設定されたベースラインをクリアするには、テスト・セットを右クリックして**[設定されたベースラインのクリア]** を選択します。

設定されたテスト・セットの概念の詳細については、「固定されたテスト・セット」(244 ページ) を参照してください。

リファレンス



テスト・セットのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「[実行グリッド] タブ」(723 ページ)
- 「[オートメーション] タブ」(726 ページ)
- 「[新規テストセット] ダイアログ・ボックス」(730 ページ)
- 「[テストの選択] 表示枠」(732 ページ)
- 「[テストセット詳細] ダイアログ・ボックス」(738 ページ)
- 「[テスト失敗時] ダイアログ・ボックス」(740 ページ)
- 「[ターゲットプロジェクトにテストフォルダを貼り付け] ダイアログ・ボックス」(743 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<p><テスト・ラボ・モジュールの共通の UI 要素></p>	<p>[テスト ラボ] フィールド。フィールドの定義については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) を参照してください。</p> <p>テスト・ラボのメニューとボタン。コマンドとボタンの説明については、「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」(692 ページ) を参照してください。</p> <p>テスト・ラボのアイコン。アイコンの説明については、「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(708 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューとサイドバー。[ツール] メニュー, [ヘルプ] メニュー, サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」(40 ページ) を参照してください。</p>
<p><インジケータ・カラム></p>	<p>指定されたテスト・インスタンスに添付ファイル, リンクされている不具合, 警告, フォローアップ・フラグがあることを示します。詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」(708 ページ) を参照してください。</p> <p>これらのカラムを表示するには, [テスト] > [インジケータ カラム] を選択します。</p>
<p>< [テストの選択] 表示枠 ></p>	<p>[テスト計画ツリー] タブおよび [要件ツリー] タブにより, 選択されているテスト・セットに追加するテストを選択できます。詳細については, 「[テストの選択] 表示枠」(732 ページ) を参照してください。</p>
<p>条件の結果</p>	<p>特定の構成を使用して, 選択したビジネス・プロセス・テスト・インスタンスの最後の実行における条件のステータスを表示します。</p> <p>このタブを表示するには, [テスト] > [最後の実行レポート] を選択するか, 表示の矢印ボタンをクリックします。</p> <p>注: テスト条件に関連する機能は, ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については, 『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

UI 要素	説明
フィルタ	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッドのすぐ上にあります。
[最後の実行レポート] 表示枠	<p>選択したテスト・インスタンスの最後のテスト条件実行の結果を表示します。この表示枠を表示するには、[テスト] > [最後の実行結果] を選択するか、[表示] の矢印ボタンをクリックします。</p> <p>Sprinter を使ったテスト実行では、[Sprinter Results ビューアの起動] ボタンをクリックして開き、Sprinter Results ビューアでレポートを表示します。詳細については、ビューアで [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。ALM Editions : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition や Performance Center Edition では利用できません。</p> <p>自動テスト・インスタンスでは、以下のいずれかも含まれます。</p> <p> LR Analysis 結果が LoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。</p> <p> Launch Report QuickTest Professional でレポートが開き、表示されます。QUICKTEST_TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>HP Application Lifecycle Management Addin ページから QuickTest Professional アドインをインストールしている場合のみ、[レポートの起動] ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。</p> <p>収集されたシステム情報のリンク。 [システム情報] ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU、メモリ、マシンで実行中のプロセスなど、収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>キャプチャしたデスクトップ画像。 システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p>

[オートメーション] タブ

このタブでは、テスト・セットの通知ルールおよび失敗時のルールを設定して、選択したイベントがテスト・セットに発生した場合に、ALM に自動ランナーから実行するよう指示します。


詳細	実行グリッド	実行フロー	オートメーション	添付	リンクされている不具合	履歴
<p>自動テスト失敗時</p> <p><input type="checkbox"/> テストを再実行</p> <p> テストを再実行する最大回数: <input type="text" value="0"/></p> <p> 再実行前にテストをクリーンアップ: <input type="text"/></p> <p>最終失敗時: <input type="text" value="何もしない"/></p> <p>テスト セットを再実行する最大回数: <input type="text" value="0"/></p> <p><input type="button" value="テストごとに設定..."/></p> <hr/> <p>通知</p> <p>以下のイベント時に電子メールを送信:</p> <p><input type="checkbox"/> Automatic Runner 内いずれかのテストが "Failed" ステータスで終了する</p> <p><input type="checkbox"/> 環境の障害 (ネットワークの問題、ハードウェア障害など)</p> <p><input type="checkbox"/> Automatic Runner で実行対象に選択されたテストすべてが終了している</p> <p><input type="button" value="送信先..."/> <input type="text"/></p> <div style="border: 1px solid black; height: 60px; width: 100%;"></div> <hr/> <p>実行サマリ</p> <p><input type="checkbox"/> テスト セット実行後に結果のサマリを送信</p> <p><input type="button" value="フィールドの選択..."/> <input type="text" value="実行名, テスト, ステータス, テスター, 実行日, 実行時間"/></p> <p><input type="button" value="送信先..."/> <input type="text"/></p>						

アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの [テストセット] タブで、テスト・セットを選択して [オートメーション] タブをクリックします。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)
参照項目	「テスト・セットの仕様の概要」(716 ページ) 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

【自動テスト失敗時】領域

テスト・セットに失敗時のルールを設定し、テスト・セットの自動テストが失敗した場合に ALM が実行する処理を指定できます。


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[テスト失敗時] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットの特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールを変更できます。詳細については、「[テスト失敗時] ダイアログ・ボックス」(740 ページ)を参照してください。
【テスト・セットを再実行する最大回数】	テスト・セット内の任意のテストにおける最後の失敗で、テスト・セットの再実行を行う回数です。
【最終失敗時】	テスト・セット内の任意のテストにおける最後の失敗で ALM のアクションを指定します。次のオプションがあります。 [何もしない] [テスト・セットを中止する] [テスト・セットの再実行]: [テスト・セットを再実行する最大回数] ボックスで指定した最大回数までテスト・セットを再実行します。
【テストを再実行】	失敗した場合は、自動テストを再実行するよう ALM に指示します。選択すると、次のオプションを使用できます。 [テストを再実行する最大回数]: 失敗時に自動テストを再実行する回数を指定します。 [再実行前にテストをクリーンアップ]: 各テスト再実行の前にクリーンアップ・テストを行います。 クリーンアップ・テストを選択するには、下矢印をクリックします。

【通知】 領域

選択したイベントが発生した場合に、ALM が指定したユーザに電子メールを送信するように指定します。



次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
< [メッセージ] 領域 >	ALM によって指定されたユーザに送信される電子メールのテキスト。
[以下のイベント時に電子メールを送信]	<p>選択したイベントのいずれかが発生した場合に、指定したユーザに通知します。次のオプションがあります。</p> <p>[Automatic Runner 内いずれかのテストが "Failed" ステータスで終了する] :</p> <p>[環境の障害 (ネットワークの問題、ハードウェア障害など)] 環境に関する失敗としては、関数呼び出しが戻らない、アクセス違反、アプリケーション・コンポーネント間のバージョンの不一致、DLL の不足、権限不足など、さまざまな理由があります。</p> <p>[Automatic Runner で実行対象に選択されたテストすべてが終了している]</p>
	<p>電子メールを受け取るユーザ。</p> <p>有効な電子メールアドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは、[送信先] ボタンをクリックしてユーザを選択します。[受信者の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。電子メールの送信先のユーザまたはユーザ・グループを選択します。</p>

[実行サマリ] 領域

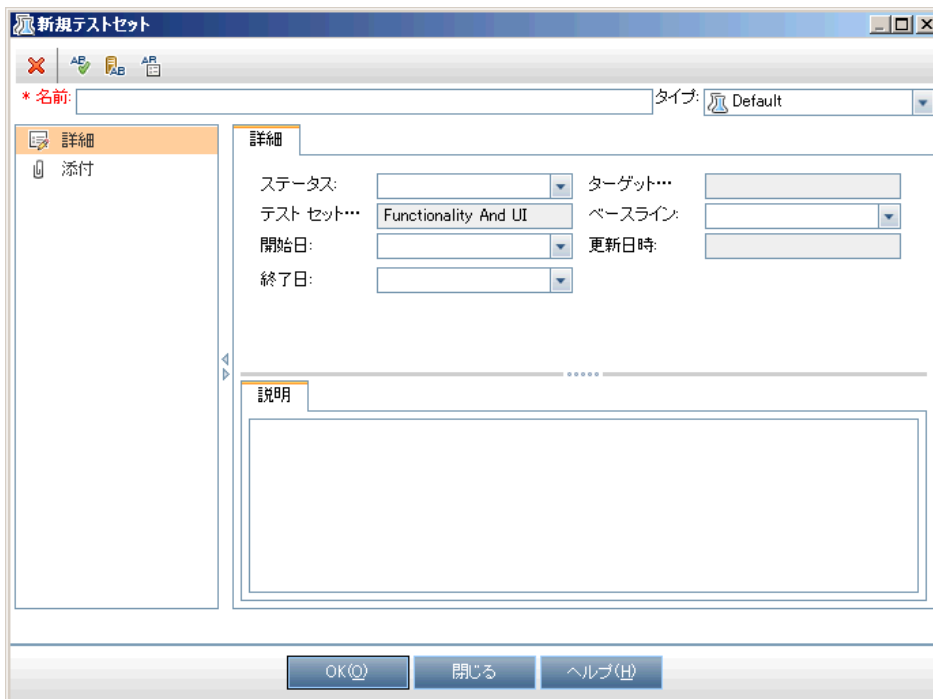
テスト・セットの実行が完了した時点で、ALM から指定したユーザにテスト結果のサマリを電子メールで送信するよう指定できます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開きます。実行サマリに表示するテスト実行のフィールドを指定できます。
	有効な電子メールアドレスまたはユーザ名を入力します。あるいは、[送信先] ボタンをクリックしてユーザを選択します。
[テスト・セット実行後に結果のサマリを送信]	テスト・セットの実行が完了した後で、指定したユーザにテスト結果のサマリ・レポートを電子メールで送信します。

[新規テストセット] ダイアログ・ボックス

このページでは、テスト・セット・フォルダにテスト・セットを追加できます。



アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの [テストセット] タブで、テスト・セットを選択して [テストセットの新規作成] を選択します。
重要な情報	[Root] フォルダにテスト・セットを直接追加することはできません。最初に、[Root] フォルダの下にフォルダを追加する必要があります。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)
参照項目	「テスト・セットの仕様の概要」(716 ページ) 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付]	<p>テスト・セットに関して追加の情報を有する添付ファイルを追加できます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。</p>
[詳細]	<p>テスト・セットのフィールドが一覧表示されます。必須のフィールドは赤く表示されます。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ)を参照してください。</p> <p>ヒント: このページの [説明] フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
[名前]	<p>新規作成するテスト・セットに割り当てる名前です。</p> <p>構文の例外: テスト・セットの名前には、「¥」、「^」、「,」、「"」、「*」は使用できません。</p>
[テストセットフォルダ]	<p>選択してあったフォルダ名を表示します。</p>
[タイプ]	<p>テスト・セット・タイプ。標準設定では、テスト・セットのタイプは [Default] で、フィールドは読み取り専用です。</p> <p>Performance Center: [Performance] を選択して、パフォーマンス・テスト用のテスト・セットを作成します。パフォーマンス・テストの詳細については、『HP ALM Performance Center Guide』を参照してください。</p>

🔑 [テストの選択] 表示枠

この表示枠では、テスト・セットに含めるテストを選択できます。ALM は選択したテストのインスタンスをテスト・セットに追加します。各インスタンスには、定義済みのテスト構成が含まれています。

The screenshot shows the 'Test Plan Explorer' window. The top pane displays a tree view of test subjects. The 'Book Flight' folder under 'Flight Reservation' is selected. The bottom pane shows the 'Test Settings' table.





名前	テスト名
Book Flight	Book Flight
Book Flight Prep..	Book Flight Preparation
Passenger Name	Passenger Name
Credit Card Num...	Credit Card Number
Credit Card Expi...	Credit Card Expiration...
Credit Card Own...	Credit Card Owner
Billing And Deliv...	Billing And Delivery Ad..
Address Options	Address Options



アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの [テストセット] タブで、テスト・セットを選択して [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブをクリックします。次に [テストを選択] ボタンをクリックします。
重要な情報	<p>別のテスト・セットに同じテストのインスタンスを含めたり、同じテスト・セットに複数のインスタンスを加えることができます。</p> <p>フォルダをテスト・セットに追加する場合、[テスト計画ツリー] タブまたは [要件ツリー] タブの現在のフィルタに一致するテストだけが追加されます。</p> <p>Performance Center : パフォーマンス・テストは、[パフォーマンス] テスト・セットのタイプのみ表示および追加できます。詳細については、「[新規テストセット] ダイアログ・ボックス」(730 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)
参照項目	「テスト・セットの仕様の概要」(716 ページ) 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ) 「テスト設定の概要」(596 ページ)

【テスト計画ツリー】 タブ

テスト計画ツリーが表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択できます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。




UI 要素	説明
	<p>【テストセットへのテストの追加】: 選択したテストのインスタンスを、その関連するテスト構成も含めてテスト・セットに追加します。</p> <p>注: 追加しようとするテストのいずれかがすでにテスト・セットの中にある場合には、[インスタンスの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットにすでに存在するテスト構成、および存在するインスタンスの数が表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択し、[OK] をクリックします。</p> <p>ヒント:</p> <p>ツリーのフォルダまたはテストをダブルクリックしたり、[実行グリッド] または [実行フロー] にドラッグすることでテストを追加することもできます。</p> <p>テストの選択した構成をテスト・セットに追加するには、[テスト設定] 表示枠からテスト設定を選択します。詳細については、「[テスト設定] 表示枠」(613 ページ) を参照してください。</p>
	<p>【更新】: ツリーが最新の情報を表示するように更新します。</p>
	<p>【フィルタ/ソート】: 次のオプションがあります。</p> <p>【フィルタの設定】: [フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。</p> <p>【フィルタ/ソートのクリア】: 適用したフィルタまたは並べ替えが解除されます。</p> <p>詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>
	<p>【検索】: ツリーで特定のテストが検索されます。</p>





UI 要素	説明
	[IDでテストへ移動] : [テストへ移動] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト ID に基づいてツリー内のテストを特定します。
	表示/非表示 : [テスト設定] 表示枠を表示/非表示します。
フィルタ	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ上にあります。
[テスト設定] 表示枠	選択したテスト設定をテスト・セットに追加できます。詳細については、「[テスト設定] 表示枠」(613 ページ) を参照してください。

[要件ツリー] タブ

要件ツリーが表示されます。要件をカバーしているテストを選択して、テスト・セットに追加することができます。

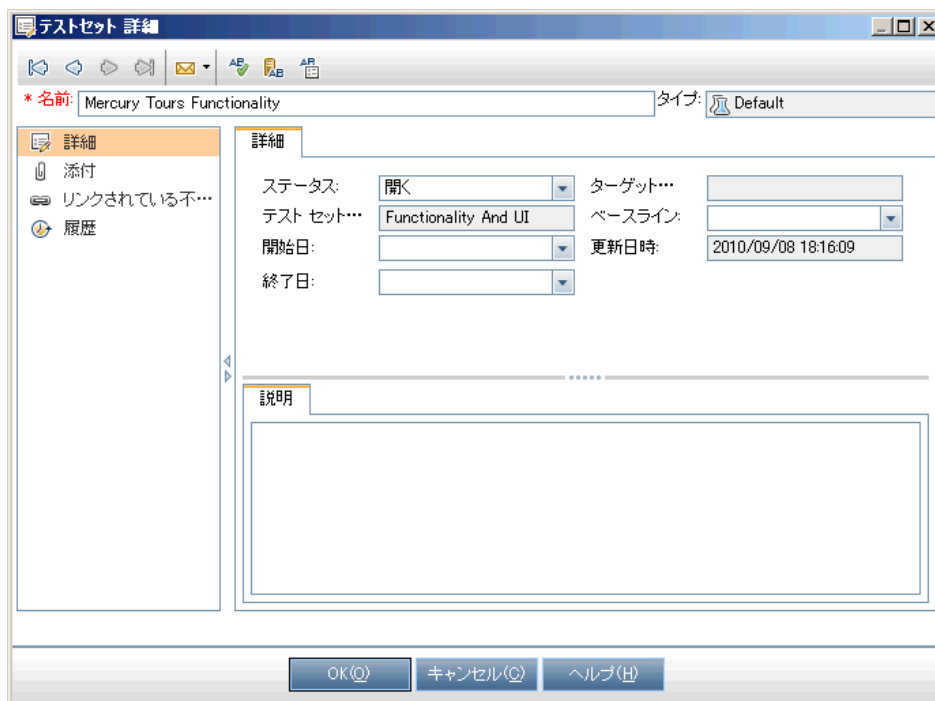
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	説明
	<p>次のオプションがあります。</p> <p>[テスト処理対象の要件を追加]：選択した要件を対象としているすべてのテストを追加します。テスト・セットに関連するテスト構成が追加されます。</p> <p>[テスト処理対象の要件と子を追加]：選択した要件とその子を対象としているすべてのテストを追加します。テスト・セットに関連するテスト構成が追加されます。</p> <p>注：追加しようとするテストのいずれかがすでにテスト・セットの中にある場合には、[インスタンスの作成] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・セットにすでに存在するテスト構成、および存在するインスタンスの数が表示されます。テスト・セットに追加するテストを選択し、[作成] をクリックします。</p> <p>ヒント：</p> <p>ツリーのフォルダまたは要件をダブルクリックしたり、[実行グリッド] または [実行フロー] にドラッグすることでテストを追加することもできます。</p> <p>選択した要件を処理対象とする、選択したテストをテスト・セットに追加するには、[テスト カバレッジ] 表示枠からテストを選択します。</p>
	<p>[更新]：ツリーが最新の情報を表示するように更新します。</p>
	<p>[フィルタ/ソート]：次のオプションがあります。</p> <p>[フィルタの設定]：[フィルタ] ダイアログ・ボックスが開きます。テストのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。</p> <p>[フィルタ/ソートのクリア]：適用したフィルタまたは並べ替えが解除されます。</p> <p>詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	[検索] : ツリーで特定のテストが検索されます。
	[ID で要件に移動] : [要件に移動] ダイアログ・ボックスが開きます。要件 ID に基づいてツリー内の要件を特定します。
	表示/非表示 : [テスト カバレッジ] 表示枠を表示/非表示します。
フィルタ	現在ツリーに適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ上にあります。
[テスト カバレッジ] 表示枠	<p>選択した要件を処理対象とする、選択したテストをテストセットに追加できます。</p> <p>テストを選択し、[テスト処理対象の要件を追加]  をクリックします。テスト・セットに関連するテスト構成が追加されます。</p>

[テスト セット詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、テスト・セットの詳細の表示と更新ができます。



アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの [テストセット] タブで、テスト・セット・ツリーのテスト・セットを選択して [テストセットの詳細] ボタン  をクリックします。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)
参照項目	「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
添付ファイル	現在選択されているテスト・セットに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」（86 ページ）を参照してください。
詳細	現在選択されているテスト・セットの詳細を表示します。必須のフィールドは赤く表示されます。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」（710 ページ）を参照してください。
履歴	現在選択されているテスト・セットに行われた変更の一覧です。詳細については、「[履歴] タブ」（81 ページ）を参照してください。
リンクされている不具合	現在選択されているテスト・セットにリンクされている不具合の一覧です。詳細については、「[リンクされている不具合] ページ」と「[リンクされているエンティティ] ページ」（866 ページ）を参照してください。




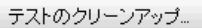
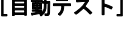
[テスト失敗時] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テスト・セット内の特定のテストに対して設定されている標準設定の失敗時のルールを変更することができます。テスト・セットの自動テストが失敗した場合に ALM が実行する処理を指定できます。



アクセス方法	[オートメーション] タブの中で、[テストごとに設定] ボタンをクリックします。
重要な情報	このダイアログ・ボックスには、テスト・セット内の自動テストだけが表示されます。
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)
参照項目	「[オートメーション] タブ」(726 ページ)

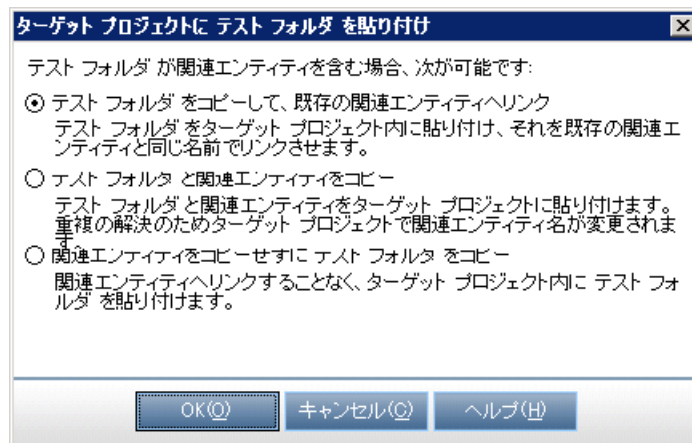
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>選択したテストの設定に基づいて、標準設定の失敗時のルールをリセットします。標準設定の失敗時のルールは、[オートメーション] タブで定義されます。</p>
	<p>選択したテストの設定をクリアします。</p>
	<p>[設定のコピー] / [設定の貼り付け] : 設定を 1 つのテストから別のテストにコピーします。</p> <p>テストを選択して [設定のコピー] ボタンをクリックします。別のテストを選択して [設定の貼り付け] ボタンをクリックします。</p>
	<p>[テストのクリーンアップ] : [テストを選択] ダイアログ・ボックスが開き、クリーンアップ・テストを選択できます。選択したテストの各再実行の前に ALM によってクリーンアップ・テストが行われます。</p> <p>グリッドで 1 つ以上のテストを選択して、[テストのクリーンアップ] ボタンをクリックします。</p> <p>テスト・セットの特定のテストに対してクリーンアップ・テストを選択するには、[再実行前にテストをクリーンアップ] カラムの下向き矢印もクリックする必要があります。</p>
	<p>[実行テスト] カラムには、選択したテスト・セットのすべての自動テストが表示されます。</p>

UI 要素	説明
<p>[失敗時]</p>	<p>テスト実行の失敗時に ALM が実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。</p> <p>[何もしない]</p> <p>[テストセットを中止する]</p> <p>[テストの再実行] : [再実行] カラムで指定した最大回数までテストを再実行します。</p> <p>1 つ以上のテストをグリッドで選択して、ツールバーの [失敗時] ドロップダウン・リストからオプションを選択します。</p> <p>特定のテストのオプションを選択するには、[失敗時] カラムの下向き矢印をクリックすることもできます。</p>
<p>[再実行]</p>	<p>失敗時に自動テストを再実行する回数を指定します。</p> <p>グリッドの 1 つ以上のテストを選択して、ツールバーの [再実行] ボックスの数字を選択します。</p> <p>特定のテストに対する再実行の回数を指定するには、[再実行数] カラムから数字を選択することもできます。</p>

[ターゲット プロジェクトにテスト フォルダを貼り付け] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テスト・セットを1つのプロジェクトから別のプロジェクトにコピーする方法を選択できます。



アクセス方法	[オートメーション] タブの中で、[テストごとに設定] ボタンをクリックします。
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ソース・プロジェクトで、テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを右クリックして [コピー] を選択します。 2 ターゲット・プロジェクトが別のブラウザ・ウィンドウで開きます。 3 ターゲット・プロジェクトで、コピーしたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダを挿入する先の下にあるテスト・セット・フォルダを右クリックして、[貼り付け] を選択します。
重要な情報	<p>テスト実行の情報はコピーされません。</p> <p>使用している ALM のバージョンとパッチ・レベルが、ソース・プロジェクトとターゲット・プロジェクトで同じである必要があります。</p>
参照項目	「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>【テスト フォルダをコピーして、既存の関連エンティティへリンク】</p>	<p>ALM によりテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダがコピーされ、ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。コピーされたテスト・セットまたはテスト・セット・フォルダは、同じ名前とパスを持つ既存のテスト・リソースおよび呼び出し先のテストにリンクされます。関連するテスト・リソースまたはテストがターゲット・プロジェクトに存在しない場合、ALM によってターゲット・プロジェクトにコピーされます。</p>
<p>【テスト フォルダと関連エンティティをコピー】</p>	<p>ALM により、テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダが、関連するテスト・リソースおよび呼び出し先のテストとともにコピーされ、ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストがターゲット・プロジェクトにすでに存在する場合、名前の重複の解決のため、コピーされた関連するテスト・リソースまたは呼び出し先テストの名前が変更されます。</p>
<p>【関連エンティティをコピーせずにテストフォルダをコピー】</p>	<p>ALM により、テスト・セットまたはテスト・セット・フォルダが、関連するテスト・リソースまたは呼び出し先のテストをコピーすることなく、ターゲット・プロジェクトに貼り付けられます。コピーされた項目は関連エンティティにリンクされません。</p>

第 29 章

テスト実行のスケジュール

本章の内容

概念

「テスト実行のスケジュールの概要」(746 ページ)

タスク

「テスト実行をスケジュールする方法」(747 ページ)

リファレンス

「テスト実行スケジュールのユーザ・インタフェース」(750 ページ)

概念

テスト実行のスケジュールの概要

テスト・セットにおけるテスト・インスタンスの実行を制御できます。テスト・ラボ・モジュールの [実行フロー] タブを使用すると、テストを実行する日付と時刻、およびテスト・インスタンスを実行する条件を指定できます。**条件**は、[実行フロー] で指定した別のテスト・インスタンスの結果に基づいて設定します。条件を設定することにより、指定した別のテスト・インスタンスの実行が終了するか失敗するまで、現在のテスト・インスタンスの実行を保留することができます。また、テスト・インスタンスの実行順序を指定することもできます。

タスクの詳細については、「テスト実行をスケジュールする方法」(747 ページ) を参照してください。

タスク

テスト実行をスケジュールする方法

このタスクでは、テスト実行を [実行フロー] タブでスケジュールする方法について説明します。

テスト実行のスケジュール設定の詳細については、「テスト実行のスケジュールの概要」(746 ページ) を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「テスト・セットの表示」(747 ページ)

「テスト実行のスケジュール設定」(747 ページ)

「実行フローの図の表示」(748 ページ)

1 テスト・セットの表示

テスト・ラボ・モジュールのテスト・ラボ・ツリーで、テスト・セットを選択します。**[実行フロー]** タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[実行フロー] タブ」(751 ページ) を参照してください。

2 テスト実行のスケジュール設定

- a 実行フローで、テスト・インスタンスを右クリックし、**[テスト実行のスケジュール]** を選択します。**[実行スケジュール]** ダイアログ・ボックスが開きます。
- b **[実行の条件]** タブで、テスト・インスタンスの実行の条件を指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[実行の条件]** ページ」(753 ページ) を参照してください。

- c [実行スケジュール] ダイアログ・ボックスで、**[時刻の依存]** タブをクリックします。各テスト・インスタンスを実行する日付と時刻を指定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[時刻の依存]** ページ」(756 ページ) を参照してください。

例：

test_2 は **test_1** に成功した場合のみ、**test_3** は **test_2** に成功した場合のみに実行するよう決定することができます。**test_1** は午前 9 時に実行するようスケジュールされます。

3 実行フローの図の表示

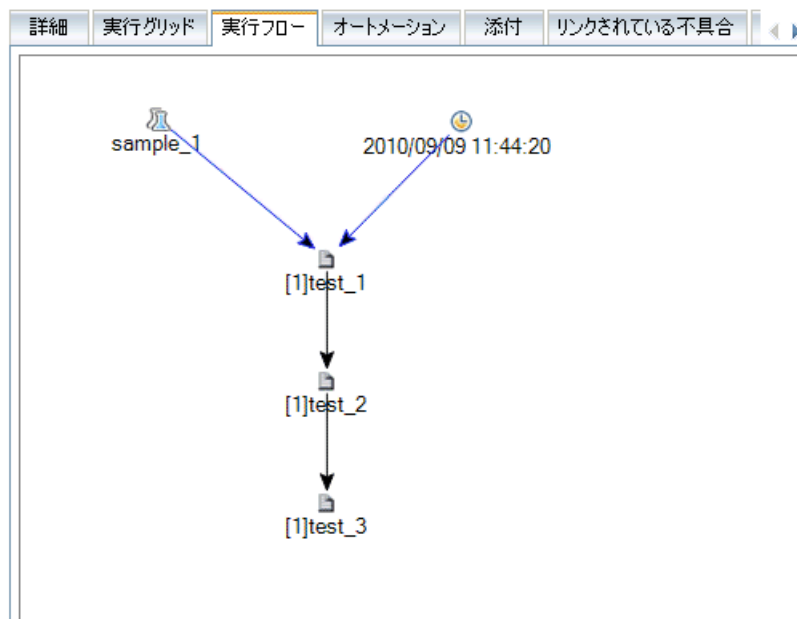
実行フローの表示方法は変更できます。これには、ズームインとズームアウト、階層レイアウトでのテストの並べ替え、図の更新、図での完全なテスト名の表示などがあります。また、図をクリップボードにコピーすることもできます。

[実行フロー] タブで利用可能なメニューとボタンのユーザ・インタフェースの詳細については、「**テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン**」(692 ページ) を参照してください。

[実行フロー] の図のさまざまな要素のユーザ・インタフェースの詳細については、「**[実行フロー] タブ**」(751 ページ) を参照してください。

例：

スケジュール設定されたテスト実行は，[実行フロー] タブに表示されます。



リファレンス

テスト実行スケジュールのユーザ・インタフェース

本項の内容

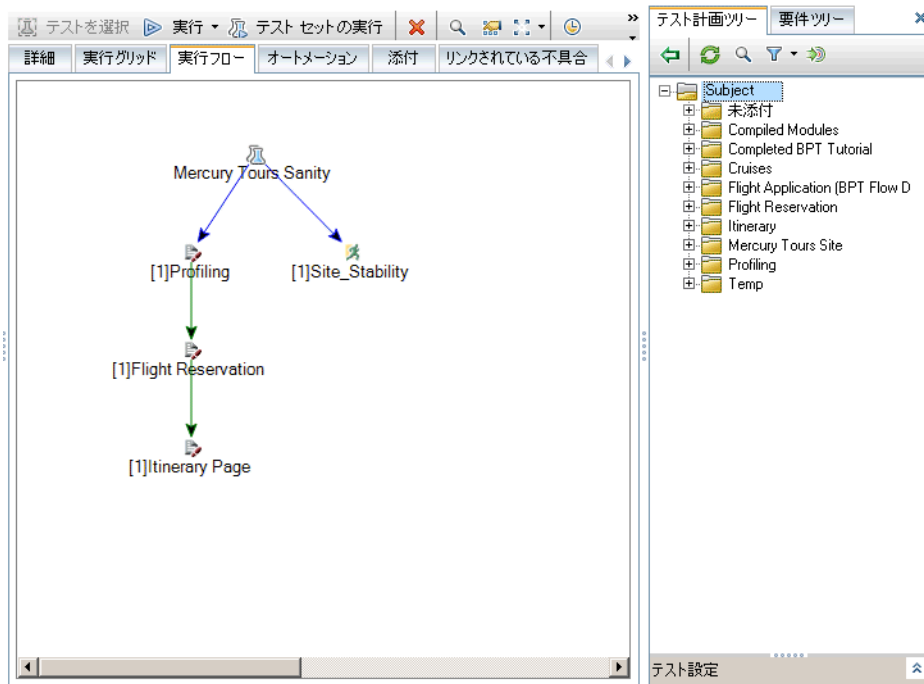
「[実行フロー] タブ」(751 ページ)

「[実行の条件] ページ」(753 ページ)

「[時刻の依存] ページ」(756 ページ)

[実行フロー] タブ





このタブは、テスト・データを図に表示します。[実行フロー] タブでは、テスト・インスタンスの実行方法を制御できます。テストを実行する時期と条件を指定できます。



アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールで、[テストセット] タブをクリックします。テスト・セットを選択して、[実行フロー] タブをクリックします。
関連タスク	「テスト実行をスケジュールする方法」(747 ページ) 「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ)
参照項目	「テスト実行のスケジュールの概要」(746 ページ) 「テスト実行の概要」(682 ページ) 「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)

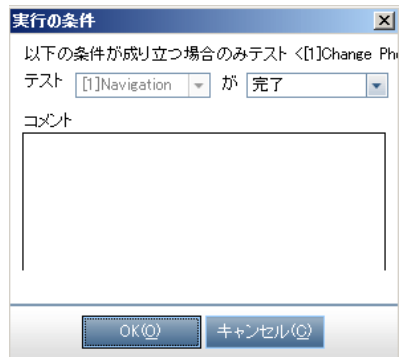
第 29 章・テスト実行のスケジュール

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン>	テスト・ラボ・モジュールで利用可能なメニューとボタンについては、「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」（692 ページ）を参照してください。
<テスト・ラボ・モジュールのアイコン>	テスト・ラボ・モジュールで利用可能なアイコンについては、「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」（708 ページ）を参照してください。
<実行フローの図の領域>	テスト・インスタンスを条件とともに、図に表示します。 青の線の  矢印は、テスト・インスタンスが前のテスト・インスタンスの後に条件なしで実行されることを示します。 緑の線の  矢印は、テスト・インスタンスが前のテスト・インスタンスのステータスが [成功] の場合にのみ実行されることを示します。 黒の線の  矢印は、テスト・インスタンスが前のテスト・インスタンスが実行を完了した場合にのみ実行されることを示します。 テスト・インスタンスが日付または時刻に依存している場合、 [時刻の依存]  アイコンが図に追加されます。
<[テストの選択] 表示枠>	[テスト計画ツリー] タブおよび [要件ツリー] タブにより、選択されているテスト・セットに追加するテストを選択できます。詳細については、「[テストの選択] 表示枠」（732 ページ）を参照してください。




[実行の条件] ページ

このページでは、テストを実行する条件を指定できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>[実行フロー] タブで次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト・インスタンスを右クリックし、[テスト実行のスケジュール] を選択します。[実行スケジュール] ダイアログ・ボックスが開き、[実行の条件] タブが表示されます。</p> <p>あるいは、条件を示す矢印を右クリックし、[実行の条件] を選択します。[実行の条件] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>ヒント：[実行フロー] で条件を直接追加することもできます。テスト名ではなくテスト・アイコンをクリックし、その矢印を別のテストへドラッグします。標準設定では、条件は [完了] に設定されています。条件を変更するには、条件の矢印をダブルクリックし、[成功] を選択します。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「テスト実行をスケジュールする方法」(747 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「[時刻の依存] ページ」(756 ページ)</p> <p>「テスト実行のスケジュールの概要」(746 ページ)</p>

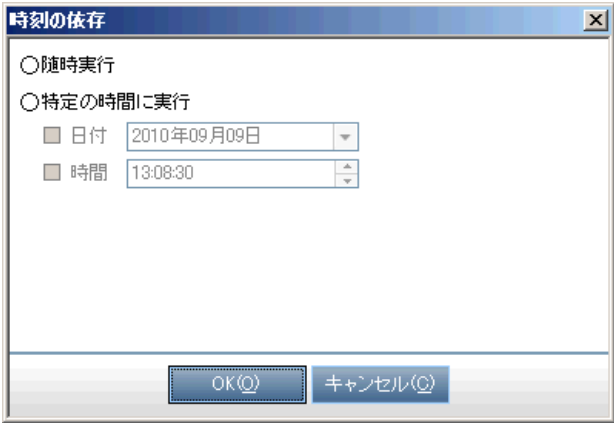
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。



<p>UI 要素</p>	<p>説明</p>
	<p>[実行条件の新規作成]：[実行条件の新規作成] ダイアログ・ボックスが開き、新しい実行条件を定義できるようになります。</p> <p>使用可能な場所：[実行スケジュール] ダイアログ・ボックス > [実行の条件] タブ。</p>
	<p>[実行条件の編集]：[実行の条件] ダイアログ・ボックスが開き、実行の条件を編集できるようになります。</p> <p>使用可能な場所：[実行スケジュール] ダイアログ・ボックス > [実行の条件] タブ。</p>
	<p>[実行条件の削除]：選択した実行条件を削除します。</p> <p>使用可能な場所：[実行スケジュール] ダイアログ・ボックス > [実行の条件] タブ。</p>

UI 要素	説明
[コメント]	条件に関するコメント。 テキスト・ボックス内をクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。 使用可能な場所 ：[実行の条件] ダイアログ・ボックス。
条件	実行条件を指定します。次のオプションが含まれます。 [完了] ：指定したテスト・インスタンスが実行を完了した後でのみ、現在のテスト・インスタンスを実行します。 [成功] ：指定したテスト・インスタンスが実行を完了して成功した場合のみ、現在のテスト・インスタンスを実行します。
[テスト]	現在のテストの依存先になるテスト・インスタンスです。
[以下の条件が成り立つ場合のみテスト]	指定したテスト・インスタンスの実行条件。

[時刻の依存] ページ

このページでは、テストを実行する時期を指定できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>[実行フロー] タブで次のいずれかを使用します。</p> <p>テスト・インスタンスを右クリックし、[テスト実行のスケジュール] を選択します。[時刻の依存] タブをクリックします。</p> <p>テスト・インスタンスに設定されている [時刻の依存]  アイコンを右クリックします。[時刻の依存] ダイアログ・ボックスが開きます。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>ヒント: テスト実行の日付と時刻のスケジュールを設定するには、[フローに時間の依存関係を追加] ボタン  をクリックし、アイコンからテスト・インスタンスに矢印のリンクを設定します。[時刻の依存] ダイアログ・ボックスで時刻を設定するには、アイコンをダブルクリックします。</p> <p>標準設定の時刻の基準は、ALM Platform サーバの現在の日付と時刻です。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「テスト実行をスケジュールする方法」(747 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「[実行の条件] ページ」(753 ページ)</p> <p>「テスト実行のスケジュールの概要」(746 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明。
【随時実行】	テスト・インスタンスは不特定の時間に実行されます。
【特定の時間に実行】	テスト・インスタンスは特定の時間に実行されます。次を指定できます。 [日付]：テスト・インスタンスを実行する日付を指定します。 [時間]：テスト・インスタンスを実行する時刻を指定します。

第 30 章

手動テストの実行

本章の内容

概念

「手動テストの実行の概要」(760 ページ)

「Sprinter の概要」(760 ページ)

タスク

「テストを手作業で実行する方法」(763 ページ)

リファレンス

「手動テスト実行のユーザ・インタフェース」(767 ページ)

概念

手動テストの実行の概要

手作業でテストを実行する場合、テスト・ステップに従って、テスト対象のアプリケーションを操作します。実際アプリケーションの結果が期待結果と一致しているかどうかによって、各ステップの成功または失敗を判定します。手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。

同じセットのテストを何回も実行できます。それぞれの実行が、新しいテスト実行と見なされます。また、実行中に停止された手動テストの実行を再開することもできます。

テスト実行中にテスト・ステップを変更する場合、変更を元のテストに保存するか、テスト・インスタンスに保存するかを選択できます。あるいは、現在のテスト実行に対してのみ保存することもできます。

テスト実行が完了した後は、すべてのテスト実行の結果の要約を表示して、各テスト・インスタンスのより詳細な結果を表示できます。

ALM では、HP Sprinter または HP の手動テストのソリューションを使用して、テストを手作業で実行できます。詳細については、「Sprinter の概要」(760 ページ)を参照してください。

Sprinter を使用していない場合は、Manual Runner を使用して手作業で実行できます。

タスクの詳細については、「テストを手作業で実行する方法」(763 ページ)を参照してください。

Sprinter の概要

HP Sprinter を使用して HP Application Lifecycle Management (ALM) から手作業でテストを実行します。Sprinter により、手作業のテスト・プロセスにおいて役立つ高度な機能およびツールが使用できます。Sprinter は ALM と完全に統合されており、両方のソリューションから最大限のメリットが得られます。

注：

ALM Editions : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition または Performance Center Edition では利用できません。

Sprinter を使用していない場合は、Manual Runner を使用して手作業で実行できます。

手動テストでは多くの場合、テストに関連するタスクを完了するためにテスト・アプリケーションを実行したままにしておく必要があります。たとえば、グラフィック・ソフトウェアを使用してアプリケーションの画面キャプチャを撮影する必要があります。テスト中アプリケーションのムービーを記録しても良いかもしれませんが。不具合を報告するために不具合を追跡するソフトウェアに切り換える必要もあります。

Sprinter ではこれらの手作業のテスト・プロセスの必要性に応え、テスト・フローを阻害することなく、これらのタスクを完了できます。Sprinter では、手動テストの多くの反復的で冗長的なタスクを自動的に実行することもできます。Sprinter には、不具合を検出して送信するのに役立つ数多くのツールが含まれています。これらの機能により、手動テストに必要なすべてのタスクを、テスト作業の中断を最小限にしながら実行できます。

Sprinter では、次の事ができます。

- 画面キャプチャを作成して注釈をつける

- テスト実行のムービーを撮影する

- テスト・アプリケーション上でマクロを記録して実行する

- アプリケーションのフィールドに自動的にデータを入力する

- 送信する不具合に、ステップまたはユーザ・アクションのリストを自動的に含める

- ユーザ・アクションを複数のマシンに異なる構成で複製する

この機能のすべてが Sprinter 内で利用でき、手動テストを中断することなしに利用できます。

第 30 章・手動テストの実行

Sprinter のインストールおよび作業の完全な詳細は、HP Application Lifecycle Management Add-ins ページ ([ヘルプ] > [アドイン ページ] を選択) からアクセスできる「HP Sprinter 最初にお読みください」および『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

Sprinter の ALM 標準設定をカスタマイズする方法については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

ALM で Sprinter を使用してテストを手作業で実行するには、「テストを手作業で実行する方法」(763 ページ) を参照してください。

タスク

テストを手作業で実行する方法

このタスクでは、テストを手作業で実行する方法について説明します。手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。

手動でのテスト実行の詳細については、「手動テストの実行の概要」(760 ページ)を参照してください。

注：

このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ)を参照してください。

ALM Editions : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition または Performance Center Edition では利用できません。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(764 ページ)
- 「テストの実行Sprinter」(764 ページ)
- 「テスト実行中にステップを変更する」(765 ページ)
- 「手動テストの実行を再開する」(766 ページ)

1 前提条件


手動によるテスト・プロセスで役に立つ高度な機能やさまざまなツールを利用するために、HP Sprinter でテストを実行します。Sprinter の詳細については、「Sprinter の概要」(760 ページ) を参照してください。

Sprinter でテストを実行するには、クライアント・マシンに Sprinter をインストールする必要があります。Sprinter をダウンロードしてインストールするには、[ヘルプ] > [アドイン ページ] を選択して HP Application Lifecycle Management Add-ins ページを開き、HP Sprinter アドインのリンクをクリックします。

2 テストの実行Sprinter

Sprinter がコンピュータにインストールされている場合、テスト・ラボ・モジュールから Sprinter でテストを手作業で実行できます。

テスト・ラボ・モジュールの [テスト セット] タブで、テスト・セットを選択して [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブをクリックします。

 実行 ▾

特定の 1 つの手動テストを実行するには、対象のテストを選択して [実行] ボタンをクリックします。



2 つ以上の手動テストを実行するには、このテストを選択します。[実行] ボタンの隣のドロップダウン矢印をクリックして、[実行... (Sprinter)] を選択します。

Sprinter の作業の詳細については、HP Application Lifecycle Management Add-ins ページの『HP Sprinter ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

3 [Manual Runner] ダイアログ・ボックスからテストを実行する

Sprinter を使用していない場合は、[Manual Runner] ダイアログ・ボックスからテストを手作業で実行できます。



- a テスト・ラボ・モジュールの [テスト セット] タブで、テスト・セットを選択して [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブをクリックします。テストを選択し、[実行] ボタンの隣のドロップダウン矢印をクリックして、[手作業で実行] を選択します。Manual Runner ウィザードのユーザ・インタフェースの詳細については、「Manual Runner ウィザード」(769 ページ) を参照してください。
- b テスト対象のアプリケーションを起動し、テストのステップを実行します。テスト・ステップの説明に詳述されている指示に従います。
- c 実際の結果を期待結果と比較します。ステップの実行時に、期待結果に従ってアプリケーションが応答しているかどうかを確認します。

- d 期待結果と実際の結果との一致、不一致によって、成功または失敗というステータスを各ステップに割り当てます。
- e ステップが失敗した場合は、アプリケーションから実際にどのような応答があったかを記述しておいてください。1つ以上のステップが失敗すると、テストは失敗となります。

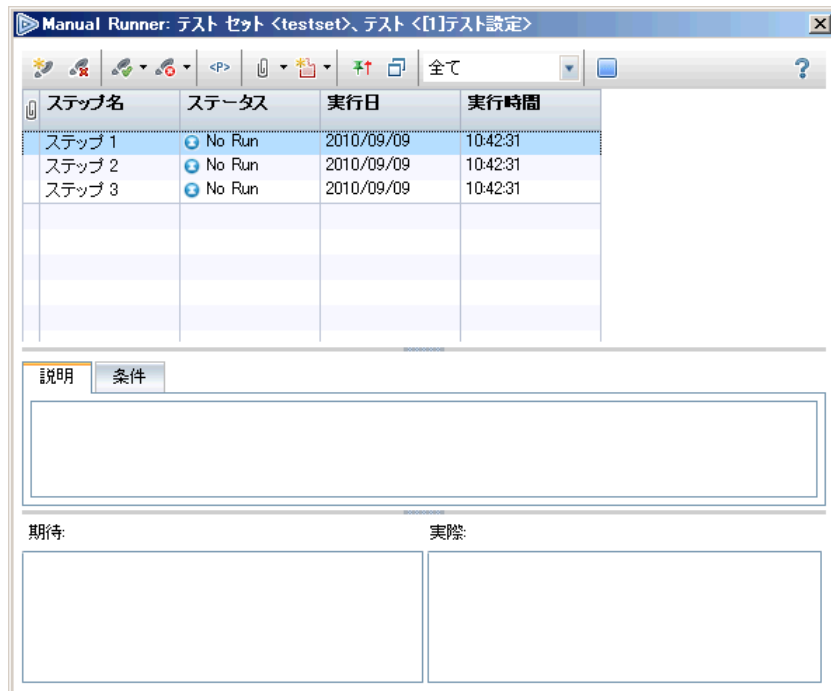
4 テスト実行中にステップを変更する

Manual Runner を使用してテストを実行している間、テスト・ステップの追加、削除、変更ができます。テスト実行が終了したら、デザイン・ステップを保存して、変更内容を反映させることができます。

手作業で実行中に、[Manual Runner ステップの詳細] ページからテスト・ステップを変更します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「Manual Runner : [ステップの詳細] ページ」(773 ページ) を参照してください。

例：

各ステップを確認し、テスト・ステップを追加、削除、または変更することもできます。



5 手動テストの実行を再開する

実行中の手動テストを一時停止した場合、後で実行を再開することができます。これにより、初回のテスト実行で使用されたのと同じランナー（Sprinter または Manual Runner）で、テストの実行を続行できます。

次のいずれかを使用します。

[実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで、実行を再開するテストを選択し、[テスト] > [手作業実行の続行] を選択します。または、[実行] ボタンの矢印をクリックし、[手作業実行の続行] を選択します。

注: これにより、選択したテストの最後の実行から続行します。前回の実行を再開するには、[テストインスタンスの詳細] ボタンをクリックし、サイドバーの [実行] を選択し、再開するテストを選択します。[手作業実行の続行] ボタンをクリックします。

[テストラボ] > [テスト実行] タブで、再開するテスト実行を選択して [手作業実行の続行] ボタンをクリックします。

6 結果

テストの実行が完了したら、テスト・ラボ・モジュールにテスト結果のサマリを表示できます。

[テストセット] タブ。それぞれのテスト実行に関する最新のステータスが [実行グリッド] に表示されます。各テスト・ステップの結果は、[最後の実行レポート] 表示枠に表示されます。[テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックスでは、さらに詳細な結果を確認できます。

[テスト実行] タブ。プロジェクトのそれぞれのテスト実行に関する最新のステータスが表示されます。

テスト結果の表示の詳細については、「テストの結果を表示する方法」(797 ページ) を参照してください。

リファレンス

手動テスト実行のユーザ・インタフェース

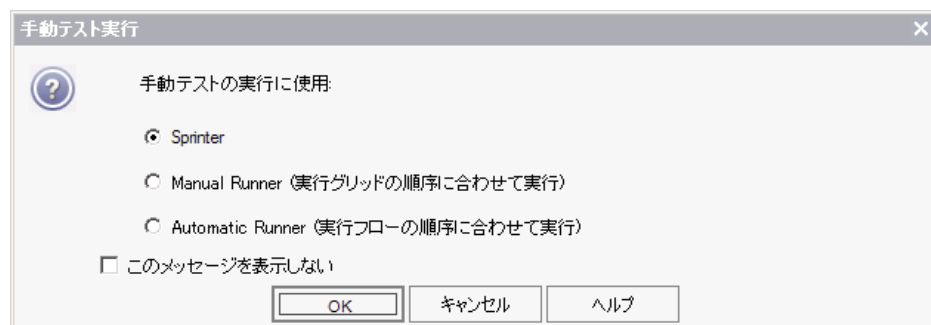
本項の内容

「[手動テスト実行] ダイアログ・ボックス」(767 ページ)

「Manual Runner ウィザード」(769 ページ)

[手動テスト実行] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、テストの実行に Sprinter, Manual Runner, または Automatic Runner を使用するかを選択できます。



アクセス方法	<p>テスト・ラボ・モジュール > [テストセット] タブで、テスト・セットを選択して次のいずれかを使用します。</p> <p>手動テストだけを含むテスト・セット全体を実行するには、[テストセットの実行] ボタンをクリックします。</p> <p>[実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブで、2 つ以上の手動テストを選択して [実行] ボタンをクリックします。</p>
関連タスク	<p>「テストを手作業で実行する方法」(763 ページ)</p>
参照項目	<p>「手動テストの実行の概要」(760 ページ)</p>

第 30 章・手動テストの実行

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[Sprinter]	Sprinter が開き、実行グリッドに表示されている順序に従って、選択されたテストが手作業で実行されます。Sprinter の詳細については、「Sprinter の概要」(760 ページ)を参照してください。 このオプションは、Sprinter がコンピュータにインストールされている場合にのみ表示されます。 ALM Editions : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition または Performance Center Edition では利用できません。
[Manual Runner]	選択されたテストを、[Manual Runner] ダイアログ・ボックスから [実行グリッド] に表示された順序で手作業で実行します。Manual Runner の詳細については、「Manual Runner ウィザード」(769 ページ)を参照してください。
[Automatic Runner]	実行フローで定義された条件に従って、選択されたテストを自動的に実行します。自動テストの実行の詳細については、「[自動ランナー] ダイアログ・ボックス」(785 ページ)を参照してください。
[このメッセージを表示しない]	ALM に対して、最初にこのダイアログ・ボックスを表示することなしに、手動テストを実行するよう指定します。ダイアログ・ボックスを表示するには、[テスト] > [手動テスト設定の有効化] を選択します。

 **Manual Runner ウィザード**

このウィザードにより、テストを手作業で実行できます。手動テストと自動テストは両方とも手作業で実行できます。

アクセス方法	[テスト ラボ モジュール] > [テスト セット] タブで、テスト・セットを選択して [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブをクリックします。1 つ以上のテストを選択して、[テスト] > [手作業で実行] を選択します。
関連タスク	「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ)
ウィザード・マップ	このウィザードには次のものが含まれます。 Manual Runner : [実行の詳細] ページ > Manual Runner : [ステップの詳細] ページ
参照項目	「テスト実行の概要」(682 ページ) 「手動テストの実行の概要」(760 ページ)


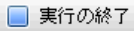
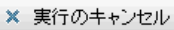


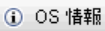
Manual Runner : [実行の詳細] ページ

このウィザード・ページにより、実行の詳細を確認してテストを手作業で実行できます。



<p>重要な情報</p>	<p>このウィザードに関する一般的な情報は、「Manual Runner ウィザード」(769 ページ)に記載されています。</p> <p>[ドラフト実行] フィールドを使用して、テスト・インスタンスをドラフト実行として実行できます。詳細については、「ドラフト実行」(683 ページ)を参照してください。</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>Manual Runner ウィザードには次のものが含まれます。</p> <p>Manual Runner : [実行の詳細] ページ > Manual Runner : [ステップの詳細] ページ</p>
<p>参照項目</p>	<p>「手動テストの実行の概要」(760 ページ)</p>

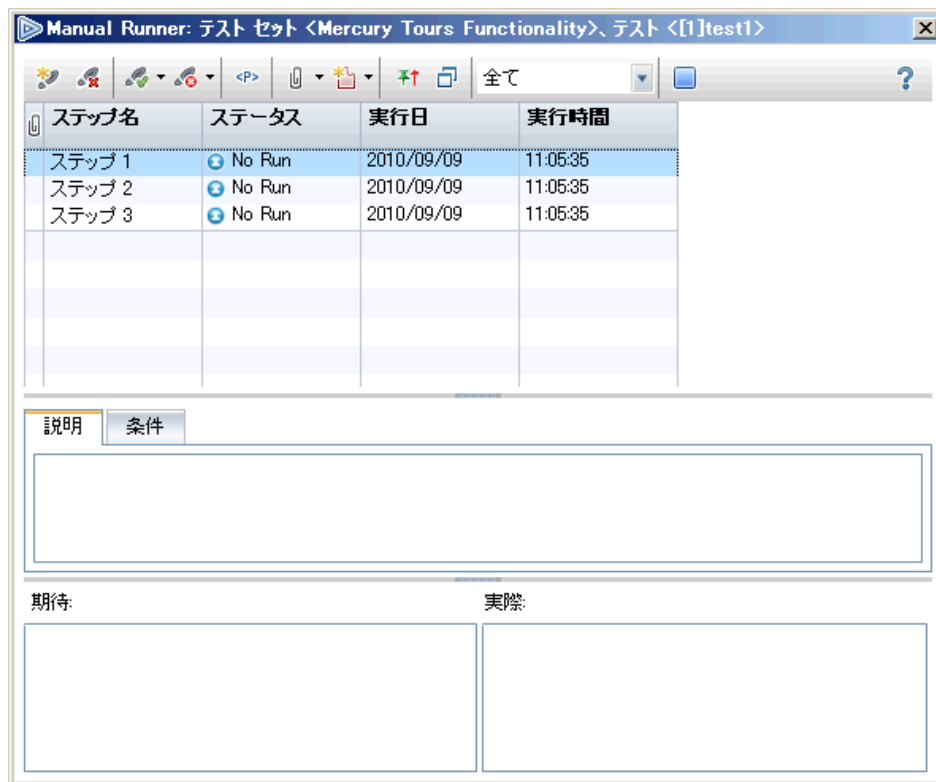
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>テスト実行を開始します。</p> <p>実行しているテストに実際の値が割り当てられていないパラメータがある場合は、[Parameters of Test] ダイアログ・ボックスが表示されます。パラメータの実際の値を割り当てます。詳細については、「[呼び出されたテスト パラメータ] / [テストのパラメータ] ダイアログ・ボックス」(570 ページ)を参照してください。</p>
	<p>テスト実行を終了します。ALM によってテスト実行が保存されます。</p>
	<p>テスト実行を取り消します。</p> <p>実行を保存せずに完全に取り消すには、確認で [いいえ] をクリックします。</p>
	<p>[実行に添付] : [添付ファイル] ページが開き、添付ファイルを表示してテスト実行に追加できるようになります。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。</p>
	<p>[新規不具合] : [新しい不具合] ダイアログ・ボックスが開き、テスト実行に新しい不具合を追加できるようになります。詳細については、「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(858 ページ)を参照してください。ALM によりテスト実行と新しい不具合に自動的にリンクが作成されます。詳細については、「不具合のリンク」(829 ページ)を参照してください。</p> <p>選択されたテスト実行のリンクされた不具合を表示するには、[新しい不具合] の矢印をクリックして [リンクされた不具合] を選択します。</p>
	<p>[オペレーティング システム情報]。[オペレーティング システム情報] ダイアログ・ボックスが開きます。次を編集できます。</p> <p>オペレーティング システム。テスト・ステップを実行するマシンのオペレーティング・システムです。標準設定では、ALMクライアント・マシンのオペレーティング・システムが表示されます。</p> <p>OS サービス パック。オペレーティング・システムのサービス・パックです。</p> <p>OS ビルド番号。オペレーティング・システムのビルド番号です。</p>

UI 要素	説明
[コメント] タブ	現在のテスト実行のコメントです。[コメントを追加] をクリックしてコメントを追加します。
[実行の詳細]	テスト実行の詳細を表示します。必須のフィールドは赤く表示されません。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) を参照してください。
[テストの詳細]	[テスト 詳細] ダイアログ・ボックスが開き、テストの詳細を表示して更新できるようになります。詳細については、「テスト計画モジュール・ウィンドウ」(495 ページ) を参照してください。

 **Manual Runner : [ステップの詳細] ページ**

このウィザード・ページでは、テストの実行中にテスト・ステップの追加、削除、変更ができます。テスト実行が終了したら、デザイン・ステップを保存して、変更内容を反映させることができます。



The screenshot shows the 'Manual Runner' application window. The title bar reads 'Manual Runner: テスト セット <Mercury Tours Functionality>, テスト <[1]test1>'. The interface includes a toolbar with various icons and a dropdown menu set to '全て'. Below the toolbar is a table with the following data:







ステップ名	ステータス	実行日	実行時間
ステップ 1	No Run	2010/09/09	11:05:35
ステップ 2	No Run	2010/09/09	11:05:35
ステップ 3	No Run	2010/09/09	11:05:35

Below the table, there are two tabs: '説明' (Description) and '条件' (Conditions). The '説明' tab is active, showing a large empty text area. At the bottom, there are two empty text boxes labeled '期待' (Expected) and '実際' (Actual).

<p>重要な情報</p>	<p>このウィザードの全般情報については、次を参照してください。 「Manual Runner ウィザード」(769 ページ)</p> <p>テストの実行中にテスト・ステップを変更でき、変更はテスト計画モジュールで元のテストに、テスト・ラボ・モジュールでテスト・インスタンスに保存するように選択できます。あるいは、現在のテスト実行に対してのみ保存することもできます。</p> <p>テスト・ラボ・モジュールでは、呼び出し先のテストに加えられた変更を現在のテストにおいてのみ更新できます。呼び出し先のテストは、何の影響も受けません。呼び出し先のテストの詳細については、「[デザイン ステップ] タブ/[デザイン ステップ詳細] ダイアログ・ボックス」(582 ページ)を参照してください。</p> <p>ビジネス・プロセス・テストを実行している場合は、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>Manual Runner ウィザードには次のものが含まれます。</p> <p>Manual Runner : [実行の詳細] ページ > Manual Runner : [ステップの詳細] ページ</p>
<p>参照項目</p>	<p>「手動テストの実行の概要」(760 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>[ステップの追加]: 標準設定のステップ名の付いた新しいステップがテストに追加されます。[説明] ボックスに、新しいステップに関する詳細を入力できます。</p>
	<p>[選択項目の削除]: 選択したステップを削除する。</p>
	<p>[成功を選択]: 選択したテスト・ステップのステータスを「成功」に変更します。すべてのテスト・ステップをまとめて成功にするには、[成功を選択] ボタンの矢印をクリックし、[すべて成功] を選択します。</p>
	<p>[失敗を選択]: 選択したテスト・ステップのステータスを「失敗」に変更します。すべてのテスト・ステップをまとめて失敗にするには、[失敗を選択] ボタンの矢印をクリックし、[すべて失敗] を選択します。</p>

UI 要素	説明
	<p>[パラメータを表示] : [テスト実行のパラメータ] ダイアログ・ボックスが開き、テストのパラメータの値を表示できるようになります。詳細については、「[パラメータ] タブ/[パラメータ] ダイアログ・ボックス」(565 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[ステップに添付] : [添付ファイル] ページが開き、添付ファイルを表示してテスト・ステップに追加できるようになります。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p> <p>テスト実行全体に添付ファイルを追加するには、[添付ファイル] ボタンの矢印をクリックし、[実行に添付] を選択します。</p>
	<p>[新規不具合] : [新規不具合] ダイアログ・ボックスが開き、不具合をステップに追加できるようになります。ALM によってテスト・ステップと新しい不具合が自動的に関連付けられます。詳細については、「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(858 ページ) および「不具合のリンク」(829 ページ) を参照してください。</p> <p>選択されたテスト・ステップのリンクされた不具合を表示するには、[新しい不具合] の矢印をクリックして [リンクされた不具合] を選択します。</p>
	<p>[常に手前に表示] : マニュアル・ランナーの [ステップの詳細] ダイアログ・ボックスを、開いたウィンドウすべての手前に表示する。</p> <p>選択したウィンドウを、マニュアル・ランナーの手前に表示するには、[ステップの詳細] ダイアログ・ボックスで [手前に表示しない] ボタンをクリックします。</p>
	<p>[簡易表示] : このダイアログ・ボックスを簡易表示で開き、各ステップを確認しながら結果を記録することができます。</p> <p>ステップ・グリッドに戻るには、[ステップグリッドへ戻る] ボタンをクリックします。</p>
	<p>[実行の終了] : 実行を終了する。</p> <p>実行中にテスト・ステップを追加、削除、変更した場合は、確認のボックスが開きます。次のいずれかを選択します。</p> <p>はい。変更が保存され、テスト計画およびテスト・ラボ・モジュールのテストが更新されます。</p> <p>いいえ。現在のテスト実行に対してのみ変更が保存されます。</p>

UI 要素	説明
<次でフィルタ>	[ステータス] カラムに従い、テストのステップをフィルタします。
<グリッド・フィールド>	テスト・ステップの詳細を表示または変更します。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) を参照してください。
[実際]	選択したテスト・ステップの実際の結果。
[説明]	選択したテスト・ステップの説明。
[期待]	選択したテスト・ステップの期待結果。

第 31 章

自動テスト実行

本章の内容

概念

「自動テスト実行の概要」(778 ページ)

タスク

「テストを自動で実行する方法」(780 ページ)

リファレンス

「自動テスト実行のユーザ・インタフェース」(784 ページ)

概念

自動テスト実行の概要

テストを直接 HP Application Lifecycle Management (ALM) から自動的に実行できます。テストは、自分のマシンでもリモート・ホストでも実行できます。「**ホスト**」とは、テスト・ツールがすでにインストールされ、ネットワークに接続されているマシンのことです。

自動テストと手動テストの両方を含む、テスト・セット内のすべてのテストを実行することも、特定のテストを実行することもできます。

自動テストを実行すると、選択されているテスト・ツールが ALM によって自動的に起動され、ローカル・マシンまたはリモート・ホストでこのテストが実行され、結果が ALM にエクスポートされます。

[自動ランナー] ダイアログ・ボックスから手動テストを実行すると、指定したホストでテストを実行するよう、ALM では指定したテスト責任者宛に電子メールで通知が送られます。

また、システム情報の取得、デスクトップ画像のキャプチャ、またはマシンの再起動を行う自動システム・テストも実行できます。システム・テストの詳細については、「システム・テストの概要」(620 ページ)を参照してください。

タスクの詳細については、「テストを自動で実行する方法」(780 ページ)を参照してください。

 **QuickTest Professional テスト実行**

QuickTest Professional テストを実行する場合、次の点を考慮します。

ALM を使用してリモート・ホストで QuickTest Professional テストを実行するには、対応するアプリケーションをリモート・ホスト上で起動し、必要なオプションを選択します。詳細については、『HP QuickTest Professional ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

QuickTest テストを実行する前に、ALM は選択されたテストに関連付けられている QuickTest アドインを読み込みます。テストは、必要な QuickTest アドインがインストールされているマシンで実行する必要があります。アドインを使用した作業および QuickTest の関連アドイン・リストの詳細については、QuickTest Professional のドキュメント、および関連する QuickTest アドインのドキュメントを参照してください。

テスト・ラボ・モジュールから QuickTest Professional テストを実行する場合、テストは自動的に **Fast** モードで実行されます。**Normal** モードで実行することはできません。

標準設定では、ALM はテスト実行の最後に QuickTest Professional を終了します。これにより、QuickTest のライセンスがその時点で解放され、ほかの QuickTest ユーザが利用できるようになります。テスト・セットの実行後も QuickTest を開いたままにするには、サイト管理の [サイト設定] タブで [SUPPORT_TESTSET_END] パラメータを編集します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

タスク

テストを自動で実行する方法

このタスクでは、手動テストおよび自動テストを自動的に実行する方法について説明します。

自動テストの実行の詳細については、「自動テスト実行の概要」(778 ページ) を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(781 ページ)
- 「テスト実行のスケジュールと順序」(781 ページ)
- 「複数のホストにおけるテストの同時実行」(782 ページ)
- 「テストの実行」(782 ページ)
- 「実行ログの表示」(783 ページ)
- 「結果」(783 ページ)

1 前提条件

テストを自動実行する前に、自動テストのリモート実行用にホスト・コンピュータを設定し、手動テストの実行用にテスト責任者を割り当てる必要があります。

リモート・テスト実行用にホストを設定します。テスト・ラボ・モジュールの、[テストセット] タブで、[テストセット] > [ホスト マネージャ] を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ホスト マネージャ] ダイアログ・ボックス」(788 ページ) を参照してください。

手動テストを実行するテスト担当者を指定します。手動テストを自動実行すると、指定されているテスト責任者に ALM からテストの実行を求める電子メールが送信されます。この通知は、そのテストに対して、有効な電子メール・アドレスを持つテスト責任者が指定されている場合のみ送信できます。

テスト責任者を指定するには、[実行グリッド] タブでテストを指定し、[テスト責任者] カラムでユーザを選択します。

2 テスト実行のスケジュールと順序

テスト実行の方法と時刻を決定できます。

スケジュール設定を行います。テストを実行する日付や時刻、および条件の設定を指定できます。タスクの詳細については、「テスト実行をスケジュールする方法」(747 ページ) を参照してください。

順序設定を行います。[テスト インスタンスの順序変更] ダイアログ・ボックスを使用して、テストの実行順序を設定できます。次のいずれかを使用します。

[実行フロー] で、CTRL キーを押しながら、2 つ以上のテストを選択します。テストを右クリックして、[テスト インスタンスの並べ替え] を選択します。

[実行グリッド] で、[テスト] > [テスト インスタンスの並べ替え] を選択します。

[テスト インスタンスの順序変更] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスト インスタンスの順序変更] ダイアログ・ボックス」(791 ページ) を参照してください。

3 複数のホストにおけるテストの同時実行

同一内容のテストを複数のリモート・ホストで実行するには、テスト・セットにテストの複数のインスタンスを追加します。テスト・インスタンスをテスト・セットに追加するユーザ・インタフェースの詳細については、「[テストの選択] 表示枠」(732 ページ) を参照してください。

4 テストの実行

Automatic Runner を使用して、手動テストや自動テストを自分のマシンやリモート・ホストで自動的に実行できます。

テスト・ラボ・モジュールの [テストセット] タブで、次のいずれかを使用します。

1 つ以上の自動テストを含むテスト・セットを選択して、[**テストセットの実行**] ボタンをクリックします。

選択したテストを実行するには、テスト・セットを選択して [**実行グリッド**] タブまたは [**実行フロー**] タブをクリックします。1 つ以上のテストを選択し、[**実行**] ボタンをクリックします。

手動テストだけを実行するには、テストを選択し、[**実行**] ボタンをクリックします。[手動テスト実行] ダイアログ・ボックスで、[**Automatic Runner**] を選択して [**OK**] をクリックします。

Automatic Runner のユーザ・インタフェースの詳細については、「[自動ランナー] ダイアログ・ボックス」(785 ページ) を参照してください。

5 実行ログの表示

自動テスト実行が完了したら、自動テスト実行の詳細を表示できます。[自動ランナー] ダイアログ・ボックスで、**[実行]** > **[実行ログの表示]** を選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[実行ログ] ダイアログ・ボックス」(793 ページ) を参照してください。

6 結果

テストの実行が完了したら、テスト・ラボ・モジュールにテスト結果のサマリを表示できます。

[テストセット] タブ。それぞれのテスト実行に関する最新のステータスが [実行グリッド] に表示されます。各テスト・ステップの結果は、[最後の実行レポート] 表示枠に表示されます。[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックスでは、さらに詳細な結果を確認できます。

[テスト実行] タブ。プロジェクトのそれぞれのテスト実行に関する最新のステータスが表示されます。

テスト結果の表示の詳細については、「テストの結果を表示する方法」(797 ページ) を参照してください。

リファレンス

自動テスト実行のユーザ・インタフェース

本項の内容

「[自動ランナー] ダイアログ・ボックス」(785 ページ)

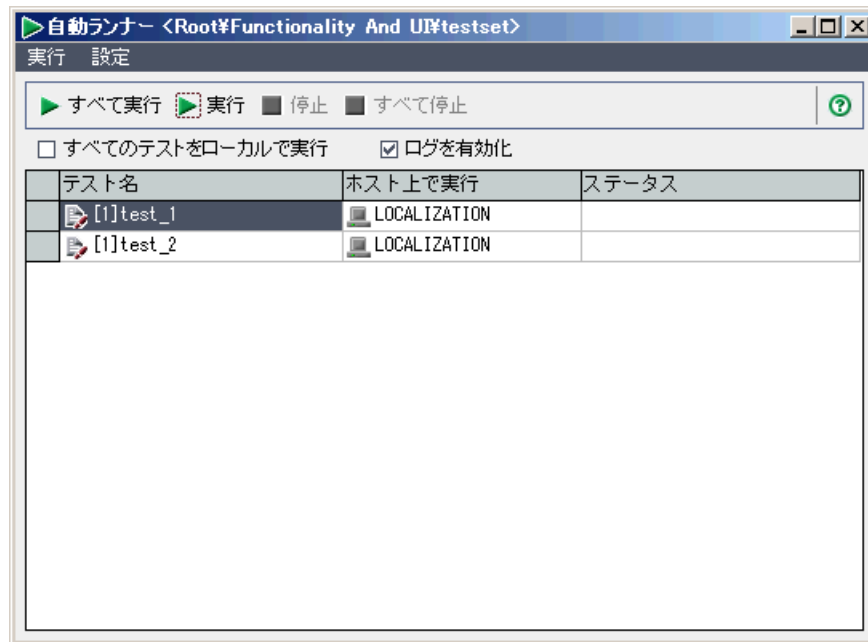
「[ホスト マネージャ] ダイアログ・ボックス」(788 ページ)

「[テスト インスタンスの順序変更] ダイアログ・ボックス」(791 ページ)

「[実行ログ] ダイアログ・ボックス」(793 ページ)

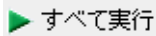

[自動ランナー] ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスで、テストを自動的に実行できます。テスト・セット全体を実行することも、自動か手動かを問わず特定のテストを実行することもできます。



<p>アクセス方法</p>	<p>テスト・ラボ・モジュールの [テストセット] タブで、次のいずれかを使用します。</p> <p>1 つ以上の自動テストを含むテスト・セットを選択して、[テストセットの実行] ボタンをクリックします。</p> <p>選択したテストを実行するには、テスト・セットを選択して [実行グリッド] タブまたは [実行フロー] タブをクリックします。1 つ以上のテストを選択し、[実行] ボタンをクリックします。</p> <p>手動テストだけを実行するには、テストを選択し、[実行] ボタンをクリックします。[手動テスト実行] ダイアログ・ボックスで、[Automatic Runner] を選択して [OK] をクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>自動テストの場合には、選択されているテスト・ツールが ALM によって自動的に起動され、テストが実行されます。テストの実行は、選択したホストでのテストの実行が可能な状態になった場合にのみ開始されます。</p> <p>手動テストの場合、指定されているテスト責任者にテストの実行を求める電子メールが ALM から送信されます。この通知は、そのテストのテスト責任者が [実行グリッド] の [テスト責任者] フィールドで指定されている場合にのみ送信できます。</p> <p>いくつかのテスト・セットを複数のリモート・ホストで同時に実行するには、テスト・セットの数だけ [自動ランナー] ダイアログ・ボックスを開きます。</p> <p>QuickTest Professional テストを実行する場合に、追加で考慮すべき事項については、「QuickTest Professional テスト実行」(779 ページ) を参照してください。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「テスト実行の概要」(682 ページ)</p> <p>「自動テスト実行の概要」(778 ページ)</p> <p>「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[すべてのテストの実行] : [自動ランナー] ダイアログ・ボックスのすべてのテストを実行します。</p>
	<p>[選択したテストの実行] : 選択したテストを実行します。</p>

UI 要素	説明
 停止	[実行の停止]: 完了する前にテストの実行を終了します。
 すべて停止	[すべての実行を停止]: [自動ランナー] ダイアログ・ボックスの実行中のすべてのテストを終了します。
[すべて選択解除]	[自動ランナー] ダイアログ・ボックスにあるすべてのテストの選択を解除します。 使用可能な場所 : 実行メニュー
[ログを有効化]	テスト実行時に、実行ログ・ファイルを作成します。 テスト実行後に実行ログを表示するには、[実行] > [実行ログの表示] を選択します。詳細については、「[実行ログ] ダイアログ・ボックス」(793 ページ) を参照してください。
[選択の切り替え]	[自動ランナー] ダイアログ・ボックスにあるすべてのテストの選択を選択または解除します。 使用可能な場所 : 実行メニュー
[すべてのテストをローカルで実行]	すべてのテストをローカル・マシンで実行します。
[ホスト上で実行]	テストをリモートで実行するよう指定されたホスト・マシン。 テストをリモートで実行するには、各テストに対してホスト・マシンを選択します。最初に、[すべてのテストをローカルで実行] チェック・ボックスをクリアする必要があります。 [ホスト上で実行] グリッド・ボックスをクリックし、参照ボタンをクリックします。[ホストの選択] ダイアログ・ボックスが開きます。[<任意のホスト>] で、テストを実行するホストまたはホスト・グループを選択します。 ホスト・グループを選択した場合、ALM ではグループの中で最初の利用可能なホストでテストが実行されます。グループのすべてのホストで実行されるわけではありません。
[選択の実行]	[自動ランナー] ダイアログ・ボックスで選択されたテストを実行します。 使用可能な場所 : 実行メニュー
[すべて選択]	[自動ランナー] ダイアログ・ボックスのすべてのテストを選択します。 使用可能な場所 : 実行メニュー
[ステータス]	テスト実行の進捗状況を表示します。
[テスト名]	実行するテストの名前です。








[ホスト マネージャ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスにより、リモート・テスト実行に使用できるホストのリストを作成できます。また、特定のプロジェクト用にホストをグループ化することもできます。



アクセス方法	テスト・ラボ・モジュールの、[テストセット] タブで、[テストセット] > [ホスト マネージャ] を選択します。
重要な情報	リモート・テスト実行用にホスト・グループを指定した場合、ALM ではホスト・グループのすべてのホストではなく、最初に利用可能なホストでテストが実行されます。
関連タスク	「テストを自動で実行する方法」(780 ページ)
参照項目	「自動テスト実行の概要」(778 ページ)

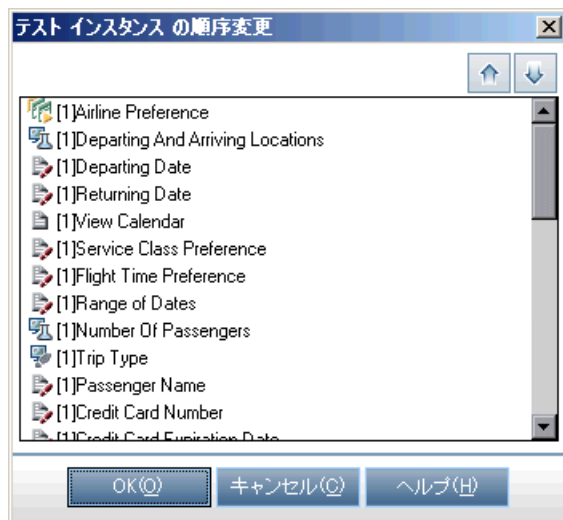
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 新規...	[新規ホスト]: [新規ホスト] ダイアログ・ボックスが開き, [ホスト] リストに新しいホストを追加できるようになります。
 削除	[ホストの削除]: 選択したホストをホスト・リストから削除します。
 ネットの取得 ▾	[ネットワーク上のすべてを追加する]: 次のオプションがあります。 [ネットワーク上の全てのホストを追加]: ALM によって [ネットワーク コンピュータ] フォルダが検索され, 検出された各ホストが [ホスト] リストに挿入されます。 [プロジェクト ホストをネットワーク ホストと同期化]: [ホスト] リストのホストを [ネットワーク コンピュータ] フォルダのホストと同期します。ALM は [ネットワーク コンピュータ] で検出されたホストを追加し, [ネットワーク コンピュータ] で検出されなかったホストを削除します。
 新規...	[ホスト グループの新規作成]: [ホスト グループの新規作成] ダイアログ・ボックスが開き, 新しいホスト・グループを追加できるようになります。
 削除	[ホスト グループの削除]: 選択したグループをグループ・リストから削除します。
	ホスト・グループにホストを追加する。 グループ・リストからグループを選択します。続いて, ホスト・リストからホストを選択します。複数のホストを選択するには, CTRL キーを押してホストを選択します。[ホスト グループからホストの削除] ボタンをクリックします。 ホスト・グループにすべてのホストを追加するには, グループ・リストからグループを選択して [ホスト グループに全てのホストを追加] ボタンをクリックします。
	ホスト・グループからホストを削除します。 グループ・リストからグループを選択します。続いて, グループ・リストのホストからホストを選択し, [ホスト グループからホストを削除] ボタンをクリックします。 ホスト・グループからすべてのホストを削除するには, グループ・リストからグループを選択して [ホスト グループからホストを削除] ボタンをクリックします。

UI 要素	説明
[説明]	選択したホストまたはグループの説明です。
[グループ]	プロジェクトのホスト・グループです。
[ホスト]	プロジェクトで利用可能なホストです。
[グループ内のホスト]	選択したグループに含まれるホストです。
[名前]	ホストの名前です。


[テストインスタンスの順序変更] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、[実行グリッド] または [実行フロー] におけるテストの実行順序を変更できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>テスト・ラボ・モジュールの [テストセット] タブで、次のいずれかを使用します。</p> <p>[実行フロー] で、CTRL キーを押しながら、2 つ以上のテストを選択します。テストを右クリックして、[テスト インスタンスの並べ替え] を選択します。</p> <p>[実行グリッド] で、[テスト] > [テスト インスタンスの並べ替え] を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>テストの実行順を指定すると、ALM による実行フローの確認がまず行われます。実行グリッドで指定した順序は、実行フローで何の条件も設定されていない場合にのみ使用されます。</p> <p>[実行グリッド] で、ALM によってホストのタイプ別にテストがグループ分けされ、指定した順序に従って実行されます。たとえば、テストの順序が test1, test2, test3 となっている場合、ALM は test1 と test3 が同一ホストで実行するよう設定される場合はこれらを先に実行し、その後で、別のホストで test2 が実行されます。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「テストを自動で実行する方法」(780 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「テスト実行の概要」(682 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。


UI 要素	説明
	<p>[選択項目を上に移動] / [選択項目を下に移動] : 選択したテストをリスト内で上または下に移動して、実行順序を設定できます。</p>
<p>< [テスト] 表示枠 ></p>	<p>[実行グリッド] には、選択したテスト・セットのテストが表示されます。</p> <p>[実行フロー] には、選択したテストが表示されます。</p> <p>リストからテストを選択し、上矢印または下矢印をクリックしてリスト中のテストの位置を変更します。あるいは、テストをドラッグして上下に移動することもできます。</p>

[実行ログ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスで、Automatic Runner によって実行されたテストの詳細を表示できます。

アクセス方法	[自動ランナー] ダイアログ・ボックスで、 [実行] > [実行ログの表示] を選択します。
重要な情報	実行ログは、テストを実行する前に、[自動ランナー] ダイアログ・ボックスの [ログを有効化] チェック・ボックスを選択した場合にのみ表示できます。
関連タスク	「テストを自動で実行する方法」(780 ページ)
参照項目	「[自動ランナー] ダイアログ・ボックス」(785 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
 更新	選択したテストの詳細を更新します。
< [テストの詳細] 表示枠 >	名前、実行の日時、リモート・ホストを含む、 [テスト] ボックスで選択したテストの実行の詳細を表示します。
< [結果] 表示枠 >	実行の詳細を表示します。実行の失敗の原因を示す場合があります。
[データベース]	実行されたテストが存在するプロジェクト。
[削除]	実行ログを削除します。 使用可能な場所 : ログ・メニュー
[終了]	[実行ログ] ダイアログ・ボックスが閉じます。 使用可能な場所 : ログ・メニュー
[ホスト]	選択したホストで、表示されるテストをフィルタします。 フィルタするには、ホストを選択して [更新] ボタンをクリックします。

第 31 章・自動テスト実行

UI 要素	説明
【開く】	表示する別の実行ログを選択できます。 使用可能な場所 ：ログ・メニュー
【テスト】	実行の詳細を表示するテスト。
【テストセット】	実行されたテストが存在するテスト・セット。
【ユーザ名】	テストを実行したユーザ。

第 32 章

テスト結果

本章の内容

概念

「テスト結果の概要」(796 ページ)

タスク

「テストの結果を表示する方法」(797 ページ)

リファレンス

「テスト結果のユーザ・インタフェース」(800 ページ)

概念

テスト結果の概要

テストの実行後、HP Application Lifecycle Management (ALM) で結果を表示できます。手動テストの結果は、テスト・インスタンス全体の成功または失敗ステータスとテスト・インスタンスの各ステップの成功または失敗ステータスで構成されます。自動テストで利用可能な結果は、テスト・タイプによって異なります。これらの結果は、アプリケーションで不具合が検出されたかどうかを判断するときに役立ちます。場合によっては、ステップが失敗したのは期待結果がもはや無効で、更新の必要があるためと結論することも考えられます。

手動テスト、自動テスト、システム・テストの実行後、テスト・インスタンスの結果とテストの一般的な情報を表示できます。テスト実行の詳細の表示、最新のテスト実行結果と前回の実行結果との比較、添付ファイルの管理、テスト実行の設定情報の表示、リンクが設定されている不具合の管理、テスト実行の変更履歴を表示できます。

グリッドに表示されているプロジェクトのすべての実行結果を表示して比較することもできます。グリッドをフィルタ処理して、定義した条件に一致するレコードだけを表示させることができます。

また、定期的に行うレポートとグラフを生成することによって、テスト・セットまたはプロジェクトのテスト実行全体の進行状況を分析できます。詳細については、「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ) を参照してください。

関連するタスクの詳細については、「テストの結果を表示する方法」(797 ページ) を参照してください。

タスク

テストの結果を表示する方法

このタスクでは、テスト結果を表示する方法について説明します。

テスト結果の詳細については、「テスト結果の概要」(796 ページ) を参照してください。

注: このタスクは、上位レベルのタスクの一環です。詳細については、「ALMでテストを実行する方法」(684 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「テスト・セットの結果の表示」(797 ページ)
- 「すべてのプロジェクト実行の結果の表示」(798 ページ)
- 「テスト・インスタンスの実行設定の表示と編集」(798 ページ)
- 「リンクされている不具合の管理」(799 ページ)
- 「テスト実行の削除 - 任意」(799 ページ)

1 テスト・セットの結果の表示

テストの実行後、テスト結果を分析して、失敗したテスト・セットのテスト・インスタンスおよび失敗の原因となったステップを特定します。

- a テスト・ラボ・モジュールの [テスト セット] タブで、テスト・セットを選択して **[実行グリッド]** タブをクリックします。

テストを選択して結果を、**[最後の実行レポート]** 表示枠に表示します。

Sprinter を使ったテスト実行では、**[Sprinter Results ビューアの起動]** ボタンをクリックして開き、Sprinter Results ビューアでレポートを表示します。詳細については、ビューアで **[ヘルプ]** ボタンをクリックしてください。

[実行グリッド] タブのユーザ・インタフェースの詳細については、「[実行グリッド] タブ」(723 ページ) を参照してください。

- b [実行グリッド] で、テスト・インスタンスをダブルクリックして実行結果の詳細を表示します。[テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、をクリックして「[テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックス」(801 ページ) を参照してください。

2 すべてのプロジェクト実行の結果の表示

グリッドに表示されたプロジェクトのすべての実行を表示できます。

- a テスト・ラボ・モジュールで、[**テスト実行**] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスト実行] タブ」(813 ページ) を参照してください。

グリッドに、条件に一致する実行だけが表示されるようにフィルタ処理と並べ替えを行います。たとえば、次の分類に従って表示するフィルタを定義できます。

現在実行中のテスト

失敗した実行

今月実行された実行

データのフィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。

- b 実行をダブルクリックすると、実行結果の詳細を表示します。[実行詳細] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[実行詳細] ダイアログ・ボックス」(816 ページ) を参照してください。

3 テスト・インスタンスの実行設定の表示と編集

手動または自動のテスト・インスタンスに対するテスト・パラメータの値を、表示または設定できます。このビューでは、自動テスト・インスタンスの失敗時のルールの表示および編集もできます。

- a 実行グリッドまたは実行フローの場合は、テストを右クリックし、[**テストインスタンスの詳細**] を選択します。
- b [テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの [**実行設定**] をクリックします。実行設定ビューのユーザ・インタフェースの詳細については、「[テストインスタンス詳細]-実行設定ビュー」(808 ページ) を参照してください。

4 リンクされている不具合の管理

テスト・インスタンス、テスト実行、テスト実行ステップの、リンクされている不具合の表示、追加、削除が行えます。[テスト・インスタンス詳細] ダイアログ・ボックス、[実行詳細] ダイアログ・ボックス、または [実行ステップ詳細] ダイアログ・ボックスで、サイドバー上の **[リンクされている不具合]** ボタンをクリックします。

不具合へのリンクのユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。

[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、をクリックして「[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックス」(801 ページ) を参照してください。

[実行詳細] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[実行詳細] ダイアログ・ボックス」(816 ページ) を参照してください。

[実行ステップ詳細] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[実行ステップ詳細] ダイアログ・ボックス」(819 ページ) を参照してください。

5 テスト実行の削除 - 任意

プロジェクトのテスト・セットから、古いテスト実行を削除できます。[実行の削除] ウィザードでは、削除する古い実行から、1 つ以上のテスト・セットを選択することができます。

次のいずれかを使用します。

[テストセット] タブで、**[テスト セット]** > **[実行の削除]** を選択します。

[テスト実行] タブで、**[テスト実行]** > **[実行の削除]** を選択します。

実行の削除ウィザードのユーザ・インタフェースの詳細については、「実行の削除ウィザード」(821 ページ) を参照してください。

リファレンス

テスト結果のユーザ・インタフェース

本項の内容

「[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックス」(801 ページ)

「[テスト実行] タブ」(813 ページ)

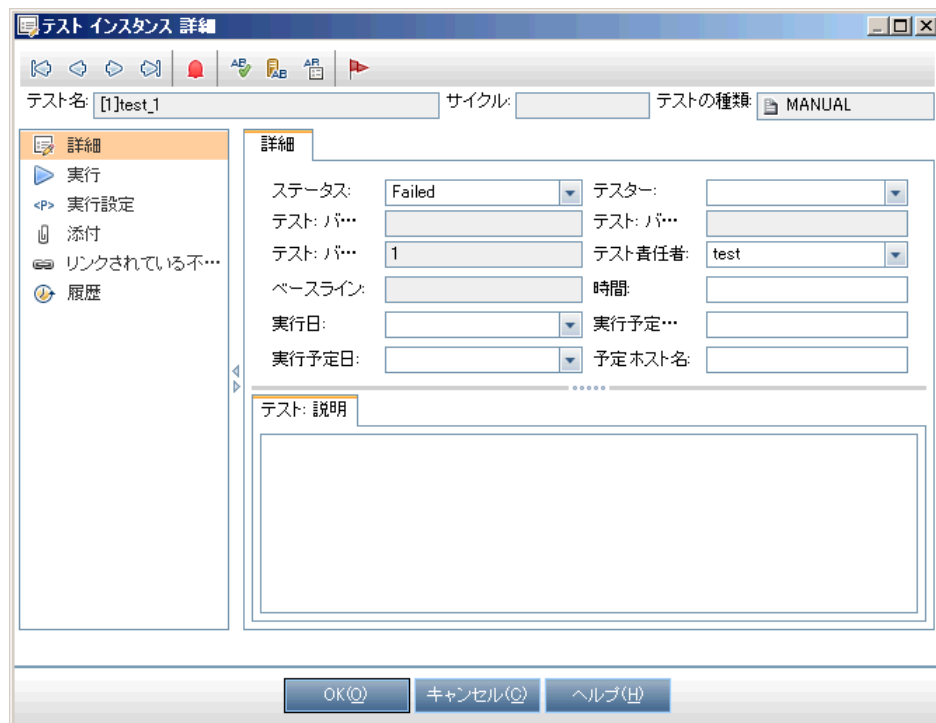
「[実行詳細] ダイアログ・ボックス」(816 ページ)

「[実行ステップ詳細] ダイアログ・ボックス」(819 ページ)

「実行の削除ウィザード」(821 ページ)

[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックス







このダイアログ・ボックスで、テスト・インスタンスの実行の詳細と実行結果を表示できます。テスト実行の構成情報を表示して設定することもできます。



アクセス方法	実行グリッドまたは実行フローの場合は、テストを右クリックし、 [テスト インスタンスの詳細] を選択します。
重要な情報	テスト情報を変更すると、変更した内容が [実行グリッド] に反映されます。 [詳細] タブの任意のフィールドのラベルを変更できます。また、[詳細] タブにユーザ定義フィールドを追加することもできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

関連タスク	「テストの結果を表示する方法」(797 ページ)
参照項目	「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) 「テスト結果の概要」(796 ページ) 「システム・テストの概要」(620 ページ)

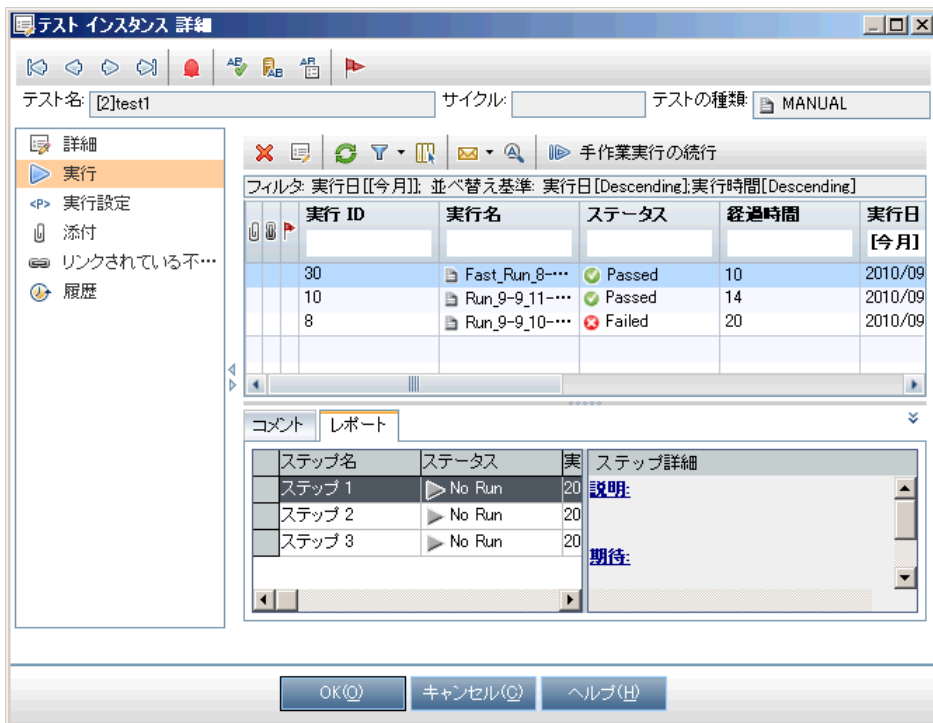
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[最初の/前の 次の/最後のエンティティ] : [実行グリッド] のテスト・インスタンスを通して表示できるようになります。 注 : この要素は、[実行グリッド] から [テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックスを開いた場合にのみ利用可能です。
	[フォローアップフラグ] : [フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・インスタンスのフォローアップ・フラグの定義を行えます。詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。
	[警告] : [警告] ダイアログ・ボックスが開きます。テスト・インスタンスの警告を表示できます。詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。
	[スペル チェック] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[スペル オプション] : ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。
	[類語辞典] : 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
[添付]	現在選択されているテスト・インスタンスに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
[詳細]	テスト・インスタンスの実行の詳細が表示されます。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) を参照してください。
[実行設定]	テスト・インスタンス実行の設定が表示されます。詳細については、「[テスト インスタンス詳細] - 実行設定ビュー」(808 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
【履歴】	現在選択されているテスト・インスタンスに行われた変更の一覧です。詳細については、「【履歴】タブ」(81 ページ)を参照してください。
【リンクされている不具合】	現在選択されているテスト・インスタンスにリンクされている不具合の一覧です。不具合のリンクを表示、追加、削除できます。詳細については、「【リンクされている不具合】ページと【リンクされているエンティティ】ページ」(866 ページ)を参照してください。
【実行】	テスト・インスタンスのすべての実行結果が表示されます。詳細については、「【テスト インスタンス詳細】 - 実行ビュー」(804 ページ)を参照してください。 グリッド内の実行をダブルクリックすると、実行結果の詳細が表示されます。









[テスト インスタンス詳細] - 実行ビュー

このビューでは、テスト実行の結果を前回の実行の結果と比較できます。選択したテスト・インスタンスのすべての実行に対して、実行の詳細とステップの結果を表示できます。

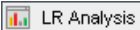
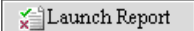


アクセス方法	[テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの [実行] をクリックします。
重要な情報	標準設定のフィルタ : 標準設定では、グリッドは現在のカレンダーの月のみ、日付の逆順（最近のものが最初）でテスト実行を表示するようにフィルタ処理されています。このフィルタをクリアするには、値「 今月 」を [実行日] フィールドからクリアします。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。
関連タスク	「テストの結果を表示する方法」(797 ページ)
参照項目	「[テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックス」(801 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

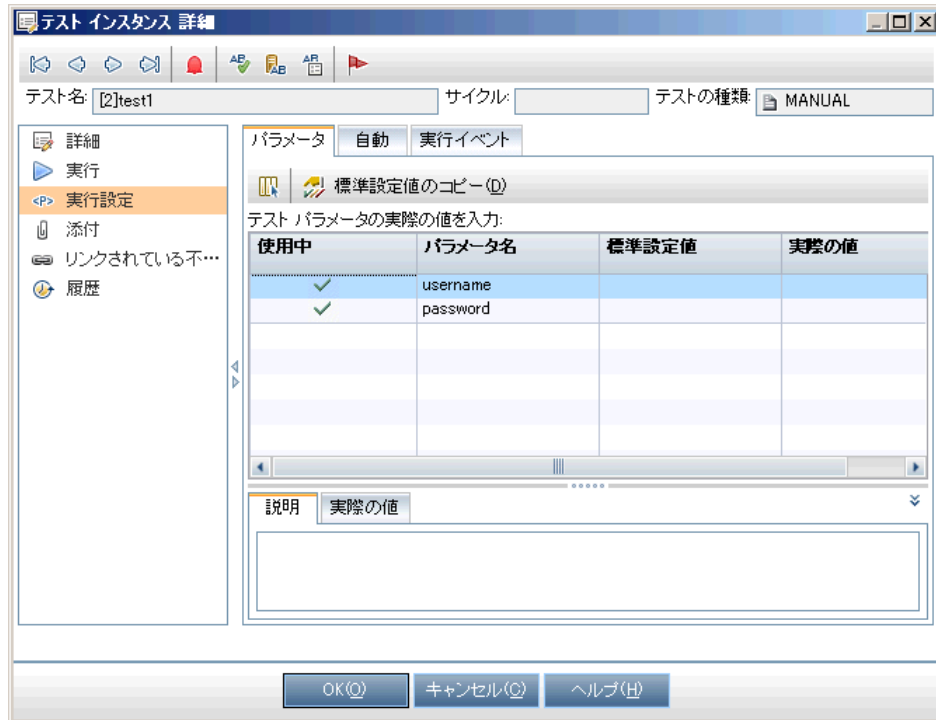
UI 要素	説明
	[削除]：選択した実行をグリッドから削除します。
	[詳細]：[実行詳細] ダイアログ・ボックスが開き、選択した実行の追加の詳細を表示して更新できます。詳細については、「[実行詳細] ダイアログ・ボックス」(816 ページ) を参照してください。
	[更新]：グリッドを更新して、選択したフィルタに基づいて最新の実行が表示されるようにします。
	[フィルタ]：実行レコードをフィルタ、ソート、またはグループ処理できます。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
	[カラムを選択]：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、表示するカラムとカラムを表示する順序を設定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
	[電子メールで送信]：[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先やテスト担当者の電子メール・アドレス宛に選択したテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。
	[テキスト検索]：ダイアログ・ボックスの下部にテキスト検索の表示枠が開き、定義済みフィールドのレコードを検索できます。詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ) を参照してください。
 手作業実行の続行	[手作業実行の続行]：手動テストの実行を再開します。詳細については、「テストを手作業で実行する方法」(763 ページ) を参照してください。

UI 要素	説明
<p><グリッド・フィルタ・ボックス></p>	<p>カラム名の下にあります。カラムに現在適用されているフィルタが表示されます。このフィルタ・ボックスが空の場合、現在カラムにはフィルタが適用されていません。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>
<p>[コメント]</p>	<p>現在選択されているテスト実行のコメントです。</p>
<p>[条件の結果]</p>	<p>特定の構成を使用して、選択したビジネス・プロセス・テスト・インスタンスの最後の実行における条件のステータスを表示します。</p> <p>Business Process Testing : テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[フィルタ]	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッドのすぐ上にあります。
[レポート]	<p>選択した実行の結果とテスト・ステップの詳細を表示します。</p> <p>自動テスト・インスタンスでは、以下のいずれかも含まれます。</p> <p> LR Analysis 結果が LoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。</p> <p> Launch Report QuickTest Professional でレポートが開き、表示されます。QUICKTEST_TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>HP Application Lifecycle Management Addin ページから QuickTest Professional アドインをインストールしている場合のみ、[レポートの起動] ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。</p> <p>収集されたシステム情報のリンク。 [システム情報] ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU、メモリ、マシンで実行中のプロセスなど、収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>キャプチャしたデスクトップ画像。 システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p>

[テスト インスタンス詳細] - 実行設定ビュー

このビューでは、手動テスト・インスタンスまたは自動テスト・インスタンスのテスト・パラメータ値の表示および設定を行うことができます。このビューでは、自動テスト・インスタンスの失敗時のルールの表示および編集もできます。





アクセス方法	[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックスで、サイドバーの [実行設定] をクリックします。
重要な情報	実行設定ビューには次のタブが表示されます。 「[パラメータ] タブ」(809 ページ) 「[自動] タブ」(810 ページ) 「[実行イベント] タブ」(810 ページ) Business Process Testing : 「[テストの反復] タブ」(811 ページ)
関連タスク	「テストの結果を表示する方法」(797 ページ)
参照項目	「[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックス」(801 ページ)

[パラメータ] タブ

このタブでは、手動テスト・インスタンスに対して実際のパラメータ値の表示または設定ができます。[パラメータ] タブには、実際の値をまだ割り当てられていない呼び出し先のテストのパラメータなど、テスト・ステップで使用されるすべてのテスト・パラメータが表示されます。テスト・インスタンスでパラメータに対して割り当てる実際の値は、テスト・インスタンスのすべてのテスト実行に使用されます。

参照項目	「テスト・パラメータの概要」(560 ページ)
------	-------------------------

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、表示するカラムとカラムを表示する順序を設定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
 標準設定値のコピー(D)	パラメータの標準設定値を、その実際の値として使用します。パラメータを選択して [標準設定値のコピー] ボタンをクリックします。
[実際の値]	テスト実行中にパラメータに使用される値です。 実際の値を追加または変更するには、 [実際の値] カラムに値を入力します。
[標準設定値]	選択したパラメータの標準設定値です。
[説明]	パラメータの説明です。
[パラメータ名]	パラメータの名前です。
[使用中]	選択したテスト・インスタンスの設計ステップにパラメータが含まれているかどうかを示します。

【自動】タブ

このタブでは、自動テスト・インスタンスに対してパラメータの値およびその他の構成オプションを設定できます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<自動テストの構成オプション>	実行する自動テストのタイプによっては、その他の設定オプションを使用できる場合があります。詳細については、該当する自動テストのユーザ・ガイドを参照してください。
[パラメータ値]	各パラメータの値を表示します。 [値] で、パラメータ値を編集できます。変更は次のテスト実行に適用されます。

【実行イベント】タブ

このタブでは、自動テスト・インスタンスの失敗時のルールを表示および編集ができます。

重要な情報	失敗時のルールを変更した場合、変更内容は次のテスト実行時に反映されます。
参照項目	テスト・セットに対して失敗時のルールの標準設定を設定するには、「[オートメーション] タブ」（726 ページ）を参照してください。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[再実行の前にテストをクリーンアップ]	クリーンアップ・テスト ALM は、選択したテストの各再実行の前に実行されます。






UI 要素	説明
[テストを再実行する最大回数]	失敗時に自動テストを再実行する回数を指定します。
[失敗時]	<p>テスト実行の失敗時に ALM が実行するアクションを指定します。オプションは次のとおりです。</p> <p>[何もしない]</p> <p>[テストセットを中止する]</p> <p>[テストの再実行] : [テストを再実行する最大回数] ボックスで指定した最大回数までテストを再実行します。</p>

[テストの反復] タブ

このタブでは、ビジネス・プロセス・テスト・インスタンスの各反復の各パラメータに対する実行時の値の表示および変更ができます。

重要な情報	このタブは、Business Process Testing でのみ利用可能です。
参照項目	詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 反復の追加	[反復の追加] : エンティティ (コンポーネント, グループ, テスト, またはフロー) に対して反復を追加します。
 反復の削除	[反復の削除] : エンティティ (コンポーネント, グループ, テスト, またはフロー) の選択した反復を削除します。
 反復を選択	[反復の選択] : [反復の選択] ダイアログ・ボックスが開きます。これにより、テスト実行中に実行する定義済み反復を選択できます。反復を 1 つ、すべて、または範囲で指定できます。
 インポート ...	[インポート] / [エクスポート] : 反復のコンポーネントのパラメータの値を .csv (カンマ区切り値) ファイルからインポート、およびコンポーネントのパラメータの値を .csv ファイルに保存できます。
 エクスポート ...	

UI 要素	説明
<p><実行時の値></p>	<p>入力パラメータの実行時の値です。関連するセルの矢印をクリックすると [値の設定] ダイアログ・ボックスが開き、実行時の値を変更できます。</p> <p>実行時の値を指定しない場合は、パラメータの標準設定値が使用されます。標準設定値が指定されない場合、値は表示されず、エンティティは正しく実行されない可能性があります。</p> <p>実行時の値は保存されて文字列として比較されますが、異なる値のタイプに従って指定できます。</p> <p>テストまたはフローのパラメータ（ビジネス・プロセス・テストまたはフローから値が取得されるパラメータ）は、{ } 括弧で表示されます。これは ALM に対して、パラメータを固定値ではなくパラメータとして扱うよう指示します。</p>
<p><パラメータ・カラム></p>	<p>表示された反復に、各パラメータの名前が表示されます。</p>
<p>反復 # カラム / 行</p>	<p>各反復の、各パラメータの現在の実行時の値を表示します。</p>
<p>[パラメータの説明]</p>	<p>パラメータとその元のソースのエンティティ（ビジネス・コンポーネント、テスト、またはフロー）です。</p> <p>パラメータの説明は、それらが作成されたモジュール（ビジネス・コンポーネント・モジュールまたはテスト計画モジュール）または自動コンポーネント用の QuickTest で、最初に作成されたものです。</p>
<p>[値のカラム]</p>	<p>表示された反復に、各パラメータの実行時の値が表示されます。</p>

[テスト実行] タブ

このタブでは、グリッドにあるプロジェクトのすべてのテスト実行を表示できます。



実行 ID	実行名	テスト:テスト名	設定:名前	ステータス	状態	経過時間
1	Run_1-27_14-...	Delete Order	Delete Order	Failed		186
2	Run_1-27_14-...	Create order	Create order	Passed		139
3	Run_1-27_14-...	Open order	Open order	Passed		80
4	Run_1-27_15-...	Update order	Update order	Passed		84
5	Run_1-27_15-...	Reservation_Test	Reservation_Test	Passed		54
6	Run_1-28_15-...	Departing And Ar...	Departing And Ar...	Failed		360
7	Run_1-28_15-...	Number Of Pass...	Number Of Pass...	Failed		847
8	Run_1-28_15-...	Trip Type	Trip Type	Failed		353
9	Fast_Run_1-3-...	Airline Preference	Airline Preference	Passed		0
10	Fast_Run_1-3-...	Departing Date	Departing Date	Passed		0
11	Run_1-30_12-...	Departing Date	Departing Date	Passed		27
12	Run_1-30_12-...	Departing Date	Departing Date	Failed		26
13	Run_1-30_13-...	Returning Date	Returning Date	Failed		18
15	Run_1-30_13-...	View Calendar	View Calendar	Failed		34
16	Fast_Run_1-3-...	View Calendar	View Calendar	Passed		0
17	Run_1-30_13-...	Service Class Pr...	Service Class Pr...	Passed		16
18	Run_1-30_13-...	Flight Time Pefe...	Flight Time Pefe...	Failed		50
19	Run_1-30_13-...	Range of Dates	Range of Dates	Failed		26
20	Run_1-30_13-...	Passenger Name	Passenger Name	Failed		21

アクセス方法	ALM サイドバーの、[テスト ラボ] を選択します。[テスト実行] タブをクリックします。
重要な情報	<p>Quality Center Starter Edition : リリース管理やベースライン設定に関するフィールドや機能は、テスト・ラボ・モジュールでは利用できません。</p> <p>標準設定のフィルタ : 標準設定では、グリッドは現在のカレンダーの月のみ、日付の逆順（最近のものが最初）でテスト実行を表示するようにフィルタ処理されています。このフィルタをクリアするには、値「今月」を [実行日] フィールドからクリアします。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	「テストの結果を表示する方法」(797 ページ)
参照項目	「テスト結果の概要」(796 ページ)

第 32 章・テスト結果

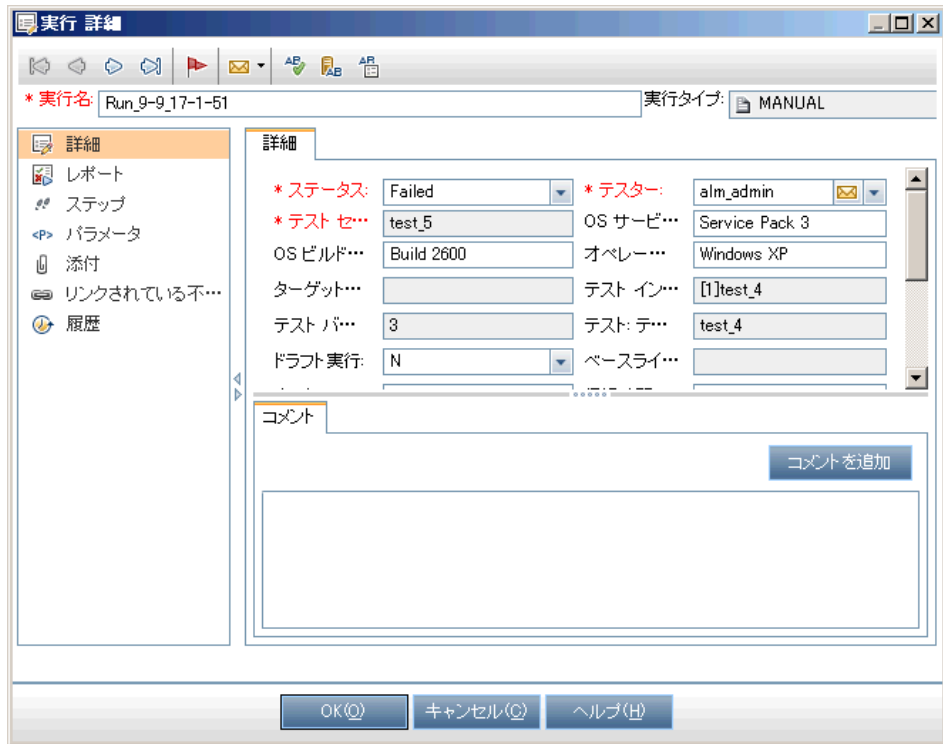
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<p><テスト・ラボ・モジュールの共通の UI 要素></p>	<p>[テストラボ] フィールド：フィールドの定義については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」（710 ページ）を参照してください。</p> <p>テスト・ラボのメニューとボタン。コマンドとボタンの説明については、「テスト・ラボ・モジュールのメニューとボタン」（692 ページ）を参照してください。</p> <p>テスト・ラボのアイコン。アイコンの説明については、「テスト・ラボ・モジュールのアイコン」（708 ページ）を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューとサイドバー。[ツール] メニュー，[ヘルプ] メニュー，サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」（40 ページ）を参照してください。</p>
<p><グリッド・フィルタ></p>	<p>各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスが表示され、カラムのフィルタ条件を定義できます。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして [参照] ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」（70 ページ）を参照してください。</p>
<p>⌵ ⌴</p>	<p>表示/非表示。ウィンドウの下部の表示枠に追加のタブを表示または非表示にします。</p>
<p>[添付]</p>	<p>現在選択されている実行に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」（86 ページ）を参照してください。</p>
<p>[コメント]</p>	<p>現在選択されているテスト実行のコメントです。</p> <p>テキスト・ボックス内をクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
<p>[条件の結果]</p>	<p>選択したビジネス・プロセス・テストの最後のテスト条件実行の結果を表示します。</p> <p>Business Process Testing：テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[フィルタ]	現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。グリッドのすぐ上にあります。
[履歴]	現在選択されている実行に行われた変更の一覧です。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。
[レポート]	<p>選択した実行の結果とテスト・ステップの詳細を表示します。</p> <p>Sprinter を使ったテスト実行では、[Sprinter Results ビューアの起動] ボタンをクリックして開き、Sprinter Results ビューアでレポートを表示します。詳細については、ビューアで [ヘルプ] ボタンをクリックしてください。ALM Editions : Sprinter の機能は Quality Center Starter Edition や Performance Center Edition では利用できません。</p> <p>自動テスト・インスタンスでは、以下のいずれかも含まれます。</p> <p> LR Analysis 結果が LoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。</p> <p> Launch Report QuickTest Professional でレポートが開き、表示されます。QUICKTEST_TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>HP Application Lifecycle Management Addin ページから QuickTest Professional アドインをインストールしている場合のみ、[レポートの起動] ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。</p> <p>収集されたシステム情報のリンク。 [システム情報] ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU、メモリ、マシンで実行中のプロセスなど、収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>キャプチャしたデスクトップ画像。 システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p>







🔑 [実行詳細] ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスは、テスト実行のテストとステップの詳細を表示します。



<p>アクセス方法</p>	<p>テスト・ラボ・モジュールで、次のいずれかを使用します。</p> <p>[テストセット] タブ: [テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックス - 実行ビューで、実行を右クリックして [詳細] を選択します。</p> <p>[テスト実行] タブ: 実行を右クリックして [詳細] を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>利用可能なボタンとオプションは、テスト・タイプまたはランナーによって異なります。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「テストの結果を表示する方法」(797 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ)</p> <p>「テスト結果の概要」(796 ページ)</p>

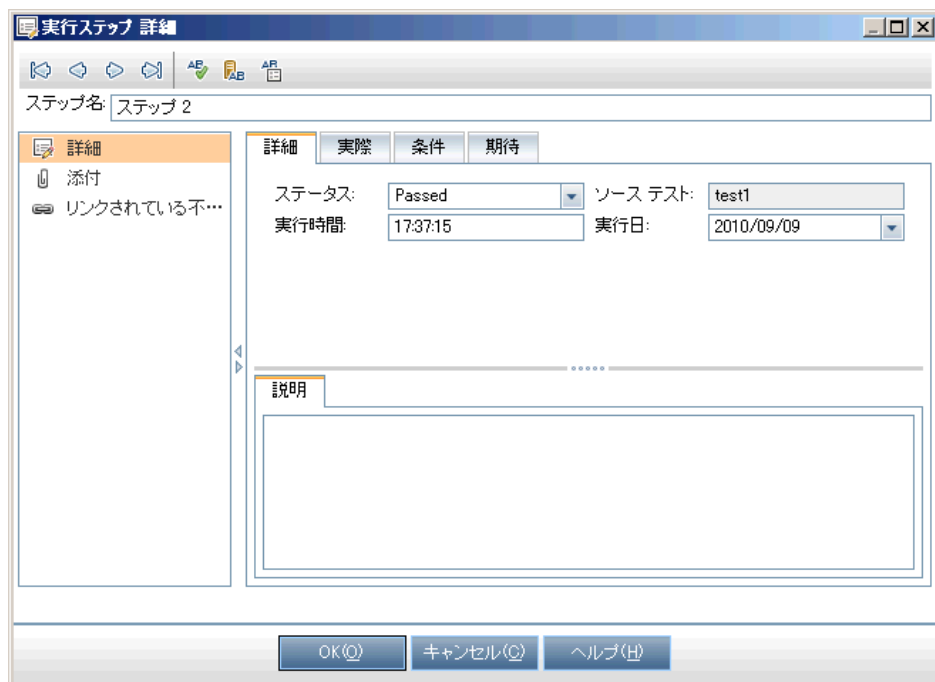
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	説明
	<p>最初の/前の 次の/最後のエンティティ。グリッドのテストを通して表示できるようになります。</p>
	<p>[フォローアップ フラグ] : [フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開きます。実行のフォローアップ・フラグの定義を行えます。詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[電子メールで送信] : [電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛にテスト実行を電子メールで送信できます。詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[スペル チェック] : 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[スペル オプション] : ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。</p>
	<p>[類語辞典] : 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。</p>
<p>[添付]</p>	<p>実行に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。</p>
<p>[条件の結果]</p>	<p>選択したビジネス・プロセス・テストの最後のテスト条件実行の結果を表示します。</p> <p>Business Process Testing : テスト条件に関連する機能は、ビジネス・プロセス・テストでのみ利用可能です。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<p>[詳細]</p>	<p>実行の詳細を表示します。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) を参照してください。</p> <p>[コメント] ボックス内をクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
<p>[履歴]</p>	<p>実行に加えられた変更の一覧が表示されます。詳細については、「[履歴] タブ」(81 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[リンクされている不具合]	<p>実行にリンクされている不具合の一覧です。不具合のリンクを表示、追加、削除できます。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。</p>
[パラメータ]	<p>テスト・ステップで使用される手動テストのパラメータを表示します。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) および「テスト計画モジュール・フィールド」(512 ページ) を参照してください。</p>
[レポート]	<p>実行の結果とテスト・ステップの詳細を表示します。</p> <p>自動テスト・インスタンスでは、以下のいずれかも含まれます。</p> <p> LR Analysis 結果が LoadRunner Analysis に表示されます。LR-SCENARIO テスト・タイプで利用できます。</p> <p> Launch Report QuickTest Professional でレポートが開き、表示されます。QUICKTEST_TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>HP Application Lifecycle Management Addin ページから QuickTest Professional アドインをインストールしている場合のみ、[レポートの起動] ボタンが有効になります。アドインのインストールの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。</p> <p>収集されたシステム情報のリンク。 [システム情報] ダイアログ・ボックスが開きます。テストの実行時に CPU, メモリ, マシンで実行中のプロセスなど、収集したシステム情報が表示されます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p> <p>キャプチャしたデスクトップ画像。 システム・テストを実行しているマシンのキャプチャした画像が開きます。SYSTEM-TEST テスト・タイプで利用できます。</p>
[ステップ]	<p>実行のテスト・ステップの詳細と結果を表示します。グリッド内のステップをダブルクリックすると、ステップの結果の詳細が表示されます。詳細については、「[実行ステップ詳細] ダイアログ・ボックス」(819 ページ) を参照してください。</p> <p>注: 使用できないテスト・タイプまたはランナーもあります。</p>





[実行ステップ詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスは、実行のテスト・ステップの詳細を表示します。



アクセス方法	[実行の詳細] ダイアログ・ボックス - [ステップ] ビューで、ステップを選択して [詳細] ボタン  をクリックします。
重要な情報	このダイアログ・ボックスを使用できないテスト・タイプまたはランナーもあります。
関連タスク	「テストの結果を表示する方法」(797 ページ)
参照項目	「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ) 「テスト結果の概要」(796 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[最初の/前の 次の/最後のエンティティ]：実行のステップを通して表示できるようになります。</p>
	<p>[スペル チェック]：選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。</p>
	<p>[スペル オプション]：ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。</p>
	<p>[類語辞典]：選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。</p>
<p>[添付]</p>	<p>ステップに関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。</p>
<p>[詳細]</p>	<p>ステップの詳細を表示します。使用できるフィールドの詳細については、「テスト・ラボ・モジュールのフィールド」(710 ページ)を参照してください。</p> <p>[説明] ボックス内をクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p> <p>その他のタブをクリックして、期待の結果と実際の結果のような、ステップの詳細を表示します。</p>
<p>[リンクされている不具合]</p>	<p>ステップにリンクされている不具合の一覧です。不具合のリンクを表示、追加、削除できます。詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ)を参照してください。</p>

実行の削除ウィザード

このウィザードでは、プロジェクトの古いテスト実行結果を削除できます。



アクセス方法	<p>テスト・ラボ・モジュールで、次のいずれかを使用します。</p> <p>[テスト セット] タブで、[テスト セット] > [実行の削除] を選択します。</p> <p>[テスト実行] タブで、[テスト実行] > [実行の削除] を選択します。</p>
関連タスク	「テスト・セットを作成する方法」(718 ページ)
ウィザード・マップ	<p>このウィザードには次のものが含まれます。</p> <p>[削除するテスト ステップの選択] ページ > [削除タイプの選択] ページ > [削除リクエストの確認]</p>
参照項目	<p>「テスト結果の概要」(796 ページ)</p> <p>「テスト・ラボ・モジュールのウィンドウ」(689 ページ)</p>


[削除するテストステップの選択] ページ

このウィザードのページでは、削除するテスト・セットを選択できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については、次を参照してください。「実行の削除ウィザード」(821 ページ)
ウィザード・マップ	実行の削除ウィザードには次のものが含まれます。 [削除するテストステップの選択] ページ > [削除タイプの選択] ページ > [削除リクエストの確認]
参照項目	「テスト結果の概要」(796 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
> <	選択したテスト・セットを [利用可能なテストセット] と [選択したテストセット] の間で移動します。 ヒント: 表示枠と表示枠の間でテスト・セット名をドラッグするか、テスト・セット名をダブルクリックして別の表示枠に移動することができます。
>> <<	すべてのテスト・セットを [利用可能なテストセット] と [選択したテストセット] の間で移動します。
[利用可能なテスト・セット]	プロジェクト内の、現在削除対象として選択されていないテスト・セットを一覧表示します。
[選択したテスト・セット]	削除対象として選択したテスト・セットを一覧表示します。


【削除タイプの選択】 ページ

このウィザード・ページでは、削除タイプを選択して削除条件を定義できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については、次を参照してください。「実行の削除ウィザード」(821 ページ)
ウィザード・マップ	実行の削除ウィザードには次のものが含まれます。 [削除するテストステップの選択] ページ > 【削除タイプの選択】 ページ > [削除リクエストの確認]
参照項目	「テスト結果の概要」(796 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
削除	次のオプションがあります。 [実行] : テスト実行結果を削除します。 [実行ステップのみ] : 実行ステップを削除しますが、実行の詳細全体は残します。
【次以前の実行から】	その時点以前の、選択した実行データを削除する時点です。
【維持するテストごとの実行数】	各テストについて保存しておくテスト実行結果の数を選択します。
【ドラフト実行のみを削除】	ドラフト実行 としてマークされた実行のみを削除します。ドラフト実行の詳細については、「ドラフト実行」(683 ページ)を参照してください。

 **【削除リクエストの確認】**

このウィザードでは、削除の要求と確認のサマリを確認できます。

重要な情報	このウィザードの全般情報については、次を参照してください。「実行の削除ウィザード」(821 ページ)
ウィザード・マップ	実行の削除ウィザードには次のものが含まれます。 [削除するテスト ステップの選択] ページ > [削除タイプの選択] ページ > 【削除リクエストの確認】
参照項目	「テスト結果の概要」(796 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
<要求の詳細の範囲>	削除の判断をした対象について要約します。
終了	選択に基づいてテスト実行結果を削除します。

第 VI 部

不具合

第 33 章

不具合の追跡

本章の内容

概念

「不具合追跡の概要」(828 ページ)

タスク

「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)

「不具合の検索方法」(840 ページ)

「不具合を ALM エンティティまたは他の不具合にリンクする方法」(841 ページ)

リファレンス

「不具合のユーザ・インタフェース」(845 ページ)

概念

不具合追跡の概要

アプリケーションの不具合を効率よく探し出し修正することは、開発プロセスでは非常に重要です。アプリケーション管理プロセスのあらゆる段階で HP Application Lifecycle Management (ALM) の不具合モジュールを使用することにより、アプリケーションの設計上の問題点を報告し、不具合レコードから得られるデータを追跡できます。

不具合モジュールには、次のような機能があります。

ALM プロジェクト用にアプリケーションの不具合を作成します。

アプリケーションの開発担当者やテスト担当者が不具合を解決済みと判断するまでの間、不具合を追跡します。

不具合レコードは、チームのほかのメンバによって検出された新しい不具合の存在を、アプリケーション開発チームと品質保証チームのメンバに伝えます。不具合の修正の進行状況を監視しながら、ALM プロジェクトの情報を更新します。

不具合は、複数の ALM プロジェクト間で共有できます。不具合の共有や同期化には HP Quality Center Synchronizer を使用します。詳細については、HP Application Lifecycle Management Addin ページからアクセスできる『HP Quality Center Synchronizer ユーザ・ガイド』を参照してください。

ALM Editions : Quality Center Starter Edition または Quality Center Enterprise Edition では、複数の ALM プロジェクト間で不具合を共有できません。

また、「不具合のリンク」(829 ページ) も参照してください。

不具合の操作方法の詳細については、「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ) を参照してください。

不具合のリンク

不具合は、要件、ビジネス、テスト、テスト・セット、ビジネス・プロセス・テスト、フロー、テスト・インスタンス、実行、実行ステップ、ほかの不具合といった ALM エンティティにリンクできます。

不具合のリンクは、たとえば次のような場合に便利です。

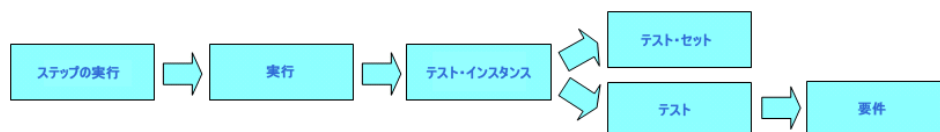
ある不具合のためにテストを新規作成します。テストと不具合の間にリンクを作成することによって、不具合のステータスに基づいてテストを実行するかどうかを決定できます。

手動テストの実行中に不具合を追加すると、テスト実行と新しい不具合の間に自動的にリンクが作成されます。

不具合は、ほかの不具合またはエンティティに直接リンクできます。エンティティに不具合のリンクを追加すると、このエンティティには直接リンク、関連エンティティには間接リンクが追加されます。

間接的なリンクは、一方方向のフローです。つまり ALM は、高いレベルの関連エンティティのみに間接リンクを追加します。

次の図は、不具合が実行ステップにリンクされている場合に ALM が作成する間接リンクを示しています。



例：

テスト実行に不具合をリンクするには、次の手順で行います。

不具合は、実行、実行のテスト・インスタンス、テスト・セット、テストに対して間接的にリンクされます。

テストが要件によってカバーされている場合は、要件にも間接リンクが追加されます。

実行ステップは低レベルの関連エンティティなので、不具合が実行ステップに間接的にリンクされることはありません。

注：削除できるのは、エンティティから不具合への直接リンクのみです。

不具合の詳細については、「不具合追跡の概要」(828 ページ)を参照してください。

タスク

ALM での不具合の追跡方法

このタスクでは、開発プロセス中にアプリケーションの不具合を追跡する方法について説明します。

不具合の詳細については、「不具合追跡の概要」(828 ページ) を参照してください。


ヒント: このタスクに関連するユースケース・シナリオについては、「不具合の追跡 - ユースケース・シナリオ」(833 ページ) を参照してください。

注: このタスクは、上位タスクの一部です。詳細については、「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ) を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「不具合の作成」(832 ページ)
- 「不具合のインポート - オプション」(832 ページ)
- 「不具合の検索」(832 ページ)
- 「不具合と他のエンティティのリンク」(832 ページ)
- 「不具合の割り当て、修正、更新」(832 ページ)
- 「不具合の分析」(833 ページ)

1 不具合の作成

- a ALM サイドバーの「**不具合**」を選択します。
- b 不具合グリッド・ツールバーの  **新規不具合...** ボタンをクリックします。[新規不具合] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。[新規不具合] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(858 ページ) を参照してください。

2 不具合のインポート - オプション

不具合は、ALM で直接作成するほかに、Microsoft Word または Microsoft Excel で ALM プロジェクトにインポートすることができます。不具合をインポートするには、まず適切なアドインをインストールする必要があります。アドインの詳細については、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

3 不具合と他のエンティティのリンク

不具合は、要件、テスト、テスト・セット、テスト・インスタンス、実行、実行ステップ、ほかの不具合にリンクできます。

タスクの詳細については、「不具合を ALM エンティティまたは他の不具合にリンクする方法」(841 ページ) を参照してください。

4 不具合の検索

不具合モジュールでは、次の方法で不具合を検索できます。

不具合グリッド。たとえば、特定の問題に関連している不具合の検索や、不具合の変更を行います。

[新規不具合] ダイアログ・ボックス。たとえば、重複した不具合を作成しないようにチェックします。

タスクの詳細については、「不具合の検索方法」(840 ページ) を参照してください。

5 不具合の割り当て、修正、更新

プロジェクト内の不具合は定期的にレビューし、修正するものを選択して、ステータス、ターゲット・リリース、ターゲット・サイクル、その他フィールドを変更します。

不具合モジュールで、不具合グリッドの不具合をダブルクリックします。[不具合詳細] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。[不具合詳細] ダイアログ・ボックスのユーザ・インタフェースの詳細については、「[不具合詳細] ダイアログ・ボックス」(860 ページ) を参照してください。

たとえば、次のような操作を実行できます。

修正候補の不具合のステータスを [オープン] に変更し、この不具合を開発チームのメンバに割り当てます。

[ターゲット リリース] フィールドで、未解決の不具合を修正予定のリリースに割り当てます。[ターゲット サイクル] フィールドで、不具合を終了予定のサイクルに割り当てます。

未解決の不具合を修正します。修正作業には、不具合の原因の特定とアプリケーションの変更および再ビルド、テストの再実行が含まれます。たとえば、不具合が再度発生しなかった場合は、[クローズ済み] というステータスを割り当てます。再度発生した場合は、[オープン] というステータスをもう一度割り当てることができます。不具合を修正したら、ステータスを [修正済み] にします。

6 不具合の分析

グラフとレポートを作成して不具合データを分析します。

次のいずれかを実行します。

不具合データをグラフで表示: 不具合モジュールのメニューから [アナリシス] > [グラフ] を選択します。グラフの生成のタスク詳細については、「グラフを生成する方法」(900 ページ) を参照してください。

不具合データのレポートを作成: 不具合モジュールのメニューから [アナリシス] > [レポート] を選択します。レポートの生成のタスク詳細については、「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ) を参照してください。

ALM で提供されているその他のアナリシス・ツールについては、「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ) を参照してください。

不具合の追跡 - ユースケース・シナリオ

このユースケース・シナリオでは、不具合追跡のワークフローについて説明します。

注: このシナリオに関連する作業については、「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ) を参照してください。

このシナリオは次のステップで構成されています。

「不具合の作成」(834 ページ)

「重複する不具合の検索」(836 ページ)

「不具合と他のエンティティのリンク」(837 ページ)

「新しいアプリケーション・ビルドのテストでの不具合の割り当てと修正」
(837 ページ)

「不具合の分析」(838 ページ)

1 不具合の作成

航空券予約アプリケーションを開発しているとします。4 か月以内にバージョン 10.5 をリリースすることを計画しています。このリリースには、**サイクル 1**、**サイクル 2**、**サイクル 3**、**サイクル 4** という 4 つのサイクルが含まれています。開発プロセスの間、各サイクルで不具合を追跡および修正する必要があります。

不具合を作成すると、一意の不具合 ID と **[New]** というステータスが自動的に割り当てられます。

ヒント：

アプリケーションで不具合が検出されると、通常の場合、最初の時点では不具合のサマリ、説明、カテゴリ、重要度など基本的な情報しかわかりません。したがって、不具合を追跡していく過程で不具合を編集します。

不具合は、検出されたサイクルおよびリリースに関連付けることができます。リリースとサイクルの詳細については、「ALM でのリリースおよびサイクルの使用方法」(154 ページ)を参照してください。

不具合サマリは、後で検索しやすくなるような関連性が高く具体的なキーワードを選び、短くまとめてください。たとえば、サマリに「**パスワードが空白文字の問題**」と指定するだけでは、有効な検索結果を得ることができません。この場合は、「**ユーザ・プロフィールの登録でパスワードが空白文字**」と指定する方がよいでしょう。

Mercury Tours Functionality テスト・セットで **Password** テストを実行した後、パスワードが指定されていないにもかかわらずユーザ・プロファイルが登録されていたことに気づいたとします。不具合の新規作成では、次のような基本情報を指定できます。

新規不具合

* サマリ:

詳細

* 検出者:	alm_admin	* 検出日:	2010/09/09
* 重要度:		サブジェクト:	
ステータス:	New	ターゲット サ...	
ターゲット リリ...		プロジェクト:	
検出サイクル:		検出されたバ...	
検出リリース:		更新日時:	
再現可能:	Y	実際の修正...	
終了バージョン:		終了日:	

説明:

送信 閉じる ヘルプ(H)

[検出リリース] フィールドに「**Release 10.5**」リリース, [検出サイクル] フィールドに「**サイクル 1**」サイクルを指定し, [送信] をクリックします。

2 重複する不具合の検索

たとえば、数名の QA テスト担当者が同じアプリケーションのテストを行っているとして、不具合が重複しないようにするには、類似した不具合を検索することを習慣にすることをお勧めします。

不具合グリッドで、[類似した不具合の検索]  ボタンをクリックし、[類似したテキストの検索] を選択します。[類似の不具合] 表示枠が開きます。

不具合 ID	サマリ	説明	コメント

次の図は、パスワードの問題に関連した不具合をすべて確認するために、「Password」という文字列を検索しています。結果の類似性を 10 パーセント以上に限定すると、検索によって次のような結果が返されます。

不具合 ID	サマリ	説明
2	User Name and Password fields have a differ...	Test Set: Mercurv Tours UI Test: [1>Welcome Page Run: Run
1	Password is empty	Test Set: Mercury Tours Functionality Test: [1>Password Run:

項目 2 / 2

注：100 パーセントに設定すると、「Password」という 1 語にマッチする不具合は存在しないため、結果は返されません。

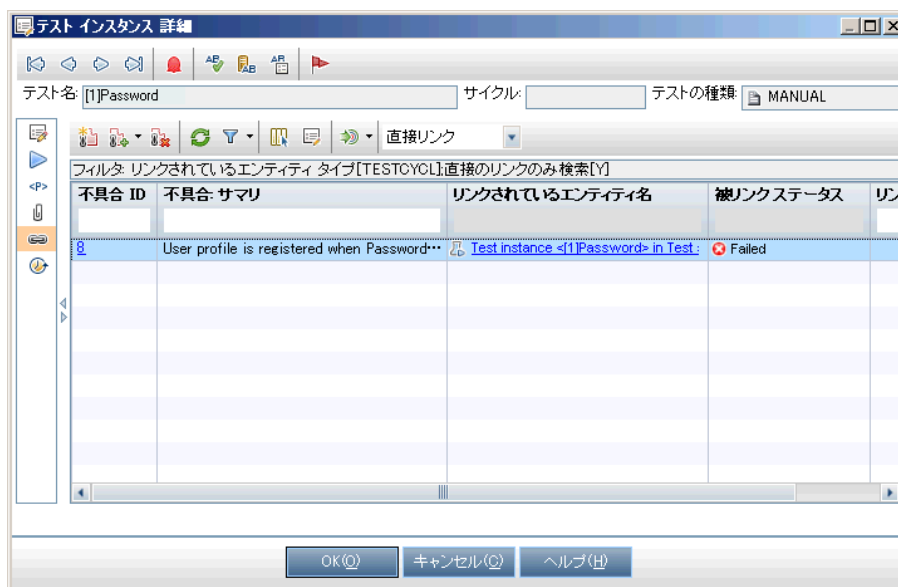
この例では、類似した不具合リストには重複した不具合は存在しません。

プロジェクトに重複する不具合が見つかった場合は、ステータスを「**クローズ済み**」または「**却下**」に変更するか、プロジェクトから削除します。

3 不具合と他のエンティティのリンク

不具合が見つかったテスト・インスタンスに、その不具合をリンクする場合を考えてみましょう。

次の例では、テスト・ラボ・モジュールで、[テストインスタンス詳細] ダイアログ・ボックスの [リンクされている不具合] タブを使って不具合をリンクする方法を示しています。



4 新しいアプリケーション・ビルドのテストでの不具合の割り当てと修正

次の例では、不具合の割り当て、修正、追跡を行うワークフローを示しています。

品質保証マネージャまたはプロジェクト・マネージャは不具合をレビューし、修正の優先順位を決定して、ステータスを「**オープン**」に変更し、開発チームのメンバに割り当てます。

次のサイクルで不具合を修正する予定の場合、マネージャは [ターゲット リリース] フィールドと [ターゲット サイクル] フィールドに、たとえば「**Release 10.5**」と「**サイクル 2**」をそれぞれ指定します。

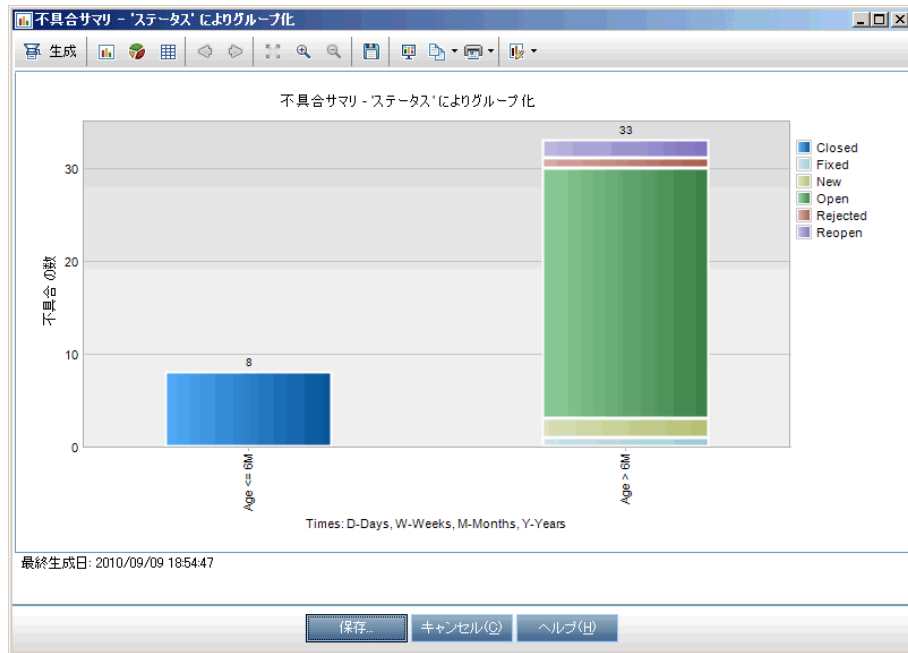
開発担当者は、新しいアプリケーション・ビルドの不具合を修正した後、ステータスを [修正済み] に変更します。アプリケーションを再テストし、不具合が再発しないことを確認します。品質保証マネージャまたはプロジェクト・マネージャは、不具合が実際に修正されたことを確認し、[クローズ済み] というステータスを割り当てます。

上記のプロセスの過程で、マネージャまたは開発担当者はコメントを追加し、不具合に関する情報を電子メールで送信することができます。

5 不具合の分析

不具合モジュールでは各種レポートやグラフが提供されており、不具合や不具合の修正率の分析に活用できます。

次のグラフは、不具合を経過時間ごとにまとめて表示しています。



次のレポートは、現在のユーザ（この例では **peter_alm**）が報告した不具合を一覧表示しています。

現在のユーザに割り当てられた開始不具合

生成 1 - 5 / [8]

不具合 レポート

Filter: Status["Open" OR "Reopen"];Assigned To[[CurrentUser]]; Sort By: Priority [Descending];Defect ID[Ascending]

Defect ID (17) - The itinerary is booked when Credit Card Number field contains illegal values

Defect ID: 17	Summary: The itinerary is booked when Credit Card Number field contains illegal values
Status: Open	Detected By: alice_alm (Alice)
Severity: 4-Very High	Assigned To: peter_alm ()
Priority: 4-Very High	

Description:

Test Set: Mercury Tours Functionality
 Test: [1]Credit Card Number
 Run: Run_9-10_10-43-47
 Step: Step 2: Zero

Description:
 1. Type 16 digits in the Credit Card Number field. All digits must be 0 (zero).
 2. Click the Secure Purchase button.
 3. Check the results on the next page.

最終生成日: 2010/09/09 19:10:22

保存... キャンセル(C) ヘルプ(H)

不具合の検索方法

次のステップでは、不具合を検索する方法を説明します。


「不具合を新規作成する際に不具合を検索」(840 ページ)

「不具合グリッドで不具合を検索」(841 ページ)


不具合を新規作成する際に不具合を検索

不具合を新規作成するときには、不具合を重複して作成しないように、類似した不具合がないか検索します。

作成しようとしている不具合に類似した不具合を検索するには、次の手順で行います。

- 1 [新規不具合] ダイアログ・ボックスで、[サマリ] フィールドと [説明] フィールドに情報を入力します。
- 2 [類似した不具合の検索]  ボタンをクリックし、[類似した不具合の検索] を選択します。[類似の不具合] ダイアログ・ボックスが開き、現在の不具合に類似した不具合が一覧表示されます。

テキスト文字列に類似した不具合を検索するには、次の手順で行います。


- 1 [新規不具合] ダイアログ・ボックスで [類似した不具合の検索]  ボタンをクリックし、[類似したテキストの検索] を選択します。[類似の不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。
- 2 ツールバーの [検索対象] フィールドにテキスト文字列を入力します。
- 3 [近接 %] フィールドにパーセンテージを入力します。検索結果を絞り込むには、大きな値を指定します。検索結果を広げるには、小さな値を指定します。
- 4 ツールバーの [検索] ボタンをクリックします。テキスト文字列に一致する不具合が一覧表示されます。

ユーザ・インターフェースの詳細については、「[類似の不具合] ダイアログ・ボックス/表示枠」(863 ページ) を参照してください。


不具合グリッドで不具合を検索

不具合グリッドでは、いつでも不具合を検索できます。この機能は、たとえば特定の問題に関連している不具合を検索する場合や不具合を変更する場合に使用します。

グリッドで選択している不具合に類似した不具合を検索するには、次の手順で行います。

不具合グリッドで、[類似した不具合の検索]  ボタンをクリックし、[類似した不具合の検索] を選択します。[類似の不具合] 表示枠が開き、現在の不具合に類似した不具合が一覧表示されます。

テキスト文字列に類似した不具合を検索するには、次の手順で行います。

- 1 不具合グリッドで、[類似した不具合の検索]  ボタンをクリックし、[類似したテキストの検索] を選択します。[類似の不具合] 表示枠が開きます。
- 2 ツールバーの [検索対象] フィールドにテキスト文字列を入力します。
- 3 [近接 %] フィールドにパーセンテージを入力します。検索結果を絞り込むには、大きな値を指定します。検索結果を広げるには、小さな値を指定します。
- 4 ツールバーの [検索] ボタンをクリックします。テキスト文字列に一致する不具合が一覧表示されます。

ユーザ・インターフェースの詳細については、「[類似の不具合] ダイアログ・ボックス/表示枠」(863 ページ) を参照してください。

不具合を ALM エンティティまたは他の不具合にリンクする方法

次の手順では、不具合を ALM エンティティ (要件, テスト, テスト・セット, テスト・インスタンス, 実行, 実行ステップ, 他の不具合) にリンクする方法について説明します。

[リンクされている不具合] タブまたはダイアログ・ボックスにアクセス
(842 ページ)

「不具合をリンク」(843 ページ)

「結果表示」(844 ページ)

1 [リンクされている不具合] タブまたはダイアログ・ボックスにアクセス

不具合を別の不具合または別の ALM エンティティにリンクする操作は、各種モジュールから実行できます。

関連モジュールにアクセスするには、次の手順で行います。

不具合を別の不具合にリンク：不具合モジュールのサイドバーにある [リンクされている不具合] で、[不具合] タブをクリックします。

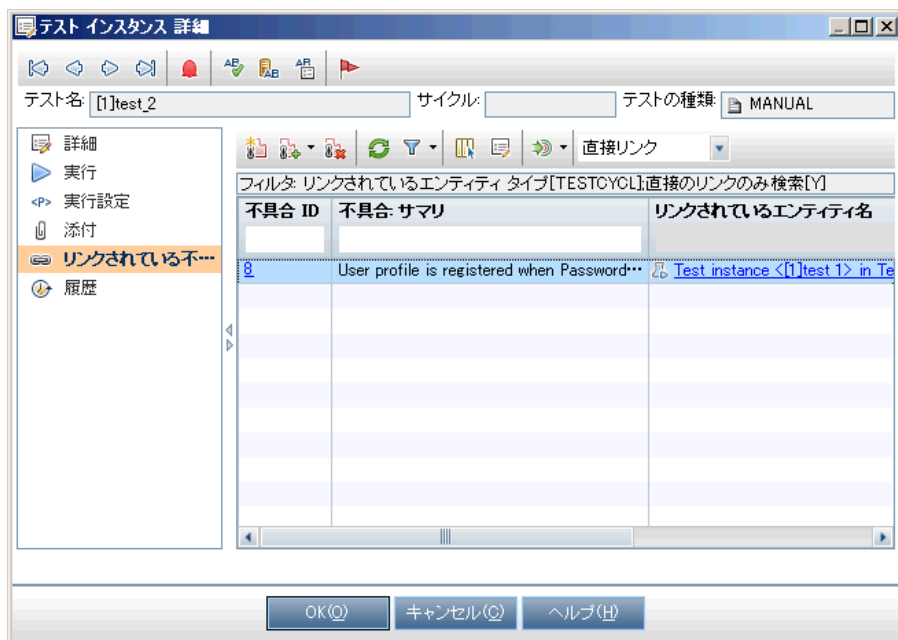
不具合を別の ALM エンティティにリンク：不具合にリンクするエンティティのモジュールから、[リンクされている不具合] タブまたはダイアログ・ボックスにアクセスします。

例：

この例では、要件モジュールの要件の詳細ビューで [リンクされている不具合] タブにアクセスしています。

不具合 ID	不具合 サマリ	リンクされてい…	被リンクス…	リンクのコメント


この例では、[テスト インスタンス詳細] ダイアログ・ボックスから、サイドバーの [リンクされている不具合] を選択しています。




アクセス情報とユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。

2 不具合をリンク

次のいずれかを行います。

新しい不具合を追加：ツールバーの [不具合の追加とリンク]  ボタンを選択して、リンクする不具合を作成します。

既存の不具合を選択：ツールバーの [既存の不具合にリンク]  ボタンで次のいずれかを選択し、リンクする不具合を選択します。


[ID で]：不具合 ID を入力します。












[選択]：既存の不具合のリストから選択します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。

3 結果表示

結果は、不具合からリンクされているエンティティを表示することも、エンティティからリンクされている不具合を表示することもできます。

グリッド・ビューでは、エンティティを不具合にリンクすると、**リンクされている不具合**  アイコンがエンティティに表示されます。

				設定: 名前	テスト: テスト名	タイプ	ステータス	反復
				[1]test_1	 test_1	MANUAL	 Failed	
				[1]test_2	 test_1	MANUAL	 Not Completed	
				[1]test_3	 test_2	MANUAL	 Passed	

リファンレンス

不具合のユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「不具合モジュール・ウィンドウ」(846 ページ)
- 「不具合モジュールのメニューおよびボタン」(848 ページ)
- 「不具合モジュールのアイコン」(854 ページ)
- 「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ)
- 「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(858 ページ)
- 「[不具合詳細] ダイアログ・ボックス」(860 ページ)
- 「[類似の不具合] ダイアログ・ボックス/表示枠」(863 ページ)
- 「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ)

🔍 不具合モジュール・ウィンドウ


このウィンドウでは、ALM の不具合の定義と保守を行います。ALM では、不具合グリッドに不具合データが整理された状態で表示されます。

The screenshot shows the ALM Defect Module interface. At the top, there is a menu bar with options: 不具合 (Defect), 編集 (Edit), 表示 (View), お気に入り (Favorites), and アナリシス (Analysis). Below the menu is a toolbar with icons for creating new defects, deleting, refreshing, and other actions. The main area is a table with columns: 不具合 ID (Defect ID), サマリ (Summary), サブジェクト (Subject), 責任者 (Assignee), and 重要度 (Priority). The table contains 7 rows of defect data. Below the table, there is a section for the selected defect (ID 1) with tabs for 説明 (Description), 添付 (Attachments), リンクされたエンティティ (Linked Entities), and 履歴 (History). The 説明 tab is active, showing the defect summary: '* サマリ: The list of flights is given even when past date set as departing date'. Below this, there is a '説明' (Description) field containing test details and a 'コメント' (Comments) field with a 'コメントを追加' (Add Comment) button.

不具合 ID	サマリ	サブジェクト	責任者	重要度
1	The list of flights is given even when past date set...	Flight Finder	james_alm	3-High
2	The list of available flights is not given when depar...	Flight Finder	james_alm	5-Urgent
3	The list of flights is given when departing date alte...	Flight Finder	james_alm	3-High
4	Nothing happened when clicking View Calendar link	Flight Finder	james_alm	5-Urgent
5	The list of flights is displayed when an illegal date i...	Flight Finder	james_alm	2-Medium
6	If there is an error when submitting the registration...	Registration	mary_alm	2-Medium
7	Incorrect time format used in Mercuru Tours site	Flint Reservation	netec_alm	3-Hinh

アクセス方法	ALM サイドバーの [不具合] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : 不具合モジュールでは、一部のリリース管理フィールドおよび機能が使用できません。
該当タスク	「ALM での不具合の追跡方法」 (831 ページ)
参照項目	「不具合追跡の概要」 (828 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<p><不具合モジュール 共通 UI 要素></p>	<p>不具合フィールド：フィールドの定義については、「不具合モジュールのフィールド」（855 ページ）を参照してください。</p> <p>不具合のメニューおよびボタン：コマンドおよびボタンの説明については、「不具合モジュールのメニューおよびボタン」（848 ページ）を参照してください。</p> <p>不具合アイコン：アイコンの説明については、「不具合モジュールのアイコン」（854 ページ）を参照してください。</p> <p>ALM の主要なメニューとサイドバー：[ツール] メニュー，[ヘルプ] メニュー，サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」（40 ページ）を参照してください。</p>
<p><グリッド・フィルタ></p> <p>責任者 alm_admin</p>	<p>各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスを表示し、カラムのフィルタ条件を定義できます。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして参照用ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」（70 ページ）を参照してください。</p>
<p>< [類似した不具合] 表示枠></p>	<p>不具合グリッドから、類似した不具合があるか確認できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[類似の不具合] ダイアログ・ボックス/表示枠」（863 ページ）を参照してください。</p> <p>使用の条件：不具合グリッドで [類似した不具合の検索]  ボタンを選択した後。</p>
<p>[添付] タブ</p>	<p>現在選択されている不具合に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[添付] ページ」（86 ページ）を参照してください。</p>
<p>[説明] タブ</p>	<p>現在選択されている不具合についての説明が表示されます。</p> <p>このタブの [説明] ボックスまたは [コメント] ボックス内をクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのツールバーが表示されます。</p>
<p>[フィルタ]</p>	<p>現在グリッド適用されているフィルタについて説明します。ツリーのすぐ下にあります。</p>

UI 要素	説明
【履歴】 タブ	現在選択されている不具合に加えられた変更が一覧表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「【履歴】 タブ」(81 ページ) を参照してください。
【リンクされているエンティティ】 タブ	現在選択されている不具合にリンクされている不具合とその他エンティティの一覧です。ユーザ・インタフェースの詳細については、「【リンクされている不具合】 ページと 【リンクされているエンティティ】 ページ」(866 ページ) を参照してください。




不具合モジュールのメニューおよびボタン



本項では、不具合モジュールで使用できるメニューおよびボタンについて説明します。





アクセス方法	ALM サイドバーの 【不具合】 を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : すべてのメニューおよびボタンが利用できるわけではありません。
該当タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)
参照項目	「不具合モジュールのアイコン」(854 ページ) 「不具合追跡の概要」(828 ページ)



次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。




UI 要素	メニュー	説明
【お気に入りに追加】	[お気に入り]	[追加お気に入り] ダイアログ・ボックスが開き、お気に入りのビューを非公開または公開のフォルダに追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[追加お気に入り] ダイアログ・ボックス」(113 ページ) を参照してください。
【警告】	[編集]	[警告] ダイアログ・ボックスが開き、不具合の警告を表示できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。

UI 要素	メニュー	説明
 【添付】		[添付] ページが開きます。添付ファイルを表示して、選択した不具合に追加できるようになります。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。
【警告をクリア】	[編集]	表示されたモジュールに対する警告をクリアします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「警告の使用方法」(99 ページ)を参照してください。
【フォローアップフラグをクリア】	[編集]	選択された不具合のフォローアップ・フラグをクリアします。概念の詳細については、「フォローアップ・フラグの概要」(98 ページ)を参照してください。
【URL をコピー】 / 【貼り付け】	[編集]	選択した不具合をコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。不具合自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が起動し、不具合が表示されます。ログインしていない場合、ALM によって最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
【コピー】 / 【貼り付け】	[編集]	同じプロジェクト内、またはプロジェクト間で選択した不具合をコピーします。 注： プロジェクト間で不具合をコピーするには、2 つのプロジェクトで使用されている ALM のバージョンとパッチ・レベルが同じでなければなりません。
 【不具合の詳細】	[不具合]	選択した不具合の詳細を表示する [不具合詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[不具合詳細] ダイアログ・ボックス」(860 ページ)を参照してください。
 【削除】	[編集]	選択した不具合を削除します。削除した不具合の不具合 ID は再使用されません。

UI 要素	メニュー	説明
<p>[エクスポート]</p>	<p>[不具合]</p>	<p>[グリッドデータのエクスポート] ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドの不具合をテキスト・ファイル、Microsoft Excel ワークシート、Microsoft Word ドキュメント、HTML ドキュメントとしてエクスポートできます。</p> <p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[全て]: グリッドの全ての不具合をエクスポートします。</p> <p>[選択済み]: グリッドで選択された不具合をエクスポートします。</p>
<p> [フィルタ/ソートを設定] [フィルタ/ソートをクリア]</p>	<p>[表示]</p>	<p>グリッド内の不具合のフィルタ処理と並べ替えを実行できます。現在適用されているフィルタまたは並べ替え順がツールバーの下に表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p>
<p>[検索]</p>	<p>[編集]</p>	<p>[検索] ダイアログ・ボックスが開き、不具合モジュールで不具合を検索できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[検索] ダイアログ・ボックス」(74 ページ)を参照してください。</p>
<p>[次を検索]</p>	<p>[編集]</p>	<p>これまでに定義した検索条件に一致する次の項目を不具合グリッドで検索します。</p>
<p> [類似した不具合の検索]</p>	<p>[編集]</p>	<p>選択した不具合に類似した不具合を、[サマリ] フィールドと [説明] フィールド内のキーワードで検索します。ウィンドウの下で指定した近接 % に基づいて、類似の不具合が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[類似の不具合] ダイアログ・ボックス/表示枠」(863 ページ)を参照してください。</p>

UI 要素	メニュー	説明
 【類似した テキストの検索】	[編集]	<p>テキスト文字列に類似した不具合を、[サマリ] フィールドと [説明] フィールド内のキーワードで検索します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[類似の不具合] ダイアログ・ボックス/表示枠」(863 ページ) を参照してください。</p>
 【フォローアップ フラグ】	[編集]	<p>[フォローアップ フラグ] ダイアログ・ボックスが開き、不具合のフォローアップ・フラグを定義できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。</p>
 【不具合へ移動】	[不具合]	<p>[不具合へ移動] ダイアログ・ボックスが開き、[不具合 ID] で特定の不具合を検索できます。</p>
【グラフ】	[アナリシス]	<p>不具合データで生成できるグラフの一覧を表示します。定義済みのグラフを選択するか、グラフ・ウィザードを起動してください。</p> <p>事前定義されているグラフの種類の詳細については、「グラフの種類」(906 ページ) を参照してください。</p>
【グリッド フィルタ】 	[表示]	<p>各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスを表示し、カラムのフィルタ条件を定義できます。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして参照ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>
【インジケータ カラム】	[表示]	<p>不具合グリッドの左側にインジケータを表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「不具合モジュールのアイコン」(854 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	メニュー	説明
[情報パネル]	[表示]	不具合グリッドの下部に [情報パネル] タブを表示します。詳細については、「不具合モジュール・ウィンドウ」(846 ページ) を参照してください。
選択/非選択項目の入れ替え	[編集]	グリッド内で選択されている不具合をすべて選択解除し、選択されていない不具合をすべて選択します。
[最近の利用]	[アナリシス]	不具合モジュールで最近表示したレポートおよびグラフを一覧表示します。
 新規不具合... [新規不具合]	[不具合]	[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開き、不具合を追加できるようになります。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(858 ページ) を参照してください。
[お気に入りの整理]	[お気に入り]	お気に入りビューを整理するには、次の手順で行います。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[整理お気に入り] ダイアログ・ボックス」(115 ページ) を参照してください。
[非公開]	[お気に入り]	作成者だけがアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
[公開]	[お気に入り]	どのユーザでもアクセスできるお気に入りビューのリストを表示します。
 [全て更新]	[表示]	不具合グリッドが更新され、選択したフィルタに基づいて不具合の最新の状態が表示されます。
[置換]	[編集]	[置換] ダイアログ・ボックスが開きます。フィールドの値を置き換えることができます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[置換] ダイアログ・ボックス」(76 ページ) を参照してください。
[選択項目のレポート]	[アナリシス] > [レポート]	選択した不具合のレポートを表示します。






UI 要素	メニュー	説明
[レポート]	[アナリシス]	不具合データで作成できる定義済みレポートを一覧表示します。レポートの種類の詳細については、「定義済み標準レポート」(1008 ページ)を参照してください。
[全て選択]	[編集]	グリッド内の不具合をすべて選択します。
 [カラムを選択]	[表示]	[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[カラムを選択]/[フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)を参照してください。
 [電子メールで送信]	[不具合]	[電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛に不具合を電子メールで送信できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ)を参照してください。
[標準不具合レポート]	[アナリシス] > [レポート]	不具合グリッドに表示される不具合が一覧表示されます。詳細については、第 39 章、「標準レポート」を参照してください。
 [テキスト検索]	[編集]	不具合モジュール・ウィンドウの下にテキスト検索の表示枠が開き、定義済みフィールドのレコードを検索できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[テキスト検索] 表示枠」(78 ページ)を参照してください。
[選択項目の更新]	[編集]	[選択項目の更新] ダイアログ・ボックスが開きます。グリッドで選択した複数の不具合のフィールド値を更新できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[選択項目の更新] ダイアログ・ボックス」(92 ページ)を参照してください。

不具合モジュールのアイコン

本項では、不具合モジュールで使用できるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [不具合] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : アイコンの中には使用できないものもあります。
該当タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)
参照項目	「不具合追跡の概要」(828 ページ) 「不具合モジュールのメニューおよびボタン」(848 ページ) 「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ)

アイコンを以下で説明します。

UI 要素	説明
	<緑のアスタリスク> : 該当するタブが埋め込まれています。
	[警告] : クリックすると、不具合に対する警告が表示されます。 赤の警告 。新しい警告です。 グレーの警告 。警告は既読です。 ユーザ・インタフェースの詳細については、「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。
	[添付] : クリックすると、指定した不具合の添付が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ) を参照してください。
	[フォローアップ・フラグ] : クリックすると、不具合のフォローアップが表示されます。 グレーのフラグ 。新しいフォローアップフラグです。 赤のフラグ 。フォローアップ日です。 ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。
	[リンクされているエンティティ] : クリックすると、[不具合の詳細] ダイアログ・ボックスにある不具合にリンクされているエンティティが表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ」(866 ページ) を参照してください。

不具合モジュールのフィールド

本項では、不具合モジュールのフィールドについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [不具合] を選択します。
重要な情報	<p>不具合モジュールでは、ユーザ定義フィールドの追加や、フィールド・ラベルの変更ができます。また、プロジェクト・リストのカスタマイズもできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>スクリプト・エディタを使用することにより、不具合モジュールで表示されるフィールドと値を制限し、動的に変更することができます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>ユーザ名の値を含む不具合カラムを選択する場合（ユーザ定義フィールドを含む）、各ユーザのユーザ名および氏名を記載したリストが表示されます。ユーザの検索、ユーザの並べ替え、ユーザ・グループに基づいたユーザのグループ分け、およびユーザ・リストまたはグループ・ツリーからのユーザの選択ができます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ユーザリスト]ダイアログ・ボックス」(72 ページ)を参照してください。</p> <p>Quality Center Starter Edition: すべてのリリース管理フィールドが使用できるわけではありません。</p>
該当タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)
参照項目	<p>「不具合追跡の概要」(828 ページ)</p> <p>「不具合モジュールのメニューおよびボタン」(848 ページ)</p> <p>「不具合モジュール・ウィンドウ」(846 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[実際の修正時間]	不具合の修正に実際に要した日数。このフィールドが空の場合は、「 終了日 - 検出日 」という計算式を使用して実際の所要時間が自動計算されます。
[責任者]	不具合の修正を担当するユーザの名前。

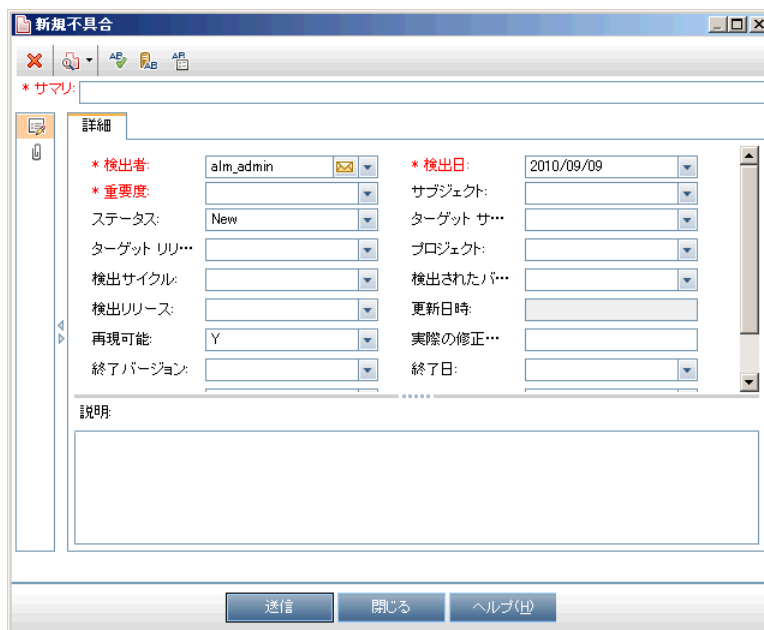
第 33 章・不具合の追跡


UI 要素	説明
[終了バージョン]	不具合が解決されたアプリケーションのバージョン。
[終了日]	不具合が解決した日付。
[コメント]	不具合に関するコメント。
[不具合 ID]	ALM によって不具合に対して自動的に割り当てられる一意の ID 番号。不具合 ID は読み取り専用です。
[説明]	不具合の詳細。
[検出者]	不具合を送信したユーザの名前。
[検出サイクル]	不具合が検出されたサイクル。 [検出サイクル] フィールドで不具合をサイクルに割り当てる場合、ALM によって、リリースが [検出リリース] フィールドに自動的に割り当てられます。
[検出リリース]	不具合が検出されたリリース。
[検出されたバージョン]	不具合が検出されたアプリケーションのバージョン。
[検出日]	不具合が検出された日付。 標準設定値 ：現在のデータベース・サーバの日付。
[予定修正時間]	不具合の修正に要する推定日数。
[更新日時]	不具合が最後に変更された日付と時刻。
[予定終了バージョン]	不具合の修正予定バージョン。
[優先度]	低い（レベル 1）から緊急（レベル 5）までの不具合の優先度。
[プロジェクト]	不具合が発生したプロジェクトの名前。
[再現可能]	不具合が検出されたときと同じ条件で不具合を再現できるかどうか。 標準設定値 ：Y
[重要度]	低い（レベル 1）から緊急（レベル 5）までの不具合の重要度。

UI 要素	説明
[ステータス]	不具合の現在のステータス。不具合ステータスは、次のいずれかになります。[クローズ済み], [修正済み], [新規], [オープン], [却下], [再オープン] 標準設定値 : New
[サブジェクト]	サブジェクト・フォルダ。
[サマリ]	不具合の簡単な要約。
[ターゲット サイクル]	不具合の修正が予定されているサイクル。 [ターゲット サイクル] フィールドで不具合をサイクルに割り当てると、ALM によって、リリースが [ターゲット リリース] フィールドに自動的に割り当てられます。
[ターゲット リリース]	不具合の解決が予定されているリリース。






[新規不具合] ダイアログ・ボックス

[新規不具合] ダイアログ・ボックスでは、不具合を作成します。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを実行します。</p> <p>不具合モジュールで、[新規不具合]  新規不具合... ボタンをクリックします。</p> <p>任意のモジュールで、[ツール] > [新規不具合] を選択します。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>Quality Center Starter Edition: フィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。</p>
<p>該当タスク</p>	<p>「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「不具合追跡の概要」(828 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。










UI 要素	説明
	[全てのフィールドをクリア]: 履歴をクリアします。
	<p>[類似した不具合の検索]: [類似の不具合] ダイアログ・ボックスが開き、次の不具合を検索できます。</p> <p>新しく作成する不具合に類似した不具合。 テキスト文字列に類似した不具合。</p> <p>ユーザ・インタフェースの詳細については、「[類似の不具合] ダイアログ・ボックス/表示枠」(863 ページ)を参照してください。</p>
	[スペル チェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[類語辞典]: 選択した単語の類義語、反義語、または関連する単語が表示されます。
	[スペル オプション]: ALM によるスペルのチェック方法を設定できます。
[添付]	新しい不具合に関する追加情報が含まれている添付ファイルを追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[添付] ページ」(86 ページ)を参照してください。
[詳細]	不具合フィールドの一覧です。不具合フィールドの詳細については、「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ)を参照してください。

[不具合詳細] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、不具合の詳細の更新、添付ファイルの追加、不具合の履歴の表示、ほかの不具合へのリンクなどの操作を実行できます。また、不具合にリンクされているほかのエンティティを表示することもできます。

アクセス方法	不具合グリッドで不具合を右クリックし、[不具合の詳細] を選択します。
重要な情報	Quality Center Starter Edition : フィールドおよび機能の中には使用できないものもあります。
該当タスク	「ALM での不具合の追跡方法」(831 ページ)
参照項目	「不具合追跡の概要」(828 ページ) 「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	[最初のエンティティ] / [前のエンティティ] / [次のエンティティ] / [最後のエンティティ]: 不具合を順番に表示できます。
	[不具合へ移動]: [不具合へ移動] ダイアログ・ボックスが開き, [不具合 ID] で特定の不具合を検索できます。移動できるのは, 現在のフィルタ内の不具合のみです。
	[フォローアップフラグ]: [フォローアップフラグ] ダイアログ・ボックスが開き, 不具合のフォローアップ・フラグを定義できます。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[フォローアップ・フラグ] ダイアログ・ボックス」(106 ページ) を参照してください。
	[警告]: [警告] ダイアログ・ボックスが開き, 不具合の警告を表示できます。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[警告] ダイアログ・ボックス」(104 ページ) を参照してください。 この UI 要素が表示されるのは, 選択した不具合に警告が関連付けられている場合です。
	[標準不具合レポート]: 次のいずれかのレポートを選択します。 [実行レポート]: リンクされているテスト実行の詳細が表示されます。このレポートを選択できるのは, 不具合がテスト実行にリンクされている場合のみです。 [標準不具合レポート]: 選択した不具合に関する標準不具合レポートです。
	[電子メールで送信]: [電子メール送信] ダイアログ・ボックスが開きます。リストから選択した宛先の電子メール・アドレス宛に不具合を電子メールで送信できます。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[電子メール送信] ダイアログ・ボックス」(83 ページ) を参照してください。
	[スペルチェック]: 選択した単語またはテキスト・ボックスのスペルをチェックします。
	[スペルオプション]: ALM によるスペル・チェックの方法を設定できます。
	[類語辞典]: 選択した単語の類義語, 反義語, または関連する単語が表示されます。


UI 要素	説明
【コメントを追加】	新しいコメントを追加します。【コメント】領域に新しいセクションが追加され、ユーザ名とデータベースの現在の日付が表示されます。
【添付】	現在選択されている不具合に関する追加情報が含まれている、添付ファイルの一覧が表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「【添付】ページ」(86 ページ)を参照してください。
【詳細】	不具合フィールドの一覧です。不具合フィールドの詳細については、「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ)を参照してください。
【履歴】	現在選択されている不具合に加えられた変更が一覧表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「【履歴】タブ」(81 ページ)を参照してください。
【リンクされたエンティティ】	現在選択されている不具合にリンクされているエンティティが一覧表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「【リンクされている不具合】ページと【リンクされているエンティティ】ページ」(866 ページ)を参照してください。

[類似の不具合] 表示枠



アクセス方法	<p>不具合グリッドまたは [新規不具合] ダイアログ・ボックスで不具合を右クリックし、[類似した不具合の検索]  ボタンをクリックします。</p> <p>[類似した不具合の検索] または [類似したテキストの検索] を選択します。</p>
重要な情報	<p>類似の不具合があるかどうかをチェックするには、プロジェクト内にあるほかの不具合と比較する方法と、テキスト文字列と比較する方法があります。</p> <p>ALM ユーザが検索に使用するフィールドは、[検索可能フィールド] の UI 要素で確認できます。検索可能フィールドは変更できません。</p> <p>[類似を検索] を実行すると、一致率の高い順に結果が表示されます。類似した不具合が見つからない場合は、メッセージが表示されます。</p>
参照項目	「不具合追跡の概要」(828 ページ)
該当タスク	「不具合の検索方法」(840 ページ)

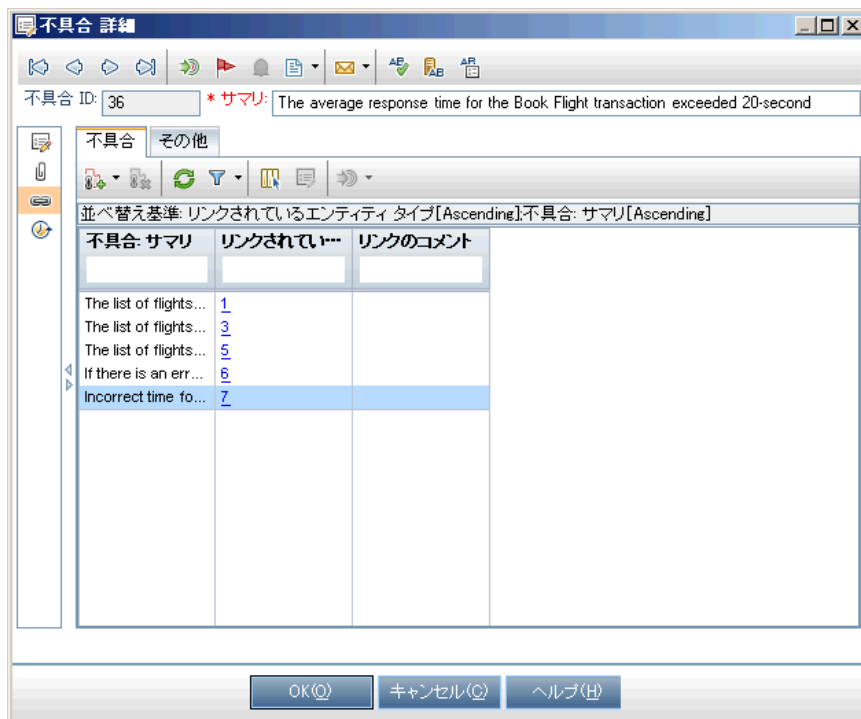
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
【検索対象】	<p>検索する対象となるテキスト文字列。</p> <p>大文字と小文字は区別されません。</p> <p>次の文字や記号は無視されます。</p> <p>冠詞 (a, an, the)</p> <p>接続詞 (and, but, for, nor, or)</p> <p>ブール演算子 (and, or, not, if, then)</p> <p>ワイルドカード (?, *, [])</p>
【近接 %】	<p>ALM は、類似のテキストを検索する際、ここで指定したパーセンテージよりも類似性の高い不具合を検索します。</p> <p>標準設定値：類似性が 25 パーセント以上の不具合が返されます。</p>
【検索】	検索を開始します。
	<p>【カラムを選択】：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」（90 ページ）を参照してください。</p>
【検索可能フィールド】	類似の不具合の検索で使用するフィールド。読み取り専用です。
【移動】	不具合グリッドで、選択した不具合に移動します。
<不具合>	<p>類似した不具合のリスト。</p> <p>不具合モジュールで表示されるフィールドが示されます。詳細については、「不具合モジュールのフィールド」（855 ページ）を参照してください。</p>

[リンクされている不具合] ページと [リンクされているエンティティ] ページ

このページでは、不具合とほかのエンティティから不具合へのリンクを定義および管理します。

[リンクされている不具合] タブ



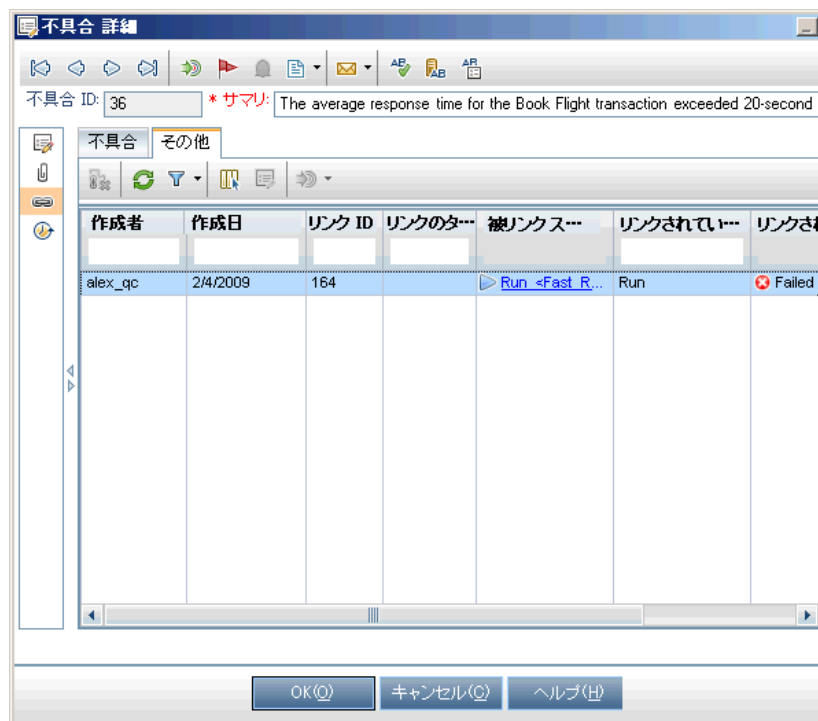
不具合 ID: 36 * サマリ: The average response time for the Book Flight transaction exceeded 20-second

並べ替え基準: リンクされているエンティティ タイプ [Ascending] 不具合: サマリ [Ascending]

不具合: サマリ	リンクされている...	リンクのコメント
The list of flights...	1	
The list of flights...	3	
The list of flights...	5	
If there is an err...	6	
Incorrect time fo...	7	

OK(O) キャンセル(C) ヘルプ(H)







[リンクされているエンティティ] タブ





アクセス方法	<p>次のいずれかを実行します。</p> <p>不具合モジュール：[不具合詳細] ダイアログ・ボックスで、[リンクされたエンティティ] を選択します。[不具合] タブをクリックします。</p> <p>他のモジュールおよびダイアログ・ボックス：サイドバーの [リンクされている不具合] または [リンクされている不具合] タブをクリックします。</p>
重要な情報	<p>不具合をリンクできる ALM エンティティには、要件、ビジネス、テスト、テスト・セット、ビジネス・プロセス・テスト、フロー、テスト・インスタンス、実行、実行ステップ、ほかの不具合があります。</p> <p>不具合モジュールでは、不具合をほかの不具合にリンクできます。</p> <p>不具合をほかの ALM エンティティにリンクするには、そのエンティティのモジュールまたは [詳細] ダイアログ・ボックスにアクセスしてください。</p>

該当タスク	「不具合を ALM エンティティまたは他の不具合にリンクする方法」(841 ページ)
参照項目	「不具合追跡の概要」(828 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>[不具合の追加とリンク]：[新規不具合] ダイアログ・ボックスが開きます。新しい不具合を送信すると、不具合にリンクが追加されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規不具合] ダイアログ・ボックス」(858 ページ)を参照してください。</p> <p>不具合モジュールを除くすべてのモジュールで使用できます。</p>
	<p>[既存の不具合にリンク]：既存の不具合にリンクを追加します。</p> <p>[ID で]：[既存の不具合をリンク] ダイアログ・ボックスで、不具合 ID を入力して不具合を選択します。</p> <p>[選択]：[不具合のリンク] ダイアログ・ボックスで、グリッドから不具合を選択します。</p>
	<p>[リンクを削除]：選択した不具合のリンクを削除します。</p>
	<p>[全て更新]：リンクされている不具合またはエンティティのリストが更新されます。これにより、選択したフィルタに基づいて不具合は最新の状態が表示されます。</p>
	<p>[フィルタ/ソートを設定]：リンクされている不具合とエンティティのリストをフィルタ処理および並び替えます。現在適用されているフィルタまたは並び替え順がツールバーの下に表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ)を参照してください。</p>
	<p>[カラムを選択]：[カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ)を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	<p>[不具合の詳細]：選択した不具合の詳細を表示する [不具合詳細] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[不具合詳細] ダイアログ・ボックス」(860 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[移動]：[移動] ボタンをクリックし、次のいずれかを選択します。</p> <p>[不具合へ移動]：リンクされている不具合に移動します。</p> <p>[「リンク元」エンティティへ移動]：関連のモジュールが開き、リンクされているエンティティが強調表示されます。</p>
<不具合>	現在の不具合にリンクされている不具合のリスト。
<不具合モジュールのフィールド>	ユーザ・インタフェースの詳細については、「不具合モジュールのフィールド」(855 ページ) を参照してください。
<グリッド・フィルタ>	<p>各カラム名の下にグリッド・フィルタ・ボックスを表示し、カラムのフィルタ条件を定義できます。</p> <p>ボックスに条件を直接入力するか、ボックスをクリックして参照用ボタンを表示し、[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックスを開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>
[作成者]	リンクを作成したユーザの名前。
[作成日]	リンクが作成された日付。
[直接リンク] / [全てのリンク]	<p>次のオプションを選択できます。</p> <p>[直接リンク]：直接リンクのみを表示します。</p> <p>[全てのリンク]：すべてのリンクを表示します。</p> <p>直接リンクと間接リンクの詳細については、「不具合追跡の概要」(828 ページ) を参照してください。</p> <p>不具合モジュールを除くすべてのモジュールで使用できます。</p>
[フィルタ:]	現在グリッド適用されているフィルタの説明です。[グリッドフィルタ] ボックスのすぐ上にあります。
[リンクのコメント]	リンクに関するコメントを追加できます。
[リンクされているエンティティタイプ]	リンクされているエンティティのタイプ (例：ステップ、テスト、テスト・セット)。
[リンク ID]	ALM がリンクに対して自動的に割り当てる一意の ID 番号。リンク ID は読み取り専用です。

UI 要素	説明
[リンクのタイプ]	リンク・タイプをカスタマイズしたリストの値。リストの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
[被リンク ステータス]	リンクされているエンティティの現在のステータス。
[リンクされているエンティティ ID]	リンクされているエンティティに対して ALM が自動的に割り当てる一意の ID 番号。リンクされているエンティティ ID は読み取り専用です。
[リンクされているエンティティ名]	リンクされているエンティティの名前。たとえば、要件の名前です。
[その他]	現在の不具合にリンクされている其他エンティティのリスト。
[次のリンクを表示]	<p>表示するリンクを指定します。</p> <p>[現在の要件リンク]：現在の要件のみに追加されている不具合リンク。</p> <p>[子のリンクを含める]：現在の要件とその子に追加されている不具合リンク。</p> <p>要件モジュールで使用できます。</p>

第 VII 部

分析

第 34 章

アナリシスの紹介

本章の内容

概念

「アナリシスの概要」(874 ページ)

タスク

「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)

リファレンス

「ダッシュボードのユーザ・インタフェース」(878 ページ)

概念

アナリシスの概要

HP Application Lifecycle Management (ALM) には、ALM データをさまざまな形式で分析して表示できるアナリシス・ツールが用意されています。

ダッシュボード・モジュール

ダッシュボード・モジュールでは、グラフ、標準レポート、Excel レポートを作成することにより、ALM データを分析します。また、複数のグラフが並んで表示されるダッシュボード・ページも作成できます。

ダッシュボードには 2 つのモジュールがあります。アナリシス・ビュー・モジュールとダッシュボード・ビュー・モジュールです。

アナリシス・ビュー・モジュールには、すべてのアナリシス項目が編成されるアナリシス・ツリーがあります。アナリシス項目は、グラフ、プロジェクト・レポート、Excel レポート、標準レポートのいずれかのアナリシス・タイプになります。

ダッシュボード・ビュー・モジュールには、ダッシュボード・ページが編成されるダッシュボード・ツリーがあります。**ダッシュボード・ページ**では、アナリシス・ツリーに作成した複数のグラフを配列し、それらのグラフを 1 つのビューで表示します。

その他のアナリシス・ツール

ライブ・アナリシス・グラフ：テスト計画およびテスト・セットに関するデータを動的かつ視覚的に作成、表示できます。詳細については、第 40 章、「ライブ・アナリシス・グラフ」を参照してください。

ドキュメント・ジェネレータ：プロジェクトの要件、テスト計画、テスト・セット・フォルダ、不具合追跡に関するデータを含む Microsoft Word ドキュメントを作成できます。詳細については、第 41 章、「プロジェクト・ドキュメント」を参照してください。

作業の詳細については、「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)を参照してください。

注： Sprinter での実行の実行ステップ情報は、レポート・ツールには含まれません。

タスク

ALM でデータを分析する方法

このタスクでは、ALM でさまざまなアナリシス・ツールを使用してデータを分析する方法を説明します。

データ・アナリシスの詳細については、「アナリシスの概要」(874 ページ)を参照してください。

注: この作業は、上位レベルの作業の一部です。詳細については、「アプリケーションのライフサイクル管理ロードマップ」(26 ページ)を参照してください。

このタスクは次の手順で構成されています。

「グラフの生成」(876 ページ)

「ダッシュボード・ページの生成」(877 ページ)

「プロジェクト・レポートの生成」(877 ページ)

「Excel レポートの生成」(877 ページ)

「アナリシス項目とダッシュボード・ページの管理」(877 ページ)

「ライブ・アナリシス・グラフの生成」(877 ページ)

「プロジェクト・ドキュメントの生成」(877 ページ)

グラフの生成

選択したデータをグラフ形式で表示します。作業の詳細については、「グラフを生成する方法」(900 ページ)を参照してください。

選択したプロジェクトの計画と追跡データをグラフ形式で表示します。作業の詳細については、「PPT グラフを生成する方法」(949 ページ)を参照してください。

ダッシュボード・ページの生成

選択したグラフをグループにまとめて、1つの画面に表示します。

作業の詳細については、「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ)を参照してください。

プロジェクト・レポートの生成

選択したデータのプロジェクト・レポートを作成します。

作業の詳細については、「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ)を参照してください。

Excel レポートの生成

プロジェクト・データベースから SQL クエリを使ってデータを抽出し、Microsoft Excel でデータをフォーマットします。

作業の詳細については、「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ)を参照してください。

アナリシス項目とダッシュボード・ページの管理

アナリシス項目とダッシュボード・ページを、アナリシス・ツリーとダッシュボード・ツリーに編成します。フォルダの作成、項目の移動、コピー、名前変更、削除を実行します。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「アナリシス・ビューのメニューとボタン」(884 ページ)を参照してください。

ライブ・アナリシス・グラフの生成

ライブ・アナリシス・グラフでは、テスト計画サブジェクトおよびテスト・セットに関する動的グラフを作成して表示できます。

作業の詳細については、「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ)を参照してください。

プロジェクト・ドキュメントの生成

プロジェクト・ドキュメントでは、選択したプロジェクト・データを含む Microsoft Word ドキュメントを作成できます。

作業の詳細については、「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)を参照してください。

リファレンス

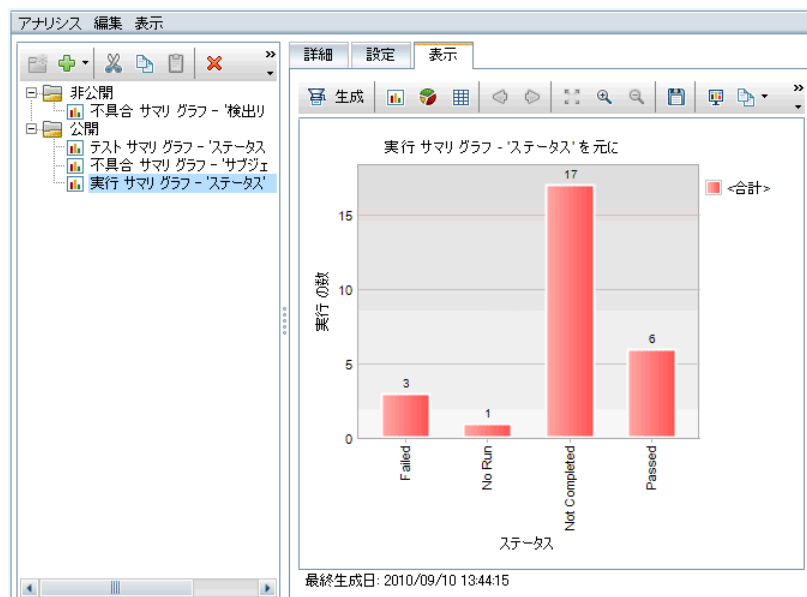
ダッシュボードのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)
- 「ダッシュボード・ビュー・ウィンドウ」(882 ページ)
- 「アナリシス・ビューのメニューとボタン」(884 ページ)
- 「ダッシュボード・ビューのメニューとボタン」(889 ページ)
- 「ダッシュボード・アイコン」(891 ページ)
- 「[詳細] タブ」(893 ページ)
- 「[アナリシス項目の共有] ダイアログ・ボックス」(895 ページ)

🔍 アナリシス・ビュー・ウィンドウ

このウィンドウでは、アナリシス項目の作成、管理、表示を実行できます。アナリシス項目には、グラフ、プロジェクト・レポート、Excel レポート、標準レポートがあります。



アクセス方法	ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [アナリシス ビュー] を選択します。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「アナリシスの概要」(874 ページ)

第 34 章・アナリシスの紹介

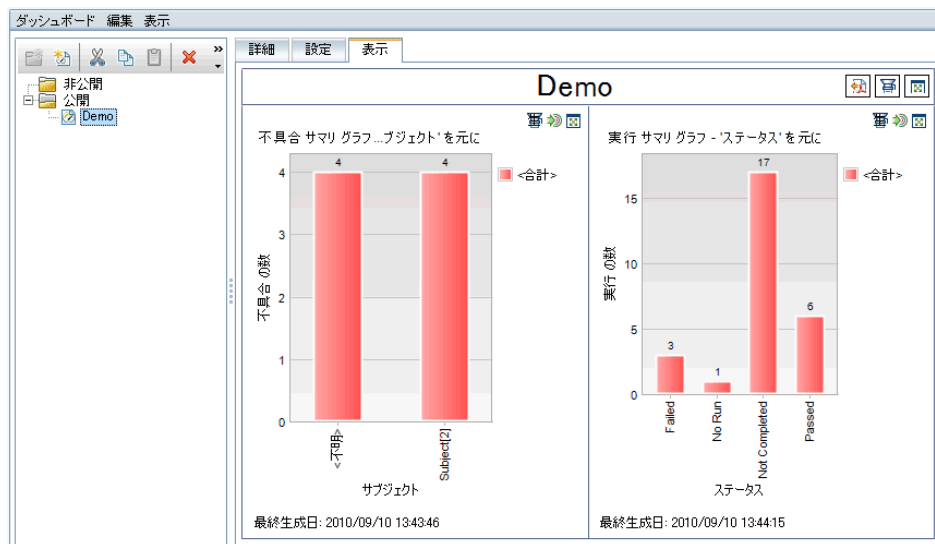
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<アナリシス・ビューの共通 UI 要素>	<p>アナリシス・ビューのメニューとボタン: コマンドとボタンの説明については、「アナリシス・ビューのメニューとボタン」(884 ページ)を参照してください。</p> <p>ダッシュボード・アイコン: アイコンの説明については、「ダッシュボード・アイコン」(891 ページ)を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューおよびサイドバー: [ツール] メニュー, [ヘルプ] メニュー, サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」(40 ページ)を参照してください。</p>
<アナリシス・ツリー>	<p>アナリシス項目を公開ルート・フォルダおよび非公開ルート・フォルダの下に編成します。</p> <p>公開フォルダに作成したアナリシス項目は、すべてのユーザがアクセス可能です。</p> <p>公開フォルダに作成したアナリシス項目は、それを作成したユーザしかアクセスできません。</p> <p>注:</p> <p>公開フォルダ内のアナリシス項目は、ユーザ・グループのデータ非表示定義に従い、ユーザごとに異なる結果が表示される場合があります。データ権限の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>フォルダ内で項目を移動することはできません。ツリー・ビューを更新すると、フォルダの項目はアルファベット順に並べられます。</p>
[詳細] タブ	選択したアナリシス項目またはフォルダの詳細を表示します。詳細については、「[詳細] タブ」(893 ページ)を参照してください。

UI 要素	説明
[設定] タブ	<p>選択したアナリシス項目を設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、以下を参照してください。</p> <p>グラフ：「[設定] タブ グラフ」(912 ページ)</p> <p>プロジェクト・レポート：「[設定] タブ プロジェクト・レポート」(967 ページ)</p> <p>Excel レポート：「[設定] タブ Excel レポート」(984 ページ)</p> <p>標準レポート：「[設定] タブ 標準レポート」(1013 ページ)</p>
[表示] タブ	<p>選択したグラフまたは標準レポートを表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については、以下を参照してください。</p> <p>グラフ：「[表示] タブ グラフ・ウィンドウ」(916 ページ)</p> <p>標準レポート：「表示タブ 標準レポート/レポート・ウィンドウ」(1017 ページ)</p> <p>注：プロジェクト・レポートと Excel レポートは、Microsoft Excel や Word などの外部アプリケーションで表示されます。</p>

🔑 ダッシュボード・ビュー・ウィンドウ

このウィンドウでは、ダッシュボード・ページの作成、管理、表示を実行できます。



アクセス方法	ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[ダッシュボード ビュー] を選択します。
関連タスク	「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ)
参照項目	「アナリシスの概要」(874 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。



UI 要素	説明
<p><ダッシュボード・ビューの共通 UI 要素></p>	<p>ダッシュボード・ビューのメニューとボタン：コマンドとボタンの説明については、「ダッシュボード・ビューのメニューとボタン」(889 ページ) を参照してください。</p> <p>ダッシュボード・アイコン：アイコンの説明については、「ダッシュボード・アイコン」(891 ページ) を参照してください。</p> <p>ALM メイン・メニューおよびサイドバー：[ツール] メニュー，[ヘルプ] メニュー，サイドバーの詳細については、「ALM 共通領域」(40 ページ) を参照してください。</p>
<p><ダッシュボード・ツリー></p>	<p>ダッシュボード・ページを公開ルート・フォルダおよび非公開ルート・フォルダの下に編成します。</p> <p>公開フォルダに作成したダッシュボード・ページは、すべてのユーザがアクセス可能です。</p> <p>非公開フォルダに作成したアナリシス項目は、それを作成したユーザしかアクセスできません。</p> <p>公開ダッシュボード・ページには、公開グラフのみ含めることができます。</p> <p>注：</p> <p>公開フォルダ内のダッシュボード・ページは、ユーザ・グループのデータ非表示定義に従い、ユーザごとに異なる結果が表示される場合があります。データ権限の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>フォルダ内でダッシュボード・ページを移動することはできません。ツリー・ビューを更新すると、フォルダ内のダッシュボード・ページはアルファベット順に並べられます。</p>
<p>[設定] タブ</p>	<p>選択したダッシュボード・ページを設定できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[設定] タブ ダッシュボード・ページ」(922 ページ) を参照してください。</p>
<p>[詳細] タブ</p>	<p>選択したダッシュボード・ページまたはフォルダの詳細を表示します。詳細については、「[詳細] タブ」(893 ページ) を参照してください。</p>
<p>[表示] タブ</p>	<p>選択したダッシュボード・ページを表示します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[表示] タブ ダッシュボード・ページ」(925 ページ) を参照してください。</p>




アナリシス・ビューのメニューとボタン



本項では、アナリシス・ビュー・モジュールで使用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [アナリシス ビュー] を選択します。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「ダッシュボード・アイコン」(891 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	メニュー	説明
[URL をコピー] / [貼り付け]	[編集]	選択したアナリシス項目またはフォルダをコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。項目自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き、その項目に移動します。ログインしていない場合、最初にログインの詳細情報の入力が必要です。
  [コピー] / [貼り付け]	[編集]	選択したアナリシス項目またはフォルダを同じプロジェクトまたは別のプロジェクトにコピーします。

UI 要素	メニュー	説明
 【切り取り】 / 【貼り付け】	[編集]	<p>選択したアナリシス項目またはフォルダを、ツリー内の別の位置に移動します。</p> <p>アナリシス項目を公開フォルダから非公開フォルダに移動すると、そのアナリシス項目が含まれている公開ダッシュボード・ページからそのアナリシス項目が削除されます。</p> <p>ヒント：アナリシス項目をツリー内の別の場所までドラッグして移動することもできます。</p>
 【削除】	[編集]	<p>選択したアナリシス項目またはフォルダを削除します。ルート・フォルダは削除できません。</p> <p>注：</p> <p>フォルダを削除すると、そのフォルダに含まれているすべての項目が削除されます。</p> <p>グラフを削除すると、そのグラフが含まれているダッシュボード・ページからそのグラフが削除されます。</p>
【全て展開】 / 【折りたたみ】	[表示]	<p>選択したフォルダの下のすべてのノードを展開するか折りたたみます。</p>
【Excel レポート定義のエクスポート】	[編集]	<p>選択した Excel レポート定義を XML ファイルにエクスポートできます。エクスポートした Excel レポート定義は、別のプロジェクトにインポートできます。</p>
 生成	[アナリシス]	<p>選択したアナリシス項目を生成します。</p> <p>グラフおよび標準レポート：結果が [表示] タブに表示されます。[表示] タブがすでに選択されている場合、アナリシス項目が最新データで更新されます。</p> <p>プロジェクト・レポートおよび Excel レポート：結果が外部アプリケーションに表示されます。</p>

UI 要素	メニュー	説明
[グラフ ウィザード]	[アナリシス]	グラフ・ウィザードが開き、グラフを作成して設定できます。詳細については、「グラフ・ウィザード」(927 ページ)を参照してください。
[Excel レポート定義のインポート]	[編集]	前に XML ファイルにエクスポートした Excel レポート定義をインポートできます。レポート定義は、選択したアナリシス・ツリー・フォルダに追加されます。
[新規 Excel レポート]	[アナリシス]	[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックスが開き、新規 Excel レポートをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックス」(998 ページ)を参照してください。
 [新規フォルダ]	[アナリシス]	[新規フォルダ] ダイアログ・ボックスが開き、アナリシス・ツリーの選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 非公開 ルート・フォルダの下に作成したフォルダは、所有者のみが利用できます。 公開 ルート・フォルダの下に作成したフォルダは、すべてのユーザが利用できます。 構文の例外 ：フォルダ名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。
[新規グラフ]	[アナリシス]	[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開き、新規グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ)を参照してください。
 [新規項目]	ツールバー	グラフ・ウィザードを起動するか、新規グラフ、プロジェクト・レポート、Excel レポート、または標準レポートをアナリシス・ツリーに追加できます。

UI 要素	メニュー	説明
[新規プロジェクト レポート]	[アナリシス]	[新規プロジェクト レポート] ダイアログ・ボックスが開き、新規プロジェクト・レポートをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規プロジェクトレポート] ダイアログ・ボックス」(972 ページ) を参照してください。
[新規リリース アナリシス] > [リリース スコアカード]	[アナリシス]	[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開き、新規リリース・スコアカード・グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ) を参照してください。 ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Editionでは使用できません。
[新規リリース アナリシス] > [KPI の経過時間ごとの グラフ]	[アナリシス]	[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開き、新規 KPI 進行状況グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ) を参照してください。 ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Editionでは使用できません。
[新規リリース アナリシス] > [KPI 内訳グラフ]	[アナリシス]	[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開き、新規 KPI 内訳グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ) を参照してください。 ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Editionでは使用できません。



UI 要素	メニュー	説明
<p>[新規リリース アナリシス] > [KPI の経過時間ごとの ブレークダウン グラフ]</p>	<p>[アナリシス]</p>	<p>[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開き、新規 KPI 内訳進行状況グラフをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ)を参照してください。</p> <p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
<p>[新規標準レポート]</p>	<p>[アナリシス]</p>	<p>[新規標準レポート] ダイアログ・ボックスが開き、新規標準レポートをアナリシス・ツリーに作成できます。詳細については、「[新規標準レポート] ダイアログ・ボックス」(1019 ページ)を参照してください。</p>
<p> [更新]</p>	<p>[表示]</p>	<p>アナリシス・ツリーを更新して最新情報を表示します。</p>
<p>[名前の変更]</p>	<p>[編集]</p>	<p>選択したアナリシス項目またはフォルダの名前を変更できます。</p>
<p>[アナリシス項目の共有]</p>	<p>[編集]</p>	<p>選択したグラフを ALM 外部でほかのユーザが表示できるようにします。詳細については、「[アナリシス項目の共有] ダイアログ・ボックス」(895 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : グラフ</p>




ダッシュボード・ビューのメニューとボタン




本項では、ダッシュボード・ビュー・モジュールで使用できるメニューとボタンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [ダッシュボード ビュー] を選択します。
関連タスク	「ダッシュボード・ページを作成する方法」 (904 ページ)
参照項目	「ダッシュボード・アイコン」 (891 ページ) 「ダッシュボード・ビュー・ウィンドウ」 (882 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	メニュー	説明
[URL をコピー] / [貼り付け]	[編集]	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダをコピーし、その URL をリンクとして貼り付けます。項目自体はコピーされません。代わりに、電子メールやドキュメントなどの別の場所にアドレスを貼り付けることができます。リンクをクリックすると ALM が開き、その項目に移動します。ログインしていない場合、最初にログインの詳細情報の入力が必要されます。
  [コピー] / [貼り付け]	[編集]	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダを同じプロジェクトまたは別のプロジェクトにコピーします。 ダッシュボード・ページを貼り付ける際には、ダッシュボード・ページに含まれるグラフをコピーする方法を選択します。

UI 要素	メニュー	説明
 【切り取り】 / 【貼り付け】	[編集]	<p>選択したダッシュボード・ページまたはフォルダを、ツリー内の別の位置に移動します。</p> <p>ダッシュボード・ページを非公開フォルダから公開フォルダに移動すると、そのダッシュボード・ページから非公開グラフが削除されます。</p> <p>ヒント: ダッシュボード・ページをツリー内の別の場所までドラッグして移動することもできます。</p>
 【削除】	[編集]	<p>選択したダッシュボード・ページまたはフォルダを削除します。ルート・フォルダは削除できません。</p> <p>注: フォルダを削除すると、そのフォルダに含まれているすべての項目が削除されます。</p>
【展開】 / 【折りたたみ】	[表示]	<p>選択したフォルダの下のすべてのノードを展開するか折りたたみます。</p>
【エクスポート】	[ダッシュボード]	<p>選択したダッシュボード・ページを PDF ファイルとして保存し、ダッシュボード・ページを印刷できるようにします。</p> <p>次のオプションを使用できます。</p> <p>【ダッシュボード ページ レイアウト】: ダッシュボード・ページは元の形式で保存されます。</p> <p>【1 ページあたりに 1 アイテムのレイアウト】: ダッシュボード・ページの各グラフが別々のページに保存されます。</p> <p>使用可能な場所: [表示] タブ</p>
 生成	[ダッシュボード]	<p>選択したダッシュボード・ページを生成し、[表示] タブに表示します。</p> <p>[表示] タブがすでに選択されている場合、ダッシュボード・ページが最新データで更新されます。</p>

UI 要素	メニュー	説明
 [新規フォルダ]	[ダッシュボード]	[新規フォルダ] ダイアログ・ボックスが開き、ダッシュボード・ツリーの選択したフォルダの下にフォルダを追加できます。 非公開 ルート・フォルダの下に作成したフォルダは、所有者のみが利用できます。 公開 ルート・フォルダの下に作成したフォルダは、すべてのユーザが利用できます。 構文の例外 ：フォルダ名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。
 [新規ページ]	[ダッシュボード]	[新規ダッシュボード ページ] ダイアログ・ボックスが開き、新しいダッシュボード・ページを作成できます。詳細については、「[新規ダッシュボード ページ] ダイアログ・ボックス」(937 ページ) を参照してください。
 [更新]	[表示]	ダッシュボード・ツリーを更新して最新情報を表示します。
[名前の変更]	[編集]	選択したダッシュボード・ページまたはフォルダの名前を変更できます。

ダッシュボード・アイコン

本項では、ダッシュボード・モジュールに表示されるアイコンについて説明します。

アクセス方法	ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] または [ダッシュボード ビュー] を選択します。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)

第 34 章・アナリシスの紹介

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	「 アナリシス フォルダ 」: アナリシス項目またはダッシュボード・ページを整理するためのフォルダ。
	「 ダッシュボード ページ 」: ダッシュボード・ツリー内のダッシュボード・ページ。
	「 Excel レポート 」: アナリシス・ツリー内の Excel レポート。
	「 グラフ 」: アナリシス・ツリー内のグラフ。
	「 KPI 内訳グラフ 」: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡 (PPT) グラフ。
	「 KPI 内訳進行状況グラフ 」: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡 (PPT) グラフ。
	「 KPI 進行状況グラフ 」: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡 (PPT) グラフ。
	「 プロジェクト・レポート 」: アナリシス・ツリー内のプロジェクト・レポート。
	「 リリーススコアカード グラフ 」: アナリシス・ツリー内のプロジェクトの計画と追跡 (PPT) グラフ。
	「 標準レポート 」: アナリシス・ツリー内の標準レポート。

[詳細] タブ

このタブには、選択したアナリシス項目、ダッシュボード・ページ、またはフォルダの詳細が表示されます。

詳細	設定	表示
エンティティ:	テスト	タイプ: グラフ
サブタイプ:	サマリ グラフ	* 名前: テスト
最終変更日時:	2010/09/10 13:53:09	所有者: alm_admin
変更者:	alm_admin	

説明

アクセス方法	ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] または [ダッシュボード ビュー] を選択し、項目またはフォルダを選択します。
重要な情報	[名前] フィールドと [タイトル] フィールドは編集できます。このダイアログ・ボックスのその他のフィールドは読み取り専用です。 このタブの [説明] フィールドをクリックすると、テキストの書式設定とスペル・チェックのためのツールバーが表示されます。
関連タスク	「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

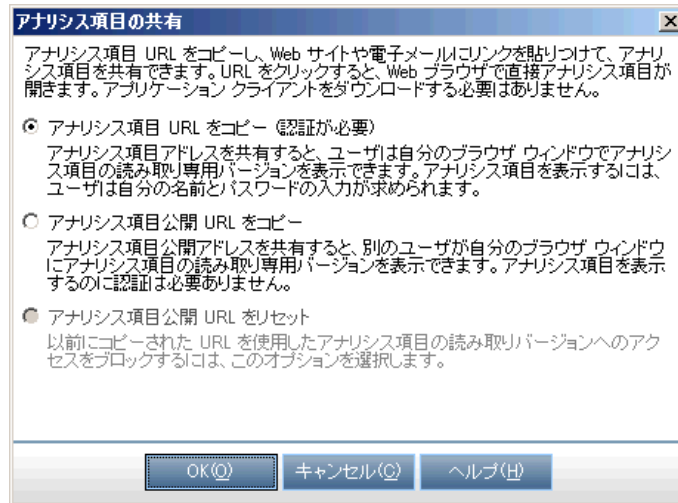
第 34 章・アナリシスの紹介

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[エンティティ]	アナリシス項目によってサンプリングされたデータ・セット。 使用可能な場所 ：アナリシス項目
[最終変更日時]	アナリシス項目またはダッシュボード・ページが最後に更新された日時。
[変更者]	アナリシス項目またはダッシュボード・ページを最後に更新したユーザ。
[名前]	アナリシス項目、ダッシュボード・ページ、またはフォルダのツリーに表示される名前。 グラフの場合、グラフの上部に表示される標準設定のタイトル。
[所有者]	アナリシス項目、ダッシュボード・ページ、またはフォルダを作成したユーザ。公開項目を変更する権限は所有者にしかない場合があります。
[サブタイプ]	グラフまたは標準レポートのタイプ。
[タイトル]	ダッシュボード・ページのヘッダに表示されるタイトル。 使用可能な場所 ：ダッシュボード・ページ
[タイプ]	アナリシス項目のタイプ。 使用可能な場所 ：アナリシス項目

[アナリシス項目の共有] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、グラフを共有して ALM クライアント外部で表示できます。



アクセス方法	アナリシス・ツリーでグラフを右クリックし、[アナリシス項目の共有] を選択します。
関連タスク	「グラフを生成する方法」(900 ページ)
参照項目	「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

第 34 章・アナリシスの紹介

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[アナリシス項目 URL をコピー (認証が必要)]	選択したグラフの URL をクリップボードにコピーします。 グラフを表示するには、ALM のユーザ名とパスワードを入力する必要があります。
[アナリシス項目公開 URL をコピー]	選択したグラフの URL をクリップボードにコピーします。 グラフを表示する際に認証は不要です。
[アナリシス項目公開 URL をリセット]	前に [アナリシス項目公開 URL をコピー] を選択した場合、このオプションを選択すると、選択したグラフの公開読み取り専用版へのアクセスを禁止できます。

第 35 章

グラフおよびダッシュボード・ページ

本章の内容

概念

「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(898 ページ)

タスク

「グラフを生成する方法」(900 ページ)

「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ)

リファレンス

「グラフの種類」(906 ページ)

「グラフおよびダッシュボード・ページのユーザ・インタフェース」(911 ページ)

概念

グラフおよびダッシュボード・ページの概要

HP Application Lifecycle Management (ALM) のグラフは、各種データ間の関係を分析および表示するのに役立ちます。要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントの各モジュールのデータを表すグラフを作成できます。

グラフの作成には、次の 3 つのオプションがあります。

定義済みグラフ：上記のいずれかのモジュールで作業する場合、定義済みグラフのリストから選択することにより、そのモジュールに関連するデータをすばやく分析できます。定義済みのグラフは、既存のモジュール・フィルタからのデータを表示します。定義済みグラフは、アナリシス・ビュー・モジュールに保存して後で参照できます。

アナリシス・ビュー・グラフ：上記のどれかのモジュールのデータに関連するグラフを、アナリシス・ビュー・モジュールで作成してカスタマイズできます。アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成する場合、データのフィルタ処理、さまざまな設定の変更、フォルダ内でのグラフの整理といった機能を利用できます。

グラフ・ウィザード：グラフ・ウィザードは、グラフの作成と設定を支援します。グラフ・ウィザードは、上記のいずれかのモジュールから起動することも、アナリシス・ビュー・モジュールから起動することもできます。

各モジュールでは、何種類かのグラフを使用できます。グラフの種類の詳細については、「[グラフの種類](#)」(906 ページ)を参照してください。

グラフの表示中は、各バーまたはセグメントが表しているレコードまでドリル・ダウンできます。

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成した後、複数のグラフを選択して配列し、[ダッシュボード・ページ](#)に並べて表示できます。

複数の ALM プロジェクトのデータが含まれたグラフを作成できます。

ALM Editions : クロス・プロジェクト・グラフは、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Editionでは使用できません。

関連する作業については、「グラフを生成する方法」(900 ページ) および「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ) を参照してください。

タスク

グラフを生成する方法

このタスクでは、ALM でグラフを使用してデータを分析する方法を説明します。

「グラフ・ウィザードを起動します。」(900 ページ)

「定義済みグラフの作成」(901 ページ)

「アナリシス・ビューでのグラフの作成」(901 ページ)

「グラフの設定」(901 ページ)

「グラフの表示」(901 ページ)

「グラフ・カテゴリの編集」(902 ページ)

「グラフ・データへのドリル・ダウン」(902 ページ)

「外部とのグラフの共有ALM」(903 ページ)

「ダッシュボード・ページの作成」(903 ページ)

1 グラフ・ウィザードを起動します。

グラフ・ウィザードは、グラフの作成および設定の変更に関連したステップを手順に沿って進めます。グラフ・ウィザードは、アナリシス・ビュー・モジュールから起動することも、ほかの ALM モジュールでの作業中に起動することもできます。

アナリシス・ビュー・モジュールから：ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択し、フォルダを右クリックし、[グラフ ウィザード] を選択します。

他のモジュールから：要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・ラボ、不具合のいずれかのモジュールで、[アナリシス] > [グラフ] > [グラフ ウィザード] を選択します。

ユーザ・インターフェースの詳細については、「グラフ・ウィザード」(927 ページ) を参照してください。

2 定義済みグラフの作成

要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・ラボ、不具合のいずれかのモジュールでの作業中に、その場でグラフを作成してモジュール・データを分析できます。

上記のモジュールのどれかで、[アナリシス] > [グラフ] を選択し、定義済みのグラフの 1 つを選択します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[表示] タブ グラフ・ウィンドウ」(916 ページ) を参照してください。

3 アナリシス・ビューでのグラフの作成

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成します。

- a **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。
- b **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし、[新規フォルダ] を選択します。
- c **新規グラフを作成します。** フォルダを右クリックし、[新規グラフ] を選択します。[新規グラフ] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ) を参照してください。

4 グラフの設定

データのフィルタ処理、グループ化、X 軸の値などのグラフの設定を指定します。

[設定] タブをクリックします。ユーザ・インターフェースの詳細については、「[設定] タブ グラフ」(912 ページ) を参照してください。

使用可能な場所：アナリシス・ビュー・モジュール

5 グラフの表示

次のいずれかを使用します。


アナリシス・ビュー・モジュールから：[表示] タブをクリックします。

他のモジュールから：モジュールのメニューで、[アナリシス] > [最近の利用] を選択し、最近使用したグラフを選択します。選択したグラフがアナリシス・ビュー・モジュールで開きます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「[表示] タブ グラフ・ウィンドウ」(916 ページ) を参照してください。

6 グラフ・カテゴリの編集

グループ分けまたはX軸のフィールドで値をグループ化し、結合したデータを1つのカテゴリとして表示できます。

- a [表示] タブまたはグラフ・ウィンドウで、[カテゴリの編集] 矢印  をクリックし、使用可能なオプションの1つを選択します。
- b カテゴリを作成するか、既存のカテゴリを編集します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[カテゴリの編集] ダイアログ・ボックス」(940 ページ) を参照してください。

例：

グラフの [グループ分け] フィールドで [優先度] が選択され、[優先度] フィールドに「低い」、「普通」、「高い」、「非常に高い」、「緊急」の5つの値があるとします。「普通」と「高い」を「重要」というカテゴリにまとめ、「非常に高い」と「緊急」を「致命的」というカテゴリにまとめることができます。この場合、グラフには「低い」、「重要」、「致命的」という3つのカテゴリに分類されたデータが表示されます。

7 グラフ・データへのドリル・ダウン

棒グラフおよび円グラフでは、選択した棒または扇形が表しているレコードまでドリル・ダウンして、個々のレコードの詳細を表示できます。

ALM Editions : クロス・プロジェクト・グラフは、Quality Center Starter Editionと Quality Center Enterprise Editionでは使用できません。

- a [表示] タブまたはグラフ・ウィンドウで、グラフの扇形または棒をクリックします。
- b 扇形または棒の部分が複数のプロジェクトのレコードを表している場合は、[プロジェクト選択] ダイアログ・ボックスが開きます。プロジェクトを選択します。

- c 別のプロジェクトのデータを表示するように選択した場合や、扇形または棒が別のプロジェクトだけからのレコードを表す場合は、プロジェクトが別のブラウザ・ウィンドウで開きます。該当する場合、ログインを促すメッセージが表示されます。レコードは関連する ALM モジュールに表示されます。
- d 扇形または棒の部分が、現在のプロジェクトだけからのレコードを表している場合や、現在のプロジェクトからデータを表示するように選択した場合は、[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスにレコードが表示されます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス」(944 ページ) を参照してください。

8 外部とのグラフの共有ALM

ALM ユーザやその他の人が、グラフの読み取り専用版を ALM 外部で表示できるようにします。

- a アナリシス・ツリーでグラフを右クリックし、[アナリシス項目の共有] を選択します。
- b [アナリシス項目の共有] ダイアログ・ボックスで、共有オプションを選択します。オプションの詳細については、「[アナリシス項目の共有] ダイアログ・ボックス」(895 ページ) を参照してください。

選択したグラフの URL がクリップボードにコピーされます。

- c URL を Web サイトまたは電子メールに貼り付けます。
- d URL をクリックすると、グラフの読み取り専用版が Web ブラウザで開きます。グラフにアクセスするたびに、最新の情報が表示されます。

使用可能な場所：アナリシス・ビュー・モジュール

9 ダッシュボード・ページの作成

いくつかのグラフをダッシュボード・ページにまとめて表示できます。作業の詳細については、「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ) を参照してください。

ダッシュボード・ページを作成する方法

この作業では、ダッシュボード・ページを作成して、複数のグラフを 1 つのビューに配列する方法を示します。

このタスクは次の手順で構成されています。

「前提条件」(904 ページ)

「ダッシュボード・ページの作成」(904 ページ)

「ダッシュボード・ページの設定」(905 ページ)

「ダッシュボード・ページの表示」(905 ページ)

1 前提条件

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフが定義されています。グラフの作成方法に関する作業の詳細については、「グラフを生成する方法」(900 ページ)を参照してください。

2 ダッシュボード・ページの作成

ダッシュボード・ツリーのフォルダにダッシュボード・ページを追加します。

- a **ダッシュボード・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[ダッシュボード ビュー] を選択します。
- b **ダッシュボード・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし、[新規フォルダ] を選択します。
- c **新規ダッシュボード・ページの作成**フォルダを右クリックし、[新規ページ] を選択します。ダッシュボード・ページに付ける名前を入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規ダッシュボード ページ] ダイアログ・ボックス」(937 ページ)を参照してください。
- d **[詳細]** タブをクリックし、ダッシュボード・ページの説明を追加します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[詳細] タブ」(893 ページ)を参照してください。

3 ダッシュボード・ページの設定

ダッシュボード・ページに含めたいグラフを配列します。

ダッシュボード・ビュー・モジュールで、ダッシュボード・ページを選択し、**[設定]** タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[設定]** タブ **ダッシュボード・ページ**」(922 ページ) を参照してください。

4 ダッシュボード・ページの表示

ダッシュボード・ページを生成して表示します。

ダッシュボード・ビュー・モジュールで、ダッシュボード・ページを選択し、**[表示]** タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[表示]** タブ **ダッシュボード・ページ**」(925 ページ) を参照してください。

リファレンス

グラフの種類

ALM では、要件、テスト、テスト・インスタンス、テスト実行、不具合、ビジネス・コンポーネントの各モジュールに対してグラフを生成できます。使用できるグラフの種類は、エンティティごとに異なります。

本項の内容

「要件グラフ」(907 ページ)

「テスト計画グラフ」(908 ページ)

「テスト・ラボ・グラフ」(909 ページ)

「不具合グラフ」(910 ページ)

「ビジネス・コンポーネント・モジュールのグラフ」(911 ページ)

要件グラフ

要件に対しては次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
要件カバレッジ・グラフ	<p>テスト・カバレッジのステータスごとに、現在 ALM プロジェクトに存在する要件の数を示します。</p> <p>注：</p> <p>要件モジュールからのみ使用可能です。</p> <p>カバレッジ・グラフは、要件サマリ・グラフの 1 つの種類です。別の X 軸値を選択すると、通常のカバレッジ・グラフが表示されます。</p>
要件進行状況グラフ	<p>一定時間内のある時点において、それまでに ALM プロジェクトに蓄積された要件の数を示します。</p> <p>X 軸に表示する時間間隔、および ALM がデータをグループ化する際に基準とする要件情報を指定します。また、要件数やその変化の表示の有無も指定します。</p>
要件サマリ・グラフ	<p>ALM プロジェクトに現在存在する要件の数を示します。</p> <p>X 軸に表示するデータのタイプ、および ALM がデータをグループ化する際に基準とする要件情報を指定します。</p>
要件トレンド・グラフ	<p>ALM プロジェクトの特定の要件フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を表示します。</p> <p>変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。</p> <p>各ステータスの変化は、このグラフには 1 回だけ記録されます。たとえば、フィールドが [未完了] から [成功]、そして [未完了] へと変化した場合、[未完了] への変化のみがこのグラフに記録されます。</p>

テスト計画グラフ

テストに対しては次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
テスト計画進行状況 グラフ	<p>一定時間内のある時点において、それまでに ALM プロジェクトに蓄積されたテストの数を示します。</p> <p>X 軸に表示する時間間隔、および ALM がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画情報を指定します。また、テスト数やその変化の表示の有無も指定します。</p>
テスト計画サマリ・ グラフ	<p>ALM プロジェクトに現在存在するテストの数を示します。</p> <p>X 軸に表示するデータのタイプ、および ALM がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画情報を指定します。</p>
テスト計画トレンド・ グラフ	<p>ALM プロジェクトの特定のテスト計画フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を示します。</p> <p>変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。</p> <p>各ステータスの変化は、このグラフには 1 回だけ記録されます。たとえば、フィールドが「準備完了」から「修復」、そして「準備完了」へと変化した場合、「準備完了」への変化のみがこのグラフに記録されます。</p>

テスト・ラボ・グラフ

テスト・インスタンスおよび実行に対しては次のグラフを作成できます。

テスト・セット・グラフ

グラフ	説明
テスト・セット 進行状況グラフ	<p>一定時間内のある時点において、それまでにテスト・セットに蓄積されたテストの数を示します。</p> <p>X 軸に表示する時間間隔、および ALM がデータをグループ化する際に基準とするテスト情報を指定します。また、テスト数やその変化の表示の有無も指定します。</p> <p>注: テスト・ラボ・モジュールでグラフを作成した場合、現在のテスト・セットだけとすべてのテストのどちらを対象とするかを選択できます。</p>
テスト・セット・サマリ・グラフ	<p>テスト・セットに属する ALM プロジェクトのテストの数を示します。</p> <p>X 軸に表示するデータのタイプ、および ALM がデータをグループ化する際に基準とするテスト計画とテスト・セット内のテストを指定します。</p> <p>注: テスト・ラボ・モジュールでグラフを作成した場合、現在のテスト・セットだけとすべてのテストのどちらを対象とするかを選択できます。</p>

テスト実行グラフ

グラフ	説明
テスト実行サマリ・グラフ	<p>プロジェクト内の実行のステータスを、テスト担当者ごとにグループ分けして示します。</p>

不具合グラフ

不具合に対しては次のグラフを作成できます。

グラフ	説明
不具合の期間グラフ	<p>ALM プロジェクト内の不具合が検出されてから現在までの経過時間を示します。不具合の経過時間は、不具合が報告された時点から開始し、解決して終了した時点で終わりとなります。</p> <p>ALM がデータをグループ化する際に基準とする不具合情報、および Y 軸に表示するデータを指定します。データを分割するために使用する時間間隔を指定します。</p> <p>「クローズ済み」の状態となっている不具合の期間とは、不具合が報告された日付から解決して終了した日付までの日数です。不具合が解決して終了した時点で「期間」は固定され、変化しなくなります。</p>
不具合進行状況グラフ	<p>一定時間内のある時点において、それまでに ALM プロジェクトに蓄積された不具合の数、あるいはそれらの不具合を修正するために要する予想時間または実際の時間を示します。</p> <p>X 軸に表示する時間間隔、および ALM がデータをグループ化する際に基準とする不具合情報、および Y 軸に表示するデータを指定します。また、不具合数やその変化の表示の有無も指定します。</p>
不具合サマリ・グラフ	<p>ALM プロジェクト内の不具合の数、あるいは不具合の修正に要する予想時間または実際の時間の要約を示します。</p> <p>X 軸に表示するデータのタイプ、Y 軸に表示するデータのタイプ、および ALM がデータをグループ化する際に基準とする不具合情報を指定します。</p>
不具合トレンド・グラフ	<p>ALM プロジェクトの特定の不具合フィールドに加えられた変更の表示期間ごとの履歴を表示します。</p> <p>変更の数を表示する対象となるフィールドおよびデータの表示対象期間を指定します。各優先度の変化は、このグラフには 1 回だけ記録されます。たとえば、フィールドが「緊急」から「非常に高い」、そして「緊急」へと変化した場合、「緊急」への変化のみがこのグラフに記録されます。</p>

ビジネス・コンポーネント・モジュールのグラフ

ビジネス・コンポーネント・モジュールで使用できるクイック・グラフの一覧は、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

グラフおよびダッシュボード・ページのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「[設定] タブ グラフ」(912 ページ)
- 「[表示] タブ グラフ・ウィンドウ」(916 ページ)
- 「[設定] タブ ダッシュボード・ページ」(922 ページ)
- 「[表示] タブ ダッシュボード・ページ」(925 ページ)
- 「グラフ・ウィザード」(927 ページ)
- 「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ)
- 「[新規ダッシュボード ページ] ダイアログ・ボックス」(937 ページ)
- 「[プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックス」(938 ページ)
- 「[カテゴリの編集] ダイアログ・ボックス」(940 ページ)
- 「[グラフの外観] ダイアログ・ボックス」(942 ページ)
- 「[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス」(944 ページ)

[設定] タブ グラフ

このタブでは、グラフに表示するデータを選択し、グラフの表示オプションを設定できます。

グラフ・データには複数のプロジェクトを含めることができます。

ALM Editions : クロス・プロジェクト・グラフは、Quality Center Starter Editionと Quality Center Enterprise Editionでは使用できません。

詳細
設定
表示

期間: 直近 7 日

粒度: 自動選択

表示オプション: 未処理データ 一定期間で変更

Y 軸: カウント テスト

グループ分け: ステータス

-フィルタ-

Y

Y

-プロジェクトの選択-


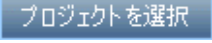
ドメイン	プロジェクト
DEFAULT	ALM_Demo

プロジェクトを選択

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し、グラフを選択します。 3 [設定] タブをクリックします。
重要な情報	使用可能な設定オプションは、グラフの種類によって異なります。

関連タスク	「グラフを生成する方法」(900 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(898 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[フィルタ/ソートを設定] [フィルタをクリア]: 選択した基準に基づいてデータをフィルタ処理できます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。</p> <p>現在のフィルタが [フィルタ] ボックスに表示されます。</p>
	<p>[プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックスが開き、[クロスプロジェクトの選択] グリッド内のプロジェクトのリストを変更できます。詳細については、「[プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックス」(938 ページ)を参照してください。</p>
[経過グループ分け]	<p>ある期間より前 (たとえば、6 か月より前) のすべての不具合を 1 つのカラムにまとめ、その期間内のすべての不具合を別のカラムにまとめることができます。あるいは、有効なすべての期間で不具合をまとめることもできます。</p> <p>不具合を 2 つのカラムにグループ分けするには、期間を選択します。有効な期間をすべて表示するには、[グループ化なし] を選択します。</p>
[表示オプション]	<p>[未処理データ] を選択すると、選択した期間における要件、テスト、不具合の数が表示されます。</p> <p>[一定時間で変更] を選択すると、選択した期間における要件、テスト、不具合の数の変化が表示されます。各レコードの値は 0 から始まります。</p> <p>使用可能な場所: 要件グラフ</p>
[グループ分け]	<p>グラフ・データのグループ分けの基準にする情報を特定するフィールドを選択します。データのグループ分けは、文字列またはリスト・フィールドによってのみ行うことができます。</p> <p>ヒント: クロス・プロジェクト・グラフの場合、データをプロジェクトごとにグループ分けするには [QC プロジェクト] を選択します。</p>

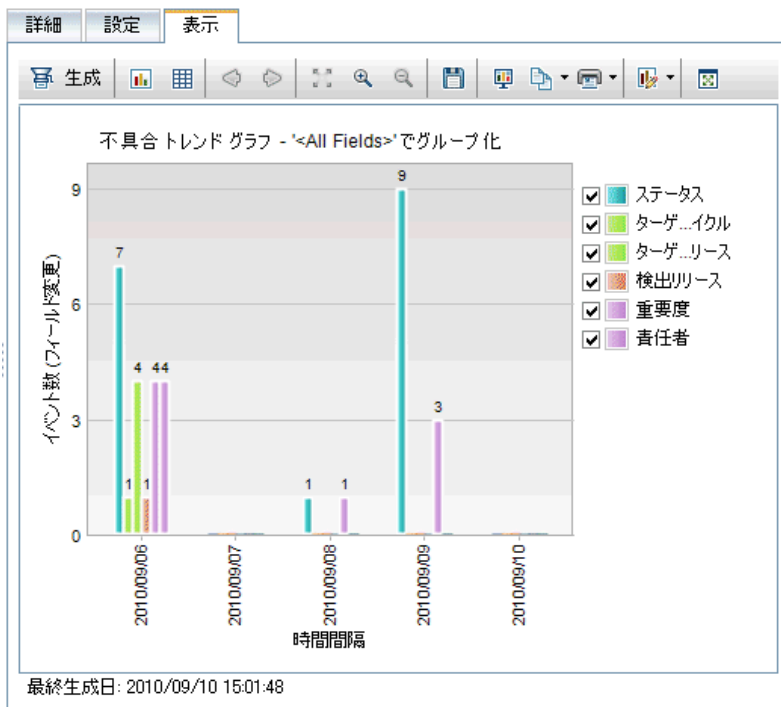
UI 要素	説明
<p>[期間]</p>	<p>進行状況およびトレンド・グラフで、グラフの対象となる期間を示します。ドロップダウン・リストから期間を選択します。</p> <p>[カスタム]：任意の 2 つの日付の間の期間。開始日と終了日を設定します。</p> <p>[週/月/四半期/年]：過去の任意の時点の一定の期間。矢印を使用して前後の期間に移動するか、期間の開始日または終了日をドロップダウン・カレンダーで設定します。</p> <p>[直近]：現在の日付で終了する期間。時間単位（日、週、月、四半期、年）を選択し、グラフの対象とする時間単位の数を設定します。</p> <p>[毎日]：プロジェクトの開始日から現在の日付までのすべての期間を対象とします。</p>
<p>[プロジェクトの選択]</p>	<p>グラフに含めるプロジェクト。</p> <p>グラフに含めるプロジェクトのリストを変更するには、[プロジェクトを選択] ボタンをクリックします。</p> <p>注：</p> <p>グラフにプロジェクトを追加したり、グラフからプロジェクトを削除したりするたびに、[フィルタ] ダイアログ・ボックスのフィールドが更新され、[X 軸]、[Y 軸]、[グループ分け] の各ボックスのドロップダウン・リストが更新されます。リストには、選択されているすべてのプロジェクトで同一のフィールドしか表示されません。同一フィールドとは、フィールド名、ラベル、データ型が一致するフィールドです。フィールドのカスタマイズの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>使用できなくなったフィールドを使ってフィルタ条件を定義していた場合、その条件は削除されます。</p> <p>[X 軸] ボックス、[Y 軸] ボックス、[グループ分け] ボックスで、使用できなくなったフィールドを選択していた場合、ドロップダウン・リストの最初のフィールドが選択されます。</p>
<p>[粒度]</p>	<p>進行状況およびトレンド・グラフで、データが X 軸上でグループ化される時間間隔を示します。</p>

UI 要素	説明
[完全パスを表示]	サマリ・グラフで、[X 軸] フィールドで [サブジェクト] または [計画: サブジェクト] を選択した場合、テスト・サブジェクト・フォルダにフル・パスが表示されます。
['カバーされない' 親を表示する]	要件グラフで、ステータスが「カバーされない」の親要件を含めるかどうかを選択します。
[X 軸]	サマリ・グラフで、グラフの X 軸に表示する情報を指定します。 ヒント: クロス・プロジェクト・グラフの場合、データをプロジェクト別に表示するには [QC プロジェクト] を選択します。
[Y 軸]	不具合グラフで、Y 軸に表示するデータを選択します。 項目の合計数（たとえば、修正中の不具合のカウンタ）を表示するには、[カウンタ] を選択します。 [次の合計] を選択し、数値フィールドを選択します。たとえば、不具合の修正に必要な推定時間を表示するには、[予定修正時間] を選択します。不具合の修正に実際に要した時間を表示するには、[実際の修正時間] を選択します

[表示] タブ グラフ・ウィンドウ





[表示] タブでは、アナリシス・ビュー・モジュールに保存されたグラフを表示し、グラフのデータを分析できます。








要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・ラボ、不具合の各モジュールの**グラフ・ウィンドウ**では、モジュールでの作業中に、定義済みのグラフを表示してデータを分析できます。







アクセス方法	<p>[表示] タブ： 次のいずれかを使用します。</p> <p>アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを選択し、[表示] タブをクリックします。</p> <p>要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントのいずれかのモジュールで、[アナリシス] > [最近使用した項目] を選択して、グラフを選択します。</p> <p>グラフ・ウィンドウ： 要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントのいずれかのモジュールで、[アナリシス] > [グラフ] を選択して、グラフの種類を選択します。</p>
関連タスク	<p>「グラフを生成する方法」(900 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(898 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

次に、ユーザ・インターフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>[生成]：グラフを更新して最新情報を表示します。</p>
	<p>[棒グラフ]：サマリ、トレンド、経過の各グラフで、グラフ形式を棒グラフに切り替えます。</p>
	<p>[円グラフ]：サマリ・グラフで、グラフ形式を円グラフに切り替えます。円グラフでは、X 軸のカテゴリが扇形のセグメントで表示されます。Y 軸の数量はセグメントの大きさで示されます。</p> <p>注：円グラフには [グループ分け] フィールドは表示されません。</p>
	<p>[線グラフ]：進行状況グラフで、グラフ形式を線グラフに切り替えます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[データ グリッド]: グラフの X 軸カテゴリおよびグループ分けカテゴリのマトリックスが作成されます。各グループ分けカテゴリの合計が表示される 合計行が追加されています。すべてのグラフの種類で使用できます。</p>
	<p>[合計値を表示/非表示]: 進行状況グラフで、他のすべてのグループ分けカテゴリの合計を表す <合計> カテゴリをグラフに表示するかどうかを指定します。</p> <p>ヒント: <合計> カテゴリを表示した後、凡例でそのラベルをクリックすると、カテゴリが非表示になります。</p>
	<p>[左へスクロール] / [右へスクロール]: グラフを左または右にスクロールします。これらのボタンは、[ズームイン] ボタンまたは [ズームアウト] ボタンを使用している場合に有効になります。</p>
	<p>[全て表示]: グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは、[ズームイン] ボタンまたは [ズームアウト] ボタンを使用している場合に有効になります。</p>
	<p>[ズームイン] / [ズームアウト]: グラフの表示倍率を変更します。</p>
	<p>[グラフ画像の保存]: 棒グラフ、円グラフ、線グラフを表示しているときに、グラフの画像を保存します。さまざまなグラフィック・ファイル形式を選択できます。</p> <p>[グラフ データの保存]: データ・グリッドを表示している場合に、グラフのデータを保存します。データは、Excel スプレッドシート、Word ファイル、HTML ドキュメント、またはテキスト・ファイルとして保存できます。</p>
	<p>[グラフの外観を設定]: [グラフの外観] ダイアログ・ボックスが開き、グラフのタイトル、色、表示をカスタマイズできます。詳細については、「[グラフの外観] ダイアログ・ボックス」(942 ページ)を参照してください。</p>





UI 要素	説明
	<p>[グラフをクリップボードへコピー] : 次のオプションがあります。</p> <p>[グラフをコピー (カラー)] : グラフをカラーでクリップボードにコピーします。</p> <p>[グラフのコピー (モノクロ)] : グラフをモノクロでクリップボードにコピーします。</p> <p>[全画面グラフをコピー (カラー)] : グラフを全画面に合うように拡大して、カラーでクリップボードにコピーします。</p> <p>[全画面グラフのコピー (モノクロ)] : グラフを全画面に合うように拡大して、モノクロでクリップボードにコピーします。</p>
	<p>[グラフの印刷] : 次のオプションがあります。</p> <p>[グラフの印刷 (カラー)] : グラフをカラーで印刷します。標準設定では、このボタンが選択されています。</p> <p>[グラフの印刷 (モノクロ)] : グラフをモノクロで印刷します。</p> <p>[グラフと詳細を印刷 (カラー)] : グラフとその説明をカラーで印刷します。</p> <p>[グラフと詳細の印刷 (モノクロ)] : グラフとその説明をモノクロで印刷します。</p>

UI 要素	説明
	<p>[カテゴリの編集] : [X 軸] フィールドと [グループ分け] フィールドの値をカテゴリにまとめることができます。次のオプションを使用できます。</p> <p>[X 軸カテゴリの編集] : [X 軸のカテゴリの編集] ダイアログ・ボックスが開き、結合した X 軸の値を 1 つのカテゴリとしてグラフに表示できます。このオプションは、サマリ・グラフおよび要件カバレッジ・グラフが対象の場合にのみ使用できます。標準設定では、このボタンが選択されています。詳細については、「[カテゴリの編集] ダイアログ・ボックス」(940 ページ) を参照してください。</p> <p>[X 軸カテゴリをリセット] : X 軸値の結合カテゴリを削除し、グラフ表示をリセットします。</p> <p>[カテゴリ別グループを編集] : [グループ化カテゴリの編集] ダイアログ・ボックスが開き、結合したグループ分けの値を 1 つのカテゴリとしてグラフに表示できます。詳細については、「[カテゴリの編集] ダイアログ・ボックス」(940 ページ) を参照してください。</p> <p>[カテゴリ別グループをリセット] : グループ分け値の結合カテゴリを削除し、グラフ表示をリセットします。</p> <p>詳細については、「[カテゴリの編集] ダイアログ・ボックス」(940 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[全画面表示] : 新しいウィンドウでグラフを開き、グラフの表示を最大化します。</p> <p>注 : 全画面モードでは、ツールバーが表示されたままになります。</p> <p>ヒント : 通常の見出しに戻るには、ウィンドウの右上隅にある [閉じる] ボタンをクリックします。</p> <p>使用可能な場所 : [表示] タブ</p>
<div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; display: inline-block;">保存</div>	<p>グラフ・ウィンドウで、[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開き、アナリシス・ビュー・モジュールのフォルダにグラフを保存できます。</p> <p>使用可能な場所 : グラフ・ウィンドウ</p>

UI 要素	説明
<グラフ領域>	<p>グラフ領域では次の動作を実行できます。</p> <p>棒グラフまたは円グラフでは、データをさらに詳しく分析するため、グラフのセグメントをクリックしてグラフのデータにドリルダウンできます。</p> <p>グラフの特定の領域を右クリックして色を変更できます。</p> <p>棒または扇形の上にマウスを置くと、その領域のカテゴリ、X 軸、Y 軸の値を示すツールヒントが表示されます。</p>
<グラフのタイトル>	<p>グラフのタイトルをクリックすると、グラフのタイトルと外観を変更できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[グラフの外観] ダイアログ・ボックス」(942 ページ)を参照してください。</p>
<凡例>	<p>線グラフまたは棒グラフでは、グラフのカテゴリとそれに対応する色が表示されます。</p> <p>凡例ボックスでは次の動作を実行できます。</p> <p>進行状況グラフおよびトレンド・グラフでは、カテゴリのチェックボックスをクリックして、グラフ上のカテゴリの表示と非表示を切り替えることができます。</p> <p>カテゴリを右クリックして色を変更できます。</p>

<p>アクセス方法</p>	<p>1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [ダッシュボード ビュー] を選択します。</p> <p>2 ダッシュボード・ツリーを展開し, ダッシュボード・ページを選択します。</p> <p>3 [設定] タブをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>公開ダッシュボード・ページに含めることができるのは, 共有グラフのみです。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「ダッシュボード・ページを作成する方法」 (904 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」 (876 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」 (898 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」 (879 ページ)</p>

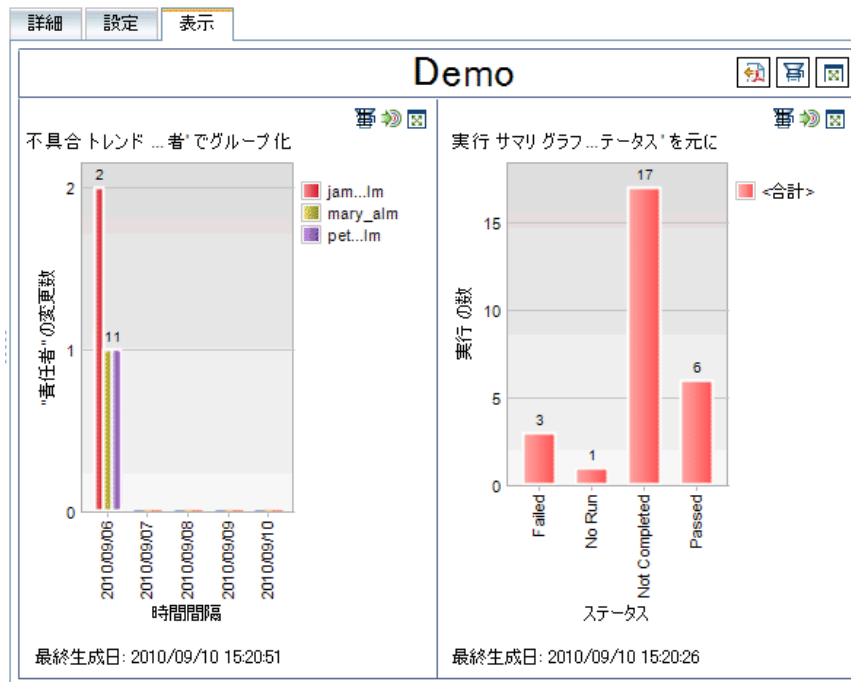
次に, ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は, 山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	<p>[ダッシュボード ページにグラフを追加]: 選択したグラフを [設定] 表示枠に追加します。グラフを表すプレースホルダが次の空いている行に作成されます。</p>
	<p>[更新]: グラフ・ツリーを更新して最新情報を表示します。</p>
	<p>[拡張]: グラフのサイズを行全体に拡大します。</p> <p>[縮小]: グラフのサイズを行の半分に縮小します。</p>
	<p>[削除]: ダッシュボード・ページからグラフを削除します。</p>

UI 要素	説明
< [設定] 表示枠 >	<p>現在のダッシュボード・ページ用に選択されたグラフのプレースホルダを表示します。</p> <p>ページ上でグラフを配列し直します。</p> <p>プレースホルダを新しい位置にドラッグします。</p> <p>プレースホルダを拡大または縮小します。</p> <p>注: ダッシュボード・ページに表示できるグラフの最大数は、DASHBOARD_PAGE_ITEM_LIMIT サイトパラメータによって制限されます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』</p>
< [グラフ・ツリー] 表示枠 >	<p>この表示枠には、アナリシス・ツリー内のグラフが表示されます。</p> <p>ツリーを展開して、グラフを [設定] 表示枠にドラッグします。</p>

[表示] タブ ダッシュボード・ページ





このタブでは、ダッシュボード・ページを表示し、グラフのデータにドリルダウンできます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [ダッシュボード ビュー] を選択します。 2 ダッシュボード・ツリーを展開し, ダッシュボード・ページを選択します。 3 [表示] タブをクリックします。
重要な情報	[表示] タブには, ダッシュボード・ページの 2 行分が表示されます。ダッシュボード・ページを上下にスクロールするには, 垂直スクロール・バーを使用します。

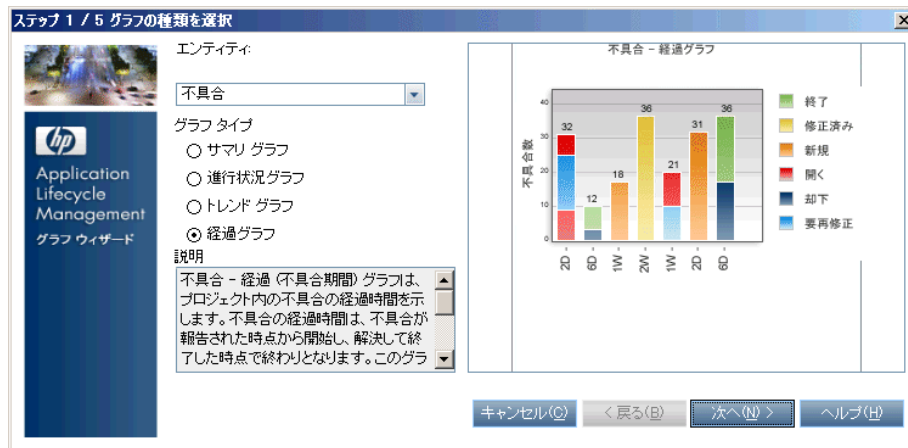
関連タスク	「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(898 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[PDF にエクスポート] : ダッシュボード・ページを PDF ファイルとして保存できます。
	[すべてのグラフをページに生成] / [グラフを生成] : ページ上のすべてのグラフまたは選択したグラフを更新し、最新情報を表示します。最終生成日の日時も更新します。
	[アナリシス ツリーのグラフへ移動] : アナリシス・ツリーで選択したグラフに移動し、グラフのデータを設定したり、グラフの表示設定を変更したりできるようにします。
	[全画面でページを表示] : ダッシュボード・ページを全画面モードで表示します。 [グラフを全画面で表示] : グラフを全画面モードで表示します。ツールバー・ボタンでは、グラフの表示の調整、グラフの保存、グラフの印刷を行うことができます。グラフの表示に対して行った調整は、グラフを再生成するとリセットされます。グラフの表示の詳細については、「[表示] タブ グラフ・ウィンドウ」(916 ページ) を参照してください。 ヒント : 標準ビューに戻るには、ページの右上角にある [閉じる] ボタンをクリックします。
<グラフ領域>	棒グラフまたは円グラフでは、グラフのセグメントをクリックしてグラフのデータにドリルダウンできます。
<凡例>	棒グラフまたは円グラフでは、グラフのカテゴリとそれに対応する色が表示されます。

🔗 グラフ・ウィザード

このウィザードでは、アナリシス・ビュー・モジュールで新しいグラフを作成して設定できます。



<p>アクセス方法</p>	<p>次のいずれかを使用します。</p> <p>要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合のいずれかのモジュールで、[アナリシス] > [グラフ] > [グラフ ウィザード] を選択します。</p> <p>ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択し、[アナリシス] > [グラフ ウィザード] を選択します。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「グラフを生成する方法」(900 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
<p>ウィザード・マップ</p>	<p>このウィザードには次のページがあります。</p> <p>[グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > ([テストセット オプションを選択] ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ</p>
<p>参照項目</p>	<p>「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(898 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

[グラフの種類を選択] ページ

このウィザード・ページでは、グラフのエンティティと種類を設定できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「グラフ・ウィザード」(927 ページ)
ウィザード・マップ	グラフ・ウィザードには次のページがあります。 [グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > ([テストセット オプションを選択] ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	説明
[エンティティ]	グラフの対象となる ALM エンティティ。 注: アナリシス・ビュー・モジュールからグラフ・ウィザードを起動した場合のみ使用できます。
[グラフ タイプ]	作成するグラフの種類。使用可能なグラフの種類は、グラフによって異なります。グラフの種類の詳細については、「グラフの種類」(906 ページ)を参照してください。
[説明]	選択したエンティティ/グラフの種類の説明です。

[プロジェクトを選択] ページ

このウィザード・ページでは、グラフに含めるプロジェクトを選択できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「グラフ・ウィザード」(927 ページ) ALM Editions : Quality Center Starter EditionとQuality Center Enterprise Editionでは使用できません。
ウィザード・マップ	グラフ・ウィザードには次のページがあります。 [グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > ([テストセット オプションを選択] ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[現在のプロジェクトを使用]	現在のプロジェクトだけをグラフに含めます。
[選択したプロジェクトを使用]	プロジェクト・グリッドに表示されているプロジェクトをグラフに含めます。プロジェクトの選択を変更するには、 [選択] ボタンをクリックします。
	[プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックスが開き、プロジェクト・グリッド内のプロジェクトを変更できます。詳細については、「[プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックス」(938 ページ) を参照してください。


【テスト セット オプションを選択】 ページ

このウィザード・ページでは、グラフに含めるテスト・セットを選択できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「グラフ・ウィザード」(927 ページ) 使用可能な場所 : テスト・ラボ・モジュール
ウィザード・マップ	グラフ・ウィザードには次のページがあります。 [グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > (【テスト セット オプションを選択】 ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【現在のテスト セットを表示】	現在のテスト・セットだけをグラフに含めます。
【全てのテスト セットを表示する】	すべてのテスト・セットをグラフに含めます。

 **[フィルタを選択] ページ**

このウィザード・ページでは、グラフのデータに適用されるフィルタを設定できます。

重要な情報	<p>このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「グラフ・ウィザード」(927 ページ)</p> <p>グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合、フィルタに使用できるのは、選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。ALM Editions : Quality Center Starter Editionと Quality Center Enterprise Editionでは、複数のプロジェクトをグラフに含めることはできません。</p>
ウィザード・マップ	<p>グラフ・ウィザードには次のページがあります。</p> <p>[グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > ([テストセット オプションを選択] ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[現在のフィルタを使用]	要件モジュール、テスト計画モジュール、テスト・ラボ・モジュール、または不具合モジュールからグラフ・ウィザードを起動した場合に使用可能です。データに適用されている現在のフィルタが使用されます。
[フィルタを使用しない]	選択したエンティティのすべてのレコードが含まれます。
[新規フィルタの定義]	新しいフィルタまたはクロス・フィルタを定義できます。[フィルタ] ボタンをクリックして [フィルタ] ダイアログ・ボックスを開き、フィルタを定義します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。

[グラフ属性の選択] ページ

このウィザード・ページでは、グラフの [グループ化フィールド] および [X 軸フィールド] 属性を設定できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「グラフ・ウィザード」(927 ページ)
ウィザード・マップ	<p>グラフ・ウィザードには次のページがあります。</p> <p>[グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > ([テストセット オプションを選択] ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[グループ化フィールド]	<p>グラフでデータをグループ分けするために使用するフィールド。進行状況グラフおよびトレンド・グラフの場合、履歴が有効になっているフィールドのみを選択できます。フィールドの履歴を有効にする方法については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合、選択できるのは、選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。データをプロジェクトごとにグループ分けするには、[QC プロジェクト] 値を選択します。ALM Editions : Quality Center Starter EditionとQuality Center Enterprise Editionでは、複数のプロジェクトをグラフに含めることはできません。</p>
[X 軸フィールド]	<p>サマリ・グラフを作成する場合に、X 軸に使用するフィールドを表します。</p> <p>グラフに複数のプロジェクトが含まれている場合、選択できるのは、選択されたプロジェクトのすべてに存在するフィールドだけです。X 軸にプロジェクトを表示するには、[QC プロジェクト] 値を選択します。ALM Editions : Quality Center Starter EditionとQuality Center Enterprise Editionでは、複数のプロジェクトをグラフに含めることはできません。</p>

 **【カバレッジの選択】 ページ**

このウィザード・ページでは、カバレッジのない要件を表示するかどうかを選択できます。

重要な情報	<p>このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「グラフ・ウィザード」(927 ページ)</p> <p>要件カバレッジの詳細については、「要件とテスト・カバレッジの概要」(526 ページ)を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：要件グラフ。</p>
ウィザード・マップ	<p>グラフ・ウィザードには次のページがあります。</p> <p>[グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > ([テストセット オプションを選択] ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
['カバールされない' 親を表示しない]	ステータスが「カバールされない」の親要件はグラフに含めません。
['カバールされない' 親を表示する]	すべての要件をグラフに含めます。

[名前とフォルダの選択] ページ

このウィザード・ページでは、グラフの名前とフォルダを設定できます。

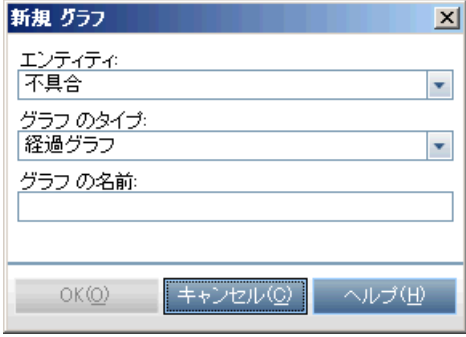
重要な情報	このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「グラフ・ウィザード」(927 ページ)
ウィザード・マップ	グラフ・ウィザードには次のページがあります。 [グラフの種類を選択] ページ > [プロジェクトを選択] ページ > ([テストセット オプションを選択] ページ) > [フィルタを選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ > ([カバレッジの選択] ページ) > [名前とフォルダの選択] ページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[グラフ名]	アナリシス・ツリーに表示されるグラフの名前。標準設定では、グラフ名はグラフのタイトルとして表示されます。
[宛先フォルダ]	グラフが配置されるアナリシス・ツリーのフォルダ。 新しいフォルダを作成するには、親フォルダを選択し、 [新規フォルダ] ボタンをクリックします。 注： 非公開フォルダの下に作成したグラフは、所有者のみが利用できません。公開フォルダの下に作成したグラフは、すべてのユーザが利用できます。

[新規グラフ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規グラフをアナリシス・ツリーに追加できます。



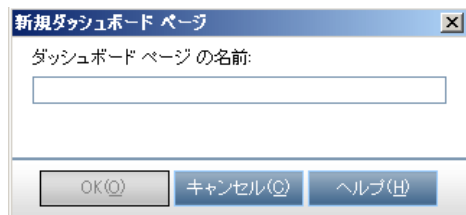
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 グラフを追加するフォルダを右クリックし、[新規グラフ] を選択します。
重要な情報	公開フォルダの下に作成したグラフは、所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成したグラフは、すべてのユーザーが利用できます。
関連タスク	<p>「グラフを生成する方法」(900 ページ)</p> <p>「PPT グラフを生成する方法」(949 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」(898 ページ)</p> <p>「PPT グラフの概要」(948 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【エンティティ】	グラフの対象となる ALM エンティティ。 注: このフィールドは、グラフの種類がプロジェクトの計画と追跡 (PPT) の場合には使用できません。
【グラフの名称】	アナリシス・ツリーに表示されるグラフの名称。標準設定では、グラフ名はグラフのタイトルとして使用されます。
【グラフのタイプ】	作成するグラフの種類。詳細については、「グラフの種類」(906 ページ) を参照してください。 注: このフィールドは、グラフの種類がプロジェクトの計画と追跡 (PPT) の場合には使用できません。

[新規ダッシュボード ページ] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規ダッシュボード・ページをダッシュボード・ツリーに追加できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、 [ダッシュボード ビュー] を選択します。 ページを追加するフォルダを右クリックし、 [新規ページ] を選択します。
重要な情報	非公開フォルダの下に作成したダッシュボード・ページは、所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成したダッシュボード・ページは、すべてのユーザが利用できます。
関連タスク	「ダッシュボード・ページを作成する方法」 (904 ページ)
参照項目	「グラフおよびダッシュボード・ページの概要」 (898 ページ)

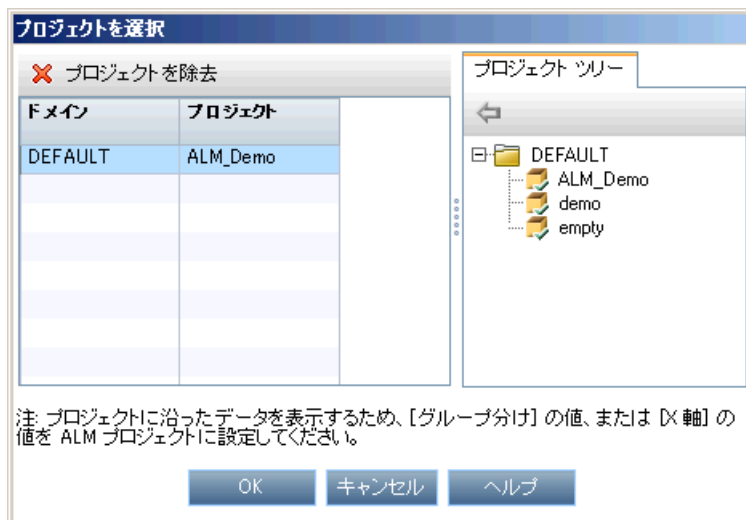
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[ダッシュボード ページ の名前]	<p>ダッシュボード・ツリーに表示されるダッシュボード・ページの名前。標準設定では、ダッシュボード・ページ名はダッシュボード・ページのタイトルとして表示されます。</p> <p>構文の例外：ダッシュボード・ページ名には、「¥」、「^」、「*」は使用できません。</p>

[プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックス



このダイアログ・ボックスでは、クロス・プロジェクト・グラフに含めるプロジェクトを選択できます。

ALM Editions : このダイアログ・ボックスは、Quality Center Starter EditionとQuality Center Enterprise Editionでは使用できません。



<p>アクセス方法</p>	<p>グラフ・ウィザードで : [プロジェクトを選択] ダイアログ・ボックスに進み、[選択] ボタンをクリックします。</p> <p>グラフの [設定] タブで : [プロジェクトを選択] ボタンをクリックします。</p>
<p>重要な情報</p>	<p>選択できるプロジェクトは、ユーザとしてリストされているプロジェクトのみです。</p> <p>サイト・パラメータの PROJECT_SELECTION_MAX_PROJECTS を設定すれば、グラフに含めることが可能な最大プロジェクト数を変更できます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「グラフを生成する方法」(900 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。


UI 要素	説明
 プロジェクトを除去	選択したプロジェクトをグリッドから削除します。 注： グリッド内のプロジェクトが 1 つだけの場合には削除できません。
	[追加]： 選択したプロジェクトまたはドメインをグリッドに追加します。ドメインを選択した場合、ドメインのすべてのプロジェクトがグリッドに追加されます。 ヒント： プロジェクトまたはドメインをドラッグまたはダブルクリックしてグリッドに追加できます。
[ドメイン] / [プロジェクト]	グラフに含めるように選択されたプロジェクトとそのドメインのリスト。
[プロジェクト ツリー]	ユーザとしてリストされているドメインとプロジェクトのリスト。

[カテゴリの編集] ダイアログ・ボックス

[グループ化カテゴリの編集] ダイアログ・ボックスでは、[グループ分け] フィールドで選択されたフィールドの値をグループ化し、結合したデータを 1 つのカテゴリとして表示できます。

[X 軸カテゴリの編集] ダイアログ・ボックスでは、[X 軸] フィールドで選択されたフィールドの値をグループ化し、結合したデータを 1 つのカテゴリとして表示できます。



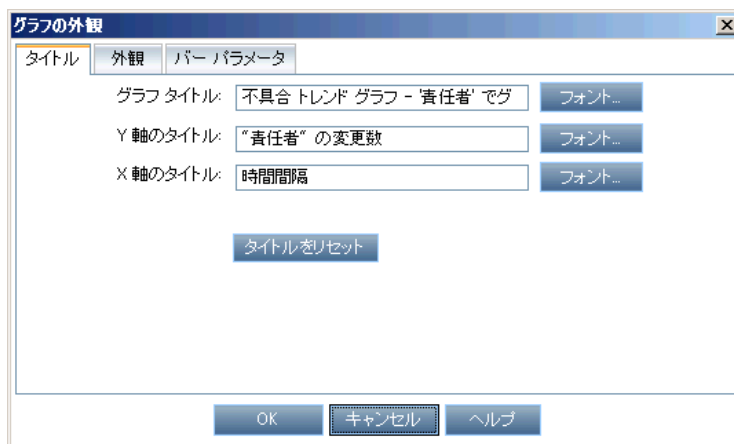
アクセス方法	[表示] タブまたはグラフ・ウィンドウのツールバーで、  をクリックします。
重要な情報	[X 軸カテゴリの編集] ダイアログ・ボックスは、サマリ・グラフおよび要件カバレッジ・グラフが対象の場合にのみ使用できます。
関連タスク	「グラフを生成する方法」(900 ページ)


次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
<p>新規(N)</p>	<p>[新規カテゴリ] ダイアログ・ボックスが開き、新しいカテゴリを作成できます。</p> <p>[カテゴリ名] ボックスに、カテゴリの名前を入力します。</p> <p>カテゴリに含めるフィールド値を選択するには、フィールド値を選択し、矢印ボタン（[>] または [<]）をクリックして、[指定可能なグループ] と [新規カテゴリにグループ化] との間を移動させます。二重矢印ボタン（[>>] または [<<]）をクリックすると、リスト間ですべてのフィールド値を一度に移動できます。また、フィールド値をドラッグしてリスト間を移動させることもできます。1つのフィールド値を複数のカテゴリに含めることはできません。</p>
<p>編集(E)</p>	<p>[カテゴリを編集] ダイアログ・ボックスが開き、選択したカテゴリを編集できます。</p>
<p>削除(D)</p>	<p>選択したカテゴリを削除します。</p>
<p>全てクリア(A)</p>	<p>すべてのカテゴリを削除します。</p>

[グラフの外観] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、グラフのタイトルと外観を変更できます。棒グラフの場合、棒の表示パラメータを指定できます。線グラフの場合、線の表示パラメータを指定できます。



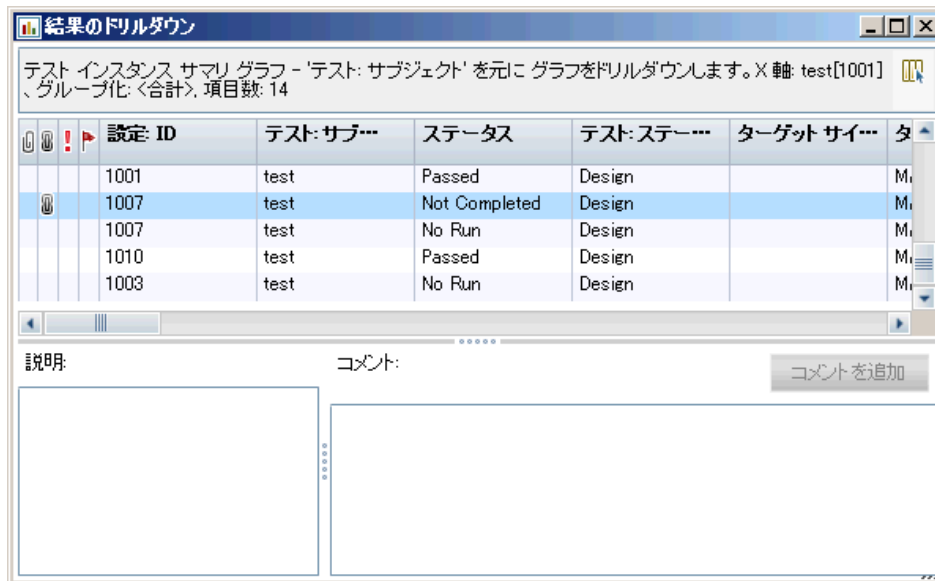
アクセス方法	[表示] タブまたはグラフ・ウィンドウのツールバーで、 [グラフの外観を設定]  をクリックするか、グラフのタイトルをクリックします。
関連タスク	「グラフを生成する方法」(900 ページ) 「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[外観] タブ	グラフの標準形式の設定、グラフの下部にあるラベルの向きの修正 (棒グラフおよび線グラフのみ)、X 軸に表示される日付の形式の指定、3D エフェクトを使ったグラフの表示、グラフ内のさまざまなコンポーネントの色の変更を実行できます。
[バーパラメータ] タブ	棒グラフで、それぞれの棒について値を表示するかどうかを指定します。棒の幅を調整することもできます。棒ごとの値を表示する場合、表示されるデータや、棒に対して表示される位置を変更できます。
[線パラメータ] タブ	線グラフで、枠線を表示するかどうかを指定します。
[タイトル] タブ	<p>グラフ、Y 軸、または X 軸のタイトルを変更できます。</p> <p>[フォント] : タイトルのフォントまたは色を変更できます。</p> <p>[タイトルをリセット] : 元のタイトルを復元できます。</p> <p>注 : 円グラフの場合、変更できるのはグラフのタイトルのみです。</p>


[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、グラフの棒または扇形を構成するレコードを表示できます。



アクセス方法	グラフの棒または扇形をクリックします。
---------------	---------------------

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	[カラムを選択] : [カラムを選択] ダイアログ・ボックスが開き、データ・グリッドに表示するフィールドとその順序を指定できます。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。
<セグメント・パラメータ>	データ・グリッドの上であり、選択したグラフ領域のパラメータと、表示されているレコードの数を示します。

UI 要素	説明
<データ・グリッド>	<p>選択したグラフ領域に含まれるレコードのリスト。</p> <p>特定のレコードを開くには、レコードをダブルクリックします。[<モジュール>の詳細] ダイアログ・ボックスが開き、レコードを表示または編集できます。ナビゲーション・ボタンを使用して、ドリルダウン結果を参照します。</p>
[エクスポート]	<p>データ・グリッド内のレコードを右クリックして、レコードを HTML またはテキストファイルにエクスポートします。</p>

第 36 章

プロジェクトの計画と追跡（PPT）グラフ

本章の内容

概念

「PPTグラフの概要」（948 ページ）

タスク

「PPT グラフを生成する方法」（949 ページ）

リファレンス

「PPT グラフのユーザ・インターフェース」（951 ページ）

概念

PPTグラフの概要

PPT を使用する場合、リリース・モジュールの KPI データに関連するグラフを、アナリシス・ビュー・モジュールで作成してカスタマイズできます。アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成する場合、データのフィルタ処理、さまざまな設定の変更、フォルダ内でのグラフの整理といった機能を利用できます。

グラフの表示中は、各バーまたはセグメントが表しているレコードまでドリル・ダウンできます。

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成した後、複数のグラフを選択して配列し、**ダッシュボード・ページ**に並べて表示できます。

ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Editionでは使用できません。

関連するタスクについては、「PPT グラフを生成する方法」(949 ページ) および「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ) を参照してください。

タスク

PPT グラフを生成する方法

このタスクでは、ALM でグラフを使用して PPT データを生成する方法を説明します。

ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「前提条件」(950 ページ)
- 「アナリシス・ビューでのグラフの作成」(950 ページ)
- 「グラフの設定」(950 ページ)
- 「グラフの表示」(950 ページ)
- 「ダッシュボード・ページの作成」(950 ページ)

1 前提条件

[管理] の下で, [リリース] を選択します。リリース, リリース・スコープ・アイテム, マルストーン, KPI を定義します。タスクの詳細については, 「PPT の使用方法」(193 ページ) を参照してください。

2 アナリシス・ビューでのグラフの作成

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを作成します。

- a **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [アナリシス ビュー] を選択します。
- b **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし, [新規フォルダ] を選択します。
- c **新規グラフを作成します。** フォルダを右クリックします。[新規リリース アナリシス] を選択し, PPT グラフを選択します。[新規グラフ] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[新規グラフ] ダイアログ・ボックス」(935 ページ) を参照してください。

3 グラフの設定

アナリシス・ビュー・モジュールでグラフを選択し, [設定] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[設定] タブ PPT グラフ」(952 ページ) を参照してください。

4 グラフの表示

アナリシス・ビュー・モジュールで, アナリシス・ツリーからグラフを選択し, [表示] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「[表示] タブ PPT グラフ」(955 ページ) を参照してください。

5 ダッシュボード・ページの作成

いくつかのグラフをダッシュボード・ページにまとめて表示できます。タスクの詳細については, 「ダッシュボード・ページを作成する方法」(904 ページ) を参照してください。

リファレンス

PPT グラフのユーザ・インタフェース

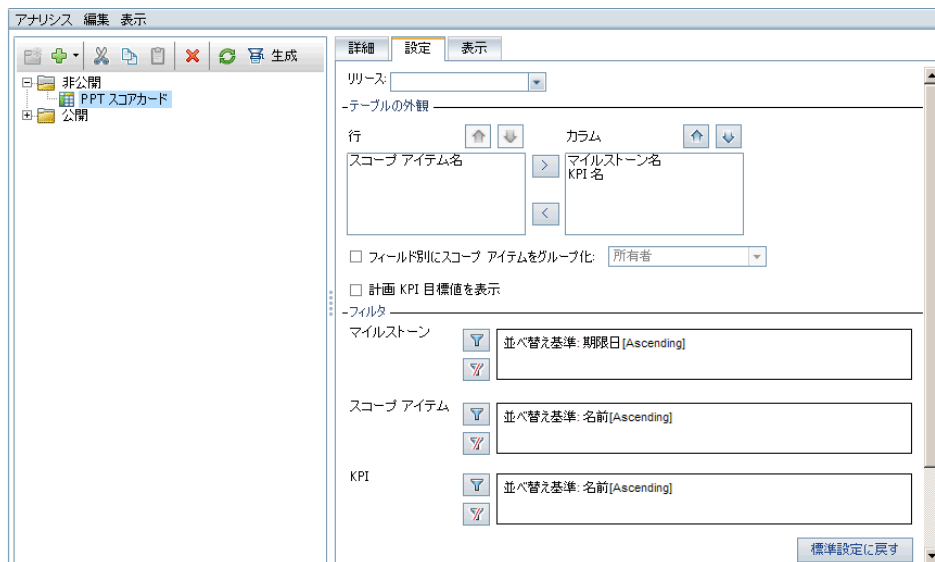
本項の内容

「[設定] タブ PPT グラフ」(952 ページ)

「[表示] タブ PPT グラフ」(955 ページ)

🔑 [設定] タブ PPT グラフ

このタブでは、グラフに表示するプロジェクトの計画と追跡 (PPT) データを選択し、グラフの表示オプションを設定できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し、PPT グラフを選択します。 3 [設定] タブをクリックします。
重要な情報	<p>使用可能な設定オプションは、グラフの種類によって異なります。</p> <p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition では使用できません。</p>
関連タスク	<p>「PPT グラフを生成する方法」(949 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「PPT グラフの概要」(948 ページ)</p> <p>「PPT リリースの概要」(192 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

KPI グラフの設定






重要な情報	グラフによっては一部のフィールドは使用できません。
--------------	---------------------------

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
[リリース]	リリース名。
[マイルストーン]	マイルストーン名。
[スコープアイテム]	スコープ・アイテム名。
[KPI]	KPI 名。
[内訳]	グラフ・データのグループ分けの基準にする情報を特定するフィールドを選択します。
[最終結果を表示]	最終実行日付に基づいてデータ結果を表示します。
[次の日付までのデータ更新]	選択した日付に基づいてデータ結果を表示します。
[期間]	データを表示する期間。
[粒度]	データの時間分解能。使用できる値は、[日]、[週]、[月]、[年]、[自動選択] (サーバが最適な時間分解能を決定) です。
[集計関数]	データを時間分解能でグループ化するために使用される集計関数。使用できる値は、[最後]、[平均]、[最大]、[最小] です。


スコアカード・グラフの設定

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	行またはカラムの名前がスコアカード・テーブルに表示される順序を設定します。
	フィールドの選択を [行] と [カラム] の間で切り替えます。
	[フィルタ/ソートを設定]: 選択した基準に基づいて、[マイルストーン]、[スコープアイテム]、または [KPI] データの絞り込みと並べ替えを実行できます。フィルタ処理の詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
	[フィルタをクリア]: 定義されたフィルタをクリアします。
	標準のフィルタ定義に戻します。
[カラム]	スコアカード・テーブルに現在表示されているカラムのリストを表示します。
[計画 KPI 目標値を表示]	各 KPI に対する許容しきい値をスコアカード・テーブルの [計画] カラムに表示します。 注: [計画] カラムが表示されるのは、このオプションを有効にした場合のみです。
[フィールド別にスコープアイテムをグループ化]	指定したスコープ・アイテム・フィールドに基づいてグループ化します。
[リリース]	リリース名。
[行]	スコアカード・テーブルに現在表示されている行のリストを表示します。
[最終結果を表示]	最終実行日付に基づいてデータ結果を表示します。
[次の日付までのデータ更新]	選択した日付に基づいてデータ結果を表示します。

[表示] タブ PPT グラフ

このタブでは、プロジェクトの計画と追跡（PPT）グラフを表示できます。



アナリシス 編集 表示

詳細 設定 表示

生成 生成

PPT スコアカード










	マイルストーン1		マイルストーン2		マイルストーン3	
	1日あたりの修正不具合		自動化テスト		実行済みテスト	
	計画	実績	計画	実績	計画	実績
スコアアイテム1	5		80 %		100 %	





* 次の日付までのデータを更新。KPI は、日次ベースで事前に定義された時間ごとに計算されます。マイルストーンが期と KPI 計算が終了します。


アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 アナリシス・ツリーを展開し、PPT グラフを選択します。 [表示] タブをクリックします。
重要な情報	<p>使用可能な表示オプションは、グラフの種類によって異なります。</p> <p>ALM Editions : PPT に関連する機能は、Quality Center Starter Edition, Quality Center Enterprise Edition, Performance Center Edition ではありません。</p>
関連タスク	<p>「PPT グラフを生成する方法」(949 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「PPT グラフの概要」(948 ページ)</p> <p>「PPT リリースの概要」(192 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

第 36 章・プロジェクトの計画と追跡 (PPT) グラフ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
 生成	[生成] : グラフを更新して最新情報を表示します。
	[棒グラフ] : グラフ形式を棒グラフに切り替えます。
	[円グラフ] : グラフ形式を円グラフに切り替えます。 円グラフでは、X 軸のカテゴリが扇形のセグメントで表示されます。Y 軸の数量はセグメントの大きさを示されます。 注 : 円グラフには [グループ分け] フィールドは表示されません。
	[線グラフ] : グラフ形式を線グラフに切り替えます。
	[データグリッド] : グラフの X 軸カテゴリおよびグループ分けカテゴリのマトリックスが作成されます。各グループ分けカテゴリの合計が表示される合計行が追加されています。
	[合計値を表示/非表示] : 他のすべてのグループ分けカテゴリの合計を表す <合計> カテゴリをグラフに表示するかどうかを指定します。 ヒント : <合計> カテゴリを表示した後、凡例でそのラベルをクリックすると、カテゴリが非表示になります。
	[左へスクロール] / [右へスクロール] : グラフを左または右にスクロールします。これらのボタンは、[ズームイン] ボタンまたは [ズームアウト] ボタンを使用している場合に有効になります。
	[全て表示] : グラフを標準のサイズに戻します。このボタンは、[ズームイン] ボタンまたは [ズームアウト] ボタンを使用している場合に有効になります。
	[ズームイン] / [ズームアウト] : グラフの表示倍率を変更します。

UI 要素	説明
	<p>[グラフ画像の保存] : グラフの画像を保存します。さまざまなグラフィック・ファイル形式を選択できます。</p> <p>[グラフ データの保存] : データ・グリッドを表示している場合に、グラフのデータを保存します。データは、Excel スプレッドシート、Word ファイル、HTML ドキュメント、またはテキスト・ファイルとして保存できます。</p>
	<p>[グラフの外観を設定] : [グラフの外観] ダイアログ・ボックスが開き、グラフのタイトル、色、表示をカスタマイズできます。詳細については、「[グラフの外観] ダイアログ・ボックス」(942 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[グラフをクリップボードへコピー] : 次のオプションがあります。</p> <p>[グラフをコピー (カラー)] : グラフをカラーでクリップボードにコピーします。</p> <p>[グラフのコピー (モノクロ)] : グラフをモノクロでクリップボードにコピーします。</p> <p>[全画面グラフをコピー (カラー)] : グラフを全画面に合うように拡大して、カラーでクリップボードにコピーします。</p> <p>[全画面グラフのコピー (モノクロ)] : グラフを全画面に合うように拡大して、モノクロでクリップボードにコピーします。</p>
	<p>[グラフの印刷] : 次のオプションがあります。</p> <p>[グラフの印刷 (カラー)] : グラフをカラーで印刷します。標準設定では、このボタンが選択されています。</p> <p>[グラフを印刷 (モノクロ)] : グラフをモノクロで印刷します。</p> <p>[グラフと詳細を印刷 (カラー)] : グラフとその説明をカラーで印刷します。</p> <p>[グラフと詳細の印刷 (モノクロ)] : グラフとその説明をモノクロで印刷します。</p>

UI 要素	説明
	<p>[全画面表示]：新しいウィンドウでグラフを開き、グラフの表示を最大化します。</p> <p>注：全画面モードでは、ツールバーが表示されたままになります。</p> <p>ヒント：通常の表示に戻るには、ウィンドウの右上隅にある [閉じる] ボタンをクリックします。</p> <p>使用可能な場所：[表示] タブ</p>
<p><グラフ領域></p>	<p>グラフ領域では次の動作を実行できます。</p> <p>グラフの特定の領域を右クリックして色を変更できます。</p> <p>グラフのセグメントの上にマウスを置くと、追加情報を示すツールヒントが表示されます。</p> <p>[経過時間ごとのブレイクダウン] リンクをクリックすると、グラフのデータにドリルダウンして、期間内の特定の点を表示できます。経過時間ごとのブレイクダウン・グラフを開きます。詳細については、「経過時間ごとのブレイクダウン・グラフ」(232 ページ)を参照してください。</p>
<p>< KPI セル ></p>	<p>KPI セルでは次の動作を実行できます。</p> <p>KPI セルをクリックして、このセルのグラフ表現を表示できます。詳細については、「KPI グラフ」(230 ページ)を参照してください。</p> <p>KPI セルの上にマウスを置くと、KPI のしきい値を示すツールヒントが表示されます。</p> <p>使用可能な場所：[表示] タブ・リリース・スコアカード</p>
<p><凡例></p>	<p>グラフのカテゴリとそれに対応する色を表示します。カテゴリをクリックして、グラフ上のカテゴリの表示と非表示を切り替えることができます。</p>

第 37 章

プロジェクト・レポート

本章の内容

概念

「プロジェクト・レポートの概要」(960 ページ)

タスク

「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ)

「カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法」(965 ページ)

リファレンス

「プロジェクト・レポートのユーザ・インターフェース」(966 ページ)

概念

プロジェクト・レポートの概要

プロジェクト・レポートでは、HP Application Lifecycle Management (ALM) プロジェクトからの情報を含む包括的なレポートをデザインして生成できます。

プロジェクト・レポートでは、指定した ALM エンティティのレコードを内容とする、セクションとサブセクションを定義します。選択したベースラインのデータを表示するように選択できます。

各レポート・セクションに対して、セクションのフィールドとレイアウトを決定するテンプレートを割り当てます。また、レポート全体の外観を決定するドキュメント・テンプレートとスタイル・テンプレートを割り当てます。

注：レポート・テンプレートは、プロジェクトのカスタマイズで管理します。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

プロジェクト・レポートは、HTML または Microsoft Word 形式で生成できます。

プロジェクト・レポートの作成の詳細については、「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ) を参照してください。

注：レポートの作成には、標準レポートまたはドキュメント・ジェネレータを使用する方法もあります。詳細については、「標準レポートの概要」(1002 ページ) と「プロジェクト・ドキュメントの概要」(1034 ページ) を参照してください。

タスク

プロジェクト・レポートを作成する方法

このタスクでは、プロジェクト・レポートを作成する方法を示します。

プロジェクト・レポートの詳細については、「プロジェクト・レポートの概要」(960 ページ)を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

- 「プロジェクト・レポートの作成」(961 ページ)
- 「セクションの定義」(961 ページ)
- 「ドキュメント・レベル設定の定義」(962 ページ)
- 「セクションの設定」(963 ページ)
- 「テンプレート・レポートのプレビュー」(963 ページ)
- 「テンプレート・レポートの生成」(964 ページ)

1 プロジェクト・レポートの作成

- a **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。
- b **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし、[新規フォルダ] を選択します。
- c **新規プロジェクト・レポートを作成します。** フォルダを右クリックし、[新規プロジェクト レポート] を選択します。[新規プロジェクト レポート] ダイアログ・ボックスに入力します。

2 セクションの定義

- a **プロジェクト・レポートを選択します。** アナリシス・ビュー・モジュールでプロジェクト・レポートを選択し、[設定] タブをクリックします。
- b **セクションを追加します。** [ドキュメント] ルート・ノードを右クリックし、[レポート セクションの追加] を選択します。レポートに含める ALM エンティティを選択します。


- c **サブセクションを追加します。**セクションにフルページ・テンプレートが割り当てられている場合、関連情報のサブセクションを追加できます。たとえば、要件にリンクされた不具合のサブセクションや、不具合の添付ファイルのサブセクションを追加できます。

各セクションには複数のサブセクションを含めることができ、必要な場合はサブセクションの下にサブセクションを追加することもできます。

レポート・ツリーでセクションを右クリックし、[レポート セクションの追加] を選択します。

3 ドキュメント・レベル設定の定義

[ドキュメント] ルート・レベルでは、テンプレートを割り当て、プロジェクト・レポートのデザインと内容全体に適用される設定を定義します。

- a [設定] タブで、[ドキュメント] ルート・ノードを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[設定] タブプロジェクト・レポート」(967 ページ) を参照してください。
- b ドキュメントの出力書式を設定します。
- c ドキュメント、スタイル、履歴の各テンプレートを割り当てるか、標準のテンプレートをそのまま使用します。テンプレート・タイプの詳細については、「プロジェクト・レポート・テンプレートについて」(367 ページ) を参照してください。
- d [ドキュメント フィールド値の編集]  をクリックして、ドキュメント・テンプレートに定義されている、タイトル・ページ、ヘッダとフッタといったエリアに、カスタム・フィールドの値を入力します。
- e ベースライン・レポートを作成するには、[ベースラインを選択] を選択し、ベースラインを選択します。
- f [テキストと画像添付ファイルを組み込む] を選択すると、テキストと画像の添付ファイルがレポートに埋め込まれます。選択しないと、テキストと画像の添付ファイルへのリンクがレポートに挿入されます。このリンクを使用すると、ファイルが別ウィンドウで開きます。

注: 添付ファイルを表示するには、添付ファイルのサブセクションをレポートに追加する必要があります。

- g [コンテンツの表を自動更新] を選択すると、レポート出力の目次エントリが ALM によって更新されます。

注：目次を表示するには、ドキュメント・テンプレートに [TOC] フィールドが含まれる必要があります。

4 セクションの設定

- a [設定] タブで、レポート・ツリー内のセクションまたはサブセクションを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[設定] タブ プロジェクト・レポート」(967 ページ) を参照してください。
- b 必要に応じて、セクションのタイトルを変更します。
- c プロジェクト・テンプレートを割り当てます。

注：ユーザ・グループの権限によっては、カスタム・テンプレートを割り当てられる場合もあります。カスタム・テンプレートの作成の詳細については、「カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法」(965 ページ) を参照してください。

- d 該当する場合、データ・フィルタを定義して、セクションに含めるレコードを定義します。
- e 階層的に表示されるエンティティ (要件、テストなど) がトップレベル・セクションに含まれる場合は、レコードをレポート内で階層的に配列するかどうかを選択します。

5 テンプレート・レポートのプレビュー

[プレビュー] をクリックして、レポートのプレビューを表示します。

プレビューには、レポートの各セクションのレコードが 5 個まで表示されます。プレビューは、[ドキュメント] ルート・ノードで選択した出力フォーマットで表示されます。

6 テンプレート・レポートの生成

[生成] をクリックします。[出力フォーマット] フィールドで選択したファイル形式で、レポートが保存されて開かれます。

例：

1 不具合

1.1 不具合 ID : 1 - Password is empty

Field Label	Field Value	Field Label	Field Value
実際の修正時間:		更新日時:	2010/09/10 14:59:00
責任者:	james_alm	予定終了バージョン:	
終了バージョン:		優先度:	
終了日:		プロジェクト:	78
不具合 ID:	1	再現可能:	Y
検出者:	alm_admin2	重要度:	2-普通
検出サイクル:		ステータス:	修正済み
検出リリース:	リリース 3	サブジェクト:	1001
検出されたバージョン:		サマリ:	Password is empty
検出日:	2010/09/06	ターゲット サイクル:	サイクル1
予定修正時間:		ターゲット リリース:	リリース 3

説明

--

コメント

--



カスタム・レポート・テンプレートを作成する方法

このタスクでは、個人用のカスタム・テンプレートを作成する方法を説明します。ユーザ・グループの権限によっては、カスタム・テンプレートをレポートのセクションとサブセクションに割り当てられる場合もあります。


「既存のレポート・テンプレートのコピーの作成」(965 ページ)

「新規カスタム・レポート・テンプレートの作成」(965 ページ)

既存のレポート・テンプレートのコピーの作成

- 1 変更したいプロジェクトまたはカスタム・テンプレートの隣の **[テンプレートのダウンロード]** ボタン  をクリックします。テンプレートのコピーがコンピュータのファイル・システムに保存され、Microsoft Word で開かれます。
- 2 [テンプレートクリエータ] タブのコマンドを使用して、Microsoft Word でテンプレートを変更します。[テンプレートクリエータ] タブの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- 3 テンプレート・ファイルを保存して閉じます。
- 4 新しいカスタム・テンプレートをレポート・セクションに割り当てるには、レポート・セクションを選択します。次に、**[カスタム テンプレート]** を選択するか、**[カスタム テンプレートのアップロード]**  をクリックし、テンプレート・ファイルを選択します。

新規カスタム・レポート・テンプレートの作成

- 1 レポート・ツリーで、カスタム・テンプレートを作成するレポート・セクションを選択します。
- 2 **[テンプレートクリエータ]** をクリックします。Microsoft Word が開き、**[テンプレートクリエータ]** タブが表示されます。選択したレポート・セクションに対する新しいテンプレート・ファイルをデザインします。テンプレート・クリエータでの作業の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。
- 3 テンプレート・ファイルを保存して閉じます。
- 4 新しいカスタム・テンプレートをレポート・セクションに割り当てるには、レポート・セクションを選択します。次に、**[カスタム テンプレート]** を選択するか、**[カスタム テンプレートのアップロード]**  をクリックし、テンプレート・ファイルを選択します。

リファレンス

プロジェクト・レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

「[設定] タブ プロジェクト・レポート」(967 ページ)

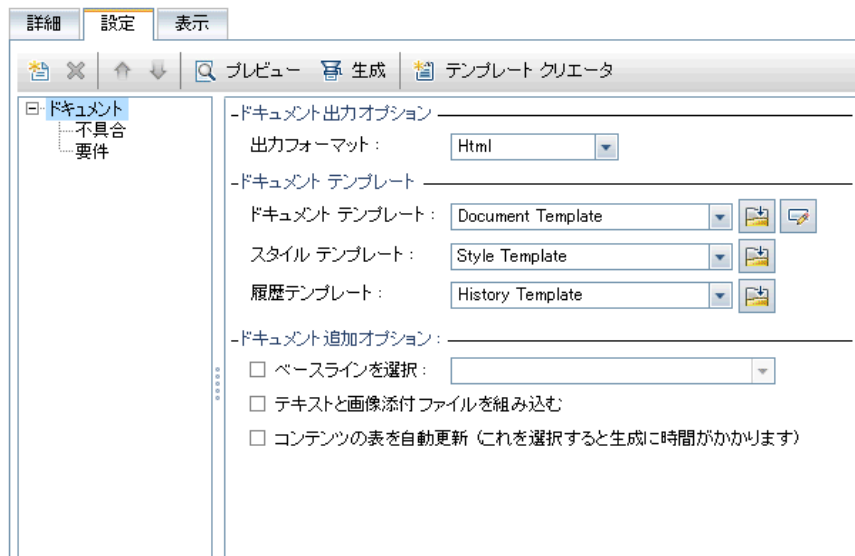
「[新規プロジェクト レポート] ダイアログ・ボックス」(972 ページ)

「[レポート セクションの追加] ダイアログ・ボックス」(973 ページ)

「[ドキュメント テンプレート フィールド値の編集] ダイアログ・ボックス」
(974 ページ)

[設定] タブ プロジェクト・レポート







このタブでは、ドキュメント・レベルの設定を定義し、レポート・セクションを設定できます。






アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し, プロジェクト・レポートを選択します。 3 [設定] タブをクリックします。
重要な情報	使用可能な設定オプションは, レポート・ツリーで選択されているセクションによって異なります。
関連タスク	<p>「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「プロジェクト・レポートの概要」(960 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

第 37 章・プロジェクト・レポート

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
	<p>[レポートセクションの追加]：[レポートセクションの追加] ダイアログ・ボックスが開き、レポートにセクションを追加できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規プロジェクトレポート] ダイアログ・ボックス」（972 ページ）を参照してください。</p> <p>注：</p> <p>サブセクションを追加できるのは、フルページ・テンプレートが割り当てられたセクションに対してだけです。</p> <p>必要な場合、サブセクションの下にさらにサブセクションの階層を追加することもできます。</p> <p>各レベルに複数のサブセクションを含めることができます。</p>
	<p>[レポートセクションの削除]：選択したセクションを削除します。</p> <p>注：セクションを削除すると、そのサブセクションもすべて削除されます。</p>
	<p>[<タイプ>テンプレートのダウンロード]：[レポートテンプレートファイルのダウンロード] ダイアログ・ボックスが開き、選択したテンプレート・ファイルのコピーを表示して編集できます。</p> <p>レポート・セクションで、編集したテンプレートをカスタム・テンプレートとして割り当てることができます。</p>
	<p>[ドキュメント フィールド値の編集]：[ドキュメントテンプレートフィールド値の編集] ダイアログ・ボックスが開き、ドキュメント・テンプレートに定義されている、タイトル・ページ、ヘッダとフッタといったエリアのフィールドに、値を入力できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ドキュメントテンプレートフィールド値の編集] ダイアログ・ボックス」（974 ページ）を参照してください。</p> <p>使用可能な場所：ドキュメント・ルート・ノード</p>
 生成	<p>選択したレポート出力フォーマットでレポートを生成します。</p>
 プレビュー	<p>各レポート・セクションの最初の 5 個のレコードを含むレポートのプレビューを生成します。</p> <p>プレビューは選択したレポート出力フォーマットで生成されます。</p>

UI 要素	説明
 テンプレート クリエータ	<p>Microsoft Word が開いて [テンプレート クリエータ] タブが表示され、カスタム・テンプレート・ファイルをデザインできます。</p> <p>カスタム・テンプレートを作成した後、[カスタム テンプレート] フィールドでレポートセクションに割り当てます。</p> <p>注：テンプレート・クリエータを有効にするには、Microsoft Word でマクロを使用可能にしておく必要があります。Word で、[Office] ボタンをクリックし、[Word のオプション] をクリックします。[セキュリティ センター] > [セキュリティ センターの設定] > [マクロの設定] を選択します。[すべてのマクロを有効にする] を選択します。</p>
	<p>[カスタム テンプレートのアップロード]：[カスタム テンプレート ファイルのアップロード] ダイアログ・ボックスが開き、現在選択されているレポート・セクションに割り当てるカスタム・テンプレート・ファイルを変更できます。</p> <p>使用可能な場所：セクション・ノード</p>
	<p>[フィルタ/ソートの設定]：選択した基準に基づいてデータのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。</p> <p>[フィルタをクリア]：すべてのフィルタと並べ替えの優先順位をクリアします。</p> <p>現在のフィルタが [フィルタ] ボックスに表示されます。</p> <p>使用可能な場所：セクション・ノード</p>
<レポート・セクション・ツリー>	<p>レポートに含まれるセクションとサブセクションを表示します。[ドキュメント] ルート・ノードには、レポート全体のデザインと内容に適用される設定が含まれます。</p>
[コンテンツの表を自動更新]	<p>レポート出力の目次エンTRIESを ALM に更新させます。</p> <p>注：</p> <p>目次を表示するには、ドキュメント・テンプレートに [TOC] フィールドが含まれる必要があります。</p> <p>このオプションを選択せずに、[Doc] または [Docx] 出力フォーマットを選択した場合、レポートを生成した後で Microsoft Word で手動で目次を更新できます。</p>

UI 要素	説明
<p>[ドキュメント出力オプション]</p>	<p>レポートが生成されるファイル形式。次のいずれかを選択します。</p> <p>[HTML] : Web ブラウザでレポートを表示する場合。</p> <p>[Docx] : Microsoft Word 2007 でレポートを表示する場合。</p> <p>[Doc] : Microsoft Word 2003 でレポートを表示する場合。</p> <p>使用可能な場所 : ドキュメント・ルート・ノード</p>
<p>[ドキュメントテンプレート]</p>	<p>レポートに割り当てられたテンプレート。これによってレポート全体の外観が決まります。</p> <p>[ドキュメントテンプレート] : タイトル・ページ、ヘッダとフッタ、ページの向き、その他のドキュメント・レイアウト設定のフィールドを定義します。</p> <p>[スタイルテンプレート] : Microsoft Word のスタイルに適用されるフォーマット（表、見出し、段落など）を定義します。スタイル・テンプレートのスタイルは、レポート・セクションで使用されたテンプレートに定義されているスタイルに代わって使用されます。</p> <p>[履歴テンプレート] : レポート・セクションで履歴情報が表示されるスタイルを定義します。</p> <p>使用可能な場所 : ドキュメント・ルート・ノード</p>
<p>[テキストと画像添付ファイルを組み込む]</p>	<p>プレーン・テキストと画像の添付ファイルをレポートに埋め込みます。</p> <p>このオプションを選択しない場合、プレーン・テキストと画像の添付ファイルへのリンクがレポートに挿入されます。このリンクを使用すると、ファイルが別ウィンドウで開きます。</p> <p>その他の種類の添付ファイル（ドキュメントやビデオなど）は、常にリンクで表示されます。</p> <p>注 : 添付ファイルを表示するには、添付ファイルのサブセクションをレポートに追加する必要があります。</p> <p>使用可能な場所 : ドキュメント・ルート・ノード</p>
<p>[階層を維持]</p>	<p>レポートでレコードを階層の順序で一覧表示します。</p> <p>使用可能な場所 : ALM で階層的に表示されるエンティティ（要件、テスト・フォルダなど）が含まれるトップレベル・セクション。</p>

UI 要素	説明
[レポート セクションの詳細]	<p>[名前]: レポートのセクション・タイトルの名前。</p> <p>[エンティティ]: セクションに含まれる ALM エンティティ。</p> <p>[関係タイプ]: 選択したセクションのエンティティと親セクションのエンティティとの間の関係を記述します。</p> <p>使用可能な場所: セクション・ノード</p>
[ベースラインを選択]	<p>このオプションを選択すると、選択したベースライン・データのレポートが生成されます。</p> <p>このオプションをクリアすると、現在のデータがレポートに記載されます。</p> <p>注: ベースライン・レポートを作成できるのは、レポートのすべてのセクションとサブセクションがベースラインをサポートする場合だけです。</p> <p>使用可能な場所: ドキュメント・ルート・ノード</p>
[テンプレートの詳細]	<p>現在選択されているレポート・セクションに割り当てられるテンプレート。次のいずれかを選択します。</p> <p>[プロジェクト テンプレート]: プロジェクトのカスタマイズで管理されるテンプレート。</p> <p>[カスタム テンプレート]: 現在のレポート専用デザインされたテンプレート。</p> <p>テンプレートはフルページまたは表のレイアウトのどちらかです。サブセクションを追加できるのは、フルページ・テンプレートが割り当てられたセクションに対してだけです。レポート・テンプレートの詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p> <p>使用可能な場所: セクション・ノード</p>

[新規プロジェクト レポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規プロジェクト・レポートをアナリシス・ツリーに追加できます。

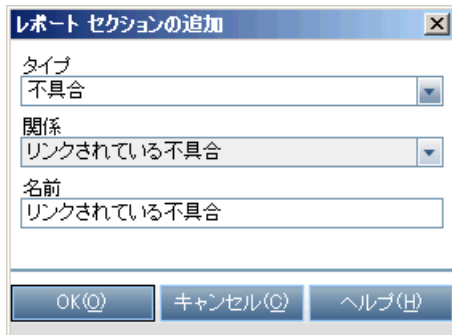
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [アナリシス ビュー] を選択します。 レポートを追加するフォルダを右クリックし, [新規プロジェクト レポート] を選択します。
重要な情報	非公開フォルダの下に作成したレポートは, 所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成したレポートは, すべてのユーザが利用できます。
関連タスク	<p>「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「プロジェクト・レポートの概要」(960 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[プロジェクト レポートの名前]	アナリシス・ツリーとレポートのタイトルに表示されるレポートの名前。

[レポート セクションの追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、プロジェクト・レポートに新しいセクションを追加できます。




アクセス方法	プロジェクト・レポートでルート・ノードまたはセクション・ノードを右クリックし、[レポート セクションの追加] を選択します。
重要な情報	サブセクションを追加できるのは、フルページ・テンプレートが割り当てられたセクションに対してだけです。
関連タスク	「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「プロジェクト・レポートの概要」(960 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[タイプ]	新しいセクションに含まれるエンティティ。サブセクションの場合、使用可能なタイプは、親セクションのエンティティによって異なります。
[関係]	新しいセクションのエンティティと親セクションのエンティティとの間の関係を記述します。 使用可能な場所 ：セクション・ノード
[名前]	新しいセクションの名前。このフィールドは、レポートのセクション・タイトルとして使用されます。

[ドキュメント テンプレート フィールド値の編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、割り当てられたドキュメント・テンプレートに定義されているカスタム・マージ・フィールドの実際の値を入力できます。

アクセス方法	テンプレート・レポートで、[ドキュメント] ルート・ノードを選択し、[ドキュメント フィールド値の編集]  をクリックします。
関連タスク	「プロジェクト・レポートを作成する方法」(961 ページ)
参照項目	「プロジェクト・レポートの概要」(960 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[フィールド名]	割り当てられたドキュメント・テンプレートに定義されているカスタム・マージ・フィールドのリスト。
[フィールド値]	選択したフィールドの代わりにレポートに表示されるテキスト。

第 38 章

Excel レポート

本章の内容

概念

「Excel レポートの概要」(976 ページ)

タスク

「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ)

リファレンス

「Excel レポートのユーザ・インタフェース」(983 ページ)

概念

Excel レポートの概要

Performance Center Edition : Excel レポートは、Performance Center エンティティに対しては使用できません。

HP Application Lifecycle Management (ALM) のデータは Microsoft Excel にエクスポートできます。これにより、Excel で利用可能な機能を使ってデータを分析できるようになります。Excel レポートは、プロジェクト・データベースに対する SQL クエリで定義されたデータ・セットで構成されます。また、抽出されたデータに対して Visual Basic スクリプトを実行して、データの処理および分析を行うこともできます。

たとえば、不具合モジュール・データを集計するピボット・テーブルを作成し、さまざまなユーザに割り当てられている不具合の数をステータス別に表形式で表示することができます。

Count of STATUS	STATUS ▼			
ASSIGNED TO ▼	Closed	Open	Reopen	Grand Total
james_qc	3	6	1	10
mary_qc		13	1	14
peter_qc	5	9		14
Grand Total	8	28	2	38

また、パラメータを使用してレポートを作成することもできます。これにより、1 度作成するだけで多様なコンテキストで使用できる柔軟性の高いレポートを作成できるようになります。

注意：データ非表示フィルタが適用されているグループに属しているユーザは、Excel レポートで制限付きデータにアクセスできます。これに対処するには、Excel レポート・タスクの実行からユーザ・グループを除外します。ユーザ・グループおよび権限の詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

タスクの詳細については、「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ) を参照してください。

本項の内容

「データベースの保護」(977 ページ)

「SQL クエリのパラメータ」(978 ページ)

「後処理スクリプトの作成に関するガイドライン」(979 ページ)

タスクの詳細については、「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ) を参照してください。

データベースの保護

データベースの整合性が確保されるように、プロジェクト・データベースからデータを抽出するクエリだけを実行する必要があります。データベース・レコードの追加、修正、または削除を行ってプロジェクト・データベースを変更するクエリは実行しないでください。

標準設定では、クエリが有効でプロジェクト・データベースを変更しないように、次の条件が満たされているかどうか検査されます。

クエリが **SELECT** コマンドで始まっています。

クエリに SQL ステートメントが 1 つだけ含まれています。

クエリに次のコマンドが含まれていません（コメントは除く）：**INSERT, DELETE, UPDATE, DROP, CREATE, COMMIT, ROLLBACK, ALTER, EXEC, EXECUTE, MERGE, GRANT, REVOKE, SET, INTO, TRUNCATE。**

「サイト管理」で **SQL_QUERY_VALIDATION_ENABLED** パラメータと **SQL_QUERY_VALIDATION_BLACK_LIST** パラメータを使用することによって、この検証を実行するかどうか、そして、どのように実行するかをカスタマイズできます。詳細については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。

SQL クエリのパラメータ

Excel レポートの SQL クエリには、パラメータを含めることができます。各クエリ・パラメータに標準設定値を割り当てることが可能です。レポートを作成するとき、パラメータの値を入力するか、標準設定値で確定するように求められます。また、レポートを作成するたびに確認メッセージが表示されないように、常に標準設定値が使用されるように選択することもできます。

たとえば、一定期間内にプロジェクトに追加された要件の数のグラフが表示されたレポートを作成するとします。その場合、期間を変えて数回レポートを実行する方がいいかもしれません。期間の開始日と終了日のクエリ・パラメータがあるレポートを1つ作成すれば、複数のレポートを作成する手間を省くことができます。レポートを作成するたびに、期間の開始日と終了日を入力するように求められます。

最初に、パラメータ・リストにクエリ・パラメータを追加します。レポートのすべてのクエリでアクセスできるグローバル・パラメータを追加できます。また、特定のクエリでのみ使用可能なパラメータを追加することもできます。パラメータ・リストにパラメータを追加したら、クエリにパラメータを挿入します。

注意：

SQL の識別名（テーブル名やカラム名など）にパラメータを使用することはできません。
パラメータ値に SQL ステートメントを含めることはできません。

後処理スクリプトの作成に関するガイドライン

後処理スクリプトを作成するときは、次のガイドラインに従ってください。

後処理スクリプトには、**QC_PostProcessing** という名前のサブプロシージャを含める必要があります。このプロシージャは、スクリプトへのエントリ・ポイントとして機能します。このプロシージャは値を返すことはできません。また、引数を持つこともできません。

Excel でレポート・データを使って作業する前に、まず、レポート・データが含まれている範囲を定義する必要があります。この範囲を定義するには、2 つの手順を実行します。

最初に、データが含まれるワークシート・オブジェクトを作成して、レポート・データが含まれるワークシートを定義します。たとえば、ワークシートの名前が **Query1** の場合、**Set MainWorksheet = ActiveWorkbook.Worksheets("Query1")** というステートメントを使用できます。

レポート・データが含まれるワークシートを定義したら、データが含まれる範囲オブジェクトを作成して、データが含まれる範囲を定義します。たとえば、**MainWorksheet** という名前のワークシート・オブジェクトを定義した場合、**Set DataRange = MainWorksheet.UsedRange** というステートメントを使用できます。

この範囲を定義したら、**Visual Basic** コードを使用して、範囲に含まれるデータを操作できます。

後処理スクリプトを実行する前に、Excel でスクリプトを実行できるように、Microsoft Excel のセキュリティ設定を構成しておく必要があります。

Office 2007 : Excel で、[Microsoft Office] ボタンをクリックし、[Excel のオプション] をクリックします。[セキュリティ センター] > [セキュリティ センターの設定] > [マクロの設定] を選択します。[VBA プロジェクト オブジェクト モデルへのアクセスを信頼する] を選択します。Excel を閉じます。

注意 : Excel でマクロを有効にすると、Microsoft Visual Basic のコア・オブジェクト、メソッド、プロパティにアクセスできるようになるため、セキュリティ上の危険が生じる可能性があります。

タスク

Excel レポートを生成する方法

このタスクでは、ALM で Excel レポートを使用してデータを分析する方法を説明します。

ヒント : ALM デモ・プロジェクトには、Excel レポートのサンプルがあります。このレポートの SQL クエリと 後処理スクリプトは、独自のクエリおよびスクリプト開発のたたき台として利用できます。

Excel レポートの詳細については、「Excel レポートの概要」(976 ページ) を参照してください。

このタスクは次のステップで構成されています。

「前提条件」(981 ページ)

「アナリシス・ツリーへの Excel レポートの追加」(981 ページ)

「SQL クエリの作成」(981 ページ)

「後処理スクリプトの作成」(982 ページ)

「Excel レポートの生成」(982 ページ)

1 前提条件

サポートされている Microsoft Excel のバージョンを確認するには、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

2 アナリシス・ツリーへの Excel レポートの追加

アナリシス・ツリーのフォルダに Excel レポートを追加します。

- a **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。** ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。
- b **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。** 非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし、[新規フォルダ] を選択します。
- c **新規 Excel レポートを作成します。** フォルダを右クリックし、[新規 Excel レポート] を選択します。[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックスに Excel レポートの名前を入力します。

3 SQL クエリの作成

レポートに含めるプロジェクト・データを選択します。このデータは、SQL クエリを作成して定義します。Excel レポートでは、複数のクエリを作成できます。レポートを作成すると、各クエリの結果が別々の Excel ワークシートに表示されます。

- a **クエリ・ビルダを開きます。** [設定] タブにある [クエリー] タブをクリックし、[クエリ ビルダ] をクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス」(989 ページ) を参照してください。
- b **SQL クエリを作成します。** SQL エディタにクエリを入力します。
- c **SQL クエリに ALM エンティティを追加します。** [エンティティ ビュー] 表示枠で ALM エンティティを選択します。
- d **SQL クエリのパラメータを定義します。** SQL クエリのパラメータを使用して、Excel レポートの結果を入力したパラメータ値に基づいて変更します。[クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックスで、[クエリ パラメータ] タブのボタンを使用します。

4 後処理スクリプトの作成

Excel へのデータのエクスポート後に実行する Visual Basic スクリプトを作成できます。このスクリプトを使用して、Excel のデータを操作します。

たとえば、Excel の要件データをピボット・テーブルで表示することができます。また、不具合データに関する計算を行い、修正中の不具合の修復にかかる平均時間を割り出したり、エクスポートされたデータに基づいてグラフを作成したりできます。

[設定] タブにある **[後処理]** タブをクリックします。Visual Basic スクリプトを作成します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[後処理] タブ**」(994 ページ)を参照してください。

5 Excel レポートの生成

Excel レポートを生成すると、SQL クエリで指定したデータがプロジェクト・データベースから抽出され、そのデータが Excel ワークブックに保存され、後処理スクリプトが実行されます。

- a [設定] タブにある **[生成設定]** タブをクリックします。Excel レポートの実行オプションを設定します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「**[生成設定] タブ**」(996 ページ)を参照してください。
- b **[生成]** をクリックします。

リファレンス

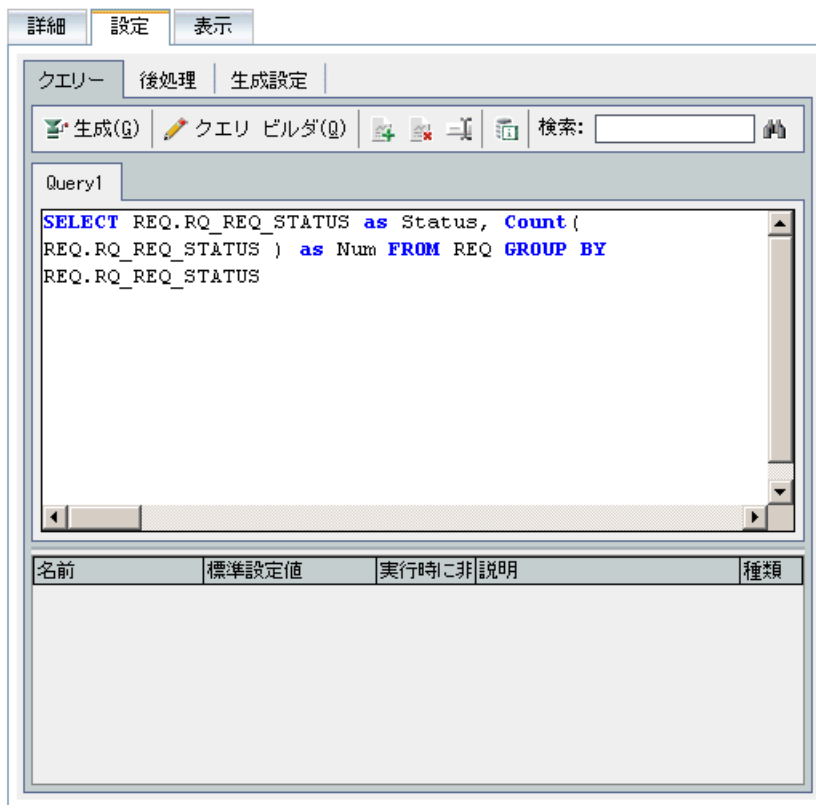
Excel レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「[設定] タブ Excel レポート」(984 ページ)
- 「[クエリー] タブ」(986 ページ)
- 「[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス」(989 ページ)
- 「[後処理] タブ」(994 ページ)
- 「[生成設定] タブ」(996 ページ)
- 「[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックス」(998 ページ)
- 「[新規クエリ パラメータ] / [クエリ パラメータの編集] ダイアログ・ボックス」(999 ページ)

[設定] タブ Excel レポート

このタブには、Excel レポートの設定のためのタブが含まれます。



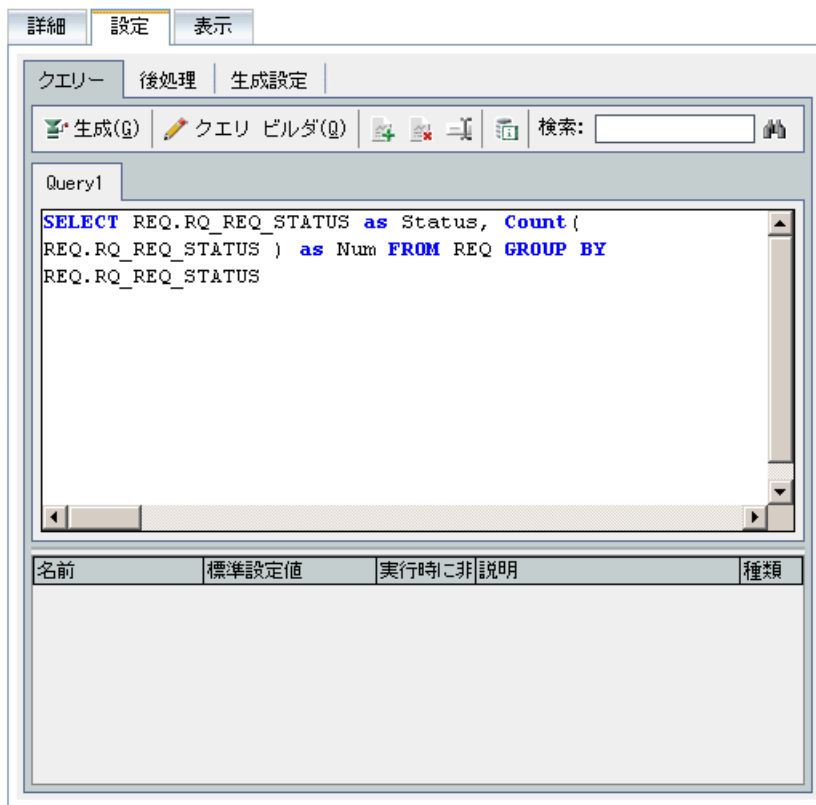
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し、Excel レポートを選択します。 3 [設定] タブをクリックします。
関連タスク	<p>「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「Excel レポートの概要」(976 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【生成設定】 タブ	Excel レポートの実行オプションを設定できます。詳細については、「【生成設定】 タブ」(996 ページ) を参照してください。
【後処理】 タブ	Excel へのデータのエクスポート後に Excel 上で実行する Visual Basic スクリプトを作成できます。詳細については、「【後処理】 タブ」(994 ページ) を参照してください。
【クエリー】 タブ	Excel にエクスポートするデータを定義する SQL クエリを作成できます。詳細については、「【クエリー】 タブ」(986 ページ) を参照してください。





[クエリー] タブ




このタブでは、Excel にエクスポートするデータを定義する SQL クエリを作成できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し、Excel レポートを選択します。 3 [設定] タブにある [クエリー] タブをクリックします。
重要な情報	<p>データベースの整合性が確保されるように、プロジェクト・データベースからデータを抽出するクエリだけを実行する必要があります。詳細については、「データベースの保護」(977 ページ) を参照してください。</p> <p>クエリ・ビルダーには、SQL クエリを作成するための高度な機能があります。詳細については、「[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス」(989 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	<p>「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「Excel レポートの概要」(976 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

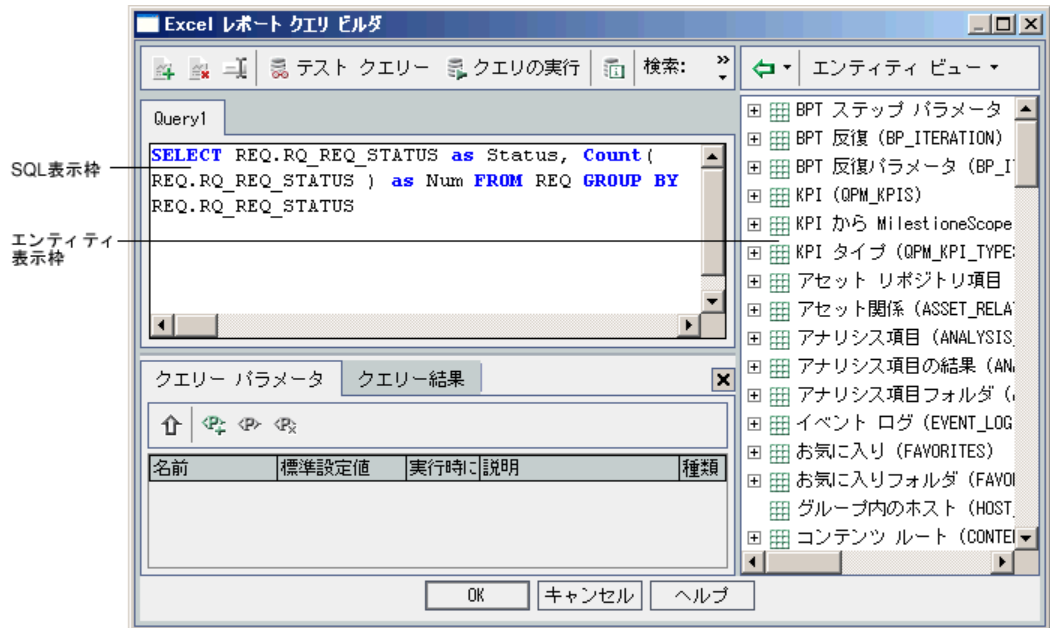
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
 生成	<p>[生成] : Excel レポートを作成します。</p>
 クエリ ビルダ(Q)	<p>[クエリ ビルダ] : [Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックスを開き、クエリのテストやクエリへのパラメータの追加といった、SQL クエリの作成のための拡張機能を提供します。詳細については、「[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス」(989 ページ) を参照してください。</p>
	<p>[クエリの追加] : 新規クエリを作成できます。クエリー<番号> という標準設定の名前の新しいタブがクエリ・ビルダに追加されます。レポートを作成すると、各クエリの結果が別々の Excel ワークシートに表示されます。</p>
	<p>[削除] : 選択したクエリを削除します。</p>

UI 要素	説明
	<p>[名前の変更]：現在のクエリの名前を変更できます。</p> <p>注：クエリで抽出されたデータが含まれている Excel ワークシートは、クエリと同じ名前になります。</p>
	<p>[データベースの種類]：プロジェクト・データベースに使用されるデータベースの種類を表示します。</p> <p>SQL クエリは、プロジェクト・データベースの種類で使用される構文を使って書く必要があります。</p>
	<p>[検索]：検索ボックスに入力したテキストをクエリから検索します。</p> <p>ヒント：[検索] ボタンをもう一度クリックすると、次のテキストを検索できます。</p>
<p><クエリ・パラメータ・グリッド></p>	<p>クエリに使用できるパラメータのリストが含まれています。</p> <p>注：クエリ・パラメータの追加や編集は、Excel レポート・クエリ・ビルダで行います。詳細については、「[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス」(989 ページ) を参照してください。</p>
<p>< [SQL] 表示枠 ></p>	<p>Excel レポートに抽出されるデータ・セットを定義する SQL クエリが表示されます。</p> <p>構文の例外：「@」と「¥」には特別な意味があり、プロジェクト・データベースに対して SQL クエリを実行する際、文字どおりに解釈されません。これらが文字どおりに解釈されるようにするには、「@」を「¥@」に、「¥」を「¥¥」に置き換える必要があります。たとえば、ALM データベースに対して <code>SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '@parameter@'</code> というステートメントを文字どおりに実行するには、<code>SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '¥@parameter¥@'</code> と入力します。</p>

[Excel レポート クエリ ビルダ] ダイアログ・ボックス





このダイアログ・ボックスでは、SQL クエリを作成できます。






アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し、Excel レポートを選択します。 3 [設定] タブにある [クエリー] タブをクリックし、[クエリ ビルダ] ボタンをクリックします。
重要な情報	<p>データベースの整合性が確保されるように、プロジェクト・データベースからデータを抽出するクエリだけを実行する必要があります。詳細については、「データベースの保護」(977 ページ) を参照してください。</p> <p>SQL クエリにパラメータを含めることができます。詳細については、「SQL クエリのパラメータ」(978 ページ) を参照してください。</p>
関連タスク	「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ)
参照項目	<p>「Excel レポートの概要」(976 ページ)</p> <p>「SQL クエリのパラメータ」(978 ページ)</p>

SQL エディタ領域

次に、ユーザ・インターフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。


UI 要素	説明
<p>< SQL エディタ ></p>	<p>Excel レポートに抽出されるデータ・セットを定義する SQL クエリが表示されます。</p> <p>注：プロジェクト・エンティティの間は、カンマで区切ります。</p> <p>構文の例外：「@」と「¥」には特別な意味があり、プロジェクト・データベースに対して SQL クエリを実行する際、文字どおりに解釈されません。これらが文字どおりに解釈されるようにするには、「@」を「¥@」に、「¥」を「¥¥」に置き換える必要があります。たとえば、ALM データベースに対して <code>SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '@parameter@'</code> というステートメントを文字どおりに実行するには、<code>SELECT * FROM BUG WHERE BUG.BG_SUMMARY = '¥@parameter¥@'</code> と入力します。Excel レポートに使用するデータ・セットを定義する SQL クエリが表示されます</p>
	<p>[クエリの追加]：新規クエリを作成できます。クエリー<番号>という標準設定の名前の新しいタブがクエリ・ビルダに追加されます。レポートを作成すると、各クエリの結果が別々の Excel ワークシートに表示されます。</p>
	<p>[削除]：選択したクエリを削除します。</p>
	<p>[名前の変更]：現在のクエリの名前を変更できます。</p> <p>注：クエリで抽出されたデータが含まれている Excel ワークシートは、クエリと同じ名前になります。</p>
 テスト クエリー	<p>[テストクエリー]：クエリの最初の 10 個の結果を [クエリー結果] タブに表示します。クエリにパラメータが含まれている場合は、パラメータの標準設定値が使用されます。</p>

UI 要素	説明
 クエリの実行	<p>[クエリの実行]: クエリの結果を [クエリ結果] タブに表示します。クエリにパラメータが含まれている場合は、値の入力を求められます。</p>
	<p>[データベースの種類]: プロジェクト・データベースに使用されるデータベースの種類を表示します。</p> <p>SQL クエリは、プロジェクト・データベースの種類で使用される構文を使って書く必要があります。</p>
	<p>[検索]: 検索ボックスに入力したテキストをクエリから検索します。</p> <p>ヒント: [検索] ボタンをもう一度クリックすると、次のテキストを検索できます。</p>
<p>[コピー] / [貼り付け]</p>	<p>選択したテキストを SQL エディタの別の場所にコピーします。</p> <p>使用可能な場所: クエリ・エディタの右クリック・メニュー</p>
<p>[切り取り] / [貼り付け]</p>	<p>選択したテキストを SQL エディタの別の場所に移動します。</p> <p>使用可能な場所: クエリ・エディタの右クリック・メニュー</p>

【エンティティ ビュー】 表示枠

クエリに追加できる ALM データベース・フィールドおよびエンティティのリストが含まれています。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>【エンティティをクエリに追加】：選択したプロジェクト・エンティティを SQL クエリに追加します。エンティティはカーソル位置に挿入されます。</p> <p>エンティティ・タイトルで定義されたカラム・エイリアス付きでプロジェクト・エンティティを追加するには、【エンティティをクエリに追加】の矢印をクリックし、【エンティティをクエリに追加（エンティティのタイトルをエイリアスとして使用）】を選択します。</p> <p>使用可能な場所：【エンティティ ビュー】 表示枠</p>
<p>エンティティ ビュー ▾</p>	<p>【エンティティ ビュー】：【エンティティ】 表示枠内のフィールドとエンティティを、名前順、データベースのカラム名順、あるいはその両方の順序で表示できます。</p> <p>使用可能な場所：【エンティティ ビュー】 表示枠</p>

[クエリー・パラメータ] タブ

クエリーに使用できるパラメータのリストが含まれています。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

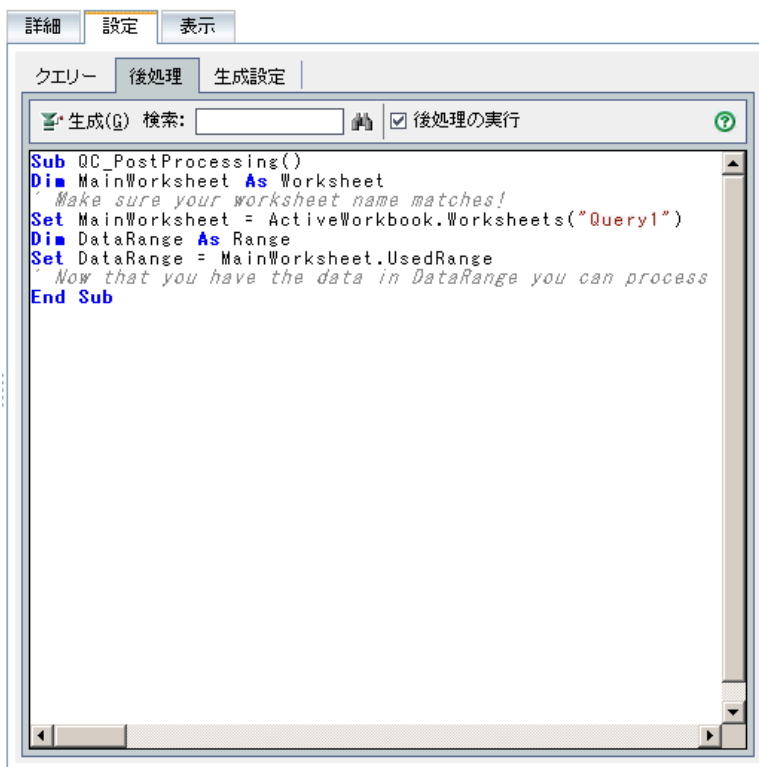
UI 要素	説明
	<p>[パラメータをクエリーに追加] : 選択したパラメータを SQL クエリーに追加します。パラメータはカーソル位置に挿入されます。</p> <p>注 : テキスト値を示すパラメータの場合は、[SQL] 表示枠で、パラメータを囲むように手動で一重引用符 (') を追加する必要があります。たとえば、[SQL] 表示枠に WHERE BUG.BG_DETECTED_BY = @name@ という句が含まれている場合、@name@ というテキストを '@name@' にする必要があります。</p> <p>使用可能な場所 : [クエリーパラメータ] タブ</p>
	<p>[新規クエリーパラメータ] : [新規クエリーパラメータ] ダイアログ・ボックスが開き、パラメータのグリッドにパラメータを追加できます。詳細については、「[新規クエリーパラメータ] / [クエリーパラメータの編集] ダイアログ・ボックス」(999 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : [クエリーパラメータ] タブ</p>
	<p>[クエリーパラメータの編集] : [クエリーパラメータの編集] ダイアログ・ボックスが開き、選択したパラメータを編集できます。詳細については、「[新規クエリーパラメータ] / [クエリーパラメータの編集] ダイアログ・ボックス」(999 ページ) を参照してください。</p> <p>使用可能な場所 : [クエリーパラメータ] タブ</p>
	<p>[クエリーパラメータの削除] : 選択したパラメータをパラメータのグリッドから削除します。</p> <p>注意 : レポートのクエリーで使用されているパラメータを削除すると、そのパラメータが含まれているクエリーが無効ではなくなります。</p> <p>使用可能な場所 : [クエリーパラメータ] タブ</p>

[クエリー結果] タブ

SQL クエリのプレビュー結果を表示します。



[後処理] タブ

このタブでは、抽出されたデータが Excel にエクスポートされた後で実行される Visual Basic スクリプトを作成できます。



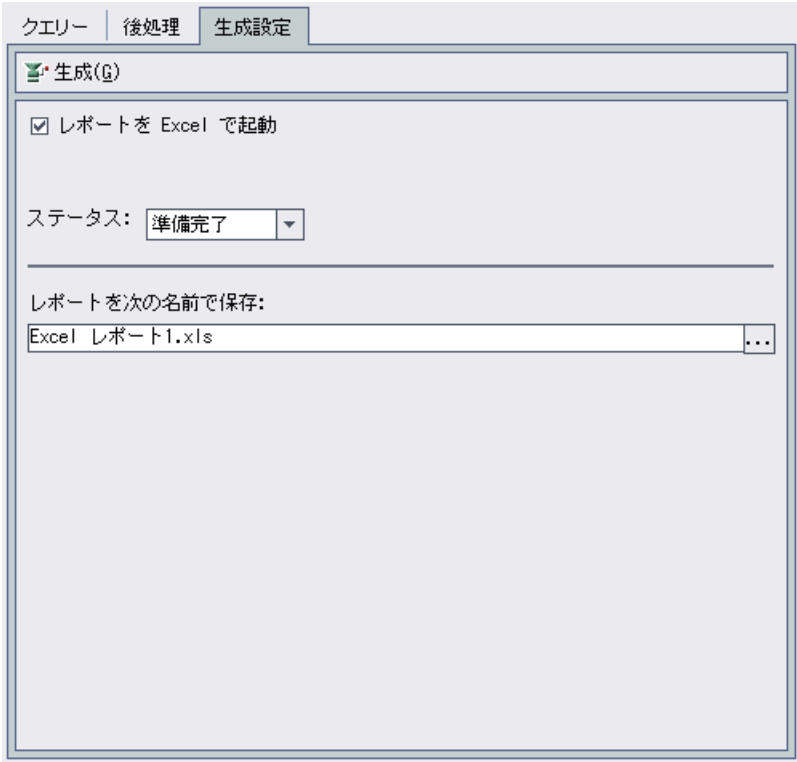
アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し, Excel レポートを選択します。 3 [設定] タブにある [後処理] タブをクリックします。
重要な情報	後処理スクリプトを作成するときは, 重要なガイドラインに従ってください。詳細については, 「後処理スクリプトの作成に関するガイドライン」(979 ページ) を参照してください。
関連タスク	「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「Excel レポートの概要」(976 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に, ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は, 山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
 生成	[生成] : Excel レポートを作成します。
	<p>[検索] : 検索ボックスに入力したテキストを後処理スクリプトから検索します。</p> <p>ヒント : [検索] ボタンをもう一度クリックすると, 次のテキストを検索できます。</p>
[後処理の実行]	Excel へのデータのエクスポート後に後処理スクリプトを実行するように ALM に指示します。レポートの生成時にスクリプトを実行したくない場合は, このオプションをクリアします。
<スクリプト・エディタ・ボックス>	<p>Excel へのデータのエクスポート後に Excel 上で実行する Visual Basic スクリプトが表示されます。</p> <p>ヒント : このスクリプトは, スクリプト・エディタ・ボックスにすでに表示されているテンプレート・スクリプトに基づいて作成します。</p>


[生成設定] タブ

このタブでは、Excel レポートの生成のための設定を定義できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で, [アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し, Excel レポートを選択します。 3 [設定] タブにある [生成設定] タブをクリックします。
関連タスク	<p>「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
参照項目	<p>「Excel レポートの概要」(976 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
 生成	<p>[生成] : Excel レポートを作成します。</p> <p>レポートのステータスが準備未完了の場合は、警告メッセージが表示されます。</p> <p>レポートのクエリにパラメータが含まれている場合は、[レポートパラメータ] ダイアログ・ボックスが開きます。[値] カラムにパラメータ値を入力します。</p> <p>定義した場所にレポートが保存されます。[レポートを Excel で起動] を選択した場合は、Excel が開いてレポートが表示されます。選択しなかった場合は、確認メッセージが表示されます。</p>
[レポートを Excel で起動]	<p>レポートの作成後に Excel でレポートを開くように ALM に指示します。このオプションを選択しない場合、保存されたレポートを後で Excel に読み込むことができます。</p>
[レポートを次の名前で保存]	<p>データをエクスポートする Excel ファイルの場所と名前。</p> <p>ヒント : 参照ボタンをクリックしてフォルダを選択できます。</p>
[ステータス]	<p>レポートを作成する準備ができていないかどうかをほかのユーザに知らせます。レポートのステータスで使用できるオプションは次のとおりです。</p> <p>[準備完了] : レポートを作成する準備ができていないことを示します。</p> <p>[準備未完了] : レポートを作成する準備ができていないことを示します。ユーザがこのステータスのレポートを作成しようとすると、警告メッセージが表示されます。</p>

[新規 Excel レポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規 Excel レポートをアナリシス・ツリーに追加できます。

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 レポートを追加するフォルダを右クリックし、[新規 Excel レポート] を選択します。
重要な情報	非公開フォルダの下に作成した Excel レポートは、所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成した Excel レポートは、すべてのユーザが利用できます。
関連タスク	「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「Excel レポートの概要」(976 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[Excel レポートの名前]	アナリシス・ツリーに表示されるレポートの名前。

🔑 [新規クエリ パラメータ] / [クエリ パラメータの編集] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、クエリ・パラメータの編集または新規作成を実行できます。

The dialog box titled "新規クエリ パラメータ" (New Query Parameter) has the following elements:

- Parameter Name: []
- Standard Setting Value: []
- 実行時に非表示 (Hidden at Execution)
- グローバル パラメータ (Global Parameter)
- 説明 (Description): []
- Buttons: OK, キャンセル (Cancel), ヘルプ (Help)

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> Excel レポートで、[設定] タブにある [クエリ] タブをクリックし、[クエリ ビルダ] ボタンをクリックします。 [クエリ パラメータ] タブで、右クリックして [パラメータの新規作成] または [パラメータの編集] を選択します。
関連タスク	「Excel レポートを生成する方法」(980 ページ)
参照項目	「SQL クエリのパラメータ」(978 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[標準設定値]	パラメータが標準設定で使用する値。
[説明]	パラメータの詳細な説明。
[グローバル パラメータ]	パラメータが現在の Excel レポートのすべてのクエリで使用可能であることを示します。

UI 要素	説明
【実行時に非表示】	<p>レポートを作成するときは常に標準設定値を使用するように ALM に指示します。レポートを作成するときに、標準設定値をそのまま使用するか変更するかの確認メッセージを表示する場合は、このオプションをクリアします。</p>
【パラメータ名】	<p>パラメータの名前。</p> <p>注：パラメータ名を変更した場合、SQL クエリでそのパラメータが使用されているすべての場所に変更が自動的に適用されます。</p> <p>構文の例外：パラメータの名前には、下線文字以外の特殊文字は使用できません。</p>

第 39 章

標準レポート

本章の内容

概念

「標準レポートの概要」(1002 ページ)

タスク

「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ)

リファレンス

「標準レポートの種類」(1005 ページ)

「標準レポートのユーザ・インタフェース」(1012 ページ)

概念

標準レポートの概要

標準レポートでは、HP Application Lifecycle Management (ALM) に関するレポートをカスタマイズして作成できます。要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントの各モジュールのデータを表すレポートを作成できます。

標準レポートの作成には、次の 2 つのオプションがあります。

定義済みレポート：上記のいずれかのモジュールで作業する場合、定義済みレポートのリストから選択することにより、そのモジュールに関連するデータをすばやく分析できます。定義済みレポートは、アナリシス・ビュー・モジュールに保存して後で参照できます。各モジュールで使用可能な定義済みレポートの詳細については、「定義済み標準レポート」(1008 ページ) を参照してください。

アナリシス・ビュー・レポート：上記のどれかのモジュールのデータに関連するレポートを、アナリシス・ビュー・モジュールで作成してカスタマイズできます。アナリシス・ビュー・モジュールでレポートを作成する場合、データのフィルタ処理、フォルダ内でのレポートの整理、さまざまな設定の定義といった機能を利用できます。また、サブレポートを追加することにより、親レポートに関連する情報の階層を追加できます。たとえば、不具合のレポートを作成した場合、リンクされている要件のサブレポートを追加できます。レポートには、各不具合にリンクされている要件が表示されます。アナリシス・ビュー・モジュールで使用可能な標準レポートの詳細については、「アナリシス・ビュー・モジュールでの標準レポート」(1006 ページ) を参照してください。

タスクの詳細については、「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ) を参照してください。

タスク

標準レポートを生成する方法

このタスクでは、ALM データのレポートを生成する方法を示します。

標準レポートの詳細については、「標準レポートの概要」(1002 ページ)を参照してください。

「定義済みレポートの作成」(1003 ページ)

「アナリシス・ビューでのレポートの作成」(1003 ページ)

「標準レポートの設定」(1004 ページ)

「標準レポートの表示」(1004 ページ)

1 定義済みレポートの作成

要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・ラボ、不具合のいずれかのモジュールでの作業中に、その場でモジュール・データのレポートを作成できます。

上記のモジュールのどれかで、[アナリシス] > [レポート] を選択し、定義済みのレポートの 1 つを選択します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「表示タブ 標準レポート/レポート・ウィンドウ」(1017 ページ)を参照してください。

2 アナリシス・ビューでのレポートの作成

アナリシス・ビュー・モジュール内で標準レポートを作成します。

- a **アナリシス・ビュー・モジュールを開きます。**ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。
- b **アナリシス・ツリーにフォルダを追加します。**非公開または公開ルート・フォルダの下のフォルダを右クリックし、[新規フォルダ] を選択します。
- c **新規標準レポートを作成します。**フォルダを右クリックし、[新規標準レポート] を選択します。[新規標準レポート] ダイアログ・ボックスのフィールドに入力します。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[新規標準レポート] ダイアログ・ボックス」(1019 ページ)を参照してください。

3 標準レポートの設定

サブレポートを追加し、データのフィルタ処理やページのレイアウトなどの標準レポートの設定を定義します。

[設定] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[設定] タブ 標準レポート」(1013 ページ) を参照してください。

使用可能な場所: アナリシス・ビュー・モジュール

4 標準レポートの表示

次のいずれかを使用します。

アナリシス・ビュー・モジュールから: [表示] タブをクリックします。

他のモジュールから: モジュールのメニューで、[アナリシス] > [最近の利用] を選択し、最近使用したレポートを選択します。選択したレポートがアナリシス・ビュー・モジュールで開きます。

ユーザ・インタフェースの詳細については、「表示タブ 標準レポート/レポート・ウィンドウ」(1017 ページ) を参照してください。

リファレンス

標準レポートの種類


以下の表に、ALM で作成できる標準レポートの種類を示します。

本項の内容

「アナリシス・ビュー・モジュールでの標準レポート」(1006 ページ)


「使用可能なサブレポート」(1007 ページ)

「定義済み標準レポート」(1008 ページ)

 **アナリシス・ビュー・モジュールでの標準レポート**

アナリシス・ビュー・モジュールでは次のレポートが使用できます。

レポート	エンティティ	説明
コンポーネント・レポート	コンポーネント	ビジネス・コンポーネント・モジュールのコンポーネントが一覧表示されます。
サブジェクト・コンポーネント・レポート	コンポーネント	ビジネス・コンポーネント・モジュールのコンポーネント・フォルダ階層が一覧表示されます。
不具合レポート	不具合	不具合モジュールの不具合が一覧表示されます。
要件レポート	要件	要件モジュールの要件が一覧表示されます。
クロス・テスト・セット・レポート	テスト・インスタンス	テスト・ラボ・モジュールに表示されるテスト・セットが、テストを含めずに一覧表示されます。
実行レポート	テスト・インスタンス	テスト・インスタンスがテストのステータスと一緒に一覧表示されます。
テスト・セットの履歴レポート	テスト・インスタンス	テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・フォルダの階層が一覧表示されます。
ビジネス・プロセス・テスト	テスト	テスト計画モジュールのビジネス・プロセス・テストとフローが一覧表示されます。
サブジェクト・テスト・レポート	テスト	テスト計画モジュールのテスト・サブジェクトの階層が一覧表示されます。
テスト計画レポート	テスト	テスト計画モジュールのテストが一覧表示されます。


使用可能なサブレポート

親レポートのタイプに応じて、次のサブレポートが使用できます。

レポート	説明
コンポーネント・ステップ	コンポーネントのステップが一覧表示されます。
コンポーネント使用者	コンポーネントを使用するビジネス・プロセス・テストとフローが一覧表示されます。
アプリケーション領域を持つコンポーネント	コンポーネントに対応するアプリケーション領域が一覧表示されます。
含まれるテスト・セット	テスト・セット・フォルダ内のテスト・セットが一覧表示されます。
含まれるテスト	テスト・セット内のテスト・インスタンスが一覧表示されます。
カバレッジ要件	テストが対象としている要件の情報が一覧表示されます。
デザイン・ステップ	テストのデザイン・ステップが一覧表示されます。
リンクされている不具合	エンティティにリンクされている不具合が一覧表示されます。
リンク済みエンティティ	不具合にリンクされているすべてのエンティティが一覧表示されます。
親テスト	テスト実行の親テスト・インスタンスが一覧表示されます。
関連要件	不具合にリンクされている要件が一覧表示されます。
要件カバレッジ	その要件を対象としているテストが一覧表示されます。
実行ステップ	テスト実行の実行ステップが一覧表示されます。
実行	テスト・インスタンスのすべての実行が一覧表示されます。
ソース実行テスト	不具合にリンクされている実行済みのテスト・インスタンスが一覧表示されます。
ソース実行	不具合にリンクされているテスト実行が一覧表示されます。
ソース・テスト	不具合にリンクされているテストが一覧表示されます。
トレース終了元	その要件まで追跡される要件が一覧表示されます。
トレース開始先	その要件から追跡される要件が一覧表示されます。

定義済み標準レポート

要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントの各モジュールでは、次の定義済みレポートが使用できます。

本項の内容

「要件モジュールのレポート」(1008 ページ)

「テスト計画モジュールのレポート」(1009 ページ)

「テスト・ラボ・モジュールのレポート」(1010 ページ)

「不具合モジュールのレポート」(1011 ページ)

「ビジネス・コンポーネント・モジュールのレポート」(1011 ページ)

要件モジュールのレポート

要件モジュールでは、次のレポートを使用できます。

レポート	説明
標準要件レポート	現在の要件ビューに表示される要件が一覧表示されます。
表レポート	現在の要件ビューに表示される要件がグリッド形式で表示されます。
要件とカバレッジ・テスト	現在の要件ビューに表示される要件がテスト・カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。
要件とカバレッジテスト / ステップ	現在の要件ビューに表示される要件がテスト・カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。また、各テスト・カバレッジのテスト・ステップも表示されます。
リンクされた不具合を持つ要件	現在の要件ビューに表示される要件が、リンクされている不具合と一緒に一覧表示されます。
トレーサビリティを持つ要件	現在の要件ビューに表示される要件が、関連付けられている、追跡を終了する要件および追跡を開始する要件と一緒に一覧表示されます。
選択項目のレポート	要件ツリーまたはグリッドで現在選択されている要件が一覧表示されます。
選択項目のレポート (子を付属)	要件ツリーまたはグリッドで現在選択されている要件が、子要件を含めて一覧表示されます。

テスト計画モジュールのレポート

テスト計画モジュールでは、次のレポートを使用できます。

レポート	説明
標準テスト計画レポート	現在のテスト計画ビューのテストが一覧表示されます。
サブジェクト・ツリー・レポート	現在のテスト計画ビューのテストがサブジェクトごとに一覧表示されます。
デザイン・ステップのあるテスト	デザイン・ステップも含め、現在のテスト計画ビューに表示されるテストが一覧表示されます。
カバー済み要件のあるテスト	現在のテスト計画ビューに表示されるテストが要件カバレッジ情報と一緒に一覧表示されます。
リンクされた不具合を持つテスト	現在のテスト計画ビューに表示されるテストがリンクされている不具合と一緒に一覧表示されます。
選択項目のレポート	テスト計画ツリーまたはグリッドで現在選択されているテストが一覧表示されます。
スクリプトによるビジネスプロセス テスト	ビジネス・プロセス・テストおよびフローが一覧表示されます。このレポートの詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

テスト・ラボ・モジュールのレポート

テスト・ラボ・モジュールでは、次のレポートを使用できます。

テスト・セット・レポート

レポート	説明
現在のテスト・セット	現在のテスト・セットに表示されるテストが一覧表示されます。
クロス・テスト・セット	[テストセット] リストに表示されるテスト・セットが、テストを除いて一覧表示されます。
テスト付きのテスト・セット階層	テスト・セットの階層と各テスト・セットのステータスが一覧表示されます。
テストのあるクロス・テスト・セット	[テストセット] リストに表示されるテスト・セットが、テストを含め一覧表示されます。
失敗したテスト実行のある現在のテスト・セット	現在のテスト・セットから、テスト実行ステータスが「失敗」になっているテストが一覧表示されます。
失敗したテスト実行のあるクロス・テスト・セット	すべてのテスト・セットから、テスト実行ステータスが「失敗」になっているテストが一覧表示されます。
実行通知	現在のテスト・セットに表示されているテストが、前回のテスト実行時の結果と一緒に一覧表示されます。
選択項目のレポート	実行グリッドで現在選択されているテスト・インスタンスの実行レポートを表示します。

テスト実行レポート

レポート	説明
クロス実行	[テスト実行] タブの現在のフィルタに一致する実行が一覧表示されます。
ステップ付きでクロス実行	[テスト実行] タブの現在のフィルタに一致する実行が実行ステップとともに一覧表示されます。
テストごとに実行	[テスト実行] タブの実行がそれぞれのテストの下に一覧表示されます。

レポート	説明
テストセットごとに実行	[テスト実行] タブ内の実行が、それぞれのテスト・セットおよびテストの下に一覧表示されます。
選択項目のレポート	[テスト実行] タブで現在選択されているテスト実行の実行レポートを表示します。

不具合モジュールのレポート

不具合モジュールでは、次のレポートを使用できます。

レポート	説明
標準不具合レポート	不具合グリッドに表示される不具合が一覧表示されます。
表レポート	不具合グリッドの不具合がグリッド形式で表示されます。
リンクされたテストと実行を持つ不具合	リンクされているテストおよびテスト実行結果と一緒に不具合が一覧表示されます。
修正済みまたは却下された不具合	「修正済み」または「却下」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
現在のユーザが検出した修正済みまたは却下された不具合	現在のユーザによって検出され、「修正済み」または「却下」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
現在のユーザに割り当てられた開始不具合	現在のユーザに割り当てられていて、「修正中」ステータスになっている不具合が一覧表示されます。
選択項目のレポート	不具合グリッドで現在選択されている不具合が一覧表示されます。

ビジネス・コンポーネント・モジュールのレポート

ビジネス・コンポーネント・モジュールで使用できるレポートの一覧は、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。

標準レポートのユーザ・インタフェース

本項の内容

「[設定] タブ 標準レポート」(1013 ページ)

「表示タブ 標準レポート/レポート・ウィンドウ」(1017 ページ)

「[新規標準レポート] ダイアログ・ボックス」(1019 ページ)

[設定] タブ 標準レポート

このタブでは、標準レポートに含まれるデータとフィールドの選択、サブレポートの追加、レポートのレイアウトの設定を実行できます。

詳細
設定
表示

ページ

ページごとの項目を次に制限する 5

すべての項目を 1 ページに表示する

テンプレート

URL C:\#DOCUME~1#ADMINI~1#LOCALS~1#Temp#TD_80#192#e06c960d#Reports#default.xml ...

✦ ✕

要件レポート

フィルタ

フィールド

全フィールド(自動レイアウト)

カスタム フィールド (レイアウト) ...

オプション

親子の順を保守 (ソート順フィルタを無効化)

段落番号を表示

完全カバレッジを表示 (テスト サブ レポートに適用)

リッチ テキスト

グリッド ビュー




添付


履歴

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 アナリシス・ツリーを展開し、標準レポートを選択します。 3 [設定] タブをクリックします。
重要な情報	使用可能な設定オプションは、[レポート] 表示枠で選択されているレポート・タイプによって異なります。

関連タスク	「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「標準レポートの概要」(1002 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
	<p>[フィルタ/ソートを設定]: 選択した基準に基づいてデータのフィルタ処理と並べ替えを実行できます。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。</p> <p>[フィルタをクリア]: すべてのフィルタと並べ替えの優先順位をクリアします。</p> <p>現在のフィルタが [フィルタ] ボックスに表示されます。</p> <p>注: このオプションは、[レポート] 表示枠で選択されているレポートに適用されます。</p>
	<p>[サブレポートの追加]: [サブレポートの追加] ダイアログ・ボックスが開き、現在選択されているレポートに追加するサブレポートを選択できます。使用可能なサブレポートの詳細については、「使用可能なサブレポート」(1007 ページ)を参照してください。</p> <p>注:</p> <p>各サブレポートには、さらにサブレポートを追加できます。各レベルに複数のサブレポートを含めることができます。</p>
	<p>[サブレポートの削除]: 選択したサブレポートを削除します。</p> <p>注: 親レポートを削除すると、すべてのサブレポートも削除されます。</p>
<[レポート]表示枠>	<p>レポートとサブレポートのツリーを表示します。トップ・レベルは、現在のレポートのレポート・タイプです。</p> <p>レポートを選択し、そのフィルタ、フィールド、オプションを設定します。</p>
[添付]	<p>関連付けられている添付ファイルの一覧が表示されます。</p>

UI 要素	説明
[フィールド]	<p>レポートに含めるフィールドとその順序を設定できます。</p> <p>すべてのフィールドをレポートに表示するには、[全フィールド(自動レイアウト)] を選択します。</p> <p>フィールドを選択し、その順序を設定するには、[カスタム フィールド(レイアウト)] を選択し、[フィールドの選択]  をクリックします。詳細については、「[カラムを選択] / [フィールドの選択] ダイアログ・ボックス」(90 ページ) を参照してください。</p> <p>注: このオプションは、[レポート] 表示枠で選択されているレポートに適用されます。</p>
[グリッド ビュー]	レポートがグリッドとして表示されます。
[履歴]	要件、テスト、または不具合に加えられたすべての変更の一覧が表示されます。
親子の順を保守	<p>要件トピックの下に子要件が表示されます。このオプションを選択すると、定義したフィルタと並べ替えの条件が無効になります。</p> <p>使用可能な場所: 要件レポート</p>
ページ	<p>各ページに表示するメイン・レポートの項目数を設定できます。</p> <p>1 ページあたりの項目数を制限するには、[ページごとの項目を次に制限する] を選択し、1 ページあたりの項目数を指定します。</p> <p>すべての項目を 1 ページで表示するには、[すべての項目を 1 ページに表示する] を選択します。</p>
リッチ・テキスト	<p>要件のリッチ・テキストをレポートに含めます。</p> <p>使用可能な場所: 要件レポート</p>
完全カバレッジを表示	<p>ツリーの各要件のテスト・カバレッジが表示されます。</p> <p>使用可能な場所: 要件レポート</p>
段落番号を表示	<p>ツリーの各要件に割り当てられた階層番号が表示されます。</p> <p>注: この番号は、各要件に割り当てられている一意の要件 ID とは関係ありません。</p> <p>使用可能な場所: 要件レポート</p>

UI 要素	説明
<p>失敗実行にのみ ステップを表示</p>	<p>「実行ステップ」サブレポートを追加した場合に、失敗した実行のステップだけが表示されます。すべての実行のステップを表示するには、この選択をクリアします。</p> <p>使用可能な場所：テスト実行レポート</p>
<p>[テンプレート]</p>	<p>選択した標準レポートのテンプレートを選択できます。</p> <p>[URL] フィールドで、ALM の標準レポート・テンプレートまたはカスタマイズしたテンプレートを使用できます。</p> <p>ヒント：参照ボタンをクリックして、別のフォルダにあるテンプレートを選択できます。</p>

🔗 表示タブ 標準レポート/レポート・ウィンドウ

[表示] タブでは、アナリシス・ビュー・モジュールで標準レポートを表示できます。

要件、ビジネス・コンポーネント、テスト計画、テスト・ラボ、不具合の各モジュールの **レポート・ウィンドウ** では、モジュールでの作業中に、定義済みのレポートを作成できます。

詳細 設定 表示

📄 生成 📄 1 - 5 / [7] ⏪ ⏩ ⏴ ⏵

要件レポート

要件 ID (0) - Requirements	
作成者:	作成時間: 14:34:58
名前: Requirements	優先度:
要件 ID: 0	要件タイプ: フォルダ





要件 ID (2) - Business Models	
作成者:	作成時間: 15:31:47
名前: Business Models	優先度:
要件 ID: 2	要件タイプ: フォルダ


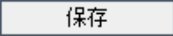
要件 ID (3) - test	
作成者: alm_admin (David Banks)	作成時間: 14:09:56
名前: test	優先度:
要件 ID: 3	要件タイプ: ビジネス

最終生成日: 2010/09/10 18:17:51

<p>アクセス方法</p>	<p>[表示] タブ: 次のいずれかを使用します。</p> <p>アナリシス・ビュー・モジュールで標準レポートを選択し、[表示] タブをクリックします。</p> <p>要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントのいずれかのモジュールで、[アナリシス] > [最近使用した項目] を選択して、標準レポートを選択します。</p> <p>レポート・ウィンドウ: 要件、テスト計画、テスト・ラボ、不具合、ビジネス・コンポーネントのいずれかのモジュールで、[アナリシス] > [レポート] を選択して、定義済みレポートを選択します。</p>
<p>関連タスク</p>	<p>「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ)</p> <p>「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)</p>
<p>参照項目</p>	<p>「標準レポートの概要」(1002 ページ)</p> <p>「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)</p>

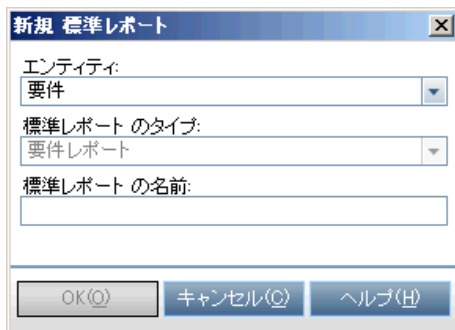
次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
	<p>[生成]: レポートを更新して最新データを表示します。</p>
	<p>[レポートの印刷]: 標準レポートを印刷します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[現在のページを印刷]: 現在のレポート・ページを印刷します。</p> <p>[全てのページを印刷]: すべてのレポート・ページを印刷します。</p>
	<p>[レポートの保存]: 標準レポートを保存します。次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[現在のページを保存]: 現在のレポート・ページを保存します。</p> <p>[全てのページを保存]: すべてのレポート・ページを保存します。</p> <p>[Web ページの保存] ダイアログ・ボックスが開き、標準レポートを Web ページまたはテキスト・ファイルとして保存できます。[ファイルの種類] リストで形式を選択します。</p>
	<p>[最初/前/次/最後のページ]: レポートのページの間を移動できます。</p>

UI 要素	説明
	<p>[全画面表示] : [表示] タブでは、レポートを全画面に表示できます。</p> <p>注 : 全画面モードでは、ツールバーが表示されたままになります。</p> <p>ヒント : 通常の表示に戻るには、ウィンドウの右上隅にある [閉じる] ボタンをクリックします。</p>
	<p>レポート・ウィンドウで、[新規標準レポート] ダイアログ・ボックスが開き、アナリシス・ビュー・モジュールのフォルダにクイック・レポートを保存できます。</p> <p>使用可能な場所 : レポート・ウィンドウ</p>

[新規標準レポート] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、新規標準レポートをアナリシス・ツリーに追加できます。



アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> 1 ALM サイドバーの [ダッシュボード] の下で、[アナリシス ビュー] を選択します。 2 標準レポートを追加するフォルダを右クリックし、[新規標準レポート] を選択します。
重要な情報	<p>非公開フォルダの下に作成した標準レポートは、所有者のみが利用できます。公開フォルダの下に作成した標準レポートは、すべてのユーザが利用できます。</p>

第 39 章・標準レポート

関連タスク	「標準レポートを生成する方法」(1003 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)
参照項目	「標準レポートの概要」(1002 ページ) 「アナリシス・ビュー・ウィンドウ」(879 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[エンティティ]	レポートの対象となる ALM エンティティ。
[標準レポートの名前]	アナリシス・ツリーに表示されるレポートの名前。
[標準レポートのタイプ]	作成するレポートの種類。詳細については、「アナリシス・ビュー・モジュールでの標準レポート」(1006 ページ)を参照してください。

第 40 章

ライブ・アナリシス・グラフ

本章の内容

概念

「ライブ・アナリシス・グラフの概要」(1022 ページ)

タスク

「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ)

リファレンス

「ライブ・アナリシス・グラフのユーザ・インタフェース」(1025 ページ)

概念

ライブ・アナリシス・グラフの概要

ライブ・アナリシスでは、次の内容を示す動的なチャートを作成して表示できます。

テスト計画モジュールのテスト・サブジェクト・データ。

テスト・ラボ・モジュールのテスト・セット・フォルダ・データ。

ビジネス・コンポーネント・モジュールのビジネス・コンポーネント・サブジェクト・フォルダ。

各モジュールでは、最大 2 個のライブ・アナリシス・グラフを作成できます。

ライブ・アナリシス・グラフは、第 35 章、「グラフおよびダッシュボード・ページ」で説明しているグラフとは異なり、変更のあったデータを表示するためにグラフを作成し直す必要がありません。また、グラフのレイアウトや設定は、同じモジュール内のすべてのフォルダに対して保持されます。これにより、グラフのデザインを指定し直さなくても、異なるフォルダに対して同じグラフによる分析を表示できます。

タスクの詳細については、「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ)を参照してください。

タスク

ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法

このタスクでは、テスト・サブジェクト、テスト・セット、ビジネス・コンポーネントに対する自動生成グラフを作成して表示する方法を説明します。

このタスクは次のステップで構成されています。

「前提条件」(1023 ページ)

「ライブ・アナリシス・グラフの作成」(1023 ページ)

「ライブ・アナリシス・グラフの表示」(1024 ページ)

1 前提条件

テスト計画ライブ・アナリシス・グラフの場合、テスト計画モジュールでテスト・サブジェクト・フォルダが定義されていること。

テスト・ラボ・ライブ・アナリシス・グラフの場合、テスト・ラボ・モジュールでテスト・セット・フォルダが定義されていること。

ビジネス・コンポーネント・ライブ・アナリシス・グラフの場合、ビジネス・コンポーネント・モジュールでコンポーネント・サブジェクト・フォルダが定義されていること。

2 ライブ・アナリシス・グラフの作成

- a サイドバーの [テスト] の下で、[テスト計画]、[テスト ラボ]、または [ビジネス コンポーネント] を選択します。
- b モジュール・ツリー内のフォルダを選択します。
- c [ライブアナリシス] タブをクリックします。
- d グラフを表示する表示枠で [グラフを追加] リンクをクリックします。ウィザードに従って、ライブ・アナリシス・グラフをデザインします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(1029 ページ)を参照してください。

3 ライブ・アナリシス・グラフの表示

ライブ・アナリシス・グラフの表示方法は変更できます。これには、グラフの全画面表示への最大化、グラフの外観の変更、グラフ・データへのドリルダウンが含まれます。

- a サイドバーの [テスト] の下で、[テスト計画] または [テスト ラボ] を選択します。
- b モジュールのメニューで、[表示] > [テスト計画ツリー] または [表示] > [テストセットツリー] を選択します。
- c テスト・サブジェクト・フォルダまたはテスト・セット・フォルダを選択します。
- d [ライブアナリシス] タブをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[ライブアナリシス] タブ」(1026 ページ) を参照してください。

リファレンス

ライブ・アナリシス・グラフのユーザ・インタフェース

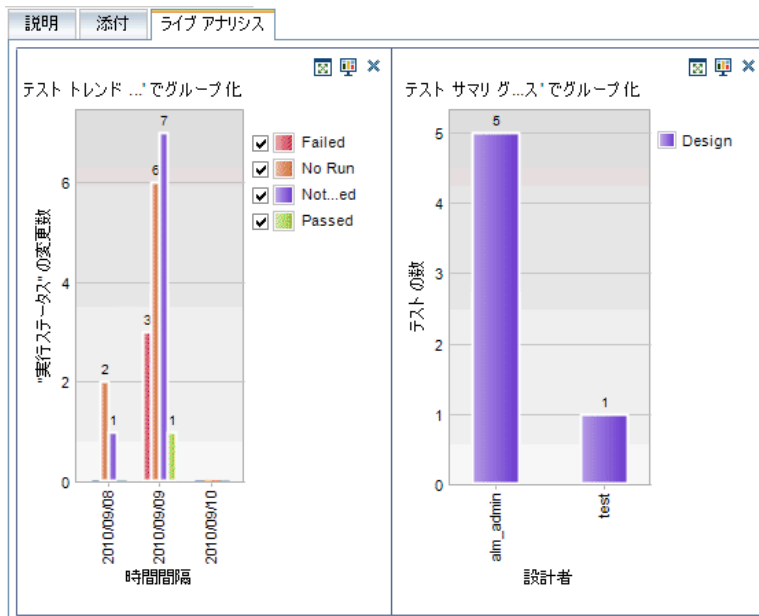
本項の内容

「[ライブ アナリシス] タブ」(1026 ページ)

「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(1029 ページ)



[ライブアナリシス] タブ


このタブでは、テスト・サブジェクト、テスト・セット・フォルダ、ビジネス・コンポーネント・サブジェクトに対するライブ・アナリシス・グラフを作成して表示できます。



アクセス方法	<p>1 ALMサイドバーの [テスト] の下で, [テスト計画], [テストラボ], または [ビジネス コンポーネント] を選択します。</p> <p>2 モジュール・ツリーでフォルダを選択し, [ライブ アナリシス] タブをクリックします。</p>
重要な情報	<p>ライブ・アナリシス・グラフは, 作成したユーザのユーザ・ログインに対して一意です。プロジェクトの各ユーザは, 自分だけが表示できてほかのユーザは表示できないライブ・アナリシス・グラフを作成できます。</p> <p>ライブ・アナリシス・グラフは, 選択したフォルダの直下にあるノードのみを表します。選択したフォルダの子フォルダの下位階層にあるテスト, テスト・セット, ビジネス・コンポーネントは含まれません。</p> <p>グラフに表示されるデータには, モジュールに対して設定されているフィルタが反映されます。</p>
関連タスク	「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ)
参照項目	「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(1029 ページ)

次に, ユーザ・インタフェース要素を説明します (ラベルなしの要素は, 山カッコで囲みます)。

UI 要素	説明
[グラフの追加]	ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザードが起動し, ライブ・アナリシス・グラフをデザインできます。ユーザ・インタフェースの詳細については, 「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(1029 ページ) を参照してください。
	<p>[グラフを全画面で表示]: 現在のグラフを全画面モードに最大化します。</p> <p>ヒント: 通常の見返しに戻るには, [閉じる] ボタンをクリックします。</p>
	<p>[グラフの外観を設定]: [グラフの外観] ダイアログ・ボックスが開き, 現在のグラフのタイトル, 色, 表示を変更できます。詳細については, 「[グラフの外観] ダイアログ・ボックス」(942 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
	<p>【グラフの削除】：現在のライブ・アナリシス・グラフを [ライブアナリシス] タブから削除します。</p> <p>注：フォルダに対して 2 つのライブ・アナリシス・グラフを表示している場合、新しいグラフを作成するには、まず既存のグラフのいずれかを削除する必要があります。</p>
<p><グラフ領域></p>	<p>グラフ領域では次の動作を実行できます。</p> <p>ドリル・ダウン：データを詳細に分析するには、グラフの棒または扇形をクリックします。[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックスが開きます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「[結果のドリルダウン] ダイアログ・ボックス」(944 ページ) を参照してください。</p> <p>色の設定：グラフの色を変更するには、棒または線を右クリックします。開いた 【色の設定】 ダイアログ・ボックスで、いずれかのカラー・パレットから新しい色を選択します。</p>
<p><凡例></p>	<p>グラフのカテゴリとそれに対応する色を表示します。</p> <p>色の設定：カテゴリを右クリックして色を変更できます。開いた 【色の設定】 ダイアログ・ボックスで、いずれかのカラー・パレットから新しい色を選択します。</p>

🔗 ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード

このウィザードでは、テスト・サブジェクト、テスト・セット・フォルダ、ビジネス・コンポーネント・サブジェクトに対するライブ・アナリシス・グラフを作成できます。

ステップ 1 / 2 グラフの種類を選択

エンティティ: テスト インスタンス

グラフ タイプ

サマリグラフ

進行状況グラフ

説明

テストの実行 - サマリ グラフ (クロス テスト セット) は、全てのテスト セットに属するプロジェクト内のテストの数を示します。テストの数は指定した基準に基づいて表示されます。X 軸に表示するデータ

テストの実行 - サマリグラフ

Category	Passed	Not Completed	Blocked	No Run	Failed
Admin	10	0	0	11	0
Alice_OC	0	0	0	6	0
Alice_OC	0	0	0	0	28
Alice_OC	0	0	0	0	9
Alice_OC	0	0	0	0	3

設計: 作成者

キャンセル < 戻る > 次へ > ヘルプ

アクセス方法	<ol style="list-style-type: none"> ALMサイドバーの [テスト] の下で、[テスト計画]、[テストラボ]、または [ビジネス コンポーネント] を選択します。 モジュール・ツリーでフォルダを選択し、[ライブアナリシス] タブをクリックします。 グラフを表示する表示枠で [グラフを追加] リンクをクリックします。
重要な情報	表示するデータを定義すると、以降は、グラフの作成対象であるフォルダ内のテストまたはテスト・セットにおいてデータが変更されるたびにグラフが自動的に更新されます。
関連タスク	「ライブ・アナリシス・グラフを生成する方法」(1023 ページ)
ウィザード・マップ	このウィザードには次のページがあります。 [グラフの種類を選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ
参照項目	「[ライブアナリシス] タブ」(1026 ページ)

[グラフの種類を選択] ページ

このウィザード・ページでは、ライブ・アナリシス・グラフの種類を選択できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(1029 ページ)
ウィザード・マップ	ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード には次のページがあります。 [グラフの種類を選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[説明]	選択したグラフ・タイプの説明。
[エンティティ]	グラフの対象となる ALM エンティティ。
[グラフタイプ]	表示するグラフの種類を選択します。 [サマリ グラフ] : テスト・サブジェクトのテストの数、フォルダ内のテスト・セットのテストの数、またはビジネス・コンポーネント・サブジェクトのコンポーネントの数を示します。 [進捗状況グラフ] : 一定時間内のある時点において、それまでにテスト・サブジェクト、フォルダ内のテスト・セット、またはビジネス・コンポーネント・サブジェクトのコンポーネントに蓄積されたテストの数を示します。 [トレンド グラフ] : テスト計画モジュールでは、選択したテスト・サブジェクト・フォルダ内の、特定のテスト計画フィールドに加えられた変更の履歴を、表示期間ごとに示します。ビジネス・コンポーネント・モジュールでは、一定時間内の各点において、プロジェクトの特定のビジネス・コンポーネント・フィールドに加えられた変更の履歴を示します。

 **[グラフ属性の選択] ページ**

このウィザード・ページでは、ライブ・アナリシス・グラフの属性を設定できます。

重要な情報	このウィザードに関する一般情報は次の場所にあります。「ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザード」(1029 ページ)
ウィザード・マップ	ライブ・アナリシス・グラフ・ウィザードには次のページがあります。 [グラフの種類を選択] ページ > [グラフ属性の選択] ページ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[グループ化フィールド]	<p>グラフでテストまたはコンポーネントをグループ分けするために使用するフィールド。</p> <p>注: 進行状況グラフの場合、履歴が有効になっているフィールドのみを選択できます。フィールドの履歴を有効にする方法については、『HP Application Lifecycle Management 管理者ガイド』を参照してください。</p>
[X 軸フィールド]	サマリ・グラフで、グラフの X 軸に値を表示するフィールドを示します。

第 41 章

プロジェクト・ドキュメント

本章の内容

概念

「プロジェクト・ドキュメントの概要」(1034 ページ)

タスク

「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)

リファレンス

「ドキュメント・ジェネレータのユーザ・インタフェース」(1038 ページ)

概念

プロジェクト・ドキュメントの概要

ドキュメント・ジェネレータを使用して、HP Application Lifecycle Management (ALM) プロジェクトに含まれているデータのハード・コピーを作成できます。ドキュメント・ジェネレータでは、プロジェクトの要件、テスト計画、テスト・セット・フォルダ、不具合追跡、ビジネス・プロセス・テスト・データを含む Microsoft Word ドキュメントを作成できます。

タスクの詳細については、「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)を参照してください。

タスク

プロジェクト・ドキュメントを作成する方法

このタスクでは、ドキュメント・ジェネレータでプロジェクト・ドキュメントを作成する方法を説明します。

このタスクは次の手順で構成されています。

- 「前提条件」(1035 ページ)
- 「ドキュメントの書式の設定」(1035 ページ)
- 「ドキュメントの内容の指定」(1036 ページ)
- 「ドキュメントの生成」(1036 ページ)
- 「結果」(1037 ページ)

1 前提条件

ドキュメント・ジェネレータは Microsoft Word でマクロの実行が有効になっている場合のみ実行できます。ドキュメント・ジェネレータの使用中にセキュリティに関するメッセージを受け取った場合は、Microsoft Word のセキュリティ・レベルを中または低に設定する必要があります。

サポートされている Microsoft Word のバージョンを確認するには、『HP Application Lifecycle Management インストール・ガイド』を参照してください。

2 ドキュメントの書式の設定

プロジェクト・ドキュメントの体裁を決めるために、書式を設定します。

たとえば、ドキュメントの各ページに会社のロゴを含めたり、目次や索引の作成、ドキュメント本文へのテスト・スクリプトや添付ファイルの配置などを行うことができます。

- a **ドキュメント・ジェネレータを起動します。**ALM メニューで、[ツール] > [ドキュメント ジェネレータ] を選択します。
- b ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、[ドキュメント] リンクをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「ドキュメント・ページ」(1044 ページ) を参照してください。

3 ドキュメントの内容の指定

ドキュメントに含めるプロジェクト・データを指定します。ALM の各モジュールから情報を選択します。

たとえば、テスト計画ツリーからドキュメントに含めるフォルダとテストを選択し、アルファベット順や独自の順序でデータを並べ替え、リスト形式や表形式でデータの表示を行います。

- a **ドキュメント・ジェネレータを起動します。**ALM メニューで、[ツール] > [ドキュメント ジェネレータ] を選択します。
- b **エンティティ・ページを開きます。**ドキュメント・ジェネレータ・ツリーを展開し、ドキュメントに含めるエンティティのリンクをクリックします。ユーザ・インタフェースの詳細については、「ドキュメント・ジェネレータ・ツリー」(1041 ページ) を参照してください。

4 ドキュメントの生成

- a ドキュメント・ジェネレータのツールバーのボタンを使用して、ドキュメントのプレビュー、生成、保存を実行できます。ユーザ・インタフェースの詳細については、「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ) を参照してください。
- b 別の方法として、お気に入りのビューを選択して保存済みのドキュメントを再ロードすることもできます。

5 結果

ドキュメントの生成が完了したら、Microsoft Word でドキュメントの表示と編集を行います。各タブで選択した情報は、プロジェクト・ドキュメントの別々のセクションに印刷されます。

例：

次の例は、ドキュメント・ジェネレータで生成した Microsoft Word によるプロジェクト・ドキュメントのサンプル・ページです。

	HP Software	
Chapter 1. Track Defects		
1.1. Defect ID: 1		
Status: Fixed		
Assigned To: james_gc		
Project: Mercury Tours (HTML Edition)		
Subject: Flight Finder		
Summary: The list of flights is given even when past date set as Departing date		
Reproducible: Y		
Severity: 3+High		
Priority: 3+High		
Detected By: alice_gc		
Detected on Date: 09/01/05		
Detected in Version: Version 1.0		
Planned Closing Version: Version 1.01		
Estimated Fix Time: 5		
Actual Fix Time: 0		
Description: Test Set: Mercury Tours Functionality		
Test: [1]Departing Date		
Run: Run_9-2_10-26-07		
Step: Step 1: Past Departing Date		
Description:		
1. Select the One Way option.		
2. In Departing Date, select any past date. Check each of the following possibilities:		
- Previous month, any date selected.		
- Past date, current month selected.		
3. Click the Continue button.		
Expected result:		
The list of flights should not be given.		
You should be requested to insert valid departing date.		
Actual Result:		
	3	04/10/07

リファレンス

ドキュメント・ジェネレータのユーザ・インタフェース

本項の内容

- 「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)
- 「ドキュメント・ジェネレータ・ツリー」(1041 ページ)
- 「ドキュメント・ページ」(1044 ページ)
- 「要件ページ」(1047 ページ)
- 「ビジネス・コンポーネント・ページ」(1050 ページ)
- 「サブジェクト・ツリー・ページ」(1051 ページ)
- 「サブジェクト・テスト・ページ」(1053 ページ)
- 「テスト・リスト・ページ」(1055 ページ)
- 「テスト・ラボ・ページ」(1058 ページ)
- 「テスト・セット・ページ」(1060 ページ)
- 「テスト・ページ」(1061 ページ)
- 「実行ページ」(1063 ページ)
- 「不具合ページ」(1065 ページ)
- 「[お気に入りに追加] ダイアログ・ボックス」(1067 ページ)
- 「[お気に入りの整理] ダイアログ・ボックス」(1068 ページ)

🔗 ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ

ドキュメント・ジェネレータを使用して、プロジェクトの要件、テスト計画、テスト・セット・フォルダ、ビジネスコンポーネント、不具合に関するデータを含む Microsoft Word ドキュメントを作成できます。



アクセス方法	マストヘッドで、[ツール] > [ドキュメント ジェネレータ] を選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ) 「ALM でデータを分析する方法」(876 ページ)

第 41 章・プロジェクト・ドキュメント

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
全ドキュメント	<p>[全ドキュメント]：[名前を付けて保存] ダイアログ・ボックスが開き、プロジェクト・ドキュメントを生成できます。</p> <p>ドキュメント・ジェネレータを前回実行したときのプロジェクト・ドキュメント・ファイルが開いている場合は、先にファイルを閉じます。</p> <p>ドキュメント名を指定すると、ALM はドキュメントの生成を開始します。</p> <p>処理が完了すると、Microsoft Word が起動し、ドキュメントが表示されます。</p> <p>注：生成されたドキュメントに添付ファイルへのリンクが含まれると、ドキュメントと同じ場所にフォルダが生成され、このフォルダに添付ファイルがコピーされます。添付ファイルのフォルダの名前は、ドキュメントの名前にサフィックス「_Attachments」が付いたものです。ドキュメントを誰かに送信する場合、受信者がリンクを使用して添付ファイルにアクセスできるように、ドキュメントとともに添付ファイル・フォルダも送信できます。</p>
プレビュー	<p>[プレビュー]：ドキュメントがどのように見えるかを、細部を省略して簡単に示します。ALM は Microsoft Word を開き、プレビュー・プロジェクト・ドキュメントを表示します。</p>
お気に入り追加	<p>[お気に入りに追加]：[お気に入りに追加] ダイアログ・ボックスが開き、お気に入りビューを非公開フォルダまたは公開フォルダに追加できます。詳細については、「[お気に入りに追加] ダイアログ・ボックス」（1067 ページ）を参照してください。</p>
お気に入り...	<p>[お気に入り]：[お気に入りの整理] ダイアログ・ボックスが開き、保存済みプロジェクト・ドキュメントを整理できます。詳細については、「[お気に入りの整理] ダイアログ・ボックス」（1068 ページ）を参照してください。</p>

UI 要素	説明
【お気に入り】	既存のお気に入りビューのドロップダウン・リストからビューを再ロードできます。 ヒント ：変更をお気に入りビューに保存するには、【お気に入りに追加】ボタンをクリックします。
<ドキュメント・ジェネレータ・ツリー>	ドキュメント・テンプレートを設定し、ドキュメントに含めるプロジェクト内容を指定するページへのリンクのリストを表示します。詳細については、「ドキュメント・ジェネレータ・ツリー」（1041 ページ）を参照してください。

ドキュメント・ジェネレータ・ツリー

この領域では、プロジェクト・ドキュメントに含めるプロジェクト・データを指定し、ドキュメント・テンプレートをデザインします。

アクセス方法	マストヘッドで、【ツール】 > 【ドキュメント ジェネレータ】を選択します。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、該当するノードの隣のチェック・ボックスを選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」（1035 ページ）

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【ドキュメント】	ドキュメントの体裁と、表紙ページに載せる内容を決める書式を設定できます。詳細については、「ドキュメント・ページ」（1044 ページ）を参照してください。
【要件】	要件モジュールからプロジェクト・ドキュメントに含める要件、追跡済み要件、テスト・カバレッジ、リンクされている不具合を指定できます。詳細については、「要件ページ」（1047 ページ）を参照してください。

UI 要素	説明
<p>[ビジネスコンポーネント]</p>	<p>ビジネス・コンポーネント・モジュールからプロジェクト・ドキュメントに含めるコンポーネントを指定できます。詳細については、『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』を参照してください。</p>
<p>[テスト計画]</p>	<p>テスト計画モジュールからプロジェクト・ドキュメントに含めるテスト・サブジェクト・フォルダとテストを指定できます。</p> <p>展開して、ドキュメントに含めるサブジェクト・フォルダとテストを選択します。</p> <p>[サブジェクト ツリー] をクリックして、テスト計画ツリーからプロジェクト・ドキュメントに含めるテスト・サブジェクト・フォルダとテストを指定します。詳細については、「サブジェクト・ツリー・ページ」(1051 ページ) を参照してください。</p> <p>[サブジェクト テスト] をクリックして、選択したサブジェクト・フォルダからプロジェクト・フォルダに含めるテストを指定します。詳細については、「サブジェクト・テスト・ページ」(1053 ページ) を参照してください。</p> <p>[テスト リスト] をクリックして、テスト・グリッドからプロジェクト・ドキュメントに含めるテストを指定します。詳細については、「テスト・リスト・ページ」(1055 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[テスト ラボ]	<p>テスト・ラボ・モジュールからプロジェクト・ドキュメントに含めるテスト・セット・フォルダを指定できます。詳細については、「テスト・ラボ・ページ」(1058 ページ)を参照してください。</p> <p>展開して、ドキュメントに含めるテスト・セット、テスト、およびテスト実行を選択します。</p> <p>[テスト セット] をクリックして、プロジェクト・ドキュメントに含めるテスト・セットを指定します。詳細については、「テスト・セット・ページ」(1060 ページ)を参照してください。</p> <p>[テスト] をクリックして、選択したテスト・セットからプロジェクト・ドキュメントに含めるテストを指定します。詳細については、「テスト・ページ」(1061 ページ)を参照してください。</p> <p>[実行] をクリックして、選択したテストからプロジェクト・ドキュメントに含めるテスト実行を指定します。詳細については、「実行ページ」(1063 ページ)を参照してください。</p>
[不具合]	<p>不具合モジュールからプロジェクト・ドキュメントに含める不具合を指定できます。詳細については、「不具合ページ」(1065 ページ)を参照してください。</p>

ドキュメント・ページ

このページでは、ドキュメントの体裁と、表紙ページに載せる内容を決める書式を設定できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、 [ドキュメント] リンクをクリックします。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

[ドキュメントの設定] タブ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[作成者]	ドキュメントの表紙に表示されるドキュメントの作成者の詳細。
[説明]	ドキュメントの説明。
[タイトル]	ドキュメントの表紙に表示されるタイトル。

[オプション] タブ

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイルの埋め込みオプション]	添付ファイルのデータをリンク・アイコンまたは埋め込みテキストのいずれの形式でプロジェクト・ドキュメントに含めるかを選択します。 [アイコンとして] ：添付ファイルへのリンクをアイコンとしてドキュメントに挿入します。 [拡張テキストとして] ：添付ファイルを拡張テキストとしてドキュメントに追加します。
[添付ファイルの配置オプション]	添付ファイルをドキュメント内のどこに含めるかを選択します。 [テキスト内] ：添付ファイルをドキュメントの本文の中に表示します。 [付録内] ：添付ファイルを独立した付録に入れます。

UI 要素	説明
[対応するプロジェクトがない場合、グラフを生成しない]	プロジェクト・ドキュメントに空のデータ・フィールドを含めないように指定します。
[グラフ オプション]	グラフをドキュメント内のどこに含めるかを選択します。 [テキスト内] : グラフをドキュメントの本文の中に表示します。 [付録内] : グラフを独立した付録に入れます。
[ドキュメントを含む]	プロジェクト・ドキュメントに含める追加の項目を選択します。 [最初のページ] : プロジェクト・ドキュメントの表紙ページ。ドキュメントのタイトル、ドキュメントの作成日付、ドキュメントの作成者名が出力されます。この情報は、[ドキュメントの設定] タブで指定します。 [目次] : プロジェクト・ドキュメントのすべてのセクションのリスト。 [索引] : プロジェクト・ドキュメントのすべての情報をアルファベット順に並べたリスト。索引はドキュメントの最後に付きます。
[テストスクリプト オプション]	テスト・スクリプトをドキュメント内のどこに含めるかを選択します。 [テキスト内] : テスト・スクリプトをドキュメントの本文の中に表示します。 [付録内] : テスト・スクリプトを独立した付録に入れます。

[ロゴ] タブ

このタブでは、プロジェクト・ドキュメントの各ページの上部に配置する画像を設定できます。

重要な情報	<p>ロゴはプロジェクト・ドキュメントの各ページの上部に表示されます。</p> <p>ロゴを定義しない場合は、ドキュメント・ジェネレータは HP のロゴをプロジェクト・ドキュメントに使用します。</p>
--------------	---

第 41 章・プロジェクト・ドキュメント

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
ファイルからロード	[ファイルからロード] : [開く] ダイアログ・ボックスが開き、プロジェクト・ドキュメントでロゴとして使用する画像をファイル・システムから選択できます。画像は [ロゴ] タブに表示されます。
ロード解除	[ロード解除] : 表示されているロゴを削除します。
保存	[保存] : 表示されている画像を現在のプロジェクトに保存します。
保存済みを削除	[保存済みを削除] : 保存されている画像を現在のプロジェクトから削除します。 注 : 表示されているロゴを削除するには、 [ロード解除] ボタンをクリックします。
保存先からロード	[保存先からロード] : プロジェクトに保存されている画像を表示し、プロジェクト・ドキュメントでロゴとして使用します。

[カスタマイズ] タブ

このタブでは、ドキュメント用紙のプロパティを設定できます。

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
ページの設定	[ページの設定] : [ページの設定] ダイアログボックスが開き、プロジェクト・ドキュメントに使用する測定の単位、余白、印刷の向き、用紙サイズを設定できます。

要件ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントの「要件」のセクションに含める要件モジュールからの要件情報を指定できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、 [要件] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、 [要件] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。 Microsoft Word の目次では、ヘッダは 9 階層までに制限されています。要件ツリーの階層レベルが 9 階層を超える場合、生成されたプロジェクト・ドキュメントの目次に 10 階層目以下は表示されません。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイル]	要件の添付ファイルをドキュメントに含めます。要件の添付ファイルとは、テキスト・ファイル、画像、URL など、要件に関連付けられたファイルのことです。 注： [要件レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。
[カバレッジ]	要件のテスト・カバレッジをドキュメントに含めます。カバレッジ・テーブルをカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、 [カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。 注： [要件レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。

UI 要素	説明
[グラフ]	<p>プロジェクト・ドキュメントにグラフを含めることができます。ページの下部にあるグラフ・リストからグラフを選択します。</p> <p>注：リストには、ダッシュボード・モジュールに保存したグラフだけが表示されます。</p>
[リンクされている不具合]	<p>リンクされている不具合をドキュメントに含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。要件に直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。</p> <p>注：[要件レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[各要件後の改ページ]	<p>プロジェクト・ドキュメントで各要件の後に改ページを挿入します。</p> <p>注：[要件レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[要件]	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[すべて]：要件ツリーのすべての要件を含めます。</p> <p>[ステータス順]：選択したステータスの要件だけを含めます。</p> <p>[選択]：選択した要件だけを含めます。子要件を含めるには、[最初に子とともに選択] をクリックします。</p> <p>要件の選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。</p>

UI 要素	説明
[要件レイアウト]	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[ページ全体] : 選択した要件のリストを出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。</p> <p>[表] : 要件が表形式で表示されます。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p>[カバレッジ分析] : 各要件の直接カバレッジ・ステータスの視覚的なブレイクダウンを表示します。[カバレッジアナリシス] ダイアログ・ボックスを開き、アナリシスをカラーと白黒のどちらで表示するか、表示する階層レベルの数、および凡例の表示の有無を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。</p>
[リッチ テキスト形式]	<p>各要件の Microsoft Word コンテンツを含めます。</p> <p>注 : [要件レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[トレース元]	<p>トレース開始要件をドキュメントに含めます。トレーサビリティ・テーブルをカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p>注 : [要件レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[トレース先]	<p>トレース終了要件をドキュメントに含めます。トレーサビリティ・テーブルをカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p>注 : [要件レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>

ビジネス・コンポーネント・ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントの「ビジネス・コンポーネント」のセクションに含めるビジネス・コンポーネント・モジュールからのコンポーネント情報を指定できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、 [ビジネス・コンポーネント] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、 [ビジネス・コンポーネント] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[コンポーネント]	次のいずれかのオプションを選択します。 [すべてのコンポーネント] ：コンポーネント・ツリーのすべてのコンポーネントを含めます。 [選択] ：選択したコンポーネントだけを含めます。 コンポーネントの選択条件を指定するには、 [フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については、「 [フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
[ページ全体のレイアウト]	コンポーネント・ツリーのすべてのコンポーネントをリスト形式で出力します。 ドキュメントに表示する情報を選択するには、 [カスタマイズ] ボタンをクリックします。
[コンポーネントを使用するテスト]	コンポーネントを使用するビジネス・プロセス・テストをドキュメントに含めます。
[ステップ]	ビジネス・コンポーネントのステップをドキュメントに含めます。

UI 要素	説明
[スナップショット]	ビジネス・コンポーネントのスナップショットをドキュメントに含めます。
[各コンポーネント後の改ページ]	プロジェクト・ドキュメントで各テストの後に改ページを挿入します。

サブジェクト・ツリー・ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントに含めるテスト計画モジュールのテスト計画ツリー・ビューからの情報を指定できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、[テスト計画] ノードを展開し、[サブジェクト ツリー] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、[サブジェクト ツリー] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。 Microsoft Word の目次では、ヘッダは 9 階層までに制限されています。テスト計画ツリーの階層レベルが 9 階層を超える場合、生成されたプロジェクト・ドキュメントの目次に 10 階層目以下は表示されません。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

第 41 章・プロジェクト・ドキュメント

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
【添付ファイル】	テスト・サブジェクトの添付ファイルをドキュメントに含めます。テスト・サブジェクトの添付ファイルとは、テキスト・ファイル、画像、URL など、テスト・サブジェクトに関連付けられたファイルのことです。
【フォルダ】	ドキュメントに含めるテスト計画ツリーのフォルダを選択します。 【すべて】 ：テスト計画ツリーのすべてのフォルダを含めます。 【選択】 ：テスト計画ツリーで選択したフォルダだけを含めます。[サブジェクトツリー] ページの右側に表示されるテスト計画ツリーで、フォルダを選択します。
【グラフ】	プロジェクト・ドキュメントにグラフを含めることができます。ページの下部にあるグラフ・リストからグラフを選択します。 注 ：リストには、ダッシュボード・モジュールに保存したグラフだけが表示されます。

UI 要素	説明
[各フォルダ後の改ページ]	プロジェクト・ドキュメントで各テスト・サブジェクト・フォルダの後に改ページを挿入します。
[ツリーの並べ替え]	ドキュメントにおけるテスト計画ツリー情報の順序を決定します。 [アルファベット順] : テスト計画ツリーのフォルダのアルファベット順にフォルダの内容が整理されます。たとえば、テスト計画ツリーに、Automated Tests と Manual Tests という 2 つのフォルダがあるとします。この場合、Automated Tests フォルダ内のテストが、Manual Tests フォルダ内のテストより先に出力されます。 [ユーザ定義] : テスト計画ツリーのフォルダの出力用にカスタマイズした並べ替え順序にフォルダの内容が整理されます。標準設定では、テスト計画ツリーのサブジェクト・フォルダは、フォルダ名のアルファベット順に出力されます。たとえば、テスト計画ツリーに、Automated Tests と Manual Tests という 2 つのフォルダがあるとします。この場合、Automated Tests フォルダのテストより先に Manual Tests フォルダのテストを出力するように並べ替え順序を作成できます。テスト計画ツリーに対するユーザ定義の並べ替え順の作成のユーザ・インタフェースの詳細については、「[テスト計画ツリー内でのフォルダのソート] ダイアログ・ボックス」(521 ページ) を参照してください。

サブジェクト・テスト・ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントにテスト・データを含めることができます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、[テスト計画] > [サブジェクトツリー] ノードを展開し、[サブジェクト テスト] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、[サブジェクト テスト] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

第 41 章・プロジェクト・ドキュメント

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイル (サブジェクトテスト)]	テストの添付ファイルをドキュメントに含めます。
[コンポーネント詳細 レイアウト]	<p>Business Process Testing を使用する場合は、テストで定義されたコンポーネントのレイアウトも含めます。詳細レイアウトに含める項目を次から選択します。</p> <p>[コンポーネント ステップ] : コンポーネント・ステップを含めます。コンポーネント・ステップの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p>[反復リスト] : 反復リストを含めます。</p>
[ステップのデザイン]	テストからのデザイン・ステップを含めます。
履歴	テストに加えられたすべての変更、および変更したユーザのリストを表示します。
[レイアウト]	<p>デザイン・ステップの編成方法を指定します。</p> <p>[ページ全体] : テストのすべてのデザイン・ステップをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。</p> <p>[表] : テストのすべてのデザイン・ステップを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p>
[リンクされている 不具合]	リンクされている不具合の表を含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、 [カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テストに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。

UI 要素	説明
[各テスト後の改ページ]	プロジェクト・ドキュメントで各テストの後に改ページを挿入します。
[プロパティ]	デザイン・ステップからドキュメントに含める項目を指定します。 [回帰的] : デザイン・ステップの呼び出し先のテストを含めます。 [添付ファイル (デザイン・ステップ)] : すべてのデザイン・ステップの添付ファイルを含めます。
[テストスクリプト]	テスト・スクリプトをドキュメントの本文の中を含めます。
[テスト]	ドキュメントに含めるテストを指定します。 [すべてのテスト] : 選択したテスト計画ツリー・フォルダのすべてのテストを含めます。 [選択] : 選択したテストだけを含めます。テストの選択条件を指定するには、 [フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については、「 [フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス 」(70 ページ) を参照してください。

テスト・リスト・ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントに含めるテスト・グリッドのテストを指定できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、 [テスト計画] ノードを展開し、 [テストリスト] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、 [テストリスト] リンクの隣の チェック・ボックス を選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

第 41 章・プロジェクト・ドキュメント

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイル (テスト)]	テストの添付ファイルをドキュメントに含めます。 注: [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。
[コンポーネント詳細 レイアウト]	Business Process Testing を使用する場合は、テストに含まれるコンポーネントの詳細なレイアウトも含めることができます。詳細レイアウトに含める項目を次から選択します。 [コンポーネント ステップ]: コンポーネント・ステップを含めます。コンポーネント・ステップの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、 [カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。 [反復リスト]: 反復リストを含めます。 注: [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。
[ステップの デザイン]	テストからのデザイン・ステップを含めます。 注: [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。
[グラフ]	プロジェクト・ドキュメントにグラフを含めることができます。ページの下部にあるグラフ・リストからグラフを選択します。 注: リストには、ダッシュボード・モジュールに保存したグラフだけが表示されます。
[履歴]	テストに加えられたすべての変更とその変更者のリストを出力します。 注: [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できません。

UI 要素	説明
[レイアウト]	<p>[ステップのデザイン] を選択した場合、デザイン・ステップの編成方法を指定します。</p> <p>[ページ全体] : テストのすべてのデザイン・ステップをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。</p> <p>[表] : テストのすべてのデザイン・ステップを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p>
[リンクされている不具合]	<p>リンクされている不具合の表を含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テストに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。</p> <p>注 : [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できません。</p>
[各テスト後の改ページ]	<p>プロジェクト・ドキュメントで各テストの後に改ページを挿入します。</p>
[プロパティ]	<p>[ステップのデザイン] を選択した場合、デザイン・ステップからドキュメントに含める項目を指定します。</p> <p>[回帰的] : デザイン・ステップの呼び出し先のテストを含めます。</p> <p>[添付ファイル (デザイン ステップ)] : すべてのデザイン・ステップの添付ファイルを含めます。</p>
[テスト レイアウト]	<p>テストの編成方法を指定します。</p> <p>[ページ全体] : プロジェクトのすべてのテストをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。</p> <p>[表] : すべてのテストを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p>

UI 要素	説明
[テスト スクリプト]	<p>テスト・スクリプトをドキュメントの本文の中を含めます。</p> <p>注: [テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[テスト]	<p>ドキュメントに含めるテストを指定します。</p> <p>[すべてのテスト]: テスト・グリッドのすべてのテストを含めます。</p> <p>[選択]: 選択したテストだけを含めます。テストの選択条件を指定するには, [フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については, 「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>

テスト・ラボ・ページ

このページでは, プロジェクト・ドキュメントに含めるテスト・ラボ・モジュールの情報を指定できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで, [テスト ラボ] リンクをクリックします。
重要な情報	<p>データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには, [テスト ラボ] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。</p> <p>Microsoft Word の目次では, ヘッダは 9 階層までに制限されています。テスト計画ツリーの階層レベルが 9 階層を超える場合, 生成されたプロジェクト・ドキュメントの目次に 10 階層目以下は表示されません。</p>
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイル]	テスト・セットの添付ファイルをドキュメントに含めます。
[フォルダ]	ドキュメントに含めるテスト・ラボのフォルダを選択します。 [すべて]: テスト・セット・ツリー内のすべてのフォルダを含めます。 [選択]: テスト・セット・ツリーから選択したフォルダのみを含めます。[フォルダ] の下に表示されているテスト・セット・ツリーからフォルダを選択します。
[グラフ]	プロジェクト・ドキュメントにグラフを含めます。ページの下部にあるグラフ・リストからグラフを選択します。 注: リストには、ダッシュボード・モジュールに保存したグラフだけが表示されます。
[各テストセットフォルダ後の改ページ]	プロジェクト・ドキュメントで各テスト・セット・フォルダの後に改ページを挿入します。

テスト・セット・ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントにテスト・セット・データを含めることができます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、[テスト ラボ] ノードを展開し、[テスト セット] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、[テスト セット] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[利用可能なテスト・セット]	ドキュメントに含めるテスト・セットを指定します。 [すべて] : 選択したテスト・セット・フォルダ内のすべてのテスト・セットを含めます。 [選択] : 選択したテスト・セットだけを含めます。テストの選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については、「[フィルタ] ダイアログ・ボックス」(60 ページ) を参照してください。
[グラフ]	プロジェクト・ドキュメントにグラフを含めます。グラフ・リストからグラフを選択します。 注 : リストには、ダッシュボード・モジュールに保存したグラフだけが表示されます。
[リンクされている不具合]	リンクされている不具合を含めます。 リンクされている不具合をカスタマイズするには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テスト・セットに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。
[各テスト・セット後の改ページ]	プロジェクト・ドキュメントで各テスト・セットの後に改ページを挿入します。

テスト・ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントにテスト・データを含めることができます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、[テスト ラボ] > [テスト セット] ノードを展開し、[テスト] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、[テスト] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイル]	<p>テストの添付ファイルをドキュメントに含めます。</p> <p>注：[テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[コンポーネント詳細レイアウト]	<p>Business Process Testing を使用する場合は、テストに含まれるコンポーネントの詳細なレイアウトも含めることができます。詳細レイアウトに含める項目を次から選択します。</p> <p>[コンポーネント ステップ]：コンポーネント・ステップを含めます。コンポーネント・ステップの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p>[反復リスト]：反復リストを含めます。</p> <p>注：[テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[履歴]	<p>テストに加えられたすべての変更とその変更者のリストを出力します。</p> <p>注：[テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>

UI 要素	説明
<p>[リンクされている不具合]</p>	<p>リンクされている不具合の表を含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テストに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。</p> <p>注：[テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
<p>[各テスト後の改ページ]</p>	<p>プロジェクト・ドキュメントで各テストの後に改ページを挿入します。</p>
<p>[テスト レイアウト]</p>	<p>テストの編成方法を指定します。</p> <p>[ページ全体]：テスト情報をリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。</p> <p>[表]：テスト情報を表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p> <p>注：[表] を選択した場合、ドキュメントにテスト実行を含めることはできません。</p>
<p>[テスト スクリプト]</p>	<p>テスト・スクリプトをドキュメントの本文の中を含めます。</p> <p>注：[テスト レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
<p>[テスト]</p>	<p>ドキュメントに含めるテストを指定します。</p> <p>[すべてのテスト]：選択したテスト・セットにあるすべてのテストを含めます。</p> <p>[選択]：選択したテストだけを含めます。テストの選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。</p>

実行ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントに実行データを含めることができます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、[テストラボ] > [テストセット] > [テスト] ノードを展開し、[実行] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、[実行] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイル (実行ステップ)]	実行ステップの添付ファイルをドキュメントに含めます。 注: [実行レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。
[添付ファイル (実行)]	テスト実行の添付ファイルをドキュメントに含めます。
[不具合]	実行ステップにリンクされている不具合の表を含めます。 リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。実行ステップに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。
[レイアウト]	ドキュメントに実行ステップを含める場合、次のいずれかのオプションを選択します。 [ページ全体]: 実行のすべてのステップをリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。 [表]: 実行のすべてのステップを表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

UI 要素	説明
<p>[リンクされている不具合]</p>	<p>リンクされている不具合の表を含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。テストに直接リンクされている不具合のみを表示するか、間接的にリンクされている不具合も含めて表示するかを指定することもできます。</p> <p>注： [実行レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
<p>[実行レイアウト]</p>	<p>実行の編成方法を指定します。</p> <p>[ページ全体]： すべてのテスト実行をリスト形式で表示します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。</p> <p>[表]： すべてのテスト実行を表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。</p>
<p>[ステップの実行]</p>	<p>実行ステップのリストをドキュメントに含めます。</p> <p>注： [実行レイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
<p>[実行]</p>	<p>次のいずれかのオプションを選択します。</p> <p>[最後の実行]： テストの最後の実行だけを含めます。</p> <p>[すべての実行]： テストのすべての実行を含めます。</p> <p>[選択]： 選択した実行だけをドキュメントに含めます。テストの選択条件を指定するには、[フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ) を参照してください。</p>

不具合ページ

このページでは、プロジェクト・ドキュメントの「不具合」のセクションに含める不具合モジュールからの不具合情報を指定できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータ・ツリーで、 [不具合] リンクをクリックします。
重要な情報	データをプロジェクト・ドキュメントに含めるには、 [不具合] リンクの隣のチェック・ボックスを選択します。
関連タスク	「プロジェクト・ドキュメントを作成する方法」(1035 ページ)
参照項目	「ドキュメント・ジェネレータのウィンドウ」(1039 ページ)

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[添付ファイル]	不具合の添付ファイルをドキュメントに含めます。 注: [不具合のレイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。
[不具合]	次のいずれかのオプションを選択します。 [すべての不具合]: 不具合のグリッドのすべての不具合を含めます。 [選択]: 選択した不具合だけを含めます。不具合の選択条件を指定するには、 [フィルタとソート] ボタンをクリックします。詳細については、「[フィルタ条件の選択] ダイアログ・ボックス」(70 ページ)を参照してください。
[不具合レイアウト]	次のいずれかのオプションを選択します。 [ページ全体]: 選択した不具合をリスト形式で出力します。ドキュメントに表示する情報を選択するには、 [カスタマイズ] ボタンをクリックします。 [表]: 選択した不具合を表形式で出力します。表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、 [カスタマイズ] ボタンをクリックします。 [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。

UI 要素	説明
[グラフ]	<p>プロジェクト・ドキュメントにグラフを含めることができます。グラフ・リストからグラフを選択します。</p> <p>注: リストには、ダッシュボード・モジュールに保存したグラフだけが表示されます。</p>
[履歴]	<p>不具合に加えられたすべての変更のリストを出力します。</p>
[リンクされている不具合]	<p>リンクされている不具合を表形式で含めます。リンクされている不具合の表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。不具合リンクのみを出力するかどうかを指定することもできます。</p> <p>注: [不具合のレイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[リンクされているエンティティ]	<p>リンクされているエンティティを表形式で含めます。リンクされているエンティティの表をカスタマイズするための [表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを開くには、[カスタマイズ] ボタンをクリックします。[表のレイアウト] ダイアログ・ボックスを使用して、表に出力するカラムの選択や、カラムの順序、幅、およびキャプションの設定を行います。キャプションおよびテーブル・カラムの幅を変更することもできます。</p> <p>注: [不具合のレイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>
[不具合後の改ページ]	<p>プロジェクト・ドキュメントで各不具合の後に改ページを挿入します。</p> <p>注: [不具合のレイアウト] で [ページ全体] を選択した場合に使用できます。</p>

[お気に入り]に追加] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、非公開フォルダまたは公開フォルダにお気に入りビューを追加できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータで、 [お気に入り]に追加] ボタンをクリックします。
---------------	---

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します。

UI 要素	説明
[既存のお気に入り]	選択した場所にすでに存在するお気に入りビューを表示します。
[場所]	お気に入りビューを保存するフォルダ： [非公開] ：このフォルダのお気に入りビューには、作成者のみがアクセスできます。 [公開] ：このフォルダのお気に入りビューには、プロジェクトのすべてのユーザがアクセスできます。
[名前]	お気に入りビューの名前。

[お気に入りの整理] ダイアログ・ボックス

このダイアログ・ボックスでは、ビューのプロパティを変更したり、ビューを削除したりすることによって、非公開フォルダおよび公開フォルダのお気に入りビューのリストを整理できます。

アクセス方法	ドキュメント・ジェネレータで、[お気に入り] ボタンをクリックします。
---------------	-------------------------------------

次に、ユーザ・インタフェース要素を説明します（ラベルなしの要素は、山カッコで囲みます）。

UI 要素	説明
<input type="text" value="プロパティ"/>	[プロパティ] ダイアログ・ボックスが開き、選択したお気に入りビューの次のプロパティを変更できます。 [名前]：お気に入りビューの名前。 [場所]：お気に入りビューを保存するフォルダ（非公開または公開）。
<input type="text" value="削除"/>	選択したお気に入りビューを削除します。
<お気に入りビュー・ツリー>	お気に入りビューのリストを場所ごとにアルファベット順で表示します。

用語集

この用語集では、HP Application Lifecycle Management (ALM) で使用する用語を解説します。

参照項目

『HP Business Process Testing ユーザーズ・ガイド』

A～Z

ALM Editions

HP Application Lifecycle Management (ALM) は、HP ALM Quality Center Starter Edition, HP ALM Quality Center Enterprise Edition, HP ALM Performance Center Edition という 3 つのエディションで提供されており、それぞれが ALM の機能のサブセットとなっています。

ALM Quality Center Starter Edition : 小規模リリースを管理するアプリケーション管理チーム向けのエディションです。最大 5 人の同時ユーザをサポートします。

ALM Quality Center Enterprise Edition : 中規模から大規模なリリースを管理するアプリケーション・チーム向けのエディションです。

ALM Performance Center Edition : 大規模なパフォーマンス・テスト・プロジェクトのあらゆる側面を管理するチーム向けのエディションです。

Excel アドイン

要件、テスト計画、不具合のデータを Microsoft Excel ワークシートから ALM プロジェクトへインポートできます。Excel からインポートするには、まず HP ALM Microsoft Excel アドインをクライアント・マシンにインストールする必要があります。

Sprinter

HP の手動テスト・ソリューションであり、手動によるテスト・プロセスをサポートする高度な機能や各種ツールを提供します。Sprinter は ALM と完全に統合されているので、Sprinter を使用してテスト・ラボ・モジュールからテストを手動で実行することができます。

Word アドイン

要件またはテスト計画のデータを Microsoft Word ドキュメントから ALM プロジェクトへインポートできます。Word からインポートするには、まず HP ALM Microsoft Word アドインをクライアント・マシンにインストールする必要があります。

あ

アクティビティ

ビジネス・プロセス・モデルのエンティティの 1 つであり、関数、タスク、サブプロセスを示します。アクティビティは、親のビジネス・プロセス・モデルとともに ALM にインポートされます。

インポート・ライブラリ

既存のライブラリをインポートすることにより、**ライブラリ**を新規作成できます。インポート・ライブラリとは、同じプロジェクトまたは別のプロジェクトにあるライブラリをインポートすることによって作成されるライブラリです。

エンティティ

ALM プロジェクト内のデータセットであり、1つの単位として扱われます。たとえば、要件エンティティには、すべての ALM 要件のデータが格納されています。エンティティには、特定のアプリケーション管理プロセスについてユーザが入力したデータが表形式で格納されます。各エンティティにはシステム・フィールドとユーザ定義のフィールドが含まれています。

また、要件モジュール内の単一の要件など、一意のデータを格納した各レコードとしてエンティティを考えることもできます。エンティティでは、作成や変更、メール送信、変更履歴のメンテナンス、エンティティ間のリンクの作成などの操作を実行できます。

か

カバレッジ

要件とテストの関係を追跡するために作成するリンクです。テスト計画モジュールで、テストにリンクする要件を選択すると、**要件カバレッジ**を作成できます。あるいは、要件モジュールで、要件にリンクするテストを選択すると、**テストのカバレッジ**を作成できます。1つのテストで複数の要件カバレッジを指定することも、複数のテストで1つの要件カバレッジを指定することも可能です。

管理モジュール

ALM の機能領域であり、サイドバーの「管理」を選択してアクセスします。このモジュールには、**リリース・モジュール**と**ライブラリ・モジュール**という2つのサブモジュールが含まれます。

関連ライブラリ

同じプロジェクトまたは異なるプロジェクト内にある2つのライブラリを指し、そのうちの1つ（**ソース・ライブラリ**）を元にもう一方のライブラリ（**インポート・ライブラリ**）が作成されます。関連ライブラリを比較することによって、時間経過とともに発生する変更を追跡できます。また、ライブラリの同期化により、一方のライブラリの変更内容に基づいて他方のライブラリを更新することもできます。

機能の複雑性

リスク・ベース品質管理 (RBQM) のカテゴリの1つであり、要件の実装がどの程度複雑かを示します。

クロス・フィルタ

要件、テスト、テスト・セット、不具合など、関連付けられた項目を対象に、より詳細な絞り込みを行うための2次的な高機能フィルタです。たとえば要件モジュールでは、クロス・フィルタを定義することにより、カバーするテストのステータスが**成功**の要件を除外することができます。

クロス・プロジェクトのカスタマイズ

テンプレート・プロジェクトをカスタマイズすることによって、複数の ALM プロジェクトに共通するカスタマイズ・セットを定義およびメンテナンスします。まず、テンプレート・プロジェクトを1つまたは複数のプロジェクトにリンクします。次に、テンプレートをカスタマイズし、カスタマイズの内容をリンクされているプロジェクトに適用します。リンクされているプロジェクトに適用可能なカスタマイズ内容には、ユーザ・グループと権限、プロジェクト・エンティティ、要件のタイプ、リスト、ワークフローがあります。

警告

要件の変更、テスト、不具合を指定のユーザに知らせるための通知です。自動通知ルールの結果としてトリガされる場合や、ユーザが設定したフォローアップ通知としてトリガされる場合があります。

固定されたテスト・セット

ベースラインにリンクされているテスト・セットです。テスト・ラボ・モジュールでは、作成したテスト・セットを、指定のベースラインにリンクできます。このテスト・セットを実行すると、ALM は、ベースラインに格納されているテスト・バージョンのみを実行します。

さ

サイクル

リリースのスケジュールに基づいて、共通の目標を達成するために行われる一連の開発作業や品質保証作業です。まず、**リリース**を定義し、そこにサイクルを追加します。次に、要件、不具合、テスト・セット・フォルダをサイクルに割り当てます。

システム・フィールド

ALM のデフォルト・フィールドであり、ALM プロジェクトでのデータ入力に使用します。システム・フィールドは、変更できますが、追加や削除はできません。

失敗の確率

リスク・ベース品質管理 (RBQM) のカテゴリの 1 つであり、所定の要件に基づくテストが失敗する可能性を示します。ビジネス上の危険性と失敗の確率の評価結果を総合して、リスクを計算します。

主要業績評価指標 (KPI)

KPI は、プロジェクトの計画と追跡 (PPT) のマイルストーンで定義します。KPI は、重要なパフォーマンス変数を時間経過に沿って追跡し、リリース・スコープ項目の結果を定量的に測定するための指標です。KPI ごとに、許容できる偏差をしきい値として定義します。

ソース・ライブラリ

同じプロジェクトまたは別のプロジェクトにあるライブラリをインポートすることによって、**ライブラリ**を新規作成できます。ソース・ライブラリを元に、別のライブラリが作成されます。

た

代表的な要件

ビジネス・プロセス・モデル、**アクティビティ**、**パス**に対応する**要件**です。代表的な要件に基づいて、モデル・エンティティは関連の要件、テスト、不具合にリンクされます。

ダッシュボード・ページ

1 つのディスプレイで表示するグラフを集めたページです。ダッシュボード・ページの設計と表示は、ダッシュボード・モジュールの [ダッシュボードビュー] タブで行います。

ダッシュボード・モジュール

ALM の機能領域であり、ALM サイドバーの [ダッシュボード] を選択してアクセスします。このモジュールでは、グラフ、標準レポート、Excel レポートの作成、表示、管理などの機能を使って ALM データを分析します。また、複数のグラフが並んで表示されるダッシュボード・ページも作成します。

チェックアウト

バージョン管理のプロセスであり、変更のためにエンティティをロックします。これにより、他のユーザは変更内容を上書きできなくなります。チェックアウトされたバージョンのエンティティは、他のユーザには表示されません。

チェックイン

バージョン管理のプロセスであり、エンティティの更新バージョンが新しく作成され、他のユーザが使用できるようになります。エンティティを**チェックアウト**して変更した後で、エンティティの新バージョンを**チェックイン**します。

テスト

アプリケーションの機能や要件を検証するために定義された1つ以上のステップです。手動テストの他に、テスト・ツールによって実行される自動テストも作成できます。テストの編成には、テスト計画ツリーを使用します。このツリーは階層構造を持ち、アプリケーションがテスト単位、つまりサブジェクトに分割されています。テストには、**テスト設定**を複数含めることができます。

テスト・インスタンス

テスト・セットに含まれるテストです。各テスト・インスタンスには、定義済みの**テスト設定**が格納されます。

テスト・カバレッジ

要件とテストの関係を追跡するために作成するリンクです。要件モジュールで、要件にリンクするテストを選択すると、テストのカバレッジを作成できます。テスト・カバレッジは、テストや要件の変更がどのような影響を与えるのかを把握したいときに役立ちます。1つの要件を複数のテストでカバーすることや、各種テストで選択した設定でカバーすることができます。

テスト計画モジュール

ALMの機能領域であり、[テスト]のALMサイドバーにある[テスト計画]を選択してアクセスします。このモジュールでは、階層ツリー構造内でテストを開発および管理します。テストは、要件および不具合にリンクできます。

テスト実行

テスト・セット内にある**テスト・インスタンス**の実行です。テストは、テスト・ラボ・モジュールで実行します。手動または自動での実行、実行日時のスケジューリング、テスト実行の条件設定が可能です。1回のテスト実行の結果を表示するだけでなく、選択したテスト・インスタンスの実行結果の詳細をすべて表示または比較することもできます。

テスト条件

要件とビジネス・プロセス・テスト間の**カバレッジ**の作成では、テスト・レベルで各要件をカバーするのではなく、テストで定義したビジネス・コンポーネントでカバーすることができます。

テスト・ステップ

テスト実行の方法を詳細に示したものです。アプリケーションで実行するアクション、入力内容、想定される結果を指定します。

テスト設定

テストのユースケースを示す定義です。たとえば、テストで使用するデータのサブセットや実行時環境を指定します。テスト設定は、**テスト・インスタンス**に格納されます。

テスト・セット

特定のテスト目標を達成するために設計された ALM プロジェクト内のテスト・グループであり、動作確認テストや回帰テストなどがあります。プロジェクト内のテストをテスト・セットに分類することにより、テスト目標ごとにテスト実行を編成できます。テスト・セット・フォルダは、サイクルに割り当てることができます。

テスト・ラボ・モジュール

ALM の機能領域であり、[テスト] の ALM サイドバーにある [テスト ラボ] を選択してアクセスします。このモジュールでは、テスト・セットの作成と管理、テストの実行が可能です。また、手動実行または自動実行のスケジューリングもできます。

テスト・リソース

テスト・リソースとは、テストで使用する ALM リポジトリ内に格納されたファイルまたはフォルダです。テスト・リソースは、1 つまたは複数のテストで使用できます。たとえば、複数のテストの入力として必要なデータが格納されたデータ・ファイルなどがあります。

テスト・リソース・モジュール

ALM の機能領域であり、[テスト] の ALM サイドバーにある [テストリソース] を選択してアクセスします。このモジュールでは、階層ツリー構造内でテスト・リソースを管理できます。テスト・リソースはテストに関連付けることができます。

テンプレート・テスト

他のテストの一部として実行したいステップの中で、実行頻度の高い共通のステップが含まれています。テスト計画ツリー内で手動テストをテンプレート・テストとして指定しておけば、別のテストからの呼び出し用として簡単に選択できます。

テンプレート・プロジェクト

カスタマイズされたプロジェクトであり、**クロス・プロジェクトのカスタマイズ**の一部として、共通のプロジェクト・カスタマイズ・セットを他のプロジェクトに適用する際に使用します。これにより、組織内にあるプロジェクトのポリシーや手順を標準化できます。

ドメイン

ALM プロジェクトは、ドメインごとにグループ化されます。各ドメインには、関連の ALM プロジェクト・グループが含まれているので、プロジェクトが多数存在する環境ではプロジェクトの編成や管理に活用すると便利です。各ドメインにはプロジェクト・フォルダとテンプレート・プロジェクト・フォルダがあり、これを使って ALM プロジェクトやテンプレート・プロジェクトを整理します。

ドラフト実行

テストの実行タイプの 1 つであり、実行結果はテストの統計データ（実行ステータスやカバレッジ）に影響を及ぼしません。テストを実行する前または後にドラフト実行を設定することにより、開発中のテストや変更後のテストを試験的に実行できます。ドラフト実行で使用する値を変更すると、ALM はテストの統計データを再計算し、ステータス・フィールドを更新します。

トレーサビリティ・マトリックス

複数の要件間の関係や要件とテスト間関係の範囲を指定します。

は

バージョン管理

プロジェクト内のエンティティの旧バージョンを保持することにより、エンティティの変更内容を追跡します。バージョン管理が有効なプロジェクトでは、要件、テスト、テスト・リソース、ビジネス・コンポーネントといったエンティティのバージョン履歴が保持されています。前のバージョンのエンティティを表示して比較したり、前のバージョンを復元することができます。

パス

ビジネス・プロセス・モデルのエンティティであり、アクティビティ間で発生する一連のトランザクションを示します。ALM では、品質テストで重要な役割を果たすパスを定義します。

ビジネス・コンポーネント・モジュール

ALM の機能領域であり、[テスト] の ALM サイドバーにある [ビジネス コンポーネント] を選択してアクセスします。このモジュールにより、各分野のエキスパートは HP のテスト自動化ソリューションである Business Process Testing (BPT) を使用できるようになります。再利用可能なビジネス・プロセス・コンポーネントやフローを元に、ビジネス・プロセス・テストを作成できます。また、手動コンポーネントを組み合わせることにより、アプリケーションの手動テストが可能になります。このモジュールに対するアクセスは、ご使用の ALM ライセンスによって決まります。

ビジネス上の危険性

リスク・ベース品質管理 (RBQM) のカテゴリの 1 つであり、所定の要件がビジネスにとってどの程度重要なのかを示します。ビジネス上の危険性と失敗の確率の評価結果を総合して、リスクを計算します。

ビジネス・プロセス・モデル

組織内で発生するアクティビティとワークフローを示した図です。ビジネス・プロセス・モデルを ALM にインポートし、**ビジネス・モデル・モジュール**のテストで使用します。

または、ビジネス・プロセス・モデル全体を示す、ビジネス・モデル・モジュール内の ALM エンティティを指します。

ビジネス・モデル・モジュール

ALM の機能領域であり、[要件] の ALM サイドバーにある [ビジネス モデル] を選択してアクセスします。このモジュールでは、ビジネス・プロセス・モデルをインポートし、モデルとそのコンポーネントの品質をテストします。このモジュールに対するアクセスは、ご使用の ALM ライセンスによって決まります。

不具合

アプリケーション管理プロセスのいずれかのフェーズにおいて、プロジェクト・アプリケーションで検出された問題です。不具合は、他のプロジェクト・エンティティ（要件、テスト、その他の不具合）にリンクできます。また、不具合は、他のエンティティに直接または間接的にリンクすることができます。エンティティに不具合のリンクを追加すると、このエンティティには直接リンクが追加され、他の関連エンティティには間接リンクが追加されます。

不具合モジュール

ALM の機能領域であり、サイドバーの [不具合] ボタンを選択してアクセスします。このモジュールでは、不具合の報告と追跡、修正の優先順位の決定、データ分析を実行します。

プロジェクト

アプリケーション・ライフサイクル管理のプロセスに関連するデータを収集および格納します。これには、要件、テスト、不具合、その他リソースが含まれます。プロジェクトは、アプリケーション・サーバのファイル・システム上にある ALM プロジェクト・リポジトリに格納されます。

プロジェクトのカスタマイズ

ユーザの組織のニーズを満たすように、プロジェクトを調整する作業です。[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウでは、プロジェクトにアクセス可能なユーザの定義、各ユーザが実行可能なタスクのタイプ指定、フィールドの追加および変更を行うことによって、プロジェクトへのアクセスを制御できます。

プロジェクトの計画と追跡 (PPT)

品質保証マネージャ向けの機能であり、アプリケーション・リリースの品質保証プロセスで達成すべき目標や実行するアクティビティを定義することによってアプリケーションの準備状態を追跡します。この機能は、リリース・モジュールからアクセスでき、[リリース スコープ]、[マスター計画]、[スコアカード]の各タブにあります。

ベースライン

特定の時点での**ライブラリ**のスナップショットです。ベースラインには、**カバレッジ**や**要件トレーサビリティ**など、ライブラリ内で定義されているすべてのエンティティとエンティティ間の関係が含まれています。ベースラインを比較することによって、時間経過とともに発生するプロジェクトの変更内容を追跡できます。また、ベースラインを使用して、ライブラリ内のエンティティを再利用または共有することができます。

ま

マイルストーン

プロジェクトの計画と追跡 (PPT) のリリース・スコープ項目の進捗を測定するには、項目をマイルストーンと関連付けます。マイルストーンは、リリースのスケジュール上にあるポイントであり、成果物の完成度を示します。これに基づいて、リリースの進捗を確認することができます。1つのマイルストーンを複数のリリース・スコープ項目と関連付けることができます。

や

ユーザ定義フィールド (UDF)

ユーザが ALM プロジェクトに追加できるデータ・フィールドです。ユーザ定義フィールドは、組織のニーズに合わせてカスタマイズできます。

要件

開発中のアプリケーションの目的についての詳細な説明です。要件は、要件ツリー内で編成できます。このツリーは階層構造を持ち、アプリケーションの要件を機能や目的に基づいてグループ化できます。要件は、リリース・モジュールのリリースとサイクルにリンクできます。また、要件を他の要件、テスト、不具合とリンクすることもできます。

要件カバレッジ

要件とテストの関係を追跡するために作成するリンクです。テスト計画モジュールで、テストにリンクする要件を選択すると、要件カバレッジを作成できます。要件カバレッジは、テストや要件の変更がどのような影響を与えるのかを把握したいときに役立ちます。1つのテストで複数の要件をカバーすることができます。要件の直接カバレッジ・ステータスは、その要件をカバーしているテストの実行状態を示します。

要件タイプ

要件の目的を示すカテゴリであり、機能要件やテスト要件などがあります。要件を割り当てるタイプには、ALMのデフォルトの要件タイプと、プロジェクト管理者が作成するユーザ定義の要件タイプがあります。

要件トレーサビリティ

複数の要件の関係を示すリンクです。要件の変更が及ぼす影響の分析でトレーサビリティを使用すると、この変更が影響を与える要件を特定できます。トレーサビリティの関係は、要件モジュールの [要件トレーサビリティ] タブで定義します。また、選択した要件の間でトレーサビリティのリンクを追加できます。

要件モジュール

ALMの機能領域であり、[要件]にあるALMサイドバーの [要件] を選択してアクセスします。このモジュールでは、階層ツリー構造内で要件の作成、管理、分析を行います。また、要件を他の要件、テスト、不具合とリンクすることもできます。

ら

ライブラリ

プロジェクト内で定義されているエンティティ群とエンティティ間の関係を示します。たとえば、**カバレッジ**や**要件のトレーサビリティ**などがあります。ライブラリのエンティティには、要件、テスト、テスト・リソース、ビジネス・コンポーネントを含めることができます。ライブラリの定義が完了したら、**ベースライン**を作成することによって、時間経過とともに発生するプロジェクト内の変更の追跡、プロジェクト内のエンティティの再利用、複数のプロジェクトによるエンティティの共有が可能になります。

ライブラリ・モジュール

ALMの機能領域であり、[管理]にあるALMサイドバーの[ライブラリ]を選択してアクセスします。このモジュールでは、プロジェクトの変更の追跡に使用するライブラリとベースラインの定義および作成、プロジェクト内のエンティティの再利用、複数のプロジェクトによるエンティティの共有が可能です。

リスク・ベース品質管理 (RBQM)

リスク、機能の複雑さ、テスト時間、使用可能なリソースなどの項目に基づいて、テスト戦略を決定する機能です。リスク・ベース品質管理は、要件モジュールの[リスクアナリシス]タブと[リスク評価]タブで使用します。

リリース

同時に配布されるアプリケーション変更です。リリースをサイクルに分割し、要件と不具合をリリースとサイクルに割り当てることもできます。

リリース・スコープ項目

プロジェクトの計画と追跡 (PPT) リリースのサブセクションです。リリース・スコープ項目ごとに、関連の要件、テスト、不具合を定義します。リリース・スコープ項目の進捗を測定するには、項目をマイルストーンと関連付けます。

リリース・モジュール

ALMの機能領域であり、[管理]にあるALMサイドバーの[リリース]を選択してアクセスします。このモジュールでは、アプリケーション管理プロセスのリリースとサイクルを定義することにより、次のリリースを準備および追跡できます。

リンク・プロジェクト

テンプレート・プロジェクトに接続されているプロジェクトです。テンプレートのカスタマイズによる更新は、**クロス・プロジェクトのカスタマイズ**の一部として、リンク・プロジェクトに適用されます。

わ

ワークフロー

ALM モジュールのフィールドや値のカスタマイズに使用するスクリプトを生成または編集するツールや、ユーザが実行可能なアクションを制御するツールを提供します。ワークフローのカスタマイズには、[プロジェクトのカスタマイズ] ウィンドウの [ワークフロー] ページを使用します。